

令和3年度
授業概要
(シラバス)

家政学部 家政学科
生活美術学科

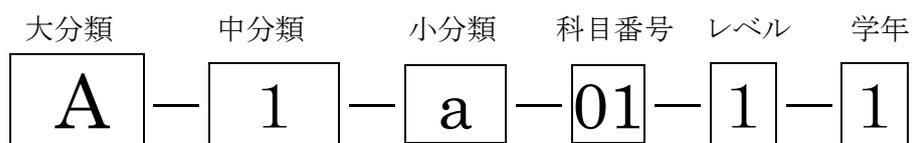


東北生活文化大学

シラバス項目の内容

項 目	内 容
授業の概要	授業全体の内容を記載しています。
授業の到達目標	カリキュラム全体における当該科目の位置づけと、授業の到達目標、授業のねらいは何で、受講生が何を修得し何ができるようになることを目指しているのかを示しています。 学位授与の方針との関連：次のページを参照ください。
授業計画	到達目標を達成するために、具体的に何を学ぶのか、受講生が事前に内容を把握して授業に臨めるように、毎回の授業内容を記載しています。
事前学習	授業時間外の予習について記載しています。
事後学習	授業時間外の復習について記載しています。
履修上の注意	事前に獲得しておくべき知識・技能、履修したほうがよい関係科目、或いは求められる受講姿勢について記載しています。
成績評価の方法・基準	最終的に成績評価がどのような形で行われるか、加味される要素を具体的に記載しています。 ただし、総授業回数の1/3をこえて欠席した場合はその時点で不合格となりますので、注意してください。
教科書	授業で使用する、受講生が必ず購入しなければならないものを記載しています。
参考書	参考書籍がある場合記載しています。

ナンバリング：各科目の学問上の分類やその科目が位置する学修の段階、順序等をあらわします。



大分類：学科をあらわします。

中分類：科目の区分

小分類：科目群

A・・・服飾文化専攻

1・・・大学共通教養科目

B・・・健康栄養学専攻

2・・・基幹科目

C・・・生活美術学科

3・・・学科専攻科目

K・・・大学共通

4・・・教職に関する科目

5・・・博物館に関する科目

学位授与の方針との関連

家政学部家政学科 服飾文化専攻

<知識・理解>

1. 基礎的な知識・学習能力を身につけること
2. 社会人として幅広い教養と専門的な知識を身につけること
3. 家政学の体系を理解するとともに、被服分野における高度な専門知識を身につけ、その知識体系の意義と社会生活を関連付けて服飾文化を理解できること

<汎用的技能>

4. 社会に貢献できる専門的スキル・コミュニケーション能力・論理的思考力を身につけること
5. 主に服飾産業における様々な分野で活躍するために必要となるスキル・コミュニケーション能力・論理的思考力を身につけること

<態度・志向性>

6. 社会で自律的に活動するために必要な自己教育力・倫理観・責任感・生涯学習力を身につけること
7. 演習・実習・実験等の実践的授業を通して、社会で自律的に活動するために必要な自己教育力・倫理観・責任感・生涯学習力を身につけること

<統合的な学習経験と創造的思考力>

8. これまでに獲得した知識・スキル・態度等を総合的に活用し、社会で自律的に活動できる能力を身につけること
9. これまでに獲得した知識・スキル・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけること

家政学部家政学科 健康栄養学専攻

<知識・理解>

1. 基礎的な知識・学習能力を身につけること
2. 社会人としての幅広い教養と専門的な知識を身につけること
3. 家政学の体系を理解するとともに、健康・栄養・食物分野における高度な専門知識を身につけ、その知識体系の意義と社会生活を関連付けて理解できること

<汎用的技能>

4. 社会に貢献できる専門的スキル・コミュニケーション能力・論理的思考力を身につけること
5. 医療・福祉領域における管理栄養士又は食品業界における健康・栄養の専門家として活躍するために必要なスキル・コミュニケーション能力・論理的思考力を身につけること

<態度・志向性>

6. 社会で自律的に活動するために必要な自己管理能力・倫理観・責任感・生涯学習能力を身につけること
7. 演習・実習・実験等の実践的授業を通して、社会で自律的に活動するために必要な自己管理能力・プレゼンテーション能力・倫理観・責任感・生涯学習力を身につけること

<統合的な学習経験と創造的思考能力>

8. これまでに獲得した知識・スキル・態度等を総合的に活用し、社会で自律的に活動できる能力を身につけること

9. これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけること

家政学部生活美術学科

<知識・理解>

1. 基礎的な知識・学習能力を身につけること。
2. 社会人として幅広い教養と専門知識を身につけること。
3. 家政学の体系を理解するとともに、生活美術分野における高度な専門知識を身につけ、その知識体系の意味と美術を学ぶ意義を、文化・自然・社会とを関連付けて理解できること。

<汎用的技能>

4. 社会に貢献できる専門的スキル・コミュニケーション能力・論理的思考力を身につけること。
5. 美術・工芸・デザインに関する職業や創造活動において、社会の問題に柔軟に対応し解決することができるコミュニケーション能力、論理的思考力、創造力・表現力を身につけること。

<態度・志向性>

6. 社会で自立的に活動するために必要な自己管理能力・倫理観・責任感・生涯学習能力を身につけること。
7. 生活と美の融合を志向し、自立的主体的に、他と協働責任を果たして地域社会の一員として責任を果たし、倫理観、生涯学習力を身につけること。

<統合的な学習経験と創造的思考力>

8. これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、社会で自立的に活動できる能力を身につけること。
9. これまでに獲得した知識・技能・態度および卒業研究等によって培った創造的思考力を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にこれらを適用しその課題を主体的に解決する能力を身につけること。

『実務経験のある教員による授業科目』一覧

〈家政学部 服飾文化専攻〉

科目名	担当者
キャリア開発Ⅰ	水谷 浩
キャリア開発Ⅱ	水谷 浩
消費生活論	水谷 浩
ファッションビジネス実務実習	水谷 浩
マーケティング論	水谷 浩
起業・会社経営論	水谷 浩
情報処理Ⅰ	水谷 浩
情報処理Ⅱ	水谷 浩
服飾ビジネス特別演習	水谷 浩
専門研究Ⅰ	水谷 浩
専門研究Ⅱ	水谷 浩
基礎調理学実習Ⅰ	深澤 律子
基礎調理学実習Ⅱ	深澤 律子
キャリア開発Ⅲ	内海 陽子
色彩学	内海 陽子
ファッションビジネス論	内海 陽子
ファッション販売論	内海 陽子
コーディネート論	内海 陽子
アパレルCADⅠ	佐藤 理恵
アパレルCADⅡ	佐藤 理恵
住居デザイン	山本 佳美
住居デザイン	今野 恵子
食生活論	小野 真実

〈家政学部 健康栄養学専攻〉

科目名	担当者
解剖生理学Ⅰ	曾根 正彦
解剖生理学Ⅱ	曾根 正彦
病理学	曾根 正彦
解剖生理学実験	曾根 正彦他
臨床医学概論Ⅰ	曾根 正彦
臨床医学概論Ⅱ	曾根 正彦
微生物学	黒川 優子
食品衛生学	黒川 優子
基礎調理学実習Ⅰ	深澤 律子他
基礎調理学実習Ⅱ	深澤 律子他
応用調理学実習Ⅰ	深澤 律子他
応用調理学実習Ⅱ	深澤 律子他
学校栄養指導論	深澤 律子
臨床栄養学Ⅰ	高橋 文
臨床栄養学Ⅱ	高橋 文
臨床栄養指導論Ⅰ	高橋 文
臨床栄養指導論Ⅱ	高橋 文
臨床栄養学実習Ⅰ	高橋 文
臨床栄養学実習Ⅱ	高橋 文
臨床栄養学臨地実習Ⅰ	高橋 文
臨床栄養学臨地実習Ⅱ	高橋 文
健康栄養学総合演習Ⅰ	高橋 文
健康栄養学総合演習Ⅱ	高橋 文
健康栄養学総合演習Ⅲ	高橋 文
給食管理学	益田 裕司
情報処理Ⅰ	水谷 浩
消費生活論	水谷 浩
学校食育概論	大槻 友子
食生活論	小野 真実
栄養教育論	小野 真実
栄養指導論	小野 真実
栄養指導論実習	小野 真実
栄養情報処理演習	小野 真実

〈家政学部 生活美術学科〉

科目名	担当者
卒業研究Ⅰ	井上 直美
卒業研究Ⅱ	井上 直美
卒業研究Ⅰ	山口 綾子
卒業研究Ⅱ	山口 綾子
卒業研究Ⅰ	福田 一実
卒業研究Ⅱ	福田 一実

2021年度 シラバス科目情報一覧

家政学部 家政学科 大学共通教養科目

ナンバリング	授業科目	学期	対象学科	教員
K-1-a-01-1	化学Ⅰ	前期	服専1	菅野修一
K-1-a-01-1	化学Ⅰ 必修	前期	健専1	鈴木裕行
K-1-a-02-2	化学Ⅱ	後期	服専1	菅野修一
K-1-a-02-2	化学Ⅱ 必修	前期	健専1	鈴木裕行
K-1-a-03-1	有機化学Ⅰ	後期	服専1	菅野修一
K-1-a-03-1	有機化学Ⅰ 必修	後期	健専1	菅野修一
K-1-a-04-2	有機化学Ⅱ	前期	服専2	菅野修一
K-1-a-04-2	有機化学Ⅱ 必修	前期	健専2	菅野修一
K-1-a-05-1	生物学Ⅰ	前期	服専1・健専1	堀江佐知子
K-1-a-06-2	生物学Ⅱ	後期	服専4・健専1	堀江佐知子
K-1-a-08-1	統計学 必修	後期	健専1	池田展敏
K-1-a-09-2	数学	前期	服専1・健専1	池田展敏
K-1-b-01-1	経済学	前期	服専1・健専4	星雅博
K-1-b-02-1	社会学Ⅰ	前期	健専4	庄司一平
K-1-b-03-2	社会学Ⅱ	後期	健専4	庄司一平
K-1-b-04-1	歴史Ⅰ	前期	服専1	栗原伸一郎
K-1-b-05-2	歴史Ⅱ	後期	服専1	栗原伸一郎
K-1-b-06-1	日本国憲法 必修	前期	服専1・健専1	横田尚昌
K-1-b-07-2	法学概説	後期	服専1	横田尚昌
K-1-c-03-2	心理学Ⅰ	前期	服専1・健専1	植松公威
K-1-c-04-2	心理学Ⅱ	後期	服専1・健専1	植松公威
K-1-c-06-1	生活文化論	前期	服専1	今林直樹
K-1-d-01-1	英語Ⅰ 必修	前期	服専1・健専1	平出大
K-1-d-02-2	英語Ⅱ	後期	服専1・健専1	平出大
K-1-d-03-1	英会話Ⅰ 必修	前期	服専1・健専1	上之原博子
K-1-d-04-2	英会話Ⅱ	後期	服専1・健専1	上之原博子
K-1-d-05-1	仏語Ⅰ	前期	健専1	村山茂
K-1-d-07-1	中国語	前期	健専1	清水浩一郎
K-1-d-08-1	日本語基礎	前期	服専1・健専1	菅原秀
K-1-d-09-2	国語表現法	後期	服専1・健専1	菅原秀
K-1-d-10-1	情報基礎学	前期	服専2・健専2	松尾広
K-1-e-01-2	スポーツ	通年	服専1・健専1	沼澤隆
				池田信文
K-1-e-02-3	武道	前期	服専1	佐藤淳一
K-1-f-01-1	スタディスキルズ 必修	前期	服専1	1年次担任
				教職員
K-1-f-01-1	スタディスキルズ 必修	前期	健専1	1年次担任
				教職員
K-1-f-02-2	ライフデザイン 必修	後期	服専1・健専1	佐々木晃
K-1-f-03-1	キャリア開発Ⅰ	後期	服専1	水谷浩
K-1-f-03-1	キャリア開発Ⅰ	前期	健専1	鈴木裕行
K-1-f-04-2	キャリア開発Ⅱ	前期	服専2	水谷浩
K-1-f-04-2	キャリア開発Ⅱ	前期	健専2	川俣幸一
K-1-f-05-3	キャリア開発Ⅲ	前期	服専3	内海陽子
K-1-f-05-3	キャリア開発Ⅲ	前期	健専3	健康栄養学専攻全教員
K-1-f-06-4	キャリア開発Ⅳ	後期	服専3	水谷浩
K-1-f-06-4	キャリア開発Ⅳ	前期	健専4	健康栄養学専攻全教員
K-1-f-07-1	キャリアサポートⅠ	通年	服専3・健専3	瀬戸典彦
				教職員
K-1-f-08-2	キャリアサポートⅡ	前期	服専4・健専4・生美4	瀬戸典彦
				教職員

2021年度 シラバス科目情報一覧

家政学部 家政学科 基幹科目

ナンバリング	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員
K-2-a-01-1	家政学原論 必修	前期	服専1・健専1	八 卷 美智子
K-2-a-02-1	家族関係学	後期	服専1・健専1	八 卷 美智子
K-2-a-03-1	家庭経営学（家庭経済学を含む。）	前期	服専1・健専1	前 田 修 也

2021年度 シラバス科目情報一覧

家政学部 家政学科 服飾文化専攻科目				
ナンバリング	授業科目	学期	対象学科	教員
A-3-a-01-1-2	消費生活論 必修	前期	服専2	水谷 浩
A-3-a-03-1-1	地域文化論	後期	服専1	栗原 伸一郎
A-3-a-04-2-1	美術史 I	前期	服専1	瀬戸 典彦
A-3-a-05-3-1	美術史 II	後期	服専1	瀬戸 典彦
A-3-b-01-1-1	被服学 必修	前期	服専1	菊地 紗代
A-3-b-02-1-2	色彩学	後期	服専2	内海 陽子
A-3-b-03-1-2	日本服装史	前期	服専2	川又 勝子
A-3-b-05-2-3	染織文化演習	前期	服専3	川又 勝子
A-3-c-01-1-1	被服機構・衛生学 必修	後期	服専1	久慈 るみ子
A-3-c-02-1-1	スタートアップソーイング 必修	前期	服専1	菊地 紗代
A-3-c-03-1-1	アパレル製図法 I (平面) 必修	前期	服専1	菊地 紗代
A-3-c-04-2-1	アパレル製図法 II (応用) 必修	後期	服専1	菊地 紗代
A-3-c-05-2-2	被服造形実習 I	前期	服専2	菊地 紗代
A-3-c-06-3-2	被服造形実習 II	後期	服専2	菊地 紗代
A-3-c-07-4-3	被服造形実習 III	通年	服専3	菊地 紗代
A-3-c-12-1-1	ファッションデザイン	後期	服専1	岡本 はるみ
A-3-c-13-2-2	ファッションデザイン画	前期	服専2	岡本 はるみ
A-3-c-13-2-3	ファッションデザイン画	前期	服専3	岡本 はるみ
A-3-c-14-2-2	アパレル設計論	後期	服専2	玉田 真紀
A-3-c-15-3-3	アパレル生産実習	後期	服専3	井上 美紀
A-3-c-17-2-2	アパレルCAD I 必修	後期	服専2	佐藤 理恵
A-3-c-18-3-3	アパレルCAD II	前期	服専3	佐藤 理恵
A-3-c-19-3-2	服飾工芸・造形(服飾手芸) I	前期	服専2	横田 美和
A-3-c-20-3-2	服飾工芸・造形(服飾手芸) II	後期	服専2	横田 美和
A-3-c-21-3-4	服飾工芸・造形(織物) III	前期	服専4	横田 美和
A-3-d-01-1-1	被服繊維学 必修	前期	服専1	菅野 修一
A-3-d-02-1-1	被服繊維学実験 必修	後期	服専1	井上 美紀
A-3-d-03-2-1	被服材料学 必修	後期	服専1	菅野 修一
A-3-d-04-2-2	被服材料学実験 必修	前期	服専2	井上 美紀
A-3-d-05-2-2	被服整理学 必修	前期	服専2	井上 美紀
A-3-d-06-3-2	被服整理学実験 必修	後期	服専2	井上 美紀
A-3-d-07-2-2	染色加工学	後期	服専2	井上 美紀
A-3-d-08-3-3	染色加工学実験	前期	服専3	井上 美紀
A-3-d-09-3-3	染色学実習	通年	服専3	川又 勝子
A-3-d-10-2-3	テキスタイルデザイン I	後期	服専3	川又 勝子
				横田 美和
A-3-d-11-3-4	テキスタイルデザイン II	後期	服専4	川又 勝子
A-3-e-01-1-2	ファッションビジネス論	前期	服専2	内海 陽子
A-3-e-02-4-3	アパレル品質管理論 必修	後期	服専3	井上 美紀
A-3-e-03-3-3	アパレル消費科学	前期	服専3	井上 美紀
A-3-e-04-3-4	消費者調査法	後期	服専4	水谷 浩
A-3-e-05-1-2	ファッション販売論	後期	服専2	内海 陽子
A-3-e-06-2-3	コーディネート論	前期	服専3	内海 陽子
A-3-e-07-1-1	ファッションビジネス実務実習	通年	服専1	水谷 浩
A-3-e-08-2-2	マーケティング論	前期	服専2	水谷 浩
A-3-e-08-2-3	マーケティング論	前期	服専3	水谷 浩
A-3-e-09-3-3	起業・会社経営論	後期	服専3	水谷 浩
A-3-e-10-3-4	店舗運営論	後期	服専4	水谷 浩
A-3-e-11-2-2	情報処理 I 必修	後期	服専2	水谷 浩
A-3-e-11-2-3	情報処理 I	前期	服専3	水谷 浩

2021年度 シラバス科目情報一覧

家政学部 家政学科 服飾文化専攻科目

ナンバリング	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員	
A-3-e-12-3-3	情報処理Ⅱ	後期	服専3	水 谷 浩	
A-3-f-01-2-2	食品学総論	前期	服専2	八 卷 美智子	
A-3-f-02-2-3	食品学各論	前期	服専3	佐 藤 靖 子	
A-3-f-03-1-2	基礎栄養学	後期	服専2	鈴 木 裕 行	
A-3-f-04-1-1	基礎調理学実習Ⅰ	前期	服専1	深 澤 律 子	
A-3-f-05-1-1	基礎調理学実習Ⅱ	後期	服専1	深 澤 律 子	
A-3-f-06-2-4	食文化論	後期	服専4	宮 地 洋 子	
A-3-f-07-1-2	食生活論	後期	服専2	小 野 真 実	
A-3-f-08-1-3	住居学（製図を含む。）	前期	服専3	崎 山 俊 雄	
A-3-f-09-1-4	住居デザイン	後期	服専4	山 本 佳 美	
				今 野 恵 子	
A-3-f-10-1-4	住文化論	前期	服専4	崎 山 俊 雄	
A-3-f-11-1-3	保育学（実習及び家庭看護を含む。）	後期	服専3	香曾我部 琢	
A-3-f-12-1-3	家庭電気・機械	後期	服専3	門 田 和 雄	
A-3-f-13-4-3	家庭科教材研究	後期	服専3	植 松 公 威	
A-3-g-01-1-1	家政特別講義Ⅰ	前期	服専1	植 松 公 威	
A-3-g-02-4-4	家政特別講義Ⅱ	前期	服専4	植 松 公 威	
A-3-g-03-2-2	家政特別演習(研修旅行)	必修	通年	服専2	川 又 勝 子
A-3-g-03-2-3	家政特別演習(研修旅行)	必修	通年	服専3	菅 野 修 一
A-3-g-04-3-3	服飾ビジネス特別演習		通年	服専3	水 谷 浩
A-3-g-05-3-3	服飾生活特別演習		通年	服専3	井 上 美 紀
A-3-g-06-4-3	専門研究Ⅰ	必修	通年	服専3	菅 野 修 一
A-3-g-06-4-3	専門研究Ⅰ	必修	通年	服専3	植 松 公 威
A-3-g-06-4-3	専門研究Ⅰ	必修	通年	服専3	井 上 美 紀
A-3-g-06-4-3	専門研究Ⅰ	必修	通年	服専3	川 又 勝 子
A-3-g-06-4-3	専門研究Ⅰ	必修	通年	服専3	水 谷 浩
A-3-g-06-4-3	専門研究Ⅰ	必修	通年	服専3	宮 前 理
A-3-g-06-4-3	専門研究Ⅰ	必修	通年	服専3	宮 澤 孝 子
A-3-g-07-5-4	専門研究Ⅱ		通年	服専4	菅 野 修 一
A-3-g-07-5-4	専門研究Ⅱ		通年	服専4	植 松 公 威
A-3-g-07-5-4	専門研究Ⅱ		通年	服専4	井 上 美 紀
A-3-g-07-5-4	専門研究Ⅱ		通年	服専4	川 又 勝 子
A-3-g-07-5-4	専門研究Ⅱ		通年	服専4	水 谷 浩
A-3-g-07-5-4	専門研究Ⅱ		通年	服専4	宮 前 理
A-3-g-07-5-4	専門研究Ⅱ		通年	服専4	宮 澤 孝 子

2021年度 シラバス科目情報一覧

家政学部 家政学科 健康栄養学専攻科目

ナンバリング	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員
B-3-a-01-1-1	社会福祉論 必修	後期	健専1	伊藤 常久
B-3-a-02-2-3	公衆衛生学Ⅰ 必修	前期	健専3	伊藤 常久
B-3-a-03-3-3	公衆衛生学Ⅱ	後期	健専3	伊藤 常久
B-3-a-04-2-1	健康管理概論 必修	前期	健専1	伊藤 常久
B-3-b-01-3-1	解剖生理学Ⅰ 必修	後期	健専1	曾根 正彦
B-3-b-02-3-2	解剖生理学Ⅱ	前期	健専2	曾根 正彦
B-3-b-03-3-2	運動生理学 必修	前期	健専2	川俣 幸一
B-3-b-04-1-2	微生物学 必修	前期	健専2	黒川 優子
B-3-b-05-1-1	生化学Ⅰ 必修	後期	健専1	鈴木 裕行
B-3-b-06-2-2	生化学Ⅱ 必修	前期	健専2	鈴木 裕行
B-3-b-07-3-2	病理学	後期	健専2	曾根 正彦
B-3-b-08-3-3	解剖生理学実験	後期	健専3	川俣 幸一
				曾根 正彦
B-3-b-09-3-3	生化学実験	前期	健専3	鈴木 裕行
B-3-b-10-3-3	臨床医学概論Ⅰ	前期	健専3	曾根 正彦
B-3-b-11-3-3	臨床医学概論Ⅱ	後期	健専3	曾根 正彦
B-3-c-01-2-2	食品学総論 必修	前期	健専2	八巻 美智子
B-3-c-02-2-2	食品学各論 必修	後期	健専2	佐藤 靖子
B-3-c-03-1-1	食品学実験Ⅰ 必修	前期	健専1	八巻 美智子
B-3-c-04-2-1	食品学実験Ⅱ 必修	後期	健専1	八巻 美智子
B-3-c-05-3-3	食品機能学	後期	健専3	村本 光二
B-3-c-06-3-3	食品加工学 必修	前期	健専3	佐藤 靖子
B-3-c-07-3-3	食品加工実習 必修	後期	健専3	佐藤 靖子
B-3-c-08-1-3	食品衛生学 必修	前期	健専3	黒川 優子
B-3-c-09-2-3	食品衛生学実験	後期	健専3	鈴木 裕行
B-3-c-10-2-2	調理科学論 必修	後期	健専2	佐藤 靖子
B-3-c-11-2-3	調理科学実験	前期	健専3	佐藤 靖子
B-3-c-12-1-1	基礎調理学実習Ⅰ 必修	前期	健専1	平本 福子
				深澤 律子
B-3-c-13-2-1	基礎調理学実習Ⅱ 必修	後期	健専1	平本 福子
				深澤 律子
B-3-c-14-3-2	応用調理学実習Ⅰ	前期	健専2	宮地 洋子
				深澤 律子
B-3-c-15-4-2	応用調理学実習Ⅱ	後期	健専2	宮地 洋子
				深澤 律子
B-3-c-16-3-2	食文化論 必修	後期	健専2	宮地 洋子
B-3-d-01-1-1	基礎栄養学 必修	後期	健専1	鈴木 裕行
B-3-d-02-1-2	栄養生化学 必修	後期	健専2	鈴木 裕行
B-3-d-03-1-2	栄養学実験	前期	健専2	鈴木 裕行
B-3-e-01-2-2	応用栄養学Ⅰ 必修	前期	健専2	川俣 幸一
B-3-e-02-2-2	応用栄養学Ⅱ 必修	後期	健専2	川俣 幸一
B-3-e-03-2-2	栄養管理論 必修	後期	健専2	川俣 幸一
B-3-e-04-2-2	応用栄養学実習Ⅰ	前期	健専2	川俣 幸一
B-3-e-05-2-2	応用栄養学実習Ⅱ	後期	健専2	川俣 幸一
B-3-f-01-1-1	食生活論 必修	後期	健専1	小野 真実
B-3-f-02-2-2	栄養教育論 必修	前期	健専2	小野 真実
B-3-f-03-2-2	栄養指導論 必修	後期	健専2	小野 真実
B-3-f-04-1-3	保健栄養学 必修	後期	健専3	栗山 孝雄
B-3-f-05-3-2	栄養情報処理演習 必修	後期	健専2	小野 真実
B-3-f-06-3-3	栄養指導論実習 必修	前期	健専3	小野 真実

2021年度 シラバス科目情報一覧

家政学部 家政学科 健康栄養学専攻科目

ナンバリング	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員
B-3-g-01-3-2	臨床栄養学Ⅰ 必修	前期	健専2	高 橋 文
B-3-g-02-3-2	臨床栄養学Ⅱ	後期	健専2	高 橋 文
B-3-g-03-3-3	臨床栄養指導論Ⅰ	前期	健専3	高 橋 文
B-3-g-04-4-3	臨床栄養指導論Ⅱ	後期	健専3	高 橋 文
B-3-g-05-1-3	臨床栄養学実習Ⅰ	前期	健専3	高 橋 文
B-3-g-06-2-3	臨床栄養学実習Ⅱ	後期	健専3	高 橋 文
B-3-h-01-2-3	公衆栄養学 必修	前期	健専3	栗 山 孝 雄
B-3-h-02-2-3	公衆栄養学実習	後期	健専3	栗 山 孝 雄
B-3-h-03-3-4	地域栄養活動演習Ⅰ	前期	健専4	栗 山 孝 雄
B-3-h-04-3-4	地域栄養活動演習Ⅱ	後期	健専4	栗 山 孝 雄
B-3-i-01-1-2	給食管理学 必修	前期	健専2	益 田 裕 司
B-3-i-02-1-4	給食経営学	前期	健専4	
B-3-i-03-2-2	給食管理実習Ⅰ 必修	後期	健専2	
B-3-i-04-3-2	給食管理実習Ⅱ	後期	健専2	
B-3-j-01-1-3	健康栄養学総合演習Ⅰ	前期	健専3	栗 山 孝 雄 高 橋 文
B-3-j-02-2-3	健康栄養学総合演習Ⅱ	後期	健専3	栗 山 孝 雄 川 俣 幸 一 小 野 真 実 高 橋 文
B-3-j-03-3-4	健康栄養学総合演習Ⅲ	後期	健専4	栗 山 孝 雄 川 俣 幸 一 小 野 真 実 高 橋 文
B-3-k-01-5-3	給食管理臨地実習Ⅰ	前期	健専3	
B-3-k-02-5-3	給食管理臨地実習Ⅱ	前期	健専3	
B-3-k-03-5-4	臨床栄養学臨地実習Ⅰ	前期	健専4	高 橋 文
B-3-k-04-5-4	臨床栄養学臨地実習Ⅱ	後期	健専4	高 橋 文
B-3-k-05-5-4	公衆栄養学臨地実習Ⅰ	通年	健専4	栗 山 孝 雄
B-3-k-06-5-4	公衆栄養学臨地実習Ⅱ	通年	健専4	栗 山 孝 雄
B-3-l-01-1-1	被服学	前期	健専1	菊 地 紗 代
B-3-l-02-1-2	被服造形実習Ⅰ	前期	健専2	菊 地 紗 代
B-3-l-03-2-2	被服造形実習Ⅱ	後期	健専2	菊 地 紗 代
B-3-l-04-1-3	住居学（製図を含む。）	前期	健専3	崎 山 俊 雄
B-3-l-05-1-3	保育学（実習及び家庭看護を含む。）	後期	健専3	香 曾 我 部 琢
B-3-l-06-1-3	家庭電気・機械	後期	健専3	門 田 和 雄
B-3-l-07-2-3	情報処理Ⅰ	前期	健専3	水 谷 浩
B-3-l-08-1-2	消費生活論	前期	健専2	水 谷 浩
B-3-l-09-4-3	学校栄養指導論	後期	健専3	深 澤 律 子
B-3-l-10-1-3	学校食育概論	前期	健専3	大 槻 友 子
B-3-m-01-3-3	セミナーⅠ	後期	健専3	健康栄養学専攻教員
B-3-m-02-4-4	セミナーⅡ	後期	健専4	健康栄養学専攻教員
B-3-m-03-1-1	家政特別講義Ⅰ	通年	健専1	伊 藤 常 久 深 澤 律 子
B-3-m-04-2-2	家政特別講義Ⅱ	後期	健専2	川 俣 幸 一 高 橋 文
B-3-m-05-3-3	家政特別講義Ⅲ（臨地栄養学演習）	後期	健専3	栗 山 孝 雄 高 橋 文
B-3-m-06-4-4	家政特別講義Ⅳ（臨地栄養学演習）	前期	健専4	栗 山 孝 雄 高 橋 文

2021年度 シラバス科目情報一覧

家政学部 家政学科 健康栄養学専攻科目

ナンバリング	授業科目	学期	対象学科	教員
B-3-m-07-5	課題研究 平成30年度入学生	通年	健専4・健専3	鈴木裕行
B-3-m-07-5	課題研究 平成30年度入学生	通年	健専4・健専3	佐藤靖子
B-3-m-07-5	課題研究 平成30年度入学生	通年	健専4・健専3	曾根正彦
B-3-m-07-5	課題研究 平成30年度入学生	通年	健専4・健専3	小野真実
B-3-m-07-5	課題研究 平成30年度入学生	通年	健専4・健専3	栗山孝雄
B-3-m-07-5	課題研究 平成30年度入学生	通年	健専4・健専3	川俣幸一
B-3-m-07-5	課題研究 平成30年度入学生	通年	健専4・健専3	深澤律子
B-3-m-07-5	課題研究 平成30年度入学生	通年	健専4・健専3	八巻美智子
B-3-m-07-5	課題研究 平成30年度入学生	通年	健専4・健専3	高橋文
B-3-m-07-5	課題研究 平成30年度入学生	通年	健専4・健専3	宮澤孝子

2021年度 シラバス科目情報一覧

家政学部 生活美術学科専攻科目

ナンバリング	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員
C-3-g-02-2-4	美術教諭試験対策講座Ⅱ	前期	生美4	佐々木 晃
C-3-h-04-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	生美4	北 折 整
				鈴 木 専
C-3-h-04-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	生美4	佐 藤 淳 一
C-3-h-04-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	生美4	森 敏 美
C-3-h-04-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	生美4	三 上 秀 夫
C-3-h-04-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	生美4	瀬 戸 典 彦
C-3-h-04-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	生美4	鶴 巻 史 子
C-3-h-04-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	生美4	大 堀 恵 子
C-3-h-04-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	生美4	佐々木 輝 子
C-3-h-04-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	生美4	立 花 布美子
C-3-h-04-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	生美4	安 住 英 之
C-3-h-04-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	生美4	井 上 直 美
C-3-h-04-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	生美4	山 口 綾 子
C-3-h-04-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	生美4	福 田 一 実
C-3-h-04-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	生美4	鹿 野 明 子
C-3-h-05-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	生美4	北 折 整
				鈴 木 専
C-3-h-05-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	生美4	佐 藤 淳 一
C-3-h-05-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	生美4	森 敏 美
C-3-h-05-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	生美4	三 上 秀 夫
C-3-h-05-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	生美4	瀬 戸 典 彦
C-3-h-05-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	生美4	鶴 巻 史 子
C-3-h-05-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	生美4	大 堀 恵 子
C-3-h-05-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	生美4	佐々木 輝 子
C-3-h-05-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	生美4	立 花 布美子
C-3-h-05-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	生美4	安 住 英 之
C-3-h-05-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	生美4	井 上 直 美
C-3-h-05-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	生美4	山 口 綾 子
C-3-h-05-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	生美4	福 田 一 実
C-3-h-05-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	生美4	鹿 野 明 子
C-3-h-06-5-4	卒業研究特別講義Ⅰ 必修	前期	生美4	鈴 木 専
				鶴 巻 史 子
C-3-h-07-5-4	卒業研究特別講義Ⅱ 必修	後期	生美4	鈴 木 専
				鶴 巻 史 子

2021年度 シラバス科目情報一覧

教職に関する科目

ナンバリング	授業科目	学期	対象学科	教員
K-4-a-01-2	教育原理	前期	服専2・健専2・美表2	宮澤孝子 山沢智樹
K-4-a-02-1	教職概論	後期	服専1・健専1・美表1	大迫章史
K-4-a-03-3	教育制度論	前期	服専3・健専3・美表3	宮澤孝子
K-4-a-04-2	教育心理学	前期	服専2・健専2・美表2	宮前理
K-4-a-05-2	特別支援教育	後期	服専3・健専3・美表3	三浦主博
K-4-a-06-2	教育課程論	前期	服専2・健専2・美表2	中島夏子 宮澤孝子
K-4-b-01-2	道德教育の指導法	前期	服専3・健専3・美表3	加美山裕子
K-4-b-02-2	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	前期	服専2・健専2・美表2	須藤由子
K-4-b-03-3	教育方法論	後期	服専2・健専2・美表2	清水禎文 松尾広
K-4-b-04-3	生徒指導の理論と方法A(進路指導の理論及び方法を含む。)	後期	服専3・健専3・美表3	福島朋子 佐々木晃
B-4-b-05-3	生徒指導の理論と方法B	前期	健専3	福島朋子 佐々木晃
K-4-b-06-2	教育相談	後期	服専3・健専3・美表3	宮前理
K-4-c-01-5	教職実践演習(中・高)	後期	服専4・健専4・生美4	宮前理 宮澤孝子
B-4-c-02-5	教職実践演習(栄養教諭)	後期	健専4	宮前理 植松公威 宮澤孝子
K-4-d-01-3	家庭科教育法Ⅰ	通年	服専3・健専3	佐藤郷美
K-4-d-02-4	家庭科教育法Ⅱ	通年	服専4・健専4	石川りか
C-4-d-03-3	美術科教育法Ⅰ	通年	美表3	加美山裕子
C-4-d-04-4	美術科教育法Ⅱ	通年	生美4	加美山裕子
C-4-d-05-3	工芸科教育法	通年	美表3	瀬戸典彦

2021年度 シラバス科目情報一覧

博物館に関する科目

ナンバリング	授業科目	学期	対象学科	教員
K-5-a-01-2	生涯学習概論	後期	服専1・美表1	伊藤 優
K-5-a-02-2	博物館概論	前期	服専1・美表1	伊藤 優
K-5-a-03-4	博物館経営論	前期	服専3・美表3	笠原 信男
K-5-a-04-3	博物館資料論	後期	服専2・美表2	菊地 逸夫
K-5-a-05-3	博物館資料保存論	前期	服専2・美表2	及川 規
K-5-a-06-4	博物館展示論	後期	服専3・美表3	笠原 信男
K-5-a-07-3	博物館情報・メディア論	後期	服専2・美表2	佐藤 泰美
K-5-a-08-2	博物館教育論	後期	服専1・美表1	伊藤 優
K-5-a-09-5	博物館実習 I (学内・見学実習を含む。)	通年(前)	服専3・美表3	菊地 逸夫
K-5-a-09-5	博物館実習 I (学内・見学実習を含む。)	通年(後)	服専3・美表3	落合 里麻

大学 共通 教養 科目

化学 I

(11001)

単位：2単位

対象学科：服専1年

授業形態：講義 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

菅野修一

■ 授業の概要

私たちの衣・食・住すべてに化学物質が関与しており、化学の知識なくしては現代の快適な生活はあり得ない。化学 I では、生活全般に密接に結び付いた化学の基礎的な内容を紹介する。さらに、身の回りを化学の目で見る習慣が身につくよう、化学の面白さや興味深さについても紹介する。さらには、原始時代から今日に至るまでの人間生活の進歩が、化学の発展の歴史と明確にリンクしていることをの理解を深めることで、今日の日常生活の奥深さを認識させ、その一つのベースとなっている化学の幅の広さについても繰り返し説明する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 物質についての基本的理解（原子・分子の本質）
- ・ 生活と化学の関係の理解

①②③⑤⑨

①②③⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 科学と化学の関係	教科書指定ページの熟読。
第2回 物質とは何か、物質を粒子としてみる	教科書指定ページの熟読。
第3回 元素の周期表と原子の構造	教科書指定ページの熟読。
第4回 量子力学の歴史と基本的な概念	教科書指定ページの熟読。
第5回 電子と化学結合	講義ノートの総まとめ（1回目）
第6回 身の回りの物質、無機物と有機物	教科書指定ページの熟読。
第7回 身の回りの物質、混合物と化合物	教科書指定ページの熟読。
第8回 混合物と化合物	教科書指定ページの熟読。
第9回 原子・分子の世界におけるモルの概念	教科書指定ページの熟読。
第10回 物質の状態と温度、状態変化とエネルギー	講義ノートの総まとめ（2回目）
第11回 化学反応と電子	教科書指定ページの熟読。
第12回 電子の不思議（粒子としての電子・波としての電子）	教科書指定ページの熟読。
第13回 水の化学	課題を指定。
第14回 環境と化学、分析化学の紹介	教科書指定ページの熟読。
第15回 身の回りの高分子化合物	講義ノートの総まとめ（3回目）

■ 履修上の注意

教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。

■ 成績評価方法・基準

小テスト30%、課題レポート30%、課題プレゼンテーション40%を総合的に評価する。小テストは毎回添削。

■ 教科書

[教養としての化学入門] [Kimberley Waldron] [化学同人] [3000円]

■ 参考書

必要に応じて個別に紹介する。

■ 備考

質問に関してオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

化学 I

(11002)

単位：2単位

対象学科：健専1年

授業形態：講義 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

鈴木 裕 行

■ 授業の概要

健康栄養学専攻の管理栄養士養成課程で履修する栄養学・生化学・食品学分野の専門科目の学修は、栄養素／食品成分の構造・性質・機能を理解することが基本であり、そのためには「物質の構造・性質と変化」を取り扱う学問である化学の基礎知識が不可欠である。この授業では、各受講者の化学についてのこれまでの履修状況・理解度に合わせて、ごく基礎的な事項の復習から講義し、説明と問題演習を繰り返して、今後の専門科目の理解に必要な基礎力の向上を図る。

■ 授業の到達目標

- ・ 1. 化学一般の基礎的な知識を身につける。
- ・ 2. 関連する練習問題を解答できるようにする。

学位授与の方針との関連

①③

①③

■ 授業計画

第1回 健康・栄養・食品と化学

自習（事前・事後学修の内容）

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第2回 物質を構成する粒子

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第3回 元素の周期律と周期表

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第4回 原子の構造

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第5回 イオンと分子

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第6回 イオン性化合物～化学式の書き方

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第7回 物質質量：原子量・分子量・モルとは

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。

第8回 [中間試験]、物質質量：原子量・分子量・モルの計算

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。試験でできなかったところをよく復習する。

第9回 試験の解説、原子価と電子式

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。試験でできなかったところをよく復習する。

第10回 化学反応と反応式の作り方

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第11回 化学反応式を用いた計算

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第12回 化学結合と分子構造：共有結合・イオン結合・水素結合

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第13回 化学結合と電気陰性度

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく

第14回 酸と塩基	理解する。 教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第15回 〔期末試験〕、中和反応	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。試験でできなかったところをよく復習する。
第16回 試験の解説、中和反応と塩の生成	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。試験でできなかったところをよく復習する。

■ 履修上の注意

今後の専門科目学修の一番の基礎なので、理解不十分なところをそのままにしないこと。

■ 成績評価方法・基準

中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組み等、提出物で評価）・・・10%

■ 教科書

ゼロからはじめる化学、立屋敷 哲、丸善(株)出版事業部、2, 200円＋税

■ 参考書

無し

■ 備考

「キャリア開発Ⅰ」がこの授業に関連した問題演習の授業なので、併せて履修することが強く望まれる。試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

化学Ⅱ

(11003)

単位：2単位

対象学科：服専1年

授業形態：講義 学期：後期

家政学部 大学共通教養科目

菅野修一

■ 授業の概要

化学Ⅰで学んだ基礎をもとに、我々の生活を支える多くの化学物質、生命を支える食料としての物質、エネルギーに関する物質、さらに地球のこれまでの進化と環境に関連する大気や水や土壌に関連する化学について述べ、その反応と諸現象との関連を講義する。合わせて、暮らしを豊かにしてくれる化学について概観する。一方、原始時代から今日に至るまでの人間生活の進歩が、化学の発展の歴史と明確にリンクしていることと理解を深めることで、今日の日常生活の奥深さを認識させ、その一つのベースとなっている化学の幅の広さについても繰り返し説明する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・自然界と化学の関係の理解。
- ・生活と化学の関係の理解。

①②④⑧⑨
①②④⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	気体の圧力と沸騰	教科書指定ページの熟読。
第2回	蒸発と沸騰、気化熱	教科書指定ページの熟読。
第3回	水に溶けるものと油に溶けるものの違い	教科書指定ページの熟読。
第4回	過冷却、融解熱の実験	教科書指定ページの熟読。
第5回	化学反応熱などの熱とエネルギー	講義ノートの総まとめ（1回目）。
第6回	塩析と生体の機能	教科書指定ページの熟読。
第7回	酸と塩基、水素イオン濃度、酸塩基の強さ、中和反応	教科書指定ページの熟読。
第8回	酸化数、身の回りの酸化剤、還元剤	教科書指定ページの熟読。
第9回	角砂糖の燃焼と生体エネルギー	教科書指定ページの熟読。
第10回	酸化と還元、活性酸素	講義ノートの総まとめ（2回目）。
第11回	電子の移動と電池、燃料電池など各種電池	教科書指定ページの熟読。
第12回	太陽エネルギーと光合成	教科書指定ページの熟読。
第13回	光、波と粒子としての性質、電波と光	課題を指定。
第14回	物質の色、炎色反応	教科書指定ページの熟読。
第15回	高分子化合物、酸素の性質	講義ノートの総まとめ（3回目）。

■ 履修上の注意

教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。

■ 成績評価方法・基準

小テスト30%、課題レポート30%、課題プレゼンテーション40%を総合的に評価する。小テストは毎回添削。

■ 教科書

[教養としての化学入門] [Kimberley Waldron] [化学同人] [3000円]

■ 参考書

必要に応じて個別に紹介する。

■ 備考

質問に関してオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

化学Ⅱ

(11004)

単位：2単位

対象学科：健専1年

授業形態：講義 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

鈴木 裕 行

■ 授業の概要

健康栄養学専攻の管理栄養士養成課程で履修する栄養学・生化学・食品学分野の専門科目の学修は、栄養素／食品成分の構造・性質・機能を理解することが基本であり、そのためには「物質の構造・性質と変化」を取り扱う学問である化学の基礎知識が不可欠である。この授業では、化学Ⅰに引続き各受講者の化学についてのこれまでの履修状況・理解度に合わせて、ごく基礎的な事項の復習から講義し、説明と問題演習を繰り返して、今後の専門科目の理解に必要な基礎力の向上を図る。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・化学一般の基礎的な知識・考え方を身につける。
- ・関連する計算問題を解答できるようにする。

①③

①③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 中和反応と濃度計算

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第2回 水素イオン濃度とpH

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第3回 酸化と還元

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第4回 酸化数と酸化還元反応

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第5回 酸化剤・還元剤

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第6回 金属元素のイオン化列と電池

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第7回 物質の三態、気体の性質、気体の法則

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加えて、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。

第8回 [中間試験] 気体の状態方程式

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加えて、試験でできなかったところをよく復習する。

第9回 試験の解説、気体の計算

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加えて、試験でできなかったところをよく復習する。

第10回 溶液の性質

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第11回 浸透圧、化学反応と熱・熱化学方程式

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第12回 熱量変化の計算

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第13回 有機化合物の基礎：構造式の書き方

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく

第14回 有機化合物の種類	理解する。 教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加えて、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第15回 〔期末試験〕、生体の有機化合物	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加えて、試験でできなかったところをよく復習する。
第16回 試験の解説、有機化合物の反応	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加えて、試験でできなかったところをよく復習する。

■ 履修上の注意

今後の専門科目学修の一番の基礎なので、理解不十分なところをそのままにしないこと。

■ 成績評価方法・基準

中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組み等、提出物で評価）・・・10%

■ 教科書

ゼロからはじめる化学、立屋敷 哲、丸善(株)出版事業部、2, 200円＋税

■ 参考書

無し

■ 備考

「キャリア開発Ⅰ」がこの授業に関連した問題演習の授業なので、併せて履修することが強く望まれる。試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

有機化学 I

(11005)

単位：2単位

対象学科：服専1年

授業形態：講義 学期：後期

家政学部 大学共通教養科目

菅野修一

■ 授業の概要

有機化学の基礎として、各原子の電子配置から解説する。特に炭素原子の sp ・ sp^2 ・ sp^3 の各混成軌道をはじめとする電子軌道の形が、分子の形に直接影響することを認識させ、それをベースに様々な基本となる有機化合物を紹介する。さらには、有機化合物の構造式から読み取れる様々な情報を読み取れるようにし、高分子化合物を含むより複雑な化合物の理解にまでつなげる。講義の適切な個所では、繰り返し有機電子論に触れ、有機化学反応と電子の関係に触れ、有機化学の奥深さも伝える。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・原子と電子配置について理解。

①②④

・有機化合物の分子レベルでの理解。

①②③⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	日常生活における有機化学の重要性の認識について	教科書指定ページの熟読。
第2回	元素の周期表、元素記号、必須元素、同族元素	教科書指定ページの熟読。
第3回	アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン元素、希ガス	教科書指定ページの熟読。
第4回	分子模型を用いた立体化学、炭素の結合手	教科書指定ページの熟読。
第5回	原子番号と電子の配列、イオン結合の復習	講義ノートの総まとめ（1回目）。
第6回	原子の構造、同位体、放射性同位元素の生化学における利用	教科書指定ページの熟読。
第7回	分子式、組成式、示性式、有機化合物の異性体	教科書指定ページの熟読。
第8回	中間試験、分子量、式量、構造式、炭素の正四面体構造	教科書指定ページの熟読。
第9回	炭素の二重結合、三重結合、種々の分子式	教科書指定ページの熟読。
第10回	飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質	講義ノートの総まとめ（2回目）。
第11回	不飽和炭化水素、共有結合（電子対結合）、電子対	教科書指定ページの熟読。
第12回	非共有電子対、配合結合、金属結合、不対電子	教科書指定ページの熟読。
第13回	メタン分子、軌道電子の昇位、混成軌道、 δ 結合、 π 結合	課題を指定。
第14回	直鎖の飽和炭化水素とその命名法、数詞、アルキル基	教科書指定ページの熟読。
第15回	分岐炭化水素とその命名法、慣用名	講義ノートの総まとめ（3回目）。

■ 履修上の注意

教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。

■ 成績評価方法・基準

毎回行う小テスト30%、レポート30%、中間試験等40%を基準として総合的に評価する。小テストは毎回添削。

■ 教科書

[有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2, 700円]

■ 参考書

必要に応じて個別に紹介する。

■ 備考

質問に関してオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

有機化学 I

(11006)

単位：2単位

対象学科：健専1年

授業形態：講義 学期：後期

家政学部 大学共通教養科目

菅野修一

■ 授業の概要

生命現象を分子レベルで理解するため、生体を構成している物質の分子構造、およびそれを組み立てている結合のしくみを知る事は必須である。化学I・IIで学んだことをもとに有機化学の基本概念を述べ、それらの分子の反応性を化学結合、とりわけ共有結合の電子の配置から説明し、それをもとに官能基の性質について講義する。一方、講義の適切な個所では、化学の基本となる量子論の考え方にも触れ、有機化学の奥深さも伝える。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・生体構成物質を理解する基礎となる簡単な有機化合物の理解。
- ・化学結合と電子の関係の理解。

①②③④⑨
①⑤⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 健康栄養学における有機化学の重要性の認識について	教科書指定ページの熟読。
第2回 元素の周期表、元素記号、必須元素、同族元素	教科書指定ページの熟読。
第3回 アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン元素、希ガス	教科書指定ページの熟読。
第4回 分子模型を用いた立体化学、炭素の結合手	教科書指定ページの熟読。
第5回 原子番号と電子の配列、イオン結合の復習	講義ノートの総まとめ（1回目）。
第6回 原子の構造、同位体、放射性同位元素の生化学における利用	教科書指定ページの熟読。
第7回 分子式、組成式、示性式、有機化合物の異性体	教科書指定ページの熟読。
第8回 中間試験、分子量、式量、構造式、炭素の正四面体構造	教科書指定ページの熟読。
第9回 炭素の二重結合、三重結合、様々な分子式	教科書指定ページの熟読。
第10回 飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質	講義ノートの総まとめ（2回目）。
第11回 不飽和炭化水素、共有結合（電子対結合）、電子対	教科書指定ページの熟読。
第12回 非共有電子対、配合結合、金属結合、不対電子	教科書指定ページの熟読。
第13回 メタン分子、軌道電子の昇位、混成軌道、 δ 結合、 π 結合	課題を指定。
第14回 直鎖の飽和炭化水素とその命名法、数詞、アルキル基	教科書指定ページの熟読。
第15回 分岐炭化水素とその命名法、慣用名	講義ノートの総まとめ（3回目）。

■ 履修上の注意

教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。

■ 成績評価方法・基準

毎回行う小テスト30%、レポート30%、中間試験等40%を基準として総合的に評価する。

■ 教科書

[有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2, 700円]

■ 参考書

必要に応じて個別に紹介する。

■ 備考

質問に関してオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

有機化学Ⅱ

(11007)

単位：2単位

対象学科：服専2年

授業形態：講義 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

菅野修一

■ 授業の概要

有機化学Ⅰの講義を理解していることをベースに、有機化学の基礎として知っておく必要のある典型的な有機化合物を個別に解説していく。ここでは繰り返し化合物をボンドラインフォーミュラ・ダッシュフォーミュラ・コンデンスドフォーミュラで書けるよう説明し、さらには構造式から読み取れる化合物の性質を理解できるようにする。さらに、講義の適切な箇所では、化学の基本となる量子論の考え方にも触れ、有機化学の奥深さも伝える。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・基本的有機化合物の理解。
- ・有機化学反応の基礎の理解。

①②③⑤⑨
①②③⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 有機化合物の官能基、化合物の名称	教科書指定ページの熟読。
第2回 アルコール、エーテル、エステル的一般の性質	教科書指定ページの熟読。
第3回 アンモニア、アミン、アミノ酸の構造と性質	教科書指定ページの熟読。
第4回 ケトン、カルボン酸の構造と性質、その関連性	教科書指定ページの熟読。
第5回 アルデヒドの構造、還元性としての性質、アルコールとの関係	講義ノートの総まとめ（1回目）。
第6回 生体内のケトン体としての構造とその存在の意味付け	教科書指定ページの熟読。
第7回 芳香族炭化水素、アロマの語源、ナフタリン	教科書指定ページの熟読。
第8回 中間試験、アルカンの誘導体、ハロアルカン、トリハロメタン	教科書指定ページの熟読。
第9回 共有結合の分極、フロンガスとオゾン層の破壊	教科書指定ページの熟読。
第10回 求核的置換反応、脱離反応	講義ノートの総まとめ（2回目）。
第11回 アミンの分類と性質、アンモニアの塩基性の意味	教科書指定ページの熟読。
第12回 第二級アミンと亜硝酸からニトロソアミンの生成およびその意味	教科書指定ページの熟読。
第13回 アルコールの構造、多価アルコール、トリアシルグリセロール	課題を指定。
第14回 不飽和有機化合物の性質と反応性	教科書指定ページの熟読。
第15回 共鳴と共鳴構造、酸の強弱との関係	講義ノートの総まとめ（3回目）。

■ 履修上の注意

教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。

■ 成績評価方法・基準

小テスト30%、レポート30%、中間試験等40%を基準として総合的に評価する。

■ 教科書

[有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2, 700円]

■ 参考書

必要に応じて個別に紹介する。

■ 備考

質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

有機化学Ⅱ

(11008)

単位：2単位

対象学科：健専2年

授業形態：講義 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

菅野修一

■ 授業の概要

人間の生命維持に関連する現象は体内のタンパク質・糖質・脂質などが関連する代謝、つまりは複雑な化学反応によりもたらされる。生体の主構成物質の有機化合物の化学構造を理解し、さらにはその基本的有機化学反応について説明する。有機化合物の構造式から読み取れる様々な情報を読み取れるようにし、高分子化合物を含むより複雑な化合物の理解にまでつなげる。代謝に関する詳しい学習は生化学に譲るが、生化学の講義を理解するためには、この講義を理解することが前提となる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・有機化学反応の基礎の理解。	①②③⑤⑨
・基礎となる有機化合物の理解。	①②③④⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 有機化合物の官能基、化合物の名称	教科書指定ページの熟読
第2回 アルコール、エーテル、エステル的一般の性質	教科書指定ページの熟読
第3回 アンモニア、アミン、アミノ酸の構造と性質	教科書指定ページの熟読
第4回 ケトン、カルボン酸の構造と性質、その関連性	教科書指定ページの熟読
第5回 アルデヒドの構造、還元性としての性質、アルコールとの関係	講義ノートの総まとめ（1回目）。
第6回 生体内のケトン体としての構造とその存在の意味付け	教科書指定ページの熟読
第7回 芳香族炭化水素、アロマの語源、ナフタリン	教科書指定ページの熟読
第8回 中間試験、アルカンの誘導体、ハロアルカン、トリハロメタン	教科書指定ページの熟読
第9回 共有結合の分極、フロンガスとオゾン層の破壊	教科書指定ページの熟読
第10回 求核的置換反応、脱離反応	講義ノートの総まとめ（2回目）。
第11回 アミンの分類と性質、アンモニアの塩基性の意味	教科書指定ページの熟読
第12回 第二級アミンと亜硝酸からニトロソアミンの生成およびその意味	教科書指定ページの熟読
第13回 アルコールの構造、多価アルコール、トリアシルグリセロール	課題を指定。
第14回 不飽和有機化合物の性質と反応性	教科書指定ページの熟読
第15回 共鳴と共鳴構造、酸の強弱との関係	講義ノートの総まとめ（3回目）。

■ 履修上の注意

教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。

■ 成績評価方法・基準

毎回行う小テスト30%、レポート30%、中間試験等40%を基準として総合的に評価する。

■ 教科書

[有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2, 700円]

■ 参考書

必要なプリント配布

■ 備考

質問に関してオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

生物学 I

(11009)

単位：2単位

対象学科：健専1年・服専1年

授業形態：講義 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

堀江 佐知子

■ 授業の概要

生き物の不思議さは、長い進化の歴史を経て生まれたものであり、脈々と生命が受け継がれてきた結果である。そして、その不思議さが進化した背景には、何らかの合理的な理由があると考えられる。

地球が誕生し、その地球上で生命が受け継がれてきた道筋を学ぶことで、生き物の不思議さが進化してきた理由を探る講義であり、今までと違う新たな視点で生き物の不思議さを見ることができるようになること、「生物」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目指す講義である。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を身につける。
- ・学習した情報を整理・要約することができる技術を身につける。

①

⑥⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 講義内容および進め方や評価方法の説明	生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。
第2回 原始地球の誕生	地球の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第3回 地球と生命の誕生と進化	生命の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第4回 魚の進化	魚の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第5回 植物の進化（植物の誕生）	植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第6回 植物の進化（裸子植物の進化）	裸子植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第7回 植物の進化（被子植物の進化）	被子植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第8回 哺乳類の誕生	哺乳類の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第9回 哺乳類の進化	哺乳類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第10回 鳥の進化	鳥の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第11回 昆虫の進化（昆虫の誕生）	昆虫の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第12回 昆虫の進化（昆虫の情報戦略）	昆虫の情報戦略について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第13回 昆虫の進化（昆虫の共進化）	昆虫の共進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第14回 人類の進化	人類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第15回 講義のまとめ	講義内容をまとめる。
第16回 試験	

■ 履修上の注意

特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。

■ 成績評価方法・基準

課題、レポート及び学期末の試験（50%）、受講態度（50%：講義への参加状況及び小テストの結果等で総合的に判断する）により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う。

■ 教科書

無し

■ 参考書

無し

■ 備考

質問等については、講義の終了時に受付ける。

生物学Ⅱ

(11010)

単位：2単位

対象学科：健専1年・服専4年

授業形態：講義 学期：後期

家政学部 大学共通教養科目

堀江 佐知子

■ 授業の概要

生物学は生物や生命現象を学ぶ自然科学である。本講義で扱う対象は細胞内の分子のようなマイクロレベルから生物圏の現象のようなマクロレベルまで様々な生命現象を対象とする。本講義では、生命誕生から生物の一種として、ヒトの生物学的特徴を分子遺伝学や生理学、生態学等様々な視点から学んで行くことを通して、ヒトの普遍性や特殊性を学び、我々ヒトの生物学的特徴の理解を通じて、生物学を多様な視点からとらえ、「生命」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目指し講義を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を身につける。
- ・学習した情報を整理・要約することができる技術を身につける。

①
⑥⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 講義内容および進め方や評価方法の説明	生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。
第2回 生命の誕生	生命の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第3回 ヒトの設計図、遺伝子	遺伝子について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第4回 骨・筋肉	骨や筋肉について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第5回 肝臓	肝臓について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第6回 胃・腸	胃や腸について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第7回 心臓・血管	心臓や血管について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第8回 免疫	免疫について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第9回 脳と心（知覚）	脳（知覚）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第10回 脳と心（記憶）	脳（記憶）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第11回 脳と心（こころの進化）	脳（こころの進化）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第12回 遺伝子（日本人のルーツ）	遺伝子について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第13回 遺伝子（精神の設計図）	遺伝子（精神の設計図）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第14回 生物多様性と保全	生物多様性について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第15回 講義のまとめ	講義内容をまとめる。
第16回 試験	

■ 履修上の注意

特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。

■ 成績評価方法・基準

課題、レポート及び学期末の試験（50%）、受講態度（50%：講義への参加状況及び小テストの結果等で総合的に判断する）により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う。

■ 教科書

無し

■ 参考書

無し

■ 備考

質問等については、講義の終了時に受付ける。

統計学

(11011)

単位：2単位

対象学科：健専1年

授業形態：講義 学期：後期

家政学部 大学共通教養科目

池田展敏

■ 授業の概要

前半では、集団の性質を大局的にとらえるための基礎となる記述統計（度数分布、代表値、散布度、特に標準偏差、相関係数など）の初歩的事項について解説し、簡単な例で計算練習する。中盤では、統計学の応用のために不可欠な確率と確率分布（正規分布、t分布、カイ二乗分布など）について説明する。後半では、確率論の応用として推定や検定など推測統計の考え方について説明する。特に、疫学研究に欠かせないクロス表集計の考え方について言及する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・平均、標準偏差、相関係数などの意味と定義を理解し、その計算ができるようになる。	①
・就職試験に出題されるような、簡単な確率や数え上げの問題が解けるようになること。	①②
・確率分布の種類について理解し、区間推定に応用できる。	①
・統計的検定の考え方を理解し、特定の例題が解ける。	①

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス、統計学のイメージと概要（記述と推測）	教科書該当ページを読む。
第2回 資料の整理（データの種類と度数分布）	教科書該当ページを読む。配布プリントの復習。
第3回 資料の整理（ヒストグラム、データの代表値）	教科書該当ページを読む。配布プリントの復習。
第4回 資料の整理（散布度、偏差、分散）	教科書該当ページを読む。計算例の確認。
第5回 資料の整理（標準偏差、データの標準化）	教科書該当ページを読む。計算例の確認。
第6回 資料の整理（散布図、共分散、相関係数）	教科書該当ページを読む。散布図、提出課題。
第7回 離散型確率変数	教科書該当ページ、および、配布資料の復習。
第8回 確率の計算例。確率変数について	教科書該当ページを読む。計算例の確認。
第9回 確率分布とは何か	該当ページを読む。
第10回 離散型確率変数の期待値と分散	提出課題に取り組む。
第11回 連続型確率分布表の使い方（標準正規分布、t分布）、%点	教科書該当ページを読む。確率分布表の使い方確認。提出課題に取り組む。
第12回 なぜ正規分布が必要か。平均値の区間推定	教科書該当ページを読む。
第13回 区間推定の演習問題	教科書該当ページを読む。ノートの復習。
第14回 検定の考え方と平均値に関する検定	教科書該当ページを読む。プリントの復習。
第15回 クロス表集計とカイ二乗検定（独立性の検定）	教科書該当ページを読む。
第16回 試験	提出課題を復習して臨むこと。

■ 履修上の注意

電卓が必要な時があるので持参すること。

■ 成績評価方法・基準

期末テスト（60%）。問題レポート（40%）

問題レポートは後日添削して返却する。試験は試験後に解答例を配布する。

■ 教科書

らくらく統計学 統計学教育研究会編 ムイスリ出版 2350円

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

数学

(11012)

単位：2単位

対象学科：健専1年・服専1年

授業形態：講義 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

池田展敏

■ 授業の概要

数学は自然科学だけでなく、文系の分野でも幅広く利用される道具としての意味もある。授業では、集合論、代数学、解析学、幾何学など数学の体系を説明する。特に、集合と写像が数学理論の出発点となり、2項演算の導入により代数学が、変換群の導入により幾何学が発展することを述べていく。加えて、微分・積分は現代社会において欠かせないツールになっていることも説明する。また、数学の理論と中学・高校で教えられる基礎的数学の関連性を、演習問題を通じ学習するようにする。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・ 数学に関する教養（歴史、分野、応用など）を修得する。	②
・ 集合の記法、写像の概念、関数のグラフ化、方程式の作り方や解き方を理解する。	①
・ 就職試験などで出題されるレベルの数学に慣れ、解ける。	①②

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス：数学の歴史と構成	板書の復習
第2回 集合と写像：集合の元の個数を比べるために集合から集合への写像を考える。	配布プリントの復習
第3回 無限集合の元の個数を比べること。	配布プリントの復習
第4回 集合に関する記法等の基礎事項	配布プリントの復習
第5回 数と数直線。整数、有理数、無理数、実数	配布プリントの復習。集合と数の演習問題を解く。
第6回 移動と回転で幾何学模様を分類する。	配布プリントの復習。対称性の演習問題を解く。
第7回 回転操作と演算表。群の定義（代数学入門）	配布プリントの復習
第8回 2項演算と代数学。方程式が解けるために必要なこと。	配布プリントの復習。命題と論理に関する演習問題を解く。
第9回 一次方程式を作ったり解いたりする演習	配布プリントの復習。方程式に関する演習問題
第10回 速さと時間、距離。グラフを書く練習	配布プリントの復習
第11回 微分の定義	配布プリントの復習
第12回 数列と簡単な関数（1次関数、2次関数）の演習	配布プリントの復習。関数に関する演習問題
第13回 積分の意味	配布プリントの復習
第14回 図形の面積、立体の体積	配布プリントの復習。幾何学に関する演習問題
第15回 いろいろな幾何学。同じ図形とは何なのか考える。ユークリッド幾何、射影幾何、トポロジー	配布プリントの復習。全体レポートの提出

■ 履修上の注意

数学に関する先入観を捨てて、自由な発想で臨んでほしいです。

■ 成績評価方法・基準

テーマごとに提出する宿題の提出（40%）。全体レポート（60%）。問題プリントは後日添削して返却し、一部を授業中に解説する。レポートは、後日解答例を配布する。

■ 教科書

パワーポイントの資料を配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

経済学

(11013)

単位：2単位

対象学科：健専4年・服専1年

授業形態：講義 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

星 雅 博

■ 授業の概要

日本は、戦後奇跡的な経済成長を遂げ、経済大国となった。だが、近年、近隣諸国の経済成長に伴い相対的に日本の国際的な経済力が低下してきており、国際的、多角的な視点で経済の動きを読める能力がますます求められてきている。また、日本は世界の中で最も早く高齢化が進んでいる国でもあり、生産人口の減少による経済成長率の鈍化が懸念されている。このような、内外の経済問題に対応するための知識を一国経済と国民の日常生活との関わりを通じて、講義では、経済学の基礎知識をもとに解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・経済学を学習する上で必要な基礎知識を身につける。
- ・社会人としての専門的な知識を身につける、

①
②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス（経済学とは何か。）	経済学の考え方をまとめ次回提出する。
第2回	社会の変容と経済理論の変遷、需要と供給	需要と供給の内容を次回提出する。
第3回	消費者の選択と消費需要の決定	消費者選択の過程を次回提出する。
第4回	企業の生産行動	生産行動の過程を次回提出する。
第5回	余剰、企業の集中、市場の失敗	市場の失敗の具体例を次回提出する。
第6回	国民所得とは	国民所得の定義をまとめ次回提出する。
第7回	景気	景気の種類をまとめ次回提出する。
第8回	財政	財政のしくみを次回提出する。
第9回	金融	金融のしくみを次回提出する。
第10回	財政・金融政策	財政・金融政策の効果を次回提出する。
第11回	国際収支統計、国際通貨制度、貿易に関する基礎理論	国際通貨制度のしくみを次回提出する。
第12回	国際経済機構と地域経済連携、EPAとODA	機構と連携の社会への影響を次回提出。
第13回	戦後の国際経済制度	国際経済制度の変遷を次回提出する。
第14回	日本経済の変遷	日本経済の変遷を次回提出する。
第15回	経済史と経済学史	歴史から学ぶこれからの経済を提出。

■ 履修上の注意

常に、新聞（経済・社会）に目を通し、現実の経済動向が講義の内容のどこに関連するかを意識する。

■ 成績評価方法・基準

平常点80%（平常点は、授業への参加状況およびミニットペーパー等で総合的に判断する。）レポート20%（必ず提出すること。未提出の場合評価の対象外とする。）

ミニットペーパー、レポートについては授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

事前にプリントを配布します。

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了時に受け付けます。

社会学 I

(11014)

単位：2単位

対象学科：健専4年

授業形態：講義 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

庄 司 一 平

■ 授業の概要

各回1つのテーマについて、根本から考えなおす社会学入門。社会と個人に関する知識社会学の考え方を参考にしつつ、各トピックについて概説する。時代の変化という縦軸と、社会の多様性という横軸とを組み合わせながら、近現代におけるさまざまな社会現象の歴史的因果関係と構造的特性を考える。基礎知識の習得だけでなく、〈社会的なものの方見方〉を用いることにより、自己と現代社会に対して批判的・多面的な問いかけを行うことを目的とする。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・社会に関する幅広い教養を身につける	①②
・社会的コミュニケーション論をふまえた表現力を身につける	④
・社会的なものの方見方をふまえた思考力・判断力を身につける	⑥⑧

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 インTRODクシヨソ	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 「社会」という言葉
第2回 自己と他者の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す アイデンティと役割理論
第3回 常識の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 制度・規範・統制・階層
第4回 自殺の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 社会的自殺率、アノミーとむなしさ
第5回 経済の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 社会階層と文化資本、資本主義の起源
第6回 政治の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 政治的公正、支配、ナショナリズム
第7回 教育の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 学校化、遊びと学び、教育と近代国家
第8回 家族の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 日本のイエ制度、近代家族論
第9回 つながりの社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す コミュニケーション論、社会関係資本論
第10回 倫理の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 宗教と倫理、共同体と倫理
第11回 宗教の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 神・教典・宗教集団、近代と宗教
第12回 不安の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 恐怖と不安、不安の構造、不安への対処
第13回 対立の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 連帯と分断、イデオロギーと文化戦争
第14回 歴史の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる

■ 履修上の注意

マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用し、時事問題や身近に起こった出来事、人々との関わりに普段から注意を向けておくこと。

■ 成績評価方法・基準

①授業の理解度（ミニットペーパー） [50%]、②レポート [50%] により総合的に評価する。授業中に適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

使用しない。プリントを配布する。

■ 参考書

①ピーター・L・バーガー『社会学への招待』ちくま学芸文庫、1、200円＋税。

②ピーター・L・バーガー／トーマス・ルックマン『現実の社会的構成—知識社会学論考』新曜社、2、900円＋税。その他授業中に適宜紹介する。

■ 備考

質問等は授業終業時に受け付ける。

社会学Ⅱ

(11015)

単位：2単位

対象学科：健専4年

授業形態：講義 学期：後期

家政学部 大学共通教養科目

庄 司 一 平

■ 授業の概要

生活の「時間」、人生の「時間」を社会的に考える。一日・一年・一生という時間の単位に基礎づけられた諸文化には、「年中行事」と「人生儀礼」が必ず存在する。「暦（こよみ）」にもとづいた生活のリズムや、「年齢」とともに変化する人生の諸段階について、伝統社会（民俗社会）と現代社会（市民社会）を対比しつつ解説する。人々のさまざまな行動様式や価値観を客観的に理解し、「生きることと死ぬこと」をめぐる諸問題について、主体的に考えることができるように講義をする。

■ 授業の到達目標

- ・社会に関する幅広い教養を身につける
- ・社会的想像力をふまえた表現力を身につける
- ・社会的想像力をふまえた思考力・判断力を身につける

学位授与の方針との関連

①②

④

⑥⑧

■ 授業計画

第1回 インTRODクシヨン

自習（事前・事後学修の内容）

事前学修：次回のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

さまざまな時間論

第2回 季節と暦の社会学

事前学修：次回のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

さまざまな暦法と祝日、日の吉凶

第3回 春と夏の社会学

事前学修：次回のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

正月、春のまつり・夏のまつり

第4回 秋と冬の社会学

事前学修：次回のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

お盆、秋のまつり・冬のまつり

第5回 年齢と人生の社会学

事前学修：次回のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

年齢という制度・規範、年祝いと厄年

第6回 誕生の社会学

事前学修：次回のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

名づけ、初宮詣、初誕生

第7回 子どもと若者の社会学

事前学修：次回のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

七五三、成年式、通過儀礼と「一人前」

第8回 おとなの社会学

事前学修：次回のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

縁結び、結婚と出産、家事と育児

第9回 老いの社会学

事前学修：次回のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

老いと文化、終末期への備え、ポックリ願望

第10回 病気の社会学

事前学修：次回のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

あいまいな「病気」「健康」、病気なおし

第11回 医療の社会学

事前学修：次回のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

医療化、代替医療、生命倫理、QOL

第12回 ケアの社会学

事前学修：次回のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

キュアとケア、緩和ケア、心のケア

第13回 死の社会学

事前学修：次回のキーワードを調べる

事後学修：配布資料を見直す

さまざまな死、死の受容、看取り

■ 履修上の注意

マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用すること。身近な行事や儀礼、季節の変化や人々の時間の過ごし方に普段から注意を向けておくこと。

■ 成績評価方法・基準

①授業の理解度（ミニットペーパー） [50%]、②レポート [50%] により総合的に評価する。授業中に適宜、フィードバックを行う。

■ 教科書

使用しない。プリントを配布する。

■ 参考書

新谷尚紀・湯川洋司・波平恵美子（編）『暮らしの中の民俗学』1～3（吉川弘文館、2003年）、各2,600円＋税。その他授業中に適宜紹介する。

■ 備考

質問等は授業終業時に受け付ける。

歴史 I

(11016)

単位：2単位

対象学科：服専1年

授業形態：講義 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

栗原 伸一郎

■ 授業の概要

歴史資料は、過去にあった出来事を明らかにし、考えるための材料や根拠になるものである。本講義では、伊達政宗といった仙台ゆかりの人物に関する歴史資料をはじめ、仙台に関するさまざまな歴史資料を取り上げて、そこから明らかになる内容について説明する。その際、個々の歴史資料の特徴、作成された時代的背景や作成者の意図などに注目することで、歴史資料を読解するポイント、歴史を考える方法について講義する（単純な事項の暗記ではない）。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|-------------------------------------|------|
| ・①歴史に親しみ、さまざまな歴史資料があることを理解する。 | ①②⑥⑧ |
| ・②歴史資料の性格を考え、そこから読み取ることができる内容を理解する。 | ①②⑥⑧ |
| ・③歴史資料から歴史的事実を明らかにするための方法や留意点を理解する。 | ①②⑥⑧ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス～講義の概要～	配布プリントを再読し、授業の方向性について理解を深める。
第2回 歴史資料に親しむ①伊達政宗の手紙①	配布プリントを再読し、『仙台市史』（資料編）などの書籍で政宗の手紙について調べる。
第3回 歴史資料に親しむ②伊達政宗の編纂記録	これまでの配布プリントを通読し、一次史料と編纂史料について整理する。
第4回 歴史資料に親しむ③地図	配布プリントを再読し、古地図に描かれた場所に足を運ぶ。
第5回 歴史資料に親しむ④新聞	配布プリントを再読し、過去の新聞について理解を深める。
第6回 歴史資料に親しむ⑤実物を見る	見学時、印象に残った歴史資料についてまとめ、提出する。
第7回 歴史資料を読み解く①公文書	宮城県公文書館に出向き、実際に公文書について調べる。
第8回 歴史資料を読み解く②石碑	配布プリントを再読し、身の周りに残る石碑について調べる。
第9回 歴史資料を読み解く③伊達政宗の手紙②	これまでの配布プリントを通読し、読解のポイントを整理する。
第10回 歴史資料を読み解く④日記	配布プリントを再読し、紹介した歴史資料の時代的な特徴について理解を深める。
第11回 歴史資料と人物像①伊達政宗と伝記	これまでの配布プリントを通読し、人物の伝記に目を通す。
第12回 歴史資料と人物像②伊達政宗と位	これまでの配布プリントを通読し、紹介した歴史資料の背景について理解を深める。
第13回 歴史資料と人物像③伊達政宗と祭	これまでの配布プリントを通読し、近代における政宗の捉え方について理解を深める。
第14回 歴史資料と人物像④伊達政宗と現代	これまでの配布プリントを通読し、インターネットで政宗がどのように取り上げられているのか確認する。
第15回 補論と総括～歴史資料を考える～	これまでの配布プリントを通読し、歴史資料を利用する際の留意点を考えてみる。
第16回 試験	試験問題は事前に発表するので、準備しておくこと。

■ 履修上の注意

歴史Ⅱを受講する場合は、この講義を受講することが望ましい。地域文化論は、この講義を理解する上で参考になる。なお、講義の進展によっては、内容を一部変更する場合がある。

■ 成績評価方法・基準

平常点（毎回記入するミニットペーパーの内容で受講の姿勢や理解度を判断する）30%

小レポート（博物館の展示見学に関するもの）20%

期末試験（論述形式、課題は事前に発表する）50%

ミニットペーパーや小レポートで示された有用な意見や質問、模範的な記入例などについては、適宜講義で取り上げて解説する。

■ 教科書

毎回プリントを配布する。

■ 参考書

講義中に紹介する。

■ 備考

質問等は授業終了時に受け付ける。授業1回分として、博物館の展示見学を予定している。

歴史Ⅱ

(11017)

単位：2単位

対象学科：服専1年

授業形態：講義 学期：後期

家政学部 大学共通教養科目

栗原 伸一郎

■ 授業の概要

歴史的事実の捉え方や評価は固定されているものではなく、同じ出来事や人物であっても、多様な叙述が可能であり、様々な歴史イメージを描くことができる。本講義では、日本における変革期である幕末維新期に注目して、それが明治時代から現代までどのように認識され、語られてきたのかについて説明する。その際、人物像の時代的な変化について取り上げ、地域の視点でも歴史を捉えることで、多様な歴史イメージ、歴史を考える方法について講義する（単純な事項の暗記ではない）。

■ 授業の到達目標

- ・①歴史事象は多様な解釈ができることを理解する。
- ・②歴史像が形成される過程や背景を理解する。
- ・③歴史事象を多角的に捉え、考える能力を身につける。

学位授与の方針との関連

①②⑥⑧

①②⑥⑧

①③⑥⑧

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス～講義の内容～	配布プリントを再読し、授業の方向性について理解を深める。
第2回 幕末維新の歴史イメージ①時代劇	配布プリントを再読し、幕末維新に関する時代劇を観賞する。
第3回 幕末維新の歴史イメージ②教科書(1)	配布プリントを再読し、高校の教科書や参考書などに目を通す。
第4回 幕末維新の歴史イメージ③教科書(2)	配布プリントを再読し、高校の教科書や参考書などに目を通す。
第5回 幕末維新の歴史イメージ④一般書	配布プリントを再読し、現在どのような一般書が発行されているか確認する。
第6回 歴史像の形成①明治時代	配布プリントを再読し、明治政府の方針について理解を深める。
第7回 歴史像の形成②昭和戦前戦後	配布プリントを再読し、歴史観の変遷についてまとめる。
第8回 歴史像の形成③近代の東北地方	配布プリントを再読し、地域の歴史書に目を通す。
第9回 幕末維新の人物像①白虎隊	配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、白虎隊がどのように取り上げられているのか調べる。
第10回 幕末維新の人物像②新選組	配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、新選組がどのように取り上げられているのか調べる。
第11回 幕末維新の人物像③坂本龍馬	配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、坂本龍馬がどのように取り上げられているのか調べる。
第12回 東北地方と幕末維新①幕末の政争と仙台藩	配布プリントを再読し、『仙台市史』などの書籍で、仙台藩について理解を深める。
第13回 東北地方と幕末維新②戊辰戦争	配布プリントを再読し、書籍などで戊辰戦争に至る大まかな流れを確認する。
第14回 東北地方と幕末維新③戦場の人々	配布プリントを再読し、戦争の実態などについて理解を深める。
第15回 補論と総括～さまざまな歴史像～	初回からの配布プリントを再読し、歴史像が形成された背景を再確認し、歴史を捉える際の留意点について考えてみる。
第16回 試験	試験問題は事前に発表するので、準備しておくこと。

■ 履修上の注意

メディア等で幕末維新期がどのように取り上げられているのか関心を持ち、高校で日本史を学んでいる場合は教科書を再読

すること。受講する場合は、歴史Ⅰを受講することが望ましい。また、地域文化論は、この講義を理解する上で参考になる。なお、講義の進展によっては、内容を一部変更する場合がある。

■ 成績評価方法・基準

平常点（毎回記入するミニットペーパーの内容で受講の姿勢や理解度を判断する）30%

期末試験（論述形式、課題は事前に発表する）70%

ミニットペーパーで示された有用な意見や質問、模範的な記入例などについては、適宜講義で取り上げて解説する。

■ 教科書

毎回プリントを配布する。

■ 参考書

『仙台市史』（通史編）。その他は講義中に紹介する。

■ 備考

質問等は授業終了時に受け付ける。

日本国憲法

(11018)

単位：2単位

対象学科：健専1年・服専1年

授業形態：講義 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

横 田 尚 昌

■ 授業の概要

憲法は、国家の根本的な組織と作用のあり方を定めた法であり、国民ではなく、国家権力を拘束するルールである。それは、他の一切の国内法に優位する最高の効力を有する法であり、日本国憲法とは我が国における統治の基本ルールを定めたものである。この講義では、その日本国憲法が規定している統治機構の個々の機関の権限や運営方法について説明したうえで、この憲法に規定されている国民の権利について判例の事案と裁判所の判断をみながら解説していきたい。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・日本国憲法の基礎的な知識を修得し、その全体像を説明することができる。	①
・憲法上の権利の各分野において、いかなる問題があるかを知り、それに対する判決や学説の考え方が理解できる。	①②
・憲法に関する報道に接したとき、その問題のかなめとなる憲法上の論点が解説されるのを理解できる。	②

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 概説（立憲主義、実質的意味の憲法、形式的意味の憲法、近代的意味の憲法、憲法の法源および権力分立について解説する。）	近代立憲主義の基本原理が日本国憲法のなかにもどのように生きているのかを確認する。
第2回 天皇制と平和主義（国民主権、象徴天皇制、皇室典範、国事行為、公的行為、平和的生存権および戦争放棄について解説する。）	日本国憲法における天皇制の内容と平和主義の意義について確認する（歴史的観点からの天皇の権限、国際的観点からの平和的生存権、戦争放棄などについて把握しておく。）
第3回 選挙制度（多数代表制、少数代表制、比例代表制、並立制、政党国家および党籍変更議員の失職制度について解説する。）	選挙制度や政党制度は、国民・市民と国の政治をつなぐ重要な制度であるが、それには様々な種類があることを認識しておく。そして、現行の選挙制度の問題点や政党の在り方について把握しておく。
第4回 国会（国会中心立法の原則、国会単独立法の原則、立法過程、会期不継続の原則、二院制およびねじれ国会について解説する。）	国家とは、「国権の最高機関」とであると同時に「唯一の立法機関」でもあることについて認識するとともに、その憲法上の地位・組織および権限ならびに議員の地位や立法過程について把握する。
第5回 内閣（議院内閣制、均衡本質説、責任本質説、国民内閣制、内閣総理大臣および衆議院の解散について解説する。）	政府の形態のいくつかの種類があること、日本国憲法は議院内閣制を採用していることを認識し、内閣の組織・権能、内閣総理大臣の地位などについて把握しておく。
第6回 裁判所（警察予備隊違憲訴訟、司法権、法律上の争訟、最高裁判所、下級裁判所および裁判員裁判について解説する。）	裁判所の組織と権限、裁判員制度などを把握し、人権保障のあり方と密接に関わっている違憲審査制の理論と実際について理解する。
第7回 地方自治（地方自治の本旨、地方分権、制度的保障論、地方公共団体、道州制、上乗せ条例および住民投票条例について解説する。）	地方自治の本旨の意味をしっかりと理解する。地方自治体の組織と権限、国と自治体の関係、法律と条例の関係などについて把握する。
第8回 人権とは（1789年人権宣言、ワイマール憲法、第三世代の人権、人権の享有主体、法人の人権、外国人の人権および未成年者の人権について解説する。）	そもそも「人権」とはいかなる概念なのかについて確認したうえで、日本国憲法における人権保障のありようを理解する。
第9回 人権の適用範囲（私人間効力、社会的権力、特別の法律関係、公務員の政治的活動および人権の分類について解説する。）	憲法で保障されている人権は、どのような場合にどのような制限を受けるのか、またその根拠は何かを把握する
第10回 幸福追求権と法の下での平等（幸福追求権、人格的利益説、一般的自由説、プライバシーの権利、自己決定権および合理的区別の概念について解説する。）	幸福追求権と平等権にかかわる裁判事例の概要を把握することを通じて、その保障の実態について把握する。
第11回 内心の自由（思想・良心の自由、信教の自由、政教分離原則、目的効果基準、学問の自由および大学の自治について解説する。）	思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由などの精神的自由権の内容について把握する
第12回 表現の自由（集会の自由、結社の自由、表現の自由、知る権利、検閲の禁止および名誉毀損〔きそん〕について解説する。）	表現の自由、集会・結社の自由などの精神的自由権の内容について把握する。

第13回	経済的自由権（職業選択の自由、許可制、適正配置規制、規制目的二分論、財産権の保障および国家からの正当な補償の在り方について解説する。）	職業選択の自由と財産権の保障のありようをみることを通して日本国憲法の下での経済的自由権の保障とその制約について把握する。
第14回	生存権（生存権、プログラム規定説、併給禁止規定、堀木訴訟、教育権の所在、旭川学力テスト事件および環境権について解説する。）	福祉国家理念を採用する日本国憲法の下で、社会権（生存権および教育権）がいかように保障されているのか、またその限界について把握する。
第15回	参政権、国務請求権（選挙権、被選挙権、在宅投票制度、議員定数不均衡、事情判決の法理および国務請求権について解説する。）	参政権とは何か、国務請求権とは何か（選挙権・被選挙権、請願権、裁判を受ける権利の内容）について把握する。

■ 履修上の注意

身近なところで、憲法にかかわる問題が日々生じていることを念頭に授業を進めますので、みなさんもニュースを継続的に見るように心がけてください。5回を超えて欠席（6回以上欠席）した場合は、理由のいかんを問わず単位修得ができないので注意すること。

■ 成績評価方法・基準

平常点40%（平常点は、授業時間中の勉強姿勢や小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート60%（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。

■ 教科書

特になし（毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する。）

■ 参考書

授業中に指示する。

■ 備考

オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の14:00過ぎから4校時開始時刻前までの間とする。

法学概説

(11019)

単位：2単位

対象学科：服専1年

授業形態：講義 学期：後期

家政学部 大学共通教養科目

横 田 尚 昌

■ 授業の概要

この講義は、1年生を対象として様々な法分野のごく基本的な知識を提供することを目指すものです。我が国は法治国家といわれますが、実際にいかなる法令がどのように私たちをそして社会を規律しているのかについて詳しく知ることは困難です。ただ、そうした中であっても、生活していくうえで、ちょっと知っておくと役立つ法律の知識というものがあります。そうしたことを、この講義では毎回ごとに最初に事例を掲げて、みなさんと問題意識を共有しながら解説していきます。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--|----|
| ・法学一般の考え方が身についている。 | ① |
| ・社会問題を法学という視点から考えることができる。 | ①② |
| ・さまざまな紛争をルールによって解決しようとする際に生ずる問題点について説明できる。 | ② |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション	
第2回 みんなの法とわたしの法?	公法と私法の違いを把握したうえで、公法、私法それぞれの基本理念を整理し理解する。
第3回 どうして約束は守らないといけないの?	自分の意思と相手方の信頼との関係を念頭におきつつ「約束を守らなければならない理由」を議論する理由を考える。
第4回 電車が遅れても切符の料金は戻ってこないの?	附合契約とは何かを把握したうえで、約款による契約を締結する際の注意点を整理する。
第5回 どうして事故を起こしたら責任を負わされるの?	過失責任とは何かについて把握したうえで、無過失責任を設けるべき理由について考える。
第6回 子どものしつけと虐待はどこが違うの?	「しつけ」と「児童虐待」の違いを把握し、児童虐待があった場合の法的措置について理解する。
第7回 校長先生の決定には従わないといけないの?	日本国憲法が保障する信教の自由の意義について理解する。
第8回 8. マンガやアニメを規制してもいいの?	青少年条例と憲法が保障する言論の自由との関係性を考える。
第9回 どうして悪いことをした人に権利があるの?	被疑者や被告人に黙秘権が認められる理由について説明できるようにする。
第10回 ギャンブルってやっちゃいけないの?	賭博(とばく)のような被害者なき犯罪を処罰する理由を整理する。
第11回 仕事ができないとクビにされるの?	解雇権濫用法理が問題となる場面を考えながら解雇規制について整理し理解する。
第12回 手で掴めないものにも権利があるの?	著作権の意義を理解し、私的複製に対する法的規制の在り方を把握する。
第13回 損害保険と生命保険のちがって何?	わずかな保険料(掛け金)を支払うだけで、保険事故を被ったときに多額の保険金を受け取ることが何故できるのかを整理し、保険の種類とそれぞれのしくみについて理解しておく
第14回 自動車保険のしくみ	自賠責保険と任意保険の関係と、任意保険には様々な保障が用意されていることを把握する。
第15回 株式会社って何?	株式会社の法的構造の基本となるところ、土台となることを把握する。

■ 履修上の注意

私たちの生活のどのようなところで、どのような法規制がどのような効果をもたらしているかを、日頃から気を付けてみておいてください。欠席数が明らかに多いと認められる者には単位を与えない。

■ 成績評価方法・基準

平常点40%（平常点は、授業時間中の勉強姿勢や小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート60%（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。

■ 教科書

特になし（毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する。）

■ 参考書

授業中に指示する。

■ 備考

オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の14:00過ぎから4校時開始時刻前までの間とする。

心理学 I

(11020)

単位：2単位

対象学科：健専1年・服専1年

授業形態：講義 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

植松公威

■ 授業の概要

心理学では経験的事実の観察や実験によって仮説の検証を行い、心のメカニズムを明らかにしようとしている。講義の前半では心理学が目指している目標や研究の特色、とりわけ条件操作的な仮説検証プロセスの意義について、実際の研究事例を紹介しながら解説する。後半では現代の心理学の背景として、行動主義心理学や社会的学習理論、精神分析学などを取り上げ、それぞれの理論を説明する。また、記憶の実験を体験することを通して記憶のメカニズムについて考える。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--|----|
| ・1. 条件操作的な実験による仮説検証プロセスがこころの理解にとって不可欠であることを説明できるようになる。 | ①② |
| ・2. 行動主義心理学、社会的学習理論、精神分析学の各理論の人物名とキーワードを理解する。 | ①② |
| ・3. 記憶のメカニズムについて感覚的記憶、短期記憶、長期記憶の関係を理解し、説明できるようになる。 | ①② |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス（教授内容と教育目標）	シラバスを熟読すること。
第2回 条件操作的な実験の重要性について－「利口な馬ハンス」の話など－	資料を熟読し、要点をまとめること。
第3回 心理学の目標と研究のプロセス	資料やノートを復習し、要点をまとめること。
第4回 説得における「一面（片面）提示」と「二面（両面）提示」の効果－	実験の結果を理解し、考察ついてまとめること。
第5回 「心理学を勉強すれば人の心がわかるようになる」という考え方について	「人の心などわかるはずがない」という文章を読み、心理学についてよく考えること。
第6回 現代の心理学の背景① 行動主義心理学（ワトソンの理論）	資料とノートを復習し、要点をまとめること。
第7回 現代の心理学の背景② 行動主義心理学（スキナーの理論）	資料とノートを復習し、要点をまとめること。
第8回 現代の心理学の背景③ 社会的学習理論（バンデュラの理論）	資料とノートを復習し、要点をまとめること。
第9回 現代の心理学の背景④ 精神分析（フロイトの理論）	資料とノートを復習し、要点をまとめること。
第10回 精神分析における自我防衛のメカニズム	資料を熟読し、専門用語を理解すること。
第11回 自我防衛のメカニズムに関する練習問題と解説	資料を熟読し、練習問題に取り組むこと。
第12回 まとめの小テスト	あらかじめ復習してテストに臨むこと。
第13回 記憶の実験－系列位置曲線と系列位置効果－	実験結果の考察を考え、レポートすること。
第14回 記憶のしくみ－感覚的記憶・短期記憶・長期記憶－	ノートを見直し、専門用語を理解すること。
第15回 エビングハウスの忘却曲線について	資料とノートを見直し、感想をまとめること。
第16回 試験	試験対策の学習をすること。

■ 履修上の注意

毎回、ミニットペーパーに感想やわかったこと、わからなかったことなどを書いて提出すること。

■ 成績評価方法・基準

レポート課題20％、試験80％

レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。

各回の授業でのミニットペーパーについては、次の授業内でフィードバックを行う予定である。

授業内で行う小テストについてもフィードバックを行う。

■ 教科書

授業の中で資料（プリント）を配布する。

■ 参考書

授業の中で適宜、紹介する。

■ 備考

質問等については、ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ、説明します。また、授業終了時あるいはオフィス

アワーを利用して、質疑応答をすることも可能です。

心理学Ⅱ

(11021)

単位：2単位

対象学科：健専1年・服専1年

授業形態：講義 学期：後期

家政学部 大学共通教養科目

植松公威

■ 授業の概要

性格はどのようにして測定されるか、性格は変えることができるか、というテーマについて講義する。とりわけ、性格検査（心理テスト）の種類とそれぞれの長所、短所について実習をとりいれながら講義する。また、性格検査を使わずに他者の性格を推測するときに注意すべきことや陥りやすい誤った判断について解説する。性格を変えるための認知療法や交流分析といった心理療法についても実習形式で学べるようにする。講義を通して心理学には性格に関する唯一絶対の理論はなく、様々な理論や方法があることを学べるようにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--|----|
| ・質問紙法、作業検査法、投影法それぞれの長所と短所を理解できるようになる。 | ①② |
| ・認知療法の「7つのコラム法」が気分(感情)の改善に効果があるのはなぜか、説明できるようになる。 | ①② |
| ・交流分析における「エゴグラム」を作成し、その意味について理解し、自己の性格をどのように改善していけばよいか、分析できるようになる。 | ①② |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス（教授内容と教育目標）	シラバスを熟読すること。
第2回 質問紙法の性格検査（YG性格検査）の実施方法	資料とノートを復習し、実施方法を理解すること。
第3回 質問紙法の性格検査（YG性格検査）の判定方法（尺度判定）	資料やノートを復習し、判定方法を理解すること。
第4回 質問紙法の性格検査（YG性格検査）の判定方法（類型判定）と問題点	資料などを復習し、判定方法や要点を理解すること。
第5回 作業検査法（内田クレペリン検査）の特色と問題点	実施方法、判定方法、問題点を理解すること。
第6回 投影法の種類－ロールシャッハ・テストを中心に－	ロールシャッハ・テストの要点をまとめること。
第7回 集団式のロールシャッハ・テストの判定方法と問題点	資料を見直し、判定方法と問題点を理解すること。
第8回 他者の性格を推論するときに注意すべきこと－認知のゆがみ－	資料とノートを復習し、専門用語を理解する。
第9回 性格は変わるかという問題について考える	資料をよく読み、要点をレポートすること。
第10回 認知療法の基本的な考え方（人間観）	資料とノートを復習し、要点をまとめること。
第11回 認知療法の7つのコラム法の作成方法について	資料を復習し、実際にコラムを作成すること。
第12回 交流分析における基本的な考え方（人間観）－5つの自我状態について－	資料とノートを見直し、要点を理解すること。
第13回 交流分析におけるエゴグラムの作成	資料やノートを見直し、実際に作成すること。
第14回 交流分析における基本的な考え方（人間観）－人間関係について－	資料やノートを見直し、要点をまとめること。
第15回 全体のまとめ	わかったこと、わからなかったことを整理しておくこと。
第16回 試験	対策の学習をすること。

■ 履修上の注意

毎回、ミニットペーパーに感想、わかったこと、わからなかったことなどを書いて提出すること。

■ 成績評価方法・基準

レポート課題20%、試験80%。

レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。

各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業でフィードバックを行う予定である。

■ 教科書

授業の中で資料（プリント）を配布する。

■ 参考書

授業の中で適宜、紹介する。

■ 備考

質問等については、ミニットペーパーを通して次の授業で取り上げ、説明します。また、授業終了時、あるいはオフィスアワーを利用して質疑応答することも可能です。

生活文化論

(11022)

単位：2単位

対象学科：服専1年

授業形態：講義 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

今 林 直 樹

■ 授業の概要

生活文化について、言語、衣食住、芸能、祭礼に焦点をあて、主として文献資料を用いて具体的に理解させるとともに、歴史的背景や社会的背景を踏まえて学ばせる。具体的には、伝統的な生活文化が現代に生きる沖縄を対象として取り上げる。

また、課題（授業時提出）をとおして沖縄の生活文化についての考察や感想などを述べさせる。課題については、翌週の授業で解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・沖縄の生活文化について理解できる。	①②
・生活文化の歴史的、社会的背景について理解できる。	①②
・今後の生活文化の課題について考察できるようになる。	①②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 生活文化とは何か・沖縄概説	生活文化と沖縄を調べる
第2回 沖縄の言葉(1) 生活言語としての「うちなあぐち」	沖縄の言葉の概要を整理する
第3回 沖縄の言葉(2) 「うちなあぐち」は言語か方言か	沖縄の言葉の社会的意味を整理する
第4回 沖縄の言葉(3) 「うちなあぐち」の保存と継承	沖縄の言葉の現在と将来を整理する
第5回 沖縄の「衣」(1) 紅型	紅型について調べる
第6回 沖縄の「衣」(2) ミンサー織	ミンサー織について調べる
第7回 沖縄の「食」(1) 沖縄そば	沖縄そばについて調べる
第8回 沖縄の「食」(2) チャンプルー	チャンプルーについて調べる
第9回 沖縄の「住」(1) 赤瓦の家	沖縄の住景観について調べる
第10回 沖縄の「住」(2) 風水	沖縄の住思想について調べる
第11回 沖縄の芸能(1) 古典芸能	琉球古典芸能について調べる
第12回 沖縄の芸能(2) 八重山芸能	八重山芸能について調べる
第13回 沖縄の祭(1) 信仰との関係―御嶽・ニライカナイ―	沖縄の信仰について調べる
第14回 沖縄の祭(2) 豊年祭	沖縄の豊年祭について調べる
第15回 沖縄の祭(3) 種取祭	沖縄の種取祭について調べる
第16回 期末試験	

■ 履修上の注意

必要のない私語は慎むこと。

■ 成績評価方法・基準

期末考査80%、課題（授業時提出）20%によって評価する。課題等については翌週の授業の際にコメントする。

■ 教科書

授業前に資料を配布する

■ 参考書

[沖縄の歴史・政治・社会] [今林直樹] [大学教育出版] [2, 200円]

■ 備考

質問等については授業終了後に受け付ける。

英語 I

(11023)

単位：2単位

対象学科：健専1年・服専1年

授業形態：講義 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

平出 大

■ 授業の概要

イギリス文化を扱ったテキストを用い、その背景を解説しながら、英語でコミュニケーションを行うための基礎的な英語の技能と語彙を養う。各テーマをテキストに沿って進め、基本的な文法事項をおさえながら解説し、英文読解と英作文の技能を身に付けさせる。簡易な英文であれば理解することができ、身近な話題であれば自分の意見を表現できるように英語力の向上を図りながら、異文化への理解を深めさせる。英語 I ではLesson1～14を取り上げる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---|----|
| ・英語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。 | ①② |
| ・世界の食文化を学びながら異文化理解を深め、社会人としての知識と教養を身につける。 | ② |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	前期の学習内容について確認する。
第2回 Public houses	パブについて読み、ノートをまとめる。
第3回 Tip the waiter	ウェイターへのチップについて読み、ノートをまとめる。
第4回 Bring-a-bottle party	ボトルパーティーについて読み、ノートをまとめる。
第5回 Small change	小銭について読み、ノートをまとめる。
第6回 Counting sheep	羊の計算について読み、ノートをまとめる。
第7回 Lost and found	遺失物取扱所について読み、ノートをまとめる。
第8回 Dear or deer	親愛なるまたは鹿について読み、ノートをまとめる。
第9回 Tennis	テニスについて読み、ノートをまとめる。
第10回 Washing the car	洗車について読み、ノートをまとめる。
第11回 Pedestrian crossings	横断歩道について読み、ノートをまとめる。
第12回 April Fools' Day	エイプリルフールについて読み、ノートをまとめる。
第13回 Under her thumb	彼女の言いなりについて読み、ノートをまとめる。
第14回 French steak	フランスのステーキについて読み、ノートをまとめる。
第15回 まとめ	ノートや小テストを見て前期の学習内容を振り返る。
第16回 期末試験	総復習をして試験に臨む。

■ 履修上の注意

テキストとともに必ず辞書（スマホ携帯は不可）、ノート、ファイルを持参して授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点40%（授業への参加状況および毎時の小テストの結果等で総合的に判断する。） 学期末試験60%
毎時の小テストおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。

■ 教科書

[ENGLISH CUSTOMS WITH A SMILE] [James V. Le Pavoux著] [成美堂] [1, 600円]

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については授業終了時に受け付ける。

英語Ⅱ

(11024)

単位：2単位

対象学科：健専1年・服専1年

授業形態：講義 学期：後期

家政学部 大学共通教養科目

平 出 大

■ 授業の概要

イギリス文化を扱ったテキストを用い、その歴史的・文化的背景を解説しながら、英語でコミュニケーションを行うための基礎的な英語の技能と語彙を養う。各テーマをテキストに沿って進め、基本的な文法事項をおさえながら解説し、英文読解と英作文の技能を身につけさせる。簡易な英文であれば理解することができ、身近な話題であれば自分の意見を表現できるように英語力の向上を図りながら、異文化への理解を深めさせる。英語ⅡではLesson15～24、イギリスの文化的資料を取り上げる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---|----|
| ・英語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。 | ①② |
| ・世界の食文化を学びながら異文化理解を深め、社会人としての知識と教養を身につける。 | ② |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	前期の学習内容について確認する。
第2回 House decorating	家の装飾について理解し、覚える。
第3回 Driving test	運転免許について読み、ノートをまとめる。
第4回 Football pools	サッカーくじについて読み、ノートをまとめる。
第5回 Guy Fawkes Day	焚き火の夜について読み、ノートをまとめる。
第6回 Keep up with the Joneses	隣人と張り合うについて読み、ノートをまとめる。
第7回 Waxworks	蝋人形について読み、ノートをまとめる。
第8回 Christmas cards	クリスマスカードについて読み、ノートをまとめる。
第9回 Christmas dinner	クリスマスディナーについて読み、ノートをまとめる。
第10回 English plumbing	配管について読み、ノートをまとめる。
第11回 Tea	お茶について読み、ノートをまとめる。
第12回 イギリス文化の考察①	イギリス文化の考察①について読み、ノートをまとめる。
第13回 イギリス文化の考察②	イギリス文化の考察②について読み、ノートをまとめる。
第14回 イギリス文化の考察③	イギリス文化の考察③について読み、ノートをまとめる。
第15回 まとめ	ノートや小テストを見て前期の学習内容を振り返る。
第16回 期末試験	総復習をして試験に臨む。

■ 履修上の注意

テキストとともに必ず辞書（スマホ携帯は不可）、ノート、ファイルを持参して授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点40%（授業への参加状況および毎時の小テストの結果等で総合的に判断する。） 学期末試験60%
毎時の小テストおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。

■ 教科書

[ENGLISH CUSTOMS WITH A SMILE] [James V. Le Pavoux著] [成美堂] [1, 600円]

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については授業終了時に受け付ける。

英会話 I

(11025)

単位：1 単位

対象学科：健専1年・服専1年

授業形態：演習 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

上之原 博 子

■ 授業の概要

中学、高校で学んだ英語を基礎にして、簡単な挨拶、自己紹介等ができるように繰り返し指導する。テキストを用い、読む、書く、聞く、話す能力を身につけ、英語で楽しくコミュニケーションがとれるようにします。グループワークとして、ロールプレイ、さらには実際に英語の会話文を作り、英語を楽しみながら学ぶことを目指す。また、授業を通して異文化を理解するよう指導します。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|-----------------------------------|----|
| ・ 1. 基礎的な会話で他者とのコミュニケーションがはかれる。 | ①④ |
| ・ 2. 自分自身に関する事柄について説明できる。 | ⑥ |
| ・ 3. グループ活動を通して、責任感、自己管理能力を身につける。 | ⑥⑦ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス。挨拶と自己紹介。自分のライフスタイルを話す。	自分の好きな事を考えてくる。
第2回 好きなスポーツや遊びについて話す。	自分の余暇の過ごし方を考えてくる。
第3回 相手に依頼の仕方と答え方を学ぶ。	人とうまく付き合うために必要なことを考えてくる。
第4回 自分の趣味や興味のあることを話す。	自分が興味のあることを考えてくる。
第5回 自分に起きたことを話す。	これまで印象に残ったことを考えてくる。
第6回 私達の大事なお祝いについて話す。	家族でお祝いすることを考えてくる。
第7回 1～6の復習。	1～6の復習。
第8回 食べ物や飲み物について英語で説明する。	好きな食べ物、料理を考えてくる。
第9回 身の回りのルールについて話す。	暮らしに必要な規則を考えてくる。
第10回 行ってみたい場所や国について話す。	挑戦したいことを考えてくる。
第11回 ケガや病気を英語で説明する。	自分の体調を考えてみる。
第12回 いろいろな事を比べてみよう。	自分の性格を考えてみる。
第13回 現代社会について話す。	身の回りにある電子機器を考えてくる。
第14回 7～13の復習。	7～13の復習。
第15回 これまで学んだことを使い、自分の事をより詳しく表現する。	学習したことを参考に自己紹介文を書いてくる。

■ 履修上の注意

授業には積極的に参加し英語を話す事と、クラスメイトや講師とのコミュニケーションには積極的な態度で取り組むこと。授業ごとの復習プリントは、必ず次の授業で提出する事。課題文は暗記する事。

■ 成績評価方法・基準

授業態度30%（授業への参加態度で判断する。）毎回の課題提出40%、学期末の試験（英語の会話文の発表）30%で評価します。課題は回収し、後日添削して返却します。

■ 教科書

書名：[Breakthrough Plus 2(Level 2) Student Book] 著書：[Miles Craven] 出版社：[Macmillan Language House c][2, 700円(税別)]

■ 参考書

特になし

■ 備考

質問等については、授業終了時に受付けます。

英会話Ⅱ

(11026)

単位：1単位

対象学科：健専1年・服専1年

授業形態：演習 学期：後期

家政学部 大学共通教養科目

上之原 博 子

■ 授業の概要

前期で身につけた英語力を使って、外国人に簡単な英語で対応する基本的な表現や、日本文化の説明の仕方を学びます。また、演習を通して、実際に英語が使えるようになることを目指します。身近なトピック、自己紹介や趣味、自分のふるさと等は簡単な英語で話せるように指導します。授業は学生の学習進捗状況により進めていきます。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--|------|
| ・ 1. 他者とのコミュニケーション能力を身につける。 | ①④⑧ |
| ・ 2. 様々な分野で活躍するために自分の意見をまとめて、話せるようにする。 | ①②⑤⑥ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 交通案内：様々な交通機関について外国人への説明の仕方を学ぶ。	日本の交通機関を調べる。
第2回 日本の旅館について説明する。（入浴の仕方等）	旅館の特徴を考える。
第3回 観光地について学ぶ。	自分の身近な観光地を調べる。好きな場所を考えてみる。
第4回 街歩きのための道案内ができるようにする。	お勧めの場所を考える。
第5回 日本の年中行事を紹介する。自分のふるさとの行事を紹介する。	紹介したい年中行事を調べる。ふるさとの行事を調べる。
第6回 日本食の紹介①代表的な日本料理。自分の好きな日本食を紹介する。	代表的な日本料理を調べる。好きな日本食を考える。
第7回 日本食の紹介②気軽に楽しめる日本料理。郷土料理を紹介する。	気軽に楽しめる日本食を調べる。好きな郷土料理を考える。
第8回 国内旅行をアレンジする。	国内旅行をアレンジしてみる。
第9回 英語の絵本に親しむ。	興味のある絵本を調べる。
第10回 日本の伝統文化やポップカルチャーを紹介する。	紹介したい行事やポップカルチャーを調べる。
第11回 自分の日本文化体験を紹介する。スピーチ：私の日本文化体験	体験した日本文化について調べる。
第12回 日本のお土産を紹介する。	日本のお土産を考える。日本の良いところを考える。
第13回 ケガや病気の対応について。	病名や気分を表す単語を調べる。
第14回 これまで学んだことを、オリジナルのテキストにしてみる。	必要な単語、フレーズなどをまとめる。
第15回 学期を振り返る。	

■ 履修上の注意

積極的に授業に参加することを求める。

■ 成績評価方法・基準

平常点30%（授業への参加態度で判断する。）課題の提出30% 学期末試験40% 調べてきた原稿は回収し、後日添削して返却する。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

特になし

■ 備考

質問等については、授業終了時に受け付けます。

仏語 I

(11027)

単位：1 単位

対象学科：健専1 年

授業形態：演習 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

村 山 茂

■ 授業の概要

発音の基礎から始め、簡単なあいさつや自己紹介はもちろん、初級文法に則った読み、書き、聞き、話す能力が身につくよう指導する。さらにフランスにまつわる様々な情報を盛り込み、多方面からのフランス語理解に努める。外国語を学ぶということは、単に異国の言語や文化に触れるだけでなく、自国の言語と文化を見直し、自身の言語感覚と教養をみがくことになるのだということを理解してもらおう。授業中の積極的挙手や練習問題の正答率はポイントとして成績に反映する。受講生全体のレベルに合わせて進行する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・初級フランス語入門レベルの文を理解し、表現できるようになる。

①②⑥⑧

・フランスの文化に触れ、国際的視野が身につく。

①②⑥⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 授業方針。アルファベ。

アルファベの復習が必要。

第2回 アルファベ復習。発音の規則1。

P78の復習が必要。

第3回 発音の規則2。

P79の復習が必要。

第4回 発音の規則小テスト。フランスについて。数字1。

事前に小テスト準備、数字の復習が必要。

第5回 数字2。簡単なあいさつの表現。

P5の復習が必要。

第6回 バリに着いた!1. 解説と会話文。

P8の復習が必要。

第7回 バリに着いた!2. 文法。

P9の復習が必要。

第8回 バリに着いた!3. 練習問題。

P10～P11の予習、復習が必要。

第9回 ホテルの予約は1. 解説と会話文。

P14の復習が必要。

第10回 ホテルの予約は2. 文法。

P15の復習が必要。

第11回 ホテルの予約は3. 練習問題。

P16～P17の予習、復習が必要。

第12回 アロー、アロー1. 解説と会話文。

P20の復習が必要。

第13回 アロー、アロー2. 文法。

P21の復習が必要。

第14回 アロー、アロー3. 練習問題。

P22～P23の予習、復習が必要。

第15回 まとめの講義

事後に最終試験のための準備が必要。

第16回 試験

■ 履修上の注意

私語を慎み、積極的に授業に参加すること。辞書については初回、教室にて指示する。

■ 成績評価方法・基準

最終回に行う確認のための筆記試験（70～80％）に20～30％の平常点（積極性などのポイント）を加えて算出し、評価する。試験答案は、添削して後日返却する。

■ 教科書

〔新はじめてのバリー映像付きー〕〔大津、瀧川、藤井著〕〔朝日出版社〕〔2, 500円〕

■ 参考書

特にないが、必要に応じてプリントを配布する。

■ 備考

教科書が大幅に改訂されたので、中古で購入しないこと。

質問等については、授業終了時または電子メールにて受け付ける。

中国語

(11028)

単位：1 単位

対象学科：健専1年

授業形態：演習 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

清水 浩一郎

■ 授業の概要

この授業の目標は、中国語でコミュニケーションを取る際に必要とされる基礎的な事項を身につけることにあります。中国語には日本語にない発音や発声の抑揚があります。まずは発声練習をおこない、これらを正しく身につけましょう。次に、会話の練習や練習問題に取り組み、これらを通じて自己紹介や挨拶、簡単な日常会話などを習得しましょう。また、中国の文化や習慣、旅行で役立つ情報なども、随時紹介いたします。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・ 正確な中国語の発音が身につく	①
・ 中国語で簡単な会話ができるようになる	①
・ 中国の文化や習俗についての知識が身につく	②

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス：中国や中国語の基礎知識	教科書を購入して目を通す。
第2回 発音編1回目：声調と単母音・複合母音の発音練習	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第3回 発音編2回目：子音（声母）の発音練習	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第4回 発音編3回目：要注意な発音と声調変化の練習	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第5回 発音編4回目：発音のおさらい	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第6回 第一課：数を含んだいくつかの表現 発声練習・練習問題	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第7回 第二課：いろいろなあいさつ① 発声練習	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第8回 第二課：いろいろなあいさつ② 発声練習・練習問題	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第9回 第三課：“お目にかかれてとても嬉しいです” 発声練習・練習問題	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第10回 第四課：“あなたは中国語を勉強中ですか” 発声練習・練習問題	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第11回 第五課：“何人家族ですか？” 発音練習・練習問題	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第12回 第六課：“どのお茶を飲みますか？” 発音練習・練習問題	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第13回 第七課：“一緒に行ってもいい？” 発声練習・練習問題	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第14回 第八課：“田中さんは来た？” 発声練習・練習問題	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。

第15回 発声・文法のまとめ／発音のテスト	学習した部分を全体的に復習する。
第16回 文法のテスト	テストの準備をする。

■ 履修上の注意

発音の練習が非常に大切です。そのため、発音練習ではしっかりと声を出してください。また、進行状況によっては、授業計画の通りに進まない場合があります。

■ 成績評価方法・基準

平常点30%（授業への参加状況や発声練習の様子などを総合的に評価します）

発音テスト20% 文法テスト50%

■ 教科書

〔週1回1年間で学ぶ中国語の基礎〕〔上野恵司 著〕〔白帝社〕〔2, 200円+税〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了後に受け付けます。

日本語基礎

(11029)

単位：2単位

対象学科：健専1年・服専1年

授業形態：講義 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

菅原 秀

■ 授業の概要

大学では試験だけでなくレポートなどを提出する機会が多くなる。調査や分析の結果、さらに自己の考えを日本語で的確に表現できるように、高等学校までに国語の授業などを通じて身につけてきた能力を再確認しながら、大学で学ぶ上で必要な日本語の基礎的な能力を身につけていくことを目的とする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・日本語の特徴を理解し正しく運用するための基礎知識を得る。	①
・将来社会人として役立つ教養と知識を身につける。	①②
・自己の考えを構築して表現できる能力を身につける。	①②
・自己の理解状況を把握し継続的に学習する能力を身につける。	①②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス 講義内容の説明 ワークシート資料の配布 表現練習1「言葉でないものを言葉にしてみよう」	次回のワークシートを予習
第2回 表現練習2「言葉でないものを説明してみよう」 謝りやすい語句① 同音・同訓	ワークシートおよびその他資料を復習
第3回 謝りやすい語句② 類義語・慣用表現 表現練習3「日本語を正しく発音してみよう」	ワークシートおよびその他資料を復習 次回のワークシートを予習
第4回 敬語の概説と演習	ワークシートおよびその他資料を復習
第5回 仮名遣い・送り仮名のつけ方、句読点・区切り符号の使い方、文体の使い分け	ワークシートおよびその他資料を復習
第6回 あいまいな文章表現をなくす、文の乱れをなくす、文を適切に区切る	ワークシートおよびその他資料を復習
第7回 表現を工夫する 比喩表現、接続語句と指示語、悪文を修正する	ワークシートおよびその他資料を復習
第8回 主題をまとめる、組み立てを考える、段落を分けて書く	ワークシートおよびその他資料を復習
第9回 要約文の書き方	次回提出の課題を仕上げる
第10回 自分の意見を構築する、自分の意見を文章にする	次回提出の課題を仕上げる
第11回 意見の伝え方「プレゼンテーションの方法」 討論 グループの意見をまとめる	ワークシートおよびその他資料を復習
第12回 説明文の書き方、意見文・小論文の書き方	ワークシートおよびその他資料を復習 次回提出の課題を仕上げる
第13回 意見文を書く① テーマ別の意見	次回提出の課題を仕上げる
第14回 意見文を書く② 資料を分析しての意見	次回提出の課題を仕上げる
第15回 期末試験	試験後模範解答をもとに復習

■ 履修上の注意

授業で配布されるワークシート（プリント）を整理保管して試験に備えること。

指示された課題は指定期日までに提出すること。

■ 成績評価方法・基準

試験（40%）、課題レポート（30%）、授業内での理解度確認ペーパーと出席状況およびグループワークなどでの取り組みや受講態度（30%）を目安とし総合的に判断する。

試験は終了後に模範解答を配布、課題レポートは添削し返却、理解度確認ペーパーは次回講義で解説しフィードバックする。

欠席回数が総授業回数の3分の1以上となると不合格となる。遅刻は3回で1回の欠席として算出する。

■ 教科書

講義内でワークシート（プリント）を配布する。

■ 参考書

講義内で適宜指示する。

■ 備考

受講者の理解状況や学習状況に応じて、授業計画の内容や進度を若干変更する場合がある。
質問や相談は、講義終了後に受け付ける。

国語表現法

(11030)

単位：2単位

対象学科：健専1年・服専1年

授業形態：講義 学期：後期

家政学部 大学共通教養科目

菅原 秀

■ 授業の概要

大学でのレポートなどを書くためにはもちろん、さらに実生活に必要な文書や手紙類など将来社会に出て必要な知識や文章運用能力を身につける。

また、自己の考えを構築し、日本語での確に表現できるよう、そして討論やグループワークを通じて、他者と共に考えをまとめて表現するといった実社会に必要な能力を身につけることを目的とする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・将来社会人として役立つ教養と知識を身につける。	②
・実社会に必要な日本語コミュニケーション能力を身につける。	①②
・自己の考えを構築して表現できる能力を身につける。	①
・他者との共同作業を通じて意見を導き出す能力を身につける。	②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス 講義内容の説明 ワークシートと資料の説明 表現練習「抽象的なものを言葉で説明してみよう」	次回のワークシートを予習
第2回 レポートの書き方 わかりやすい報告 レポートを書く	ワークシートおよびその他資料を復習 次回の報告を仕上げる
第3回 調査内容を報告する 批評を通じてより良い方法を考える	ワークシートおよびその他資料を復習
第4回 実用的な手紙の書き方 はがきと封書 実用的な手紙を書く 依頼状 招待状 詫言状 礼状	ワークシートおよびその他資料を復習 次回提出の課題を仕上げる
第5回 手紙文の講評 敬語の演習	ワークシートおよびその他資料を復習
第6回 ディベートの方法と実践 日常的テーマ	ワークシートおよびその他資料を復習
第7回 ディベートの方法と実践 社会的テーマ	ワークシートおよびその他資料を復習
第8回 プレゼンテーションの方法と実践	ワークシートおよびその他資料を復習
第9回 グループプレゼンテーション 相互批評	次回提出の課題を仕上げる
第10回 小論文の書き方①問題提起のための疑問文	ワークシートおよびその他資料を復習
第11回 小論文の書き方②主張を支える根拠と具体例	ワークシートおよびその他資料を復習
第12回 小論文を書く①テーマ設定型	次回提出の課題を仕上げる
第13回 小論文を書く②文章読解型	次回提出の課題を仕上げる
第14回 小論文を書く③資料分析型	次回提出の課題を仕上げる
第15回 授業内容を総括し自分の習得できた成果を確認する	自己の成果を確認し今後活用する

■ 履修上の注意

授業で配布されるワークシート（プリント）を保管整理して学習すること。

指示された課題は指定期日までに提出すること。

■ 成績評価方法・基準

課題やレポート（60%）、授業内での理解度確認ペーパーと出席状況およびグループワークなどでの取り組みや受講態度（40%）を目安とし総合的に判断する。

課題やレポートは添削して返却または模範解答を配布し、理解度確認ペーパーは次回講義で解説しフィードバックする。

欠席回数が総授業回数の3分の1以上で不合格となる。遅刻は3回で1回の欠席として算出する。

■ 教科書

講義内でワークシート（プリント）を配布する。

■ 参考書

講義内で適宜指示する。

■ 備考

受講者の理解状況や学習状況に応じて、授業計画の内容や進度を若干変更する場合がある。

質問や相談は、講義終了後に受け付ける。

情報基礎学

(11031)

単位：2単位

対象学科：健専2年・服専2年

授業形態：講義 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

松尾 広

■ 授業の概要

データの集計・加工、グラフ作成、写真の加工を行い、それらを組み合わせて体裁の整った文書を作成したり、プレゼンテーションしたりできることを目標に、文書作成、表計算、プレゼンテーション、情報検索、簡単な画像処理などのコンピュータリテラシーについて解説する。またデータを整理、蓄積、利用する方法として簡単なデータベースの作成やほかのアプリケーションとの連携方法、データ処理の方法を論理的に考えることを目的としたプログラミングについての演習を行うことで、情報処理技術の理解を深め、ステップアップを図る。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ Word、Excel、PowerPointを使って体裁が整った文書を作成できる。
- ・ 簡単な画像処理ができる。
- ・ 情報を処理するアルゴリズムを理解し、プログラムで表現できる。

①
①
①

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス

学習する内容を確認する。

第2回 Wordによる文書作成（ビジネス文書作成、表の作成）

学習内容を確認し、反復する。

第3回 Wordによる文書作成（図形の扱い）

学習内容を確認し、反復する。

第4回 Wordによる文書作成（セクション、ヘッダー・フッター、段組み）

学習内容を確認し、反復する。

第5回 Excelによる表計算（計算式、関数）

学習内容を確認し、反復する。

第6回 Excelによる表計算（統計データの加工、グラフの作成）

学習内容を確認し、反復する。

第7回 Excelによる表計算（データベース、差し込み印刷）

学習内容を確認し、反復する。

第8回 PowerPointによるプレゼンテーション（シンプルなスライドの作成）

学習内容を確認し、反復する。

第9回 PowerPointによるプレゼンテーション（アニメーションの利用）

学習内容を確認し、反復する。

第10回 PowerPointによるプレゼンテーション（練習問題）

学習内容を確認し、反復する。

第11回 簡単な画像処理

学習内容を確認し、反復する。

第12回 簡単な動画の作成

学習内容を確認し、反復する。

第13回 プログラミング（アニメーション、タートルグラフィックス）

学習内容を確認し、反復する。

第14回 プログラミング（シンプルなゲーム）

学習内容を確認し、反復する。

第15回 まとめの課題

学習内容を振り返る。

■ 履修上の注意

資料、課題等はGoogle Classroomに掲示します。

■ 成績評価方法・基準

受講態度・毎回の授業で提出するファイル40%、まとめの課題60%

提出されたファイルは授業中にフィードバックします。

■ 教科書

資料は配布（Google Classroomに掲示）

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

スポーツ

(11032)

単位：2単位

対象学科：健専1年・服専1年

授業形態：実技 学期：通年

家政学部 大学共通教養科目

沼澤 隆 池田 信文

■ 授業の概要

年間を通して複数のスポーツ・運動を実施する。団体競技の場合には、受講者を戦力がほぼ均等になるよう偶数チームに班分けをし、リーグ戦等を行う。団体競技の面白みとチームワークの大切さ等を学ばせる。また、勝利チームや各人の競技中における課題達成度または所属チームへの貢献度等に応じて加点する方法も取り入れ、各人に奮起を促す。個人競技においては、個々人の基礎的運動能力の向上ならびにその運動・スポーツ特有の技術習得に向け努力することの大切さを学ばせる。

■ 授業の到達目標

- ・スポーツ・運動実践を通し、体力づくりの重要性に気づく。
- ・団体・個人競技を通し礼儀や協働の大切さ等を身につける。
- ・今後共にスポーツ・運動を実践していける人材に成長する。

学位授与の方針との関連

①

②④

⑥⑧

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス（個人票作成等）	スポーツの説明および今後の自身の目標を設定する
第2回 ターゲットバードゴルフ1（沼澤）	ルール等の予習、及び技術の向上
第3回 ターゲットバードゴルフ2（沼澤）	ルール等の予習、及び技術の向上
第4回 ターゲットバードゴルフ3（沼澤）	ルール等の予習、及び技術の向上
第5回 ターゲットバードゴルフ4（沼澤）	ルール等の予習、及び技術の向上
第6回 ターゲットバードゴルフ5（沼澤）	ルール等の予習、及び技術の向上
第7回 バドミントン1（沼澤）	ルール等の予習、及び技術の向上
第8回 バドミントン2（沼澤）	ルール等の予習、及び技術の向上
第9回 バドミントン3（沼澤）	ルール等の予習、及び技術の向上
第10回 バドミントン4（沼澤）	ルール等の予習、及び技術の向上
第11回 バドミントン5（沼澤）	ルール等の予習、及び技術の向上
第12回 ミニテニス&卓球&インディアカ&バドミントン1（沼澤）	ルール等の予習、及び技術の向上
第13回 ミニテニス&卓球&インディアカ&バドミントン2（沼澤）	ルール等の予習、及び技術の向上
第14回 ミニテニス&卓球&インディアカ&バドミントン3（沼澤）	ルール等の予習、及び技術の向上
第15回 まとめ及びレポート作成	本授業に関するまとめ、レポート作成
第16回 バレーボール1（池田）	ルール等の予習、及び技術の向上
第17回 バレーボール2（池田）	ルール等の予習、及び技術の向上
第18回 バレーボール3（池田）	ルール等の予習、及び技術の向上
第19回 バレーボール4（池田）	ルール等の予習、及び技術の向上
第20回 バレーボール5（池田）	ルール等の予習、及び技術の向上
第21回 ソフトボール&フットサル1（池田）	ルール等の予習、及び技術の向上
第22回 ソフトボール&フットサル2（池田）	ルール等の予習、及び技術の向上
第23回 ソフトボール&フットサル3（池田）	ルール等の予習、及び技術の向上
第24回 バスケットボール1（池田）	ルール等の予習、及び技術の向上
第25回 バスケットボール2（池田）	ルール等の予習、及び技術の向上
第26回 バスケットボール3（池田）	ルール等の予習、及び技術の向上
第27回 バスケットボール4（池田）	ルール等の予習、及び技術の向上
第28回 バスケットボール5（池田）	ルール等の予習、及び技術の向上
第29回 まとめ及びレポート作成1	ルール等の予習、及び技術の向上
第30回 まとめ及びレポート作成2	本授業に関するまとめ、レポート作成

■ 履修上の注意

- ・毎回、運動のできる服装（ウエア）とシューズ等を完備した上で授業に臨むこと。
- ・正当な理由無き「連続欠席」は厳禁とする。
- ・遅刻3回で欠席1回と見なすので注意すること。
- ・レポート・課題等については、授業内でフィードバックする。

■ 成績評価方法・基準

個人の運動能力・技術は勿論のこと、授業に取り組む姿勢や随時課すレポートの内容等を基に総合的に評価する。その内訳は、受講態度20%、レポート20%、実技試験等60%とする。

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

- ・当日の天候等により、シラバス通りの運動ができないこともあります。
- ・質問等については、授業終了時にオフィスアワーにて受付けます。

武道

(11033)

単位：1 単位

対象学科：服専1年

授業形態：演習 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

佐藤 淳 一

■ 授業の概要

現代武道の1つで世界36カ国に普及し世界統一組織である少林寺拳法を、講義と実技で教授します。単に身体が丈夫になるだけではなく、心と体を調和させながら、他人と競い合う強さではなく、自己と向きあい何事にも負けることのない本当の強さ（自己確立）を体得します。呼吸法や、座禅を行うことにより心身の調整法を学び、どのように相手が攻撃してきても、力の大小、性別に関わらず自分や大切な人を守ることでできる少林寺拳法の護身の技術と心を、少林寺拳法七段で全国指導員の担当教員が伝授します。財団法人少林寺拳法連盟に全員所属して、前期で6級（緑帯）取得を目標に教授します。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・少林寺拳法の基礎的技術を体得する	①②
・自己確立について理解することができる	①②
・他と協働しながら楽しく修練できる	⑥

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 少林寺拳法について、ガイダンス、技術体験	シラバスを読む。鍛錬法修得
第2回 基本、講義、座禅、構え、運歩法、突き、蹴り基本	正中線鍛錬法実践
第3回 基本、講義、座禅 受身、各種構え、攻撃法、防御法	丹田鍛錬法実践
第4回 基本、講義、座禅、各種受身、上受け、内受け	体幹鍛錬法 四股
第5回 基本、講義、座禅、上段、中段直突き、蹴り上げ	体幹鍛錬法 四股
第6回 基本、講義、座禅、柔法（小手抜き、守法）	体幹鍛錬法 四股
第7回 基本、講義、座禅、柔法（腕十字固め）	体幹鍛錬法 四股
第8回 基本、講義、座禅、柔法（寄り抜き）	体幹鍛錬法 四股
第9回 基本、講義、座禅、剛法（流水蹴り）	体幹鍛錬法 四股
第10回 基本、講義、座禅、単独演武天地拳第一	体幹鍛錬法 四股
第11回 基本、座禅、単独演武竜王拳第一	体幹鍛錬法 四股 昇級レポート作成準備
第12回 基本、座禅、剛法（内受け突き）	体幹鍛錬法 四股 昇級レポート作成準備
第13回 基本、座禅、剛法（下受け蹴り）	体幹鍛錬法 四股 昇級レポート作成準備
第14回 基本、座禅、柔法（逆小手）	体幹鍛錬法 四股 昇級レポート作成準備
第15回 6級昇級試験準備	昇級レポート提出

■ 履修上の注意

自他の安全に留意し、授業時間内にできない部分を積極的に自習すること。教員が指導します。

■ 成績評価方法・基準

実技評価40%、授業態度（集中して修練しているか20%、学んだことが礼儀等態度に現われているか20%）昇級レポート20%（評価して返却します）

■ 教科書

少林寺拳法級拳士副読本、科目表（財団法人少林寺拳法連盟）

■ 参考書

はじめよう少林寺拳法（ベースボールマガジン社）

■ 備考

1回目から修練します。運動のできる服装で来てください。講義はメモします。筆記用具持参。水分補給、マスク着用。修練前後の清掃は毎回おこないます。授業外での質問はオフィスアワーで受け付けます。

スタディスキルズ

(11034)

単位：1単位

対象学科：服専1年

授業形態：演習 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

1年次担任 教職員

■ 授業の概要

本科目では大学の教育内容、大学での学びの基本的な姿勢について教授する。主な授業内容は、以下の通りである。

- ①大学での学習の土台となる「基礎学力」の定着を目指す。具体的にはプレイスメントテストによる基礎学力の把握、入学前に取り組んだe-learningの復習など、基礎学力の定着、ならびに学修した内容の理解の向上を目指した演習を行う。
- ②「学修ポートフォリオ」を用いて、各自の学習目標、学習への取り組みについて助言する。
- ③学内の施設を活用した学習方法について教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・大学での学習方法を身につける
- ・自宅で学習する習慣を身につける
- ・大学生として必要な基礎学力を身につける

①
①
①

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	プレイスメントテスト（実力テスト）その1（植松）	e-learningの学習をしてくること
第2回	プレイスメントテスト（実力テスト）その2（植松）	e-learningの学習をしてくること
第3回	大学での学び方について（学部長）	大事な点をノートに記録すること
第4回	図書館の活用①（村山）	施設の利用について理解する
第5回	情報処理教育センターの活用[新OA室]（松尾）	施設の利用について理解する
第6回	「学ぶとはどういうことか」（植松）	考えながらわかったことを自分で作り上げること
第7回	学修ポートフォリオの作成（植松）	学修目標を理解する
第8回	研究倫理について（栗山）	復習し、研究倫理について理解する
第9回	図書館の活用②（村山）	復習し、授業内容を理解する
第10回	学修ポートフォリオ 中間評価（植松）	学修目標の達成度合いを点検する
第11回	基礎学力向上 e-learning基礎編[新OA室]（植松）	e-learningの学習をしてくること
第12回	基礎学力向上 e-learning応用編[新OA室]（植松）	e-learningの学習をしてくること
第13回	基礎学力向上 文章の読解・作成 基礎編（植松）	復習し、授業内容を理解する
第14回	基礎学力向上 文章の読解・作成 応用編（植松）	復習し、授業内容を理解する
第15回	まとめ（植松）	15回の授業の復習を行う

■ 履修上の注意

- 毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席がないように注意すること。
- 事情により、担当教員の変更、授業順序の変更が生じることがある。その場合は掲示板で連絡する。

■ 成績評価方法・基準

授業の取り組みに対する意欲と姿勢（50%）、提出物（50%）により評価する。

提出物については後日、フィードバックを行う。

■ 教科書

入学前課題学習記録ノート（e-learningの教材）：入学前に配布済み

■ 参考書

特になし。授業の中で各担当の教員が指示する。

■ 備考

質問等については各授業の担当教員において授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日と時間は掲示等で確認すること）で受け付ける。

スタディスキルズ

(11035)

単位：1単位

対象学科：健専1年

授業形態：演習 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

1年次担任 教職員

■ 授業の概要

本科目では、本学の教育内容、大学での学びの基本的な姿勢について教授する。主な授業内容は、以下の通りである。

- ①大学での学習の土台となる「基礎学力」の定着を目指す。具体的には、プレイスメントテストによる基礎学力の把握、入学前に取り組んだ“e-learning”の復習など、基礎学力の定着、ならびに学修した内容の理解の向上を目指した演習を行う。
- ②「学修ポートフォリオ」を用いて、各自の学習目標、学習への取り組みについて助言する。
- ③学内の施設を活用した学習方法について教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・大学での学習方法を身につける。
- ・自宅で学習する習慣を身につける。
- ・大学生として必要な基礎学力を身につける。

①
①
①

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	大学で学ぶということ（栗山）	オリエンテーションで実施。
第2回	プレイスメントテスト①（栗山）	基礎学力を確認する。
第3回	プレイスメントテスト②（栗山）	基礎学力を確認する。
第4回	図書館の活用①（村山）	施設の利用について理解する。
第5回	学修ポートフォリオの作成（栗山）	学修目標を理解する。
第6回	専攻での学びについて（栗山）	1回目の授業内容を復習しておくこと。
第7回	情報処理教育センターの活用〔新OA室〕（松尾）	施設の利用について理解する。
第8回	研究倫理について（栗山）	復習し、研究倫理について理解する。
第9回	図書館の活用②（村山）	施設の利用について理解する。
第10回	基礎学力向上 e-learning①〔新OA室〕（栗山）	e-learningの学習をしてくる。
第11回	学修ポートフォリオ 中間評価（栗山）	学修目標の達成度合いを点検する。
第12回	基礎学力向上 文章の読解・作成①（栗山）	復習し、授業内容を理解する。
第13回	基礎学力向上 e-learning②〔新OA室〕（栗山）	e-learningの学習をしてくる。
第14回	基礎学力向上 文章の読解・作成②（栗山）	復習し、授業内容を理解する。
第15回	まとめ	15回の授業の復習を行う。

■ 履修上の注意

- ・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席がないように注意すること。
- ・事情により、担当教員の変更、授業順序の変更が生じることがある。その場合は掲示板で連絡する。

■ 成績評価方法・基準

授業の取り組みに対する意欲と姿勢（50%）、提出物（50%）により評価する。
提出物については、後日フィードバックを行う。

■ 教科書

〔入学前課題学習記録ノート（e-learningの教材）〕〔入学前に配布済み〕

■ 参考書

なし。授業の中で各担当の教員が指示する。

■ 備考

質問等については、各授業の担当教員に授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で受付ける。

ライフデザイン

(11036)

単位：1単位

対象学科：健専1年・服専1年

授業形態：演習 学期：後期

家政学部 大学共通教養科目

佐々木 晃

■ 授業の概要

自分の今後の将来設計を描くにあたって、新しい生活様式、アフターコロナの働き方改革も踏まえて確かな勤労観を持ち、有為な社会人として活躍できる基本的な資質・能力を身に付ける。本学の開学理念である「人間生活を科学し、より良い生活へ」の具現化・体現化を目指して、現在の大学生活を振り返り、今後の大学生活を充実させるための手立て、できたことをノートにまとめ、具体的なライフプランを実現させるための方法、それらをグループで学びあい、集団討議させることでより確かなライフデザインを描けるようにする。知力、実践力、提案力、コミュニケーション力を兼ね備えた人間力を培う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ライフデザインを学修する上で必要な基礎知識を身に付ける
- ・学修した情報を整理・要約できる技術を身に付ける
- ・学修した知識・技能・態度を社会で総合的に活用できる

①②⑥⑧
①②⑥⑧
①②⑥⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス、ライフデザインを学ぶ意義の説明	より良い生活のために何が必要か考える
第2回	自分史作成 ～自己を知る～	自らの埋もれた価値を見出す視点を学ぶ
第3回	自己分析・自己理解・自己管理	各種の分析を用いて人間性を科学する
第4回	学生生活のデザイン	生活を見直しより豊かな生活を見通す
第5回	時事問題理解力、思考力、表現力	情報を取捨選択して活用する能力を培う
第6回	社会人に求められるもの	社会で必要な行動・思考・協働を学ぶ
第7回	社会で働くための資質・能力	採用担当が重視する社会人基礎力を学ぶ
第8回	業界・企業研究	最新の経済動向を踏まえた学びを深める
第9回	課題発見能力・協調性・提案力	現状に満足せず次を考える学びを深める
第10回	ビジョン構築力	自分や組織の本来的使命を理解する
第11回	ライフステージとライフイベント	人生の節目にどんな役割があるかを学ぶ
第12回	ライフデザインとライフプラン	両者の概念の違いを予習し把握する
第13回	ライフデザインの作成	表現内容を簡潔にまとめる工夫を行う
第14回	ライフデザインの発表	内容を平易に伝えるための工夫を行う
第15回	キャリア開発に向けて	学修全体を振り返り今後に役立てる

■ 履修上の注意

本学キャリア教育の1年次としての自覚を持ち受講すること。

■ 成績評価方法・基準

平常点30%（平常点は、授業への参加状況および小テストの結果等で総合的に判断する）レポート70%

（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）

- ・提出されたレポートは次回の授業内でフィードバックを行う。

■ 教科書

〔シンプルリスト〕 〔ドミニック・ローホー〕 〔講談社〕 〔630円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

- ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。
- ・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

キャリア開発 I

(11037)

単位：1 単位

対象学科：服専1年

授業形態：講義 学期：後期

家政学部 大学共通教養科目

水谷 浩

■ 授業の概要

昨今、SNS(Social Networking Service)で発信力のある個人（インフルエンサー）の情報は、消費者の購買行動や企業のコミュニケーション戦略のなかでも注目されている。とりわけ、ファッション業界では、情報の分かりやすさ（伝わりやすさ）に関する知識や技能が求められる。

本授業では、消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』や『UC（ユニバーサルカラー）アドバイザー』としての経歴を活かし、色彩検定協会主催『色彩検定UC級』の試験対策を教授するとともに「視覚情報のユニバーサルデザイン」に関する基礎知識の修得をめざしている。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・1)「視覚情報のユニバーサルデザイン」の重要性を認識できる	①②③⑦
・2)多様な見え方に配慮した色づかいについて理解できる	④⑤⑥⑦
・3)見えづらい例を示し、改善点を分かりやすく説明できる	①②③④⑤⑥⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	テーマ：オリエンテーション(多様な見え方を知る) 概要：色のユニバーサルデザインについて学ぶ	授業計画や事前配布資料などを参考にして予習すること。 講義ノートを読み直し、学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第2回	テーマ：「光と色の関係は？」 概要：色が見えるしくみを学ぶ	同上
第3回	テーマ：「色を表すには？」 概要：①色相・明度・彩度，②色相とトーンについて学ぶ	同上
第4回	テーマ：「多様な見え方と色覚特性を知る」 概要：色覚特性と混同しやすい色，色覚検査法を学ぶ	同上
第5回	テーマ：「高齢者の見え方を知る」 概要：加齢と見え方の変化について学ぶ	同上
第6回	テーマ：「誰もが見やすい配慮を知る」 概要：視覚情報のユニバーサルデザインについて学ぶ	同上
第7回	テーマ：「色のユニバーサルデザインを実践するには？」 概要：視覚情報のユニバーサルデザイン(修正)について学ぶ	同上
第8回	テーマ：検定試験 概要：色彩検定UC級の受験	過去問題を何度も解くことで、試験対策を怠らないこと。
第9回	テーマ：まとめ 概要：色彩検定UC級の振り返り	試験後、解答解説を踏まえ、自己採点を行うこと。

■ 履修上の注意

受講にあたり「色彩検定UC級」の受験申し込み（自己負担：1,500円）が必要です。

3/4以上の出席がない場合には、単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(50%)+課題の提出状況(25%)+検定試験の結果(25%)にもとづき評価します。

なお、課題については、次回の授業内にフィードバックします。

※ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔色彩検定UC級公式テキスト〕〔?色彩検定協会〕〔?色彩検定協会〕〔2300円〕

■ 参考書

必要に応じて紹介します。

■ 備考

【事後もしくは同時に受講して欲しい講義】

「色彩学」

【質問・相談など】

質問や相談などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に対応します。

キャリア開発 I

(11038)

単位：1 単位

対象学科：健専1年

授業形態：演習 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

鈴木 裕 行

■ 授業の概要

化学 I・II の授業で取り扱った内容に関連する基礎的な問題の演習を主とし、個々の学生の理解度に合わせて、解法を担当教員および学習支援員（学生）により個別に指導する。また授業で出題された練習問題についての解説を行う。さらに将来にむけて管理栄養士の業務の実際についての説明、および4年次に受験する予定の管理栄養士国家試験の概要と対策について、また学習している化学との関連についても解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--------------------------------|----|
| ・化学の練習問題を解けるようにする。 | ①③ |
| ・管理栄養士の業務の概要を理解する。 | ①③ |
| ・管理栄養士国家試験の概要と、化学の学習との関連を理解する。 | ①③ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 物質の構成に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第2回 周期表に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第3回 原子・イオン・分子に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第4回 化学式に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第5回 物質質量：原子量・分子量の計算に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第6回 管理栄養士の仕事について、モルの計算に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する、とともに、管理栄養士の仕事についての説明をまとめレポートを作成する。
第7回 化学反応式に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第8回 化学結合に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第9回 酸・塩基、中和に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第10回 水素イオン濃度と pH に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第11回 管理栄養士国家試験について、酸化と還元に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する、とともに、授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する、とともに、
第12回 酸化数と酸化還元反応に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第13回 気体の性質に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第14回 溶液の性質に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第15回 化学反応と熱に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。

■ 履修上の注意

特に教員・学習支援員（SA）に積極的に質問して不明な点を極力残さないような取り組みを求める。

■ 成績評価方法・基準

平常点（試問・課題）・・・80%、レポート提出・・・20%

■ 教科書

ゼロからはじめる化学、立屋敷 哲、丸善(株)出版事業部、2, 200円+税

■ 参考書

無し

■ 備考

選択科目であるが、化学の学力向上を目指したもので、化学I・IIの授業と特に関連が深く、かつ管理栄養士関連の情報提供も行うので履修することが望ましい。提出物へのフィードバックとして、コメントを後日提示する。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

キャリア開発Ⅱ

(11039)

単位：1単位

対象学科：服専2年

授業形態：演習 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

水谷 浩

■ 授業の概要

私たちは、さまざまな商品やサービスを購入し、それらを利活用（消費）しながら、日々暮らしている。

そうしたなか「消費者が経済的に効率良く、かつ地球環境にも配慮した消費生活を営むには、合理的な意思決定を行うための智慧（消費者力）が不可欠となる。

本講義では、消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かして「現代社会を生きていくために知っておくべきこと、暮らしに役立つこと」という視点から、一般財団法人日本消費者協会主催の『消費者力検定』試験対策を教授するとともに、賢い消費者としての実践力の修得をめざしている。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 1) 全ての人に関わる知識として消費者力を認識、理解できる
- ・ 2) 消費者行政の役割や消費者トラブルについて理解できる
- ・ 3) 日常生活に役立つ消費者情報について説明できる

①②③
③④⑤⑥
①②③⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	テーマ：消費者力検定の概要説明、衣生活分野 概要：衣服の機能・表示・管理、繊維と布地の種類などを学ぶ	教科書（ワークブック）と講義ノートの内容を読み直し、学習内容の振り返りを行う。また、事前配布の資料は、授業前に読んでおくこと。
第2回	テーマ：食生活分野 概要：食品加工と保存、食品安全行政、食品の表示などを学ぶ	同上
第3回	テーマ：住生活分野 概要：住生活基本法、住まいの取得・賃貸契約などを学ぶ	同上
第4回	テーマ：消費者契約と法律分野 概要：民法、消費者契約法、特定商取引法などを学ぶ	同上
第5回	テーマ：契約と消費者トラブル分野 概要：消費生活相談の実態や悪質商法などを学ぶ	同上
第6回	テーマ：環境分野 概要：環境問題や環境に配慮した消費行動などを学ぶ	同上
第7回	テーマ：サービス 概要：インターネット取引やそのトラブル事例などを学ぶ	同上
第8回	テーマ：検定試験 概要：消費者力検定の実施	過去問題を何度も解くことで、試験の直前対策を怠らないこと。
第9回	テーマ：まとめ 概要：消費者力検定の振り返り	試験後、解答解説を踏まえ、自己採点を行うこと。

■ 履修上の注意

受講にあたり「消費者力検定（基礎コース）」の受験申し込み（自己負担：950円）が必要となります。

3/4以上の出席がない場合には、単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・授業への参加態度(50%)+検定試験の結果(50%)にもとづき評価する。

なお、課題については、次回の授業内にフィードバックをします。

※ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔消費者力検定ワークブック〕〔(財)日本消費者協会〕〔(財)日本消費者協会〕〔756円〕

■ 参考書

授業中にプリントを配布します。

■ 備考

【事前もしくは同時に受講して欲しい講義】

「消費生活論」

【質問・相談など】

質問や相談などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に対応します。

キャリア開発Ⅱ

(11040)

単位：1単位

対象学科：健専2年

授業形態：講義 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

川 俣 幸 一

■ 授業の概要

2017年1月よりセルフメディケーション税制が開始され、今後は症状の軽い病気（生活習慣病を含む）は病院ではなく市販薬対応として世の中がシフトしていくと考えられている。また2018年11月の内閣府の経済財政諮問会議で薬剤師と管理栄養士の融合が話題となる中で、これからは薬局に勤務できるような薬に詳しい管理栄養士のニーズが高まるものと想定される（薬局栄養士）。

登録販売者とは薬の知識を生かし薬局などで医薬品の販売を行うことのできる国家資格である。この授業では薬に詳しい管理栄養士を目指すため、8月下旬に実施される登録販売者試験の合格を目標とした試験対策講座を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 基本的なOTC医薬品の作用機序について理解できる
- ・ 薬局栄養士についての職務内容・将来性が理解できる

③⑤
①

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 概要／人体の構造と働き・薬の働く仕組み	事前学習としてテキストの目次を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第2回 医薬品の基本的な知識・副作用	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第3回 薬の作用を知るための重要なポイント① (アドレナリン様作用、抗コリン作用など)	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第4回 薬の作用を知るための重要なポイント② (抗ヒスタミン作用、プロスタグランジンの作用など)	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第5回 OTC医薬品① (風邪薬、アレルギー薬、催眠鎮静薬など)	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第6回 OTC医薬品② (鎮痛薬、痔疾用薬など)	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第7回 OTC医薬品③ (胃腸薬・滋養強壮保健薬など)	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第8回 OTC医薬品④ (皮膚薬、毛髪薬など)	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第9回 OTC医薬品⑤ (目薬、歯痛薬など)	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第10回 OTC医薬品⑥ (一般用検査薬、公衆衛生用薬)	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第11回 OTC医薬品⑦ (生薬成分と漢方処方)	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第12回 薬事関係法規	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第13回 医薬品の販売制度	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第14回 医薬品の適正使用	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。

事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。

事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。
事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。

■ 履修上の注意

登録販売者試験の日程に合わせて日程や時間割を調整する事がある。

■ 成績評価方法・基準

課題レポート・・・90%

受講態度・・・10%

■ 教科書

7日間でわかる！登録販売者テキスト [堀美智子著] [日本経済新聞出版社] [1944円]

■ 参考書

なし（適宜プリントを配布する）

■ 備考

質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。

キャリア開発Ⅲ

(11041)

単位：1単位

対象学科：服専3年

授業形態：講義 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

内海陽子

■ 授業の概要

本講義では、AFT色彩検定2級の試験対策講座を行う。色彩は、被服をはじめとする日常生活のあらゆる分野に関連する。特に、ファッション業界やインテリア業界、グラフィック業界、企業のデザイン・宣伝部門など、幅広い分野で活用される「色」についての専門知識について取り上げることで、知識の深化を図り、色彩を活用するための実践力を養う。これらの専門知識を身につけながら、AFT色彩能力検定2級を目指す。当講義では、大手アパレルメーカーで、年間30億円以上の商品バイイングマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在も、ファッション業界で多岐に渡って、活動している講師が担当する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・色彩についての基礎知識を身につける。
- ・色彩を活用し実践するための専門知識を身につける。

①
②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 生活と色、光と色	教科書を熟読し、練習問題を学習する。
第2回 色の表示	教科書を熟読し、練習問題を学習する。
第3回 色彩調和、配色イメージ	教科書を熟読し、練習問題を学習する。
第4回 グラフィックデザインと色彩、プロダクトデザインと色彩	教科書を熟読し、練習問題を学習する。
第5回 ファッションと配色	教科書を熟読し、練習問題を学習する。
第6回 インテリアデザインと色彩	教科書を熟読し、練習問題を学習する。
第7回 エクステリアデザインと色彩	教科書を熟読し、練習問題を学習する。
第8回 AFT色彩検定の試験対策	教科書を熟読し、練習問題を学習する。

■ 履修上の注意

AFT色彩検定3級の内容を十分に復習して授業に臨むこと。事前に教科書を熟読し、配布する練習問題を十分に学習しておくこと。AFT色彩検定2級を受験すること。

■ 成績評価方法・基準

課題レポート（50%）、事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）で総合評価。

提出された課題レポートは後日フィードバックする。

■ 教科書

〔AFT色彩検定 公式テキスト 2級編〕〔AFT対策テキスト編集委員会〕〔A・F・T企画〕〔3, 240-〕

■ 参考書

使用せず

■ 備考

質問等については、授業終了後受け付ける。

キャリア開発Ⅲ

(11042)

単位：1単位

対象学科：健専3年

授業形態：演習 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

健康栄養学専攻全教員

■ 授業の概要

管理栄養士として働くためには、栄養士免許の取得と管理栄養士国家試験に合格することが必要条件である。特に、管理栄養士国家試験に合格するためには、出題内容を把握した上での継続的な学習が不可欠である。本科目は、管理栄養士国家試験の受験対策として、以下の内容を扱う。

- ①管理栄養士国家試験の出題分野（科目）の過去問を題材に、修得の必要がある点を教授する。
- ②出題分野（科目）ごとに、出題範囲、頻出事項について解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・国家試験受験に必要な知識を身につける。

①②③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス（鈴木、栗山） 基礎栄養学（鈴木）①	教員が提示したポイントを確認する。
第2回 基礎栄養学（鈴木）②	代謝経路などの知識を整理する。
第3回 基礎栄養学（鈴木）③	不得意箇所の克服に努める。
第4回 応用栄養学（川俣）①	ライフステージごとの特徴を把握する。
第5回 応用栄養学（川俣）②	教員が提示したポイントを確認する。
第6回 応用栄養学（川俣）③	不得意箇所の克服に努める。
第7回 食べ物と健康（佐藤（靖）、深澤、八巻）①	食品の機能などの知識を整理する。
第8回 食べ物と健康（佐藤（靖）、深澤、八巻）②	教員が提示したポイントを確認する。
第9回 食べ物と健康（佐藤（靖）、深澤、八巻）③	食品加工の特徴を理解する。
第10回 食べ物と健康（佐藤（靖）、深澤、八巻）④	教員が提示したポイントを確認する。
第11回 食べ物と健康（佐藤（靖）、深澤、八巻）⑤	調理の基本を理解する。
第12回 食べ物と健康（佐藤（靖）、深澤、八巻）⑥	不得意箇所の克服に努める。
第13回 公衆栄養学（栗山）①	栄養行政の特徴を理解する。
第14回 公衆栄養学（栗山）②	教員が提示したポイントを確認する。
第15回 公衆栄養学（栗山）③	不得意箇所の克服に努める。
第16回 試験	学習した内容全体を復習する。

■ 履修上の注意

- ・管理栄養士国家試験受験を希望する者は履修すること。
- ・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席や遅刻がないように注意すること。
- ・都合により、授業担当教員や授業の順序が変更となる場合もある。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点40%（平常点は、感想用紙の提出および問題集の進行度合いなどを総合的に判断する）、試験60%の結果で評価する。
- ・提出物や試験は、後日フィードバックを行う。

■ 教科書

〔管理栄養士国家試験 問題集〕〔大学作成〕
〔クエスチョンバンク2022〕〔メディックメディア〕（7月発売予定）

授業担当の教員が担当した科目の教科書（掲示等で伝える）

■ 参考書

授業担当の教員が適宜紹介する。

■ 備考

質問等は、各授業の担当教員が授業終了時やオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で対応する。

キャリア開発Ⅳ

(11043)

単位：1単位

対象学科：服専3年

授業形態：講義 学期：後期

家政学部 大学共通教養科目

水谷 浩

■ 授業の概要

昨今、H&M、GAP、ZARA、ユニクロなどのファストファッション、そしてWEBサイトでの販売を展開するZozotownなどの新興勢力が台頭し、ファッション・ビジネスは新たな局面を迎えている。

とりわけ、SNS(Social Networking Service)の普及は、ファッション関連分野の可能性を多彩に広げ、個々の働き方も大きく変容・拡大しつつある。

本授業では、消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント(第46期)』としての経歴を活かし「将来、服飾関連分野で働く」という視点から、将来のキャリア形成に向けて、具体的な目標設定(エントリーシートの作成)を指導するとともに『ニュース時事能力検定2級』試験対策の教授により、社会人基礎力のひとつ「課題発見力」や「状況把握力」などの修得をめざしている。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・1)「課題発見力」「状況把握力」の重要性を認識、実践できる	①②③⑦
・2)多様な人々と協力し、働くために必要な能力を理解できる	④⑤⑥⑦
・3)将来のキャリア形成にむけて、具体的な目標を説明できる	①②③④⑤⑥⑦

■ 授業計画

自習(事前・事後学修の内容)

第1回	テーマ：オリエンテーション(授業の進め方・評価など) 概要：就職活動に不可欠な時事問題の傾向と対策を学ぶ	授業計画や事前配布資料などを参考にして、予習すること。 また『ニュース時事能力検定2級』対策として、毎日、新聞の記事や社説、コラムから題材を1つ選び、その題材についてコメントや見出しを書き、さらに要約すること。 なお、これらのワークシートは、ノートにまとめ、最終授業の時に提出すること。
第2回	テーマ：業界研究 概要：ファッション関連分野の現状と新たな可能性を学ぶ	同上
第3回	テーマ：企業・職種研究 概要：世界的に代表的な企業や仕事の内容などを学ぶ	同上
第4回	テーマ：履歴書(エントリーシート)作成 概要：「自分を知る。相手を知る」を学ぶ	同上
第5回	テーマ：ニュース時事能力検定対策① 概要：小学校・中学校社会科「地理」や「歴史」の振り返り	同上
第6回	テーマ：ニュース時事能力検定対策② 概要：高校の「現代社会」や「政治・経済」の振り返り	同上
第7回	テーマ：ニュース時事能力検定対策③ 概要：世界的・歴史的な視点で現代社会を見る目を学ぶ	同上
第8回	テーマ：模擬試験 概要：「ニュース時事能力検定2級」の模擬試験の実施	過去問題を何度も解くことで、直前の試験対策を怠らないこと。
第9回	テーマ：まとめ 概要：模擬試験の振り返り	模擬試験後、解答解説を踏まえ、自己採点を行うこと。

■ 履修上の注意

3/4以上の出席がない場合には、単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・授業への参加態度(50%)+課題の提出状況(25%)+模擬試験の結果(25%)にもとづき評価する。

なお、課題については、次回の授業内にフィードバックします。

※ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔2021年度版ニュース検定公式テキスト発展編〕〔日本ニュース時事能力検定協会監修〕〔毎日新聞出版〕〔1650円〕

■ 参考書

必要に応じて紹介します。

■ 備考

【事前もしくは同時に受講して欲しい講義】

「キャリアサポートⅠ」「キャリア開発Ⅰ」「消費生活論」「経済学」「歴史Ⅰ」

キャリア開発Ⅳ

(11044)

単位：1単位

対象学科：健専4年

授業形態：演習 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

健康栄養学専攻全教員

■ 授業の概要

本科目は、4年次の管理栄養士国家試験対策の一環として開講する。これまでに修得した管理栄養士国家試験を突破するために必要な知識を基本に、模擬試験の受験を通じて、修得した知識の確認と弱点の把握を目指す。具体的には、以下の内容を扱う。

①管理栄養士国家試験の出題分野（科目）の過去問を題材に、修得の必要がある点を教授する。

②応用問題のように、出題分野（科目）を横断する内容の問題について、特徴や要点を説明する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・国家試験受験に必要な知識を身につける。

①②③

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス（鈴木、栗山）	学習目標を確認する。
第2回 模擬試験①（栗山、川俣）	知識の修得状況を把握する。
第3回 基礎栄養学 問題解説（鈴木）	代謝経路などの知識を整理する。
第4回 応用栄養学 問題解説（川俣）	ライフステージごとの特徴を把握する。
第5回 臨床医学 問題解説（曾根）	疾病の特徴を理解する。
第6回 生化学 問題解説（外部講師）	不得意箇所の克服に努める。
第7回 模擬試験②（栗山、川俣）	知識の修得状況を把握する。
第8回 食品学 問題解説（八巻）	食品の機能などの知識を整理する。
第9回 食品加工学 問題解説（佐藤）	食品加工のポイントを確認する。
第10回 調理学 問題解説（深澤）	調理の基本を確認する。
第11回 公衆衛生学 問題解説（伊藤）	関係法規の要点を整理する。
第12回 模擬試験③（栗山、川俣）	知識の修得状況を把握する。
第13回 応用力問題（外部講師）	教員が提示したポイントを確認する。
第14回 公衆栄養学 問題解説（栗山）	栄養行政の特徴を理解する。
第15回 給食経営管理論 問題解説（担当者未定）	大量調理のポイントを確認する。

■ 履修上の注意

- ・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席がないように注意すること。
- ・模擬試験の開催日時、問題解説の内容については、掲示で連絡する。
- ・都合により、授業担当教員や授業の順序が変更となる場合もある。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点50%（平常点は、感想用紙の提出および問題集の進行度合いなどを総合的に判断する）、模擬試験の結果50%で評価する。
- ・提出物や模擬試験は、後日フィードバックを行う。

■ 教科書

〔管理栄養士国家試験 問題集〕〔大学作成〕

〔クエスチョンバンク2021〕〔メディックメディア〕※3年次に購入済み

授業担当の教員が担当した科目の教科書（掲示などで伝える）

■ 参考書

授業担当の教員が適宜紹介する。

■ 備考

質問等は、各授業の担当教員が授業終了時やオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で対応する。

キャリアサポート I

(11045)

単位：1 単位

対象学科：健専3年・服専3年

授業形態：演習 学期：通年

家政学部 大学共通教養科目

瀬戸典彦 教職員

■ 授業の概要

新型コロナウイルス感染拡大により世界経済が大きく変化している。さらに、就職活動の早期が進行しており、難しい進路選択の決断を短期間で下すのに必要な深い業界・企業研究手法と自身の強み・興味関心とのマッチング等の力が求められている。そこで、業界・企業の比較研究の強化をした上で、夏季インターンシップへの参加を推進し、進路選択に必要な知識とスキルを育むと共に、SPI、小論文、エントリーシート、面接、ビジネスマナー等就職試験を突破する力を身に付けることが出来るよう指導していく。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・幅広い視野で自らの進路を選択決定する力を身に付ける	①
・業界・企業を比較研究する知識とスキルを身に付ける	①
・就職試験を突破する力を身に付ける	⑥

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 就職活動準備スタートアップセミナー (授業ガイダンス・就活の流れ等)	これからやるべきことを理解すること
第2回 これからの生き方を考えるセミナー	積極的に行動することの大切さを理解すること
第3回 自己分析セミナー（ツールを用いた自己分析）	自分自身の強みや興味関心がどこにあるのかを理解すること
第4回 業界・企業基礎研究セミナー	業界・企業に関する情報収集と研究手法を身に付けること
第5回 業界・企業比較研究セミナー① (企業の比較と業績の差を考える)	業界・企業によって異なる業績の差とその原因を考える研究手法を身に付けること
第6回 業界・企業比較研究セミナー② (企業分析と自己理解のマッチング)	振り返り並びに企業分析と自分自身の強みや興味関心とのマッチング手法の基本を身に付けること
第7回 インターンシップセミナー	インターンシップの目的を理解し、積極的に参加すること
第8回 インターンシップ用エントリーシート対策セミナー	インターンシップ用エントリーシートの書き方の基本を身に付けること
第9回 採用する側の事情を知るセミナー	採用する側の組織上の課題と求める人物像を理解すること
第10回 プレゼンテーションセミナー	自分自身を上手にアピールするプレゼンの基本を身に付けること
第11回 SPI非言語基礎セミナー①（損益算・割合等） ※理解度等状況に応じて柔軟に内容を変更	配布資料を繰り返し復習し、短い時間内で確実に正解できる実力を身に付けること
第12回 SPI非言語基礎セミナー②（速さ・確率等） ※理解度等状況に応じて柔軟に内容を変更	配布資料を繰り返し復習し、短い時間内で確実に正解できる実力を身に付けること
第13回 SPI非言語応用セミナー①（集合等） ※理解度等状況に応じて柔軟に内容を変更	配布資料を繰り返し復習し、短い時間内で確実に正解できる実力を身に付けること
第14回 SPI非言語応用セミナー②（推論・グラフの領域等） ※理解度等状況に応じて柔軟に内容を変更	配布資料を繰り返し復習し、短い時間内で確実に正解できる実力を身に付けること
第15回 ビジネスマナーセミナー (就職活動は第一印象で決まる)	相手に好印象を与えるビジネスマナーを繰り返し実践して身に付けること
第16回 SPI模擬試験	弱点を把握しその克服に努めること
第17回 小論文対策セミナー① (論文、小論文、作文の違いとは)	論文、小論文、作文との違いを理解すること
第18回 小論文対策セミナー② (実際に小論文を書いてみる)	簡潔で分かり易い文章の書き方を理解すること
第19回 SPI模擬試験振り返りセミナー (模試結果の振り返りと復習)	確実に正解できる問題を増やすこと
第20回 就職活動準備中間振り返りセミナー (自己分析の復習と自己PRの土台作り)	エントリーシートや面接で必ず問われる自己PRを完成させること
第21回 就活本番用エントリーシート対策セミナー①	自分の知っている範囲でしか選択することが出来る

	(企業分析から始める自己理解)	ないことを理解したうえで、選択肢の幅を広げる手法を身に付けること
第22回	就活本番用エントリーシート対策セミナー② (選択肢の幅を広げる企業分析)	自分の知っている範囲でしか選択することが出来ないことを理解したうえで、選択肢の幅を広げる手法を身に付けること
第23回	就活本番用エントリーシート対策セミナー③ (自分自身の強みや興味関心と企業とのマッチング)	自分の知っている範囲でしか選択することが出来ないことを理解したうえで、選択肢の幅を広げる手法を身に付けること
第24回	面接対策セミナー① (対面式面接対策とロールプレイ)	今までこの授業で学んできた知識とスキルを発揮できるようにすること
第25回	面接対策セミナー② (WEB面接対策とロールプレイ)	今までこの授業で学んできた知識とスキルを発揮できるようにすること
第26回	人事採用担当者セミナー (B to B と B to C企業の組織・職種・仕事)	企業の組織、職種、その職種ごとの仕事の内容を理解し、今後の進路選択に役立てること
第27回	情報セキュリティセミナー	情報セキュリティの基本を学び、様々なアプリを安全快適に利用できるようにすること
第28回	労働法基礎セミナー (労働法の基礎と求人票の見方)	働く上で必要な労働法の基礎と求人票の見方を理解し、企業を見る目を養うこと
第29回	就職活動準備振り返りセミナー (就職活動の流れの再確認と就職環境)	就職活動の流れの再確認と就職環境を理解し、就職活動本番に備えること
第30回	内定者報告会	就職内定者のリアルな体験を聴き、自分自身の就職活動に活かすこと

■ 履修上の注意

学んだことを繰り返し復習し身に付けること。また、ミニットペーパーを活用して文章力向上に努めること
 良好な授業環境の実現とコロナウイルス対策のためこの授業は座席指定制とする。
 課外で行うセミナーにも積極的に参加して実力向上に努めること

■ 成績評価方法・基準

ミニットペーパーによる授業の理解度 (50%) 出席 (40%) 授業態度 (10%)

※他授業の内職を禁止する

■ 教科書

授業の際に資料を配布する

■ 参考書

業界地図 東洋経済新報社 1, 300円 会社四季報 東洋経済新報社 2, 091円

就職四季報総合版 東洋経済新報社 1, 900円 就職四季報女子版 東洋経済新報社 1, 900円 ※税抜価格

■ 備考

オフィスアワー

原則として、毎週木曜日午後3時～午後6時以外の時間に質問を受け付ける

キャリアサポートⅡ

(11046)

単位：1単位

対象学科：健専4年・服専4年・生美4年

授業形態：演習 学期：前期

家政学部 大学共通教養科目

瀬戸典彦 教職員

■ 授業の概要

学生が就職活動をする上で、一人ひとりが抱える課題解決の糸口が掴むことが出来る授業展開に努め、各自が希望する進路選択が実現できるよう指導していく。具体的には、第1回目の授業の中でアンケート調査を行い、一人ひとりが感じている就職活動に関する問題や不安、悩み等の聞き取りを行う。そして、集計したアンケート調査結果を講師陣と共有し、学生一人ひとりの課題解決に資する授業展開に努め、各自の希望する進路選択が実現できるよう指導並びに支援を行っていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・現在の就職環境をよく理解すること	①
・一人ひとりが抱える課題解決に努めること	③
・会社説明会に積極的に参加し進路選択に活用すること	⑤⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 就職活動復習セミナー	就職活動の流れを再確認するとともに、現在の就職環境を理解し企業の採用選考に臨むこと
第2回 エントリーシート復習セミナー① (一人ひとりのエントリーシートの課題に答える)	各自が抱えるエントリーシートに関する課題解決の糸口を掴み、学んだことを実践して結果を出すこと
第3回 エントリーシート復習セミナー② (模擬エントリーシートを書いてみる)	各自が抱えるエントリーシートに関する課題解決の糸口を掴み、学んだことを実践して結果を出すこと
第4回 小論文復習セミナー① (一人ひとりの小論文の課題に答える)	各自が抱える小論文に関する課題解決の糸口を掴み、学んだことを実践して結果を出すこと
第5回 小論文復習セミナー② (模擬小論文を書いてみる)	各自が抱える小論文に関する課題解決の糸口を掴み、学んだことを実践して結果を出すこと
第6回 面接復習セミナー① (一人ひとりの面接の課題に答える)	各自が抱える面接に関する課題解決の糸口を掴み、学んだことを実践して結果を出すこと
第7回 面接復習セミナー② (模擬面接ロールプレイ)	各自が抱える面接に関する課題解決の糸口を掴み、学んだことを実践して結果を出すこと
第8回 学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること
第9回 学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること
第10回 学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること
第11回 学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること
第12回 学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること
第13回 学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること
第14回 学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること
第15回 学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること

■ 履修上の注意

学んだことを実際の就職活動に活かし、自ら選択した進路実現に向かって努力すること

■ 成績評価方法・基準

ミニットペーパーによる授業の理解度（50%）出席（40%）授業態度（10%）※他授業の内職を禁止する

■ 教科書

授業の際に資料を配布する

■ 参考書

業界地図 東洋経済新報社 1, 300円 会社四季報 東洋経済新報社 2, 091円

就職四季報総合版 東洋経済新報社 1, 900円 就職四季報女子版 東洋経済新報社 1, 900円 ※税抜価格

■ 備考

オフィスアワー

原則として、毎週木曜日午後 3 時～午後 6 時以外の時間に質問を受け付ける

家政学部基幹科目

家政学原論

(11051)

単位：2単位

対象学科：健専1年・服専1年

授業形態：講義 学期：前期

家政学部基幹科目

八 卷 美智子

■ 授業の概要

「家政学とは何か」について学ぶ。近代以降家政学がどのように扱われてきたか、また現在、私たちが抱えている生活の問題点について概説する。家政学部で各自が所属する学科で専攻科目を学びながら人間生活と生活に関わる家政学の独自性に気づきその根本について説明する。さらに、実際に生活する上でいかに家政学が重要かを理解するとともに、各自が自立しよりよく生きるための力を身につけることの重要性を理解させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・家政学の独自性に気づき、その根本について理解する事。	①②⑥
・実際に生活する上でいかに家政学が重要かを理解する。	①②⑥
・自立しよりよく生きるための力を身につける。	②⑥⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	日頃から生活の諸問題に対し自分の意見を持ち行動する事。テキストを読む。
第2回 家政学とは	家政学とは何か理解し学ぶ大切さを実感すること。テキストを読む。
第3回 家政学をなぜ学ぶのか	家政学をなぜ学ぶのかを理解し、重要性に気がつくこと。テキストを読む。
第4回 家政学の特質、対象	家政学の対象の広さを知り、身近な学問と理解する事。テキストを読む。
第5回 家政学史 本学の歴史について	家政学の歴史などについて自分なりに調べる。テキストを読む。
第6回 我が国の家政学史(1) 学制以前～	家政学の歴史などについて自分なりに調べてレポート・発表する。テキストを読む。
第7回 家政学史 (2) 昭和時代～	テキストなどを読みながら復習する。
第8回 世界の家政学について (アメリカ) (ヨーロッパ)	これまでの授業を振り返り要点をまとめる。テキストなどを読みながら復習し憶える。
第9回 世界の家政学について (ヨーロッパなど)	これまでの授業を振り返り要点をまとめる。テキストなどを読みながら復習し憶える。
第10回 ここまでのまとめ (テスト)	これまでの授業をまとめる。テストの振り返り(内容確認)。
第11回 生活上の諸問題 (家庭、衣生活)	講義で学んだことを生かしレポートする題目を決める。
第12回 生活上の諸問題 (食生活など)	レポートする内容を決める。
第13回 生活上の諸問題 (住生活環境、消費生活)	レポートする内容について調べる。
第14回 生活上の諸問題 (福祉、高齢化社会)	レポートをまとめる。
第15回 まとめ 今後の家政学	レポートしたことを発表する。

■ 履修上の注意

出席を重視。私語は厳禁。

■ 成績評価方法・基準

テスト40%、レポート・発表30%、授業態度など（提出物やその内容、教員の指示に対応しているか）30%
テスト、レポート等については授業中にフィードバックをします。解答例を配布する場合があります。

■ 教科書

やさしい家政学原論 (一社) 日本家政学会家政学原論部会編 建帛社 2500円+税

■ 参考書

講義時に指示します

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。講義の順番や内容は前後または変更する可能性があります。

家族関係学

(11052)

単位：2単位

対象学科：健専1年・服専1年

授業形態：講義 学期：後期

家政学部基幹科目

八 巻 美智子

■ 授業の概要

「家族とは何か」について概説する。これまでの家族やその在り方、現在や今後の家族やその在り方について解説する。身近な存在である家族は特に成長過程において、大切な存在であることを理解させる。また、家族をめぐる諸問題やその背景にある社会の変化について、いろいろなデータも取り入れて講義する。そのデータを客観的に科学的に考察することで、さまざまな諸問題に対し自発的に解決できる能力を養うことの重要性を理解させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・さまざまな家族について理解する事。	①②⑥⑧
・家族を取り巻く諸問題について客観的に理解を深める事。	①②⑥⑧
・変化する社会と家族について問題点を見つけ改善していく能力を身に付ける事。	①②⑥⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	事後：家族について考える
第2回 家族とは、家族の種類と分類	家族の存在について考える
第3回 自分と家族	行事と家族について考える。これまでの内容を復習し、テキストを読む。
第4回 家族の多様化（生活スタイル）	行事と家族について考える。これまでの内容を復習し、テキストを読む。
第5回 これまでのまとめ（小テスト）	小テストに向けて学修する。これまでの内容を復習し、テキストを読む。
第6回 結婚と家族	家族について自分なりの考えをまとめる。テキストを読む。
第7回 家族関係と法律	家族関係と法律について理解を深める。テキストを読む。
第8回 新しい生命の誕生と家族	生命の誕生と家族のかかわりについて理解を深める。テキストを読む。
第9回 子どもの成長と家族	生命の誕生と家族のかかわりについて理解をより深める。テキストを読む。
第10回 様々な環境で育つ子ども	さまざまな環境下で育つ子どもについて理解する。テキストを読む。
第11回 高齢社会における家族	小テストに向けて学修する。これまでの内容を復習し、テキストを読む。
第12回 これまでのまとめ（小テスト）	レポート課題に取り組む。これまでの内容を復習し、テキストを読む。
第13回 家族のこれからの在り方	レポート課題に取り組む。これまでの内容を復習し、テキストを読む。
第14回 家族のこれからの在り方	図表を見て客観的に理解する。これまでの内容を復習し、テキストを読む。
第15回 まとめの講義	図表を見て客観的に理解する。これまでの内容を復習し、テキストを読む。

■ 履修上の注意

出席を重視。私語は厳禁。

■ 成績評価方法・基準

授業参加状況（提出物、授業に積極的に参加しているかなど）20%、小テスト50%、レポート課題30%
テスト、レポート等については授業中にフィードバックをします。解答例を配布する場合があります。

■ 教科書

変化する社会と家族 建帛社 定価2000円+税

■ 参考書

講義時に指示する

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。
講義の順番や内容は前後する場合や変更する可能性があります。

家庭経営学（家庭経済学を含む。）

(11053)

単位：2単位

対象学科：健専1年・服専1年

授業形態：講義 学期：前期

家政学部基幹科目

前田修也

■ 授業の概要

家庭生活を取り巻く環境は大きく変化している。社会のあらゆる面における国際化、少子・高齢化、情報化などである。本講義では、このような変化に対応した家庭経営のあり方を、「家計」という視点から解説する。その中で、現代の日本経済が直面している諸問題を社会保障制度などの基礎知識を織り交ぜながら、国民経済の中の家庭経済の位置と役割や家庭経済の基礎である世帯の変化など家政学の基本的視点を講義する。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・現代の日本経済が直面している諸問題を理解することができる	①②
・社会保障制度などの基礎知識を獲得することができる	①②
・家政学の基本的視点を理解することができる	①②

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス：講義内容についての概要の説明	1回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第2回 家庭経済とは何か①（家庭の経済活動）	2回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第3回 家庭経済とは何か②（家庭経済の特質）	3回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第4回 国民経済の中の家庭経済①（家庭経済と国民経済との関係）	4回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第5回 国民経済の中の家庭経済②（国民経済における家庭経済の収支）	5回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第6回 国民経済の中の家庭経済③（家庭経済の経済活動と国民経済）	6回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第7回 家庭経済の基礎としての世帯①（世帯規模と世帯構造の変動）	7回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第8回 家庭経済の基礎としての世帯②（核家族化）	8回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第9回 家庭経済の基礎としての世帯③（少子高齢化）	9回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第10回 収支と支出①（世帯の所得）	10回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第11回 収支と支出②（世帯の消費構造）	11回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第12回 収支と支出③（消費支出に影響を与える要因）	12回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第13回 物価①（物価とは何か）	13回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第14回 物価②（消費者物価指数の見方）	14回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく

く（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）

第15回 振り返り

振り返りの授業内容に関してノートを中心にまとめておく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）

■ 履修上の注意

私語を慎み、授業への積極的な参加を望みます。

■ 成績評価方法・基準

おおむね、振り返り（40%）、ノートの内容（30%）とレポートの内容（30%）で評価します。それぞれフィードバックを行います。

■ 教科書

〔一番わかりやすい日本経済入門〕〔塚崎公義〕〔河出書房新社〕〔902円〕

■ 参考書

毎回授業で提示します

■ 備考

オフィスアワーに関しては、開講時に話します。

服飾文化專攻科目

消費生活論

(11101)

単位：2単位

対象学科：服専2年

授業形態：講義 学期：前期

服飾文化専攻科目

水谷 浩

■ 授業の概要

私たちは、誰もが「消費者」である。さまざまな商品やサービスを購入し、それらを利用（消費）し、暮らしている。そうしたなか「経済的に効率良く、地球環境にも配慮し、暮らしていくためには、合理的な意思決定を行うための智慧（消費者力）が求められる。

本講義では、消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かし、消費者問題の歴史の変遷を解説するとともに、消費者・行政・企業の事例研究を通じて「現代社会を生きていくために知っておくべきこと、暮らしに役立つこと（消費者力）」の修得をめざしている。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--------------------------------|----|
| ・1)現代社会に欠かせない智慧として、消費者問題を理解できる | ①② |
| ・2)全ての人に関わる問題と認識し、消費者問題を説明できる | ⑤⑥ |
| ・3)今後の消費者・行政・企業のあるべき姿について説明できる | ④⑦ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	テーマ：授業のすすめ方・評価、消費者力の説明 概要：現代社会を生きていくための智慧とは？	授業計画やテキストなどを参考にして、予習すること。 講義ノートを読み直し、学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第2回	テーマ：消費者政策の歴史 概要：消費者保護基本法から消費者基本法へ転換した理由は？	同上
第3回	テーマ：消費者政策の理念と歴史 概要：消費者の4つの権利から6つの権利へ発展した理由は？	「消費者の4つの権利」と「消費者の6つの権利」についてA4用紙2枚（1,600字以上）のレポートにまとめ提出。
第4回	テーマ：消費者行政と消費者関係法 概要：消費者に役立つ様々な法律を学ぶ	同上
第5回	テーマ：消費生活の安全の確保 概要：消費生活相談員の役割を学ぶ	同上
第6回	テーマ：広告・表示の適正化 概要：景品表示法関連法令と事例について学ぶ	インターネット取引における広告・表示規制について調べ、A4用紙2枚（1,600字以上）のレポートにまとめ提出。
第7回	テーマ：消費者契約の適正化 概要：消費者契約法と重要説明事項を学ぶ	同上
第8回	テーマ：企業と業界団体の責務 概要：消費者・顧客志向の経営を学ぶ	同上
第9回	テーマ：消費者対応部門の役割と機能 概要：企業の消費者対応を学ぶ	東北地域の企業・業界団体の消費者対応を調べ、その概要をまとめるとともに、その取り組みに対する所感についてA4用紙2枚（1,600字以上）のレポートを作成し、提出。ただし、取り上げる企業・業界団体は3社以上とする。
第10回	テーマ：業界団体の消費者対応 概要：通販110番や訪問販売110番などの事例について学ぶ	同上
第11回	テーマ：消費者教育 概要：国民生活センターや日本消費者協会を事例について学ぶ	「現代社会を生きていくために知っておくべきこと、暮らしに役立つこと」の視点から、これまでの授業のなかで、最も印象に残ったことについて要約し、考察を加え、A4用紙2枚（1,600字以上）のレポートにまとめ提出。
第12回	テーマ：消費生活における情報の重要性 概要：合理的な意思決定とは？	同上
第13回	テーマ：消費生活情報の現況Ⅰ 概要：暮らしに役立つ情報を見極めるには？	同上
第14回	テーマ：消費生活情報の現況Ⅱ 概要：賢い消費行動の実践に向けて	同上

■ 履修上の注意

2/3以上の出席がない場合には、単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)に基づき評価する。

なお、課題については、授業中にフィードバックをします。

※ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔消費生活論〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔1600円〕

■ 参考書

授業中に適宜指示します。

■ 備考

質問などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に対応します。

地域文化論

(11102)

単位：2単位

対象学科：服専1年

授業形態：講義 学期：後期

服飾文化専攻科目

栗原 伸一郎

■ 授業の概要

本学が立地している仙台や東北といった地域に注目し、江戸時代から現代までの歴史・文化についてみていくことで、自分たちが立脚する地域の特徴や形成過程を確認する。具体的には、城下町・仙台および都市・仙台的成り立ちや、江戸時代の仙台人が認識した「日本」内外の政治・社会・文化の特徴、近世近代移行期の「東北」地方をめぐる地域内外の動き、などについて教授する。また、地域の歴史・文化を次代に継承していく方法や活動について紹介する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|-------------------------------|----|
| ・①仙台や東北の歴史・文化について理解できる。 | ⑦⑨ |
| ・②地域の歴史・文化を継承していく活動について理解できる。 | ⑦⑨ |
| ・③上記について関心を持ち、その意味を考える。 | ⑦⑨ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス～講義の概要～	配布プリントを再読し、授業の方向性について理解を深める。
第2回 仙台の歴史・文化①伊達政宗の生涯	配布プリントを再読し、書籍などで政宗について調べる。
第3回 仙台の歴史・文化②仙台城	配布プリントを再読し、仙台北城址を見学する。
第4回 仙台の歴史・文化③城下町・仙台	配布プリントを再読し、旧仙台北城下（市内中心部）を散策する。
第5回 仙台の歴史・文化④杜の都・仙台	配布プリントを再読し、『仙台市史』などの書籍に目を通す。
第6回 仙台藩士の異文化体験①蝦夷地	配布プリントを再読し、蝦夷地について書籍などで調べる。
第7回 仙台藩士の異文化体験②アメリカ	配布プリントを再読し、幕末期の対外関係について書籍などで調べる。
第8回 仙台藩士の異文化体験③アメリカと日本	配布プリントを再読し、『仙台市史』などの書籍に目を通す。
第9回 可変的な地域①幕末維新期の東北	配布プリントを再読し、『仙台市史』などの書籍に目を通す。
第10回 可変的な地域②近代の東北・仙台	配布プリントを再読し、本学が立地する行政区域の変遷を調べる。
第11回 地域の歴史・文化の継承①歴史・文化を伝えるもの	配布プリントを再読し、自分の出身地にある「歴史資料」「文化財」について調べてみる。
第12回 地域の歴史・文化の継承②NPOと資料保存	配布プリントを再読し、現在住んでいる地域にある「歴史資料」「文化財」について調べてみる。
第13回 地域の歴史・文化の継承③災害と資料保存	配布プリントを再読し、インターネットなどで、災害と資料保存をめぐる現状を調べる。
第14回 地域の歴史・文化の継承④行政と資料保存	配布プリントを再読し、博物館や資料館に出向く。
第15回 地域の歴史・文化の継承⑤公文書と資料保存	配布プリントを再読し、宮城県公文書館に出向き、実物を読んでみる。
第16回 試験	試験問題は事前に発表するので、準備をしておくこと。

■ 履修上の注意

歴史Ⅰと歴史Ⅱは、この講義と関連し、理解する上で参考になる。講義の進展状況等によっては、内容を一部変更する場合があります。

■ 成績評価方法・基準

平常点（毎回記入するミニットペーパーの内容で受講の姿勢や理解度を判断する）30%

期末試験（論述形式、課題は事前に発表する）70%

ミニットペーパーで示された有用な意見や質問、模範的な記入例などについては、適宜講義で取り上げて解説する。

■ 教科書

毎回プリントを配布する。

■ 参考書

『仙台市史』（通史編）。その他は講義中に紹介する。

■ 備考

質問等は授業終了時に受け付ける。

美術史 I

(11103)

単位：2単位

対象学科：服専1年

授業形態：講義 学期：前期

服飾文化専攻科目

瀬戸典彦

■ 授業の概要

①ヴィレンドルフのビーナスから近代に至る西洋美術史の過程に触れ、個々の作品の社会的背景及び作品間の関連性について教授する。②それぞれの受講生が穴埋めと補修によって完成させる「つくる美術史のテキスト」と「美術史脳を刺激する曖昧な絵-クイズ集」、「美術史脳を刺激する曖昧な絵-解答・解説集」を用い理解の深化を図る。③西洋の美術史における「オリジナリティ」の意味と価値について考察を促す。④作品と作品、美術家と美術家の関係性の中で歴史の脈絡が形成され、その流れの中で価値が構築されることを示唆する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・19世紀までの西洋美術史の脈絡について、自分の言葉で説明できる。
- ・作品間、美術家間の関係を説明できる。

①②

①②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 美術史における「個人」について	「つくる美術史のテキスト」による予習
第2回 古代メソポタミア文明以前の美術	「クイズ集」、「解答・解説集」1~9復習
第3回 古代エジプト文明の美術	「クイズ集」、「解答・解説集」10~13復習
第4回 古代ギリシャ文明化からヘレニズム時代の美術	「クイズ集」、「解答・解説集」14~23復習
第5回 エトルリア美術から初期キリスト教美術	「クイズ集」、「解答・解説集」24~28復習
第6回 ビザンティン美術	「クイズ集」、「解答・解説集」29~31復習
第7回 初期中世美術	「クイズ集」、「解答・解説集」32~35復習
第8回 中間テスト	中間テストの復習
第9回 ロマネスク・ゴシックの美術	「クイズ集」、「解答・解説集」36~40復習
第10回 ルネッサンス	「クイズ集」、「解答・解説集」41~47復習
第11回 盛期ルネッサンスとベネチア派	「クイズ集」、「解答・解説集」48~53復習
第12回 マニエリスムから北方ルネッサンス	「クイズ集」、「解答・解説集」54~59復習
第13回 バロック・ロココ	「クイズ集」、「解答・解説集」60~65復習
第14回 新古典主義・ロマン主義・写実主義の美術	「クイズ集」、「解答・解説集」66~69復習
第15回 産業革命と美術	「クイズ集」、「解答・解説集」70~74復習
第16回 試験	テキスト、参考書を用いて自己採点

■ 履修上の注意

毎回、クイズを課す。（必ず提出してから退出すること）中間テスト、期末試験を行う。

30分を超える遅刻については欠席扱いとする。30分以内の遅刻については、欠席1/3回とみなす。

■ 成績評価方法・基準

中間テスト：20%（フィードバックを行う） 期末試験：70%、クイズ提出：10%（フィードバックを行う）

期末試験では「つくる美術史のテキスト」の参照を認める。但し、その場合は、満点を80点とする。（参照なしの解答については、満点を120点とする）

■ 教科書

「つくる美術史のテキスト」〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕

■ 参考書

「美術史脳を刺激する曖昧な絵-クイズ集」〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕

「美術史脳を刺激する曖昧な絵-解答・解説」〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕

■ 備考

オフィスアワー：2時間/1週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する）

コロナウィルス感染拡大等の影響により当該シラバスに沿った授業の継続が困難となった場合は、シラバスを変更する。

美術史Ⅱ

(11104)

単位：2単位

対象学科：服専1年

授業形態：講義 学期：後期

服飾文化専攻科目

瀬戸典彦

■ 授業の概要

①縄文土器から浮世絵に至る日本美術史の過程に触れ、個々の作品の社会的背景及び作品間の関連性について教授する。②仏教美術の概要に触れ、日本美術への影響について理解を促す。③釈迦の思想と仏教美術の関係に触れ、仏教思想の体現としての仏教美術のあり方について考察を促す。④それぞれの受講生が穴埋めと補修によって完成させるワークシートとクイズ、解答例を用い理解の深化を図る。⑤日本の美術史における変化の背景について考察を促す。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---------------------------|----|
| ・日本美術史の流れについて説明できる。 | ①② |
| ・東洋美術史と日本美術史の関係について説明できる。 | ①② |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

回	授業内容	自習（事前・事後学修の内容）
第1回	オリエンテーション：縄文人が築いたもの 弥生人が築いたもの	ワークシート作成
第2回	縄文時代	クイズ（解答例）1から12復習
第3回	弥生時代・古墳時代の美術	クイズ（解答例）13から24復習
第4回	仏教、仏像について	クイズ（解答例）25から30復習
第5回	飛鳥時代の美術	クイズ（解答例）31から45復習
第6回	奈良（白鳳）時代の美術	クイズ（解答例）46から52復習
第7回	奈良（天平）時代の美術1（塑像等）	クイズ（解答例）53から81復習
第8回	中間テスト	中間テスト復習
第9回	奈良（天平）時代の美術2（乾漆像等）	クイズ（解答例）82から103復習
第10回	密教美術1（仏像）	クイズ（解答例）104から116復習
第11回	密教美術2（曼荼羅）	クイズ（解答例）117から119復習
第12回	平安時代の美術（立体）	クイズ（解答例）120から132復習
第13回	平安時代の美術（平面）	クイズ（解答例）133から151復習
第14回	鎌倉時代・南北朝時代・室町時代の美術	クイズ（解答例）152から157復習
第15回	桃山・江戸時代以降の美術	クイズ（解答例）158から162復習
第16回	試験	ワークシート、配布資料を用いて自己採点

■ 履修上の注意

毎回、クイズを行います。中間テスト、期末試験を行います。

30分を超える遅刻については欠席扱いとする。30分以内の遅刻については、欠席1/3回とみなす。

■ 成績評価方法・基準

中間テスト：20%（フィードバックを行う） 期末試験：70%、クイズ提出：10%（フィードバックを行う）

期末試験では「つくる美術史のテキスト」の参照を認める。但し、その場合は、満点を80点とする。（参照なしの解答については、満点を120点とする）

■ 教科書

〔つくる美術史のテキスト 日本・東洋編〕〔瀬戸典彦〕〔自費製作〕〔無料〕

■ 参考書

〔つくる美術史のテキスト-クイズ集 日本・東洋編〕〔瀬戸典彦〕〔自費製作〕〔無料〕

〔つくる美術史のテキスト-解答・解説集 日本・東洋編〕〔瀬戸典彦〕〔自費製作〕〔無料〕

■ 備考

オフィスアワー：2時間/1週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する）

コロナウィルス感染拡大等の影響により当該シラバスに沿った授業の継続が困難となった場合は、シラバスを変更する。

被服学

(11105)

単位：2単位

対象学科：服専1年

授業形態：講義 学期：前期

服飾文化専攻科目

菊 地 紗 代

■ 授業の概要

被服は人間の生活に大きな役割を果たしてきた。私たちを取り巻く社会環境は変化していくため、対応できるように被服について考えていく必要がある。そこで本講義では、健康・安全・快適性をキーワードに衣生活について概説する。人間の着用を中心におきながら、社会性、素材、品質と管理について取り上げる。さらに、消費、環境についても触れ、これからの衣生活を向上させるために必要な知識を習得させ、実践能力が高められるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・衣服の機能について理解できる。	①
・社会と被服の関係について理解できる。	②
・環境に配慮した衣生活を送るために必要な知識を身につける。	③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 被服学とは、人はなぜ装うのか	装いの機能についてまとめる。
第2回 気候風土と装い	民族服についてまとめる。
第3回 衣服のかたちの変遷①洋装	洋装についてまとめる。
第4回 衣服のかたちの変遷②和装	和装についてまとめる。
第5回 装いと健康	快適性についてまとめる。
第6回 装いによる気候調節	温度調節についてまとめる。
第7回 動きやすさと衣服	動きやすさについてまとめる。
第8回 衣服の素材	素材についてまとめる。
第9回 衣服の加工、品質	性能・加工、表示についてまとめる。
第10回 衣服の管理	洗濯、管理についてまとめる。
第11回 人の成長とからだつき、アパレル産業と既製服	体型、既製服についてまとめる。
第12回 装いのコミュニケーション	色、流行、個性についてまとめる。
第13回 ユニバーサルデザインと装い	ユニバーサルデザインについてまとめる。
第14回 装いと生活環境	再利用についてまとめる。
第15回 まとめ	レポートを作成する。

■ 履修上の注意

遅刻・欠席をしないこと。日頃から被服に関することに興味関心を持つこと。

■ 成績評価方法・基準

提出物（ワークシート・レポート）60%，受講状況（ミニットペーパー等）40%で評価する。（未提出がある場合は評価対象としないことがある。）

提出物については、授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。

■ 教科書

〔ビジュアル衣生活論〕〔岡田宣子編著〕〔建帛社〕〔2, 530円〕

■ 参考書

無し（適宜、プリントを配布する）

■ 備考

ルーブリック評価については、第一回目の授業で説明する。

質問等については、授業時間内または授業終了後に受け付ける。

色彩学

(11106)

単位：2単位

対象学科：服専2年

授業形態：講義 学期：後期

服飾文化専攻科目

内海陽子

■ 授業の概要

色彩の基本理論、知識を学び、色彩に関わる諸問題を調整・解決するための色のスペシャリスト
ファッションコーディネーター色彩能力検定3級受験に対応できる理論の習得を目的としており、色彩の基礎知識を身につける。

アパレルを中心としたファッションビジネスシーンで活躍できる基礎知識を教授する。

当講義では、大手アパレルメーカーで、年間30億円以上の商品バイイングマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在も、ファッション業界で多岐に渡って、活動している講師が担当する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・6月に行われるAFT色彩能力検定3級合格の実力をつける

①②③⑧⑨

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 光と色・色彩心理	教科書を熟読する
第2回 色の表示① 色の分類と三属性 PCCS 言葉による色表示	教科書を熟読し練習問題を学習する
第3回 色彩効果と生活・ファッションと色彩	教科書を熟読する
第4回 インテリアと色彩・色の見え方と色覚の仕組み	教科書を熟読する
第5回 色彩調和①配色の基本的な考え方 色相から配色を考える	教科書を熟読し練習問題を学習する
第6回 色彩調和②トーンから配色を考える	教科書を熟読し練習問題を学習する
第7回 AFTの色彩能力検定3級の試験対策	練習問題を学習する
第8回 AFTの色彩能力検定3級の試験対策 過去問題集	練習問題を学習する
第9回 さまざまな色覚タイプや高齢者の色の見え方	教科書を熟読する
第10回 色彩調和③配色カード演習 色相から調和を考える	教科書を熟読し練習問題を学習する
第11回 色彩調和④配色カード演習 トーンから調和を考える	教科書を熟読し練習問題を学習する
第12回 色彩調和⑤配色カード演習 アクセントカラー	教科書を熟読し練習問題を学習する
第13回 色彩調和⑥配色カード演習 グラデーション	教科書を熟読し練習問題を学習する
第14回 色彩の効果	教科書を熟読し練習問題を学習する
第15回 色彩の応用	教科書を熟読し練習問題を学習する

■ 履修上の注意

事前に教科書を熟読し、配布する練習問題を十分に学習してくること

■ 成績評価方法・基準

課題レポート（50％）事前・事後学習を含む授業姿勢（50％）で総合評価
提出された課題レポートは後日フィードバックする。

■ 教科書

〔色彩能力検定対策テキスト3級編〕〔（社）全国服飾教育連合会〕〔2, 835円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了後受け付ける。

日本服装史

(11107)

単位：2単位

対象学科：服専2年

授業形態：講義 学期：前期

服飾文化専攻科目

川 又 勝 子

■ 授業の概要

縄文時代から近代までの日本人の生活と服装の変遷について概説する。その際、服飾関連資料だけでなく、絵画・彫刻・文学・法令等と関連付けて読み取ることで、それぞれの時代の日本人の装いについて理解を深められるようにする。また、美術館・博物館等での学外研修や、本学資料室所蔵資料を使っての学習、図書館での調査等を随時取り入れることで、歴史資料や服飾関連資料についての見目を養い、それらについて考察する能力を身に付けさせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 日本人の生活と服装の変遷について理解できる。
- ・ 画像資料や文字資料について考察できる能力を身につける。
- ・ 日本文化について理解を深める。

③

①

②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション、原始衣服の時代（縄文～弥生時代）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第2回 胡服の時代1（古墳時代）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第3回 胡服の時代2（飛鳥時代）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第4回 唐風服飾時代（奈良時代）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第5回 唐風から国風の服装へ（平安時代）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第6回 貴族と武家の服装（中古・中世）	ワークシートの完成、学外研修の事前調査
第7回 学外研修：博物館・美術館等での研修	研修レポートの作成、次回キーワードの調査
第8回 小袖の変遷（中古・中世）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第9回 近世の服装1（安土桃山時代～江戸時代初期）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第10回 近世の服装2（小袖雛形と流行）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第11回 近世の服装3（身分と美意識）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第12回 近代の服装1（明治時代）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第13回 近代の服装2（大正～昭和時代）、プレゼンテーションの説明	ワークシートの完成、グループワークの準備
第14回 グループワーク1（プレゼンテーション準備）	各自でプレゼン準備を進める
第15回 グループワーク2（フリップ作成）	フリップ完成、発表練習など、各自で進める
第16回 試験：プレゼンテーション	プレゼンテーションの反省、ファイルまとめ

■ 履修上の注意

遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけること。学外研修の費用は自己負担とします。

■ 成績評価方法・基準

ワークシート・参加状況を60%、プレゼンテーション・レポートによる評価を40%として評価します。なおワークシートやレポートを添削して後日返却することでフィードバックとします。

■ 教科書

〔きものと裂のことば案内〕〔長崎巖〕〔小学館〕〔1, 944-〕

■ 参考書

〔日本服飾史辞典〕〔増田美子 他〕〔東京堂出版〕〔25, 920-〕

■ 備考

博物館・美術館等の展示内容・展示期間により、シラバスの順番が前後することがあります。また、質問等は、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）時に受け付けます。

染織文化演習

(11108)

単位：1 単位

対象学科：服専3年

授業形態：演習 学期：前期

服飾文化専攻科目

川 又 勝 子

■ 授業の概要

日本の染織技術は、日本各地の風土や人々からの需要により発展したものであり、その繊細で高度な技術は世界に類を見ないものである。本演習では、古くから行われた伝統染織の基本的な方法について実習を取り入れながら概説する。特に、東北地方において行われた植物染料による染色・特徴的な文様染め・古布の再利用法・刺し子について取り上げることで、厳しい生活条件にありながらもできる限り美しいものを身につけようとしていた東北地方の先人達の知恵と工夫についても理解を深めさせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 伝統染織について理解し、基本的技法を習得する。
- ・ 東北地方の染織文化について理解する。

⑦

③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション	配布プリントを熟読し、ポイントをまとめる
第2回	藍染めについて、染色の準備	板書内容の復習、藍についての文献調査
第3回	藍と日本人	制作ノートを記入し、染色方法を理解する
第4回	藍染めによる小作品制作	制作ノートを記入し、レポートを作成する
第5回	仙台と染色（常盤紺型について）	板書内容の復習、文様についての文献調査
第6回	常盤紺型文様の小作品制作	制作ノートを記入し、レポートを作成する
第7回	刺し子について	板書内容の復習、刺し子についての文献調査
第8回	刺し子による小作品制作①（準備を含む）	制作ノートを記入し、制作を進める
第9回	刺し子による小作品制作②（仕上げまで）	制作ノートを記入し、レポートを作成する
第10回	古布の再利用について	板書内容の復習、古布再利用の文献調査
第11回	古布を再利用した小作品制作	制作ノートを記入し、レポートを作成する
第12回	日本の赤	板書内容の復習、赤色系植物染料についての文献調査
第13回	茜染めの準備	制作ノートを記入し、染色方法を理解する
第14回	茜染めによる小作品制作	制作ノートを記入し、レポートを作成する
第15回	授業のまとめ	制作ノートの完成、レポートの不備を修正

■ 履修上の注意

染織文化史を履修していることが望ましい。遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけること。時間内に進められなかった箇所は次回までに必ず行ってください。制作ノートはその都度きちんとまとめてください。材料費として2,500円程度を徴収します。

■ 成績評価方法・基準

提出物（制作物・レポート）による評価を55%、受講状況（制作ノート・参加状況）を45%として評価します。なお、提出物や制作ノートにコメントを付して後日返却することでフィードバックとします。

■ 教科書

プリントを配布します。

■ 参考書

その都度指示します。

■ 備考

ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標としてください。染料の準備状況や受講生の進度によりシラバス内容が前後する事があります。質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

被服機構・衛生学

(11109)

単位：2単位

対象学科：服専1年

授業形態：講義 学期：後期

服飾文化専攻科目

久慈 るみ子

■ 授業の概要

衣服は常に人の皮膚表面を覆う最も身近な環境で、しかも皮膚と接触するものであることから、人の生理・心理・健康に大きな影響を及ぼす。そこで衣服のあり方を人体の生理衛生、運動機能の視点から理解し、健康に適した衣服とはどのような条件を備えたものであるか学修する。また機能性衣服についても、そのメカニズムを理解する。授業ではディスカッションやグループワークを交え日常生活に活かせる衣服の基礎から進化する衣服までを教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・ 人体の生理・運動機能の基礎知識を身につけることができる。	①③
・ 衣服素材・構造・機能性を理解し、的確な選択ができる。	③④⑤
・ ライフステージを考慮した選択と着装ができる。	③⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 環境としての被服	事前：シラバスに目を通し授業の概要を把握する。 事後：ノートを整理する。
第2回 気候と体温調節	事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第3回 暑さ・寒さと人体生理	事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第4回 被服の気候調節能力：被服材料	事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第5回 被服の気候調節能力：着衣の熱抵抗	事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第6回 被服の気候調節能力：着衣の蒸発抵抗	事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第7回 運動への適応：人体構造と動作機能	事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第8回 運動への適応：衣服圧の発生要因と人体への影響	事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第9回 運動への適応について、グループディスカッションを通して理解を深める	事前：これまでのノートを確認する。事後：ディスカッションの内容をまとめる。
第10回 皮膚の生理・衛生	事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第11回 衣服の安全性（衣料障害）	事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第12回 進化する衣服：寒冷対策・暑熱対策	事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第13回 高齢社会における衣服	事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第14回 子供服	事前：資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第15回 衣生活と環境についてグループディスカッションを行う	事前：これまでのノートを確認する。事後：ディスカッションの内容をまとめる。
第16回 試験と解説	

■ 履修上の注意

配布された資料は毎回持参してください。

■ 成績評価方法・基準

健康で快適な衣服について理解し日常生活へ応用できること。それを自分の言葉で説明できることを評価の基準とします。期末試験（60%）、授業、ディスカッションへの参加度（40%）。試験後、解説を行う。

■ 教科書

授業前にプリントを配布します。

■ 参考書

〔衣環境の科学〕〔田村照子編〕〔建帛社〕他、授業内で指示します。

■ 備考

授業終了後（オフィスアワー）。質問はミニッツペーパーに記入し、提出してください。次回授業の始めに解説します。

スタートアップソーイング

(11110)

単位：1単位

対象学科：服専1年

授業形態：演習 学期：前期

服飾文化専攻科目

菊地 紗代

■ 授業の概要

被服造形分野に不可欠な基礎知識と、縫製技術の基礎・基本を習得させる。縫製に使われる用具、布地の扱い方、手縫いの基礎、ミシン・アイロンの使い方などについて教授する。布地と副資材の選び方では、仙台市内の店舗にて学外研修を実施する。課題制作は基礎的事項を重視した内容であり、縫製方法を正しく習得させ、応用展開につながる技術と実践力を身に付けさせる。オーダー・お直し、服飾教育現場に携わった講師が教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 服飾造形分野の基礎的知識と技術、実践力を身につける。
- ・ 自己管理能力、論理観、課題解決能力を身につける。

①⑤
⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	被服製作の基礎知識、用具確認、基礎縫い準備	教科書に目を通す。基礎縫いの準備。
第2回	基礎縫い：手縫い①（並縫い、しつけ）	指定箇所まで作業を終わらせる。
第3回	〃 ②（まつり）	指定箇所まで作業を終わらせる。
第4回	〃 ③（留め具付け）	指定箇所まで作業を終わらせる。
第5回	ミシン縫い①（直線ミシン使い方）	指定箇所まで作業を終わらせる。
第6回	〃 ②（縫い代始末、ロックミシン使い方）	課題を完成させる。
第7回	課題制作：ハーフパンツ・定規ケース作図、用布の見積もり	指定箇所まで作業を終わらせる。
第8回	布地、副資材の選び方（学外研修）	研修内容を見直す。
第9回	課題制作：型紙カット、地直し	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第10回	裁断、印付け	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第11回	本縫い①ハーフパンツ：脇、裾	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第12回	② 〃 股ぐり	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第13回	③ 〃 ウエスト、提出	課題を完成させ、制作ノートをまとめる。
第14回	④定規ケース	課題を完成させ、制作ノートをまとめる。
第15回	試着、発表	全行程を振り返る。

■ 履修上の注意

遅刻・欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は、必ず次回までに終わらせておくこと。授業に必要な裁縫用具一式を毎回持参すること。課題制作の材料費は各自負担。

■ 成績評価方法・基準

提出物60%、受講状況（作業状況、制作ノート）を40%として評価する。（未提出がある場合は評価対象としないことがある。）課題については、授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。

■ 教科書

〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座① 服飾造形の基礎 文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔2, 850円〕

■ 参考書

〔アパレル設計実習 アパレル生産実習〕〔日本衣料管理協会〕〔2, 750円〕

〔誌上・パターン塾 Vol.1.3パンツ編〕〔文化出版局〕〔1, 700円〕

■ 備考

演習内容や課題は、作業の進行状況等により、変更する場合がある。ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。質問等については、授業時間内または授業終了後に受け付ける。

アパレル製図法 I (平面)

(11111)

単位：1 単位

対象学科：服専1年

授業形態：演習 学期：前期

服飾文化専攻科目

菊 地 紗 代

■ 授業の概要

人体とパターンの関係を理解し、身頃のパターンの作図と展開法の基本理論を習得する。原型の作図、シーチングモデルの製作、試着、補正を通し、各自のサイズに合った原型を製作する。標準寸法原型を用い、ダーツの移動・操作、衿ぐり・衿、袖などパーツ別に学修させ、各種デザインにパターン展開ができることを理解させる。また、男子の原型について取り上げる。オーダー・お直し、服飾教育現場に携わった講師が指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・身頃原型を作図することができる。

①③

・身頃原型のダーツ移動・操作により、パターン展開できる。

①③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	身頃原型：作図 標準寸法 (1/4) 身頃①基本線	指定箇所まで作業を終わらせる。復習する。
第2回	〃 ②輪郭線/採寸	課題を完成させる。復習する。
第3回	男子原型 標準寸法 (1/4)	課題を完成させる。復習する。
第4回	各自サイズ (実寸)	課題を完成させる。復習する。
第5回	パターンカット, シーチング準備	指定箇所まで作業を終わらせる。復習する。
第6回	シーチング裁断, 印入れ	指定箇所まで作業を終わらせる。復習する。
第7回	仮縫い	指定箇所まで作業を終わらせる。復習する。
第8回	試着	指定箇所まで作業を終わらせる。復習する。
第9回	補正	課題を完成させる。復習する。
第10回	小テスト：身頃原型作図 標準寸法 (1/4) / 袖 (1/4)	小テスト対策の学習をする。復習する。
第11回	ダーツの移動と分散 (1/4)	課題を完成させる。復習する。
第12回	ブラウス身頃・衿 (1/4)	課題を完成させる。復習する。
第13回	〃 袖 (1/4)	課題を完成させる。復習する。
第14回	袖展開 (1/4)	課題を完成させる。復習する。
第15回	まとめ	全行程を振り返る。

■ 履修上の注意

授業に必要な用具一式を毎回持参すること（定規一式含む）。シャープペンシル（0.3, 0.5, 0.7cm・各HB）、鉛筆（HB）、電卓も各自準備のこと。遅刻・欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は、必ず次回までに終わらせておくこと。

■ 成績評価方法・基準

提出物60%、受講状況（作業状況）20%、小テスト20%として評価する。（未提出がある場合は評価対象としないことがある。）課題については、授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。

■ 教科書

〔アパレル設計実習 アパレル生産実習〕〔日本衣料管理協会〕〔2, 750円〕

■ 参考書

〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座① 服飾造形の基礎〕〔文化出版局〕〔2, 805円〕

〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座③ブラウス・ワンピース〕〔文化出版局〕〔1, 870円〕

プリント配布〔文化ファッション大系服飾造形講座⑨メンズウエア I〕〔文化出版局〕〔2, 805円〕より

■ 備考

演習内容や課題は、作業の進行状況等により、変更する場合がある。ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。質問等については、授業時間内または授業終了後に受け付ける。

アパレル製図法Ⅱ(応用)

(11112)

単位：1単位

対象学科：服専1年

授業形態：演習 学期：後期

服飾文化専攻科目

菊地 紗代

■ 授業の概要

アパレル製図法Ⅰの原型作図・操作を踏まえ、各アイテムの作図法を総体的に学び、応用展開できる製図法の習得を目指す。スカートは、原型を基に各種デザインスカートへの展開方法を習得させる。パンツ・ワンピース・ジャケットは基本形を学修させ、それぞれのデザインに適した作図法を教授する。また、身頃原型の立体裁断を取り上げ、平面裁断との違いについて実習を通して理解を深めさせる。オーダー・お直し、服飾教育現場に携わった講師が指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・ スカート原型を作図し、パターン展開することができる。	①③
・ 各アイテムの基本パターンを作図することができる。	①③
・ 立体裁断と平面裁断の違いを理解することができる。	⑤

■ 授業計画

自習(事前・事後学修の内容)

第1回 スカート原型：作図 標準寸法(1/4)	課題を完成させる。復習する。
第2回 展開(1/4) ①セミタイト ②フレア	課題を完成させる。復習する。
第3回 ③ゴアード ④ヨークスカート	課題を完成させる。復習する。
第4回 小テスト：スカート作図 標準寸法(1/4) / 子供服	小テスト対策の学習をする。復習する。
第5回 パンツ(1/4)	課題を完成させる。復習する。
第6回 ワンピース(1/4) ①身頃	課題を完成させる。復習する。
第7回 " ②衿・袖	課題を完成させる。復習する。
第8回 ジャケット(1/4) ①身頃	課題を完成させる。復習する。
第9回 " ②衿	課題を完成させる。復習する。
第10回 " ③袖	課題を完成させる。復習する。
第11回 立体裁断(身頃原型)：準備	指定箇所まで作業を終わらせる。復習する。
第12回 ドレーピング①前	指定箇所まで作業を終わらせる。復習する。
第13回 " ②後ろ	指定箇所まで作業を終わらせる。復習する。
第14回 トレース	課題を完成させる。復習する。
第15回 まとめ	全行程を振り返る。

■ 履修上の注意

授業に必要な用具一式を毎回持参すること(定規一式含む)。シャープペンシル(0.3, 0.5, 0.7cm・各HB)、鉛筆(HB)、電卓も各自準備のこと。遅刻・欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は、必ず次回までに終わらせておくこと。

■ 成績評価方法・基準

提出物60%、受講状況(作業状況)を20%、小テスト20%として評価する。(未提出がある場合は評価対象としないことがある。)課題については、授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。

■ 教科書

〔アパレル設計実習 アパレル生産実習〕〔日本衣料管理協会〕〔2, 750円〕

■ 参考書

〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座② スカート・パンツ〕〔文化出版局〕〔1, 870円〕

〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座③ブラウス・ワンピース〕〔文化出版局〕〔1, 870円〕

プリント配布〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座④ジャケット・ベスト〕〔文化出版局〕〔1, 870円〕より

■ 備考

演習内容や課題は、作業の進行状況等により、変更する場合がある。ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。質問等については、授業時間内または授業終了後に受け付ける。

被服造形実習Ⅰ

(11113)

単位：1単位

対象学科：服専2年

授業形態：実習 学期：前期

服飾文化専攻科目

菊地紗代

■ 授業の概要

服飾造形に関する基本的な縫製知識・技術の習得を目指し、製作を通して衣服の基本的構造の理解を深めさせる。課題として綿素材のシャツブラウスを製作する。製図は、身頃原型のダーツ移動・操作を復習し、シャツカラー、半袖とする。採寸、デザインに合った布地の選択、裁断、印つけ、仮縫い・補正、布地・副資材の取り扱い、縫製方法などについて教授する。オーダー・お直し、服飾教育現場に携わった講師が指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・・ブラウスの製図ができる。

③⑤

・・基本的な縫製知識・技術を身につける。

①③⑤

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ブラウスについて、採寸、製図(実寸)：身頃・衿提出	製図の復習をする。制作ノート作成。
第2回	製図：袖提出、パターン確認・カット、用布の見積もり	製図を完成させる。制作ノート作成。材料の準備。
第3回	表地：地直し・裁断	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第4回	芯：裁断・接着、印付け	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第5回	仮縫い	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第6回	試着・補正	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第7回	縫い代整理、衿裁断、縫製工程確認	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第8回	本縫い①ダーツ・ポケット・肩	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第9回	②衿作り・衿付け	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第10回	③脇・裾	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第11回	④袖作り・袖付け	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第12回	⑤ボタンホール・ボタン付け、仕上げ 提出	課題・制作ノートを完成させる。
第13回	部分縫い：ギャザースリーブ①準備	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第14回	〃 ②本縫い	部分縫いを完成させる。制作ノート完成。
第15回	試着、発表	全行程を振り返る。

■ 履修上の注意

必要な裁縫用具一式を毎回持参すること。第一回目の授業時に自分の原型を準備すること。遅刻・欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は、必ず次回までに終わらせておくこと。材料費は各自負担。

■ 成績評価方法・基準

提出物60%，受講状況（作業状況，制作ノート）を40%として評価する。（未提出がある場合は評価対象としないことがある。）課題については、授業中にフィードバック，又は後日添削して返却する。

■ 教科書

〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座③ ブラウス・ワンピース 文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔1, 870円〕

■ 参考書

〔アパレル設計実習 アパレル生産実習〕〔日本衣料管理協会〕〔2, 750円〕

〔誌上・パターン塾 Vol.1.1 トップ編〕〔文化出版局〕〔1, 667円〕

■ 備考

演習内容や課題は，作業の進行状況等により，変更する場合がある。ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。質問等については，授業時間内または授業終了後に受け付ける。

被服造形実習Ⅱ

(11114)

単位：1単位

対象学科：服専2年

授業形態：実習 学期：後期

服飾文化専攻科目

菊地紗代

■ 授業の概要

衣服製作の一連の工程を通し、衣服の基本的構造、制作過程を教授する。衣服の制作に関する専門的な知識・技術の習得を目指す。課題として裏付きスカートを作成する。パターンは基本のセミタイトとし、ウール素材のチェック柄を用いて柄合わせを学ぶ。採寸、裁断、仮縫い・補正、ウール生地その他、裏地などの副資材の取り扱い、ファスナー・ベルトの縫製方法などについて取り上げ、理解を深めさせる。オーダー・お直し、服飾教育現場に携わった講師が指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|------------------------|----|
| ・ ・ スカートの製図ができる。 | ③⑤ |
| ・ ・ 専門的な縫製知識・技術を身につける。 | ③⑤ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 スカートについて、採寸、製図（実寸）提出、用布の見積	製図の完成。制作ノート作成。材料の準備。
第2回 パターン確認・カット、表地：地直し・裁断、印付け	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第3回 仮縫い、シーチングベルト作製	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第4回 試着・補正	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第5回 縫い代整理、裏地・ベルト裁断、縫製工程確認	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第6回 部分縫い①-1コンシールファスナー付け（表地）	部分縫いを完成させる。制作ノート作成。
第7回 本縫い①表地：ロックミシン、左脇 ② // コンシールファスナー付け	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第8回 ③ // ダーツ、右脇、裾始末	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第9回 ④裏地：脇、裾	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第10回 部分縫い①-2コンシールファスナー付け（裏地）	部分縫いを完成させる。制作ノート作成。
第11回 本縫い⑤裏地：コンシールファスナー付け	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第12回 ⑥ウエスト、ベルト作り・付け	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第13回 ⑦前カン付け、中綴じ、裾ループ、仕上げ 提出	課題・制作ノートを完成させる。
第14回 部分縫い②フラットニットファスナー付け（ボーチ）	課題・制作ノートを完成させる。
第15回 スカート試着、発表	全行程を振り返る。

■ 履修上の注意

被服実習Ⅰを履修していること。授業に必要な裁縫用具一式を毎回持参すること。遅刻・欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は、必ず次回までに終わらせておくこと。材料費は各自負担。

■ 成績評価方法・基準

提出物60%、受講状況（作業状況、制作ノート）を40%として評価する。（未提出がある場合は評価対象としないことがある。）課題については、授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。

■ 教科書

〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座② スカート・パンツ 文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔1, 870円〕

■ 参考書

〔アパレル設計実習 アパレル生産実習〕〔日本衣料管理協会〕〔2, 750円〕

■ 備考

演習内容や課題は、作業の進行状況等により、変更する場合がある。ループリック評価については第一回目の授業で説明す

る。質問等については、授業時間内または授業終了後に受け付ける。

被服造形実習Ⅲ

(11115)

単位：2単位

対象学科：服専3年

授業形態：実習 学期：通年

服飾文化専攻科目

菊 地 紗 代

■ 授業の概要

これまで被服造形実習Ⅰ・Ⅱなどを履修して習得してきた知識や縫製技術をさらに向上させ、応用発展させることを目的とする。課題として、ウール地を用いた基本的な総裏付きジャケットを製作する。ジャケットの製図は、衿や見返し・裏地の展開についても取り組み、工業用（縫い代付き）パターンとする。表地・裏地・副資材の取り扱い、アイロンによるくせとり方法、二枚袖の縫製、各種ポケットの縫製方法など、より専門的な技術の習得を目指す。オーダー・お直し、服飾教育現場に携わった講師が教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ ジャケットの製図、パターン展開ができる。
- ・ 高度で専門的な縫製知識・技術を身につける。

③⑤
③⑤⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ジャケットについて、採寸	教科書に目を通す。復習する。
第2回	製図：各自サイズ（実寸）①身頃 提出	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第3回	②衿、袖 提出	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第4回	パターン確認・カット、シーチング準備	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第5回	シーチング：裁断、印付け	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第6回	仮縫い①身頃、衿	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第7回	②袖、ポケット	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第8回	試着、補正	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第9回	製図：見返し・衿・裏地の展開	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第10回	縫い代付け、用布の見積もり	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第11回	表地：地直し、裁断	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第12回	芯：裁断・接着、印付け、テープ貼り、くせとり	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第13回	裏地：裁断、印つけ、縫製工程確認	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第14回	本縫い①身頃（表地）	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第15回	②身頃（裏地、見返し）	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第16回	部分縫い①パッチポケット	部分縫いを完成させる。制作ノート作成。
第17回	②箱ポケット	部分縫いを完成させる。制作ノート作成。
第18回	③フラップポケット 提出	部分縫いを完成させる。制作ノート作成。
第19回	本縫い③ポケット付け	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第20回	④背、脇、肩	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第21回	⑤衿つけ	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第22回	⑥見返し返し	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。

第23回 ⑦袖作り	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第24回 ⑧袖付け（表地）	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第25回 ⑨袖付け（裏地）	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第26回 ⑩パット付け，中綴じ	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第27回 ⑪裾	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第28回 ⑫ボタンホール，ボタン付け	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第29回 ⑬仕上げ，提出	課題・制作ノートを完成させる。
第30回 試着，発表	全行程を振り返る。

■ 履修上の注意

被服実習Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。第一回目の授業時に自分の原型を持参する事。

遅刻・欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は、必ず次回までに終わらせておくこと。材料費は各自負担。

■ 成績評価方法・基準

提出物60%、受講状況（作業状況、制作ノート）を40%として評価する。課題については、授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。

■ 教科書

〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座④ ジャケット・ベスト〕〔文化出版局〕〔1, 870円〕

■ 参考書

〔アパレル設計実習 アパレル生産実習〕〔日本衣料管理協会〕〔2, 750円〕

〔誌上・パターン塾 Vol.1.1 トップ編〕〔文化出版局〕〔1, 667円〕

■ 備考

受講生の進度によりシラバス内容が前後することがある。ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。課題が未提出、実施されない場合には評価の対象としないことがある。質問等については、授業時間内または授業終了後に受け付ける。

ファッションデザイン

(11116)

単位：2単位

対象学科：服専1年

授業形態：講義 学期：後期

服飾文化専攻科目

岡本 はるみ

■ 授業の概要

人の第一印象とは、視覚と感覚や物腰から得る印象であるが、衣服は瞬時にその人となりを判断する視覚ツールそのものである。授業では、ファッションは特別なものではなく自己表現の手段であり、ファッションが果たす役割とその効果を教授し、女性の服装史を通して、時代の政治や文化、気候風土など服装に与える多々の影響がファッションとなり世界に波及していく原理を学ばせる。

ファッションデザインワークの基礎として、デザインディテール名称と服飾用語、衣服のベーシックアイテムの種類と名称を学ばせ、そのデザイン画の描き方を指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・衣服を通して様々なことに関心を持ち観察力をつける
- ・ファッションが持つ力を理解する
- ・デザインディテール名称と服飾用語を学ぶ

⑤
③⑧
①

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 服飾デザイン（ファッションデザイン）の意義	ファッションについてレポートを書く
第2回 ファッションの発生と波及・その役割について	研究課題－1
第3回 装飾審美（服装美）の造形表現	研究課題－2
第4回 造形三要素、8大感性	研究課題－3
第5回 シルエット（ライン）	デザインワーク
第6回 色彩と材質	デザインワーク
第7回 デザインの成立と構成	研究課題－4
第8回 衣服の分類・その仕分け方について	研究課題－5
第9回 スカートとパンツの各部名称	研究課題－6
第10回 スカートの名称とデザイン説明、描き方レッスン	作品を仕上げる
第11回 カラーの名称とディテール説明、描き方. レッスン	作品を仕上げる
第12回 袖（スリーブ）の名称とデザイン説明、描き方	作品を仕上げる
第13回 ディテールデザイン名称と描き方レッスン	作品を仕上げる
第14回 オリジナルデザイン作品 感性とデザインのマッチング	イメージするデザインを数点描いておく
第15回 オリジナルデザイン作品 仕上げ	仕上がらない場合は締切日までに提出

■ 履修上の注意

衣服のデザインや素材に関心を持つこと。作画に必要な定規・鉛筆など指定された用具を各自用意する。

■ 成績評価方法・基準

単元ごとに提出する研究課題とデザインワーク作品 100%

それぞれの課題作品は採点・添削して、返却することでフィードバックとする。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する

■ 参考書

なし

■ 備考

ファッションの流動性や、授業構成の都合でシラバス内容が前後する場合がある。

授業で理解できないところや質問は、授業中に受付ける。

ファッションデザイン画

(11117)

単位：1単位

対象学科：服専2年

授業形態：演習 学期：前期

服飾文化専攻科目

岡本 はるみ

■ 授業の概要

ファッションデザイン画を学ぶにあたり、ファッションが持つ「意味」と「力」その必要性を認識させる。美は人間が本能的に求める一つの欲求でありファッションである。その服装美の効果を得るための具体的展開を研究し、8～9分割で全身デザイン画を描く指導をする。個々人の美意識の違いや異なった資質を“感性”として捉え、その“イメージ”を考察してデザイン画を描く表現技法と彩色テクニックを学ばせ、服飾用語、シルエット・ディテール・テキスタイルなどの専門知識を教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・・テキスタイルとデザインの関連性を学ぶ	③④
・・製図を見てデザイン画が欠ける	①
・・イメージ・インスピレーションを作品（デザイン画）にする	⑦⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ファッションの発生と波及・今昔について	自分こだわりファッション考察レポート
第2回 プロポーション・ベーシックを描く	作品を仕上げ次授業時に提出
第3回 プロポーション・ポージングを描く	作品を仕上げ次授業時に提出
第4回 布の材質表現と形状表現（質感・ギャザー、ドレープなど）	作品を仕上げ次授業時に提出
第5回 ディテール名称と描き方レッスン（カラー・スリーブ）	自分の持ち服のディテール調査レポート
第6回 脚の表情と描き方、デザインスカートを描く	作品を仕上げ次授業時に提出
第7回 デザインワーク【カラー・スリーブにデザインのあるウェア】	作品を仕上げ次授業時に提出
第8回 製図を見てデザイン画を描く（ダーツ・切り替え線など）	習作課題を描き上げて提出
第9回 製図を見てデザイン画を描く（袖山・袖付け位置など）	習作課題を描き上げて提出
第10回 デザインワーク【感性表現－感性からデザインへ進む工程】	8大感性のイメージからうける印象をまとめておく
第11回 オリジナルデザインのイメージマップ作り→感性決定	デザインを数点スケッチしておく
第12回 デザイン画～今！自分服～タイトルを決めて作画・下描き	タイトル・デザイン決定のプロセスをまとめて書き出しておく
第13回 デザイン画 彩色（色の作り方、アクセント表現）	作画表現で苦労した点を書き出しておく
第14回 デザイン画 仕上げ	プレゼンテーション用に資料をまとめる
第15回 今！自分服・プレゼンテーション	

■ 履修上の注意

教科書、参考書は無いので、事前に調べる事柄や課題は怠ることのないようにする。

作画に必要な用具は各自持参する。

■ 成績評価方法・基準

課題レポート20%、課題作品80%（バランス、ディテール描写、オリジナリティー、色彩表現、アピール力）として評価し、提出課題は後日、ポイント指導を書き入れ添削して返却することでフィードバックとする。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する

■ 参考書

なし

■ 備考

ファッションは流動的である事と演習授業であるため、授業計画通りに進まない場合がある。

質問は授業中に受ける。

ファッションデザイン画

(11118)

単位：1単位

対象学科：服専3年

授業形態：演習 学期：前期

服飾文化専攻科目

岡本 はるみ

■ 授業の概要

ファッションデザイン画を学ぶにあたり、ファッションが持つ「意味」と「力」その必要性を認識させる。美は人間が本能的に求める一つの欲求でありファッションである。その服装美の効果を得るための具体的展開を研究し、8～9分割で全身デザイン画を描く指導をする。個々人の美意識の違いや異なった資質を“感性”として捉え、その“イメージ”を考察してデザイン画を描く表現技法と彩色テクニックを学ばせ、服飾用語、シルエット・ディテール・テキスタイルなどの専門知識を教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・テキスタイルとデザインの関連性を学ぶ	③④
・製図を見てデザイン画が欠ける	①
・イメージ・インスピレーションを作品（デザイン画）にする	⑦⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ファッションの発生と波及・今昔について	自分こだわりファッション考察レポート
第2回 プロポーション・ベーシックを描く	作品を仕上げ次授業時に提出
第3回 プロポーション・ポージングを描く	作品を仕上げ次授業時に提出
第4回 布の材質表現と形状表現（質感・ギャザー、ドレープなど）	作品を仕上げ次授業時に提出
第5回 ディテール名称と描き方レッスン（カラー・スリーブ）	自分の持ち服のディテール調査レポート
第6回 脚の表情と描き方、デザインスカートを描く	作品を仕上げ次授業時に提出
第7回 デザインワーク【カラー・スリーブにデザインのあるウェア】	作品を仕上げ次授業時に提出
第8回 製図を見てデザイン画を描く（ダーツ・切り替え線など）	習作課題を描き上げて提出
第9回 製図を見てデザイン画を描く（袖山・袖付け位置など）	習作課題を描き上げて提出
第10回 デザインワーク【感性表現－感性からデザインへ進む工程】	8大感性のイメージからうける印象をまとめておく
第11回 オリジナルデザインのイメージマップ作り→感性決定	デザインを数点スケッチしておく
第12回 デザイン画～今！自分服～タイトルを決めて作画・下描き	タイトル・デザイン決定のプロセスをまとめて書き出しておく
第13回 デザイン画 彩色（色の作り方、アクセント表現）	作画表現で苦労した点を書き出しておく
第14回 デザイン画 仕上げ	プレゼンテーション用に資料をまとめる
第15回 今！自分服・プレゼンテーション	

■ 履修上の注意

教科書、参考書は無いので、事前に調べる事柄や課題は怠ることのないようにする。

作画に必要な用具は各自持参する。

■ 成績評価方法・基準

課題レポート20%、課題作品80%（バランス、ディテール描写、オリジナリティー、色彩表現、アピール力）として評価し、提出課題は後日、ポイント指導を書き入れ添削して返却することでフィードバックとする。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する

■ 参考書

なし

■ 備考

ファッションは流動的である事と演習授業であるため、授業計画通りに進まない場合がある。

質問は授業中に受ける。

アパレル設計論

(11119)

単位：2単位

対象学科：服専2年

授業形態：講義 学期：後期

服飾文化専攻科目

玉田真紀

■ 授業の概要

アパレル産業とは、その歴史の変遷と商品分類を考えた上で、アパレル生産の2つの工程（注文服と既製服）について、商品企画・素材選定から生産段階まで、特徴と課題を解説する。さらに、アパレル設計に必要な人体形態（個体差）を把握するための計測方法と、既製服の設計に必要なJIS衣料サイズ規格について解説する。また、パターン設計を習得するための基礎である原型と様々な立体化技法への展開方法についても演習を通して解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・アパレル設計・生産の専門知識が身につく	③⑤⑦
・アパレル業界で活躍するために必要な思考力が身につく	③⑤⑦
・アパレル商品を客観的に見る力が身につく	②③⑤⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 アパレル産業とは：歴史の変遷とアパレルの商品分類	アパレルの類似語について調べる
第2回 アパレル生産の2つの工程（1）注文服の生産工程	注文服の生産工程の特徴をまとめる
第3回 アパレル生産の2つの工程（2）既製服の生産工程	既製服の生産工程の特徴をまとめる
第4回 注文服と既製服生産の比較	利点と問題点について考える
第5回 人体の構造と計測方法	人体各部の名称を復習する
第6回 衣服設計のための人体の採寸方法（1）成人女子	採寸方法を復習する
第7回 衣服設計のための人体の採寸方法（2）成人男子	採寸方法を復習する
第8回 衣料サイズ規格（1）体格調査の変遷（2）衣料サイズの種類	衣料サイズ表示を調べてみる
第9回 衣料サイズ規格（3）JIS成人男子と成人女子衣料サイズ	JIS衣料サイズの復習をする
第10回 衣服設計の基礎となる布地の立体化技法、動作性と設計	立体化技法が利用された例を探す
第11回 パターン設計（1）立体裁断と平面作図（2）原型とは	原型の種類と特徴を復習する
第12回 パターン設計（3）見ごろ原型の展開	原型からの展開を復習する
第13回 パターン設計（4）袖原型と動作性（5）袖原型の展開	袖原型と動作性を復習する
第14回 パターン設計（6）衿の種類（7）衿型紙の展開	衿のパターンを復習する
第15回 加齢に伴う体型変化とパターンの補正	体型変化と補正を復習する
第16回 試験	

■ 履修上の注意

遅刻3回で1回欠席扱い、1/3以上欠席者は原則として不合格にする。

講義には教科書を使用する。適宜、プリントを配布するのでファイルに整理する。

授業後に疑問点や質問事項を書くこと。できるだけ次回に解答するようにする。

■ 成績評価方法・基準

授業後の感想や質問の書き込み内容（10%）試験（90%）（試験は教科書、ノート、プリント全て持込み可）授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。

■ 教科書

〔アパレル設計・生産論〕〔衣料管理協会〕〔2, 300円〕

■ 参考書

授業前にプリントを配布する。参考書も回覧し紹介する。

■ 備考

質問があれば授業後に受け付けます。

アパレル生産実習

(11120)

単位：1単位

対象学科：服専3年

授業形態：実習 学期：後期

服飾文化専攻科目

井上美紀

■ 授業の概要

実習を通じて、アパレル設計生産論で学んだ知識を深め、さらに、品質の良い製品を効率的に工業生産するための工業生産方式に関連する事柄について教授する。特に実習では、工業生産に関わる工程の中で、工業用パターンメイキング、縫製仕様書の作成と縫製仕様書に従った作業等を行い、全体の仕組みと流れを教授する。生産工程では、検反から縫製作業・製品評価についての事項と技術も教授する。さらに、作業効率化のための工程分析や近年注目されているIOTやAI・PRA等の活用についても触れる。

■ 授業の到達目標

- ・工業生産に必要な知識と技能、思考力を身に着ける。
- ・課題解決能力を身につける。

学位授与の方針との関連

④⑤

⑦

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 はじめに：実習の進め方、縫製機器の理解と縫製見本の作成①	縫製機器の仕様を振り返る。毎時間、進度目標より遅れた場合は各自次時まで終わらせること。
第2回 縫製機器の理解と縫製見本の作成②	縫製見本を完成させる。
第3回 縫製仕様書の作成① 原案作成	縫製仕様書案を検討する。
第4回 生産工程と分析① 作業工程分析とパターン分析	作業工程表案を検討する。
第5回 生産工程と分析② 作業工程表の作成	作業工程表を完成させる。
第6回 工業用パターンの作成① パターンの作成	パターンを完成させる。
第7回 工業用パターンの作成② 工業用パターンへの展開	工業用パターンを完成させる。
第8回 工業用パターンの作成③ グレーディング、マーキング	グレーディングパターンを完成させる。これまでの学習内容を振り返る。
第9回 縫製作業工程分析表の作成① 工程分析を基に作成	縫製作業工程分析表案を検討する。
第10回 縫製作業工程分析表の作成② 工程分析を基に作成	縫製作業工程表案を検討する。
第11回 縫製仕様書の作成② 校正 縫製作業工程分析表の作成③ 校正	縫製仕様書と縫製作業工程分析表を完成させる。
第12回 縫製機器レイアウト、工場でのIot・AI・PRAの活用	プリントに目を通す。これまでの学習内容を振り返る。
第13回 最終課題の提示、資料作成	課題に取り組む。
第14回 最終課題の資料作成	課題に取り組み完成させる。
第15回 おわりに：発表、課題の振り返り、授業のまとめ	全範囲を振り返る。

■ 履修上の注意

- 遅刻・欠席をせず、課題を計画通りに進めること。
- 必要な道具を（洋裁セット、衣服等）を毎回持参する。
- 製図用紙4枚、分解しても構わない衣服（備考欄参照）を各自準備する。

■ 成績評価方法・基準

- 課題の取り組み状況、進度等の受講状況50%、課題・提出物50%
- ルーブリック評価は第1回の授業で説明する。
- 課題は、授業中にフィードバック、または後日添削して返却する。

■ 教科書

アパレル設計生産論、日本衣料管理協会（2年次に購入済）

■ 参考書

必要に応じて紹介する。

■ 備考

実習の作業状況、機器の台数の都合により、授業計画の順番や内容の変更を行う場合がある。質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。課題が未提出、実施されない等の際には、評価の対象としない。

分解しても構わない衣服は、襟・カフス付きシャツまたはブラウスとし各自用意する。

アパレルCAD I

(11121)

単位：1 単位

対象学科：服専2年

授業形態：演習 学期：後期

服飾文化専攻科目

佐藤理恵

■ 授業の概要

？数々の国内メーカーの型紙や縫製仕様、工業用パターン製作に携わった経験を、アパレルCADの講義及び実技演習を通じて教授する。

？アパレルCAD（パターンメイキング、工業用パターンメイキング、マーキング）とは何か。

？企業でのアパレルCADの役割（服作りとしての知識の把握、設計や生産工程の効率化等）。

？アパレルCADでどのようなことが出来るのか基本操作を中心に説明し、演習（身頃の原型、スカートの原型、パターン作成）を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・1. アパレルCADの基本操作ができる。

①②③⑤⑥

・2. アパレルCADで原型を作成する技術を習得する。

①②③⑤⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション	
第2回	基本操作（CADソフトの起動・終了、直線、曲線、図形等）	基本操作の復習、原型の書き方を予習
第3回	作図①（見頃の原型作成：新文化式）	作図①の復習
第4回	作図②（見頃の原型作成に縫い代等をつける）	作図②の復習、スカート基本形の書き方を予習
第5回	作図③（スカートの基本形作成）	作図③復習
第6回	作図④（スカートの基本形から工業用パターンへと展開）	作図④の復習
第7回	マーキングとは何かを学ぶ	マーキングについて復習
第8回	まとめ、試験	

■ 履修上の注意

遅刻、欠席をしないこと。

初回の講義で説明する履修上の注意を厳守すること。

■ 成績評価方法・基準

試験80%、平常点20%（平常点は授業への総合的な取り組みで判断する。）

試験は採点后、後日返却する。

■ 教科書

使用せず、必要に応じて授業前にプリントを配布

■ 参考書

〔CADパターンメイキング〕〔文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔2, 754円〕

■ 備考

・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。

・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受付けます。

アパレルCADⅡ

(11122)

単位：2単位

対象学科：服専3年

授業形態：講義 学期：前期

服飾文化専攻科目

佐藤理恵

■ 授業の概要

？数々の国内メーカーの型紙や縫製仕様、工業用パターン製作に携わった経験を、アパレルCADの講義及び実技演習を通じて教授する。

？アパレルCAD（パターンメイキング、工業用パターンメイキング、マーキング、グレーディング）とは何か。

？企業でのアパレルCADの役割（服作りとしての知識の把握、設計や生産工程の効率化等）を教授する。

？アパレルCADでどのようなことが出来るのか基本操作及び応用について講義し、演習（身頃の原型、スカートの原型、ブラウスのパターン作成）を行う。

？自由作図（ワンピース・パンツ・ベスト・ジャケット・コート等のパターン作成）を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--------------------------------------|----------|
| ・1. アパレルCADの基本操作からの応用技術を学ぶことができる。 | ①②③⑤⑥⑦⑧⑨ |
| ・2. アパレルCADで多種多様なアイテムを作成し専門技術を身に着ける。 | ②③④⑤⑥⑦⑧⑨ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション	アパレルCADⅠの復習
第2回 基本操作の復習（CADソフトの起動・終了、直線、曲線、等）	基本操作の復習
第3回 作図① 原型を利用した展開（ダツターの展開、分散等）	展開等の復習
第4回 作図② 原型を使用してデザイン展開	作図②の復習、ブラウスパターンの予習
第5回 作図③（ブラウス作図）	作図③の復習
第6回 作図④（ブラウスパターンを工業用パターンへと展開）	作図④の復習
第7回 作図⑤（スカートパターンを作図してデザインパターンへ展開）	作図⑤の復習、スカートパターンの予習
第8回 作図⑥（スカートパターンを工業用パターンへと展開）	作図⑥の復習
第9回 スカートパターンを3Dで展開、グレーディングとは何か	3Dの復習、自由作図のレポート
第10回 作図⑦（自由作図）ワンピース等を作図する	作図⑦の復習
第11回 作図⑧（自由作図）同上	作図⑧の復習
第12回 作図⑨（自由作図）同上	作図⑨の復習
第13回 作図⑩（自由作図）⑨で作図した型紙を用いて縫製仕様書を作成	作図⑩の復習
第14回 作図⑪（自由作図）作図した型紙を1/2サイズと実寸で印刷、	作図⑪の復習
第15回 まとめ、試験	

■ 履修上の注意

初回の講義で説明する履修上の注意を厳守すること。

アパレルCADⅠを選択していることが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

遅刻、欠席しないこと。

期末試験70%、課題（自由作図、レポート、縫製仕様書）30%、試験、課題は採点后、後日返却する。

■ 教科書

使用せず、必要に応じて授業前にプリントを配布

■ 参考書

〔CADパターンメイキング〕〔文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔2, 754円〕

■ 備考

- ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。
- ・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受付けます。

服飾工芸・造形（服飾手芸）Ⅰ

(11123)

単位：1単位

対象学科：服専2年

授業形態：実習 学期：前期

服飾文化専攻科目

横 田 美 和

■ 授業の概要

刺繍とは生地針と糸で装飾を施す手芸のひとつである。その中のフランス刺繍は基本のステッチが一通りできる刺繍の種類である。

前半では生地の扱い方や針や糸の扱い方、多様なステッチの技法を教授する。後半ではオリジナル作品（バックなどの小物）を制作する。その為のデザイン、材料選び等の準備を通して作業工程の理解を深め完成度を高めるための技術を身につけられるように教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・ 刺繍の基本ステッチの技法を身につける。	⑤⑦⑨
・ 習得した技法を応用作品に活かせる。	⑤⑦⑨
・ 制作、用途に合わせた素材、技法の選び方を身につける。	⑤⑦⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 「授業内容と進め方」「用具と材料」の説明。 基本ステッチ①「布端裁ちかがり」「図案写し」	次回から基本ステッチができるように図案を写し終わっておく
第2回 基本ステッチ②「布の扱い方」「刺繍糸の扱い方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第3回 基本ステッチ③ No.1からNo.6	時間内に終わらない時は終わらせておく
第4回 基本ステッチ④ No.7からNo.11	時間内に終わらない時は終わらせておく
第5回 基本ステッチ⑤ No.12からNo.17	時間内に終わらない時は終わらせておく
第6回 基本ステッチ⑥ No.18からNo.22	時間内に終わらない時は終わらせておく
第7回 基本ステッチ⑦ No.23からNo.28	時間内に終わらない時は終わらせておく
第8回 基本ステッチ⑧ No.29からNo.31	時間内に終わらない時は終わらせておく
第9回 基本ステッチ⑨「布端の始末」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第10回 基本ステッチ⑩「仕上げの仕方」「提出」	仕上げをして提出する
第11回 オリジナル作品「デザイン」「布・糸の準備」	次回から使用する布と糸を準備する
第12回 オリジナル作品 基本ステッチから選んでステッチ	時間内に終わらない時は終わらせておく
第13回 オリジナル作品 基本ステッチから選んでステッチ	時間内に終わらない時は終わらせておく
第14回 オリジナル作品 基本ステッチから選んでステッチ	時間内に終わらない時は終わらせておく
第15回 オリジナル作品「縫製」「仕上げ」「提出」	仕上げをして提出する

■ 履修上の注意

材料費（布と糸）600円。丁寧な制作を心がけ、遅れた場合は次回までに終わらせておく。

■ 成績評価方法・基準

課題作品60%・受講態度40%

※課題が未提出の際には評価の対象としないことがあります。提出物は添削して後日返却します。

※受講態度はその時間の作業工程を理解・クリアしているかの状況をみて評価します。

※ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標としてください。

■ 教科書

授業前にプリントを配布

■ 参考書

無し

■ 備考

都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。

質問等については授業終了後に受け付けます。

服飾工芸・造形（服飾手芸）Ⅱ

(11124)

単位：1単位

対象学科：服専2年

授業形態：実習 学期：後期

服飾文化専攻科目

横 田 美 和

■ 授業の概要

編み物（手編み）の中には、複数の棒針を使って編む「棒針編み」と、鉤状のかぎ針1本を使って編む「かぎ針編み」がある。

前半では、かぎ針編みでコースターとミニドイリーを、後半では、2本の針を用いて棒針編みの基本の編み方でマフラーを制作する。制作しながら糸の種類や太さに合ったかぎ針、棒針の「道具の選び方」「編み目記号図の見方」「道具の使い方」「編み方」等の基礎を教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・編み物の「編み目記号」「記号図の見方」を身につける。	⑤⑦⑨
・「糸と針の使い方」「編み方」等の基礎を身につける。	⑤⑦⑨
・制作に合わせた素材を選び編み物ができる。	⑤⑦⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 「授業内容と進め方」「用具と材料」の説明。 かぎ針編み①「糸と針の持ち方」「作り目の作り方」	次回から使用するかぎ針と糸を各自準備する
第2回 かぎ針編み②コースター「記号図の見方と編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第3回 かぎ針編み③コースター「編み方」「仕上げ」「提出」	これまでの工程をまとめ、提出する
第4回 かぎ針編み④ミニドイリー「編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第5回 かぎ針編み⑤ミニドイリー「編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第6回 かぎ針編み⑥ミニドイリー「編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第7回 かぎ針編み⑦ミニドイリー モチーフを繋げて仕上げ提出	モチーフを繋げて提出する
第8回 棒針編み①「糸と針の持ち方」「作り目の作り方」	次回から使用する棒針と糸を各自準備する
第9回 棒針編み②マフラー「記号図の見方と編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第10回 棒針編み③マフラー「編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第11回 棒針編み④マフラー「編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第12回 棒針編み⑤マフラー「編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第13回 棒針編み⑥マフラー「編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第14回 棒針編み⑦マフラー「編み方」「目の止め方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第15回 棒針編み⑧マフラー フリンジを付けて仕上げ提出	フリンジを付けて提出する

■ 履修上の注意

材料（糸と針）は各自準備する。丁寧な制作を心がけ、遅れた場合は次回までに終わらせておく。

■ 成績評価方法・基準

課題作品60%・受講態度40%

※課題が未提出の際には評価の対象としないことがあります。提出物は添削して後日返却します。

※受講態度はその時間の作業工程を理解・クリアしているかの状況を見て評価します。

※ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標としてください。

■ 教科書

授業前にプリントを配布

■ 参考書

無し

■ 備考

都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。

質問等については授業終了後に受け付けます。

服飾工芸・造形（織物）Ⅲ

(11125)

単位：1 単位

対象学科：服専4年

授業形態：実習 学期：前期

服飾文化専攻科目

横 田 美 和

■ 授業の概要

卓上織機を使用し織物を制作するための知識や技術を教授する。

前半はテキスタイルデザインⅠで学んだ作業工程と道具の使い方等を振り返る。また、織物の三原組織（平織、綾織、縹子織）の他にもある変化組織についても、組織図の見方・書き方を教授し制作につなげる。

後半ではオリジナル作品を制作する。そのためのデザイン・材料選び等の準備を通して、より作業工程の理解を深め更に織物製品としての完成度を高めるための技術を身につけられるように教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--------------------------|----|
| ・ 織物に関する技術を身につける。 | ⑤⑦ |
| ・ 織物の組織についての知識を身につける。 | ⑤⑦ |
| ・ 織物制作を通して布製品の扱い方を身につける。 | ③⑦ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 「授業内容と進め方」の説明と織物組織・道具類の確認	三原組織・変化組織を調べておく
第2回 「設計表作り」と「整経」作業	時間内に終わらない時は完成させておく
第3回 「経巻」と「小拵え」作業	時間内に終わらない時は完成させておく
第4回 「織る」作業（前半）	時間内に終わらない時は完成させておく
第5回 「織る」作業（後半）	時間内に終わらない時は完成させておく
第6回 仕上げと講評	これまでの工程をまとめておく
第7回 オリジナル作品のデザインと設計表作り。	オリジナル作品のデザインを考えておく
第8回 「整経」作業	時間内に終わらない時は完成させておく
第9回 「経巻」作業	時間内に終わらない時は完成させておく
第10回 「小拵え」作業	時間内に終わらない時は完成させておく
第11回 「織る」作業（前半）	時間内に終わらない時は完成させておく
第12回 「織る」作業（中間）	時間内に終わらない時は完成させておく
第13回 「織る」作業（後半）	時間内に終わらない時は完成させておく
第14回 仕上げ	時間内に終わらない時は完成させておく
第15回 講評・まとめ	これまでの工程をまとめておく

■ 履修上の注意

オリジナル作品で使用する糸は各自で購入のこと。

講義一回で一工程進むため遅れた場合は次回までに終わらせておく。

■ 成績評価方法・基準

課題作品60%・受講態度40%

※課題が未提出の際には評価の対象としないことがあります。提出物は添削して後日返却します。

※受講態度はその時間の作業工程を理解・クリアしているかの状況をみて評価します。

※ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標としてください。

■ 教科書

授業前に資料を配布する。

■ 参考書

無し

■ 備考

都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。

質問等については授業終了後に受け付けます。

被服繊維学

(11126)

単位：2単位

対象学科：服専1年

授業形態：講義 学期：前期

服飾文化専攻科目

菅野修一

■ 授業の概要

被服繊維の観点から高分子化学について講述する。繊維の性質や製造法について理解を深めることをとおして、高分子化学に関する学問体系全体の概念に接することを重視するが、より具体的には、繊維の分子構造に由来する繊維特性について詳しく解説する。一方、原始時代から今日に至るまでの繊維の歴史が、科学技術発展の歴史と明確にリンクしていることを理解を深めることで、日常的にげなく当たり前で使用している被服の奥深さを認識させ、そのベースとなっている学問の幅の広さについても繰り返し説明する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・高分子の概念の理解。
- ・繊維の体系的な理解。

①②③⑤⑨
①②③⑤⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	高分子とは何か：高分子の特徴と分子量	教科書指定ページの熟読。
第2回	高分子とは何か：環境と高分子	教科書指定ページの熟読。
第3回	高分子鎖のかたち：コンホメーションとコンフィグレーション	教科書指定ページの熟読。
第4回	繊維としての高分子化合物	教科書指定ページの熟読。
第5回	天然繊維：植物繊維（種子毛繊維）	講義ノートの総まとめ（1回目）。
第6回	天然繊維：植物繊維（靱皮繊維と葉脈繊維）	教科書指定ページの熟読。
第7回	天然繊維：動物繊維（繭繊維）	教科書指定ページの熟読。
第8回	天然繊維：動物繊維（獣毛繊維）	教科書指定ページの熟読。
第9回	化学繊維：再生繊維・半合成繊維	教科書指定ページの熟読。
第10回	化学繊維：合成繊維	講義ノートの総まとめ（2回目）。
第11回	化学繊維：最新の合成繊維	教科書指定ページの熟読。
第12回	高分子の合成：付加重合	教科書指定ページの熟読。
第13回	高分子の合成：重縮合	課題を指定。
第14回	高分子の合成反応速度論	教科書指定ページの熟読。
第15回	機能性ポリマー：様々な最新のポリマー	講義ノートの総まとめ（3回目）。

■ 履修上の注意

理解をより深めるため、有機化学Ⅰ・Ⅱ及び化学Ⅰ・Ⅱの受講が望ましい。

■ 成績評価方法・基準

小テスト30%、レポート30%、課題プレゼンテーション40%を基準として総合的に評価する。レポートについてはフィードバックを行う。小テストは直後に答え合わせをする。

■ 教科書

[繊維製品の基礎知識シリーズ第1部] [日本衣料管理協会刊行委員会] [日本衣料管理協会] [1800円]

■ 参考書

必要なプリント配布

■ 備考

質問に関してオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

被服繊維学実験

(11127)

単位：1単位

対象学科：服専1年

授業形態：実験 学期：後期

服飾文化専攻科目

井上美紀

■ 授業の概要

被服繊維学で学んだ知識について実験を通してさらに理解を深められるように、繊維の鑑別実験、繊維の製造実験、繊維の取出し実験、繊維から糸・糸から織物の制作実験、糸の番手・表示実験を主に教授する。特に繊維の鑑別実験では、各繊維の特徴をとらえることができるように実験方法と分析方法についても解説する。また、はじめての科学的な実験になるため、実験の進め方や器具の使い方、溶液の調整方法、レポートのまとめ方、実験データの考察の仕方についても教授する。実験は全てグループワーク（以下GW）とする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・繊維、糸、織物等に関する高度な知識・技術を身につける。
- ・実験を通じ、論理的思考力や倫理観等を身につける。

③
⑤⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	はじめに：概要、進め方、グループ構成、実験上の注意、器具の使い方、溶液の調整① GW	器具の名称、溶液の調整方法を覚える。
第2回	溶液の調整②、試薬取り扱いの注意、レポート作成方法、鑑別実験1 外観・手触り GW	試薬の取り扱い方とレポートの書式を覚える。テキストで次時実験項目に目を通す。
第3回	鑑別実験②-1 各種試薬に対する溶解性、判定表の作成 GW	レポートを作成しプリントに目を通す。
第4回	鑑別実験②-2 各種試薬に対する溶解性、未知試料の鑑別 GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第5回	鑑別実験③ 燃焼特性 GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第6回	鑑別実験④-1 顕微鏡による形態観察 観察試料の作成 GW	プリントに目を通す。
第7回	鑑別実験④-2 顕微鏡による形態観察 未知試料の鑑別 GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第8回	鑑別実験⑤ 染色性・呈色反応 GW	レポートを作成しプリントに目を通す。
第9回	鑑別実験⑥ 赤外線吸収スペクトル GW	プリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第10回	鑑別実験のまとめ	これまでの内容を振り返り、各繊維の特徴を把握する。
第11回	繊維の製造 合成繊維 GW	プリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第12回	天然繊維の取り出し 絹・綿・紡績 GW	プリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。紡績で撚糸を完成させる。
第13回	糸に関する実験 番手・撚り・表示 GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第14回	織布の制作① 手織	プリントに目を通す。織作業を終わらせる。
第15回	織布の制作② 織機（基本組織）GW おわりに：実験のまとめ、レポート校正	プリントに目を通す。全範囲とレポート校正箇所を振り返る。

■ 履修上の注意

安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねて臨むこと。

必要に応じ電卓を持参する（携帯電話不可）。レポートは、指定の実験ノートとファイルを使用する。

■ 成績評価方法・基準

実験が終了する毎に提出するレポートを適切にまとめ、考察することに対し50%

事前準備をしてグループで協力しながら実験結果を出すことに50%

ルーブリック評価は第1回の授業で説明します。レポートは後日添削して返却する。

■ 教科書

繊維製品の基礎知識シリーズ 第1部 日本衣料管理協会 入学時購入済

■ 参考書

授業前にプリントを配布する。

■ 備考

実験作業状況等の都合により、授業計画の順番等を変更することがある。

質問は、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

評価と実験の進め方は1回目の授業で説明する。

レポートが未提出の際には、評価の対象としない。

被服材料学

(11128)

単位：2単位

対象学科：服専1年

授業形態：講義 学期：後期

服飾文化専攻科目

菅野修一

■ 授業の概要

主にケミストリーの観点から被服材料について論述する。被服材料について科学的に理解を深めることをとおして、科学に関する学問体系全体の概念に接することに主眼をおく。より具体的には、関連物質を化学式で理解し、その特性との因果関係を解説する。さらには、原始時代から今日に至るまでの繊維の歴史が、科学技術発展の歴史と明確にリンクしていることをの理解を深めることで、日常なにげなく当たり前で使用している被服の奥深さを認識させ、そのベースとなっている学問の幅の広さについても繰り返し説明する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・被服材料及び関連物質を化学式で理解。
- ・織物と編物の基礎知識の習得。

①②③④⑤⑨
①②③⑤

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	被服材料としての繊維の歴史	教科書指定ページの熟読。
第2回	被服材料としての繊維とは何か	教科書指定ページの熟読。
第3回	セルロースと植物繊維	教科書指定ページの熟読。
第4回	タンパク質と動物繊維	教科書指定ページの熟読。
第5回	原油と合成繊維	講義ノートの総まとめ（1回目）。
第6回	糸の分類	教科書指定ページの熟読。
第7回	糸の製造プロセス	教科書指定ページの熟読。
第8回	糸の構造と性質	教科書指定ページの熟読。
第9回	織物の分類と製造法	教科書指定ページの熟読。
第10回	織物の組織	講義ノートの総まとめ（2回目）。
第11回	織物の構造と性質	教科書指定ページの熟読。
第12回	編物の分類と製造法	教科書指定ページの熟読。
第13回	編物の組織	課題を指定。
第14回	編物の構造と性質	教科書指定ページの熟読。
第15回	環境保全の観点からの繊維のリサイクルについて	講義ノートの総まとめ（3回目）。

■ 履修上の注意

理解をより深めるため、有機化学Ⅰ・Ⅱ及び化学Ⅰ・Ⅱの受講が望ましい。

■ 成績評価方法・基準

小テスト30%、レポート30%、課題プレゼンテーション40%を基準として総合的に評価する。レポートについてはフィードバックを行う。小テストは直後に答え合わせをする。

■ 教科書

[繊維製品の基礎知識シリーズ第1部] [日本衣料管理協会刊行委員会] [日本衣料管理協会] [1800円]

■ 参考書

必要なプリント配布

■ 備考

質問に関してオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

被服材料学実験

(11129)

単位：1 単位

対象学科：服専2年

授業形態：実験 学期：前期

服飾文化専攻科目

井上美紀

■ 授業の概要

被服材料学で学んだ知識について、実験を通してさらに理解を深められるように、織物・編物の構造分析、被服材料の性能に関わる消費性能試験を主に教授する。織物の基本構造と分析では、織布の作成方法と様々な織物への展開方法を教授する。布の消費性能試験では、各種強度、風合い、快適性に関わる実験の測定方法について教授し、さらに試験結果のまとめ方、分析方法、評価についても教授する。実験は全てグループワーク（以下GW）とする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・被服材料に関する高度な知識・技術を身につける。
- ・実験を通じ、論理的思考力や倫理観等を身につける。

③
⑤⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	はじめに：概要、グループ構成 織物の基本構造と展開	織物の基本組織を見直す。
第2回	織物の構造と展開、織機での織布の作製①（基礎）GW	プリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第3回	織機での織布の作製2（応用）、編物の構造分析 GW	レポートと編地を完成させる。プリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第4回	試料緒元 GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第5回	消費性能試験① 進め方、吸水性 GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第6回	消費性能試験② 引張強伸度 GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第7回	消費性能試験③ 摩耗・破裂強度 GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第8回	消費性能試験④ 剪断特性・曲げ剛性 GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第9回	消費性能試験⑤ 防しわ性、剛軟性1 GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第10回	消費性能試験⑥ 剛軟性2、ドレープ性 GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第11回	消費性能試験⑦ 通気性、保温性 GW	レポートを作成しプリントに目を通す。これまでの実験を振り返る。
第12回	消費性能試験⑧ 熱的性能 GW、性能試験のまとめ	プリントに目を通す。
第13回	消費性能と造形性① 試料作成、測定 GW	プリントに目を通す。
第14回	消費性能と造形性② 解析 GW	レポートを作成する。
第15回	おわりに：本実験のまとめ、レポート校正	全範囲とレポートの校正箇所を振り返る。

■ 履修上の注意

安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねて臨むこと。

必要に応じ電卓を持参する（携帯電話不可）。レポートは、指定の実験ノートとファイルを使用する。

■ 成績評価方法・基準

実験が終了する毎に提出するレポートを適切にまとめ、考察することに対し50%

事前準備をしてグループで協力しながら実験結果を出すことに50%

ルーブリック評価は第1回の授業で説明する。レポートは後日添削して返却する。

■ 教科書

繊維製品の基礎知識シリーズ第1部 日本衣料管理協会 入学時購入済

■ 参考書

授業時にプリントを配布する。

■ 備考

実験作業状況等の都合により、授業計画の順番等を変更することがある。

消費性能試験①-⑦、消費性能と造形性①-②は、機器の台数の関係で、班ごとに授業順番が変わる。

質問は、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

評価と実験の進め方は1回目の授業で説明する。レポートが未提出の際には、評価の対象としない。

※一部実験に変えて外部研修を実施する場合もある。

被服整理学

(11130)

単位：2単位

対象学科：服専2年

授業形態：講義 学期：前期

服飾文化専攻科目

井上美紀

■ 授業の概要

被服の消費段階に行われる被服整理について教授する。特に洗濯用洗剤の主成分である界面活性剤、ビルダーと添加剤の作用、洗浄理論、各種繊維製品に適した洗濯方法、仕上げ方法、保管方法について主に教授する。表示では、取扱い絵表示の基本を教授するとともに、各製品に対する最適な表示の選択についても解説する。洗濯では、家庭洗濯と商業洗濯の実際について教授する。さらに被服の適切な取扱い方法や被服整理の環境との関連性、安全性についても解説する。一部グループワーク（GW）を実施する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・被服整理に関する基礎的な知識を身につける。

③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	はじめに：被服整理とは、被服整理の意義、被服の汚れ	テキスト1章を読む。
第2回	汚れの付着機構、洗浄の型	テキスト1章を読む。ミットペーパーを見直す。
第3回	洗剤の種類と成分、用途	テキスト2章を読む。ミットペーパーを見直す。
第4回	界面活性剤の種類、製法と作用	テキスト3章を読む。ミットペーパーを見直す。
第5回	ビルダー・添加剤の機能	テキスト、ミットペーパーと中間テストを見直す。
第6回	洗浄の理論	テキスト2章を読む。ミットペーパーを見直す。
第7回	洗濯用水と影響	テキスト3章を読む。ミットペーパーを見直す。
第8回	洗浄方式、洗濯機	テキスト4.6.7章を読む。ミットペーパーを見直す。
第9回	漂白・増白	テキスト8章を読む。ミットペーパーを見直す。
第10回	柔軟加工・糊加工・仕上げ加工	テキスト10章ミットペーパー中間テストを見直す。
第11回	家庭洗濯の実際	テキスト5章を読む。ミットペーパーを見直す。
第12回	商業洗濯の分類と方法	テキスト12章を読む。ミットペーパーを見直す。
第13回	表示と適切な取り扱い（GW）	テキスト13章を読む。ミットペーパーを見直す。
第14回	保存と管理・適切な取り扱い（GW・プレゼン）	テキスト11章を読む。ミットペーパーを見直す。
第15回	被服整理の課題、おわりに：本講義のまとめ	中間テストを見直す。全範囲を振り返る。
第16回	本試験	全範囲を振り返る。

■ 履修上の注意

ミットペーパーを毎時間、単元毎に中間テストを行うので振返りを大切にします。

■ 成績評価方法・基準

ミットペーパー・中間試験・グループワーク等の受講態度に対し50%、本試験50%（持ち込み不可）

ミットペーパーと中間テスト、試験は後日添削してフィードバックする。

■ 教科書

被服整理学 日本衣料管理協会 1200円

■ 参考書

繊維製品の基礎知識シリーズ 日本衣料管理協会 入学時購入済
授業前にプリントを配布する。

■ 備考

質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

評価やミットペーパー、中間テスト等は1回目の授業で説明する。

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。

被服整理学実験

(11131)

単位：1 単位

対象学科：服専2年

授業形態：実験 学期：後期

服飾文化専攻科目

井上美紀

■ 授業の概要

被服整理学で学んだ基礎的な理論について実験を通してさらに理解を深められるように、洗濯用洗剤の主成分である界面活性剤に関する実験、ビルダーや添加剤に関する実験、洗濯用水に関する実験、洗浄実験、漂白・増白実験、柔軟加工・糊加工・仕上げ加工実験について主に教授する。特に界面活性剤に関する実験では、製造方法、用途、洗浄作用についても取り上げ教授する。実験は全てグループワーク（以下GW）とする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・被服整理に関する高度な知識・技術を身につける。
- ・実験を通じ、論理的思考力や倫理観等を身につける。

③
⑤⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	はじめに：概要、実験上の注意、器具の使い方、界面活性剤の性質と汚れの除去作用実験 GW	実験器具の使い方を見直す。
第2回	界面活性剤の製造① 陰イオン系合成界面活性剤 GW	被服整理学の内容について見直す。プリントに目を通す。
第3回	界面活性剤の製造② 石けん洗剤 GW	レポートを作成しプリントに目を通す。次時の実験項目について被服整理学のノートとテキストに目を通す。
第4回	界面活性剤の分類と用途 GW	レポートを作成しプリントに目を通す。次時の実験項目について被服整理学のノートとテキストに目を通す。
第5回	表面張力の測定、臨界ミセル濃度の推定 GW	レポートを作成しプリントに目を通す。次時の実験項目について被服整理学のノートとテキストに目を通す。
第6回	洗濯水の硬度、ビルダーと添加剤の作用 GW	レポートを作成しプリントに目を通す。次時の実験項目について被服整理学のノートとテキストに目を通す。
第7回	洗浄実験① 洗浄準備、洗浄 GW	プリントに目を通す。
第8回	洗浄実験② 洗浄力の測定、データの整理 GW	プリントに目を通す。
第9回	洗浄実験③ 洗浄力の測定、データの整理と解析 GW	レポートを作成しプリントに目を通す。次時の実験項目について被服整理学のノートとテキストに目を通す。
第10回	漂白実験① 漂白剤の型の分類と用途 GW	プリントに目を通す。
第11回	漂白実験② 漂白力の測定 GW	レポートを作成しプリントに目を通す。次時の実験項目について被服整理学のノートとテキストに目を通す。
第12回	商業洗濯 GW	レポートを作成しプリントに目を通す。次時の実験項目について被服整理学のノートとテキストに目を通す。
第13回	仕上げ加工① 柔軟加工、糊加工 GW	プリントに目を通す。
第14回	仕上げ加工② アイロン仕上げ GW	レポートを作成しプリントに目を通す。
第15回	おわりに：実験のまとめ、レポート校正	全範囲と、レポート校正箇所を振り返る。

■ 履修上の注意

安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねて臨むこと。
必要に応じ電卓を持参する。レポートは、指定の実験ノートとファイルを使用する。

■ 成績評価方法・基準

実験が終了する毎に提出するレポートを適切にまとめ、考察することに対し50%
事前準備をしてグループで協力しながら実験結果を出すことに50%
ルーブリック評価は第1回の授業で説明する。レポートは後日添削してフィードバックする。

■ 教科書

被服整理学 日本衣料管理協会 1200円（前期購入済）

■ 参考書

必要に応じて紹介する。授業前にプリントを配布する

■ 備考

実験作業状況等の都合により、授業計画の順番等を変更することがある。

質問は、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

評価と実験の進め方は1回目の授業で説明する。

レポートが未提出の際には、評価の対象としない。

※商業洗濯、新型コロナウイルスの状況や先方の都合によるが、実験に変えて学外研修を実施する場合もある。

染色加工学

(11132)

単位：2単位

対象学科：服専2年

授業形態：講義 学期：後期

服飾文化専攻科目

井上美紀

■ 授業の概要

繊維製品に関する染色加工について主に教授する。染色では染色理論、天然染料、合成染料、測色と表色、染色堅牢度、染色加工における事故等について解説する。加工では、風合い改良、機能性付与・性能向上を目的とする加工、仕上げ加工等、様々な加工方法を教授する。さらに、染色加工に関連する安全性や環境への影響についても教授する。一部グループワーク(以下GW)を実施する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・染色・加工に関する基礎的な知識を身につける。

③

■ 授業計画

自習(事前・事後学修の内容)

第1回	はじめに：生活の中の色、色材、染色加工の歴史	テキスト第1章と3章に目を通す。
第2回	染色プロセス	ミニットペーパー、第3章と5章に目を通す。
第3回	染色理論 染色機構	ミニットペーパー、第5章と4章に目を通す。
第4回	染料① 合成染料	ミニットペーパー、第4章に目を通す。
第5回	代表的な合成染料と各種繊維の染色方法、染色条件	ミニットペーパー、第4章と7章に目を通す。
第6回	染料② 天然染料、代表的な天然染料と染色方法	ミニットペーパー、第7章に目を通す。これまでの学習内容を振り返る。
第7回	伝統的な染法・文様、中間テスト①	中間テストの内容を振り返り、第6章に目を通す。
第8回	捺染	ミニットペーパー、第6章に目を通す。
第9回	工業染色技術、染色機	ミニットペーパー、第6章と8章に目を通す。
第10回	測色、染色堅牢度① 試験項目と試験方法	ミニットペーパー、第8章と9章に目を通す。
第11回	染色堅牢度② 評価 GW	ミニットペーパー、第8章と9章に目を通す。
第12回	事故事例品の原因追及と対策 GW	ミニットペーパー、第12章に目を通す。
第13回	加工① 外観・風合い改善加工等	ミニットペーパー、第12章に目を通す。これまでの学習内容を振り返る。
第14回	加工② 機能性付与加工等、中間テスト②	中間テストの内容を振り返り、第11章に目を通す。
第15回	染色加工と安全性、おわりに：本講義のまとめ	これまでの学習内容を振り返る。
第16回	本試験	全範囲を振り返る。

■ 履修上の注意

授業終了時にミニットペーパー、中間テストを単元毎に行うので振り返りを大切にする。

選択科目であるが、TA取得希望者は必ず履修する。必要に応じ、√機能付電卓(携帯電話不可)を持参する。

■ 成績評価方法・基準

ミニットペーパー、中間テスト等の受講態度に対し50%、本試験50%

ミニットペーパーと中間テスト、試験は後日添削してフィードバックする。

■ 教科書

染色加工学 日本衣料管理協会 (2200円)

■ 参考書

繊維製品の基礎知識シリーズ第1部 日本衣料管理協会 入学時購入済

■ 備考

質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

評価やミニットペーパー、中間テスト等は1回目の授業で説明する。

染色加工学実験

(11133)

単位：1単位

対象学科：服専3年

授業形態：実験 学期：前期

服飾文化専攻科目

井上美紀

■ 授業の概要

染色加工学で学んだ知識をさらに理解を深められるように、染色実験、染色堅牢度試験、加工実験を主に教授する。特に工業的な量産の視点で実験を行う。染色実験では、染料の合成、天然染料による染色方法、合成染料による染色方法、測色、染着率の測定方法について教授する。また染色堅牢度試験では、染色堅牢度の測定方法とその評価方法について、加工実験では風合い改善、性能向上等、繊維の特性に応じた加工方法について教授する。実験は全てグループワーク（以下GW）とする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・染色加工に関する高度な知識・技術を身につける。
- ・実験を通じ、論理的思考力や倫理観等を身につける。

③
⑤⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	はじめに：実験の進め方、グループ構成、染料の合成実験	GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時の実験項目に目を通す。	
第2回	天然染料による染色①	染料の抽出と染色・媒染	GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時の実験項目に目を通す。
第3回	天然染料による染色②	特殊な方法での染色①	GW	プリントに目を通す。
第4回	天然染料による染色③	特殊な方法での染色②	GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時の実験項目に目を通す。
第5回	合成染料による染色①-1	各種繊維の染色性、染色条件	GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時の実験項目に目を通す。
第6回	合成染料による染色①-2	染着率の測定	GW	プリントに目を通す。
第7回	合成染料による染色②	代表的な染料と染色、染色見本作成	GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時の実験項目に目を通す。
第8回	合成染料による染色③	②の続き、測色	GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時の実験項目に目を通す。
第9回	染色堅牢度試験①	試料の準備	GW	プリントに目を通す。第11回のデザイン案を検討する。
第10回	染色堅牢度試験②	測定と評価	GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時の実験項目に目を通す。第11回のデザイン案を完成させる。
第11回	捺染実験①	製版、印捺	GW	プリントに目を通す。
第12回	捺染実験②	印捺続き、製品への展開	GW	製品を完成させる。テキストで次時の実験項目に目を通す。
第13回	加工実験①	繊維の溶解性を利用した加工		レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時の実験項目に目を通す。
第14回	加工実験②	繊維の特性を生かした加工		レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時の実験項目に目を通す。
第15回	おわりに：実験のまとめ、レポート校正			全範囲とレポート校正箇所を振り返る。

■ 履修上の注意

- 安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねて臨むこと。
- 必要に応じ電卓を持参する（√機能付電卓、携帯電話不可）。
- レポートは、指定の実験ノートとファイルを使用する。
- 選択科目ではあるが、TA資格取得希望者は必ず履修すること。

■ 成績評価方法・基準

- 実験が終了する毎に提出するレポートを適切にまとめ、考察することに対し50%
- 事前準備をしてグループで協力しながら実験結果を出すことにに対し50%
- ルーブリック評価は第1回の授業で説明する。レポートは後日添削してフィードバックする。

■ 教科書

染色加工学、日本衣料管理協会 (2年次に購入済)

■ 参考書

繊維製品の基礎知識シリーズ第1部 日本衣料管理協会 入学時購入済
授業時にプリントを配布する。

■ 備考

実験作業状況等により、授業計画の順番等を変更することがある。

質問は、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

評価と実験の進め方は1回目の授業で説明する。

レポートが未提出の際には、評価の対象としない。

※一部実験に変えて外部研修を実施する場合もある。（交通費各自負担）

染色学実習

(11134)

単位：2単位

対象学科：服専3年

授業形態：実習 学期：通年

服飾文化専攻科目

川 又 勝 子

■ 授業の概要

日本の伝統的染色技法は、世界的にみても類のない繊細で巧みな技術が駆使されているものである。本実習では、各種の伝統的染色技法の中から、絞り染め・ろうけつ染め・友禅染・型染め・描き更紗・藍染めを取り上げ、染色作品制作の基礎を指導する。これまでに習得した繊維や染料についての知識を生かしながら、前期は主に浸染の技法、後期は捺染の技法を行うことで、それぞれの染色技法の特徴を理解させ、伝統工芸への理解を深めさせる。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・日本の伝統的染色技法の基本的技法を習得する。	⑦
・伝統工芸への理解を深める。	⑤
・これまでに習得した繊維や染料に関する知識を応用できる。	⑨

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ①ガイダンス、②伝統的染色技法、③染色用具・染料・助剤、④ 図案	板書内容を復習する、絞り染め基礎作品の下絵作成
第2回 工芸染色① 浸染一絞り染めの基礎（縫い絞り）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第3回 " " (直接染料による浸染)	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第4回 " " (仕上げ)・有松絞りDVD鑑賞	ファイルまとめ、絞り染め応用作品の下絵作成
第5回 工芸染色② 絞り染め応用作品制作（縫う）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第6回 " " (絞る)	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第7回 " " (反応染料による浸染)	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第8回 " " (仕上げ)	ファイルまとめ、ろうけつ染め基礎作品の下絵作成
第9回 工芸染色③ 浸染一ろうけつ染めの基礎（防染）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第10回 " " (建染染料による浸染)	ファイルまとめ、ろうけつ染め応用作品の下絵作成
第11回 工芸染色④ ろうけつ染め応用作品制作（ろう描き）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第12回 " " (反応染料による彩色)	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第13回 " " (ろう伏せ)	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第14回 " " (建染染料による浸染)	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第15回 " " (脱ろう・仕上げ)	ファイルまとめ
第16回 工芸染色⑤ 捺染一友禅染の基礎・京友禅DVD鑑賞・下絵	レポート作成、友禅染作品の下絵作成
第17回 " 手描き友禅作品制作（青花・糸目糊）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第18回 " " (彩色)	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第19回 " " (糊伏せ)	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第20回 " " (地染め)	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第21回 " (蒸し・水元・仕上げ)・型染めDVD鑑賞	ファイルまとめ、レポート作成、型染めの下絵作成
第22回 工芸染色⑥ 捺染一型染の基礎・型染作品制作（型彫り）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる

			る
第23回	〃	型絵染作品制作 (型彫りつづき)	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第24回	〃	〃 (紗張り・型置き)	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第25回	〃	〃 (彩色・糊伏せ)	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第26回	〃	〃 (引き染)	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第27回	〃	(蒸し・水元・仕上げ)、更紗の作品鑑賞	ファイルまとめ、描き更紗作品の下絵作成
第28回	工芸染色⑦	捺染―描き更紗作品制作 (彩色)	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第29回	〃	〃 (蒸し・水元・仕上げ)	制作ノート記入、ファイルまとめ
第30回	工芸染色⑧	藍の浸染	制作ノート記入、ファイルまとめ
第31回	藍染め仕上げ・各種染色技法と繊維製品の取り扱い・授業のまとめ		ファイルまとめ

■ 履修上の注意

染色加工学の単位を修得していることが望ましい。遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけること。時間内に進められなかった箇所は次回までに必ず行ってください。制作ノートはその都度きちんとまとめてください。材料費として2,000円程度を徴収します。

■ 成績評価方法・基準

提出物（制作品・ファイル）による評価を55%、受講状況（制作ノート・参加状況）を45%として評価します。なお、提出物や制作ノートはコメントを付して後日返却します。

■ 教科書

なし

■ 参考書

〔きものたのしみ〕〔全日本きもの振興会 編〕〔世界文化社〕〔2, 160-〕

■ 備考

ルーブリックを授業初回に配布するので、学習目標としてください。受講生の進度によりシラバス内容が前後する事があります。質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

テキスタイルデザイン I

(11135)

単位：1 単位

対象学科：服専3年

授業形態：実習 学期：後期

服飾文化専攻科目

川 又 勝 子 横 田 美 和

■ 授業の概要

衣服の企画・設計にあたっては、使用目的や用途にあった物性・風合い・色柄を備えたテキスタイルを適切に設計・選択できる能力が不可欠である。そこで本実習では、被服繊維学・被服材料学・色彩学・染色加工学等で習得したテキスタイルに関する基礎知識をもとに、パソコン・布帛用インクジェットプリンタを用いたテキスタイルデザイン実習と、卓上手織り機による織布実習を通して、目的・用途に応じた織物および色柄の形成方法について指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・用途や目的に合った物性・風合い・色柄を備えたテキスタイルを適切に設計・選択するための知識と技術を身に付ける。
- ・これまでに習得した基礎知識をテキスタイルに応用できる。

⑤⑦

③⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	テキスタイルデザインの概要（川又）	配布プリントを熟読する
第2回	繊維素材とテキスタイルデザイン、ドローソフトの基本操作（川又）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第3回	織編と編物、ドローソフトによる基本的なリピート柄作成（川又）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第4回	布地の風合い、フォトレタッチソフトによる織柄表現（川又）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第5回	代表的な織物の名称と組織（専用ソフト使用）（川又）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第6回	テキスタイルデザイン専用ソフトによる布帛の企画（川又）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第7回	布帛用インクジェットプリンタによる布帛の捺染（川又）	制作ノート完成させ、プレス処理・縫製を行う
第8回	テーブルセンター制作：デザイン・織物計画（横田）	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる
第9回	テーブルセンター制作：糸密度・糸の太さと織物の関係、糸巻き（横田）	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる
第10回	〃：糸の種類・組織と風合いの関係、整経（横田）	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる
第11回	〃：筈通し（横田）	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる
第12回	〃：綜統通し・張力調整（横田）	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる
第13回	〃：織り（平織り）（横田）	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる
第14回	〃：織り（綾織）（横田）	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる
第15回	〃：仕上げ（横田）	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる

■ 履修上の注意

遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけること。実習費として実費（1,000円程度）を徴収します。宿題がある場合や、時間内に進められなかった箇所は必ず次回までに行ってください。

■ 成績評価方法・基準

提出物（制作物等）による評価を55%、受講状況（制作ノート・プリント）を45%として評価します。なお、提出物や制作ノートは添削して後日返却します。

■ 教科書

授業時にプリントを配布する

■ 参考書

〔テキスタイル用語辞典〕〔成田典子〕〔テキスタイルツリー〕〔3,600円〕

■ 備考

ループリックを配布するので、学習目標としてください。受講生の習熟度によりシラバス内容を変更する事があります。なお、質問等については、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

テキスタイルデザインⅡ

(11136)

単位：1単位

対象学科：服専4年

授業形態：実習 学期：後期

服飾文化専攻科目

川 又 勝 子

■ 授業の概要

衣服の企画・設計にあたっては、使用目的や用途にあった物性・風合い・色柄を備えたテキスタイルを適切に設計・選択できる能力が不可欠である。そこで本実習では、テキスタイルデザインⅠで習得したテキスタイルデザインに関する基礎知識と基本的な技術を発展させるために、主にコンピュータグラフィックスによる手法を取り上げ、使用目的に応じたテキスタイルを企画・製作する方法、デジタルデータを活かした布地のデザイン方法について指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---|----|
| ・用途や目的に合った物性・風合い・色柄を備えたテキスタイルを適切に設計・選択するための知識と技術を身に付ける。 | ④⑥ |
| ・これまでに習得した基礎知識をテキスタイルに応用できる。 | ③⑨ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 授業の進め方、テキスタイルの製作方法	配布プリントを熟読する
第2回 リpeat柄の基本	制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる
第3回 リpeat柄の応用①（汎用ソフトによる）	制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる
第4回 リpeat柄の応用②（テキスタイル専用ソフトによる）	制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる
第5回 課題制作① リpeatパターン布帛のデザイン・型紙作成	制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる
第6回 課題制作② 用布の出力（デジタルプリント）	制作ノート作成、材料準備
第7回 課題制作③ 縫製・仕上げ	制作ノート作成、期日までに作品を完成させる
第8回 先染め柄の基本	制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる
第9回 先染め柄の応用①（汎用ソフトによる）	制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる
第10回 先染め柄の応用②（テキスタイル専用ソフトによる）	制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる
第11回 課題制作① 先染めパターン布帛のデザイン・型紙作成	制作ノート作成、材料準備
第12回 課題制作② 用布の出力（デジタルプリント）	制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる
第13回 課題制作③ 縫製・仕上げ	制作ノート作成、期日までに作品を完成させる
第14回 昇華転写捺染	制作ノート作成、期日までに作品を完成させる
第15回 フェルティング	制作ノート作成、期日までに作品を完成させる

■ 履修上の注意

テキスタイルデザインⅠの単位を修得していること。遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけること。実習費として実費（2,000円程度）を徴収します。宿題がある場合や、時間内に進められなかった箇所は必ず次回までに行ってください。

■ 成績評価方法・基準

提出物（作品等）による評価を55%、受講状況（参加状況・制作ノート等）を45%として評価します。なお、提出物や制作ノートはコメントを付して後日返却することでフィードバックとします。

■ 教科書

プリントを配布する。

■ 参考書

〔テキスタイル用語辞典〕〔成田典子〕〔テキスタイルワーカー〕〔3,600円〕

■ 備考

ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標としてください。受講生の習熟度や研修先の都合によりシラバス内容を変更する事があります。なお、質問等については、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

ファッションビジネス論

(11137)

単位：2単位

対象学科：服専2年

授業形態：講義 学期：前期

服飾文化専攻科目

内 海 陽 子

■ 授業の概要

アパレルを中心としたファッションビジネスシーンで活躍できる基礎知識を教授する。

ファッションビジネスの特性と歴史、その構成産業の構造を理解し、アパレルメーカーとアパレル小売業の現状と問題点を国内外から分析し、今後の展望を考察する。

当講義では、大手アパレルメーカーで、年間30億円以上の商品バイイングマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在も、ファッション業界で多岐に渡って、活動している講師が担当する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ファッションビジネスの特性、構造について理解でき、また考察することが出来る。
- ・アパレルメーカー・アパレル小売業の現状について理解でき、考察することが出来る。

③⑤⑦⑨

③⑤⑦⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ファッションビジネスの特性（企業戦略）	指定された店舗に行き観察する
第2回	ファッションビジネスの特性（消費行動）	指定された店舗に行き観察する
第3回	ファッション史 ①（海外ブランド）	海外ブランドについて調べる
第4回	ファッション史 ②（日本ブランド）	国内ブランドについて調べる
第5回	ファッション史 ③（日本ブランド）	国内ブランドについて調べる
第6回	ファッションビジネスの職種 ①（マーケティング）	講義内容を復習する
第7回	ファッションビジネスの職種 ②（マーチャンダイジング）	講義内容を復習する
第8回	ファッションビジネスの職種 ③（営業・ロジスティック）	講義内容を復習する
第9回	ファッション素材産業の概要	講義内容を復習する
第10回	アパレル産業の概要 ①（海外ブランド）	指定された店舗に行き観察する
第11回	アパレル産業の概要 ②（国内大手ブランド）	指定された店舗に行き観察する
第12回	アパレル産業の概要 ③（SPA）	指定された店舗に行き観察する
第13回	アパレル産業流通の仕組み ①（SPA）	講義内容を復習する
第14回	アパレル産業流通の仕組み ②（インターネット通販）	講義内容を復習する
第15回	日本のファッションビジネス環境の課題と展望	講義内容を復習する

■ 履修上の注意

ファッションビジネスは日々変化しています。実社会において即実践できる内容で講義を構成しているので講義で学んだことを常に意識しつつ感性を磨き続けること。

■ 成績評価方法・基準

課題レポート（50%）事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）で総合評価
提出された課題レポートは後日フィードバックする。

■ 教科書

〔ファッションビジネス論〕〔日本衣料管理協会〕〔1, 300円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了後受け付ける。

アパレル品質管理論

(11138)

単位：1単位

対象学科：服専3年

授業形態：講義 学期：後期

服飾文化専攻科目

井上美紀

■ 授業の概要

繊維製品に関する品質管理について主に教授する。品質管理の基本、品質管理に使う様々な道具と使い方、繊維製品に関連する法令についても解説する。また、繊維製品についての品質管理は、企画設計から流通に至る各工程で行われるため、工程管理の手法や、製品検査についても解説する。さらに授業では、事例研究も取り入れ、繊維製品に関連する問題の原因究明の仕方、解決のための手順、問題や苦情発生の未然防止策などについても教授する。一部グループワーク（以下GW）を含む。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|-------------------------------------|----|
| ・品質管理に関する高度な専門知識を身につける。 | ③ |
| ・論理的思考力やコミュニケーション能力、倫理観、責任感等を身につける。 | ⑤⑦ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	はじめに：品質とは、良い商品づくりと品質管理 GW	テキスト第3部6章に目を通す。
第2回	繊維製品に関連する法令、品質管理の実際① 管理の基本	ミニットペーパーを振り返る。3部6章、第1部2章に目を通す。
第3回	品質管理の実際② QCの7つ道具 GW	ミニットペーパーを振り返る。QCの7つ道具を練習する。テキスト第3部6章に目を通す。
第4回	品質管理の実際③ 新QCの7つ道具 GW	ミニットペーパーを振り返る。新QCの7つ道具を練習する。テキスト第3部6章に目を通す。
第5回	品質管理の実際④ 繊維製品に関連する手法・検査	ミニットペーパーを振り返る。検査方法を練習する。
第6回	繊維製品に関連する事例研究① 原因究明 GW	ミニットペーパーを振り返る。事例品についての情報を収集し分析する。
第7回	繊維製品に関連する事例研究② 再発防止策、品質保証	ミニットペーパーを振り返る。テキスト第3部6章とこれまでの学習内容を振り返る。
第8回	おわりに：本講義のまとめ、試験	これまでの学習内容と試験内容を振り返る。

■ 履修上の注意

テキストに目を通して授業に臨むこと。ミニットペーパーを毎時間行う。
√機能付電卓（携帯電話不可）、実験ノート、定規、色ペン、メジャー、衣服（上下）を持参する。掲示にて詳細は指示する。

■ 成績評価方法・基準

ミニットペーパー・課題取組み状況等の受講態度に対し50%、試験に対し50%
評価、ミニットペーパー、課題は1回目の授業で説明する。ミニットペーパーと課題、試験は添削し後日フィードバックする。

■ 教科書

繊維製品の基礎知識シリーズ 3冊セット 日本衣料管理協会 入学時購入済

■ 参考書

補足資料としてプリントを配布する。

■ 備考

質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

都合により授業計画の順番を変更することがある。

ミニットペーパーと課題が未提出、試験を受験しない際には、評価の対象としない。

アパレル消費科学

(11139)

単位：2単位

対象学科：服専3年

授業形態：講義 学期：前期

服飾文化専攻科目

井上美紀

■ 授業の概要

アパレル消費科学では、衣生活の課題やその対応、今後の衣生活のあり方について主に教授する。特に、衣生活を通して循環型社会の構築や持続可能な社会の構築を目指し、現在私たちが直面している衣生活の課題を把握し、これからの衣生活での消費行動を考察できるようにする。衣生活の課題では、SDGs、地球環境と被服整理、環境配慮型の繊維製品、製品エコロジーと消費、ユニバーサルデザイン、災害時の消費行動・防災等の課題について解説する。さらに各自が衣生活の課題を設定し解決や対策方法を立案するまでの手段についても教授する。一部グループワーク（以下GW）を含む。

■ 授業の到達目標

到達目標	学位授与の方針との関連
・アパレル消費科学に関する知識を身につける。	⑤
・コミュニケーション能力、論理的思考力、倫理観、責任感を身につける。	④⑦

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 はじめに、消費と消費科学・意義、消費者行動の変化	消費者行動について調べる。
第2回 循環型社会・持続可能な衣生活、課題の提示	循環型社会・持続可能な衣生活について調べる。
第3回 SDGs	SDGsについて調べる。
第4回 衣生活の課題と消費のあり方① 地球環境と被服整理	被服整理の課題について調べる。ミニットペーパーを振り返る。
第5回 衣生活の課題と消費のあり方② 地球環境配慮型の繊維製品	環境配慮型製品を調べる。ミニットペーパーを振り返る。
第6回 衣生活の課題と消費のあり方③ 製品エコロジーと消費	5Rについて調べる。ミニットペーパーを振り返る。
第7回 衣生活の課題と消費のあり方④ ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザイン製品について調べる。ミニットペーパーを振り返る。
第8回 衣生活の課題と消費のあり方⑤ 災害時の消費行動・防災	ミニットペーパーを振り返る。課題に取り組む。
第9回 今後の消費の在り方⑥ プレゼンテーション GW	これまでの学習内容を振り返る。
第10回 衣生活の課題とSDGs	SDGsについて調べる。
第11回 課題設定、解決までのプロセス、情報収集（一部図書館で実施）	課題案を検討する。
第12回 衣生活における課題の解決（検討・分析）（一部図書館で実施）	分析内容を振り返る。
第13回 衣生活における課題の解決（プレゼン資料作成）	プレゼン資料を完成させる。
第14回 プレゼンテーションとディスカッション① Aグループ GW	プレゼン内容を振り返る。
第15回 プレゼンテーションとディスカッション② Bグループ GW おわりに：授業の振り返りとまとめ	プレゼン内容を振り返る。これまでの学習内容を振り返る。

■ 履修上の注意

遅刻・欠席をせず、課題は計画通りに進めて次時の授業に臨むこと。
服飾生活特別演習の履修学生は履修することが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

ミニットペーパー、課題の進行状況等の受講態度に対し50%、課題の内容と提出物50%
ルーブリック評価は第1回の授業で説明する。ミニットペーパー、提出物は後日添削して返却しフィードバックする。

■ 教科書

繊維製品の基礎知識シリーズ 1部と2部 日本衣料管理協会 入学時購入済

■ 参考書

取り組む課題に応じて紹介する。

■ 備考

質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。
評価や提出物等は1回目の授業で説明する。
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
提出物が未提出の場合は評価の対象としない。

消費者調査法

(11140)

単位：1単位

対象学科：服専4年

授業形態：演習 学期：後期

服飾文化専攻科目

水谷 浩

■ 授業の概要

消費者調査法では、消費者の購買行動やファッション・トレンドなどの調査を実施し、その結果を正しく理解するための手法について学びます。

本講義では、消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かし「地域の産業として、ファッション関連分野で働くヒト、消費（購入）するヒトの幸せな暮らしを実現していくための消費者調査」という視点から、統計調査に求められる基礎的な知識を教授し、ポスト・コロナ時代の消費者の行動変容を読み解くための統計分析力の修得をめざしている。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|------------------------------|-----|
| ・1)消費者調査の手法を理解し、統計処理ができる | ③⑤⑦ |
| ・2)消費者調査の結果を正しく理解・考察することができる | ③⑤⑦ |
| ・3)プライバシー保護の重要性を理解し、説明できる | ③⑤⑦ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	テーマ：消費者調査とは？ 概要：授業のすすめ方・評価など	授業計画の内容やテキストなどを参考にして、予習すること。 講義ノートを読み直し、学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第2回	テーマ：消費者調査の種類と方法Ⅰ 概要：各種分類体系（利用目的・情報の種類・量と質）を学ぶ	同 上
第3回	テーマ：消費者調査の種類と方法Ⅱ 概要：質問紙調査・観察法、動機調査を学ぶ	同 上
第4回	テーマ：質問票の作成Ⅰ 概要：質問紙調査法の手順について学ぶ	各自課題に取り組む
第5回	テーマ：質問票の作成Ⅱ 概要：質問票作成の手順と作成方法について学ぶ	同 上
第6回	テーマ：調査対象者の選び方Ⅰ 概要：全数調査・標本調査，母集団と標本の違いを学ぶ	同 上
第7回	テーマ：調査対象者の選び方Ⅱ 概要：標本抽出法を学ぶ	授業計画の内容やテキストなどを参考にして、予習すること。 講義ノートを読み直し、学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第8回	テーマ：調査対象者の選び方Ⅲ 概要：標本誤差と標本数を学ぶ	同 上
第9回	テーマ：集計と分析Ⅰ 概要：調査データの集計を学ぶ	同 上
第10回	テーマ：集計と分析Ⅱ 概要：集計結果の分析手法を学ぶ	同 上
第11回	テーマ：衣料の消費実態調査Ⅰ 概要：調査概要を説明するときの基本を学ぶ	同 上
第12回	テーマ：衣料の消費実態調査Ⅱ 概要：消費実態調査・トピックス調査の事例を学ぶ	同 上
第13回	テーマ：総合演習（質問紙調査法）Ⅰ 概要：調査企画，調査票の作成を実践する	各自課題に取り組む
第14回	テーマ：総合演習（質問紙調査法）Ⅱ 概要：調査の実施，データ集計・分析を実践する	同 上
第15回	テーマ：総合演習（質問紙調査法）Ⅲ 概要：各自の調査結果を発表し，他者の発表を講評する	所定時間内に調査結果を簡潔に発表する。 また，他の発表者の調査結果について講評する。

■ 履修上の注意

2/3以上の出席がない場合には、単位を取得することはできない。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)に基づき評価する。

なお、課題については、授業中にフィードバックをします。

※ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔新版 消費者調査法〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔1260円〕

■ 参考書

授業中に適宜指示する。

■ 備考

質問などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に対応します。

ファッション販売論

(11141)

単位：2単位

対象学科：服専2年

授業形態：講義 学期：後期

服飾文化専攻科目

内海陽子

■ 授業の概要

アパレルを中心としたファッションビジネスシーンで活躍できる基礎知識を教授する。

前期で学んだ「ファッションビジネス論」を基本に応用範囲を広げ、商品の仕入れから販売までの流れを学び、ファッション小売業の現状と課題を読み取り、今後の展望を考察する。

当講義では、大手アパレルメーカーで、年間30億円以上の商品バイイングマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在も、ファッション業界で多岐に渡って、活動している講師が担当する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・商品の仕入れから販売までの基礎知識を身につける。
- ・ファッション小売業の現状と課題を読み取り、今後の展望を考察する。

③⑤⑦⑨

③⑤⑦⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ファッション小売業の役割と歴史	講義内容を復習する
第2回	ファッション小売業の構造①（百貨店と量販店）	指定された店舗に行き観察する
第3回	ファッション小売業の構造②（ショッピングセンター）	指定された店舗に行き観察する
第4回	ファッション小売業の構造③（SPA、セレクトショップ）	指定された店舗に行き観察する
第5回	ファッション小売業の構造④（無店舗販売）	講義内容を復習する
第6回	ファッション小売業の職種	講義内容を復習する
第7回	ファッション小売業の経営戦略①（事業計画と出店戦略）	講義内容を復習する
第8回	ファッション小売業の経営戦略②（マーケティング）	講義内容を復習する
第9回	ファッション小売業の販売①（販売の基礎）	指定された店舗に行き観察する
第10回	ファッション小売業の販売②（販売の技術）	指定された店舗に行き観察する
第11回	ファッション小売業の売り場演出①（VMDの基礎）	指定された店舗に行き観察する
第12回	ファッション小売業の売り場演出②（VMDの基礎）	指定された店舗に行き観察する
第13回	ファッション小売業の売り場演出③（VMDの応用）	指定された店舗に行き観察する
第14回	ファッション小売業の仕入れと計数	講義内容を復習する
第15回	ファッション小売業の商品開発とプロモーション戦略	講義内容を復習する

■ 履修上の注意

ファッションビジネスは日々変化しています。実社会において即実践できる内容で講義を構成しているので講義で学んだことを常に意識しつつ感性を磨き続けること。

■ 成績評価方法・基準

課題レポート（50%）事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）で総合評価
提出された課題レポートは後日フィードバックする。

■ 教科書

〔新版ファッション販売論〕〔日本衣料管理協会〕〔1, 300円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了後受け付ける。

コーディネート論

(11142)

単位：2単位

対象学科：服専3年

授業形態：講義 学期：前期

服飾文化専攻科目

内海陽子

■ 授業の概要

アパレルを中心としたファッションビジネスシーンで活躍できる基礎知識を教授する。

ファッションコーディネートとはあらゆるモノの組み合わせに伴う調整・調和などの技術提案でありファッションコーディネートに必要な基本的な知識と技術を学び、コーディネートプランを作成する。

当講義では、大手アパレルメーカーで、年間30億円以上の商品バイイングマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在も、ファッション業界で多岐に渡って、活動している講師が担当する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・ファッションコーディネート基礎知識を学ぶ	③
・ファッションコーディネート基礎的な技術を学び、実際にコーディネートプランを作成する	⑦⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ファッションコーディネートとは	講義内容を復習する
第2回 ファッションコーディネート スペシャリストの特性	講義内容を復習する
第3回 ファッションと流行	トレンドについてリサーチする
第4回 ファッショントレンドサイクル	トレンドについてリサーチする
第5回 ファッション情報① ファッション情報の種類	講義内容を復習する
第6回 ファッション情報② 時系列フロー	講義内容を復習する
第7回 ファッション情報③ 発信機関 イベント	講義内容を復習する
第8回 ファッション情報④ 20世紀のファッション史	講義内容を復習する
第9回 コーディネートの基本的な知識と技術	講義内容を復習する
第10回 イメージに視点を置いたコーディネート	講義内容を復習する
第11回 素材に視点を置いたコーディネート	講義内容を復習する
第12回 ライフスタイルに視点を置いたコーディネート	講義内容を復習する
第13回 色彩に視点を置いたコーディネート	講義内容を復習する
第14回 アクセサリー・体型カバーに視点を置いたコーディネート	講義内容を復習する
第15回 ファッションコーディネートまとめ	講義内容を復習する

■ 履修上の注意

ファッションビジネスは日々変化しています。実社会において即実践できる内容で講義を構成しているので講義で学んだことを常に意識しつつ感性を磨き続けること。

■ 成績評価方法・基準

課題レポート（50％）事前・事後学習を含む授業姿勢（50％）で総合評価

提出された課題レポートは後日フィードバックする。

■ 教科書

〔コーディネートテクニック 演出篇〕〔文化服装学院編〕〔学校法人文化学園文化出版局〕〔2, 754円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了後受け付ける。

ファッションビジネス実務実習

(11143)

単位：1単位

対象学科：服専1年

授業形態：実習 学期：通年

服飾文化専攻科目

水 谷 浩

■ 授業の概要

ファッションビジネスは、私たちの暮らしや社会と深く関わりながら存在する。今後、この業界で働くためには、現場（仕事）に必要な能力を理解していくことが求められる。

本授業では、消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かし、①事前指導・②5日間程度の学外研修（講義＋職場見学、就業体験）・③事後指導を通じて、職場や地域社会で多様な人々と働くために必要な基礎的な力（社会人基礎力）」のなかでも、1)前に踏み出す力、2)考え抜く力、3)チームで働く力という3つ実践力の修得をめざしている。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、学外でのインターンシップ実施が困難な場合には、オンライン講義をはじめ、代替措置を講ずることもありますので、ご承知おき下さい。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・1)前に踏み出す力を理解、実践できる	③⑤
・2)考え抜く力の必要性を認識、実践できる	③⑤⑨
・3)チームで働くことの重要性を認識、実践できる	③⑤

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 テーマ：インターンシップとは？ 概要：実習の概要・評価などの説明	事前に、業界や研修先事業所の情報を収集しておく。 なお、研修後には、講義や事業所見学の内容について、A4用紙2枚（1, 600字）程度のレポートにまとめ、提出。
第2回 テーマ：事業所研修Ⅰ（令和3年8月上旬予定） 概要：講義を通じて「ファッションビジネスの実際」を学ぶ	同 上
第3回 テーマ：事業所研修Ⅱ（令和3年8月上旬予定） 概要：職場見学を通じて「現場のナマの声」を学ぶ	同 上
第4回 テーマ：履歴書作成Ⅰ 概要：作成上の留意点を学ぶ	自己分析や企業研究を踏まえ、履歴書に必要事項を記入し、提出。
第5回 テーマ：履歴書作成Ⅱ 概要：自己分析、企業研究（情報収集分析・店舗調査）を学ぶ	同 上
第6回 テーマ：事前指導 概要：実習ノートの書き方・心構え・マナーを学ぶ	講義ノートを読み直し、学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第7回 テーマ：就業体験Ⅰ 概要：3つの実践力を学ぶ	就業体験を通じて「学んだこと・気づいたこと」について実習ノートに毎日記入して、事業所（担当者の方）に提出。
第8回 テーマ：就業体験Ⅱ 概要：3つの実践力を学ぶ	同 上
第9回 テーマ：就業体験Ⅲ 概要：3つの実践力を学ぶ	同 上
第10回 テーマ：就業体験Ⅳ 概要：3つの実践力を学ぶ	同 上
第11回 テーマ：就業体験Ⅴ 概要：3つの実践力を学ぶ	同 上
第12回 テーマ：就業体験Ⅵ 概要：3つの実践力を学ぶ	同 上
第13回 テーマ：就業体験Ⅶ 概要：3つの実践力を学ぶ	同 上
第14回 テーマ：就業体験の振り返り・礼状作成 概要：実践の振り返りと課題の整理	受入先企業への礼状および報告会の発表用資料を作成し、提出。
第15回 テーマ：まとめ 概要：報告会の実施	発表を通じて、全体の振り返りを行う。

■ 履修上の注意

原則的に全出席（ただし、課題の未提出、実習中の態度不良や遅刻・欠席した場合、単位を取得できない）
事業所までの移動手段は、公共交通機関を利用し、交通費をはじめ諸経費は自己負担となります。

《事業所での就業体験について》

①期 間：令和4年2～3月予定 ※受入先事業所の指定日時

②内 容：接客販売、品質管理など

③注意点：受入先企業の面談結果によっては、受入可否の条件や事前事後指導などが追加されます。

■ 成績評価方法・基準

事業所研修・課題(30%) + 就業体験・実習ノート(50%) + 報告会(20%)にもとづき評価します。

※ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

なし

■ 参考書

必要に応じて紹介します。

■ 備考

開講日時は、掲示にて指示します。課題や実習ノートは、授業中あるいは後日添削し、返却します。

質問などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。

マーケティング論

(11144)

単位：2単位

対象学科：服専2年

授業形態：講義 学期：前期

服飾文化専攻科目

水谷 浩

■ 授業の概要

マーケティング論では、社会・経済の変化、消費者の購買行動やファッション・トレンドなどを調査・分析し、それらの結果をビジネスに活かすための考え方や手法などについて学びます。

本講義では、消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かし「顧客との関係に、価値を創造し、〈コミュニケーションにより〉価値を伝え、価値を届ける」という観点から、アパレル・ビジネス分野のマーケティング活動に求められる基礎的な知識の教授を通じて、ポスト・コロナ時代のビジネス感覚の修得をめざしています。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--------------------------------|-----|
| ・1) マーケティングの仕組みを理解し、説明できる | ③⑤⑦ |
| ・2) 新たな時代の価値創造の担い手としての役割を理解できる | ③⑤⑦ |
| ・3) 今後のアパレル・ビジネスのあるべき姿を説明できる | ③⑤⑦ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	テーマ：マーケティングとは？ 概要：授業のすすめ方・評価など	授業計画の内容やテキストなどを参考にして、予習すること。 講義ノートを読み直し、学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第2回	テーマ：アパレル・ビジネスの仕組み 概要：アパレル・ビジネスの特徴（業種・業態）を学ぶ	同上
第3回	テーマ：アパレルとマーケティング 概要：マーケティングの歴史の変遷を学ぶ	同上
第4回	テーマ：マーケティング戦略 概要：なぜ、市場創造から顧客価値の重視に転換した理由は？	同上
第5回	テーマ：市場変化とその予測 概要：日本のアパレル・ビジネスの盛衰に学ぶ	自分の好きなファッション・ブランドの出店戦略についてA4用紙2枚（1, 600字以上）のレポートにまとめ提出。
第6回	テーマ：小売店出店戦略 概要：他店舗戦略と限定出店戦略の違いを学ぶ	同上
第7回	テーマ：価値の創造 概要：対象顧客の重要性について学ぶ	インターネットを利用し、今年の秋・冬のファッション・トレンドについて調べ、A4用紙2枚（1, 600字以上）のレポートにまとめ提出。
第8回	テーマ：商品企画 概要：新商品の企画について、その必要性を学ぶ	同上
第9回	テーマ：店舗の品揃え 概要：商品構成とコーディネート性の汎用性を学ぶ	自分の好きなファッション・ブランドの実店舗の品揃え・プライスゾーンを調べ、その取り組みに対する所感についてA4用紙2枚（1, 600字）のレポートを作成し、提出。
第10回	テーマ：顧客満足と品揃え 概要：プライスゾーンとプライスラインを学ぶ	同上
第11回	テーマ：情報収集・分析と品揃え 概要：情報収集・分析に基づく品揃えの重要性について学ぶ	同上
第12回	テーマ：価値のコミュニケーション 概要：企業のコミュニケーションについて学ぶ	「新たな時代の価値創造の担い手」という視点から、これまでの授業のなかで、最も印象に残ったことについて要約し、自らの考察を加えた上で、A4用紙2枚（1, 600字以上）のレポートにまとめ提出。
第13回	テーマ：価値のデリバリー 概要：イメージ価値の創造と伝達とは？	同上
第14回	テーマ：ビジュアルマーチャンダイジング（VMD）戦略 概要：売り場づくりの工夫について学ぶ	同上
第15回	テーマ：まとめ	同上

■ 履修上の注意

2/3以上の出席がない場合には、単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)に基づき評価する。

なお、課題については、授業中にフィードバックをします。

※ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔マーケティング論〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔1300円〕

■ 参考書

授業中に適宜指示します。

■ 備考

質問などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に対応します。

マーケティング論

(11145)

単位：2単位

対象学科：服専3年

授業形態：講義 学期：前期

服飾文化専攻科目

水谷 浩

■ 授業の概要

マーケティング論では、社会・経済の変化、消費者の購買行動やファッション・トレンドなどを調査・分析し、それらの結果をビジネスに活かすための考え方や手法などについて学びます。

本講義では、消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かし「顧客との関係に、価値を創造し、〈コミュニケーションにより〉価値を伝え、価値を届ける」という観点から、アパレル・ビジネス分野のマーケティング活動に求められる基礎的な知識の教授を通じて、ポスト・コロナ時代のビジネス感覚の修得をめざしています。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・1)マーケティングの仕組みを理解し、説明できる	③⑤⑦
・2)新たな時代の価値創造の担い手としての役割を理解できる	③⑤⑦
・3)今後のアパレル・ビジネスのあるべき姿を説明できる	③⑤⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	テーマ：マーケティングとは？ 概要：授業のすすめ方・評価など	授業計画の内容やテキストなどを参考にして、予習すること。 講義ノートを読み直し、学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第2回	テーマ：アパレル・ビジネスの仕組み 概要：アパレル・ビジネスの特徴（業種・業態）を学ぶ	同 上
第3回	テーマ：アパレルとマーケティング 概要：マーケティングの歴史の変遷を学ぶ	同 上
第4回	テーマ：マーケティング戦略 概要：なぜ、市場創造から顧客価値の重視に転換した理由は？	同 上
第5回	テーマ：市場変化とその予測 概要：日本のアパレル・ビジネスの盛衰に学ぶ	自分の好きなファッション・ブランドの出店戦略についてA4用紙2枚（1, 600字以上）のレポートにまとめ提出。
第6回	テーマ：小売店出店戦略 概要：他店舗戦略と限定出店戦略の違いを学ぶ	同 上
第7回	テーマ：価値の創造 概要：対象顧客の重要性について学ぶ	インターネットを利用し、今年の秋・冬のファッション・トレンドについて調べ、A4用紙2枚（1, 600字以上）のレポートにまとめ提出。
第8回	テーマ：商品企画 概要：新商品の企画について、その必要性を学ぶ	同 上
第9回	テーマ：店舗の品揃え 概要：商品構成とコーディネート の汎用性を学ぶ	自分の好きなファッション・ブランドの実店舗の品揃え・プライスゾーンを調べ、その取り組みに対する所感についてA4用紙2枚（1, 600字）のレポートを作成し、提出。
第10回	テーマ：顧客満足と品揃え 概要：プライスゾーンとプライスラインを学ぶ	同 上
第11回	テーマ：情報収集・分析と品揃え 概要：情報収集・分析に基づく品揃えの重要性について学ぶ	同 上
第12回	テーマ：価値のコミュニケーション 概要：企業のコミュニケーションについて学ぶ	「新たな時代の価値創造の担い手」という視点から、これまでの授業のなかで、最も印象に残ったことについて要約し、自らの考察を加えた上で、A4用紙2枚（1, 600字以上）のレポートにまとめ提出。
第13回	テーマ：価値のデリバリー 概要：イメージ価値の創造と伝達とは？	同 上
第14回	テーマ：ビジュアルマーチャンダイジング（VMD）戦略 概要：売り場づくりの工夫について学ぶ	同 上
第15回	テーマ：まとめ	同 上

■ 履修上の注意

2/3以上の出席がない場合には、単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)に基づき評価します。

なお、課題については、授業中にフィードバックをします。

※ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔マーケティング論〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔1300円〕

■ 参考書

授業中に適宜指示します。

■ 備考

質問などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に対応します。

起業・会社経営論

(11146)

単位：2単位

対象学科：服専3年

授業形態：講義 学期：後期

服飾文化専攻科目

水谷 浩

■ 授業の概要

起業・会社経営論では、環境問題や地域再生をはじめ、社会的課題を解決するための手段のひとつとして、ソーシャルビジネスの考え方や手法などについて学びます。

本講義では、消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かし「より良い社会づくりのためのマネジメント」という観点から、様々な事例研究を通じて、起業や会社経営に求められる基礎的な知識の教授を通じて、ビジネス（時代）感覚の修得をめざしています。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--------------------------------|-----|
| ・1) 会社経営の仕組みを理解し、説明できる | ③⑤⑦ |
| ・2) 新たな時代の価値創造の担い手としての起業を理解できる | ③⑤⑦ |
| ・3) 今後の起業や会社経営のあるべき姿を説明できる | ③⑤⑦ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	テーマ：社会的起業とは？ 概要：授業のすすめ方・評価などの説明	授業計画やテキストを参考にして、予習すること。 講義ノートを読み直し、学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第2回	テーマ：ソーシャルビジネスとは？ 概要：ソーシャルビジネスの活動領域や歴史・社会的背景を学ぶ	同上
第3回	テーマ：ソーシャルビジネスの担い手Ⅰ 概要：NPOの概要や意義について学ぶ	同上
第4回	テーマ：ソーシャルビジネスの担い手Ⅱ 概要：NPOの歴史や特徴について学ぶ	同上
第5回	テーマ：ソーシャルビジネスの担い手Ⅲ 概要：社会的企業や社会起業家について学ぶ	同上
第6回	テーマ：ソーシャルビジネスのマネジメントⅠ 概要：仕事の達成感（やりがい）重視の人的資源について学ぶ	自分自身にとって、身近な社会的課題を1つ選び、それを解決するためのNPO活動やソーシャルビジネスを構想し、A4用紙2枚（1, 600字）のレポートにまとめて提出。
第7回	テーマ：ソーシャルビジネスのマネジメントⅡ 概要：財源（資金のやりくり）について学ぶ	同上
第8回	テーマ：ソーシャルビジネスのマネジメントⅢ 概要：資金調達（クラウドファンディング）について学ぶ	同上
第9回	テーマ：ソーシャルビジネスのマネジメントⅣ 概要：NPO・企業・行政・大学との協働について学ぶ	同上
第10回	テーマ：ソーシャルビジネスのマネジメントⅤ 概要：プライスゾーンとプライスラインを学ぶ	同上
第11回	テーマ：ソーシャルビジネスを支える社会の仕組み 概要：特定非営利活動促進法（NPO法）や諸制度について学ぶ	同上
第12回	テーマ：ソーシャルビジネスを創るⅠ 概要：環境分野での先進事例について学ぶ	「これからの時代の地域創造の担い手」という視点から、この授業で、最も印象に残ったことについて要約し、自らの考察を加えた上で、A4用紙2枚（1, 600字以上）のレポートにまとめて提出。
第13回	テーマ：ソーシャルビジネスを創るⅡ 概要：医療・福祉分野での先進事例について学ぶ	同上
第14回	テーマ：ソーシャルビジネスを創るⅢ 概要：地域再生分野での先進事例について学ぶ	同上
第15回	テーマ：まとめ 概要：ソーシャルビジネスのあるべき姿	同上

■ 履修上の注意

2/3以上の出席がない場合には、単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)に基づき評価します。
なお、課題については、授業中にフィードバックをします。
※ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔社会を変えたい人のためのソーシャルビジネス入門〕〔駒崎弘樹著〕〔PHP出版〕〔902円〕

■ 参考書

授業中に適宜指示します。

■ 備考

質問などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に対応します。

店舗運営論

(11147)

単位：2単位

対象学科：服専4年

授業形態：講義 学期：後期

服飾文化専攻科目

水谷 浩

■ 授業の概要

店舗運営論では、ファッション関連産業・小売業の現状と問題点を踏まえ、ポスト・コロナ時代のアパレル小売業（実店舗・オンライン店舗）の運営について学びます。

本講義では、消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かして「東北（地元）に根差したお店が拠点となり、地域の人々にファッションの魅力を知ってもらい、消費してもらう」という視点から、ファッション関連小売業の基礎的な知識の教授を通じて、新たな時代のビジネス（時代）感覚の修得をめざしています。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|-------------------------------------|-----|
| ・1)ファッション関連小売業の仕組みを理解し、説明できる | ③⑤⑦ |
| ・2)新たな時代のファッション価値創造の担い手としての役割を理解できる | ③⑤⑦ |
| ・3)今後のファッション関連小売業のあるべき姿を説明できる | ③⑤⑦ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	テーマ：ファッション関連小売業（店舗運営）とは？ 概要：授業のすすめ方・評価など	授業計画やテキストなどを参考にして、予習すること。 講義ノートを読み直し、学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第2回	テーマ：ファッション関連産業・小売業の仕組み 概要：アパレル業界全体の特徴（業種・業態）を学ぶ	同 上
第3回	テーマ：ファッション関連小売業のマネジメントⅠ 概要：業態別の組織体制を学ぶ	同 上
第4回	テーマ：ファッション関連小売業のマネジメントⅡ 概要：実店舗の職務体系を学ぶ	同 上
第5回	テーマ：ファッション関連小売業のマネジメントⅢ 概要：オンライン店舗の職務体系を学ぶ	同 上
第6回	テーマ：店舗運営の仕組みⅠ 概要：業態別に異なるマーケティング戦略を学ぶ	自分の好きなファッション・ブランドの小売店について、お店の商品構成や特徴など、A4用紙2枚（1, 600字以上）のレポートにまとめ提出。
第7回	テーマ：店舗運営の仕組みⅡ 概要：ブランドとショップコンセプトについて学ぶ	インターネットを利用し、最新のファッション・トレンドと店づくりについて調べ、A4用紙2枚（1, 600字以上）のレポートにまとめ提出。
第8回	テーマ：店舗運営の仕組みⅢ 概要：ブランドとショップコンセプトを学ぶ	同 上
第9回	テーマ：店舗運営の仕組みⅣ 概要：対象顧客層と専門店における販売を学ぶ	自分の好きなファッション・ブランドの実店舗の立地や客層を調べ、その所感について、A4用紙2枚（1, 600字）のレポートを作成し、提出。
第10回	テーマ：店舗運営の仕組みⅤ 概要：対象顧客層と量販店における販売を学ぶ	同 上
第11回	テーマ：店舗運営の仕組みⅥ 概要：対象顧客層とオンライン店舗における販売を学ぶ①	自分の好きなファッション・ブランドのオンライン店舗について、実店舗との比較から、その違いを調べ、A4用紙2枚（1, 600字）のレポートを作成し、提出。
第12回	テーマ：店舗運営の仕組みⅦ 概要：対象顧客層とオンライン店舗における販売を学ぶ②	同 上
第13回	テーマ：店舗運営の仕組みⅧ 概要：店舗における販売スタッフとバイヤーの役割を学ぶ	アパレル小売業の求人・採用情報を調べ、求められる人材の特徴について、A4用紙2枚（1, 600字以上）のレポートにまとめ提出。
第14回	テーマ：ポスト・コロナ時代の新たな小売戦略Ⅰ 概要：売り場づくりの工夫について学ぶ	「ポスト・コロナ時代のアパレル小売業」という視点から、これまでの授業のなかで、最も印象に残ったことについて要約し、自らの考察を加えた上で、A4用紙2枚（1, 600字以上）のレポートにまとめて提出。

■ 履修上の注意

2/3以上の出席がない場合には、単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)に基づき評価します。

なお、課題については、授業中にフィードバックをします。

※ループリック評価については、第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔マーケティング論〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔1300円〕

■ 参考書

授業中に適宜指示します。

■ 備考

質問などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に対応します。

情報処理 I

(11148)

単位：2単位

対象学科：服専2年

授業形態：講義 学期：後期

服飾文化専攻科目

水谷 浩

■ 授業の概要

近年、情報通信技術（ICT：Information and Communication Technology）の進展にともなって、ファッション・ビジネスに求められる知識や技能は大きく変わりつつある。とりわけ、SNS(Social Networking Service)で発信力のある個人(influencer)のファッション情報は、消費者の購買行動や企業のコミュニケーション戦略で最も注目されている。

本授業では、民間シンクタンクの研究者や情報システム担当者としての実務経験を活かして、ビジネス文書作成や統計処理、プレゼンテーション技法を教授することにより、最先端のファッション・ビジネスに欠かせない情報リテラシーの修得をめざしています。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---------------------------------|-----|
| ・1) ソフトウェアを利・活用し、文章表現や統計計算ができる | ④⑤⑥ |
| ・2) 情報倫理に配慮し、情報の収集・加工・表現・発信ができる | ④⑤⑥ |
| ・3) ICTの仕組みと原理を理解し、説明できる | ④⑤⑥ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	テーマ：情報倫理とは？ 概要：授業のすすめ方・評価の説明、情報倫理について学ぶ	学生便覧の「ソーシャルメディア利用のガイドライン」および「OA実習室・OA教室利用案内」を必ず熟読しておくこと。
第2回	テーマ：日本語文書処理Ⅰ 概要：Microsoft Wordの基本（入力・書式変更）を学ぶ	同上
第3回	テーマ：日本語文書処理Ⅱ 概要：Microsoft Wordの応用①（見やすい文書作成）を学ぶ	授業計画の内容やテキストを参考にして、Wordの諸機能を確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し、Wordの諸機能について振り返り（復習）を行うこと。
第4回	テーマ：日本語文書処理Ⅲ 概要：Microsoft Wordの応用②（画像・グラフ挿入）を学ぶ	同上
第5回	テーマ：日本語文書処理Ⅳ 概要：Microsoft Wordの応用③（描画機能）を学ぶ	同上
第6回	テーマ：日本語文書処理Ⅴ 概要：これまでの授業の振り返り（課題作成）	同上
第7回	テーマ：表計算Ⅰ 概要：Microsoft Excelの基本（表・グラフの作成）を学ぶ	授業計画の内容やテキストを参考にして、Excelの諸機能を確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し、Excelの諸機能について振り返り（復習）を行うこと。
第8回	テーマ：表計算Ⅱ 概要：Microsoft Excelの応用①（表・グラフの加工）を学ぶ	同上
第9回	テーマ：表計算Ⅲ 概要：Microsoft Excelの応用②（データベース機能）を学ぶ	同上
第10回	テーマ：表計算Ⅳ 概要：Microsoft Excelの応用③（関数の使い方）を学ぶ	同上
第11回	テーマ：表計算Ⅴ 概要：これまでの授業の振り返り（課題作成）	同上
第12回	テーマ：プレゼンテーションⅠ 概要：Microsoft PowerPointの基本（スライド作成）を学ぶ	授業計画の内容やテキストを参考にして、PowerPointの各種機能について確認（予習）すること。 。テキストや講義ノートを読み直し、Power Pointの各種機能について、各自で振り返り（復習）を行うこと。
第13回	テーマ：プレゼンテーションⅡ 概要：Microsoft PowerPoint応用（オブジェクト作成）を学ぶ	同上
第14回	テーマ：プレゼンテーションⅢ 概要：これまでの授業の振り返り（課題作成）を行う	同上
第15回	テーマ：まとめ	5分以内に発表できるように練習する

■ 履修上の注意

2/3以上の出席がない場合には、単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+課題発表(35%)にもとづき評価します。

なお、課題については、授業中にフィードバックをします。また、実習費(1000円)を徴収します。

※ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔Windows10・Office2016による情報処理入門〕〔高橋敏夫監修〕〔実教出版〕〔2200円〕

■ 参考書

授業中に適宜指示します。

■ 備考

質問などは、オフィスアワー(日時は掲示で確認のこと)に受けつけます。

情報処理 I

(11149)

単位：2単位

対象学科：服専3年

授業形態：講義 学期：前期

服飾文化専攻科目

水谷 浩

■ 授業の概要

近年、情報通信技術（ICT：Information and Communication Technology）の進展にともなって、ファッション・ビジネスに求められる知識や技能は大きく変わりつつある。とりわけ、SNS(Social Networking Service)で発信力のある個人(influencer)のファッション情報は、消費者の購買行動や企業のコミュニケーション戦略で最も注目されている。

本授業では、民間シンクタンクの研究者や情報システム担当者としての実務経験を活かして、ビジネス文書作成や統計処理、プレゼンテーション技法を教授することにより、最先端のファッション・ビジネスに欠かせない情報リテラシーの修得をめざしています。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---------------------------------|-----|
| ・1) ソフトウェアを利・活用し、文章表現や統計計算ができる | ④⑤⑥ |
| ・2) 情報倫理に配慮し、情報の収集・加工・表現・発信ができる | ④⑤⑥ |
| ・3) ICTの仕組みと原理を理解し、説明できる | ④⑤⑥ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	テーマ：情報倫理とは？ 概要：授業のすすめ方・評価の説明、情報倫理について学ぶ	学生便覧の「ソーシャルメディア利用のガイドライン」および「OA実習室・OA教室利用案内」を必ず熟読しておくこと。
第2回	テーマ：日本語文書処理Ⅰ 概要：Microsoft Wordの基本（入力・書式変更）を学ぶ	同上
第3回	テーマ：日本語文書処理Ⅱ 概要：Microsoft Wordの応用①（見やすい文書作成）を学ぶ	授業計画の内容やテキストを参考にして、Wordの諸機能を確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し、Wordの諸機能について振り返り（復習）を行うこと。
第4回	テーマ：日本語文書処理Ⅲ 概要：Microsoft Wordの応用②（画像・グラフ挿入）を学ぶ	同上
第5回	テーマ：日本語文書処理Ⅳ 概要：Microsoft Wordの応用③（描画機能）を学ぶ	同上
第6回	テーマ：日本語文書処理Ⅴ 概要：これまでの授業の振り返り（課題作成）	同上
第7回	テーマ：表計算Ⅰ 概要：Microsoft Excelの基本（表・グラフの作成）を学ぶ	授業計画の内容やテキストを参考にして、Excelの諸機能を確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し、Excelの諸機能について振り返り（復習）を行うこと。
第8回	テーマ：表計算Ⅱ 概要：Microsoft Excelの応用①（表・グラフの加工）を学ぶ	同上
第9回	テーマ：表計算Ⅲ 概要：Microsoft Excelの応用②（データベース機能）を学ぶ	同上
第10回	テーマ：表計算Ⅳ 概要：Microsoft Excelの応用③（関数の使い方）を学ぶ	同上
第11回	テーマ：表計算Ⅴ 概要：これまでの授業の振り返り（課題作成）	同上
第12回	テーマ：プレゼンテーションⅠ 概要：Microsoft PowerPointの基本（スライド作成）を学ぶ	授業計画の内容やテキストを参考にして、PowerPointの各種機能について確認（予習）すること。 。テキストや講義ノートを読み直し、Power Pointの各種機能について、各自で振り返り（復習）を行うこと。
第13回	テーマ：プレゼンテーションⅡ 概要：Microsoft PowerPoint応用（オブジェクト作成）を学ぶ	同上
第14回	テーマ：プレゼンテーションⅢ 概要：これまでの授業の振り返り（課題作成）を行う	同上
第15回	テーマ：まとめ	5分以内に発表できるように練習する

■ 履修上の注意

2/3以上の出席がない場合には、単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+課題発表(35%)にもとづき評価します。

なお、課題については、授業中にフィードバックをします。また、実習費(1000円)を徴収します。

※ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔Windows10・Office2016による情報処理入門〕〔高橋敏夫監修〕〔実教出版〕〔2200円〕

■ 参考書

授業中に適宜指示します。

■ 備考

質問などは、オフィスアワー(日時は掲示で確認のこと)に受けつけます。

情報処理Ⅱ

(11150)

単位：1単位

対象学科：服専3年

授業形態：演習 学期：後期

服飾文化専攻科目

水谷 浩

■ 授業の概要

本授業では、民間シンクタンクでの研究員や情報システム担当者としての実務経験を活かし「ビジュアル・マーチャンダイジング（Visual Merchandising）戦略に不可欠な企画・演出などのための資料作成」という視点から、グラフィックソフト（Illustrator, Photoshop）の設定や操作方法などを教授し、ファッション関連の出版・広告、売場づくりや商品ディスプレイの効果的なレイアウトや配色など、視覚伝達の基本の修得をめざしています。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---------------------------------|-----|
| ・1) ソフトウェアを利活用し、グラフィック画像を制作できる | ④⑤⑥ |
| ・2) 情報倫理に配慮し、情報の収集・加工・表現・発信ができる | ④⑤⑥ |
| ・3) 視覚伝達の基本を理解し、説明できる | ④⑤⑥ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	テーマ：情報を分かりやすく伝えるとは？ 概要：授業のすすめ方・評価、視覚伝達の基本）	学生便覧「OA実習室・OA教室利用 案内」を必ず熟読しておくこと。
第2回	テーマ：ベクトル系ソフトⅠ 概要：Illustrator基本①（図形や線を描く方法）を学ぶ	授業計画の内容やテキストを参考にして、Illustratorの操作や設定、諸機能などについて確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し、Illustratorの諸機能の振り返り（復習）を行うこと。
第3回	テーマ：ベクトル系ソフトⅡ 概要：Illustrator基本②（オブジェクト選択と変形）を学ぶ	同上
第4回	テーマ：ベクトル系ソフトⅢ 概要：Illustrator基本③（色と透明度の設定）を学ぶ	同上
第5回	テーマ：ベクトル系ソフトⅣ 概要：Illustrator基本④（オブジェクトの編集と合成）を学ぶ	同上
第6回	テーマ：ベクトル系ソフトⅤ 概要：Illustrator基本⑤（線と文字の設定）を学ぶ	同上
第7回	テーマ：ベクトル系ソフトⅥ 概要：Illustratorの振り返り（覚えておきたい機能と課題作成）	提出期限内に課題を完成させること。
第8回	テーマ：ラスター系ソフトⅠ 概要：Photoshop基本①（レイヤー操作と色調補正）を学ぶ	授業計画の内容やテキストを参考にして、Photoshopの操作や設定、諸機能などについて確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し、Photoshopの諸機能の振り返り（復習）を行うこと。
第9回	テーマ：ラスター系ソフトⅡ 概要：Photoshop基本②（選択範囲の作成と色の設定）を学ぶ	同上
第10回	テーマ：ラスター系ソフトⅢ 概要：Photoshop基本③（レイヤーマスクを使う）を学ぶ	同上
第11回	テーマ：ラスター系ソフトⅣ 概要：Photoshop基本④（文字・パス・シェイプ）を学ぶ	同上
第12回	テーマ：ラスター系ソフトⅤ 概要：Photoshop基本⑤（画像の修正・加工）を学ぶ	同上
第13回	テーマ：ラスター系ソフトⅥ 概要：Photoshop基本⑥（フィルターとレイヤースタイル）を学ぶ	同上
第14回	テーマ：ラスター系ソフトⅦ 概要：Photoshopの振り返り（覚えておきたい機能と課題作成）	提出期限内に課題を完成させること。
第15回	テーマ：まとめ 概要：授業全体の振り返り	授業で分からなかったことを確認する

■ 履修上の注意

2/3以上の出席がない場合には、単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+課題作品(35%)にもとづき評価します。

なお、課題については、授業中にフィードバックをします。また、実習費(1,000円)を徴収します。

※ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔これからはじめる Illustrator&Photoshopの本〕〔黒野明子〕〔技術評論社〕〔2280円〕

■ 参考書

授業中に適宜指示します。

■ 備考

質問などは、オフィスアワー(日時は掲示で確認のこと)に対応します。

食品学総論

(11151)

単位：2単位

対象学科：服専2年

授業形態：講義 学期：前期

服飾文化専攻科目

八 巻 美智子

■ 授業の概要

食品はヒトの生活にとって必須のものであり、食品について正しい情報を持つことは食品を利用するうえで重要である。そこで、化学、生化学、基礎栄養学などの知識を基礎として、食品を構成する各成分の化学的特性と食品における役割、栄養と健康とのかわりについて講義する。また、それらの特性が食品の調理や保存、加工などにどのように関係するのか解説する。食品学を学ぶことで関連する他分野への興味関心も高められる重要性を理解させる。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・食品を構成する各種成分について理解する	①②
・食品の各成分の栄養特性と物理特性についての知識を習得する	①②
・美味しく栄養バランスのとれた食事について科学的に考える力を身に付ける。	①②⑥

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 食品の定義および分類、食品の成分と機能、食品と環境	事前：教科書にて授業内容に記された内容を概観しておく。（以下の回も同様）
第2回 水分 水の構造と性質、食品中での役割、食品成分表について	事後：教科書、ノートを見直して講義内容を理解し、理解が不十分な点については教員に質問するなどして問題点を解決する。（以下の回も同様）
第3回 炭水化物 糖の構造と種類	1回目、2回目の内容と同様。
第4回 炭水化物 糖の性質、糖の反応と炭水化物としての糖	1回目、2回目の内容と同様。
第5回 脂質 脂肪酸の構造と性質	小テストに向けて学修する。小テストの復習。
第6回 脂質 油脂の酸化、油脂の栄養	1回目、2回目の内容と同様
第7回 タンパク質 タンパク質の構造と構成アミノ酸	1回目、2回目の内容と同様
第8回 タンパク質 タンパク質の性質と栄養価	小テストに向けて学修する。小テストの復習。
第9回 脂溶性ビタミン	1回目、2回目の内容と同様
第10回 水溶性ビタミン	1回目、2回目の内容と同様。
第11回 ミネラル	1回目、2回目の内容と同様
第12回 食品の呈味成分、色素、香気成分	小テストに向けて学修する。小テストの復習。
第13回 食品の官能評価	1回目、2回目の内容と同様
第14回 食品の機能性成分、食品の物性と美味しさ	試験に向けて学修する。1回目、2回目の内容と同様
第15回 これまでのまとめ	試験に向けて学修する。1回目、2回目の内容と同様
第16回 試験	試験に向けて学修する

■ 履修上の注意

遅刻、欠席は厳禁（遅刻3回で欠席1回とする）。講義に集中し、ノートを作製する。予習で生じた疑問点について解決できるようにする。

■ 成績評価方法・基準

受講態度（ミニットペーパーの提出など）、小テストの成績等（20%）、試験（80%）の割合で評価する。小テスト、試験については解答例を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

〔食品学総論〕〔著者名：森田潤司、成田宏史 編〕〔化学同人〕〔価格：2800円+税〕

■ 参考書

講義時に指示する

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。講義の順番や内容は前後または変更する可能性があります。

食品学各論

(11152)

単位：2単位

対象学科：服専3年

授業形態：講義 学期：前期

服飾文化専攻科目

佐藤靖子

■ 授業の概要

食品材料である植物性食品、動物性食品その他食品について、食品材料の生産上および生物学上の特徴による分類、食材に含まれる成分および旬による成分変化等についての基礎知識を学修する。さらに、図鑑活用による食品の詳細な分類また、写真等の資料は、実物投影機やパワーポイントを用いることにより、食品の外観および内部構造の特徴を視覚的に理解しやすいようにする。食品に対する選択能力を高めるとともに、食生活と健康との関連を習得できるようにする。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・1. 食品材料の特徴を知る	①③
・2. 食品材料の分類ができる	②③
・3. 食品の選択能力を身につける	①③

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス 食品の分類・スローフード	授業内容を教科書・ノートで確認する
第2回 植物性食品の特徴	授業後成分表により分類を確認する
第3回 穀類：コメ、コムギの特徴・成分	教科書をよく読み授業に臨む
第4回 穀類：トウモロコシ、ソバの特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
第5回 イモ類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
第6回 マメ類：乾燥豆および野菜としての種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
第7回 野菜類：葉菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
第8回 野菜類：茎菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
第9回 野菜類：根菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
第10回 野菜類：果菜類・花菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
第11回 果実類：種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
第12回 動物性食品の特徴15. その他の食品について	教科書をよく読み授業に臨む
第13回 魚介類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
第14回 畜肉類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
第15回 その他の食品について	教科書をよく読み分類・特徴を把握する
第16回 試験	

■ 履修上の注意

出席点呼開始後に入室した学生は、遅刻扱いとなる。遅刻は3回で1回の欠席とする
ミニットペーパーを課した場合は、提出確認後返却して加点対象とする。

■ 成績評価方法・基準

期末試験70%、受講態度・提出物30%。

提出物の評価は、次回授業時に行う

試験問題は、教科書およびノートからの出題です。解答は教科書・ノートで各自確認すること。

■ 教科書

書名：食品学各論 著者名：瀬口正晴・八田 一 出版社：化学同人 価格2,400円

購入については、1回目の授業で説明する

資料がある場合には、授業前に配布する。

■ 参考書

書名：原色食品図鑑 著者名：井上四郎・菅原龍吉 出版社名：建帛社 価格：2,900円

購入については、1回目の授業で説明する。

■ 備考

配布プリントは、講義ノートに張り付けるか転載しておくこと。

都合（出張等）により授業計画が変更されることがある。

質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける。

基礎栄養学

(11153)

単位：2単位

対象学科：服専2年

授業形態：講義 学期：後期

服飾文化専攻科目

鈴木 裕 行

■ 授業の概要

ヒトをはじめ生物が外界の物質を体内に取り入れ、それをエネルギー源や体構成の材料として利用する「栄養」という現象は生命維持に不可欠である。ヒトの食欲を調節するしくみ、摂取した食物の消化と栄養素の吸収に携わる消化器官系の各臓器の構造と機能、消化（食品成分の分解反応）・吸収の機構、また、栄養素の種類と各栄養素の化学構造・性質、体内での代謝・機能と欠乏症・過剰症、および栄養素同士の関わりについて説明する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・健康の保持・増進における栄養の役割を説明できる
- ・消化・吸収における各消化器官の役割を説明できる
- ・各栄養素の代謝とその生理的意義を説明できる

①②③

①②③

①②③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 栄養とは、遺伝形質と栄養

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第2回 食欲の調節、食事のタイミング

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第3回 消化器の構造

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第4回 消化器の機能

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第5回 消化吸収率、たんぱく質の消化吸収

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第6回 たんぱく質・アミノ酸の体内代謝

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第7回 たんぱく質の量と質の評価

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。

第8回 [中間試験]、糖質の消化吸収、糖質代謝の概要

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。

第9回 試験の解説、食後・食間の糖質代謝

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。

第10回 血糖の調節、エネルギー源としての作用

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第11回 脂質の消化吸収、脂質代謝の概要

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第12回 脂質のエネルギー代謝、コレステロール代謝

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第13回 脂質の量と質の評価

教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノ

	トを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第14回 ビタミンの分類・構造と機能	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第15回 [期末試験]、ミネラルの種類と体内分布	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第16回 試験の解説、ミネラルの機能	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。

■ 履修上の注意

他の関連科目と学習内容を対比して理解を深めること。

■ 成績評価方法・基準

中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組みを提出物で評価する）・・・10%

■ 教科書

基礎栄養学、駒井三千夫 他、アイ・ケイコーポレーション、2, 400円＋税

■ 参考書

栄養の生化学1-2-3改訂第3版、遠藤克己、南江堂、2, 000円＋税

■ 備考

試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

基礎調理学実習 I

(11154)

単位：1 単位

対象学科：服専1年

授業形態：実習 学期：前期

服飾文化専攻科目

深澤 律子

■ 授業の概要

調理学実習を通して、食品衛生の衛生管理全般（食品取扱者の健康管理等）について学び、衛生習慣を身につける。日本・西洋・中国料理の春から夏の日常食と行事食、郷土料理の献立を通して食事の文化的側面についての知識と理解を深め、盛り付け、配膳などの基本を修得する。食材や調理法についての知識、調理操作のポイントを科学的に理解する能力を身につけて自分の食生活で実践し、自己評価または家族の評価をもとに課題を考える。栄養、嗜好、食環境など多様な側面から食べる人にとって望ましい食事を計画し、食事として作り上げる技術を修得する。高等学校の家庭科教員の経験を活かしてこの授業を進めていく。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・①食材や調理法についての基礎的な知識と技能を修得する。	①③⑤⑥⑨
・①修得した知識をもとに、実際の調理技術を修得する。	①③⑤⑥⑨
・③調理学実習を通して衛生管理の知識と技術を修得する。	①③⑤⑥⑨

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 オリエンテーション・美味しさと健康（衛生管理と個人衛生、健康管理）	P245～249を読み、重要な箇所にアンダーラインを引く。
第2回 講義・調理の基本（計量・調味パーセント、廃棄率）、実習計画表の記入のしかた	P87～97を読み、調味パーセント、廃棄率をレポートにまとめ、提出。電卓の準備。実習計画表の記入。
第3回 調理の基礎技術1（日本料理）：鍋でご飯を炊く。鯛めし、潮汁、アスパラの和え物	P11～12 飯の炊き方、貝類の扱い方をレポートにまとめ提出。
第4回 調理の基礎技術2調理技能の実技評価（野菜の切り方1～12まで短冊切り、千切り、ささがき等）	P8 1～12小口切りからみじん切りまで家庭で野菜の切り方を練習する。実習計画表の記入
第5回 調理の基礎技術3（日本料理） 筍飯、若竹汁、だし巻き卵	P12 味付け飯、出汁のとり方、P105筍の部位と用途をレポートにまとめ提出。実習計画表の記入
第6回 調理の基礎技術4（中国料理） 中華粽、春捲、玉米湯	P218鶏湯（たん）の取り方、P232粽の作り方をまとめ提出。実習計画表の記入
第7回 調理の基礎技術5（西洋料理） コンソメジュリエンス、鮭のムニエル、タルタルソース、グリーンサラダ、紅茶のゼリー	P44～45 プイヨン、P39野菜の切り方の名称、卵の特性、マヨネーズ、ゼラチンの扱いをまとめ提出。実習計画表の記入
第8回 調理の基礎技術6（日本料理） さくら飯、鰯の塩焼き、小松菜のお浸し、ひじきの煮物、水ようかん	P12味付け飯、P18～19焼き物をレポートにまとめ提出。実習計画表の記入
第9回 調理の基礎技術7（中国料理） 麻婆豆腐、涼拌三絲、杏仁豆腐	P230～231を読んで、まとめ提出。実習計画表の記入
第10回 調理の基礎技術8（西洋料理） ハンバーグステーキ、コンビネーションサラダ、コーンポタージュ、ブラマンジェ	コーンスターチ、ブラマンジェについて調べ、P164、P177、P152、P191を読んでまとめ、提出。実習計画表の記入
第11回 調理の基礎技術9（日本料理） 鶏の竜田揚げ、切り干し大根の煮物、いんげんの胡麻和え、赤だし、グレープフルーツ寒	P123 竜田揚げ、寒天の扱い方、乾物の扱い、味噌の種類、P127、P108、を読んでまとめ提出。実習計画表の記入
第12回 調理の基礎技術10（日本料理） 七夕そうめん、フルーツ白玉	P103、P99、P136読んでまとめ提出。実習計画表の記入
第13回 調理の基礎技術11（西洋料理） 夏野菜ドライカレー、シーザーサラダ、レモンスカッシュ	P186、P175、P202を読んでまとめ提出。実習計画表の記入
第14回 調理の基礎技術12（郷土料理） おくずかけ、三色おはぎ、三五八漬け	P147、P102、P99、P130を読んでまとめ提出
第15回 調理の理論 前期のまとめ	野菜の切り方、実習で学んだ料理の要点等を実習ノートにまとめ提出。
第16回 筆記試験	

■ 履修上の注意

前日に爪を切る、清潔な実習着、帽子、マスク、フェイスシールドを身につける。調理室内ではボールペン使用。調理室に

入室したら手洗い消毒を済ませ、衛生点検表に記入し、教員の点検を受ける。配布資料はファイルに保管する。出席することが重要である。調理技術の習得のためには自宅で実践する。

■ 成績評価方法・基準

実技評価30%、実習レポート提出30%、衛生管理点検表の記入10%、筆記試験20%、授業態度10%（早めに集合する、メモを取る、グループでの協調性、熱心さ等）で評価する。実技試験、筆記試験は終了後フィードバックを行う。

■ 教科書

〔改定新版調理学実習おいしさと健康〕〔早坂千枝子監修〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3, 300円〕

*教科書は最新版のものを1回目の講義で配布します。

■ 参考書

*家庭科の教員を目指す人、必要だと思う人は参考にしてください。

〔イラスト調理Book〕〔安部サト他〕〔実教出版社〕〔770円〕

〔家庭料理技能検定公式ガイド3級〕〔家庭料理技能検定専門委員会編〕〔女子栄養大学出版部〕〔2400円〕

■ 備考

- ・講義の際に授業内容のプリントを配布し、参考文献、資料を提示する。
- ・季節の材料調達等の都合により、授業計画の順番、料理等を変更することがある。
- ・事前・事後学習で、教科書の改訂により、上記のページ数と異なることがある。
- ・ループリックを授業中に配布するので、学修目標として参照する。
- ・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

基礎調理学実習Ⅱ

(11155)

単位：1単位

対象学科：服専1年

授業形態：実習 学期：後期

服飾文化専攻科目

深澤律子

■ 授業の概要

調理学実習を通して、食品衛生の衛生管理全般（食品取扱者の健康管理等）について学び、衛生習慣を身につける。日本・西洋・中国料理の秋から冬の日常食と行事食、郷土料理の献立を通して食事の文化的側面についての知識と理解を深める。季節の行事食についての知識と理解を深め、食品の選択、食品の調理技術、盛り付け、配膳などの基本を習得する。栄養教育のツールとして、人々に一食分の適量や栄養バランスを伝えるための方法（3・1・2弁当箱法）についての知識と技術を修得する。高等学校の家庭科教員の経験を活かしてこの授業を進めていく。

■ 授業の到達目標

到達目標	学位授与の方針との関連
・①食材や調理法についての基礎的な知識と技能を修得する。	①③⑤⑥⑨
・②修得した知識をもとに、実際の調理技術を修得する。	①③⑤⑥⑨
・③調理学実習を通して衛生管理の知識と技術を修得する。	①③⑤⑥⑨

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 1. 講義 夏休みの課題「家族への食事作りのレポート」を発表する。 「3・1・2弁当箱法」についての講義	レポートにまとめ、発表の準備を行う。 配布テキストを読み、レポート提出。「3・1・2弁当箱法」の実習計画表の提出。
第2回 .実習1 栄養教育ツール「3・1・2弁当箱法」の実習	配布テキストを読み、レポート提出。次回（1回目）実習計画表の提出。
第3回 調理の基礎技術1（西洋料理）スパゲティミートソース、蒸し野菜サラダ、カスタードプリン	P187、P199、P157をまとめ次回提出。 2回実習計画表の提出。
第4回 4. 調理の基礎技術2（日本料理）：郷土料理を取り入れた秋の献立、はらこ飯、茶碗蒸し、味噌がんづき	配布プリントを読み、レポートにまとめ次回提出。 3回実習計画表の提出。
第5回 調理の基礎技術3（中国料理）：実技評価：胡瓜の蛇腹切り（包丁の扱いを習熟する）、炒飯、胡瓜の蛇腹切りの和物	P227配布プリントを読み、レポートにまとめ次回提出。4回実習計画表の提出。
第6回 調理の基礎技術4（西洋料理）マカロニグラタン、コールスローサラダ、南瓜のカップケーキ	P100、P110、P126配布プリントを読み、まとめ提出。5回実習計画表の提出。
第7回 調理の基礎技術5（日本料理）炊きおこわ、さばの味噌煮、菊花豆腐の吸い物、亥の子餅	P123～124、P96、P104、P137をまとめ提出。6回実習計画表の提出。
第8回 調理の基礎技術6（中国料理）鶏粥、青椒炒牛肉絲、卵カステラ	P227、P211、P236配布プリントを読み、まとめ提出。7回実習計画表の提出。
第9回 調理の基礎技術7（西洋料理）ビーフシチュー、クッキー	P159、P175、P196をまとめ、次回提出。8回実習計画表の提出。
第10回 .調理の基礎技術8（中国料理）五目あんかけ焼きそば、肉まん	P233を読み、レポートにまとめ次回提出。9回実習計画表の提出。
第11回 調理の基礎技術9（西洋料理）行事食の献立1：クリスマスの献立、ローストチキン、温野菜サラダ、クリスマスケーキ	スポンジケーキ、ローストチキンの要点をまとめ、10回実習計画表の提出。
第12回 .調理の基礎技術10（日本料理）行事食の献立2：正月の献立 おせち料理 お雑煮	教科書、配布プリントを読み、レポートにまとめ次回提出。11回実習計画表の提出。
第13回 調理の基礎技術11（日本料理）節句の行事食の献立3：ちらし寿司、草餅	錦糸卵の作り方、米粉の菓子について要点をまとめ、次回提出。12回実習計画表の提出。
第14回 実技評価	かきたま汁、茶わん蒸しの実技評価にむけて練習する。
第15回 調理の理論、後期のまとめ	実習で学んだ料理の要点をノートにまとめ次回提出。
第16回 筆記試験	

■ 履修上の注意

前日に爪を切る、清潔な実習着、帽子、マスク、フェイスシールドを身につける。調理室内ではボールペン使用。調理室に入室したら手洗い消毒を済ませ、衛生点検表に記入、教員の点検を受ける。配布資料はファイルに保管する。出席することが重要である。調理技術の習得のためには自宅で実践する。

■ 成績評価方法・基準

実技評価30%、実習レポート提出30%、衛生管理点検表の記入10%、筆記試験20%、授業態度10%（早めに集合する、メモを取る、グループでの協調性、熱心さ等）で評価する。実技試験、筆記試験終了後フィードバックを行う。

■ 教科書

＊前期に使用した教科書

〔改定新版調理学実習おいしさと健康〕〔早坂千枝子監修〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3, 300円〕

■ 参考書

＊家庭科の教員を目指す人、必要だと思う人は参考にしてください。

〔イラスト調理Book〕〔安部サト他〕〔実教出版社〕〔770円〕

〔家庭料理技能検定公式ガイド3級〕〔家庭料理技能検定専門委員会編〕〔女子栄養大学出版部〕〔2400円〕

■ 備考

- ・講義の際に授業内容のプリントを配布し、参考文献、資料を提示する。
- ・季節の材料調達等の都合により、授業計画の順番、料理等を変更することがある。
- ・事前・事後学習で、教科書の改訂により、上記の頁数が異なることがある。
- ・ルーズリーフを授業中に配布するので、学修目標として参照する。
- ・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

食文化論

(11156)

単位：2単位

対象学科：服専4年

授業形態：講義 学期：後期

服飾文化専攻科目

宮地 洋子

■ 授業の概要

日本の自然環境と社会環境の中で形成されてきた食文化について、古代から現代までどのように変遷してきたかを学修する。また、各時代の特徴と大陸、南蛮、欧米などの異文化と係わり、どのように取り入れて日本独特の食文化を発展したかも学修する。さらに、年中行事や儀礼食及び郷土料理の学修を通じて食文化の伝承と継承の大切さを理解する。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・食文化の定義およびその変遷を理解できる。	②③⑤
・各時代の特徴と異文化との係わりを理解できる。	②③⑤
・行事食・儀礼食を理解し各自の食体験を整理できる。	③⑤⑨

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 「和食」：日本人の伝統的な食文化	p1～p9を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第2回 食文化の定義、食に関する思想	p11～p19を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第3回 世界の食文化形成①世界の食文化類型とその特徴	p21～p25を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第4回 世界の食文化形成③粉食文化と粒食文化	p26～p28を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第5回 日本の食文化形成と展開	p31～p39を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第6回 異文化接触と受容	p41～p48をよんでおくこと/ミニットペーパーの提出
第7回 主食の文化①木の実といも類、米	p51～p55を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第8回 主食の文化②大麦と小麦、雑穀	p56～p59を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第9回 副食の文化	p61～p68を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第10回 行事と地域の食文化 課題「通過儀礼食」についての説明	P141～p149を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第11回 日本料理の形成と発展①日本料理の系譜と本膳料理 和食のマナー(DVD)	p91～p95を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出 /小テスト
第12回 日本料理の形成と発展②懐石料理、会席料理、精進料理	p96～p99を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第13回 台所、食器、食卓の文化 洋食のマナー(DVD)	p101～p109を読んでおくこと/小テスト
第14回 日常の食	p111～p119を読んでおくこと/課題の提出
第15回 非常の食 災害食(DVD)	p121～p128を読んでおくこと/小テスト
第16回 筆記試験	

■ 履修上の注意

1. 事前に講義予定の教科書内容を熟読して受講してください。
2. 教科書及びスライドで提示された専門用語のうち、わからないものについては調べておいてください。
3. 課題については提出期限を守ってください。

■ 成績評価方法・基準

試験（50％）、小テスト（20％）、課題（20％・提出された課題は後日添削して返却します）、受講態度（10％）。試験は問題と解答例をまとめたレジュメを配布し、フィードバックとします。

■ 教科書

〔新版 日本の食文化「和食」の継承と食育〕〔江原絢子・石川尚子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2, 500円+税別〕

] 授業前にプリントを配布します。

■ 参考書

〔食文化入門〕〔石毛直道〕〔講談社〕〔2000円+税別〕、〔近現代の食文化〕〔石川寛子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2,400円+税別〕

■ 備考

毎回、講義終了後にオフィスアワーを用意します。

食生活論

(11157)

単位：2単位

対象学科：服専2年

授業形態：講義 学期：後期

服飾文化専攻科目

小野真実

■ 授業の概要

労働者の健康（疾病予防・疾病）管理業務における個別・集団栄養教育活動の実務経験を生かした授業を行う。

家庭科教諭等、栄養・食に関わる専門職になるための専門教科を学習することに先立ち、食の成り立ち、健康的な食生活（食生活と健康の関連）、食育の推進、食と環境の関わり、食生活の歴史や文化など、その多様かつ広範な側面について、理解を深めることをねらいとする。また、それらを通じ、（管理栄養士・栄養士等、）栄養・食に関わる専門職の役割や重要性を理解するとともに、自身の健康的な食生活を営む基礎的知識および能力を身につける。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・食生活と健康の関連について理解できる。	①②③④
・自身の食生活を見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を身につける。	①②③⑥⑨
・食生活の歴史や文化とともに現状の課題について理解できる。	①②③

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス、食生活の概念	事前学習は教科書の食生活の概念の該当箇所を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第2回 健康的な食生活とは	事前学習は国が普及する「健康な食事」についての情報収集を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第3回 “食生活指針”の概要	事前学習は国が策定した“食生活指針”について情報収集を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第4回 “食生活指針”による自身の食生活の見直し	事前学習は自身の日ごろの食生活について振り返りを行ってこること。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第5回 食生活と健康を考える（子ども）	事前学習は教科書の子どもの食生活に関する該当箇所を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第6回 食生活と健康を考える（思春期・若年期）	事前学習は教科書の（思春期・若年期における）ボディイメージに関する該当箇所を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第7回 食生活と健康を考える（成人期①“成人病”の時代まで）	事前学習は教科書の生活習慣病の概念に関する該当箇所を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第8回 食生活と健康を考える（成人期②生活習慣病の時代）	事前学習は教科書の糖尿病など疾病と栄養・食生活に関する該当箇所を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第9回 食生活と健康を考える（社会環境からの取り組み）	事前学習は教科書の生活習慣病の予防の取り組みに関する該当箇所を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第10回 食生活と健康を考える（社会環境における食環境整備）	事前学習は自身を取り巻く食環境に関する情報収集を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第11回 日本の食文化	事前学習は日本の食文化に関する情報収集を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第12回 食物の階層構造と食事バランスガイド	事前学習は食事バランスガイドに関する（復習）確認を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第13回 食品群と食品成分表による食事評価	事前学習はこれまで学んだ食品群に関する知識の確認を行うこと。事後学習は配布資料、ノートに

第14回 食生活と安全	より学習内容を整理すること。 事前学習は教科書の食生活と安全情報に関する該当箇所を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第15回 健康・食情報を読み解くポイント	事前学習は身近に流れる健康情報について情報収集を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。

■ 履修上の注意

- ・日頃から健康・栄養情報を収集し、積極的に知識を深めること。
- ・遅刻，早退は慎むこと。遅刻3回で欠席3回とみなす。遅刻30分以上は欠席とみなす。
- ・印刷に使用する用紙やUSBメモリーなどは各自用意すること。

■ 成績評価方法・基準

- ・期末レポート（40%），課題・ミニットペーパー・小テスト（40%），受講態度（20%）で評価する。
- ・授業内での課題，小テスト等は当日，もしくは後日の授業内でフィードバックする。

■ 教科書

栄養科学シリーズNEXT「食育・食生活論」（山本茂，他）講談社サイエンティフィック（2，400円）
その他，適宜資料を配布する。

■ 参考書

「七訂食品成分表2021」（香川明夫）女子栄養大学出版部（1，512円）

■ 備考

- ・都合により授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については，授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

住居学（製図を含む。）

(11158)

単位：2単位

対象学科：服専3年

授業形態：講義 学期：前期

服飾文化専攻科目

崎 山 俊 雄

■ 授業の概要

住居は、人間生活の基本的な容器であると同時に、社会環境や生活様式、それが建つ地域の風土や文化とも密接に関係している。本講義では、住居や住生活に関する基礎的知識を習得し、文化的・社会的観点から、住宅や住生活についての理解を深める。前半は、住まいについて、風土・機能・空間・生活などの観点を設定して論じ、後半は、前半で身につけた考え方を応用して、独立住宅を設計する。後半の設計演習は、学生の考えや理解度を確認しながら対話型の形式で進めていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--|------|
| ・・住居や住生活を考える上で必要な基礎知識を身につける。 | ①②④⑥ |
| ・・より住空間について自ら考え、表現し、自分の考えを他者に説明する技術を身につける。 | ④⑥ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 授業内容と進め方、評価方法の説明、住生活に関する概説	住居や建築を、その構成や成り立ちを意識して観察する。
第2回 住宅の構成要素	同上
第3回 家族生活と住宅	同上
第4回 風土と住宅	同上
第5回 独立住宅の計画	配布資料を参考にして、事例を収集する
第6回 集合住宅の計画	同上
第7回 図面表現	繰り返し練習して図面表現を習得する
第8回 住宅の計画（1）周辺環境の把握	配置計画（ゾーニング）を練り、授業時に持参する
第9回 住宅の計画（2）必要な室と広さ	設計案を練り、授業時に持参する
第10回 住宅の計画（3）室の配置と動線計画	授業を踏まえて、設計案を改良する
第11回 住宅の計画（4）空間構成	同上
第12回 製図（1）配置図・平面図	配置図・平面図を完成させる
第13回 製図（2）立面図・断面図	立面図・断面図を完成させる
第14回 プレゼンテーション技術	プレゼンテーションを仕上げる
第15回 課題の提出、プレゼンテーションと講評、まとめ	授業を通して得た内容をまとめる

■ 履修上の注意

- ・講義中の指示にしたがい、必要な予習・復習を確実に行って、知識の定着に努めること。
- ・後半の設計演習では、毎回、設計案を持参すること。

■ 成績評価方法・基準

- ・制作物（60%）、プレゼンテーション（20%）、および受講態度（授業への参加態度、提出物、20%）により評価する。
- ・持参した設計案や提出物、プレゼンテーションに対しては、授業中にフィードバックする。

■ 教科書

- ・必要に応じて資料を配布する。

■ 参考書

- ・授業の中で紹介する。

■ 備考

- ・オフィスアワー：授業終了後

住居デザイン

(11159)

単位：2単位

対象学科：服専4年

授業形態：講義 学期：後期

服飾文化専攻科目

山本佳美 今野恵子

■ 授業の概要

私たちがあたりまえに住まう住居。住居を構成する環境や材料についての基礎を理解し学んでほしい。

講義内容については住居を構成する内装材、窓、建具、設備、インテリアを構成する照明、窓装飾、

家具等の日常生活に必要な構成材の基本的な特徴を学び、空間に対する寸法感覚を養い、インテリアデザインの独創性を身につける。インテリアプレゼンテーションの方法についてパース、作図方法、平面プランニング等の技法を解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 住居を構成するインテリアの基礎知識を身につける。
- ・ 住居・インテリア空間の寸法について寸法感覚を養う。
- ・ インテリアデザインについての技法を身に着ける。

①②

①②

①②⑤⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 インテリアデザインの種類、インテリアスタイルの種類を学ぶ	自習：課題内容について作品を制作にあたり事前に資料等準備する事。 講義を受講後内容の復習を行い、次の講義へ向けての予習を行う。
第2回 建築家のデザインを紹介し世の中にあふれるデザインを学ぶ	自習：課題内容について作品を制作にあたり事前に資料等準備する事。 講義を受講後内容の復習を行い、次の講義へ向けての予習を行う。
第3回 インテリアの歴史①西洋インテリアと家具を学ぶ	自習：課題内容について作品を制作にあたり事前に資料等準備する事。 講義を受講後内容の復習を行い、次の講義へ向けての予習を行う。
第4回 インテリアの歴史②日本のインテリアと家具を学ぶ	自習：課題内容について作品を制作にあたり事前に資料等準備する事。 講義を受講後内容の復習を行い、次の講義へ向けての予習を行う。
第5回 インテリアの構成①内装	インテリアの構成①～⑤で行う内容に沿った課題を与え、プランニングボードを作成するにあたり、授業で学んだ成果を課題で表現する。
第6回 インテリアの構成②窓装飾	インテリアの構成①～⑤で行う内容に沿った課題を与え、プランニングボードを作成するにあたり、授業で学んだ成果を課題で表現する。
第7回 インテリアの構成③照明	インテリアの構成①～⑤で行う内容に沿った課題を与え、プランニングボードを作成するにあたり、授業で学んだ成果を課題で表現する。
第8回 インテリアの構成④家具	インテリアの構成①～⑤で行う内容に沿った課題を与え、プランニングボードを作成するにあたり、授業で学んだ成果を課題で表現する。
第9回 インテリアの構成⑤設備・その他	インテリアの構成①～⑤で行う内容に沿った課題を与え、プランニングボードを作成するにあたり、授業で学んだ成果を課題で表現する。
第10回 部屋別インテリアのスタイルとポイント	
第11回 インテリアレイアウト	
第12回 インテリアカラー	
第13回 課題：私の好きなインテリア コラージュ	

第14回 インテリアコーディネート演習

第15回 プレゼンテーション

■ 履修上の注意

インテリアに興味を持とう！

■ 成績評価方法・基準

課題提出。提出された課題に対し、授業で学んだポイントに沿った内容となっているか確認し、内容によっては再提出いたします。

■ 教科書

プリント使用。カタログ配布。

■ 参考書

なし

■ 備考

質問については授業中、または授業終了時に受付いたします。

住文化論

(11160)

単位：2単位

対象学科：服専4年

授業形態：講義 学期：前期

服飾文化専攻科目

崎 山 俊 雄

■ 授業の概要

わが国における住文化の特質を理解するためには、わが国の建築が、どのようにして生まれ、どのように変遷してきたのかを理解する必要がある。

本講義では、日本の先史時代から近現代までの各時代における建築の特徴を、住宅を中心に、具体的な事例を取り上げて解説する。わが国の住文化について理解するための基礎的な力を涵養するとともに、先人の営為を未来に伝える「文化財」という考え方についても紹介する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 古代から近現代に至るわが国の住宅の歴史の流れ（ストーリー）として理解できるようになる。
- ・ 歴史的な建築に接したときに、それらの存在の意味を考えられるようになるための基礎知識を習得する。

①②

①②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 授業内容と進め方、評価方法の説明、住文化に関する概説	身近な歴史的建築を調べる。
第2回 先史時代の生活と建築	先史時代の遺跡について調べる。
第3回 古代神社の形式	伊勢神宮・出雲大社・住吉大社の本殿について調べる。
第4回 導入期の寺院建築	奈良の仏教建築遺構について調べる。
第5回 古代の都城と内裏	平城京と平安京について調べる。
第6回 平安時代の住宅（寝殿造）	寝殿造について調べる。
第7回 新様式の伝来と在来建築の変容	大仏様と禅宗様について調べる。
第8回 鎌倉時代・室町時代の住宅	書院造について調べる。
第9回 近世の住宅（主殿、広間、書院）	仙台城の建築について調べる。
第10回 茶室と数寄屋	身近な武士住宅遺構について調べる。
第11回 近世民家	身近な近世民家遺構について調べる。
第12回 近代の住宅（1）欧米文化の流入	身近な近代西洋建築について調べる。
第13回 近代の住宅（2）近代和風	身近な近代和風建築について調べる。
第14回 歴史的建造物の保存	身近な文化財建造物についてまとめる。
第15回 歴史的建造物の活用	歴史的建築の活用事例について調べる。

■ 履修上の注意

- ・ 毎回、歴史用語や建築の専門用語が多数出てくるので、その都度覚えること。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 授業内で実施する小テスト（30%）、提出課題（50%）および受講態度（授業への参加態度、提出物20%）により評価する。
- ・ 小テストは解答例を配布してフィードバックする。提出課題は後日添削して返却する。

■ 教科書

- ・ 必要に応じて資料を配布する。

■ 参考書

- ・ 授業の中で紹介する。

■ 備考

- ・ オフィスアワー：授業終了後

保育学（実習及び家庭看護を含む。）

(11161)

単位：2単位

対象学科：服専3年

授業形態：講義 学期：後期

服飾文化専攻科目

香曽我部 琢

■ 授業の概要

本科目では、まず、家庭科教育の「A家族生活と家族」分野の内、保育領域に焦点を当て、その指導に必要とされる基本的な知識と技能を身につける。次に、基本的な知識と技能を基盤として、生涯発達の視点に立ち、最新の脳神経科学や大規模縦断研究の知見をもとに、人の発達や生活における諸様相とその特徴を理解した上で、現代社会において求められる適切な保育者・養育者の援助や環境構成の在り方について検討を行い、専門的知識と技能の修得を目指す。また、これらの専門的知識や技能を身につける際に、アクティブラーニングを実施し、他者や社会との相互作用の中で、自立的にそれらの知識や技能を適応させて問題解決する力を身につける。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・「A家族生活と家族」分野における保育領域の指導に必要とされる基本的な知識と技能を習得する。	①
・生涯発達の視点に立ち、人の発達や生活における諸様相とその特徴を理解することで、専門的知識と技能を学ぶ。	②④
・身につけた知識と技能を、他者や社会との相互作用の中で総合的、適応的に用いる能力を身につける。	④⑥⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション：発達とは何か・保育とは何か	教科書の目次を読んで、授業の概要について把握する。
第2回 新生児、乳児期の発達と発育の特徴	教科書をよく読み、新生児から乳児までの発達の概要を把握する。
第3回 幼児期の発達と発育の特徴	教科書をよく読み、幼児期までの発達の概要を把握する。
第4回 児童期～成人期の発達、生涯発達とは	教科書をよく読み、児童期から青年、成人までの発達の概要を把握する。
第5回 言語と概念の発達	教科書をよく読み、新生児から乳児までの言語と概念発達の概要を把握する。
第6回 社会的認知の発達	教科書をよく読み、新生児から乳児までの社会的認知に関する発達の概要を把握する。
第7回 他者との関係発達	教科書をよく読み、発達における社会の相互作用の影響について概要を把握する。
第8回 生涯発達の視点から捉える自己形成のプロセス	教科書をよく読み、生涯発達の概念について理解する。
第9回 五感の発達：共感覚の発達を知る	教科書をよく読み、共感覚について知る。
第10回 脳神経科学の視点で発達を捉える	教科書をよく読み、脳神経科学の最新の知見について把握する。
第11回 社会・文化心理学の視点で発達を捉える	教科書をよく読み、社会・文化心理学における発達の概念の特徴を知る。
第12回 比較行動学・進化心理学の視点で発達を捉える	教科書をよく読み、ヒト以外の動物の学習や認知の発達について、その概要を把握する。
第13回 発達理論の歴史の変遷	教科書をよく読み、ヒトの発達を捉える概念の歴史の変遷を把握する。
第14回 遊びの発達	教科書をよく読み、遊びが幼児の心身の発達に与える影響を把握する。
第15回 生活習慣の育ちを知る	教科書をよく読み、乳幼児期に生活習慣を身につける意義を把握する。

■ 履修上の注意

遅刻3回で欠席1回とする。

■ 成績評価方法・基準

授業ごとのリアクションペーパー（40%）、基礎的な知識に関する小テスト（30%）、平常点（30%）

リアクションペーパーと小テストの未提出は評価の対象としないことがある。
リアクションペーパーや小テストについては後日添削して返却する。

■ 教科書

〔子ども理解のメソドロジー〕〔中坪史典〕〔ナカニシヤ出版〕〔2, 160円〕

■ 参考書

〔発達心理学をアクティブに学ぶ〕〔山本真由美〕〔北大路書房〕〔2, 376円〕

■ 備考

- ・ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明します。
- ・質問等については、授業終了後に受け付けます。

家庭電気・機械

(11162)

単位：2単位

対象学科：服専3年

授業形態：講義 学期：後期

服飾文化専攻科目

門 田 和 雄

■ 授業の概要

日常生活では多種多様な家庭電気機器が利用されている。そして、これらの機械的しくみ及び電気回路、制御方法などを理解し、合理的、創造的な生活態度を身につけることが現代人にとって不可欠となっている。本講義では家庭電気・機械の理解に必要な機械工学（機械の動くしくみであるリンク機構やカム機構、また代表的な機械要素であるねじや歯車など）と電気工学（電気回路や電子回路、制御回路など）の基礎的事項を学ぶとともに、身の回りの家庭電気機械の保守点検についても解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・ 機械工学の基礎知識を身につける。	①②
・ 電気工学の基礎知識を身につける。	①②
・ 家庭電気機器の簡単な保守・点検ができる。	①②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 エネルギー変換に関する技術	エネルギーとは何か
第2回 機械エネルギーと熱エネルギー	機械とは何か、熱とは何か
第3回 電気エネルギーを作るしくみ：さまざまな発電方式	発電方式の種類について
第4回 電気エネルギーを供給するしくみ：送電・配電	直流と交流について
第5回 電気回路の基礎：オームの法則、直列・並列	オームの法則について
第6回 家庭電気機器のしくみ1：アイロン、照明器具	熱エネルギー、光エネルギーの利用
第7回 家庭電気機器のしくみ2：炊飯器、電子レンジ	電磁波のエネルギー
第8回 家庭電気機器のしくみ3：洗濯機、掃除機、ミシン	電気モータの種類について
第9回 電気機器の安全な使い方：ブレーカ、アース	電気部品の定格
第10回 電気機器の保守・点検：テスターの使い方	テスターとは
第11回 機械要素とそのはたらき1：ねじ	家庭電気機器に用いられるねじ
第12回 機械要素とそのはたらき2：歯車、ベルト、チェーン	家庭電気機器に用いられる歯車
第13回 機械要素とそのはたらき3：軸受、軸接手、ばね	家庭電気機器に用いられるばね
第14回 機械要素とそのはたらき4：リンク機構、カム機構	家庭電気機器に用いられるリンク機構
第15回 まとめ	全体的な復習
第16回 試験	

■ 履修上の注意

毎回、小テストを実施する。

■ 成績評価方法・基準

期末試験（60%）、小テスト（20%）、事前・事後学習を含む授業姿勢（20%）

提出された課題は、後日添削して返却する。

■ 教科書

授業時にプリントを配布する

■ 参考書

〔新しい技術・家庭〕 〔技術分野〕 〔東京書籍〕 〔価格〕

■ 備考

質問等は、授業終了後受け付けます。

家庭科教材研究

(11163)

単位：1単位

対象学科：服専3年

授業形態：演習 学期：後期

服飾文化専攻科目

植松公威

■ 授業の概要

実際に家庭科の教材作りを通して、学習者にとってわかりやすく、学習者の理解を促進できる教材の内容と授業の方法について検討する。まず、この授業を履修する学生は教師としてではなく、学習者として家庭科の単元を学ぶ必要がある。「学ぶ」とは受け身的に情報を受け取るのではなく、学習者が主体的に、自らがもっている知識、経験を新しい情報と統合させながら知識を構成し直すことである。こうしたアクティブな「学び」をベースにして、納得するまで知識を探究できるように教材研究を指導する。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・アクティブな「学び」を身につける	①②③⑥
・学習者の理解を促進できるような教材作りを目指すことができる	④⑤⑦⑧⑨
・自らの教育活動について評価ができるようになる	①②⑥⑦⑨

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 「学ぶ」とは何かー構成主義による見方ー	新しい考え方、見方について考えること
第2回 「評価」とは何か	新しい考え方、見方について考えること
第3回 家庭科の教科書を開くーわからない点、疑問点を出すー	どんな小さな疑問でも指摘すること
第4回 わからない点、疑問点について情報を集め、問題解決を図る	納得できるまで調べ、問題や疑問を解決できるようにする
第5回 チームで実際に家庭科の教材を作る（パート1）	教育目標を立て、評価課題を作成する
第6回 チームで実際に家庭科の教材を作る（パート2）	教科書には書かれていない補足の情報も伝えること
第7回 チームで作成した教材を発表し、議論する	気づいた点は何でも質問すること
第8回 チームで教材を印刷し、学内でデータを集める	5～10名程度に実験をする
第9回 チームで結果を発表する	質疑応答により議論すること
第10回 学習者は、なぜ理解できないのか、何が足りないのか、どう教えればよいのか、ブレインストーミングで創造的に考える	正解はないので、自由に活発に意見を述べること
第11回 チームで実際に家庭科の教材を作る（パート3）	教育目標を決め、評価課題を作る
第12回 チームで実際に家庭科の教材を作る（パート4）	調べてわかったこと、新しく工夫したことを盛り込むこと
第13回 チームで作成した教材を発表し、議論する	気づいた点は何でも質問すること
第14回 チームで教材を印刷し、学内でデータを集める	5～10名程度に実験をする
第15回 チームで結果を発表する	質疑応答により議論すること

■ 履修上の注意

チームで教材研究するため、無断で休まないこと。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組み40%、発表の際の質疑応答30%、まとめとしてのレポート課題30%（内容や結果についてフィードバックできるようにする）

■ 教科書

授業前に中学校、高校での家庭科の教科書を配布する

■ 参考書

授業の中で紹介する

■ 備考

相談や質問等については各回の授業中、終了後、あるいはオフィスアワーで受け付ける

家政特別講義 I

(11164)

単位：2単位

対象学科：服専1年

授業形態：講義 学期：前期

服飾文化専攻科目

植松 公 威

■ 授業の概要

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---|-----|
| ・1 新聞記事の読解を通して様々な課題を発見できるようになる。 | ⑥⑦⑨ |
| ・2 私たちの生活文化を紹介した新聞記事に関する課題について、どのようにすれば解決ができるか、チームで検討できるようになる。 | ⑥⑦⑨ |
| ・3 課題解決のために関連する文献の収集や地域からの協力・援助によって、実験や調査を計画・準備し、結果をまとめ、考察できるようになる。 | ⑥⑦⑨ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス（年間の予定と教育目標）	シラバスを熟読すること
第2回 新聞記事の要約（生活，文化，社会面）	新聞記事を熟読し，主体的に考えること
第3回 新聞記事について疑問点を出す（生活，文化，社会面）	新聞記事を熟読し，意見や考えをまとめること
第4回 新聞記事について調べたいことを出す（生活，文化，社会面）	新聞記事を熟読し，チームで意見を交換すること
第5回 新聞記事について調べたいことの計画を立てる（生活，文化，社会面）	新聞記事を熟読し，ワークシートに意見や考えをまとめること
第6回 新聞記事の選択と批判的な学びのまとめ	記事を熟読し，批判的な考えを出し合うこと
第7回 課題の設定に向けた準備（新聞などからの発見）	授業で取り上げた記事を集め，作成したワークシートに再度，目を通すこと
第8回 興味・関心を得た新聞記事の選択	チームで話し合い，新聞記事を絞り込むこと
第9回 選んだ新聞記事の要約と発見した課題の発表・共有	発見した課題についてレポートし，発表すること
第10回 発見した課題から自分たちの研究テーマを決め，研究目的を定める	チームの中でよく話し合い，目標を定めること
第11回 課題解決への道筋を計画する（どこで何をするか計画案を立てる）	チームの中で協力しながらスケジュールを立てる
第12回 課題解決に向けて行動する（実験，調査の構想を立てる）	チームの中で協力しながら役割分担を決める
第13回 課題解決に向けて行動する（実験，調査の準備をする）	チームの中で話し合いながら準備を進める
第14回 課題解決に向けて行動する（実験，調査を行う）	チームで協力しながらデータを表や図にまとめる
第15回 発表（プレゼンテーションと質疑応答）	今後に向けて改善点などを出し合い，共有すること

■ 履修上の注意

毎回，休まず出席すること。欠席する場合は必ず連絡を入れること。積極的に学び，チーム内で協力して自主的に作業を進めること。わからない点は相談すること。報告・連絡・相談を忘れずに。

■ 成績評価方法・基準

熱心に準備をしているか，協力して取り組んでいるか等，態度に関して50%，成果に関して50%。取り組みの課題については，その都度フィードバックしながら指導する。

■ 教科書

課題に応じて，テーマに沿って指示する。

■ 参考書

課題に応じて，テーマに沿って指示する。

■ 備考

質問等については，いつでもお答えします。各セッションの中で，または終了時，あるいはオフィスアワーを利用して，質疑応答をすることも可能です。

家政特別講義Ⅱ

(11165)

単位：2単位

対象学科：服専4年

授業形態：講義 学期：前期

服飾文化専攻科目

植松公威

■ 授業の概要

家政学や服飾文化に関する学習の成果、つまりは四年間の集大成として、これまでに履修している家政学部共通教養科目、同基幹科目、服飾文化専攻科目で修得した知識や技術を生かすことのできる様々な具体的な課題解決に取り組む。この課題解決に取り組む過程で、新しいスキルを身につけることはもちろん、チームディスカッションをくり返し、組織の一員としての自分自身の役割分担や人間関係も身をもって学ぶ。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・与えられたテーマを解決する力を身につける
- ・チームで取り組む力を身につける

①②③⑨
①⑤⑥

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	目的、内容、何を指して学ぶのか、理解する
第2回 課題に応じた内容について、指示する	自分で問題を見つける
第3回 仮説を立てる	問題に対する仮の答えを出す
第4回 条件操作的な実験の計画を立てる	誰に、何のために、どのような条件で、何を実施するか検討する
第5回 質問紙、教材を作成する	選んだテーマについて詳しく教材研究する
第6回 評価問題を作成する	暗記、再生の課題だけでなく、応用、発展的課題を作成する
第7回 実験を行う	お願いの文書を渡す、課題の解答を渡して実験の目的を知らせる
第8回 データの集計、結果の表示	エクセルを使ってデータを分析する
第9回 結果を見て、考察を立てる	何をどんな目的で実験したのか、結果を見て、どのようなことがわかったのか考える
第10回 仮説が支持されたかどうか検討する	結果を見て、分析をして、仮説が支持されたのかどうかを考える
第11回 研究発表をする	役割を決めて、研究報告をする
第12回 他のグループの発表を聞いて、質問をしたり、意見を述べたりする	議論に参加する
第13回 取り組んだ研究の論文を作成する（目的、方法、結果）	論文をていねいに、わかりやすく作成する
第14回 取り組んだ研究の論文を作成する（考察、今後の課題、討論）	論文をていねいに、わかりやすく作成する
第15回 活動のまとめ	この授業での活動を自己評価する

■ 履修上の注意

人頼みではなく、積極的かつ自主的に課題に向き合うこと。また、今後の学習や課外活動、就職活動等に生かせるように、各自で取り組みの概要や成果についてこまめにまとめておくこと。

■ 成績評価方法・基準

参加状況（60%：積極性・協力して取り組んでいるかなどの総合評価）と成果（40%）で評価する。

■ 教科書

テーマ別に必要に応じてその都度、指示する。

■ 参考書

テーマ別に必要に応じてその都度、指示する。

■ 備考

質問については各セッションの中で、または終了時、オフィスアワーに受け付ける。

家政特別演習(研修旅行)

(11166)

単位：2単位

対象学科：服専2年

授業形態：演習 学期：通年

服飾文化専攻科目

川 又 勝 子

■ 授業の概要

服飾をはじめ家政学、美術・工芸に関わる博物館、企業、工場などの施設を見学し、授業で学んだ知識や技能を基にした、服飾や家政学に関する実際的な知識を体験的に教授する。あらかじめ、事前学習により知りたいこと、疑問に思うことなどを明確にし、研修時に説明を聞いたり、展示物をみたりすることによって課題解決させる。研修で学んだことはその後の学習や進路選択、就職活動に生かせるようにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 博物館や資料館等の展示物を見ることにより、歴史、文化、社会貢献に関する知識を深めることができる ②③
- ・ 生産、流通にかかわる企業の活動に対する理解を深めることができる ②③
- ・ 将来の進路（職業選択）を考える基礎を身につける ②③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	資料を熟読する
第2回 事前学習①（学内研修についての事前調査など）	研修内容に関する情報収集
第3回 学内研修	研修内容を復習し、まとめておく
第4回 事後学習①（プレゼンテーション）	プレゼンの準備およびプレゼンの振り返り
第5回 事前学習②（博物館等での研修の事前調査）	研修内容に関する情報収集
第6回 事前学習③（企業等での研修の事前調査）	研修内容に関する情報収集
第7回 学外研修（2～3日程度）	研修内容を復習し、情報を整理しておく
第8回 事後学習②（博物館等での研修の振り返り）	研修報告書作成
第9回 事後学習③（企業等での研修の振り返り）	研修報告書作成
第10回 研修のまとめ	研修報告書の不備を修正する

■ 履修上の注意

- ・ 有意義な研修とするために、研修先についての事前調査を十分に行ってください。
- ・ 事前調査の結果や研修時に収集した情報・資料等の整理をきちんと行うこと。その上で、研修報告書を作成してください。
- ・ 研修時は社会人としてふさわしい言動、規律ある行動をとるように留意してください。くれぐれも、失礼のないように。
- ・ 事故やけががないよう十分に気を付けること。

■ 成績評価方法・基準

事前学習(20%)、研修時の取り組み(50%)、プレゼンテーション・研修報告書(30%)で評価します。報告書等にコメントを付して返却することでフィードバックとします。

■ 教科書

なし。

■ 参考書

必要に応じて指示する。

■ 備考

(集中講義)

ルーブリックを初回に配布しますので、学習目標としてください。研修先の都合によりシラバス内容を変更する事があります。なお、質問等については、授業時またはオフィスアワー（曜日・時間は掲示で確認）に受け付けます。

家政特別演習(研修旅行)

(11167)

単位：2単位

対象学科：服専3年

授業形態：演習 学期：通年

服飾文化専攻科目

菅野修一

■ 授業の概要

服飾をはじめ家政学、美術・工芸に関わる博物館、企業、工場などの施設を見学し、授業で学んだ知識や技能を基にした、服飾や家政学に関する実際的な知識を体験的に習得する。あらかじめ、事前学習により知りたいこと、疑問に思うことなどを明確にした上で、現地で説明を聞いたり、展示物を見たりすることによって課題解決を図ることが望ましい。研修で学んだことはその後の学習や進路選択、就職活動に生かせるよう教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---|----|
| ・生産、流通に関わる企業の活動に対する理解を深める。 | ②③ |
| ・博物館や企業の資料館の展示物を見ることにより、歴史的、文化的、社会貢献に関する知識を深める。 | ②③ |
| ・将来の進路(職業選択)を考える基礎を身につける。 | ②③ |

■ 授業計画

自習(事前・事後学修の内容)

第1回 ガイダンス	研修先、スケジュールの確認
第2回 事前学習(研修先である博物館や資料館、企業、工場などに関する説明と各自の事前の調査)	説明をよく聞き、訪問する施設についての情報を調べる
第3回 事前学習(各施設で調べたいこと、知りたいこと、見たいものなどを明確化する)	あらかじめ、疑問点や学びたいこと、目的などを明確にして、記録しておく
第4回 事前学習(上記3の整理と発表・共有)	研修で何を学ぶのか、皆の前で発表し、意識を高めるとともに、研修の目的を確立させる
第5回 研修旅行(3泊4日)	事故やけががないように慎重に行動すること
第6回 レポートの作成	施設の資料や写真やメモ(記録)を参考に、見たこと、聞いたこと、わかったこと、わからなかったことを振り返り、整理し、レポートすること
第7回 研修のまとめ	皆で感想を共有すること

■ 履修上の注意

研修先では社会人としてふさわしい言動、規律ある行動をするように留意すること。

事前にしっかりと研修計画を立て、何を学ぶのかという目的を明確化することが実りある研修につながるため、事前の学習にも力を入れるように。

■ 成績評価方法・基準

事前学習での調査状況20%、研修中の活動状況50%、研修レポートの内容30%でルーブリック評価する。

レポートは講評のうえ返却する。

■ 教科書

[書名] [著者名] [出版社名] [価格] 使用しない

■ 参考書

[書名] [著者名] [出版社名] [価格] 研修施設に応じて指示する

■ 備考

(集中講義)

質問、相談は各セッションの中で、または終了時、オフィスアワーで受け付けるが、随時来室(不在のときあり)してコミュニケーションしてもよい。

服飾ビジネス特別演習

(11168)

単位：2単位

対象学科：服専3年

授業形態：演習 学期：通年

服飾文化専攻科目

水谷 浩

■ 授業の概要

服飾ビジネスは、私たちの暮らしや社会の情報化と深く関わりながら存在する。本授業では、東北の地域産業として、これらの業界で働くヒト、消費するヒトの双方にとって幸せな暮らしを支える「服飾ビジネス」について学びます。

とりわけ、民間シンクタンクでの研究員や情報システム担当者としての実務経験を活かし、服飾ビジネスの事例研究や課題制作をはじめ、学生自らが社会的課題を見出し、学びと経験を深められる「課題解決型授業」を展開することにより『学生がつなぎ、発信する東北の魅力づくり』に必要な基礎的な知識や技能を教授する。

また、必要に応じて、より実践的な知識を学ぶため、外部講師の招聘を予定している。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|-----------------------------------|-----|
| ・1)服飾ビジネスで求められる知識や技能を理解、実践できる | ③⑤ |
| ・2)新たな時代の価値創造の担い手としての服飾ビジネスを理解できる | ③⑤⑨ |
| ・3)今後の服飾ビジネスのあるべき姿を説明できる | ③⑤ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	テーマ：服飾関連のビジネスとは？ 概要：授業の進め方・評価など	学生便覧の「ソーシャルメディア利用のガイドライン」と「OA実習室・OA教室利用案内」を必ず熟読しておくこと。
第2回	テーマ：服飾関連分野の新たなビジネス動向Ⅰ 概要：社会的課題の情報収集	各自課題について、インターネットや文献などの情報収集を行う。
第3回	テーマ：服飾関連分野の新たなビジネス動向Ⅱ 概要：社会的課題の情報分析	同上
第4回	テーマ：服飾関連分野の新たなビジネス動向Ⅲ 概要：社会的課題の解決に向けたビジネス提案①	各自課題に取り組む
第5回	テーマ：服飾関連分野の新たなビジネス動向Ⅲ 概要：社会的課題の解決に向けたビジネス提案②	同上
第6回	テーマ：ビジネス提案に向けた計画策定Ⅰ 概要：課題解決のため事業計画づくり①	同上
第7回	テーマ：ビジネス提案に向けた計画策定Ⅱ 概要：課題解決のため事業計画づくり②	同上
第8回	テーマ：フィールドワークⅠ（場合により、学外での活動あり） 概要：課題の内容に応じた取り組み①	事業計画に沿って、各自課題に取り組む。
第9回	テーマ：フィールドワークⅡ（場合により、学外での活動あり） 概要：課題の内容に応じた取り組み②	同上
第10回	テーマ：フィールドワークⅢ（場合により、学外での活動あり） 概要：課題の内容に応じた取り組み③	同上
第11回	テーマ：フィールドワークⅣ（場合により、学外での活動あり） 概要：課題の内容に応じた取り組み④	同上
第12回	テーマ：フィールドワークⅤ（場合により、学外での活動あり） 概要：課題の内容に応じた取り組み⑤	同上
第13回	テーマ：フィールドワークⅥ（場合により、学外での活動あり） 概要：課題の内容に応じた取り組み⑥	同上
第14回	テーマ：フィールドワークⅦ（場合により、学外での活動あり） 概要：課題の内容に応じた取り組み⑦	同上
第15回	テーマ：前期の振り返り 概要：後期に向けての課題の進捗状況を確認する	前期を振り返り、後期に向けた課題を見出す。
第16回	テーマ：情報集積 概要：ファッションデザインについての知見を広げる。 (外部講師・水谷)	各自、課題について情報収集を行う。
第17回	テーマ：実践・ワークショップ（ファッションモデリング） 概要：テキスタイルを活かす創造的造形 (外部講師・水谷)	各自、課題制作に取り組む。
第18回	テーマ：ファッションデザインのまとめ	授業内容の振り返りを行う。

概要：シューティング、プレゼンテーション、講評
(外部講師・水谷)

第19回	テーマ：WEBサイト作成の準備 概要：仮想サーバ + WordPressの設定と操作の基本	学生便覧の「ソーシャルメディア利用のガイドライン」と「OA実習室・OA教室利用案内」を必ず熟読しておくこと。
第20回	テーマ：情報のユニバーサルデザインへの配慮 概要：障がい理解から、情報のユニバーサルデザインを学ぶ	情報発信の際、障がい者への配慮を理解する。
第21回	テーマ：仮想企業の設定 概要：実在の事業所を参考にして、事業所名(業種、取扱商品)を決定する	仮想企業の概要をまとめる。
第22回	テーマ：WEBサイト制作の基本 I 概要：会社概要(固定ページ)を作成する	各自計画に沿って課題に取り組む。また、各授業中に学んだことの要点は、必ず講義ノートに記録すること。
第23回	テーマ：WEBサイト制作の基本 II 概要：会社概要(固定ページ)を更新する	同 上
第24回	テーマ：WEBサイト制作の基本 III 概要：お問い合わせのフォームを作成する	同 上
第25回	テーマ：WEBサイト制作の基本 IV 概要：メニューの設定を変更する	同 上
第26回	テーマ：WEBサイト制作の基本 V 概要：サイドバーの設定を変更する	同 上
第27回	テーマ：WEBサイト運用の基本 I 概要：セキュリティ対策を学ぶ	同 上
第28回	テーマ：WEBサイト運用の基本 II 概要：アクセス状況分析を学ぶ	同 上
第29回	テーマ：WEBサイト運用の基本 III 概要：SNS連携とデータの保存・復旧方法を学ぶ	同 上
第30回	テーマ：まとめ 概要：制作したWEBサイトの発表および講評	発表までに全てのページを完成させる

■ 履修上の注意

原則的に全出席（また、課題の未提出、実習中の態度不良や遅刻・欠席した場合、単位を取得できない）

毎日最低1時間以上、文献・資料調査、もしくは課題制作など、予習・復習をすること。

なお、WordPressは設定や操作が複雑です。システムの不具合が発生したとき、それを解決するまで、あきらめず何度も挑戦する学習姿勢が求められます。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(35%)+レポート(30%)+課題作品(35%)にもとづき評価します。

なお、課題のフィードバックについては、授業中に適宜行います。

※ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔小さなお店&会社のWordPress超入門〕〔星野邦敏 他2名著〕〔技術評論社〕〔2178円〕

■ 参考書

授業中に適宜指示します。

■ 備考

質問などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に対応します。

外部講師による授業の場合は、集中講義期間に実施する。

フィールド調査は、授業の空き時間や休日を実施することがあります。また、課題制作費は自己負担となります。

服飾生活特別演習

(11169)

単位：2単位

対象学科：服専3年

授業形態：演習 学期：通年

服飾文化専攻科目

井上美紀

■ 授業の概要

生活者として衣生活の課題を見出し、情報収集と分析を行い、その解決策を模索するPBL型授業を行う。

授業では情報収集の仕方、解決までのプロセスなど、課題解決に必要な知識や手法を教授する。特に、解決策や対応策として実際に資料を作成する、制作物を制作する、情報機器を活用し情報発信する等、課題内容に応じて取り組むが、このために必要な知識や手法も教授する。授業はPBL型を主に取り入れ、グループワーク（以下GW）やディスカッションを交えて進める。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--------------------------------------|-------|
| ・課題解決のために必要な知識や手法を身につける。 | ③ |
| ・課題解決のための実践力、社会人として必要な基礎力・倫理観を身につける。 | ⑤⑥⑦⑧⑨ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	はじめに：授業概要、授業の進め方、課題の提示	課題について情報収集する。
第2回	課題の情報収集と情報分析（一部図書館で実施）	文献資料を収集する。
第3回	情報分析と課題解決のプロセス案の策定（一部図書館で実施）	情報を整理し、課題に取り組む。コンセプト案を検討する。
第4回	コンセプトの策定 GW	課題に取り組む。事業計画案を検討する。
第5回	事業計画の策定① 素案 GW	課題に取り組む。試料の入手手段を検討する。
第6回	事業計画の策定② 本案、試料準備 GW	課題に取り組む。進行計画を検討する。
第7回	事業計画の策定③ 役割分担、進行計画の策定 GW	課題に取り組む。詳細な作業計画を検討する。
第8回	課題に応じた取り組み①（試料入手等 GW、学外の場合有）	課題に取り組む。不足の試料がないかを確認する。
第9回	課題内容に応じた取り組み②（制作や資料作成等GW）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む。遅れた分は次時までには終わらせる。
第10回	課題内容に応じた取り組み③（制作や資料作成等GW）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む。遅れた分は次時までには終わらせる。
第11回	課題内容に応じた取り組み④（制作や資料作成等GW）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む。遅れた分は次時までには終わらせる。
第12回	課題内容に応じた取り組み⑤（制作や資料作成等GW）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む。遅れた分は次時までには終わらせる。
第13回	課題内容に応じた取り組み⑥（制作や資料作成等GW）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む。遅れた分は次時までには終わらせる。
第14回	課題内容に応じた取り組み⑦（制作や資料作成等GW）	課題を完成させる。前期での課題を検討する。
第15回	前期の総括、後期に向けての課題の整理、進行計画の修正	全範囲を振り返り、後期の進行計画案と情報発信方法を検討する。
第16回	取り組み内容と後期の進行計画の確認、情報発信の方法	詳細な作業計画を検討する。
第17回	課題内容に応じた取り組み⑧（制作や資料作成等GW）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む。遅れた分は次時までには終わらせる。
第18回	課題内容に応じた取り組み⑨（制作や資料作成等GW）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む。遅れた分は次時までには終わらせる。
第19回	課題内容に応じた取り組み⑩（制作や資料作成等GW）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む。遅れた分は次時までには終わらせる。
第20回	課題内容に応じた取り組み⑪（制作や資料作成等GW）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む。遅れた分は次時までには終わらせる。
第21回	課題内容に応じた取り組み⑫（制作や資料作成等GW）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む。遅れた分は次時までには終わらせる。
第22回	課題内容に応じた取り組み⑬（制作や資料作成等GW）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む。遅れた分は次時までには終わらせる。
第23回	課題内容に応じた取り組み⑭（制作や資料作成等GW）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む。遅れた分は次時までには終わらせる。
第24回	課題内容に応じた取り組み⑮（制作や資料作成等GW）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む。遅れた分は次時までには終わらせる。

第25回	課題内容に応じた取り組み⑯（制作物と資料内容の最終確認GW ）	課題を完成させる。成果報告案を検討する。
第26回	課題内容に応じた取り組み⑰（制作物と資料内容の最終確認GW ）	課題を完成させる。成果報告案を検討する。
第27回	情報発信① 準備・成果報告 GW	成果報告の準備を終わらせる。
第28回	情報発信② 成果報告 GW （外部で実施の場合有）	成果報告の振り返りをはかる。
第29回	情報発信③ 成果報告・検討会 GW	成果報告の振り返りをはかる。
第30回	おわりに：取り組みの評価、本演習のまとめ	全体を振り返り、今後の課題を見出す。

■ 履修上の注意

服飾生活コースの選択学生は必ず履修すること。

授業では、履修者同士で協力して取り組むことが多いので 社会人としてのマナーを心掛け協調して積極的にとり組むこと。遅刻・欠席せず、課題を計画通り進めて次時の授業に臨むこと。授業に必要な道具は事前に準備して持参すること。

■ 成績評価方法・基準

事前準備をし、協力して積極的に課題に取り組んでいるかに対し50%、課題の内容・成果50%

課題が未提出、未実施等の際には、評価の対象としない。

ルーブリック評価は第1回の授業で説明する。課題は授業内でフィードバックする。

■ 教科書

課題内容に応じて指示する。

■ 参考書

課題内容に応じて紹介する。

■ 備考

質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

評価や演習の進め方、事業での連携内容は1回目の授業で説明する。

作業状況等の都合により、授業計画の順番や内容、時間等を変更することがある。

試料入手や情報発信等、課題内容に応じて外部で授業を行う場合もある。時間を変更して実施する。（交通費は各自負担）

専門研究Ⅰ

(11170)

単位：4単位

対象学科：服専3年

授業形態：演習 学期：通年

服飾文化専攻科目

菅野修一

■ 授業の概要

大学生活の集大成としてポリマーケミストリーの観点からテーマを選定し、現象に対する科学的に理解を深めることをとおして、科学に関する学問体系の一端を教授する。より具体的には、参考文献の収集・実験技術の習得・実験データのまとめ方・論文作成の手法・研究発表の手法に関する基礎を習得できる。

具体的テーマは各個人の単位履修状況及び興味などを考慮して決定する。研究のペースも、各個人の単位履修状況を考慮して進める。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・研究目的を理解し、深い専門知識を身につける。
- ・研究成果を発表し、論文としてまとめることが出来る。

⑥⑦⑧⑨

⑥⑦⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	研究の動機づけと、研究室の選択	担任の指導。
第2回	研究の動機づけと、研究室の選択	担任の指導。
第3回	文献調査	指定文献の熟読。
第4回	文献調査	指定文献の熟読。
第5回	文献調査	指定文献の熟読。
第6回	文献調査	指定文献の熟読。
第7回	精製実験	データを見直す。
第8回	精製実験	データを見直す。
第9回	合成実験	データを見直す。
第10回	合成実験	データを見直す。
第11回	合成実験	データを見直す。
第12回	合成実験	データを見直す。
第13回	合成実験	データを見直す。
第14回	合成実験	データを見直す。
第15回	精製実験	データを見直す。
第16回	精製実験	データを見直す。
第17回	合成実験	データを見直す。
第18回	合成実験	データを見直す。
第19回	合成実験	データを見直す。
第20回	合成実験	データを見直す。
第21回	分析実験	データを見直す。
第22回	分析実験	データを見直す。
第23回	分析実験	データを見直す。
第24回	分析実験	データを見直す。
第25回	データ整理（学会発表準備・学内口頭発表準備）	論文作成。
第26回	データ整理（学会発表準備・学内口頭発表準備）	論文作成。
第27回	データ整理（学会発表準備・学内口頭発表準備）	論文作成。
第28回	データ整理（学会発表準備・学内口頭発表準備）	論文作成。
第29回	データ整理（学会発表準備・学内口頭発表準備）	論文作成。
第30回	課題研究Ⅰ発表会	論文作成。

■ 履修上の注意

理解をより深めるため、有機化学Ⅰ・Ⅱ及び化学Ⅰ・Ⅱの受講が望ましい。

■ 成績評価方法・基準

実験をしてデータを出すことに対して50%、得られたデータを論文としてまとめプレゼンテーションをおこなうことに対して50%を基準として総合的に評価する。論文は繰り返しフィードバックして指導する。

■ 教科書

多くの参考文献や専門書は必要に応じて配布あるいは貸し出す。

■ 参考書

必要なプリント配布

■ 備考

質問はオフィスアワーはもちろん、常時受けつける。

専門研究Ⅰ

(11171)

単位：4単位

対象学科：服専3年

授業形態：演習 学期：通年

服飾文化専攻科目

植松公威

■ 授業の概要

この授業では「教授学習心理学」の分野の研究活動に取り組む。目標としては、「教授学習心理学」に関する研究テーマを先行研究から選び、追試研究を行うことを目指す。選んだ先行研究をよく理解した上で、先行研究の実験方法などを模倣する形で新たな実験を準備、実施し、データを集計し、論文を作成する。特に、複数の要因に関して表や図を作成したり、結果を読み取ったりする訓練を行う。一連の活動を通して研究に必要なリテラシーやプレゼンテーション力を習得できるように教授する。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・1 ワードやエクセルを用いてデータの集計と図表の作成、読み取りが行えるようになる	⑥⑦⑧⑨
・2 教授学習心理学の研究に必要な基礎的なリテラシー（読み書き能力）を身につける	⑥⑦⑧⑨
・3 教授学習心理学の研究に興味をもち、今後の課題を見つけ、新たな仮説を立てられるようになる	⑥⑦⑧⑨

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 はじめに：専門研究の進め方（年間の予定と教育目標）	シラバスを熟読すること
第2回 研究倫理について	あらかじめ質問内容を考えておくこと
第3回 過去の研究テーマの調査	教授学習心理学の研究テーマを自主的に調べる
第4回 研究テーマの選定	興味のある研究テーマをいくつか絞る
第5回 研究論文の構成について学ぶ	論文の構成とそれぞれの意味について理解する
第6回 先行研究の内容についてまとめる	興味のある先行研究を選び、レポートする
第7回 先行研究の内容について報告し、討論する	選んだ先行研究についてレジュメを作成する
第8回 実験の準備（質問紙、教材、課題などの作成）	選んだ先行研究に基づいて実験計画を立てる
第9回 実験の準備（実験で使う冊子の内容について構想を立てる）	実験で使う冊子を作成し、必要な部数印刷する
第10回 実験の準備（実験で使う冊子の作成）	実験で使う冊子を作成し、必要な部数印刷する
第11回 実験の準備（実験で使う冊子のチェックと印刷）	実験で使う冊子を作成し、必要な部数印刷する
第12回 実験の実施	いつ、どこで、誰に実験を行うのか計画する
第13回 実験の実施	いつ、どこで、誰に実験を行うのか計画する
第14回 実験の実施	いつ、どこで、誰に実験を行うのか計画する
第15回 エクセルにデータを入力する	記入済みの冊子を回収し、データを入力する
第16回 エクセルにデータを入力する	記入済みの冊子を回収し、データを入力する
第17回 エクセルを使ってデータを分析し、表や図を作成する	平均値や正答者数（率）を算出し、図表を作る
第18回 エクセルを使ってデータを分析し、表や図を作成する	平均値や正答者数（率）を算出し、図表を作る
第19回 エクセルを使ってデータを分析し、表や図を作成する	平均値や正答者数（率）を算出し、図表を作る
第20回 エクセルを使ってデータを分析し、表や図を作成する	平均値や正答者数（率）を算出し、図表を作る
第21回 ワードによる研究論文の作成	仮説が支持されたかどうかを検証しておく
第22回 ワードによる研究論文の作成	仮説が支持されたかどうかを検証しておく
第23回 ワードによる研究論文の作成	仮説が支持されたかどうかを検証しておく
第24回 ワードによる研究論文の作成	仮説が支持されたかどうかを検証しておく
第25回 ワードによる研究論文の作成	仮説が支持されたかどうかを検証しておく
第26回 発表の準備（パワーポイントの画像、発表原稿の作成）	口頭発表の原稿とパソコンの画像を照合する
第27回 発表の準備（パワーポイントの画像、発表原稿の作成）	口頭発表の原稿とパソコンの画像を照合する
第28回 発表の準備（パワーポイントの画像、発表原稿の作成）	口頭発表の原稿とパソコンの画像を照合する
第29回 発表の準備（パワーポイントの画像、発表原稿の作成）	口頭発表の原稿とパソコンの画像を照合する
第30回 研究発表	前もって発表のリハーサルしておく

■ 履修上の注意

毎回、休まず出席すること。欠席する場合は必ず連絡を入れること。先行研究を熟読し、積極的に学び、作業を自主的に進めること。わからない点は相談すること。報告・連絡・相談を忘れずに。必修であるための義務感から取り組むのではなく、指導教官との共同研究として、お互いに議論や意見交換しながら、熱心に取り組むこと。とりわけ日本における学校教育のあり方を少しでも良いものに改善するための実証的研究を目指して取り組むこと。

■ 成績評価方法・基準

研究に対する取り組み30%，論文の内容30%，研究発表の準備と当日のパフォーマンス40%。取り組みや論文については、その都度フィードバックしながら指導します。

■ 教科書

必要に応じて授業前に資料（プリント）を配布する。

■ 参考書

研究課題に応じて指示する。

■ 備考

質問等については、いつでもお答えします。各セッションの中で、または終了時に、あるいはオフィスアワーを利用して、質疑応答をすることも可能です。

専門研究 I

(11172)

単位：4単位

対象学科：服専3年

授業形態：演習 学期：通年

服飾文化専攻科目

井上美紀

■ 授業の概要

被服科学分野では、被服整理・染色加工・被服材料に関連する研究課題を相談して決定し、課題に応じて文献調査と実験を行う。本分野では科学的な実験による手法を用いて課題に取り組むので、このための研究手法を教授する。特に、研究の進め方、課題設定方法、研究計画方法、文献調査方法を解説し、実験手法を教授する。研究を進める際には、教員と同研究室学生でのディスカッション（グループワーク、以下GW）を取り入れる。課題に対する成果は論文にまとめ、専門研究 I の発表会でプレゼンテーションするとともに、専門研究 II への土台づくりを行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・自己管理能力、倫理観、課題解決能力、応用力等を身につける。

⑥⑦⑧⑨

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 はじめに：専門研究の進め方（3年担任：菅野）	過去の専門研究の内容を振り返る。
第2回 研究室の割り振り・研究倫理（3年担任：菅野）	研究倫理の重要事項を確認する。
第3回 研究課題の設定、文献の検索（以下全コマ、井上）	研究課題案を検討する。
第4回 研究計画 計画案の策定と修正立案	研究課題の具体案を検討する。
第5回 文献調査① 文献調査と整理	文献調査を進める。
第6回 文献調査② 文献の整理	文献調査を進める。
第7回 文献調査③ まとめ GW	調査した結果を報告し、実験作業計画を検討する。
第8回 実験試料の準備、実験作業計画	計画に沿って進める。
第9回 実験① 課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第10回 実験② 課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第11回 実験③ 課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第12回 実験④ 課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第13回 実験⑤ 課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第14回 実験データの整理と考察①	全体のデータを整理し考察を深める、課題を見出す。
第15回 研究成果の報告① GW、今後の課題と作業計画立案	後期の実験計画案を検討する。
第16回 後期の実験作業計画、実験試料の準備	前期の実験内容を振り返る。
第17回 実験⑥ 課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第18回 実験⑦ 課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第19回 実験⑧ 課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第20回 実験⑨ 課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第21回 実験⑩ 課題に応じた内容、実験データの整理と考察②	データを整理する。
第22回 研究成果の報告② GW、今後の課題、論文の構成	今後の課題を見出す、論文の構成案を検討する。
第23回 論文作成① 論文作成	計画に沿って進める。
第24回 論文作成② 論文作成	計画に沿って進める。
第25回 論文作成③ 最終校正	計画に沿って進める。
第26回 研究成果の発表方法	研究発表に必要な準備を進める
第27回 プレゼンテーション① 抄録作成、プレゼン資料作成	計画に沿って進める。
第28回 プレゼンテーション② プレゼン資料作成、発表練習GW	計画に沿って進める。発表練習を行う。
第29回 プレゼンテーション③ 専門研究 I 発表会	プレゼン内容を振り返る。
第30回 おわりに 課題研究のまとめ、今後の課題	全体を振り返り、今後の課題を見出す。

■ 履修上の注意

実験は安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねる。指定の実験ノートを準備する。計画に沿って積極的に進める。

■ 成績評価方法・基準

事前準備をし、実験やディスカッションに取組みデータを適切にまとめている事に対し50%

論文・プレゼンテーションに対し50%

課題、提出物は後日添削してフィードバックする。

■ 教科書

研究課題に応じて指示する。

■ 参考書

研究課題に応じて紹介する。

■ 備考

実験内容、作業状況等の都合により、授業計画の順番や内容、時間の変更と延長等を行う場合がある。

質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

評価や進め方は1回目の授業で説明する。

課題が未提出、実施されない等の際には、評価の対象としない。

専門研究 I

(11173)

単位：4単位

対象学科：服専3年

授業形態：演習 学期：通年

服飾文化専攻科目

川 又 勝 子

■ 授業の概要

2年次までに習得した服飾文化に関する知識や技術の中から、特に、服飾史と染織学に関する知識・技術をもとに、各種資料についての調査研究を行う。研究対象は、本学をはじめとする東北地方に残されている染織関連資料とする。各自が設定したテーマに合わせて、研究計画を立て、調査・分析方法について指導する。さらに、研究の成果をまとめるレポート作成と専門研究発表会に向けてのプレゼンテーション法についても指導する。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・文献調査や資料調査など研究の進め方の基本を身につける	⑦
・これまでに習得した知識・技術を応用できるようになる	⑨
・計画的に研究を進める能力を身につける	⑥
・レポートやプレゼンテーション資料作成の基本を身につける	⑧

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 はじめに：専門研究の進め方（3年担任：菅野）	過去の研究内容を調べる
第2回 研究室の割り振り・研究倫理（3年担任：菅野）	過去の研究内容を調べる
第3回 専門研究の設定（以下全コマ、川又）	専門研究の課題について考える
第4回 テーマの決定	配布資料を熟読し、研究テーマについて検討
第5回 文献の調べ方	図書館等で文献検索を行う
第6回 文献調査：各自で文献の収集と調査 ①	図書館等で文献検索を行う
第7回 // :各自で文献の収集と調査 ②	図書館等で文献検索を行い、文献を読み進める
第8回 // :文献調査のまとめ ①	文献を読み進める
第9回 // :文献調査のまとめ ②	文献を読み進める
第10回 // :文献調査のまとめ ③	収集した文献をまとめ、報告資料を作成する
第11回 // :文献調査の報告	報告資料の修正、研究計画について検討する
第12回 今後の計画策定	研究計画を修正し、研究計画書を完成させる
第13回 研究指導：個別に調査等の指導 ①	時間内に終わらなかった調査等を進める
第14回 // :個別に調査等の指導 ②	時間内に終わらなかった調査等を進める
第15回 // :個別に調査等の指導 ③	時間内に終わらなかった調査等を進める
第16回 // :個別に調査等の指導 ④	時間内に終わらなかった調査等を進める
第17回 // :個別に調査等の指導 ⑤	時間内に終わらなかった調査等を進める
第18回 レポート指導：レポートの書き方	これまでの成果をまとめたレポート作成する
第19回 // :個別にレポート作成の指導 ①	レポート作成を進める
第20回 // :個別にレポート作成の指導 ②	レポート作成を進める
第21回 // :個別にレポート作成の指導 ③	レポート作成を進める
第22回 // :個別にレポート作成の指導 ④	レポート作成を進める
第23回 抄録作成指導：抄録の書き方	抄録を書く
第24回 // :個別に抄録原稿の修正	抄録を完成させ、プレゼンテーション資料の素案を作る
第25回 発表資料作成指導：プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション資料を作成する
第26回 // :個別にプレゼン資料の作成指導	プレゼンテーション資料を作成する
第27回 // :個別にプレゼン資料の作成指導と発表練習	プレゼンテーション資料を完成させる
第28回 研究室内での発表練習会	プレゼンテーション資料の修正と自主トレ
第29回 専門研究発表会	発表内容について省みる
第30回 専門研究発表会の反省、レポート完成	発表会での指摘内容をレポートに反映させる

■ 履修上の注意

日頃から伝統染織に関しての情報を収集するように心掛けてください。文献や資料の調査、レポート作成などについては、各自で積極的に進め、意欲的に取り組んでください。

■ 成績評価方法・基準

平常の取り組みによる評価（研究ノート等）を50%とし、調査の成果・レポート・発表会でのプレゼンテーションを50%として評価します。研究ノートや作成資料については個別指導時に添削・指導します。

■ 教科書

各自のテーマに沿って指示する。

■ 参考書

各自のテーマに沿って指示する。

■ 備考

質問等は、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）時にも受け付けます。

専門研究Ⅰ

(11174)

単位：4単位

対象学科：服専3年

授業形態：演習 学期：通年

服飾文化専攻科目

水谷 浩

■ 授業の概要

本演習は、消費生活協同組合や民間シンクタンクなどでの実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』の経歴を踏まえ「身体の不自由なヒトの生活の質と衣生活」という視点から、フィールド調査および商品特性に関する研究を指導する。また、専門的な学びを深めるため『色彩検定UC級』の資格取得を推奨します。

具体的には、①身体の不自由なヒトの身体的・感覚的・認知的特性を学び②彼らの衣生活に関してのフィールド調査、③アクセシブルデザイン（Accessible Design:身体の不自由なヒトの更衣動作への工夫や配慮）について研究を通じて、人間中心設計（Human Centered Design:HCD）の考え方に基づく、被服観の修得をめざします。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・1)商品学的視点で、被服の商品特性を理解できる	⑥⑦⑧⑨
・2)身体の不自由なヒトの困難さについて共感的に理解できる	⑥⑦⑧⑨
・3)アクセシブルデザインの意義を理解し、説明できる	⑥⑦⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

回	テーマ	概要	自習（事前・事後学修の内容）
第1回	テーマ：はじめに	概要：専門研究のすすめ方（3年担任：菅野）	クラス担任により事前・事後学習実施
第2回	テーマ：配属研究室の決定	概要：研究室の割り振り・研究倫理（3年担任：菅野）	同上
第3回	テーマ：研究課題の設定にむけて	概要：研究の社会的意義を踏まえ、問題意識を明らかにする	研究の社会的意義（問題意識）を明確にした上で、自らの仮説にもとづき、それらを解決するための先行研究や統計調査をすすめる。
第4回	テーマ：身体の不自由なヒトたちの暮らしⅠ	概要：色覚特性の理解を通じて、色づかいの学びを深める	同上
第5回	テーマ：身体の不自由なヒトたちの暮らしⅡ	概要：高齢者の見え方を理解し、色づかいの学びを深める	同上
第6回	テーマ：視覚情報のユニバーサルデザインⅠ	概要：「誰もが見やすい配慮」について学ぶ	同上
第7回	テーマ：視覚情報のユニバーサルデザインⅡ	概要：「誰もが見やすい工夫」について学ぶ	同上
第8回	テーマ：研究の企画・立案	概要：先行研究を調査し、新たな課題（テーマ）を見つける	同上
第9回	テーマ：研究Ⅰ（個別テーマ）	概要：研究目的を明確化し、基礎統計資料を収集・分析する	同上
第10回	テーマ：研究Ⅱ（個別テーマ）	概要：仮説（調査内容）を検討する	同上
第11回	テーマ：研究Ⅲ（個別テーマ）	概要：フィールド調査（アンケート・インタビュー）を実施する	フィールド調査を実施し、そこから得られたデータを整理・図表化することにより、これらデータの意味について考察する。
第12回	テーマ：研究Ⅳ（個別テーマ）	概要：フィールド調査の集計を実施する	同上
第13回	テーマ：研究Ⅴ（個別テーマ）	概要：フィールド調査の集計結果を分析する	同上
第14回	テーマ：課題制作の計画策定	概要：課題制作に向けて、準備に着手する	同上
第15回	テーマ：前期のまとめ	概要：課題制作のコンセプトを決定する	フィールド調査の結果から、コンセプトを設定し、課題制作の準備をすすめる。
第16回	テーマ：課題制作Ⅰ（試作）	概要：課題制作を通じて、被服の商品特性への知見を深める	計画に沿って、課題制作に取り組む。
第17回	テーマ：課題制作Ⅱ（試作）	概要：課題制作を通じて、被服の商品特性への知見を深める	同上
第18回	テーマ：課題制作Ⅲ（試作）	概要：課題制作を通じて、被服の商品特性への知見を深める	同上

第19回	テーマ：課題制作Ⅳ（試作） 概要：課題制作を通じて、被服の商品特性への知見を深める	同 上
第20回	テーマ：課題制作Ⅴ（試作） 概要：課題制作を通じて、被服の商品特性への知見を深める	同 上
第21回	テーマ：課題制作Ⅵ（試作） 概要：課題制作を通じて、被服の商品特性への知見を深める	同 上
第22回	テーマ：課題制作Ⅶ（試作） 概要：課題制作を通じて、被服の商品特性への知見を深める	同 上
第23回	テーマ：課題制作Ⅷ（試作） 概要：課題制作を通じて、被服の商品特性への知見を深める	同 上
第24回	テーマ：課題制作Ⅸ（試作） 概要：課題制作を通じて、被服の商品特性への知見を深める	同 上
第25回	テーマ：課題制作Ⅹ（試作） 概要：課題制作を通じて、被服の商品特性への知見を深める	同 上
第26回	テーマ：実証実験 概要：実証実験を通じて、課題発見力を学ぶ	実証実験や改善・改良などを経て、商品特性への知見を深める。
第27回	テーマ：課題制作Ⅱ（改良・改善） 概要：改善改良を通じて、問題解決力を学ぶ	同 上
第28回	テーマ：論文執筆 概要：研究成果を論文にまとめる	フィールド調査および課題制作の結果を論文にまとめ、それらを簡潔に説明するための発表資料を作成する。
第29回	テーマ：報告会準備 概要：報告会のための発表資料をまとめる	同 上
第30回	テーマ：報告会 概要：これまでの研究成果を発表する	所定時間内に研究成果を簡潔に発表する。

■ 履修上の注意

自主的な調査・研究には、知識と経験の積み重ねが不可欠となります。
 毎日最低1時間以上、文献・資料調査、もしくは課題の制作など、予習・復習を継続すること。
 なお、2/3以上の出席がない場合には、単位取得できません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(10%)+制作物・論文(50%)+報告会での研究発表(40%)にもとづき評価します。
 なお、制作物・論文・発表資料のフィードバックについては、適宜行います。
 ※ループリック評価については、第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

各自の研究テーマや専門分野に応じて指示します。

■ 参考書

授業中に適宜指示します。

■ 備考

「消費生活研究室（水谷ゼミ）」希望者は、以下の条件を満たすことが求められます。

- ①「消費者力検定」や「色彩検定UC級」の有資格者もしくは資格取得に意欲的な学生を望みます。
 - ②フィールド調査は、授業の空き時間や休日に実施します。また、課題制作費は自己負担となります。
- ※質問などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に対応します。

専門研究 I

(11175)

単位：4単位

対象学科：服専3年

授業形態：演習 学期：通年

服飾文化専攻科目

宮 前 理

■ 授業の概要

臨床心理学では「心の病」に対する心理アセスメントや心理療法などの心理的支援を通して、人間の心身の健康について研究する。人間にとって幸せとは何か、人間とはそもそも如何なる存在かという問いと出会う研究領域でもある。この領域の中から学生自身が関心を持ったテーマに関する心理学諸学会で発表された研究論文や研究著書を精読し発表を積み重ねていく。臨床心理学の基本的考え方と研究方法を教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・臨床心理学の研究方法及び目的を理解した上で文献購読ができる。
- ・研究成果をまとめ論文として発表できるようになる。

⑥⑦⑧⑨

⑥⑦⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

回数	内容	自習（事前・事後学修の内容）
第1回	(以下数字は授業計画数を示す)	過去の研究内容を調べる。
	1 専門研究の進め方 (3年担任)	過去の研究内容を調べる。
	2 研究室の割り振り 研究倫理 (3年担任)	
第2回	3. 4. 5. 6 研究課題の設定 (3回以降は宮前が担当)	文献検索を進め研究領域を理解する。研究課題を策定する。
第3回	7. 8. 9 臨床心理学領域の研究論文1を読み発表する。	研究論文1を熟読する。
第4回	10. 11. 12 臨床心理学領域の研究論文2を読み発表する。	研究論文2を熟読する。
第5回	13. 14 文献講読の総合的なまとめと発表	研究論文1, 2を総合的に理解する。
第6回	15. 16. 臨床心理学の研究書1を読み発表する。前半	研究書1を章ごとに理解する。
第7回	17. 18. 臨床心理学の研究書1を読み発表する。後半	研究書1を章ごとに理解する。
第8回	19. 20 臨床心理学の研究書2を読み発表する。前半	研究書2を章ごとに理解する。
第9回	21. 22 臨床心理学の研究書2を読み発表する。後半	研究書2を章ごとに理解する。
第10回	23. 24 研究書1, 2の総合的な理解と抄録作成	研究課題に合わせて研究書を総合的に考察する。
第11回	25 研究課題に関する論文の作成1 素案	研究論文と研究書の理解と考察。
第12回	26 研究課題に関する論文の作成2 加筆修正	研究論文と研究書の理解と考察。
第13回	27 研究課題に関する論文の作成3 完成	研究論文と研究書の理解と考察。
第14回	28 研究課題に関する抄録の作成	
第15回	29. 30 専門研究発表	

■ 履修上の注意

研究課題の選定は受講者の希望と相談しながら決める予定です。

研究論文、研究書は受講者の研究課題に合わせて選択します。

自主的な研究姿勢を持って参加してください。

■ 成績評価方法・基準

資料の事前の熟読と発表資料の準備30%、毎回の発表30%、最終論文と専門研究発表会40%とします。課題発表と論文作成に当たっては毎回フィードバックを行います。

■ 教科書

演習の中で決めます。

■ 参考書

演習の中で決めます。

■ 備考

質問は演習時やオフィスアワーで受け付けます。オフィスアワーでの質問等は事前にメール予約してください。

受講人数などによって授業計画の修正を行う場合があります。

専門研究 I

(11176)

単位：4単位

対象学科：服専3年

授業形態：演習 学期：通年

服飾文化専攻科目

宮澤孝子

■ 授業の概要

教育の法、制度、政策に関する研究主題（問い）を選定し、それについての応答を探求する。3年前期においては、基本的な文献および資料を読解する力を養うことを目的とし、参考文献の熟読と解説を行う。後期には、各自の問題関心に近い文献や論文を収集・報告し、研究主題を決定する。演習時の報告担当者は、論理の展開が一目でわかるレジюмеを作成するように努めること。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・基本的な文献を読解し、それをまとめる力を身につける。	⑥⑦⑧⑨
・研究に要する文献・論文・資料を選定する力を身につける。	⑥⑦⑧⑨
・オリジナルの問いを設定し、研究方法を決定する。	⑥⑦⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	はじめに：専門研究の進め方（3年担任）	過去の研究内容を調べる。
第2回	研究室の割り振り・研究倫理（3年担任）	過去の研究内容を調べる。
第3回	研究課題の設定（以下、担当：宮澤）、文献読解1-1	自らの課題意識を話せるようにする。課題意識に関わる簡単な文献を読んでまとめてくる。
第4回	レジюмеの作成方法について、文献読解1-2	まとめた内容を報告、レジюмеの作成方法について学ぶ。
第5回	文献読解2、報告	基礎的な文献を読み、レジюмеにまとめ、その都度フィードバックを行う。
第6回	文献読解2、報告	基礎的な文献を読み、レジюмеにまとめ、その都度フィードバックを行う。
第7回	文献読解2、報告	基礎的な文献を読み、レジюмеにまとめ、その都度フィードバックを行う。
第8回	文献読解2、報告	基礎的な文献を読み、レジюмеにまとめ、その都度フィードバックを行う。
第9回	文献読解2、報告	基礎的な文献を読み、レジюмеにまとめ、その都度フィードバックを行う。
第10回	文献読解3、報告	基礎的な文献を読み、レジюмеにまとめ、その都度フィードバックを行う。
第11回	文献読解3、報告	基礎的な文献を読み、レジюмеにまとめ、その都度フィードバックを行う。
第12回	文献読解3、報告	基礎的な文献を読み、レジюмеにまとめ、その都度フィードバックを行う。
第13回	文献読解3、報告	基礎的な文献を読み、レジюмеにまとめ、その都度フィードバックを行う。
第14回	文献読解3、報告	基礎的な文献を読み、レジюмеにまとめ、その都度フィードバックを行う。
第15回	文献読解3、報告	基礎的な文献を読み、レジюмеにまとめ、その都度フィードバックを行う。
第16回	問題意識の整理	夏休み期間中に問題意識に関わる文献を選定し、精読した上で、問題意識をレジюмеにまとめてくる。
第17回	文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジюмеにまとめ、報告する。
第18回	文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジюмеにまとめ、報告する。
第19回	文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジюмеにまとめ、報告する。
第20回	文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジюмеにまとめ、報告する。
第21回	文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、

		レジュメにまとめ、報告する。
第22回	文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジュメにまとめ、報告する。
第23回	文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジュメにまとめ、報告する。
第24回	文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジュメにまとめ、報告する。
第25回	文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジュメにまとめ、報告する。
第26回	中間まとめと報告の準備	論文の概要をA4×4枚にまとめ、それをもとに報告内容を作成する。
第27回	中間まとめと報告の準備	報告内容を作成する。発表練習。
第28回	中間まとめと報告の準備	報告内容を作成する。発表練習。
第29回	中間まとめと報告の準備	報告内容を作成する。発表練習。
第30回	専門研究Ⅰ発表会	パワーポイントあるいはレジュメ作成のいずれか研究テーマに適した方法で成果をまとめる。

■ 履修上の注意

- ・ 教員免許（中・高・栄）取得のために必要とされる教職科目を全て履修していることを履修条件とする。
- ・ 専門研究Ⅰを履修する者は、専門研究Ⅱも継続して履修することが望ましい。
- ・ 自ら考え、自らの設定する研究課題に取り組む、意欲的な姿勢を歓迎する。

■ 成績評価方法・基準

演習時に作成するレジュメ、報告内容をもって評価する。

■ 教科書

指定なし

■ 参考書

兼子仁（1976）『入門教育法』エイデル研究所
堀尾輝久（2019）『人権としての教育』岩波書店

■ 備考

- ・ 演習の曜日および時限については、履修生の時間割を考慮して設定する。
- ・ 教員と履修生の都合上、演習日程に変更を要する場合は、柔軟に対応する。
- ・ 質問等については、原則、演習の時間前後あるいはオフィスアワーにて対応するが、柔軟に対応する。

専門研究Ⅱ

(11177)

単位：4単位

対象学科：服専4年

授業形態：演習 学期：通年

服飾文化専攻科目

菅野修一

■ 授業の概要

大学生活の集大成としてポリマーケミストリーの観点からテーマを選定し、現象に対する科学的に理解を深めることをとおして、科学に関する学問体系の一端を教授する。より具体的には、参考文献の収集・実験技術の習得・実験データのまとめ方・論文作成の手法・研究発表の手法に関する基礎を習得できる。

具体的テーマは各個人の単位履修状況及び興味などを考慮して決定する。研究のペースも、各個人の単位履修状況を考慮して進める。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・研究目的を理解し、深い専門知識を身につける。
- ・研究成果を発表し、論文としてまとめることが出来る。

⑥⑦⑧⑨

⑥⑦⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	文献調査	指定文献の熟読
第2回	文献調査	指定文献の熟読
第3回	文献調査	指定文献の熟読
第4回	文献調査	指定文献の熟読
第5回	精製実験	データを見直す。
第6回	精製実験	データを見直す。
第7回	精製実験	データを見直す。
第8回	精製実験	データを見直す。
第9回	合成実験	データを見直す。
第10回	合成実験	データを見直す。
第11回	合成実験	データを見直す。
第12回	合成実験	データを見直す。
第13回	合成実験	データを見直す。
第14回	合成実験	データを見直す。
第15回	合成実験	データを見直す。
第16回	合成実験	データを見直す。
第17回	合成実験	データを見直す。
第18回	合成実験	データを見直す。
第19回	合成実験	データを見直す。
第20回	合成実験	データを見直す。
第21回	分析実験	データを見直す。
第22回	分析実験	データを見直す。
第23回	分析実験	データを見直す。
第24回	分析実験	データを見直す。
第25回	分析実験	データを見直す。
第26回	データ整理（学会発表準備・学内口頭発表準備）	論文作成。
第27回	データ整理（学会発表準備・学内口頭発表準備）	論文作成。
第28回	データ整理（学会発表準備・学内口頭発表準備）	論文作成。
第29回	データ整理（学会発表準備・学内口頭発表準備）	論文作成。
第30回	課題研究Ⅱ発表会	論文作成。

■ 履修上の注意

理解をより深めるため、有機化学Ⅰ・Ⅱ及び化学Ⅰ・Ⅱの受講が望ましい。

■ 成績評価方法・基準

実験をしてデータを出すことに対して50%、得られたデータを論文としてまとめプレゼンテーションをおこなうことに対して50%を基準として総合的に評価する。論文は繰り返しフィードバックして指導する

■ 教科書

多くの参考文献や専門書は必要に応じて配布あるいは貸し出す。

■ 参考書

必要なプリント配布

■ 備考

質問はオフィスアワーはもちろん、常時受けつける。

専門研究Ⅱ

(11178)

単位：4単位

対象学科：服専4年

授業形態：演習 学期：通年

服飾文化専攻科目

植松公威

■ 授業の概要

「教授学習心理学」に関する研究に取り組む。「教える」、「学ぶ」に関する心理学的な問題に取り組む。学習者の理解や認識や課題解決が改善されるように、援助や促進の方法について考えをめぐらし、実験を通して、実証的な考察を行う。前年度の「専門研究Ⅰ」の発展、改善につながるよう、自分で計画を立て、先行研究を踏まえて、新しい知見の発見を目指して研究を行う。成果は、論文にまとめ、学会で発表したり、学術誌に投稿したりできるよう、時間をかけて、熱心に取り組めるように指導する。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・ワードやエクセルを用いてデータの集計と図表の作成、読み取りが独力でできるようになる	⑥⑦⑧⑨
・教授学習心理学の研究に必要な高いレベルのリテラシー（読み書き能力）を身につける	⑥⑦⑧⑨
・教授学習心理学の研究に興味をもち、今後の課題を見つけ、新たな仮説を立てられるようになる	⑥⑦⑧⑨

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス（専門研究Ⅱの進め方）	シラバスを読んでおくこと
第2回 昨年度の振り返り	反省、改善点を話し合う
第3回 研究テーマについて	興味のあるテーマを出し合う
第4回 先行研究を入手する	図書館、インターネットを利用する
第5回 先行研究を要約する	論文の一部にする
第6回 先行研究について、意見や疑問を出し合う	先行研究を深く理解する
第7回 実験の準備（仮説を立てる）	実験の構想を立てる
第8回 実験の準備（教材、評価課題について考える）	自由に意見を述べる
第9回 実験の準備（冊子をワードで作成する）	分担して取り組む
第10回 必要な関連する文献を探す	文献を手に入れる
第11回 実験の準備（冊子の確認と印刷）	実験で使う冊子を作成し、確認する
第12回 印刷	皆で協力する
第13回 実験の実施	いつ、どこで、誰に実験をするのか計画する
第14回 実験の実施	いつ、どこで、誰に実験をするのか計画する
第15回 エクセルにデータを入力する	トピック（項目）ごとに入力する
第16回 エクセルにデータを入力する	トピック（項目）ごとに入力する
第17回 エクセルを使ってデータを分析、表、図を作成する	エクセルを操作し、図表を作る
第18回 エクセルを使ってデータを分析、表、図を作成する	エクセルを操作し、図表を作る
第19回 ワードによる論文の作成（目的）	内容について意見を出し合う
第20回 ワードによる論文の作成（方法）	わかりやすく作成する
第21回 ワードによる論文の作成（結果）	図表と文章を対応させる
第22回 ワードによる論文の作成（考察）	全体を振り返り、結果をまとめ、仮説が支持されたかどうか検討し、今後の課題を提示する
第23回 引用文献、参考文献の記入、確認	本文と対応させて文献リストにまとめる
第24回 学内での発表の準備（目的、方法）	パワーポイントを使って準備する
第25回 学内での発表の準備（結果、考察）	パワーポイントを使って準備する
第26回 学内での発表の準備（発表原稿の作成）	学術的意義の高い内容になるよう心がける
第27回 学内での発表の準備（予行練習）	時間内に収まるか調べる
第28回 ワードによる提出論文の作成（表紙、抄録など）	抜け落ちている箇所がないか点検する
第29回 学内での発表に向けて	分担を決める
第30回 学内での発表と振り返り	自由に感想を述べ合う

■ 履修上の注意

毎回、休まず出席すること。欠席する場合は必ず連絡を入れること。先行研究を熟読し、積極的に学び、作業を自主的に進めること。わからない点は相談すること。報告・連絡・相談を忘れずに。必修であるための義務感から取り組むのではなく、指導教官との共同研究として、お互いに議論や意見交換しながら、熱心に取り組むこと。とりわけ日本における学校教育

のあり方を少しでも良いものに改善するための実証的研究を目指して取り組むこと。

■ 成績評価方法・基準

研究に対する取り組み30%，論文の内容30%，研究発表の準備と当日のパフォーマンス40%。取り組みや論文については、その都度フィードバックしながら指導します。

■ 教科書

必要に応じて資料（プリント）や文献、論文のコピーを配布する。

■ 参考書

研究課題に応じて指示する。

■ 備考

質問等については、いつでもお答えします。各セッションの中で、または終了時に、あるいはオフィスアワーを利用して、質疑応答をすることも可能です。

専門研究Ⅱ

(11179)

単位：4単位

対象学科：服専4年

授業形態：演習 学期：通年

服飾文化専攻科目

井上美紀

■ 授業の概要

被服科学分野では、課題研究Ⅰから引き続き、家政学を基本として、被服整理・染色加工・被服材料に関連する分野の研究課題を設定して取り組む。授業では、課題に応じて文献調査と実験を行う。さらに課題に対する成果は論文にまとめ、発表（課題研究発表会でのプレゼンテーション、課題研究展でのポスター展示）する。このための研究課題の設定、文献調査の手法、実験方法、論文のまとめ方、発表方法等、研究の手法を教授する。研究を進める際には、教員と同研究室学生でのディスカッション（グループワーク、以下GW）を取り入れる。

■ 授業の到達目標

・自己管理能力、倫理観、課題解決能力、応用力等を身につける。

学位授与の方針との関連

⑥⑦⑧⑨

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 はじめに：課題研究Ⅱの進め方、研究倫理	取り組み内容、研究倫理の重要事項を確認する。
第2回 研究計画Ⅰでの成果と課題、研究計画	専門研究Ⅰの内容を振り返り、研究計画案を検討する。
第3回 文献調査① 文献検索と整理	文献調査を進める。
第4回 文献調査② 文献の整理	文献調査を進める。
第5回 文献調査③ まとめ GW	調査した結果を報告し、実験作業計画を検討する。
第6回 実験試料の準備、実験作業計画	計画に沿って進める。
第7回 実験① 課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第8回 実験② 課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第9回 実験③ 課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第10回 実験④ 課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第11回 実験⑤ 課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第12回 実験⑥ 課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第13回 実験⑦ 課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第14回 実験データの整理と考察①	全体のデータを整理し考察を深める、課題を見出す。
第15回 研究成果の報告① GW、今後の課題と作業計画立案	後期の実験計画案を検討する。
第16回 後期の実験作業計画、実験試料の準備	前期の実験内容を振り返る。
第17回 実験⑧ 課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第18回 実験⑨ 課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第19回 実験⑩ 課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第20回 実験データの整理と考察②	全体のデータを整理し考察を深める。
第21回 研究成果の報告② GW	データの考察を深める。
第22回 論文作成① 論文構成、論文作成	計画に沿って進める。
第23回 論文作成② 論文作成	計画に沿って進める。
第24回 論文作成③ 最終校正	完成させる。
第25回 研究成果の発表方法、抄録作成	プレゼン内容を検討する。
第26回 プレゼンテーション① 抄録作成、プレゼン資料作成	計画に沿って進める。
第27回 プレゼンテーション② プレゼン資料作成、発表練習GW	計画に沿って進める。発表練習を行う。
第28回 プレゼンテーション③ 専門研究Ⅱ発表会	プレゼン内容を振り返る。

第29回	ポスターセッション資料の作成	完成させる。
第30回	おわりに 課題研究のまとめ	全体を振り返り、今後の課題を見出す。

■ 履修上の注意

実験は安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねる。
専門研究 I と同じ、指定の実験ノートを準備する。計画に沿って積極的に進める。

■ 成績評価方法・基準

事前準備をし、実験やディスカッションに取組みデータを適切にまとめている事に対し50%
論文・プレゼンテーション・ポスター発表に対し50%
課題や論文は、後日添削してフィードバックする。

■ 教科書

研究課題に応じて指示する。

■ 参考書

研究課題に応じて紹介する。

■ 備考

実験内容や作業状況等の都合により、授業計画の順番や内容、時間の変更と延長等を行う場合がある。
質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。
評価や進め方は1回目の授業で説明する。
課題が未提出、実施されない等の際には、評価の対象としないことがある。

専門研究Ⅱ

(11180)

単位：4単位

対象学科：服専4年

授業形態：演習 学期：通年

服飾文化専攻科目

川 又 勝 子

■ 授業の概要

専門研究Ⅰでまとめたレポートを基に、より詳細な文献調査や染色資料調査、作品の制作等を行うことで染色学に関する知見を深めさせる。研究対象は、本学をはじめとする東北地方に残されている染織関連資料とし、各自が設定したテーマに合わせて研究計画を立て、調査・分析方法について指導するが、進捗状況をみて個別指導を行う。さらに、研究の成果をまとめる論文作成と専門研究発表会に向けての効果的なプレゼンテーション資料作成についても指導する。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・文献調査や資料調査など研究の進め方の基本を身につける。	⑦
・これまでに習得した知識・技術を応用できるようになる。	⑨
・計画的に研究を進める能力を身につける。	⑥
・レポートやプレゼンテーション資料作成の基本を身につける。	⑧

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス：専門研究Ⅱの説明	専門研究Ⅰの復習
第2回 テーマの確認と今後の進め方	専門研究Ⅰの復習
第3回 文献・資料等の収集 ①	図書館等での文献収集
第4回 文献・資料等の収集 ②	図書館等での文献調査
第5回 文献・資料等の調査 ①	文献を読み進める
第6回 文献・資料等の調査 ②	文献を読み進める
第7回 個別に制作・調査等の指導 ①	時間内に終わらなかった調査等を進める
第8回 個別に制作・調査等の指導 ②	時間内に終わらなかった調査等を進める
第9回 個別に制作・調査等の指導 ③	時間内に終わらなかった調査等を進める
第10回 個別に制作・調査等の指導 ④	時間内に終わらなかった調査等を進める
第11回 個別に制作・調査等の指導 ⑤	時間内に終わらなかった調査等を進める
第12回 個別に制作・調査等の指導 ⑥	時間内に終わらなかった調査等を進める
第13回 個別に制作・調査等の指導 ⑦	時間内に終わらなかった調査等を進める
第14回 個別に制作・調査等の指導 ⑧	制作・調査についての簡単なプレゼン資料を作成する
第15回 制作・調査の結果まとめ（研究室発表会）	レポートの修正
第16回 個別に制作・調査等の指導 ⑨	時間内に終わらなかった調査等を進める
第17回 個別に制作・調査等の指導 ⑩	時間内に終わらなかった調査等を進める
第18回 個別に制作・調査等の指導 ⑪	時間内に終わらなかった調査等を進める
第19回 論文作成の指導 ①	論文作成を進める
第20回 論文作成の指導 ②	論文作成を進める
第21回 論文作成の指導 ③	論文作成を進める
第22回 論文作成の指導 ④	論文作成を進める
第23回 論文作成の指導 ⑤	論文作成を進め、抄録の原案を書く
第24回 抄録原稿作成指導	抄録を修正し、プレゼンテーション資料を作成する
第25回 プレゼンテーション資料作成指導	プレゼンテーション資料を修正する
第26回 発表練習	指摘箇所に注意して発表の練習をする
第27回 専門研究発表会	発表会での指摘内容を論文に反映させる
第28回 ポスター作成 ①	ポスター原稿作成
第29回 ポスター作成 ②	ポスター作りを完成させる
第30回 専門研究展でのポスターセッション	ポスターセッションの内容を振り返る

■ 履修上の注意

日頃から伝統染織に関する情報を収集するように心掛けてください。就職活動等で忙しいこともあると思いますが、シラバスの進捗を守るよう努力してください。

■ 成績評価方法・基準

平常の取り組みによる評価（研究ノート等）を50%とし、調査の成果・制作品・論文・発表会でのプレゼンテーションを

50%として評価します。研究ノートや資料については個別指導時に添削・指導します。

■ 教科書

各自のテーマに沿って指示する。

■ 参考書

各自のテーマに沿って指示する。

■ 備考

文献や資料の調査、作品制作、論文作成などについては、各自で積極的に進め、意欲的に取り組んでください。研究指導の曜日時間は各人と相談し決定します。合わせて、オフィスアワーも活用してください。

専門研究Ⅱ

(11181)

単位：4単位

対象学科：服専4年

授業形態：演習 学期：通年

服飾文化専攻科目

水谷 浩

■ 授業の概要

本演習は、消費生活協同組合や民間シンクタンクなどでの実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を踏まえ『課題研究Ⅰ』での知見をさらに深めるため、フィールド調査や商品特性に関する研究などを指導します。

具体的には「自分の研究は、どのように社会の役に立つのか？」という視点から、社会的意義を明確にし、フィールド調査や被服の商品特性に関する研究成果の学会発表（日本家政学会もしくは日本商品学会）を通じて、課題発見力や問題解決力に加えて、総合的な専門知識・技能修得をめざします。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・1)商品学的視点から、研究の社会的意義を理解し、説明できる	⑥⑦⑧⑨
・2)課題解決のための研究方法を立案し、計画的に実行できる	⑥⑦⑧
・3)研究成果（制作物）を論文にまとめ、効果的に発表できる	⑥⑦⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	テーマ：専門研究Ⅱについて 概要：授業のすすめ方、評価などの説明	専門研究Ⅰの振り返り
第2回	テーマ：今年度の研究計画（昨年度の振り返り）策定 概要：昨年度の研究成果を踏まえ、研究計画を作成する	同 上
第3回	テーマ：研究の社会的意義（問題認識）について明確化Ⅰ 概要：課題や現況について、自らの問題認識を明らかにする	研究の社会的意義（問題意識）を明確にした上で、自らの仮説を設定する。
第4回	テーマ：研究の社会的意義（問題認識）について明確化Ⅱ 概要：課題や現況から、自らの問題認識（仮説）を設定する	同 上
第5回	テーマ：文献研究Ⅰ 概要：研究テーマにそって、先行研究の調査・分析をすすめる	自らの仮説にもとづき、その解決に関連する先行研究を調査する。
第6回	テーマ：文献研究Ⅱ 概要：研究テーマにそって、先行研究の調査・分析をすすめる	同 上
第7回	テーマ：文献研究Ⅲ 概要：研究テーマにそって、先行研究の調査・分析をすすめる	同 上
第8回	テーマ：統計調査Ⅰ 概要：研究テーマにそって、統計資料の調査・分析をすすめる	自らの仮説にもとづき、その解決に関連する統計資料の収集・分析を行う。
第9回	テーマ：統計調査Ⅱ 概要：研究テーマにそって、統計資料の調査・分析をすすめる	同 上
第10回	テーマ：統計調査Ⅲ 概要：研究テーマにそって、統計資料の調査・分析をすすめる	同 上
第11回	テーマ：仮説の妥当性を検討 概要：自らの研究についての結論（仮説）の妥当性を検討する	同 上
第12回	テーマ：フィールド調査の事前指導Ⅰ 概要：対外的な研究協力の要請方法・マナーを学ぶ	フィールド調査を実施し、そこから得られたデータを整理・図表化することにより、これらデータの意味について考察する。
第13回	テーマ：フィールド調査の事前指導Ⅱ 概要：調査内容の検討	同 上
第14回	テーマ：フィールド調査の実施 概要：アンケート調査やインタビューなどを実施する	同 上
第15回	テーマ：前期のまとめ 概要：課題制作のコンセプトを決定する	フィールド調査の結果から、コンセプトを設定し、課題制作の準備をすすめる。
第16回	テーマ：課題制作Ⅰ（試作） 概要：課題制作を通じて、被服の商品特性への知見を深める	計画に沿って、課題制作に取り組む。
第17回	テーマ：課題制作Ⅱ（試作） 概要：課題制作を通じて、被服の商品特性への知見を深める	同 上
第18回	テーマ：課題制作Ⅲ（試作） 概要：課題制作を通じて、被服の商品特性への知見を深める	同 上
第19回	テーマ：課題制作Ⅳ（試作） 概要：課題制作を通じて、被服の商品特性への知見を深める	同 上

第20回	テーマ：課題制作Ⅴ（試作） 概要：課題制作を通じて、被服の商品特性への知見を深める	同 上
第21回	テーマ：課題制作Ⅵ（試作） 概要：課題制作を通じて、被服の商品特性への知見を深める	同 上
第22回	テーマ：課題制作Ⅶ（試作） 概要：課題制作を通じて、被服の商品特性への知見を深める	同 上
第23回	テーマ：課題制作Ⅷ（試作） 概要：課題制作を通じて、被服の商品特性への知見を深める	同 上
第24回	テーマ：課題制作Ⅸ（試作） 概要：課題制作を通じて、被服の商品特性への知見を深める	同 上
第25回	テーマ：課題制作Ⅹ（試作） 概要：課題制作を通じて、被服の商品特性への知見を深める	同 上
第26回	テーマ：実証実験 概要：実証実験を通じて、課題発見力を学ぶ	実証実験や改善・改良などを経て、商品特性への知見を深める。
第27回	テーマ：課題制作Ⅱ（改良・改善） 概要：改善改良を通じて、問題解決力を学ぶ	同 上
第28回	テーマ：論文執筆 概要：研究成果を論文にまとめる	フィールド調査および課題制作の結果を論文にまとめ、それらを簡潔に説明するための発表資料を作成する。
第29回	テーマ：報告会準備 概要：報告会のための発表資料をまとめる	同 上
第30回	テーマ：報告会 概要：これまでの研究成果を発表する	所定時間内に研究成果を簡潔に発表する。

■ 履修上の注意

自主的な調査・研究には、知識と経験の積み重ねが不可欠です。
毎日最低1時間以上、文献・資料調査、もしくは課題の制作など、予習・復習を継続すること。
なお、2/3以上の出席がない場合には、単位取得できません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(10%)+制作物・論文(50%)+学会での研究発表(40%)にもとづき評価する。
なお、制作物・論文・発表資料のフィードバックについては、適宜行います。
※ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

各自の研究テーマや専門分野に応じて指示します。

■ 参考書

授業中に適宜指示します。

■ 備考

フィールド調査は、授業の空き時間や休日に実施します。
また、課題制作費などは、自己負担となります。
なお、質問などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に対応します。

専門研究Ⅱ

(11182)

単位：4単位

対象学科：服専4年

授業形態：演習 学期：通年

服飾文化専攻科目

宮 前 理

■ 授業の概要

専門研究Ⅰで「心の病」に対する心理アセスメントや心理療法などの心理的支援の基本的理論と方法について学び、自ら選んだテーマについて論文作成および発表をした。専門研究Ⅱでは、人間にとって幸せとは何か、人間とはそもそも如何なる存在かという問いも含めてさらに理解を深める。この分野の研究論文や著書の精読と発表をさらに積み重ね論文作成と発表をする。人のこころをより深く理解する臨床心理学の理論と研究方法を教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・専門研究Ⅰの成果を踏まえてより深い文献購読ができる。
- ・研究成果を多角的にまとめ高い次元の論文として発表できるようになる。

⑥⑦⑧⑨

⑥⑦⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

回	内容	自習（事前・事後学修の内容）
第1回	(以下の数字は授業回数を示す) 1. 2 専門研究Ⅰの再考	残されていた課題について吟味する。
第2回	3. 4 文献1の講読	研究課題に関する文献1を熟読する
第3回	5. 6 文献1の発表	研究課題に関する文献1を熟読する
第4回	7. 8 文献2の講読	研究課題に関する文献2を熟読する
第5回	9. 10 文献2の発表	研究課題に関する文献2を熟読する
第6回	11. 12 研究書を購読しその要約発表する（1）	研究書を熟読し章ごとに発表する
第7回	13. 14 研究書を購読しその要約発表する（2）	研究書を熟読し章ごとに発表する
第8回	15. 16 研究書を購読しその要約発表する（3）	研究書を熟読し章ごとに発表する
第9回	17. 18 研究書を購読しその要約発表する（4）	研究書を熟読し章ごとに発表する
第10回	19. 20 研究書を購読しその要約発表する（5）	研究書を熟読し章ごとに発表する
第11回	21. 22 研究書を購読しその要約発表する（6）	研究書を熟読し章ごとに発表する
第12回	23. 24 研究文献と研究書を参考に専門研究Ⅱ論文の作成 素案作り	執筆と校正
第13回	25. 26 研究文献と研究書を参考に専門研究Ⅱ論文の作成 加筆修正	執筆と校正
第14回	27. 28 研究文献と研究書を参考に専門研究Ⅱ論文の作成 完成	執筆と校正
第15回	29. 30 専門研究Ⅱの成果発表の準備	

■ 履修上の注意

研究課題の選定は受講者の希望と相談しながら決める予定です。

研究論文、研究書は受講者の研究課題に合わせて選択します。

自主的な研究姿勢を持って参加してください。

■ 成績評価方法・基準

資料の事前の熟読と発表資料の準備30%、毎回の発表30%、最終論文と専門研究発表会40%とします。課題発表と論文作成に当たっては毎回フィードバックを行います。

■ 教科書

演習の中で決めます。

■ 参考書

演習の中で決めます。

■ 備考

質問は演習時やオフィスアワーで受け付けます。オフィスアワーでの質問等は事前にメール予約してください。

受講人数などによって授業計画の修正を行う場合があります。

専門研究Ⅱ

(11183)

単位：4単位

対象学科：服専4年

授業形態：演習 学期：通年

服飾文化専攻科目

宮澤孝子

■ 授業の概要

教育の法、制度、政策に関する研究主題（問い）を選定し、それについての応答を探求することができるよう、研究方法を教授する。3年次において養った基本的な文献および資料を読解する力、また、その過程で得られた知識をもとに、4年次においては各自の研究主題を設定できるようにする。卒業論文には一次資料を用い、4万字から5万字を目処に論文をまとめることが望まれる。演習時の報告担当者は、論理の展開が一目でわかるレジюмеを作成するように努めること。

■ 授業の到達目標

- ・基本的な文献を読解し、それをまとめる力を身につける。
- ・研究に要する文献・論文・資料を選定する力を身につける。
- ・自ら設定した問いへの応答を、卒業論文としてまとめる。

学位授与の方針との関連

①②④⑥⑦⑧⑨

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨

⑥⑦⑧⑨

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 はじめに：専門研究Ⅱの進め方、専門研究Ⅰの振り返り	春休み期間中に問題意識に関わる文献を選定し、精読した上で、問題意識をレジюмеにまとめてくる。
第2回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジюмеにまとめ、報告する。
第3回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジюмеにまとめ、報告する。
第4回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジюмеにまとめ、報告する。
第5回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジюмеにまとめ、報告する。
第6回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジюмеにまとめ、報告する。
第7回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジюмеにまとめ、報告する。
第8回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジюмеにまとめ、報告する。
第9回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジюмеにまとめ、報告する。
第10回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジюмеにまとめ、報告する。
第11回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジюмеにまとめ、報告する。
第12回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジюмеにまとめ、報告する。
第13回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジюмеにまとめ、報告する。
第14回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジюмеにまとめ、報告する。
第15回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジюмеにまとめ、報告する。
第16回 研究テーマ決定、構成の草案	研究テーマ案と論文構成を考え、レジюмеを作成する。加えて、論文の概要をA4×4枚にまとめる。
第17回 資料収集および執筆、執筆内容の検討	各章毎に論文を作成してくる。作成してきた章ごとに、内容を検討する。
第18回 資料収集および執筆、執筆内容の検討	各章毎に論文を作成してくる。作成してきた章ごとに、内容を検討する。
第19回 資料収集および執筆、執筆内容の検討	各章毎に論文を作成してくる。作成してきた章ごとに、内容を検討する。

第20回 資料収集および執筆、執筆内容の検討	各章毎に論文を作成してくる。作成してきた章ごとに、内容を検討する。
第21回 資料収集および執筆、執筆内容の検討	各章毎に論文を作成してくる。作成してきた章ごとに、内容を検討する。
第22回 中間まとめ	論文構成と発表方法・内容の検討を行う。
第23回 課題研究発表会の準備と練習	パワーポイントあるいはレジюме作成のいずれか研究テーマに適した方法で成果をまとめる。
第24回 課題研究発表会の準備と練習	パワーポイントあるいはレジюме作成のいずれか研究テーマに適した方法で成果をまとめる。
第25回 課題研究発表会の準備と練習	パワーポイントあるいはレジюме作成のいずれか研究テーマに適した方法で成果をまとめる。
第26回 課題研究発表会の準備と練習	パワーポイントあるいはレジюме作成のいずれか研究テーマに適した方法で成果をまとめる。
第27回 卒業論文の執筆	卒業論文は課題研究発表会での成果を踏まえ、加筆修正する。
第28回 卒業論文の執筆	卒業論文は課題研究発表会での成果を踏まえ、加筆修正する。
第29回 卒業論文の執筆	卒業論文は課題研究発表会での成果を踏まえ、加筆修正する。
第30回 卒業論文の執筆と提出	卒業論文は課題研究発表会での成果を踏まえ、加筆修正する。

■ 履修上の注意

- ・ 教員免許（中・高・栄）取得のために必要とされる教職科目を全て履修していることを履修条件とする。
- ・ 自ら考え、自らの設定する研究課題に取り組む、意欲的な姿勢を歓迎する。
- ・ 演習回数自体は30回を予定しているが、それ以上に、演習時間外における自主的な研究時間が必要とされる。

■ 成績評価方法・基準

演習時に作成するレジюме（30%）、報告内容（30%）、卒業研究（40%）をもって評価する。

演習時のレジюме及び報告内容については、その都度、フィードバックを行う。

■ 教科書

指定なし

■ 参考書

兼子仁（1976）『入門教育法』エイデル研究所

堀尾輝久（2019）『人権としての教育』岩波書店

■ 備考

- ・ 演習の曜日と時限については、履修生の時間割を考慮して設定する。
- ・ 教員と履修生の都合上、演習日時の変更や補講を要する場合は、柔軟に対応する。
- ・ 質問等については、原則、演習の時間前後あるいはオフィスアワーにて対応するが、柔軟に対応する。

健康栄養学専攻科目

社会福祉論

(11201)

単位：2単位

対象学科：健専1年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

伊藤 常久

■ 授業の概要

国民が健康で自立した安心できる生活を送ることができるよう支援することは、社会福祉の目的の一つである。講義では、日本や諸外国における社会福祉の歴史と発展について取り上げながら、社会福祉の理念や考え方について紹介する。また、少子高齢化が一層進みつつある我が国の高齢者や児童、障害者等に対する社会福祉の仕組み（法・制度）と現状と合わせ、現在生じているさまざまな課題等について、私たちの生活と関連付けて解説する。

■ 授業の到達目標

到達目標	学位授与の方針との関連
・社会福祉の理念や概念について理解する。	②③⑤
・社会福祉に関連する法・制度を理解する。	②③⑤
・社会福祉の現状や課題について考える力を身につける。	②③⑤

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス：授業の説明、アンケート、社会福祉とは	配布プリントをよく読み、この授業で学習内容をまとめておく（次回確認）。
第2回 日本における社会福祉の歴史と発展	配布プリントをよく読み、日本の社会福祉の歴史と主な制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第3回 諸外国における社会福祉の歴史	配布プリントをよく読み、諸外国における社会福祉の歴史と主な制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第4回 諸外国における社会福祉の現状とその制度（VTR）	社会福祉に関するVTRの内容をまとめ、感想と共に次回提出する。
第5回 社会福祉のニーズとは	配布プリントをよく読み、ニーズについて内容をまとめておく（次回確認）。
第6回 社会福祉に携わる専門職	配布プリントをよく読み、専門職について内容をまとめておく（次回確認）。
第7回 ボランティア	配布プリントをよく読み、ボランティアの概念や歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第8回 社会福祉援助技術	配布プリントをよく読み、援助技術の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第9回 障害者福祉①概念とその歴史	配布プリントをよく読み、障害者福祉の概念と歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回 障害者福祉②身体障害者補助犬法	配布プリントをよく読み、身体障害者補助犬法の経緯と現状について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回 高齢者福祉	配布プリントをよく読み、介護を含む高齢者福祉の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第12回 児童福祉	配布プリントをよく読み、児童福祉の歴史と枠組について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回 子どもの権利条約	配布プリントをよく読み、子どもの権利条約について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回 貧困問題と社会福祉	配布プリントをよく読み、貧困とその課題について内容をまとめておく（次回確認）。
第15回 これからの社会福祉、まとめ、授業評価アンケート	配布プリントをよく読み、社会福祉の展望及びこれまでの講義内容の振り返りを行う。
第16回 試験	筆記試験に向けた復習を行う。

■ 履修上の注意

- ・遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻3回で欠席1回とする。
- ・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 期末試験（70%）、平常点：授業参加状況及び積極性等の受講態度・ミニットペーパー提出（30%）。
- ・ ミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
- ・ 試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

■ 教科書

- ・ 資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

■ 参考書

〔新版 社会福祉概論〕〔金子光一編著〕〔建帛社〕〔2, 484円〕

■ 備考

- ・ 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・ 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

公衆衛生学 I

(11202)

単位：2単位

対象学科：健専3年

授業形態：講義 学期：前期

健康栄養学専攻科目

伊藤 常久

■ 授業の概要

生活における健康をどのように捉え、どう考えるのか、健康の保持・増進や疾病予防の活動とその仕組みはどうなっているのかを科学的な角度から紹介する。公衆衛生学 I では、主に公衆衛生の概念や歴史といった概要の他、疾病と予防対策、保健衛生統計等の意義と役割、及び社会と健康について概説する。また、医学や疫学をはじめとする諸科学と公衆衛生との関係、そして各ライフステージにおける公衆衛生活動とその現状についても合わせて説明する。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・公衆衛生の概念や歴史について理解する。	②③⑤
・ライフステージ・分野毎の公衆衛生活動を理解する。	②③⑤
・公衆衛生の状況や課題を把握する力を身につける。	②③⑤

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス、公衆衛生概要：健康の概念	教科書をよく読み、この授業で扱う内容についてまとめておく（次回確認）。
第2回 公衆衛生概要：公衆衛生の概念と歴史	教科書をよく読み、公衆衛生の歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第3回 主要疾患の疫学と予防対策：生活習慣病の概念	教科書をよく読み、生活習慣病の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第4回 主要疾患の疫学と予防対策：主要部位のがん、その他	教科書をよく読み、悪性腫瘍や循環器系疾患等について内容をまとめておく（次回確認）。
第5回 公衆衛生に関する統計資料：保健統計	教科書をよく読み、保健統計の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第6回 公衆衛生に関する統計資料：人口動態統計、その他	教科書をよく読み、人口動態統計等について内容をまとめておく（次回確認）。
第7回 健康・疾病の測定と評価：疫学の概念	教科書をよく読み、疫学の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第8回 健康・疾病の測定と評価：疫学の応用	教科書をよく読み、疫学の応用について内容をまとめておく（次回確認）。
第9回 環境と健康：生態系と人間生活	教科書をよく読み、人間の生活と生態学の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回 環境と健康：環境汚染と健康	教科書をよく読み、環境汚染や公害について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回 国民健康づくり対策	教科書をよく読み、健康づくり運動について内容をまとめておく（次回確認）。
第12回 学校保健	教科書をよく読み、学校保健行政の概要について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回 母子保健	教科書をよく読み、母子保健行政の概要について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回 産業保健	教科書をよく読み、産業保健の概要について内容をまとめておく（次回確認）。
第15回 高齢者保健、まとめ	教科書をよく読み、高齢者保健及びこれまでに取上げた講義内容の振り返りを行う。
第16回 試験	筆記試験に向けた復習を行う。

■ 履修上の注意

- ・遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻3回で欠席1回とする。
- ・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準

- ・期末試験（70%）、平常点：授業参加状況及び積極性等の受講態度・ミニットペーパー提出（30%）。
- ・ミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
- ・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

■ 教科書

〔衛生・公衆衛生学 2021年版〕〔山本玲子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3, 024円〕

■ 参考書

・資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

■ 備考

・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。

・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

公衆衛生学Ⅱ

(11203)

単位：2単位

対象学科：健専3年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

伊藤 常久

■ 授業の概要

生活における健康をどのように捉え、どう考えるのか、健康の保持・増進や疾病予防の活動とその仕組みはどうなっているのかを科学的な角度から紹介する。公衆衛生学Ⅱでは、健康状態・疾病の測定の評価をはじめ、生活習慣の現状とその対策、保健・医療・福祉・介護等の制度、日本や海外の公衆衛生の取り組み、そして、国際的な健康戦略であるヘルスプロモーションの概念等について説明を行う。また、生命と安全に関わる防災対策と公衆衛生との関連についても概説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|-----------------------------|-----|
| ・公衆衛生に関する法・制度を理解する。 | ②③⑤ |
| ・公衆衛生行政・事業と人々の健康状態について理解する。 | ②③⑤ |
| ・公衆衛生の状況や課題を把握し、考える力を身につける。 | ②③⑤ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 健康・疾病の測定と評価：疫学調査・デザインの解釈	教科書をよく読み、疫学調査とデザインについて内容をまとめておく（次回確認）。
第2回 健康・疾病の測定と評価：リスクアナリシス	教科書をよく読み、リスクアナリシスについて内容をまとめておく（次回確認）。
第3回 健康・疾病の測定と評価：疫学研究と倫理	教科書をよく読み、疫学の倫理綱領について内容をまとめておく（次回確認）。
第4回 生活習慣の現状と対策：保健行動の概念とモデル	教科書をよく読み、保健行動の種類について内容をまとめておく（次回確認）。
第5回 生活習慣の現状と対策：保健行動のグループワーク	教科書をよく読み、グループワークの結果について内容をまとめておく（次回確認）。
第6回 公衆衛生の法規・制度（衛生行政）	教科書をよく読み、衛生行政について内容をまとめておく（次回確認）。
第7回 保健と医療：社会保障の概念	教科書をよく読み、現在までの社会保障について内容をまとめておく（次回確認）。
第8回 保健と医療：医療制度と保健	教科書をよく読み、現在までの医療制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第9回 福祉と介護：介護保険制度	教科書をよく読み、介護保険制度の経緯と現状について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回 福祉と介護：保健・医療・福祉・介護の連携	教科書をよく読み、保健医療福祉の連携について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回 環境保健、国際保健	教科書をよく読み、環境保健と国際保健のそれぞれの概念とシステムについて内容をまとめておく（次回確認）。
第12回 精神保健	教科書をよく読み、精神保健の歴史と現在の制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回 災害と公衆衛生	教科書をよく読み、災害と公衆衛生活動について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回 ヘルスプロモーション	教科書をよく読み、ヘルスプロモーションの概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第15回 まとめ	教科書をよく読み、公衆衛生活動と制度について、これまで学んだ内容をまとめておく。
第16回 試験	重要箇所を中心に筆記試験に向けて復習する。

■ 履修上の注意

- ・遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻3回で欠席1回とする。
- ・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準

- ・期末試験（70%）、平常点：授業参加状況及び積極性等の受講態度・ミニットペーパー提出（30%）。
- ・各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。

- ・試験については問題と解答例をまとめたレジユメを掲示することでフィードバックとする。

■ 教科書

〔衛生・公衆衛生学 2021年度〕〔山本玲子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3, 024円〕

■ 参考書

- ・資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

■ 備考

- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

健康管理概論

(11204)

単位：2単位

対象学科：健専1年

授業形態：講義 学期：前期

健康栄養学専攻科目

伊藤 常久

■ 授業の概要

現在の日本が世界的にもトップクラスの長寿国となった実情を踏まえ、今後の健康管理のあり方について教授する。具体的には、これまでの日本における疾病構造の変遷について学習すると共に、特に近年における悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、糖尿病、肥満といったいわゆる非感染性疾患（生活習慣病）が増加している現実及びその主な要因等について解説する。また、各種疾病を含む健康現象についても概説し、私たちの健康度を維持増進させるための学習と実践の意義について述べる。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・「健康とは何か」を説明できる基礎的知識を身につける。	①②
・平均寿命より健康寿命こそが重要であることを認識する。	①②
・健康寿命の延伸には自助努力が重要であることを認識する。	③
・健康情報の利用・管理法等についても学び、専門的職業人になるための実力を身につける。	⑤

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 「健康管理概論」概説（ガイダンス）	資料をよく読み、この授業の学習内容についてまとめておく（次回確認）。
第2回 「健康的痩身方法についての実証的研究」について	資料をよく読み、ダイエットについて内容をまとめておく（次回確認）。
第3回 「日本人の平均寿命延長の主な要因」について	資料をよく読み、平均寿命の変遷について内容をまとめておく（次回確認）。
第4回 「少子高齢化の日本の姿」について	資料をよく読み、少子高齢社会の経緯と現状について内容をまとめておく（次回確認）。
第5回 「現代の日本における健康の姿」について	資料をよく読み、健康の概念と現状について内容をまとめておく（次回確認）。
第6回 「日本人に多い疾病及び死因の今昔」について	資料をよく読み、日本の死因と罹患の歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第7回 「ライフスタイルの現状と課題」について	資料をよく読み、ライフスタイルについて内容をまとめておく（次回確認）。
第8回 「メタボリックシンドロームとその予防」について	資料をよく読み、メタボリックシンドロームの概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第9回 「ロコモティブシンドロームとその予防」について	資料をよく読み、ロコモティブシンドロームの概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回 「転ばぬ先の杖（骨）づくり」について	資料をよく読み、骨粗鬆症について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回 「総合保健活動としての第一次～第三次予防」について	資料をよく読み、公衆衛生や保健における予防の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第12回 「性と健康」（STD及びHIV/AIDS等を含む）について	資料をよく読み、感染症全般について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回 「冬場に多いヒートショックとその予防」について	資料をよく読み、ヒートショックの仕組みについて内容をまとめておく（次回確認）。
第14回 「今後の栄養・運動・休養」について	資料をよく読み、栄養・運動・休養について内容をまとめておく（次回確認）。
第15回 まとめ	資料をよく読み、これまで学んだ内容についてまとめておく（次回試験）。
第16回 試験、試験問題の解説	重要箇所を中心に筆記試験に向けて復習を行い、受験後は解説を踏まえて自己評価を行う。

■ 履修上の注意

- ・遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻3回で欠席1回とする。
- ・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 期末試験（70％）、平常点：授業参加状況及び積極性等の受講態度・ミニットペーパー提出（30％）。
- ・ ミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
- ・ 試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

■ 教科書

〔衛生・公衆衛生学 2021年版〕〔山本玲子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3, 024円〕

■ 参考書

資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

■ 備考

- ・ 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・ 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

解剖生理学 I

(11205)

単位：2単位

対象学科：健専1年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

曾根正彦

■ 授業の概要

生命現象をなすヒトの体の構造（解剖学）と機能（生理学）とは表裏一体である。つまり生命現象を理解するには、解剖学と生理学を統合的に関連付けて学習する事が望ましい。この授業では臨床医としての経験から、実践的な医療現場での事例や最新医学の話題なども紹介して、健康と栄養に関連する基礎的な知識の修得を目指す。

解剖生理学は領域が広範であるため、1年後期の解剖生理学 I と2年前期の解剖生理学 II に分けてある。

解剖生理学 I では総論、感覚器系、運動器系、神経系、尿路・生殖器系について解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|-----------------------------|-----|
| ・解剖生理学の基本的知識を学び身につける。 | ①②③ |
| ・人体の構造と機能が破綻した病気との関連を理解できる。 | ①②③ |
| ・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。 | ② |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション、人体の基本構造	第1章Aをよく読み、不明点は質問
第2回 人体の基本構造（細胞・組織など）	第1章BCDをよく読み、不明点は質問
第3回 感覚器系（総論・各論）	第9章ABをよく読み、不明点は質問
第4回 感覚器系（各論）	第9章CDをよく読み、不明点は質問
第5回 感覚器系（各論）	第9章EFをよく読み、不明点は質問
第6回 運動器系（総論、骨格など）	第10章ABをよく読み、不明点は質問
第7回 運動器系（骨格筋～体幹部など）	第10章CDをよく読み、不明点は質問
第8回 運動器系（上下肢、頭頸部など）	第10章EFGをよく読み、不明点は質問
第9回 神経系（総論、中枢神経）	第8章ABCをよく読み、不明点は質問
第10回 神経系（末梢神経）	第8章D～Gをよく読み、不明点は質問
第11回 自律神経系（総論・各論）	第7章ABをよく読み、不明点は質問
第12回 尿路系、生殖器系（総論）	第5章C、第11章Aをよく読み不明点は質問
第13回 生殖器系（各生殖器など）	第11章BCをよく読み、不明点は質問
第14回 生殖器系（乳腺、発生など）	第11章DEをよく読み、不明点は質問
第15回 筆記試験	講義の復習および誤答箇所的事後学修
第16回 予備日（後期講義の補足説明および試験問題の説明）	誤答を確認し、解答説明により知識を整理

■ 履修上の注意

解剖生理学の学習のためには生物学の知識が重要である。

事前に生物学の知識を十分に整理しておくことが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

期末試験（90%程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10%程度）で評価する。

また試験・レポート等についてはフィードバックを行う。

■ 教科書

〔なるほどなっとく！解剖生理学 改訂2版〕〔多久和典子 多久和 陽 著〕〔南山堂〕〔3, 200円〕

■ 参考書

「無し」

■ 備考

授業の進行状況により、授業計画の順番等が変更されることがある。

質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。

解剖生理学Ⅱ

(11206)

単位：2単位

対象学科：健専2年

授業形態：講義 学期：前期

健康栄養学専攻科目

曾根正彦

■ 授業の概要

生命現象をなすヒトの体の構造（解剖学）と機能（生理学）とは表裏一体である。つまり生命現象を理解するには解剖学と生理学を統合的に関連付けて学習する事が望ましい。この授業では臨床医師としての経験から実践的な医療現場での事例や最新医学の話題なども紹介して、健康と栄養に関連する基礎的な知識の修得を目指す。

解剖生理学は領域が広範であり解剖生理学Ⅰと解剖生理学Ⅱに分けてある。

解剖生理学Ⅱでは循環器系、呼吸器系、消化器系、腎・尿路系、血液・免疫系、内分泌系などを解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|-------------------------------|-----|
| ・解剖生理学の基本的知識を学び身につける。 | ①②③ |
| ・人体の構造と機能が破綻した「病気」との関連を理解できる。 | ①②③ |
| ・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。 | ② |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション、循環器系（循環、心臓）	第2章ABCをよく読み、不明点は質問
第2回 循環器系（血管系、血圧調節）	第2章DEをよく読み、不明点は質問
第3回 循環器系（リンパ管系、微小循環）、呼吸器系（総論）	第2章FGおよび第3章Aをよく読み不明点は質問
第4回 呼吸器系（呼吸器系の構造）	第3章BCDをよく読み、不明点は質問
第5回 呼吸器系（呼吸器系の機能など）	第3章EFGをよく読み、不明点は質問
第6回 消化器系（総論、口、咽頭、食道）	第4章ABをよく読み、不明点は質問
第7回 消化器系（胃、小腸、大腸）	第4章Bをよく読み、不明点は質問
第8回 消化器系（肝臓、胆嚢、膵臓など）	第4章CDをよく読み、不明点は質問
第9回 腎・尿路系（総論、腎臓の構造）	第5章Aをよく読み、不明点は質問
第10回 腎・尿路系（腎臓の機能）	第5章Bをよく読み、不明点は質問
第11回 血液（血液総論、血漿、血液細胞など）	第6章A～Eをよく読み、不明点は質問
第12回 血液・免疫系（自然免疫、獲得免疫など）	第6章FGをよく読み不明点は質問
第13回 内分泌系（総論）	第7章Cをよく読み、不明点は質問
第14回 内分泌系（各論）	第7章Dをよく読み、不明点は質問
第15回 筆記試験	講義の復習および誤答箇所的事後学修
第16回 予備日（第2-7章の補足説明および試験問題の解説）	誤答を確認し、解答説明で知識を整理

■ 履修上の注意

解剖生理学の学習のためには生物学の知識が重要である。

事前に生物学の知識を十分に整理しておくことが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

期末試験（90%程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10%程度）で評価する。

また試験・レポート等についてはフィードバックを行う。

■ 教科書

〔なるほどなっとく！解剖生理学 改訂2版〕〔多久和典子 多久和 陽 著〕〔南山堂〕〔3, 200円〕

■ 参考書

「無し」

■ 備考

授業の進行状況により、授業計画の順番等が変更されることがある。

質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。

運動生理学

(11207)

単位：2単位

対象学科：健専2年

授業形態：講義 学期：前期

健康栄養学専攻科目

川 俣 幸 一

■ 授業の概要

本授業では、運動に伴う生理的な諸現象について学習すると共に、現代人の多くが罹患する可能性がある各種生活習慣病の予防及び要介護予防等に必要となる運動処方を作成するための基礎的知識について教授する。そして、対象者（運動実施者）の身体的特性等に応じた適切な運動処方を作成できるまでの能力を身につけさせる。加えて受講者個人に対しても、自分に合った運動やスポーツを積極的・継続的に実践していく人材に成長していけるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|-------------------------------|-----|
| ・「運動生理学」についての基礎的知識を理解する | ①②③ |
| ・今後の健康・体力の維持増進への意欲と実践力を身につける。 | ⑤ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 概論／暑熱環境①（気温・汗）	復習、及び次回の予習。ルーブリックを配付する。
第2回 暑熱環境②（水分補給）	同上
第3回 運動とエネルギー代謝	同上
第4回 呼吸循環器系と持久力①（理論）	同上
第5回 呼吸循環器系と持久力②（実際）	同上
第6回 骨格筋の種類と筋力①（理論）	同上
第7回 骨格筋の種類と筋力②（実際）	同上
第8回 前半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、前半部分の内容の見直しを行っておくこと
第9回 健康づくりのための身体活動基準2013	復習、及び次回の予習
第10回 スポーツと栄養学①（理論）	同上
第11回 スポーツと栄養学②（実際）	同上
第12回 糖尿病の運動療法	同上
第13回 ライフステージ別の運動①（幼児期～成人期）	同上
第14回 ライフステージ別の運動②（高齢期）	同上
第15回 後半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、後半部分の内容の見直しを行っておくこと

■ 履修上の注意

応用栄養学、基礎栄養学、生化学、解剖生理学、課題研究等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。なお授業中に許可なく携帯電話を触る、無断退出をする、他の教科の勉強をする、教員の指示に従わないなどの不道徳行為が判明した学生は受講態度（ルーブリック）を一律0%としますので、単位の認定を行うことが難しくなります。

■ 成績評価方法・基準

小テスト・・・70% 受講態度（ルーブリック）・・・30%（履修上の注意を参照）

フィードバックとして、小テストは採点をして返却する。

■ 教科書

適宜プリントを配布する

■ 参考書

なし

■ 備考

質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。

微生物学

(11208)

単位：2単位

対象学科：健専2年

授業形態：講義 学期：前期

健康栄養学専攻科目

黒川優子

■ 授業の概要

私たちの身の回りには病原性の細菌やウイルスが存在し、日常生活に有害な作用を示すが、その一方で、味噌、納豆、酒類など私たちの日常生活に役立つ微生物も少なくない。人間と微生物の関わりを理解するために、微生物の種類と特徴、微生物による疾患、微生物を用いた食品などについて学ぶ。さらに、病原性微生物の場合、感染および発症機構や免疫機構等についても理解を深める。また、環境中の微生物の単離方法、合成化学物質の微生物分解等、これまでの実務経験（環境調査、環境教育、食育など）を反映させた講義を行う。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・微生物の基礎的な特徴について理解する。	①②③⑤
・微生物と人間との関わり方について把握する。	①②③⑤
・身の回りの微生物について理解を深める。	①②③⑤

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 微生物学の歴史① 新型コロナウイルスについて	事後：授業内容の復習。
第2回 微生物学の歴史② 人間と微生物の関わり	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第3回 微生物学の基礎① 微生物の種類と性質	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第4回 微生物学の基礎② 原虫・寄生虫	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第5回 微生物学の基礎③ 原虫・寄生虫	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第6回 微生物学の基礎④ 真菌	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第7回 微生物学の基礎⑤ 細菌	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第8回 微生物学の基礎⑥ 細菌	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第9回 微生物学の基礎⑦ ウイルス	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第10回 微生物学の基礎⑧ 細菌の生理	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第11回 微生物学の基礎⑨ 細菌の生理	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第12回 微生物学の基礎⑩ 滅菌・消毒	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第13回 食品微生物学① 微生物と食品	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第14回 食品微生物学② 食品の腐敗・変敗・保存	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第15回 食品微生物学③ 微生物を利用した食品	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第16回 試験	授業で学んだことを総復習して試験に臨むこと。

■ 履修上の注意

微生物の理解には生物学の知識が必要となるので、高等学校での生物科目を復習して授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業への取り組み（受講態度、予習・復習の状況など）（30%）、課題への取り組み（30%）、試験（40%）
- ・提出された課題は、後日、添削して返却する。

■ 教科書

- ・〔新スタンダード栄養・食物シリーズ16 食品微生物学〕〔村田容常・渋井達郎編〕〔東京化学同人〕〔2, 500円〕
- ・必要に応じて資料を配布する。

■ 参考書

授業時間内に適宜、参考書を紹介する。

■ 備考

- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

生化学 I

(11209)

単位：2単位

対象学科：健専1年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

鈴木 裕 行

■ 授業の概要

ヒトの生体を構成する、細胞の構造と細胞内に存在する細胞内小器官の種類と機能について説明する。また、生体構成分子であるとともに食品の主たる構成成分で主要栄養素でもあるタンパク質・糖質・脂質の構造と化学的性質について詳説する。さらに、生体内の物質変化であり、栄養素の体内での機能発現の機構である代謝を理解する最初の段階として、代謝反応を司る酵素とはどのようなものであるか、また、酵素の種類・性質と機能について説明する。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・細胞の構成の概要を説明できるようにする	①②③
・タンパク質・脂質・糖質等の種類、構造と化学的性質を説明できるようにする	①②③
・酵素とは何か、およびその性質を説明できるようにする	①②③

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 生化学とは、細胞の構造	教科書の第1章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第2回 細胞内小器官の機能、生体構成成分	教科書の第1章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第3回 アミノ酸とは、アミノ酸の種類	教科書の第2章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第4回 アミノ酸の性質、タンパク質とは	教科書の第2章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第5回 タンパク質の高次構造、タンパク質の種類	教科書の第2章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第6回 糖質とは	教科書の第4章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第7回 単糖類・オリゴ糖類の種類と性質	教科書の第4章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第8回 [中間試験]、多糖類の種類・構造と性質	教科書の第4章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第9回 試験の解説、脂質とは、脂質の種類	教科書の第4章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第10回 脂肪酸の特徴と種類、単純脂質の種類・構造と性質	教科書の第4章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第11回 複合脂質の種類・構造と性質	教科書の第4章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第12回 誘導脂質の種類・構造と性質	教科書の第4章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第13回 酵素とは	教科書の第3章の該当箇所を事前に読み、授業後

	にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第14回 酵素の補因子	教科書の第3章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第15回 [期末試験]、酵素の分類と性質	教科書の第3章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第16回 試験の解説、酵素活性の調節	教科書の第3章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。

■ 履修上の注意

基礎栄養学の内容と関連が深いので、学習内容を対比して理解を深めること。

■ 成績評価方法・基準

中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組み等、提出物で評価）・・・10%
試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。

■ 教科書

わかりやすい生化学、林寛 他、三共出版、2, 400円＋税

■ 参考書

栄養の生化学1-2-3改訂第3版、遠藤克己、南江堂、2, 000円＋税

■ 備考

オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

生化学Ⅱ

(11210)

単位：2単位

対象学科：健専2年

授業形態：講義 学期：前期

健康栄養学専攻科目

鈴木 裕 行

■ 授業の概要

生化学Ⅰでの学習内容を基礎として、糖質・脂質・アミノ酸のヒト体内での様々な代謝を、エネルギー代謝を中心に詳説する。さらに、これらの物質から生体で利用できるエネルギーを取り出す機構について説明する。また、様々な生命現象の基本となる遺伝情報を担う情報高分子の構造と機能および遺伝情報の発現の仕組みについて説明する。加えて、ヒトの身体の生理機能の維持の基本となる生体内の情報伝達と恒常性維持の機構について説明する。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・糖質・脂質・タンパク質の代謝および生体エネルギーの利用の仕組みを説明できる。	①②③
・情報高分子の構造と機能を説明できる。	①②③
・生体内の情報伝達と生体の恒常性を説明できる。	①②③

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 解糖系	教科書の第6章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第2回 クエン酸回路	教科書の第6章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第3回 グリコーゲン合成経路、ペントースリン酸経路	教科書の第6章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第4回 生体内の酸化還元反応とエネルギー	教科書の第5章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第5回 電子伝達系	教科書の第5章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第6回 脂肪酸のβ酸化、ケトン体の生成	教科書の第7章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第7回 脂肪酸生合成、TG・リン脂質の合成	教科書の第7章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第8回 〔中間試験〕、コレステロール代謝	教科書の第7章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第9回 試験の解説、血漿リポタンパク質	教科書の第7章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第10回 アミノ酸代謝の概要、尿素サイクル	教科書の第8章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第11回 アミノ酸代謝各論	教科書の第8章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第12回 エネルギー分子の代謝の相互関係	教科書の第8章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第13回 核酸と遺伝子	教科書の第9章の該当箇所を事前に読み、授業後

第14回 タンパク質の生合成	<p>にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。</p> <p>教科書の第9章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。</p>
第15回 [期末試験]、細胞間・細胞内の情報伝達	<p>教科書の第10章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。</p>
第16回 試験の解説、生体内の恒常性の維持	<p>教科書の第10章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。</p>

■ 履修上の注意

基礎栄養学の内容と関連が深いので、学習内容を対比して理解を深めること。

■ 成績評価方法・基準

中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組み等、提出物で評価）・・・10%
試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。

■ 教科書

わかりやすい生化学、林寛 他、三共出版、2, 400円＋税

■ 参考書

栄養の生化学1-2-3改訂第3版、遠藤克己、南江堂、2, 000円＋税

■ 備考

オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

病理学

(11211)

単位：2単位

対象学科：健専2年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

曾根正彦

■ 授業の概要

病理学は医学を正しく理解するために、基本となる重要な学問である。現代医療が専門化・細分化する中、次年度履修する臨床医学概論をより深く理解するために、病理学を学習して大局的に疾病の全体像を把握する事が求められる。

主に病理学の総論としての病因、細胞の異常、循環障害、代謝異常、感染症、免疫、炎症、腫瘍について、ヒトの病気の成り立ちに興味を持ちながら、体系立てて理解できることを目指す。

授業は内科医の立場から実際の臨床現場での事例を紹介し、最新医学の話題を解説しながら幅広く学習し、健康と栄養に関連する専門的な基礎知識を修得できるように講義を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・病理学の基本的知識を学び身につける。	②③
・ヒトの病気の成り立ちを体系的に理解できるようになる。	②③⑦
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。	⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション、病気と病理学（内因、外因）	第1章をよく読み、不明点は質問
第2回 細胞の異常（細胞構造と細胞傷害、新陳代謝）	第2章ABをよく読み、不明点は質問
第3回 細胞の異常（正常細胞の新陳代謝、再生・修復など）	第2章CDをよく読み、不明点は質問
第4回 循環器系の働き	第4章Aをよく読み、不明点は質問
第5回 循環障害と主な疾患	第4章BCをよく読み、不明点は質問
第6回 代謝異常（総論、糖尿病）	第5章A～Cをよく読み、不明点は質問
第7回 代謝異常（脂質・核酸・蛋白など）	第5章D～Hをよく読み、不明点は質問
第8回 感染（原因となる病原体、感染防御など）	第7章A～Cをよく読み、不明点は質問
第9回 感染発症（感染源、感染経路、日和見感染・院内感染）	第7章Dをよく読み、不明点は質問
第10回 免疫（免疫機構、免疫監視機構、免疫のしくみと働き）	第8章Aをよく読み、不明点は質問
第11回 免疫異常（アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全など）	第8章B～Fをよく読み、不明点は質問
第12回 炎症（炎症の正体、原因、基本病変、分類など）	第9章A～Cをよく読み、不明点は質問
第13回 炎症（全身反応）、腫瘍（癌の正体、分類）	第9章D、第10章ABをよく読み、不明点は質問
第14回 腫瘍（癌の特性、癌の診断）	第10章CDをよく読み、不明点は質問
第15回 腫瘍（癌の治療）、先天異常、老化など	第10章E、第3・6章をよく読み、不明点は質問
第16回 筆記試験	講義の復習および誤答箇所的事後学修

■ 履修上の注意

既に学習した生物学、解剖生理学に関連する分野を復習しておくことが望ましい。

授業は教科書に沿って講義を進める。

■ 成績評価方法・基準

期末試験（90%程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10%程度）で評価する。

試験・レポート等についてはフィードバックを行う。

■ 教科書

[なるほどなっとく！病理学 改訂2版] [小林正伸 著] [南山堂] [2, 200円+税]

■ 参考書

「無し」

■ 備考

都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。

質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。

解剖生理学実験

(11212)

単位：1単位

対象学科：健専3年

授業形態：実験 学期：後期

健康栄養学専攻科目

川 俣 幸 一 曾 根 正 彦

■ 授業の概要

解剖生理学や栄養学で学んだ知識を基に、確認・体験する事を目的とする。具体的には、身体計測、尿・血液に関する実験、味覚に関する実験について説明し、基本的な実験手技を取得できるように指導する。尿・血液の健康に関する指標や、栄養素の代謝に関する指標を測定する事により、病態時と健康時の指標を理解させる。また、人体の解剖生理に関して、循環器系や消化器系をはじめとして、身体を構成する組織の構造・機能を説明し、理解させる。

■ 授業の到達目標

- ・身体のおしきみについての理解を深める
- ・実験の基本的な手技を習得する

学位授与の方針との関連

①③⑤

②④

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 はじめに／人体スケッチの実験（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの概論回の予習。事後学習としてレポート作成。
第2回 脳・神経・感覚に関する実験（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの脳・神経回の予習。事後学習としてレポート作成。
第3回 味覚に関する実験（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの味覚回の予習。事後学習としてレポート作成。
第4回 体表面積・基礎代謝に関する実験（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの体表面積回の予習。事後学習としてレポート作成。
第5回 呼吸・循環器に関する実験（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの呼吸循環器回の予習。事後学習としてレポート作成。
第6回 運動器に関する実験（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの運動器回の予習。事後学習としてレポート作成。
第7回 体温・疲労に関する実験（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの体温回の予習。事後学習としてレポート作成。
第8回 血液に関する実験（血糖値測定）（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの血液回の予習。事後学習としてレポート作成。
第9回 尿に関する実験①（定性試験）（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの腎臓回の予習。事後学習としてレポート作成。
第10回 尿に関する実験②（クレアチニンの定量）（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの腎臓回の予習。事後学習としてレポート作成。
第11回 尿に関する実験③（尿酸の定量）（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの腎臓回の予習。事後学習としてレポート作成。
第12回 組織（筋肉など）に関する実験①（生体内ビタミンの局在）（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの組織回の予習。事後学習としてレポート作成。
第13回 組織（筋肉など）に関する実験②（生体内グリコーゲンの局在）（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの組織回の予習。事後学習としてレポート作成。
第14回 人体の解剖生理1 循環器系等：DVD等を供覧し、レポートを作成（曾根）	解剖生理学ⅠⅡを復習し、授業時の記録ノートから詳細なレポートを作成する
第15回 人体の解剖生理2 消化器系等：DVD等を供覧し、レポートを作成（曾根）	解剖生理学ⅠⅡを復習し、授業時の記録ノートから詳細なレポートを作成する

■ 履修上の注意

実験のため、出席して体験し、実験記録（ノート）を取ることを。

■ 成績評価方法・基準

課題レポート・・・90%、受講態度・・・10%（班活動の積極性）
提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。

■ 教科書

適宜プリントを配布する

■ 参考書

なし

■ 備考

質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する

生化学実験

(11213)

単位：1単位

対象学科：健専3年

授業形態：実験 学期：前期

健康栄養学専攻科目

鈴木裕行

■ 授業の概要

生体情報高分子であるタンパク質と核酸の性質・機能を理解させるため、牛乳に含まれる各種タンパク質の分離・分析実験を通して、タンパク質の精製法・分析法の基礎を指導する。また、酵素アミラーゼの諸性質の解析および酵素の反応速度解析の基礎的な手法を指導する。さらに生体試料からのゲノムDNAの抽出法とPCRによる遺伝子増幅を用いた遺伝子多型の解析法や、大腸菌を用いた基礎的な遺伝子組換え（形質転換）実験の手法を指導する。

■ 授業の到達目標

- ・タンパク質の精製・分離の基本的方法を習得する
- ・酵素活性の測定と反応速度の解析法を習得する
- ・生体試料からのDNA抽出と遺伝子解析の基礎を習得する

学位授与の方針との関連

①②③④⑤⑦

①②③④⑤⑦

①②③④⑤⑦

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 実験の概要説明	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。
第2回 牛乳中のカゼイン・乳清タンパク質の分離：等電点沈殿	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「タンパク質実験」としてレポートを、ループ学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「タンパク質実験」としてレポートを、ループリックを参考にして作成する。リックを参考にして作成する。
第3回 牛乳中のカゼイン・乳清タンパク質の分離：硫酸分画	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「タンパク質実験」としてレポートを、ループリックを参考にして作成する。
第4回 SDSポリアクリルアミドゲル電気泳動：ゲル作製・泳動	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「タンパク質実験」としてレポートを、ループリックを参考にして作成する。
第5回 電気泳動パターン解析	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「タンパク質実験」としてレポートを、ループリックを参考にして作成する。
第6回 アミラーゼ活性の測定	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「酵素実験」としてレポートを、ループリックを参考にして作成する。
第7回 酵素反応の最適pHの決定	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「酵素実験」としてレポートを、ループリックを参考にして作成する。
第8回 基質濃度と反応速度の解析	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「酵素実験」としてレポートを、ループリックを参考にして作成する。
第9回 遺伝子実験の概要説明・DNAの基本的性質	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「酵素実験」としてレポートを、ループリックを参考にして作成する。
第10回 植物試料からのゲノムDNAの抽出	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「遺伝子実験」としてレポートを、ループリックを参考にして作成する。
第11回 ヒトゲノムDNAの抽出	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「遺伝子実験」としてレポートを、ループリックを参考にして作成する。
第12回 PCRでの遺伝子増幅	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「遺伝子実験」としてレポートを、ループリックを参考にして作成する。
第13回 PCRによる遺伝子多型の解析	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「遺伝子実験」としてレポートを、ループリックを参考にして作成する。

第14回 プラスミドDNA導入による大腸菌の形質転換

学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「遺伝子実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。

第15回 大腸菌の形質転換の評価

学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「遺伝子実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。

■ 履修上の注意

実験レポート作成に備え、実験記録をできるだけ綿密に取ること。

■ 成績評価方法・基準

実験レポート（80%）および平常点（受講状況・実施状況；20%）・・・詳細はルーブリック参照

成績評価に関しては、授業はじめにルーブリックを提示する。レポートへのフィードバックとして後日コメントを提示する。

■ 教科書

無し（プリントを配布）

■ 参考書

生化学、食品学総論・各論の教科書

■ 備考

オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

臨床医学概論 I

(11214)

単位：2単位

対象学科：健専3年

授業形態：講義 学期：前期

健康栄養学専攻科目

曾根正彦

■ 授業の概要

栄養学の専門家として求められるのは種々の患者の栄養管理だけでなく、一次予防を中心とした健康増進・疾病予防まで多岐にわたってきている。そのため、臨床医学概論の授業では疾患診断・治療などの基礎知識を学び主要疾患の知識を身につける必要がある。ただ臨床医学の領域は広範であり、前期の臨床医学概論 I と後期の臨床医学概論 II に分けてある。臨床医学概論 I では、疾患診断・検査・治療及び栄養・代謝障害、消化器疾患、循環器疾患系などの基礎知識を修得し、臨床現場や健康管理における栄養学的な指導が可能となる事を目指す。この授業では、臨床医としての経験から実践的な健康管理や医療現場で行われている事例などを紹介し、最新医学の話題を解説しながら講義を行なう。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|-------------------------------|----|
| ・ 主要疾患それぞれの基礎知識を学び身につける。 | ②③ |
| ・ 疾患の成因、病態から診断、治療まで体系的に理解できる。 | ②③ |
| ・ 講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。 | ② |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション、疾患診断（問診と診察、主な症候）	2-ABをよく読み、不明点は質問
第2回 臨床検査（総論、一般検査・血液検査・生化学検査）	2-Cをよく読み、不明点は質問
第3回 臨床検査（免疫・微生物検査、生理検査、画像検査）	2-Cをよく読み、不明点は質問
第4回 疾患治療（治療の種類・治療計画、治療の方法）	3-ABをよく読み、不明点は質問
第5回 疾患治療（末期患者治療、救命救急診療など）	3-ABをよく読み、不明点は質問
第6回 栄養障害（成因・病態・症状・診断・治療）代謝疾患（総論）	4-ABをよく読み、不明点は質問
第7回 肥満と代謝疾患（メタボリック症候群、糖尿病と合併症など）	4-CDをよく読み、不明点は質問
第8回 肥満と代謝疾患（脂質異常症、高尿酸血症など）	4-CDをよく読み、不明点は質問
第9回 消化器系（総論、構造と機能など）	5-Aをよく読み、不明点は質問
第10回 消化器系（上部消化器疾患、クローン病、潰瘍性大腸炎など）	5-Bをよく読み、不明点は質問
第11回 消化器系（肝胆道系疾患、膵疾患など）	5-Bをよく読み、不明点は質問
第12回 加齢・疾患に伴う変化、個体の死	1-ABCをよく読み、不明点は質問
第13回 循環器系（総論、不整脈など）	6-ABをよく読み、不明点は質問
第14回 循環器系（心不全、脳卒中など）	6-Bをよく読み、不明点は質問
第15回 循環器系（高血圧、狭心症・心筋梗塞など）	6-Bをよく読み、不明点は質問
第16回 筆記試験	講義の復習および誤答箇所事後学修

■ 履修上の注意

臨床医学の学習のために解剖生理学・病理学の知識が重要である。事前にこれらを十分に整理しておくことが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

期末試験（90%程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10%程度）で評価する。

また試験・レポート等についてはフィードバックを行う。

■ 教科書

臨床医学—人体の構造と機能及び疾病の成り立ち〔医薬基盤・健康・栄養研究所 監修〕〔南江堂〕〔3, 100円＋税〕

■ 参考書

「無し」

■ 備考

都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。

質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。

昨年度から教科書が変更になっているので、注意すること。

臨床医学概論Ⅱ

(11215)

単位：2単位

対象学科：健専3年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

曾根正彦

■ 授業の概要

医学の進歩が著しい現代において、栄養学の専門家として求められるのは種々の患者の栄養管理だけでなく、一次予防を中心とした健康増進・疾病予防まで多岐にわたってきている。臨床医学概論の授業では、疾患の診断・治療の基礎知識を学び、主要疾患の知識の修得が求められる。後期の臨床医学概論Ⅱでは前期に引き続いて、腎・尿路系、内分泌系、神経精神系、呼吸器系、運動器系、血液系、免疫・アレルギー、感染症、悪性腫瘍の基礎知識を修得し、臨床現場や健康管理における栄養学的な指導が可能となる事を目指す。この授業では、臨床医師としての経験から実践的な健康管理や医療現場で行われている事例などを紹介し、最新医学の話題などを解説しながら講義を行なう。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 主要疾患それぞれの基礎知識を学び身につける。
- ・ 疾患の成因、病態から診断、治療まで体系的に理解できる。
- ・ 講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。

②③

②③

②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 腎・尿路系（腎・尿路の構造と機能および症候）	7-Aをよく読み、不明点は質問
第2回 腎・尿路系（腎炎、腎不全、ネフローゼ症候群など）	7-ABをよく読み、不明点は質問
第3回 腎・尿路系（糖尿病性腎症、CKD、人工透析など）	7-Bをよく読み、不明点は質問
第4回 内分泌系（総論）	8-ABをよく読み、不明点は質問
第5回 内分泌系（各論）	8-ABをよく読み、不明点は質問
第6回 神経・精神系	9-ABCをよく読み、不明点は質問
第7回 呼吸器系（総論）	10-ABをよく読み、不明点は質問
第8回 呼吸器系（各論）	10-ABをよく読み、不明点は質問
第9回 運動器系	11-ABをよく読み、不明点は質問
第10回 生殖系	12章をよく読み、不明点は質問
第11回 血液（総論）	13-ABをよく読み、不明点は質問
第12回 血液（各論）	13-ABをよく読み、不明点は質問
第13回 免疫・アレルギー（総論）	14-ABをよく読み、不明点は質問
第14回 免疫・アレルギー（各論）	14-ABをよく読み、不明点は質問
第15回 感染症、悪性腫瘍	15章・16章をよく読み、不明点は質問
第16回 筆記試験	講義の復習および誤答箇所事後学修

■ 履修上の注意

臨床医学の学習のために解剖生理学・病理学の知識が重要である。事前にこれらを十分に整理しておくことが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

期末試験（90%程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10%程度）で評価する。

また試験・レポート等についてはフィードバックを行う。

■ 教科書

臨床医学—人体の構造と機能及び疾病の成り立ち〔医薬基盤・健康・栄養研究所 監修〕〔南江堂〕〔3, 100円＋税〕

■ 参考書

「無し」

■ 備考

都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。

質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。

昨年度から教科書が変更になっているので、注意すること。

食品学総論

(11216)

単位：2単位

対象学科：健専2年

授業形態：講義 学期：前期

健康栄養学専攻科目

八 巻 美智子

■ 授業の概要

食品はヒトの生活にとって必須のものであり、食品について正しい情報を持つことは食品を利用するうえで重要である。そこで、化学、生化学、基礎栄養学などの知識を基礎として、食品を構成する各成分の化学的特性と食品における役割、栄養と健康とのかわりについて講義する。また、それらの特性が食品の調理や保存、加工などにどのように関係するのか解説する。食品学を学ぶことで関連する他分野への興味関心も高められる重要性を理解させる。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・食品を構成する各種成分について理解する	①②③
・食品の各成分の栄養特性と物理特性についての知識を習得する	①②③
・美味しく栄養バランスのとれた食事について科学的に考える力を身に付ける。	①②③⑥

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 食品の定義および分類、食品の成分と機能、食品と環境	事前：教科書にて授業内容に記された内容を概観しておく。（以下の回も同様）
第2回 水分 水の構造と性質、食品中での役割、食品成分表について	事後：教科書、ノートを見直して講義内容を理解し、理解が不十分な点については教員に質問するなどして問題点を解決する。（以下の回も同様）
第3回 炭水化物 糖の構造と種類	1回目、2回目の内容と同様。
第4回 炭水化物 糖の性質、糖の反応と炭水化物としての糖	1回目、2回目の内容と同様。
第5回 脂質 脂肪酸の構造と性質	小テストに向けて学修する。小テストの復習。
第6回 脂質 油脂の酸化、油脂の栄養	1回目、2回目の内容と同様。
第7回 タンパク質 タンパク質の構造と構成アミノ酸	1回目、2回目の内容と同様。
第8回 タンパク質 タンパク質の性質と栄養価	小テストに向けて学修する。小テストの復習。
第9回 脂溶性ビタミン	1回目、2回目の内容と同様。
第10回 水溶性ビタミン	1回目、2回目の内容と同様。
第11回 ミネラル	1回目、2回目の内容と同様。
第12回 食品の呈味成分、色素、香気成分	小テストに向けて学修する。小テストの復習。
第13回 食品の官能評価	1回目、2回目の内容と同様。
第14回 食品の機能性成分、食品の物性と美味しさ	試験に向けて学修する。1回目、2回目の内容と同様。
第15回 これまでのまとめ	試験に向けて学修する。1回目、2回目の内容と同様。
第16回 試験	試験に向けて学修する。

■ 履修上の注意

遅刻、欠席は厳禁（遅刻3回で欠席1回とする）。講義に集中し、ノートを作製する。予習で生じた疑問点について解決できるようにする。

■ 成績評価方法・基準

受講態度（ミニットペーパーの提出など）、小テストの成績等（20%）、試験（80%）の割合で評価する。小テスト、試験については解答例を配布などすることでフィードバックとする。

■ 教科書

〔食品学総論〕〔著者名：森田潤司、成田宏史 編〕〔化学同人〕〔価格：2800円+税〕

■ 参考書

講義時に指示する

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

講義の順番や内容は前後または変更する可能性があります。

食品学各論

(11217)

単位：2単位

対象学科：健専2年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

佐藤靖子

■ 授業の概要

食品材料である植物性食品、動物性食品その他食品について、食品材料の生産上および生物学上の特徴による分類、食材に含まれる成分および旬による成分変化等についての基礎知識を学修する。さらに、図鑑活用による食品の詳細な分類また、写真等の資料は、実物投影機やパワーポイントを用いることにより、食品の外観および内部構造の特徴を視覚的に理解しやすいようにする。食品に対する選択能力を高めるとともに、食生活と健康との関連を習得できるようにする。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・1. 食品材料の特徴を知る	①③
・2. 食品材料の分類ができる	②③
・3. 食品の選択能力を身につける	①③

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス 食品の分類・スローフードについて	授業の進め方、ノートのとめ方を知る
第2回 植物性食品の特徴	教科書をよく読み授業に臨む
第3回 穀類：コメ、コムギの特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
第4回 穀類：トウモロコシ、ソバの特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
第5回 イモ類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
第6回 マメ類：乾燥豆および野菜としての種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
第7回 野菜類：葉菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
第8回 野菜類：茎菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
第9回 野菜類：根菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
第10回 野菜類：果菜類・花菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
第11回 果実類：種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
第12回 動物性食品の特徴	教科書をよく読み授業に臨む
第13回 魚介類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
第14回 畜肉類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
第15回 その他の食品について	教科書をよく読み分類・特徴を把握する
第16回 試験	

■ 履修上の注意

出席点呼開始後に入室した学生は、遅刻扱いとなる。遅刻は3回で1回の欠席とする

ミニットペーパーを課した場合は、提出確認後返却して加点対象とする。

資料は、授業前に配布する

■ 成績評価方法・基準

期末試験70%、受講態度・提出物30%

提出物への評価は次回授業時に行う。

試験問題は、教科書およびノートからの出題です。解答は掲示にて行う。

■ 教科書

書名：食品学各論 著者名：瀬口正晴・八田 一 出版社：化学同人 価格2,400円

■ 参考書

書名：原色食品図鑑 著者名：井上四郎・菅原龍吉 出版社名：建帛社 価格：2,900円

■ 備考

配布プリントは、講義ノートに張り付けるか転載しておくこと。

都合（出張等）により授業計画が変更されることがある。

質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける。

食品学実験Ⅰ

(11218)

単位：1単位

対象学科：健専1年

授業形態：実験 学期：前期

健康栄養学専攻科目

八 巻 美智子

■ 授業の概要

食品学実験では、さまざまな食品からそれぞれの栄養素を分離しその特性を理解するとともに、化学実験を行うにあたっての基本的な認識、態度や基礎的な知識、技術を習得する。すなわち、器具の取り扱い方、測定器具の使用法、データのまとめ方、レポートの書き方について習得することを目指す。管理栄養士養成課程に設置されている実験科目を習得する上での基礎的な技術と心がまえを身につける。また、実験を通して食品を分子レベルで把握する思考を養い、食生活のさまざまな場面において、定量的な考えが応用できることを目標とする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・化学実験を行うにあたっての基本的な態度や基礎的な技術を習得する
- ・データのまとめ方、レポートの書き方について科学的視点から考察する力を習得する
- ・食物を分子レベルで把握する思考を養い、食生活のさまざまな場面において、定量的な考えが応用できることを目標とする

①③⑤⑦
③⑤⑦
③⑤⑦⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 授業の概要、実験実施上の注意

事前：実験書を読んでくる。事後：実験書を読む

第2回 じゃがいもからデンプンの分離

事前：実験書などを読んでくる。事後：ノート整理

第3回 光学顕微鏡によるデンプン粒の観察

実験書などを読みノート整理、結果をまとめレポート作成

第4回 糖質の定性反応1：原理、呈色反応

事前：糖の定性実験についてテキストを読んでくる。事後：ノート整理

第5回 糖質の定性反応2：呈色反応、還元反応

実験書などを読みノート整理、結果をまとめレポート作成

第6回 小麦粉からグルテンの分離

小麦粉からグルテンの分離について実験書を読む

第7回 グルテンからグリアジンの分離

グルテンとグリアジンについて理解を深める、実験書などを読む

第8回 蛋白質の定性反応

タンパク質の定性実験について実験書などを読んでくる

第9回 蛋白質の加水分解

実験書などを読みノート整理、結果をまとめレポート作成

第10回 アミノ酸の定性反応

実験書などを読みノート整理、結果をまとめレポート作成

第11回 油脂のケン化と脂肪酸とグリセリンの分離

事前の実験書を読む、事後にノート整理、レポート作成

第12回 脂肪酸のエステル化（ガスクロマトの前処理）

事前の実験書を読む、事後にノート整理、レポート作成

第13回 ガスクロマトグラフによる脂肪酸の測定

実験書などを読みノート整理、結果をまとめレポート作成

第14回 中和滴定1：食酢中の酢酸の定量（原理、ビュレットの使い方等）

実験書などを読みノート整理、結果をまとめレポート作成

第15回 中和滴定2：食酢中の酢酸の定量（試料の測定、計算等）

実験の総括とレポート作成

■ 履修上の注意

白衣を着用し踵の低いスニーカー系を着用。グローブで協力し、安全に注意して行うこと（特に薬品や火気の使用）。実験室には不必要なものは持ち込まないこと。長髪の方は髪を束ねること（詳細はプリント配布）

■ 成績評価方法・基準

授業参加状況（50%、積極性、協力性等）とレポート・小試験（50%）で総合的に評価する。レポート等については授業中にフィードバックを実施。履修上の注意が守れない場合は減点、遅刻3回で欠席1回とする。

■ 教科書

[新しい食品学実験] [三共出版] [2, 300円]

■ 参考書

必要に応じて随時プリント配布

■ 備考

講義の順番や内容は前後する場合や変更する可能性があります。

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

食品学実験Ⅱ

(11219)

単位：1単位

対象学科：健専1年

授業形態：実験 学期：後期

健康栄養学専攻科目

八 巻 美智子

■ 授業の概要

食品学実験Ⅰで修得した化学実験における基本的な手法をもとに様々な食品からそれぞれの栄養素を分離しその特性を理解する。日本食品成分表に記載されている食品中の栄養素の数値の算出方法を理解する為、水分、灰分、脂質、タンパク質等の各成分を抽出して定量分析を行う。この中で測定器具の使用方法、化学実験における実験の原理、データのまとめ方、レポートの書き方について指導する。管理栄養士養成課程に設置されている実験科目を習得する上での基礎的な技術と心がまえを身につけ、食生活のさまざまな場面において定量的な考えが応用できることを目標とする。

■ 授業の到達目標

- ・化学実験を行うにあたっての基本的な態度や基礎的な技術を習得する。特に定量分析の基本操作と理論を理解する。
- ・データのまとめ方、レポートの書き方について科学的視点から考察する力を習得する
- ・食品成分表に記載されているデータについて測定方法や原理について理解し食物を分子レベルで把握する思考を養い、食生活のさまざまな場面で、定量的な考えが応用できることを目標とする

学位授与の方針との関連

①③⑤⑦

③⑤⑦

③⑤⑦⑧

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 食品中の一般栄養成分分析の説明、濃度計算などの小テスト	事前：一般成分分析について実験書などを読む。小テストに向けて学修。事後：ノート整理、テストを読む
第2回 恒量測定、ケルダール法（タンパク質の酸分解）	事前：実験書等を読んでくる。 事後：ノート整理
第3回 水分の定量、灰分の定量	事前：実験書等を読んでくる。 事後：ノート整理
第4回 脂質の定量：ソックスレー法による脂質の抽出	事前：実験書等を読んでくる。 事後：ノート整理
第5回 脂質の定量：ソックスレー法による脂質の抽出後、乾燥、重量測定	実験書等を読みノート整理、結果をまとめレポート作成
第6回 水蒸気蒸留の説明とブランク値の測定	実験書等を読みノート整理、結果をまとめレポート作成
第7回 水蒸気蒸留（試料中の窒素分析）	実験書等を読みノート整理、結果をまとめレポート作成
第8回 これまでのまとめ計算方法など	事前：実験書等を読んでくる。 事後：ノート整理、実験書等を読む。
第9回 原子吸光分析1：無機質の測定 方法、原理について	実験書等を読みノート整理、結果をまとめレポート作成
第10回 原子吸光分析2：無機質の測定	事前：実験書等を読んでくる。 事後：ノート整理、実験書等を読む。
第11回 炭水化物の定量 食物繊維算出方法	実験書等を読みノート整理、結果をまとめレポート作成
第12回 食品による味覚の変化（官能評価）	事前：実験書等を読んでくる。 事後：ノート整理、実験書を読む。
第13回 嗜好成分の定量（原理、試料調製など）	実験書等を読みノート整理、結果をまとめレポート作成
第14回 嗜好成分の定量（測定、結果まとめ等）	実験書等を読みノート整理、結果をまとめレポート作成
第15回 GC-MSによる食品中の臭気物質の検出	実験の総括とレポート作成

■ 履修上の注意

白衣を着用し踵の低いスニーカー系を着用。グループで協力し、安全に注意して行うこと（特に薬品や火気の使用）。実験室には不必要なものは持ち込まないこと。長髪の方は髪を束ねること（詳細はプリント配布）

■ 成績評価方法・基準

授業参加状況（50%、積極性、協力性等）とレポート・小試験（50%）で総合的に評価する。レポート等については授業中にフィードバックを実施。履修上の注意が守れない場合は減点、遅刻3回で欠席1回とする。

■ 教科書

[新しい食品学実験] [三共出版] [2, 300円]

■ 参考書

必要に応じて随時プリント配布

■ 備考

講義の順番や内容は前後する場合や変更する可能性があります。実験の内容により並行して行う場合もあります。質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

食品機能学

(11220)

単位：2単位

対象学科：健専3年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

村 本 光 二

■ 授業の概要

健康維持には栄養バランスのとれた健全な食生活が必要であり、さらに健康寿命の延伸には食品がもつ生体調節機能、すなわち三次機能性を積極的に利用することが期待される。一方、グローバル化したわが国の食生活は、資源・環境や安全・安心といった課題とも密接に関連している。授業では、このような我われの食生活を取り巻く状況を俯瞰しながら、食品に含まれる機能成分の理解を深めるとともに、それらの利用と効果の科学的評価について考え、食環境のさらなる向上に取り組む姿勢を養う。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・保健機能に関わる食品成分の基礎知識を身につける。	②③⑤
・食品機能に関する情報を科学的に評価する能力を高める。	②③⑤
・学修した知識を食環境の向上に応用する力を身につける。	②③⑤

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 食品機能学の概要：我々を取り巻く食に関わる課題を俯瞰し、食品の機能性とは何か、その背景と利用の目的を理解する。	授業内容に関連する小テストの確認を行う。課題のレポートを次回提出する。
第2回 大豆食品をモデルとして、たんぱく質の栄養性・嗜好性・体調調節などの食品機能性を学ぶ。	小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。
第3回 大豆食品の構成成分と食品機能性との関連について学び、現代の食生活における役割を考える。	小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。
第4回 機能性分子の構造と物理化学的特性の関係を学び、機能性との関連について考える。	小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。
第5回 大豆たんぱく質の消化によって派生するアミノ酸とペプチドの食品機能性とその測定法について学ぶ。	小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。
第6回 現代の食生活と生活習慣病との関連を理解し、安全・安心な食生活のための食品表示制度について学ぶ。	小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。
第7回 保健機能食品制度1～2：特定保健用食品・栄養機能食品・機能性表示食品について学ぶ、健康食品との違いを考える。	小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。
第8回 保健機能食品制度1～2：特別用途食品や健康食品・健康補助食品・栄養補助食品・栄養強化食品などについて学ぶ。	小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。
第9回 食品素材に含まれる脂肪酸やビタミンなどの機能性成分の作用機構をニュートリゲノミクスの観点から理解する。	小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。
第10回 食品機能分子の科学的評価に用いられる疫学研究などの多様な試験方法を学び、それらの利点と欠点を考える。	小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。
第11回 ヒト介入試験による食品機能性の評価法の手順、ならびに大規模疫学調査結果の具体例を学ぶ。	小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。
第12回 農作物の食品機能性評価の具体例から生活習慣病への予防効果の疫学調査と実証試験を学ぶ。	小テストの確認と復習を行う。
第13回 食品機能性の分子機構1～2：生活習慣病の予防に重要な抗酸化性・免疫賦活作用の分子機能について学ぶ。	小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。
第14回 食品機能性の分子機構1～2：今後の開発が期待される脳機能調節や抗老化に関わる食品成分の役割を考える。	小テストの確認と復習を行う。課題のレポートを次回提出する。
第15回 保健機能食品の品質と安全性：多様な健康情報をどのように処理するか、また安全・安心な製品の生産と利用について考える。	小テストの確認と復習を行う。
第16回 試験	

■ 履修上の注意

講義内容を十分に理解するためには、栄養学・生理学・生化学等で学んだことが基盤になるので、それらの科目も授業の前後に復習すること。

■ 成績評価方法・基準

期末に行う試験（60%）、レポートと小テストの結果（20%）、受講態度（20%）で評価します。レポートと小テストは採点后、返却してフィードバックを行います。

■ 教科書

授業前にプリントを配布します。

■ 参考書

〔改訂食品機能学（第2版）〕〔建帛社〕〔2, 310円〕〔大豆の機能と科学〕〔朝倉書店〕〔4, 300円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時に受付けます。

食品加工学

(11221)

単位：2単位

対象学科：健専3年

授業形態：講義 学期：前期

健康栄養学専攻科目

佐藤靖子

■ 授業の概要

加工食品は、安全性、貯蔵性、嗜好性、嗜好性等の付与により、生活の利便性や経済性の向上に関与するものであり、食品の加工方法、保存方法の学修により、加工原理に対する理解を深める。食品が製品化されるまでの食品成分の変化（物性的、化学的、栄養学的）に対する基礎知識を身につけるよう指導する。加工された食品の規格、表示および包装に関する学修を通して商品化される要因を理解する。食品の加工について総合的な理解力が深まるようにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 1. 食品の物理的、化学的、生物的加工方法が理解できる
- ・ 2. 食品加工の規格、表示が理解できる
- ・ 3. 食品の製品化に伴う加工工程が理解できる

①

①

②③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	食品加工の目的	目的を教科書・ノートで確認する
第2回	食品加工方法：物理的加工：粉碎、濃縮、ろ過等	物理的方法を確認する
第3回	食品加工方法：物理的加工：乾燥、冷凍等	教科書・ノートを読み返す
第4回	食品加工方法：化学的加工	化学的方法を確認する
第5回	食品加工方法：生物的加工	生物的方法を確認する
第6回	食品保存方法：水分活性等	授業内容を教科書・ノートで確認する
第7回	食品保存方法：CA貯蔵等	授業内容を教科書・ノートで確認する
第8回	食品保存方法：浸透圧利用等	授業内容を教科書・ノートで確認する
第9回	食品保存方法：加熱、冷蔵等	授業内容を教科書・ノートで確認する
第10回	食品の包装：材料	包装の素材について確認する
第11回	食品の包装：特徴	教科書・ノートを読み返す
第12回	食品の規格	授業内容を教科書・ノートで確認する
第13回	食品の表示	授業内容を教科書・ノートで確認する
第14回	農産食品の加工	授業内容を教科書・ノートで確認する
第15回	畜産・水産食品の加工	授業内容を教科書・ノートで確認する
第16回	試験	

■ 履修上の注意

出席点呼開始後に入室した学生は、遅刻扱いとなる。遅刻は3回で1回の欠席とする。

ミニットペーパーを課した場合は、提出確認後に返却し加点対象とする。

■ 成績評価方法・基準

期末試験70%、受講態度30%

ミニットペーパーを課した場合は、授業態度の範囲で加点する。

試験問題は、教科書およびノートからの出題です。試験後解答例を掲示する。

■ 教科書

〔書名：食品加工学〕〔著者名：西村公雄、松井徳光〕〔出版社名：化学同人〕〔価格：2,100円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

食品学各論の内容を復習しておく。

質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける。

食品加工実習

(11222)

単位：1単位

対象学科：健専3年

授業形態：実習 学期：後期

健康栄養学専攻科目

佐藤靖子

■ 授業の概要

食品材料を物理的、化学的、生物的方法により変化させて、加工工程を経て製品を製造し、素材から製品までの過程を理解させる。加工工程による食品の様々な変化を良く観察させるとともに、それらの現象を文献の活用により科学的に考察できる能力の向上を図る。製品の貯蔵中の変化を経時的に観察させ貯蔵・保蔵の理解を深める。加工した製品については、保存に適した容器を選択、安全に留意した保存、消費期限・賞味期限について修得できるようにする。

■ 授業の到達目標

- ・ 1. 食品の加工目的を原理が理解できる
- ・ 2. 食品の加工方法を身につける
- ・ 3. 食品の加工工程と貯蔵・保蔵が理解できる

学位授与の方針との関連

③

③④

③⑤⑦

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス 安全・衛生、レポート作成など	実習の事前準備や容器等を確認する
第2回 グミ	レポート作成・提出
第3回 トリ味噌	レポート作成・提出
第4回 パンまたはショートパスタ	レポート作成・提出
第5回 ラーメン	レポート作成・提出
第6回 ヨーグルト	レポート作成・提出
第7回 コンニャク	レポート作成・提出
第8回 きな粉飴	レポート作成・提出
第9回 佃煮	レポート作成・提出
第10回 豆腐	レポート作成・提出
第11回 甘酒	レポート作成・提出
第12回 さつま揚げ	レポート作成・提出
第13回 塩辛	レポート作成・提出
第14回 ジャム	レポート作成・提出
第15回 ラムネまたはチョコレート	レポート作成・提出

■ 履修上の注意

レポートは次回の授業開始前までに指定の場所へ提出すること。遅れた場合は遅刻提出となり1点減点とする。

身支度が整わない学生の入室はできない（欠席扱い）。実習中の安全・衛生に十分注意すること。

資料は、1回目の授業もしくは前週の授業終了後に配布する。

■ 成績評価方法・基準

レポート提出85%（実習回数で割った積み重ね点とする）、授業態度（身支度を含む）15%。

身支度に不備があった場合は、2点減点とする。

提出されたレポートは確認後返却する。未提出のレポートがある場合は、評価なしとする。

他者と同内容のレポートが提出された場合は、評価なしとする。提出されたレポートは後日返却する。

ループリックについて1回目の授業で説明する。

■ 教科書

配布プリント使用

■ 参考書

食品学各論、食品加工学、調理科学、イラスト調理Book等

■ 備考

学生の校外実習または教員の出張等の都合により授業計画の順番・内容が変更することがある。

学外実習で欠席する場合のレポート提出は、ガイダンスにて説明する。

質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける。

食品衛生学

(11223)

単位：2単位

対象学科：健専3年

授業形態：講義 学期：前期

健康栄養学専攻科目

黒川優子

■ 授業の概要

近年、食品の安全性について多くの問題が社会的に注目されており、消費者の関心も高まっている。ここでは食品の腐敗や食中毒、寄生虫とその疾患、食品添加物、さらに身の回りに存在する各種合成化学物質や重金属などによる食品や水の汚染が健康にどのような影響を及ぼすかについて学び、食品の安全性確保に関する法律と安全性確保のための具体的な方法を解説する。また、飲料水や食品に含まれる農薬などの合成化学物質の分析方法、天然および養殖魚介類における寄生虫の検査方法等、これまでの実務経験（環境調査、環境教育、食育など）を反映させた講義を行う。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・食品の安全性を脅かすものについて学ぶ。	①②③⑤
・食品の安全性確保に関する基礎知識を身につける。	①②③⑤
・身の回りの食品衛生に関する事象について理解を深める。	①②③⑤

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 食品衛生とは、食品衛生と法規	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第2回 食品と微生物	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第3回 食中毒の定義と概要・食中毒の発生状況	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第4回 微生物性食中毒① 細菌性食中毒（サルモネラ、腸炎ビブリオ、カンピロバクター、腸管出血性大腸菌、その他の病原大腸菌、黄色ブドウ球菌）	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第5回 微生物性食中毒② 細菌性食中毒（ボツリヌス菌、ウェルシュ菌、セレウス菌、リステリア菌、赤痢菌）	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第6回 微生物性食中毒③ ウイルス性食中毒・プリオン	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第7回 微生物性食中毒④ 微生物性食中毒のまとめ	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第8回 自然毒食中毒・マイコトキシン食中毒	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第9回 寄生虫性食中毒① 野菜・飲料水・魚介類からの感染	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第10回 寄生虫性食中毒② 食肉類からの感染	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第11回 化学性食中毒① 有害元素	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第12回 化学性食中毒② 農薬・有機塩素化合物・アレルギー様食中毒・油脂の変敗・カビ毒	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第13回 食品添加物（基本的考え方、手続き、分類、規格基準、用途、種類、表示方法、違反食品添加物）	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第14回 食品の器具・容器包装（材料、規格、包装技術、リサイクル法、	事前：教科書の該当ページを読む。

	識別表示)・食品衛生対策(食品の腐敗、食品の微生物制御)	事後:授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第15回	食品の安全にかかわるその他の話題(エコチル調査、マイクロプラスチック問題 etc.)	関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。
第16回	試験	授業内容および管理栄養士国家試験の食品衛生に関連する過去問題を総復習して試験に臨むこと。

■ 履修上の注意

他の食品に関する学科目と関連性が高いため、履修済みの科目をよく理解して講義に臨むこと。また、身近な食品に関する事項が多いので、日頃から食品に対して関心・興味を持つことが講義内容の理解につながる。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業への取り組み(受講態度、予習・復習の状況など)(30%)、課題への取り組み(30%)、試験(40%)
- ・提出された課題は、後日、添削して返却する。

■ 教科書

- ・[新スタンダード栄養・食物シリーズ8 食品衛生学][一色賢司淳編][東京化学同人][2,500円]
- ・必要に応じて資料を配布する。

■ 参考書

- ・[解いて学ぶ!食品安全・衛生 テキスト&問題集][藤井建夫・塩味一雄著][講談社][2,600円]
- ・その他、授業時間内に適宜、参考書を紹介する。

■ 備考

- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付ける。

食品衛生学実験

(11224)

単位：1単位

対象学科：健専3年

授業形態：実験 学期：後期

健康栄養学専攻科目

鈴木 裕 行

■ 授業の概要

管理栄養士の業務において重要な、食品安全性の重要性の認識と衛生管理方法の理解のために、代表的な微生物の性質を説明するとともに微生物の基本的な培養・観察の方法を指導する。それを基にして食品の細菌汚染検査、手指やふきん等の衛生試験の手技を指導する。また、市販の各種の加工食品を試料として、使用されている保存料・着色料・発色剤といった食品添加物の検出試験の手技を指導する。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・食中毒原因菌の性質を理解しその検査方法を習得する	①②③④⑤⑦
・食品中の食品添加物の役割を理解し分析方法を習得する	①②③④⑤⑦

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 実験の概要説明・微生物実験の基礎知識と基本操作	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。
第2回 微生物の取扱い・植菌操作	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「微生物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第3回 コロニーの観察・グラム染色法	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「微生物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第4回 細菌の顕微鏡観察	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「微生物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第5回 細菌の顕微鏡観察（つづき）	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「微生物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第6回 手洗いの効果、各種衛生試験①：菌の採取・段階希釈法	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「微生物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第7回 手洗いの効果、各種衛生試験②：菌数計測・菌体観察	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「微生物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第8回 手洗いの効果、各種衛生試験③：菌体観察	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「微生物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第9回 食品中の生菌数の測定①：段階希釈法での生菌数測定	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「微生物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第10回 食品中の生菌数の測定②：食品中の細菌の観察	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「微生物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第11回 保存料の検出①：試料からのソルビン酸の抽出	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「食品添加物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第12回 保存料の検出②：ソルビン酸の定量	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「食品添加物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第13回 着色料の検出：食品中のタール色素の検出	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「食品添加物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第14回 発色剤の検出①：試料からの亜硝酸塩の抽出	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「食品添加物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第15回 発色剤の検出②：亜硝酸の定量	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「食品添加物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。

タを整理し、「食品添加物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。

■ 履修上の注意

実験レポート作成に備え、実験記録をできるだけ綿密に取ること。

■ 成績評価方法・基準

実験レポート（80%）および平常点（受講状況・実施状況；20%）・・・詳細はルーブリック参照

成績評価に関しては、授業はじめにルーブリックを提示する。レポートへのフィードバックとして後日コメントを提示する。

■ 教科書

新版 明解食品衛生学実験、加納碩雄 他、三共出版、2, 300円＋税

■ 参考書

ウイルス・細菌の図鑑—感染症がよくわかる重要微生物ガイド(知りたい!サイエンス)、北里英郎他、技術評論社、2, 180円＋税

■ 備考

オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

調理科学論

(11225)

単位：2単位

対象学科：健専2年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

佐藤靖子

■ 授業の概要

食品材料は、生食および加熱など様々な調理操作を経て食される。調理操作の種類や方法の確認を行いながら、食品素材の色調変化、組織の軟化、香りの発現などについて基礎的な知識を学習する。さらに基本的な調理方法の役割および食品の物理的・化学的变化について科学的視点を身につける。また、主菜・副菜の調理で使用される香辛料や香草については、可能な限り実物を用意して風味を学修する機会を与え、利用性について理解できるようにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|----------------------------|----|
| ・1基本的調理操作を理解できる | ①② |
| ・2調味料の種類と特徴を理解できる | ①② |
| ・3食品の調理特性を科学的に理解する能力を身につける | ③ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス、調理科学の定義	教科書をよく読み授業に臨む
第2回 調理と嗜好性	教科書をよく読み授業に臨む
第3回 調理操作 非加熱調理	授業内容を教科書・ノートで確認する
第4回 // 加熱調理 煮る・蒸す	授業内容を教科書・ノートで確認する
第5回 // 加熱調理 揚げる・焼く	授業内容を教科書・ノートで確認する
第6回 調味料の種類と特徴	授業内容を教科書・ノートで確認する
第7回 香辛料の種類と特徴	授業内容を教科書・ノートで確認する
第8回 スパイスの風味を体験する	第11回の授業開始までにスパイス、ハーブに関する献立のレポート提出する
第9回 ハーブおよび食塩の風味を体験する	第11回の授業開始までにスパイス、ハーブに関する献立のレポート提出する
第10回 油脂・油脂性食品の調理特性	授業内容を教科書・ノートで確認する。
第11回 炭水化物質性食品の調理特性	授業内容を教科書・ノートで確認する。
第12回 タンパク質性食品の調理特性：食肉、魚介類	授業内容を教科書・ノートで確認する。
第13回 // : 卵、牛乳	授業内容を教科書・ノートで確認する。
第14回 成分抽出性食品の調理特性：デンプン	授業内容を教科書・ノートで確認する。
第15回 // :ゼラチン、寒天その他	授業内容を教科書・ノートで確認する。
第16回 試験	

■ 履修上の注意

出席点呼開始後に入室した学生は、遅刻扱いとなる。遅刻は3回で1回の欠席とする
ミニットペーパーを課した場合は、採点後に返却し加点対象とする。

■ 成績評価方法・基準

期末試験65%、受講態度・レポート提出35%

レポートは、評価後返却する

試験問題は、教科書およびノートからの出題です。試験後解答例を掲示する。

■ 教科書

調理科学 著者名：森高初恵、佐藤恵美子 出版社：建帛社 価格：2500円

■ 参考書

調理のためのベーシックデータ（他の授業で購入済み）

■ 備考

出張等の都合により授業計画が変更されることがある

質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける

調理科学実験

(11226)

単位：1単位

対象学科：健専3年

授業形態：実験 学期：前期

健康栄養学専攻科目

佐藤靖子

■ 授業の概要

食品素材は、切る・潰すなどの調理操作により形態が変化して、調味料等の浸透性が異なり風味に影響する。また、様々な焼く、炒める、蒸すなどの加熱方法により、食品は色調の変化、組織の軟化、香りの発現などその状態が変化して嗜好性や消化性に影響することを理解させる。さらに調理操作による食品材料の物理的・化学的变化については、十分な観察を通して、目的、方法、結果および考察をまとめ、レポート作成の能力を身につけさせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・1実験方法に従って進めることができる	①
・2食品の調理による変化を観察する	①
・3調理による食品の変化を科学的に理解することができる	④⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス：安全・衛生・レポート作成など	レポート作成方法を図書館で確認する
第2回 講義：食品の重量・容量、炊飯	授業内容を良くまとめて班で話し合う
第3回 食品の重量と容量に関する実験	レポート作成・提出
第4回 炊飯に関する実験	レポート作成・提出
第5回 講義：出汁の材料、卵	授業内容を良くまとめて班で話し合う
第6回 出汁に関する実験	レポート作成・提出
第7回 卵に関する実験	レポート作成・提出
第8回 講義：砂糖、飲み物	授業内容を良くまとめて班で話し合う
第9回 砂糖に関する実験	レポート作成・提出
第10回 飲み物に関する実験	レポート作成・提出
第11回 講義：小麦、野菜	授業内容を良くまとめて班で話し合う
第12回 小麦に関する実験	レポート作成・提出
第13回 野菜に関する実験	レポート作成・提出
第14回 講義：動物性食品	授業内容を良くまとめて班で話し合う
第15回 ハンバーグに関するの実験	レポート作成・提出

■ 履修上の注意

レポートは次回の授業開始前までに指定の場所へ提出すること。遅れた場合は遅刻提出となり評価が1段階下がる。身支度が整わない学生の入室はできない（欠席扱い）。実験中の安全・衛生に十分注意すること。

■ 成績評価方法・基準

レポート提出85%、授業態度（身支度を含む）15%

身支度に不備があった場合は、2点減点とする。

提出されたレポートは後日返却する。未提出のレポートがある場合などの評価は、ガイダンスで行う。

■ 教科書

〔書名：イラスト調理Book〕〔著者名：安部サト他〕〔出版社名：実教出版〕〔価格：770円〕

■ 参考書

成分表など

■ 備考

学生の校外実習、出張等の都合により授業計画の順番・内容が変更することがある

郊外実習で欠席する場合のレポート提出は、ガイダンスにて説明する

質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける

基礎調理学実習 I

(11227)

単位：1 単位

対象学科：健専 1 年

授業形態：実習 学期：前期

健康栄養学専攻科目

平本 福子 深澤 律子

■ 授業の概要

1. 基礎調理技術（食材や調理法についての知識を整理し、調理操作のポイントを科学的に理解する能力とそれらの知識を活用して実際に調理ができる技術を教授する。
2. 栄養、試行、食文化、食環境などの多様な側面から、食べる人にとって望ましい食事を計画し、実際に食事として作りあげる技術を教授する。
3. 授業で習得した知識や技術を自分の生活の中で実践するための力を養った上で、実際に行い、振り返り、自己評価と課題を整理し、考察する方法を指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|----------------------------|----|
| ・食材や調理法についての基礎的な知識を修得する。 | ① |
| ・修得した知識をもとに、実際の調理技術を習得する。 | ①④ |
| ・食事構成の要点を理解し、献立を立てることができる。 | ①④ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション 計量、調味パーセントの基礎（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第2回	基礎調理技術（1） 切る（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第3回	基礎調理技術（2） だしをとる、汁を仕立てる（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第4回	基礎調理技術（3） 焼く、炒める（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第5回	基礎調理技術（4） 煮る（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第6回	基礎調理技術 実技試験（平本・深澤）	課題の練習と振り返りを行い、レポート提出。
第7回	食事計画の基礎（平本・深澤）	実際に献立を作成する。
第8回	献立調理（食事単位での調理技術）（1）卵を主菜に（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第9回	献立調理（食事単位での調理技術）（2）肉を主菜に（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第10回	献立調理（食事単位での調理技術）（3）魚を主菜に（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第11回	献立調理（食事単位での調理技術）（4）豆腐を主菜に（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第12回	献立調理（食事単位での調理技術）（5）麺を主食に（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第13回	献立調理 実技試験（献立作成から調理まで）（平本・深澤）	課題の練習と振り返りを行い、レポート提出。
第14回	調理技術に関する知識の確認（筆記試験）（平本・深澤）	教科書をよく読み、課題を整理する。
第15回	生活実習（実生活での応用）（平本・深澤）	課題を確認し、実践した上でレポートを提出。
第16回	フィードバック（実技試験・筆記試験を振り返り）（平本・深澤）	ポートフォリオ評価表を記入する。

■ 履修上の注意

実習なので出席することが重要である。また、調理技術の習得のためには授業時間だけでなく、自宅などでの実践が必要である。

■ 成績評価方法・基準

基礎点（授業に取り組む態度と実際の行動）60点（具体的には、15分前に集合する。配布されたプリントはよく読み予習して実習に臨む。調理室の使い方の約束を守り、自分で考えて積極的に動き、わからないことは質問する。班員と協力し声を掛け合って実習を行う、掃除や後片付けなど責任をもって行う等）、実技試験25点、筆記試験15点を基準として評価する。試験のフィードバックについては、実技試験では結果の講評と今後の課題について説明する。また、筆記試験では回答例を提示するとともに、口頭でも説明する。

■ 教科書

〔調理学（健康・栄養・調理）〕〔柳沢幸江・柴田圭子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2700円〕
〔調理のためのベーシックデータ第5版〕〔松本仲子監修〕〔女子栄養大学出版部〕

■ 参考書

〔7訂食品成分表2021〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1400円〕

〔食品の栄養とカロリー事典 改訂版〕〔女子栄養大学出版部〕〔1500円〕

■ 備考

都合により、授業計画の順番などが変更する時がある。ルーブリック評価については第1回の授業で説明する。質問等は授業終了時に受け付ける。

基礎調理学実習Ⅱ

(11228)

単位：1単位

対象学科：健専1年

授業形態：実習 学期：後期

健康栄養学専攻科目

平本 福子 深澤 律子

■ 授業の概要

1. 調理器具や加工食品などの調理の簡便化、食事の食塩量・エネルギー量を調理方法により調節するなど、現代の食生活における課題解決に向けての知識と技術を教授する。
2. 栄養教育のツールとして、人々に1食分の適量や栄養バランスを伝えるための方法（3・1・2弁当箱法）についての知識と技術を教授する。
3. 食文化の観点から、和洋華の食事様式、行事食、郷土食などについての知識や技術を教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|-------------------------------|------|
| ・調理の簡便化、調理による栄養量についての知識を修得する。 | ③④⑤ |
| ・食事を用いた栄養教育についての知識と技術を習得する。 | ④⑤⑥⑦ |
| ・栄養面、食文化面も含めて、献立を立てることができる。 | ④⑦ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	生活実習報告会、3・1・2弁当箱法についての講義（平本・深澤）	配布プリントをよく読む。レポート提出。
第2回	栄養教育ツール（3・1・2弁当箱法）の実習（平本・深澤）	配布プリントをよく読む。レポート提出。
第3回	調理の簡便化①（調理器具）切る、蒸す（平本・深澤） ※調理時間、食味などをまとめて発表する。	配布プリントをよく読む。レポート提出。
第4回	調理の簡便化②（加工食品）主食（五目ごはん）、主菜（真麻婆豆腐） ※調理時間、食味などをまとめて発表する。（平本・深澤）	配布プリントをよく読む。レポート提出。
第5回	調理の簡便化③（加工食品）合わせ調味料 胡麻和え（平本・深澤） ※調理時間、食味等の結果をまとめ、発表する	配布プリントをよく読む。レポート提出。
第6回	様式別料理（日本料理）赤飯、サバの竜田揚げ、ほうれん草のくみり、茶わん蒸し（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第7回	様式別料理（西洋料理）パン、ビーフビーフシチュー、サラダ、スポンジケーキ（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第8回	様式別料理（中華料理）白飯、糖醋肉、白菜丸子湯、杏仁酥（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第9回	郷土食 東北6県に分かれて、各県の郷土食を調べ、作り、伝統を伝える方法等について発表する（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第10回	行事食（クリスマス） 前菜、パン、ローストチキン、コーンチャウダー、プラムケーキ（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第11回	行事食（正月）南蛮漬け、筑前煮、すまし仕立て雑煮（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第12回	調理による塩分量の変化（平本・深澤） 料理レベル、食事レベルでの減塩について	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第13回	調理によるエネルギー量の変化（平本・深澤） エネルギー量を増減させる調理法について	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第14回	実技試験（平本・深澤）	課題の練習と振り返りを行い、レポート提出。
第15回	筆記試験（平本・深澤）	教科書をよく読み、課題を整理する。
第16回	フィードバック（平本・深澤）（実技試験・筆記試験の振り返り）	ポートフォリオ評価表を記入してくる。

■ 履修上の注意

実習なので出席することが重要である。また、調理技術の習得のためには授業時間だけでなく、自宅などでの実践が必要である。

■ 成績評価方法・基準

基礎点（授業に取り組む態度と実際の行動）60点（具体的には、15分前に集合する。配布されたプリントはよく読み予習して実習に臨む。調理室の使い方の約束を守り、自分で考えて積極的に動き、わからないことは質問する。班員と協力し声を掛け合って実習を行う、掃除や後片付けなど責任をもって行う等）、実技試験25点、筆記試験15点を基準として評価する。

試験のフィードバックについては、実技試験では結果の講評と今後の課題について説明する。また、筆記試験では回答例を提示するとともに、口頭でも説明する。

■ 教科書

※調理学実習 I で使用したもの

〔調理学（健康・栄養・調理）〕〔柳沢幸江・柴田圭子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2700円〕

〔調理のためのベーシックデータ第5版〕〔松本仲子監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1800円〕

■ 参考書

〔7訂食品成分表2021〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1400円〕

〔食品の栄養とカロリー事典 改訂版〕〔女子栄養大学出版部〕〔1500円〕

■ 備考

都合により、授業計画の順番などが変更する時がある。ルーブリック評価については第1回の授業で説明する。質問等は授業終了時に受け付ける。

応用調理学実習 I

(11229)

単位：1 単位

対象学科：健専2年

授業形態：実習 学期：前期

健康栄養学専攻科目

宮地 洋子 深澤 律子

■ 授業の概要

基礎調理学の知識をもとに、18～29歳の食事摂取基準を食品構成に展開できるよう、食事摂取基準を活用し、一食単位および一日単位で食事設計（献立作成、調理操作手順）ができるように、春・夏の出盛りの食材を理解し、季節感のある行事食や郷土料理も取り入れた具体的な実習献立を通して教授する。献立一食あたりの食品の使用量を学び、一食単位および一日単位で食事設計（献立作成、調理操作手順）ができるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・修得した知識をもとに、一日の摂取カロリーから食品構成を展開することが理解できる。	①②③
・グループで話し合い、献立一食あたりの食品の使用量が理解でき、献立を立てる技術を習得する。	①②③⑤⑦
・グループで話し合い、一日（朝・昼・夕）の献立を立てる技術を習得する。	①②③⑤⑦
・修得した調理技術をもとに、さまざまな野菜の切り方を習得する。	①②③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション 食事摂取基準、食品構成から献立作成について（宮地・深澤）	配布プリントをよく読み、食品構成を理解し、まとめを2回目に提出。
第2回 春の献立 西洋料理（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを3回目に提出。
第3回 春の献立 日本料理（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを4回目に提出。
第4回 春の献立 中国料理（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを5回目に提出。
第5回 春の献立 西洋料理（アフタヌーンティー）（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを6回目に提出。
第6回 行事食・七夕献立（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを7回目に提出。
第7回 夏の献立 西洋料理（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを8回目に提出。
第8回 夏の献立 中国料理（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを9回目に提出。
第9回 演習・食品構成を考えた夏の献立（1）日本料理の献立作成（宮地・深澤）	作成した献立を10回目に提出
第10回 演習・食品構成を考えた夏の献立（2）日本料理の栄養価計算（宮地・深澤）	作成した献立の栄養価計算を11回目に提出。
第11回 食品構成を考えた夏の献立（3）日本料理の実習（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを12回目に提出。
第12回 演習・食品構成を考えた夏の献立（1）西洋料理の献立作成（宮地・深澤）	作成した献立を13回目に提出
第13回 演習・食品構成を考えた夏の献立（2）西洋料理の栄養価計算（宮地・深澤）	作成した献立の栄養価計算を14回目に提出。
第14回 食品構成を考えた夏の献立（3）西洋料理の実習（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを15回目に提出。
第15回 講義、前期まとめ（宮地・深澤）	前期に学んだ内容を復習する。
第16回 筆記試験（宮地・深澤）	

■ 履修上の注意

前日に爪を切る、清潔な実習着、帽子、マスク、フェイスシールドを身に着ける。調理室内ではボールペン使用。調理室に入室したら手洗い消毒を済ませ、配布資料をファイルに保管する。出席することが重要である。調理技術の習得のためには、自宅で実践する。

■ 成績評価方法・基準

実技試験30点、実習レポート提出30点、筆記試験30点、授業態度10点（早めに集合する、メモを取る、グループでの協調性、熱心さ等）で評価する。提出されたレポートは後日添削して返却する。課題については授業中にフィードバックする。

■ 教科書

〔調理学（健康・栄養・調理）〕〔柳沢幸江・柴田圭子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2700円〕

〔調理のためのベーシックデータ第5版〕〔松本伸子監修〕〔女子栄養大学出版社〕〔1800円〕

〔調理・献立作成の基礎〕〔坂本裕子、森美奈子〕〔化学同人〕〔1650円〕

〔7訂食品成分表2021〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版社〕〔1400円〕

■ 参考書

■ 備考

講義の際に授業内容のプリントを配布し、参考文献、資料を提示する。

- ・ 季節の材料調達等の都合により、授業計画の順番、料理等を変更することがある。
- ・ ルーブリックを授業中に配布するので、学修目標として参照する。
- ・ 質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

応用調理学実習Ⅱ

(11230)

単位：1単位

対象学科：健専2年

授業形態：実習 学期：後期

健康栄養学専攻科目

宮地 洋子 深澤 律子

■ 授業の概要

基礎調理学の知識をもとに、18～29歳の食事摂取基準を食品構成に展開できるよう、食事摂取基準を活用し、一食単位および一日単位で食事設計（献立作成、調理操作手順）ができるように、秋・冬の出盛りの食材を理解し、季節感のある行事食や郷土料理も取り入れた具体的な実習献立を通して教授する。グループ活動を通して、献立一食あたりの食品の使用量を学び、一食単位および一日単位で食事設計（献立作成、調理操作手順）ができるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・修得した知識をもとに、一日の摂取カロリーから食品構成を展開することが理解できる。	①②③
・グループで話し合い、献立一食あたりの食品の使用量が理解でき、献立を立てる技術を習得する。	①②③⑤⑦
・グループで話し合い、一日（朝・昼・夕）の献立を立てる技術を習得する。	①②③⑤⑦
・修得した調理技術をもとに、さまざまな野菜の切り方を習得する。	①②③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 夏休みの課題「家族への食事作りのレポート」発表。（宮地・深澤）、調味%の計算、秋・冬の食材について	レポートにまとめ、発表の準備を行う。レポート提出。
第2回 演習・食品構成を考えた秋のもてなしの献立①もてなしの献立作成（宮地・深澤）	献立を3回目までに提出。
第3回 演習・食品構成を考えた秋のもてなしの献立①もてなしの献立の栄養価計算（宮地・深澤）	栄養価計算を4回目に提出。
第4回 演習・食品構成を考えた秋のもてなしの献立①もてなしの献立の実習（宮地・深澤）	実習の感想と考察を5回目に提出。
第5回 演習・食品構成を考えた秋の郷土料理②東北地方の郷土料理の献立作成（宮地・深澤）	献立を6回目に提出。
第6回 演習・食品構成を考えた秋の郷土料理②東北地方の郷土料理の献立の栄養価計算（宮地・深澤）	栄養価計算を7回目に提出。
第7回 演習・食品構成を考えた秋の郷土料理②東北地方の郷土料理の献立の実習（宮地・深澤）	実習の感想と考察を8回目に提出。
第8回 和食のテーブルマナー（宮地・深澤）	テーブルマナーのレポートを9回目に提出。
第9回 演習・食品構成を考えた行事食の献立③クリスマスの献立作成（宮地・深澤）	献立を10回目に提出。
第10回 演習・食品構成を考えた行事食の献立③クリスマスの献立の栄養価計算（宮地・深澤）	栄養価計算を11回目に提出。
第11回 演習・食品構成を考えた行事食の献立③クリスマスの献立実習（宮地・深澤）	実習の感想と考察を12回目に提出。
第12回 演習・食品構成を考えた行事食の献立④お正月の献立作成（宮地・深澤）	献立を13回目に提出。
第13回 演習・食品構成を考えた行事食の献立④お正月の栄養価計算（宮地・深澤）	栄養価計算を14回目に提出。
第14回 演習・食品構成を考えた行事食の献立④お正月の献立（宮地・深澤）	実習の感想と考察を15回目に提出。
第15回 講義、後期まとめ（宮地・深澤）	後期に学んだ内容を復習する。
第16回 筆記試験（宮地・深澤）	

■ 履修上の注意

前日に爪を切る、清潔な実習着、帽子を準備する。調理室内ではボールペン使用。調理室に入室したら手洗い消毒を済ませ、配布資料をファイルに保管する。出席することが重要である。調理技術の習得のためには、自宅で実践する。

■ 成績評価方法・基準

夏休みの課題レポート30点、実習レポート提出30点、筆記試験30点、授業態度10点（早めに集合する、メモを取る、グループでの協調性、熱心さ等）で評価する。提出されたレポートは後日添削して返却する。課題については授業中にフィードバック

ックする。

■ 教科書

調理学（健康・栄養・調理）〔柳沢幸江・柴田圭子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2700円〕
〔調理のためのベーシックデータ第5版〕〔松本仲子監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1800円〕
〔調理・献立作成の基礎〕〔坂本裕子、森美奈子〕〔化学同人〕〔1650円〕
〔7訂食品成分表2021〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1400円〕

■ 参考書

*必要だと思う人は参考にしてください。

〔人気のおかず830品〕〔飯田順子他編著〕〔学研プラス〕〔1,429円〕
〔家庭料理技能検定公式ガイド3級〕〔家庭料理技能検定専門委員会編〕〔女子栄養大学出版部〕〔2400円〕

■ 備考

- ・講義の際に授業内容のプリントを配布し、参考文献、資料を提示する。
- ・季節の材料調達等の都合により、授業計画の順番、料理等を変更することがある。
- ・ルーブリックを授業中に配布するので、学修目標として参照する。
- ・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

食文化論

(11231)

単位：2単位

対象学科：健専2年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

宮地 洋子

■ 授業の概要

日本の自然環境と社会環境の中で形成されてきた食文化について、古代から現代までどのように変遷してきたかを学修する。また、各時代の特徴と大陸、南蛮、欧米などの異文化と係わり、どのように取り入れて日本独特の食文化を発展したかも学修する。さらに、年中行事や儀礼食及び郷土料理の学修を通じて食文化の伝承と継承の大切さを理解する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・食文化の定義およびその変遷を理解できる。	②③⑤
・各時代の特徴と異文化との係わりを理解できる。	②③⑤
・行事食・儀礼食を理解し各自の食体験を整理できる。	③⑤⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1. 「和食」：日本人の伝統的な食文化	p1～p9を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第2回	2. 食文化の定義、食に関する思想	p11～p19を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第3回	3. 世界の食文化形成①世界の食文化類型とその特徴	p21～p25を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第4回	4. 世界の食文化形成③粉食文化と粒食文化	p26～p28を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第5回	5. 日本の食文化形成と展開	p31～p39を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第6回	6. 異文化接触と受容.	p41～p48をよんでおくこと/ミニットペーパーの提出
第7回	7. 主食の文化①木の実といも類、米	p51～p55を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第8回	8. 主食の文化②大麦と小麦、雑穀	p56～p59を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第9回	9. 副食の文化	p61～p68を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第10回	10. 行事と地域の食文化 課題「通過儀礼食」についての説明	p141～p149を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第11回	11. 日本料理の形成と発展①日本料理の系譜と本膳料理 和食のマナー(DVD)	p91～p95を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出 /小テスト
第12回	12. 日本料理の形成と発展②懐石料理、会席料理、精進料理	p96～p99を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第13回	13. 台所、食器、食卓の文化 洋食のマナー(DVD)	p101～p109を読んでおくこと/小テスト
第14回	14. 日常の食	p111～p119を読んでおくこと/課題の提出
第15回	15. 非常の食 災害食(DVD)	p121～p128を読んでおくこと/小テスト
第16回	16. 筆記試験	

■ 履修上の注意

1. 事前に講義予定の教科書内容を熟読して受講してください。
2. 教科書及びスライドで提示された専門用語のうち、わからないものについては調べておいてください。
3. 課題については提出期限を守ってください。

■ 成績評価方法・基準

試験（50％）、小テスト（20％）、課題（20％）受講態度（10％、ミニットペーパーの提出状況・質問等の積極性）。

試験は問題と解答例をまとめたレジュメを配布し、フィードバックとします。課題・小テストは添削して次回に返却します。

■ 教科書

〔新版 日本の食文化「和食」の継承と食育〕〔江原絢子・石川尚子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2, 500円+税別〕 授業前にプリントを配布します。

■ 参考書

〔食文化入門〕〔石毛直道〕〔講談社〕〔2000円+税別〕、〔近現代の食文化〕〔石川寛子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2, 400円+税別〕

■ 備考

毎回、講義終了後にオフィスアワーを用意します。

基礎栄養学

(11232)

単位：2単位

対象学科：健専1年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

鈴木 裕 行

■ 授業の概要

ヒトをはじめ生物が外界の物質を体内に取り入れ、それをエネルギー源や体構成の材料として利用する「栄養」という現象は生命維持に不可欠である。ヒトの食欲を調節するしくみ、摂取した食物の消化と栄養素の吸収に携わる消化器官系の各臓器の構造と機能、消化（食品成分の分解反応）・吸収の機構、また、栄養素の種類と各栄養素の化学構造・性質、体内での代謝・機能と欠乏症・過剰症、および栄養素同士の関わりについて説明する。

■ 授業の到達目標

- ・健康の保持・増進における栄養の役割を説明できる
- ・消化・吸収における各消化器官の役割を説明できる
- ・各栄養素の代謝とその生理的意義を説明できる

学位授与の方針との関連

①②③

①②③

①②③

■ 授業計画

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 栄養とは、遺伝形質と栄養	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第2回 食欲の調節、食事のタイミング	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第3回 消化器の構造	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第4回 消化器の機能	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第5回 消化吸収率、たんぱく質の消化吸収	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第6回 たんぱく質・アミノ酸の体内代謝	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第7回 たんぱく質の量と質の評価	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第8回 [中間試験]、糖質の消化吸収、糖質代謝の概要	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第9回 試験の解説、食後・食間の糖質代謝	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第10回 血糖の調節、エネルギー源としての作用	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第11回 脂質の消化吸収、脂質代謝の概要	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第12回 脂質のエネルギー代謝、コレステロール代謝	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第13回 脂質の量と質の評価	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノート

	トを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第14回 ビタミンの分類・構造と機能	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第15回 [期末試験]、ミネラルの種類と体内分布	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第16回 試験の解説、ミネラルの機能	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。

■ 履修上の注意

他の関連科目と学習内容を対比して理解を深めること。

■ 成績評価方法・基準

中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組みを提出物で評価する）・・・10%

■ 教科書

基礎栄養学、駒井三千夫 他、アイ・ケイコーポレーション、2, 400円＋税

■ 参考書

栄養の生化学1-2-3改訂第3版、遠藤克己、南江堂、2, 000円＋税

■ 備考

試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

栄養生化学

(11233)

単位：2単位

対象学科：健専2年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

鈴木 裕 行

■ 授業の概要

メタボリック・シンドロームはその患者数の多さから現代の社会問題とも言えるが、いずれもその発症と進行に食生活が大きく関与する疾患群である。それに含まれる肥満症・糖尿病・脂質異常症・高血圧症・骨粗鬆症・および癌といった各疾患について、発症や病態の背景となる各種栄養素（特にエネルギー分子）の代謝とその調節機構、および発症と症状の進行の分子生物学的・細胞生物学的機構について講義する。

■ 授業の到達目標

- ・メタボリック・シンドロームの病態を生化学的に説明できる
- ・メタボリック・シンドロームの予防・治療への栄養に役割を説明できる

学位授与の方針との関連

①②③

①②③

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 メタボリック・シンドロームとは、疾患とビタミン	資料・教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第2回 疾患とビタミン・ミネラル	資料・教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第3回 疾患とミネラル	資料・教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第4回 肥満症、脂肪細胞の機能	資料・教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第5回 肥満遺伝子	資料・教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第6回 血糖調節機構と糖尿病の分類	資料・教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第7回 糖尿病の発症機序と代謝	資料・教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第8回 糖尿病関連遺伝子、糖尿病の治療・食事療法	資料・教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第9回 [中間試験]、リポタンパク質とその受容体	資料・教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第10回 試験の解説、動脈硬化症の発症機序と代謝	資料・教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第11回 動脈硬化症の治療・食事療法と関連遺伝子	資料・教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第12回 血圧調節機構	資料・教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第13回 高血圧症の発症機序、治療・食事療法	資料・教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第14回 骨粗鬆症の発症機序、治療・食事療法とカルシウム代謝	をよく理解する。 資料・教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第15回 [期末試験]、発癌の分子機構	資料・教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第16回 試験の解説、発癌と食事	資料・教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。

■ 履修上の注意

他の関連科目と学習内容を対比して理解を深めること。

■ 成績評価方法・基準

中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組みを提出物で評価する）・・・10%

■ 教科書

基礎栄養学、駒井三千夫 他、アイ・ケイコーポレーション、2, 400円＋税 および配布資料

■ 参考書

栄養の生化学1-2-3改訂第3版、遠藤克己、南江堂、2, 000円＋税

■ 備考

試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

栄養学実験

(11234)

単位：1 単位

対象学科：健専2年

授業形態：実験 学期：前期

健康栄養学専攻科目

鈴木 裕 行

■ 授業の概要

糖質・脂肪・たんぱく質のそれぞれの消化酵素による消化実験を行い、それぞれの消化酵素の性質や酵素活性の測定法、脂肪の消化における胆汁酸の機能等を説明する。また、食品に含まれるビタミンB1およびビタミンCの定量法を指導する。さらに、ダグラスバッグを用いて収集した呼気のガス分析を行い、間接法によるエネルギー消費量の測定を指導する。

■ 授業の到達目標

到達目標	学位授与の方針との関連
・各栄養素の消化の仕組みを説明できる	①②③④⑤⑦
・食品中のビタミンが定量できる	②③④⑤⑦
・呼気分析によりエネルギー消費量が測定できる	②③④⑤⑦

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 授業の概要説明・実験実施上の注意	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。
第2回 糖質の消化実験①吸光度分析法	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「糖質の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第3回 糖質の消化実験②マルトースの定量	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「糖質の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第4回 糖質の消化実験③唾液アミラーゼによるデンプンの消化	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「糖質の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第5回 糖質の消化実験④酵素活性の求め方（タンパク質定量）	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「糖質の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第6回 たんぱく質の消化実験①プロテアーゼによるたんぱく質の消化	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「たんぱく質の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第7回 たんぱく質の消化実験②アミノ酸の検出	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「たんぱく質の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第8回 脂肪の消化実験①リパーゼによる脂肪の消化	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「脂肪の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第9回 脂肪の消化実験②酸度の滴定	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「脂肪の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第10回 ビタミンB1の定量①：試料調製	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「ビタミンの定量実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第11回 ビタミンB1の定量②：測定	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「ビタミンの定量実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第12回 ビタミンCの定量①：試料調製	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「ビタミンの定量実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第13回 ビタミンCの定量②：測定	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「ビタミンの定量実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第14回 エネルギー消費量の測定①：測定の原理	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「エネルギー消費量の測定実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。

■ 履修上の注意

実験レポート作成に備え、実験記録をできるだけ綿密に取ること。基礎栄養学・生化学等の科目の内容と関連が深いのでそれぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。

■ 成績評価方法・基準

実験レポート（80%）および平常点（20%；受講状況・実施状況）・・・詳細はルーブリック参照

成績評価に関しては、授業はじめにルーブリックを提示する。レポートへのフィードバックとして後日コメントを提示する。

■ 教科書

無し（資料を配布）

■ 参考書

無し

■ 備考

オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

応用栄養学Ⅰ

(11235)

単位：2単位

対象学科：健専2年

授業形態：講義 学期：前期

健康栄養学専攻科目

川 俣 幸 一

■ 授業の概要

各ライフステージにおける栄養状態や心身機能に応じた栄養管理の基本的な考え方を基準に、食事摂取基準への当てはめ方や、栄養マネジメントの方法について理解する。

具体的な内容としては、栄養マネジメントではスクリーニング・アセスメント・栄養ケアプラン・実行・モニタリング・評価からなる6項目を、基本的な概念理解を中心に学習する。ライフステージ別の栄養管理の分野では、妊娠期、授乳期、新生児期、乳児期、幼児期の5分野を取り扱う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・各ライフステージの栄養状態や心身機能、ケアすべき問題点を理解することができるようになる。
- ・栄養マネジメントを各世代ごとに体系的に考えることができるようになる。

②

③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	概要／栄養マネジメント	復習、及び次回の予習。ループリックを配付する。
第2回	食事摂取基準	同上
第3回	妊娠期①：生理的特徴	同上
第4回	妊娠期②：栄養アセスメント	同上
第5回	妊娠期③：栄養ケア	同上
第6回	授乳期①：生理的特徴	同上
第7回	授乳期②：栄養アセスメント	同上
第8回	授乳期③：栄養ケア	同上
第9回	前半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、前半部分の内容の見直しを行っておくこと
第10回	新生児期・乳児期①：生理的特徴	復習、及び次回の予習
第11回	新生児期・乳児期②：栄養アセスメント	同上
第12回	新生児期・乳児期③：栄養ケア	同上
第13回	幼児期①：生理的特徴	同上
第14回	幼児期②：栄養アセスメント・栄養ケア	同上
第15回	後半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、後半部分の内容の見直しを行っておくこと

■ 履修上の注意

応用栄養学実習、基礎栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、課題研究等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。なお授業中に許可なく携帯電話を触る、無断退出をする、他の教科の勉強をする、教員の指示に従わないなどの不道徳行為が判明した学生は受講態度（ループリック）を一律0%とします。単位の認定を行うことが難しくなります。

■ 成績評価方法・基準

小テスト・・・70% 受講態度（ループリック）・・・30%（履修上の注意を参照）

■ 教科書

〔応用栄養学 改訂第7版〕〔渡邊令子・他〕〔南江堂〕〔3, 456円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。フィードバックとして、小テストは採点をして返却する。

応用栄養学Ⅱ

(11236)

単位：2単位

対象学科：健専2年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

川 俣 幸 一

■ 授業の概要

応用栄養学Ⅰに引き続き、各ライフステージにおける栄養状態や心身機能に応じた栄養管理の基本的な考え方を基準に、食事摂取基準への当てはめ方や、それぞれ特徴的な栄養マネジメントの方法（スクリーニング・アセスメント・栄養ケアプラン・実行・モニタリング・評価）について理解する。具体的な内容としては、ライフステージ別の栄養管理の分野では、学童期、思春期、成人期、高齢期、運動・スポーツ期と栄養、ストレス・特殊環境と栄養の6分野を取り扱う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・各ライフステージの栄養状態や心身機能、ケアすべき問題点を理解することができるようになる。
- ・栄養マネジメントを各世代ごとに体系的に考えることができるようになる。

②

③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	学童期・思春期①：生理的特徴	復習、及び次回の予習。ループリックを配付する。
第2回	学童期・思春期②：栄養アセスメント	同上
第3回	学童期・思春期③：栄養ケア	同上
第4回	成人期①：生理的特徴	同上
第5回	成人期②：栄養アセスメント	同上
第6回	成人期③：栄養ケア	同上
第7回	前半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、前半部分の内容の見直しを行っておくこと
第8回	高齢期①：生理的特徴	復習、及び次回の予習
第9回	高齢期②：栄養アセスメント	同上
第10回	高齢期③：栄養ケア	同上
第11回	運動・スポーツと栄養	同上
第12回	ストレスと栄養	同上
第13回	特殊環境と栄養	同上
第14回	災害時の栄養	同上
第15回	後半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、後半部分の内容の見直しを行っておくこと

■ 履修上の注意

応用栄養学実習、基礎栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、課題研究等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。なお授業中に許可なく携帯電話を触る、無断退出をする、他の教科書の勉強をする、教員の指示に従わないなどの不道徳行為が判明した学生は受講態度（ループリック）を一律0%とします。単位の認定を行うことが難しくなります。

■ 成績評価方法・基準

小テスト・・・70% 受講態度（ループリック）・・・30%（履修上の注意を参照）

■ 教科書

〔応用栄養学 改訂第7版〕〔渡邊令子・他〕〔南江堂〕〔3, 456円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。フィードバックとして、小テストは採点をして返却する。

栄養管理論

(11237)

単位：2単位

対象学科：健専2年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

川 俣 幸 一

■ 授業の概要

主として健康な人間を対象とした栄養管理業務において基本となる日本人の食事摂取基準について、その基本的な考え方、科学的根拠ならびに活用の方法を教授する。食事摂取基準を用いた栄養管理を理解できるようになるため、具体的には成人期を基準としたそれぞれの栄養素（34種類）についての考え方を学び、それをライフステージ別（妊婦、授乳婦、乳児、小児、高齢者、軽度生活習慣病患者など）に当てはめて考えていく作法を学ぶ。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・日本人の食事摂取基準（2020年版）の数値や科学的根拠を理解できるようになる。
- ・食事摂取基準を用いた栄養管理の考え方と方法を理解できるようになる

②

③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 概論 / 食事摂取基準について	復習、及び次回の予習。ループリックを配付する。
第2回 食事摂取基準の各指標について	同上
第3回 エネルギー（算定の科学的根拠・BMIとの関係）	同上
第4回 たんぱく質（算定の科学的根拠）	同上
第5回 脂質（算定の科学的根拠）	同上
第6回 水溶性ビタミン（算定の科学的根拠）	同上
第7回 脂溶性ビタミン（算定の科学的根拠）	同上
第8回 前半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、前半部分の内容の見直しを行っておくこと
第9回 多量ミネラル（算定の科学的根拠）	復習、及び次回の予習
第10回 微量ミネラル（算定の科学的根拠）	同上
第11回 ライフステージ別の栄養管理①（妊婦・授乳婦）	同上
第12回 ライフステージ別の栄養管理②（乳児・小児）	同上
第13回 ライフステージ別の栄養管理③（高齢者）	同上
第14回 生活習慣病とエネルギー・栄養素との関連	同上
第15回 後半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、後半部分の内容の見直しを行っておくこと

■ 履修上の注意

応用栄養学実習、基礎栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、課題研究等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。なお授業中に許可なく携帯電話を触る、無断退出をする、他の教科の勉強をする、教員の指示に従わないなどの不道徳行為が判明した学生は受講態度（ループリック）を一律0%とします。単位認定を行うことが難しくなります。

■ 成績評価方法・基準

小テスト・・・70% 受講態度（ループリック）・・・30%（履修上の注意を参照）

■ 教科書

〔日本人の食事摂取基準2020年版〕〔菱田明・他〕〔第一出版〕〔2, 916円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。フィードバックとして、小テストは採点をして返却する。

応用栄養学実習 I

(11238)

単位：1 単位

対象学科：健専2年

授業形態：実習 学期：前期

健康栄養学専攻科目

川 俣 幸 一

■ 授業の概要

各自の身体状況、食物摂取状況の調査などを通じて、自分の食生活状況をアセスメントする。自分自身に適した推定エネルギー必要量の算出や食事摂取基準の設定を行い、それらの結果を基に栄養診断を行う。最終的に栄養ケアプランやモニタリングシートを作成する。更には食品構成から献立作成までの実践的な栄養管理能力の取得を目指す。本実習での対象は自分自身（18-29歳女性or男性）であるが、基本を学びそれ以外の世代においても対応できるようになることを目標とする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---------------------------------------|-----|
| ・自分の食生活の現状についてアセスメントを行う能力を身につける | ②⑦⑧ |
| ・自分の身体に合う食事についての栄養管理法を総合的に理解できるようになる。 | ⑤ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス/スクリーニング	事前学習は配布プリントのスクリーニング回の予習。事後学習としてレポート作成。
第2回 身体活動量の計算	事前学習は配布プリントの身体活動量回の予習。事後学習としてレポート作成。
第3回 体格測定	事前学習は教科書の体格測定回の予習。事後学習としてレポート作成。
第4回 食事調査（練習）	事前学習は教科書の食事調査回の予習。事後学習としてレポート作成。
第5回 栄養価計算（練習）	事前学習はこれまでの栄養価計算法の復習。事後学習としてレポート作成。
第6回 食事調査（3日間の食事記録法）	事前学習として3日間の食事記録法の課題レポートが出ます。事後学習として食事記録を完成させてください。
第7回 栄養価計算（3日間の食事記録法）	事前学習として3日間の食事記録法の課題レポートが出ます。事後学習として栄養価計算を完成させてください。
第8回 アセスメントシートの作成	事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。
第9回 栄養ケア計画の作成①（問題点の抽出）	事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。
第10回 栄養ケア計画の作成②（栄養診断、栄養目標量の設定）	事前学習は配布プリントの食事摂取基準回の予習。事後学習としてレポート作成。
第11回 栄養ケア計画の作成③（食品構成）	事前学習は配布プリントの食品構成回の予習。事後学習としてレポート作成。
第12回 栄養ケア計画の作成④（献立作成）	事前学習は配布プリントの献立作成回の予習。事後学習としてレポート作成。
第13回 モニタリング①（チェックシートの作成）	事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。
第14回 モニタリング②（再計画について）	事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。
第15回 評価（構造評価・経過評価・総合評価）/まとめ	事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。

■ 履修上の注意

応用栄養学・基礎栄養学・栄養教育論・臨床栄養学・公衆栄養学等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。

■ 成績評価方法・基準

課題レポート・・・90%、受講態度・・・10%（班活動の積極性）

提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。

■ 教科書

〔応用栄養学 改訂第7版〕〔渡邊令子・他〕〔南江堂〕〔3, 456円〕
その他、適宜プリントを配布する

■ 参考書

〔食品成分表〕〔女子栄養大学出版部〕〔1, 512円〕
〔調理のためのベーシックデータ〕〔女子栄養大学出版部〕〔1, 890円〕
〔日本人の食事摂取基準〔2020年版〕〕〔第一出版〕〔2, 916円〕

■ 備考

質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する

応用栄養学実習Ⅱ

(11239)

単位：1 単位

対象学科：健専2年

授業形態：実習 学期：後期

健康栄養学専攻科目

川 俣 幸 一

■ 授業の概要

応用栄養学Ⅰ・Ⅱで学んだ各ライフステージの生理現象や生活をふまえ、より良く生きるための栄養とそれに適した献立について、実際に献立調理、観察、試食などを行う。本実習での対象期は、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、妊娠期、成人期、老年期、災害時とする。また応用栄養学実習Ⅰで学んだ栄養管理の方法を踏まえて、各ライフステージに適した献立作成などを行いながら、栄養補給計画の前提となる考え方を学ばせる。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・各ライフステージに適している献立がどのように作成されているかを理解できるようになる。	②⑦⑧
・各ライフステージに適した栄養管理の考え方と方法を総合的に理解できるようになる。	⑤

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 新生児期・乳児期栄養①（乳汁栄養）	事前学習は教科書の新生児期・乳児期の予習。事後学習としてレポート作成。
第2回 新生児期・乳児期栄養②（離乳食前期～中期）	事前学習は教科書の新生児期・乳児期の予習。事後学習としてレポート作成。
第3回 新生児期・乳児期栄養③（離乳食後期～完了期）	事前学習は教科書の新生児期・乳児期の予習。事後学習としてレポート作成。
第4回 幼児期栄養①（アレルギー：除去食・代替食）	事前学習は教科書の幼児期の予習。事後学習としてレポート作成。
第5回 幼児期栄養②（アレルギー：対応食材）	事前学習は教科書の幼児期の予習。事後学習としてレポート作成。
第6回 幼児期栄養③（アレルギー：発展調理法）	事前学習は教科書の幼児期の予習。事後学習としてレポート作成。
第7回 学童期栄養①（地域食材・食育）	事前学習は教科書の学童期の予習。事後学習としてレポート作成。
第8回 学童期栄養②（行事・麺食）	事前学習は教科書の学童期の予習。事後学習としてレポート作成。
第9回 思春期栄養（貧血）	事前学習は教科書の思春期の予習。事後学習としてレポート作成。
第10回 妊娠期栄養（アセスメントに基づいた調理実習①：栄養調査を参考にした献立）	事前学習は教科書の妊娠期の予習。事後学習としてレポート作成。
第11回 運動・スポーツと栄養（アセスメントに基づいた調理実習②：BM1等を参考にした献立）	事前学習は教科書の運動・スポーツと栄養の予習。事後学習としてレポート作成。
第12回 成人期栄養①（更年期の食事：高カルシウム食）	事前学習は教科書の成人期の予習。事後学習としてレポート作成。
第13回 成人期栄養②（更年期の食事：薬膳食）	事前学習は教科書の成人期の予習。事後学習としてレポート作成。
第14回 老年期栄養（低栄養予防）	事前学習は教科書の老年期の予習。事後学習としてレポート作成。
第15回 特殊環境と栄養（災害時の食事）	事前学習は教科書の災害時の栄養の予習。事後学習としてレポート作成。

■ 履修上の注意

応用栄養学・基礎栄養学・栄養教育論・臨床栄養学・公衆栄養学等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。

■ 成績評価方法・基準

課題レポート・・・90%、受講態度・・・10%（班活動の積極性）

提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。

■ 教科書

〔応用栄養学 改訂第7版〕〔渡邊令子・他〕〔南江堂〕〔3, 456円〕
その他、適宜プリントを配布する

■ 参考書

〔食品成分表〕〔女子栄養大学出版部〕〔1, 512円〕
〔調理のためのベーシックデータ〕〔女子栄養大学出版部〕〔1, 890円〕
〔日本人の食事摂取基準〔2020年版〕〕〔第一出版〕〔2, 916円〕

■ 備考

質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する

食生活論

(11240)

単位：2単位

対象学科：健専1年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

小野真実

■ 授業の概要

労働者の健康（疾病予防・疾病）管理業務における個別・集団栄養教育活動の実務経験を生かした授業を行う。

管理栄養士・栄養士，栄養・家庭科教諭等，栄養・食に関わる専門職になるための専門教科を学習することに先立ち，食の成り立ち，健康的な食生活（食生活と健康の関連），食育の推進，食と環境の関わり，食生活の歴史や文化など，その多様かつ広範な側面について，理解を深めることをねらいとする。また，それらを通じ，（管理栄養士・栄養士等，）栄養・食に関わる専門職の役割や重要性を理解するとともに，自身の健康的な食生活を営む基礎的知識および能力を身につける。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・食生活と健康の関連について理解できる。	①②③④
・自身の食生活を見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を身につける。	①②③⑥⑨
・食生活の歴史や文化とともに現状の課題について理解できる	①②③

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス，食生活の概念	事前学習は教科書の食生活の概念の該当箇所を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第2回 健康的な食生活とは	事前学習は国が普及する「健康な食事」についての情報収集を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第3回 ”食生活指針”の概要	事前学習は国が策定した“食生活指針”について情報収集を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第4回 ”食生活指針”による自身の食生活の見直し	事前学習は自身の日ごろの食生活について振り返りを行ってこること。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第5回 食生活と健康を考える（子ども）	事前学習は教科書の子どもの食生活に関する該当箇所を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第6回 食生活と健康を考える（思春期・若年期）	事前学習は教科書の（思春期・若年期における）ボディイメージに関する該当箇所を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第7回 食生活と健康を考える（成人期①”成人病”の時代まで）	事前学習は教科書の生活習慣病の概念に関する該当箇所を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第8回 食生活と健康を考える（成人期②生活習慣病の時代）	事前学習は教科書の糖尿病など疾病と栄養・食生活に関する該当箇所を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第9回 食生活と健康を考える（社会環境からの取り組み）	事前学習は教科書の生活習慣病の予防の取り組みに関する該当箇所を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第10回 食生活と健康を考える（社会環境における食環境の整備）	事前学習は自身を取り巻く食環境に関する情報収集を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第11回 日本の食文化	事前学習は日本の食文化に関する情報収集を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第12回 食物の階層構造と食事バランスガイド	事前学習は食事バランスガイドに関する（復習）確認を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第13回 食品群・食品成分表による食事の評価	事前学習はこれまで学んだ食品群に関する知識の確認を行うこと。事後学習は配布資料、ノートに

第14回 食生活と安全	より学習内容を整理すること。 事前学習は教科書の食生活と安全情報に関する該当箇所を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第15回 健康・食情報を読み解くポイント	事前学習は身近に流れる健康情報について情報収集を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。

■ 履修上の注意

- ・日頃から健康・栄養情報を収集し、積極的に知識を深めること。
- ・遅刻，早退は慎むこと。遅刻3回で欠席3回とみなす。遅刻30分以上は欠席とみなす。
- ・印刷に使用する用紙やUSBメモリーなどは各自用意すること。

■ 成績評価方法・基準

- ・期末レポート（40%），課題・ミニットペーパー・小テスト（40%），受講態度（20%）で評価する。
- ・授業内での課題，小テスト等は当日，もしくは後日の授業内でフィードバックする。

■ 教科書

栄養科学シリーズNEXT「食育・食生活論」（山本茂，他）講談社サイエンティフィック（2，400円）
その他，適宜資料を配布する。

■ 参考書

七訂食品成分表2021（香川明夫）女子栄養大学出版部（1，512円）

■ 備考

- ・都合により授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については，授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

栄養教育論

(11241)

単位：2単位

対象学科：健専2年

授業形態：講義 学期：前期

健康栄養学専攻科目

小 野 真 実

■ 授業の概要

労働者の健康（疾病予防・疾病）管理業務における個別・集団栄養教育活動の実務経験を生かした授業を行う。対象者の健康・栄養状態，食行動，食環境等に関する情報を収集・分析し，それらを総合的に評価・判定し，健康やQOLの向上につながる，主体的な実践力形成の支援に必要な栄養教育の理論と方法の基礎を修得する。栄養教育の目的・目標の概念をはじめとし，行動科学の理論とモデル，行動変容技法などの栄養教育のための理論的基礎と，栄養教育マネジメントについて具体的事例を通して学ぶ。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・栄養教育の概念について理解できる。	①②③
・栄養教育のための理論的基礎（行動科学理論・モデル，行動変容技法等）について理解できる。	①②③⑤
・栄養教育マネジメントの流れについて理解できる。	①②③⑤

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス，栄養教育の概念	事前学習は教科書の栄養教育の概念の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第2回 栄養教育の対象と機会，栄養教育の歴史	事前学習は教科書の栄養教育の歴史の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第3回 栄養教育と行動科学	事前学習は教科書の行動科学から見た食行動変容の機序の箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第4回 行動科学の理論とモデル① （刺激-反応理論，ヘルスビリーフモデル，トランスセオレティカルモデル，計画的行動理論，社会的認知理論）	事前学習は教科書の行動科学の理論・モデルの各該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第5回 行動科学の理論とモデル② （ソーシャルサポート，コミュニティオーガニゼーション，イノベーション普及理論，ヘルスリテラシー）	事前学習は教科書の行動科学の理論・モデルの各該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第6回 行動変容技法と概念① （刺激統制，反応妨害・拮抗，行動置換，オペラント強化，認知再構成，意思決定バランス，目標宣言，行動契約）	事前学習は教科書の行動変容技法の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第7回 行動変容技法と概念② （セルフモニタリング，自己効力感，ストレスマネジメント，ソーシャルスキルトレーニング，ナッジ）	事前学習は教科書の行動変容技法の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第8回 組織づくり・地域づくりへの展開	事前学習は教科書の組織づくり・地域づくりへの展開の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第9回 栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル	事前学習は教科書の栄養教育マネジメントで用いる理論やモデルの該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第10回 栄養教育マネジメント①アセスメント	事前学習は教科書の栄養教育マネジメント（アセスメント）の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第11回 栄養教育マネジメント②目標設定，計画立案	事前学習は教科書の栄養教育マネジメント（目標設定，計画立案）の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第12回 栄養教育マネジメント③教材の選択と作成，学習形態	事前学習は教科書の栄養教育マネジメント（教材の選択と作成，学習形態）の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。

	整理すること。
第13回 栄養教育マネジメント④実施	事前学習は教科書の栄養教育マネジメント（実施）の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第14回 栄養教育マネジメント⑤評価	事前学習は教科書の栄養教育マネジメント（評価）の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第15回 まとめ	事前学習は14回までのノート，配布資料の整理をしておくこと。
第16回 期末試験	事前学習は15回までのノート，配布資料の復習をしておくこと。

■ 履修上の注意

- ・「食生活論」，「健康管理概論」を復習のうえ，「応用栄養学」，「栄養管理論」，「臨床栄養学」との関連を理解しつつ臨むこと。
- ・遅刻，早退は慎むこと。遅刻3回で欠席1回とみなす。30分以上の遅刻で欠席とみなす。

■ 成績評価方法・基準

- ・期末試験（70%），ミニットペーパー・小テスト（20%），受講態度（10%）で評価する。
- ・授業内での課題，小テスト等は当日，もしくは後日の授業内でフィードバックする。

■ 教科書

- ・栄養科学シリーズNEXT「栄養教育論 第4版」（笠原賀子，他）講談社サイエンティフィック（2，800円）
 - ・管理栄養士講座「栄養教育論 第3版」（中村丁次，他）建帛社（3，800円）
- その他，適宜資料を配布する。

■ 参考書

■ 備考

- ・都合により授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については，授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

栄養指導論

(11242)

単位：2単位

対象学科：健専2年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

小野真実

■ 授業の概要

労働者の健康（疾病予防・疾病）管理業務における個別・集団栄養教育活動の実務経験を生かした授業を行う。ライフステージ・ライフスタイル別の特性に応じた栄養教育の要点を理解し、対象者の健康やQOLの向上につながる、主体的な実践力形成の支援に必要な栄養教育の理論と方法、およびそれらの活用について学ぶ。本講義では、対象者自身による栄養・食生活上の課題解決、食行動の変容への支援の基礎となる栄養カウンセリングについて修得するとともに、具体的な事例を通して、個人・集団への栄養教育マネジメントシステムの活用に対する理解を深める。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・栄養カウンセリングの基本、および基礎的技法について理解できる。	①②③⑤⑥
・ライフステージ・ライフスタイル別の特性に応じた栄養教育の要点を理解できる。	①②③⑤
・各事例における栄養教育マネジメントシステムの具体的活用について理解できる。	①②③⑤

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス、栄養教育の目的、対象と場（前期「栄養教育論」の復習）	事前学習は前期「栄養教育論」の復習をしておくこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第2回 栄養カウンセリングの基本	事前学習は教科書の栄養カウンセリングの基本の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第3回 栄養カウンセリングの技術	事前学習は教科書の（栄養）カウンセリングの理論と技法の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第4回 栄養カウンセリングの実施	事前学習は教科書の栄養カウンセリングの実施の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第5回 妊娠期の栄養教育	事前学習は教科書の妊娠期の栄養教育の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第6回 乳児（授乳）期の栄養教育	事前学習は教科書の乳児期の栄養教育の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第7回 幼児期の栄養教育	事前学習は教科書の幼児期の栄養教育の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第8回 学童期の栄養教育	事前学習は教科書の学童期の栄養教育の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第9回 思春期の栄養教育	事前学習は教科書の思春期の栄養教育の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第10回 成人期の栄養教育	事前学習は教科書の成人期の栄養教育の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第11回 高齢期の栄養教育	事前学習は教科書の高齢期の栄養教育の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第12回 傷病者の栄養教育	事前学習は教科書の傷病者の栄養教育の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第13回 障がい者の栄養教育	事前学習は教科書の障がい者の栄養教育の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。

第14回 栄養教育と健康づくり対策

事前学習は教科書の栄養教育に関連する生活指導の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。

第15回 まとめ

事前学習は14回までのノート，配布資料の整理をしておくこと。

第16回 期末試験

事前学習は15回までのノート，配布資料の復習をしておくこと。

■ 履修上の注意

- ・「栄養教育論」，「社会福祉論」，「応用栄養学」，「臨床栄養学」を復習のうえ，それらの科目との関連を理解しつつ臨むこと。
- ・遅刻，早退は慎むこと。遅刻3回で欠席1回とみなす。

■ 成績評価方法・基準

- ・期末試験（70%），ミニットペーパー・小テスト（20%），受講態度（10%）で評価する。
- ・授業内での課題，小テスト等は当日，もしくは後日の授業内でフィードバックする。

■ 教科書

- ・管理栄養士講座「栄養教育論 第3版」（中村丁次，他）建帛社（3，800円）
 - ・栄養科学シリーズNEXT「栄養教育論 第4版」（笠原賀子，他）講談社サイエンティフィック（2，800円）
- その他，適宜資料配布。

■ 参考書

「応用栄養学」の教科書

■ 備考

- ・都合により授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については，授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

保健栄養学

(11243)

単位：2単位

対象学科：健専3年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

栗山孝雄

■ 授業の概要

本科目では、人間の健康面や栄養面に関する現状や問題点について、事例を交えて紹介する。具体的には、わが国の食環境やライフステージごとの特徴や問題点などを取り上げる。その上で健康・栄養教育を交えた対策について、食生活や栄養摂取の視点を交えて解説する。内容によっては、授業テーマに関する提出課題を出題し、履修者自身の立場で健康面や栄養面に関する現状や問題を把握し、それらについての対策や教育手法などを考えさせる。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・①授業のテーマに関する現状や問題点を把握することができる。	②③④⑤⑥
・②☑の対策について、様々な視点で考える習慣を身につける。	②③④⑤⑥
・①、②に関して、健康面や栄養面に関する教育方法を身につける。	②③④⑤⑥

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 健康・予防・QOLに関する栄養教育と健康教育	一次・二次・三次予防の特徴を理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第2回 わが国の食環境と栄養教育①：食生活の変化と問題点	日本人の栄養摂取状況の特徴を理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第3回 わが国の食環境と栄養教育②：食生活の改善と行動変容	日本人の食に関する課題について考える。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第4回 わが国の食環境と栄養教育③：食に関する情報へのアクセス	健康に関する情報の発信方法について考える。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第5回 わが国の食環境と栄養教育④：食品ロスを減らすための栄養教育	食品ロスの原因と対策を理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第6回 健康栄養面に関する指針の活用①：食生活指針	食生活指針の特徴を復習する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第7回 健康・栄養面に関する指針の活用②：身体活動・休養・睡眠指針	各種指針の特徴を把握する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第8回 わが国の健康・栄養問題と栄養教育①：妊娠・授乳期、乳幼児期	乳幼児健診での栄養教育など、母子保健事業も交えて学習する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第9回 わが国の健康・栄養問題と栄養教育②：学童・思春期	学童・思春期の問題点を確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第10回 成人期の健康・栄養面の問題と行動変容①：食生活の乱れと亜鉛欠乏	亜鉛欠乏と味覚障害の関係を理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第11回 成人期の健康・栄養面の問題と行動変容②：ストレスとその対処方法	食生活を交えてストレス対処方法を考える。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第12回 成人期の健康・栄養面の問題と行動変容③：飲酒がもたらす問題	飲酒の問題点と対策について理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第13回 成人期の健康・栄養面の問題と行動変容④：特定保健指導による行動変容	特定保健指導の初回面接の内容を確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第14回 諸外国の健康・栄養問題①：現状と課題	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題について理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第15回 諸外国の健康・栄養問題②：対策と栄養教育	諸外国の健康・栄養問題の対策と栄養教育について理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第16回 期末試験	学習した内容全体を復習する。

■ 履修上の注意

- ①遅刻は、始業時から15分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。
- ②都合により、授業の順序を変更する場合もある。
- ③自習（事前・事後学修の内容）の具体的な内容（教科書、プリントなどの資料の該当箇所など）については、授業の際に

詳しく説明する。

④本科目は卒業必修科目である。

■ 成績評価方法・基準

・ 期末試験（60%）、提出課題（30%）、受講態度（10%）で成績評価を行う。

※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業中の私語や、授業と関係ない行為を行うなど、受講態度に問題のある場合、状況に応じて減点する。

・ 提出物、試験については、後日フィードバックを行う。

■ 教科書

〔公衆栄養学〕〔荒巻礼子ほか〕〔化学同人〕〔2, 600円〕

■ 参考書

なし。授業内で適宜紹介する。

■ 備考

質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

栄養情報処理演習

(11244)

単位：1 単位

対象学科：健専2年

授業形態：演習 学期：後期

健康栄養学専攻科目

小 野 真 実

■ 授業の概要

労働者の健康（疾病予防・疾病）管理業務における個別・集団栄養教育活動の実務経験を生かした授業を行う。栄養管理プロセスにおいて、栄養評価（アセスメント）を適切に行うために必要な収集情報の整理やまとめ、処理手法、それらを用いた各種レポート等作成・表現方法について修得する。本演習では食事調査による栄養計算ソフトを用いた食事摂取量の測定（栄養素摂取状況）等の実践的情報処理手法とともに、それらを活用した具体的な表現方法を身につけることをねらいとする。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・栄養評価に必要な情報を収集・整理できる。	①③④⑤⑥⑦⑧
・食事調査の結果についてまとめることができる。	①③④⑤⑥⑦⑧
・演習に用いた各種ソフトを活用できる。	①②④⑥⑦⑧

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス、研究倫理	新OA室での作業方法とパソコン基本操作の復習
第2回 プレゼンテーションソフトの基本と活用	PowerPoint操作の復習と学習内容の確認。
第3回 栄養計算ソフトの活用①栄養計算基本操作	Excel操作の復習。
第4回 栄養計算ソフトの活用②食事調査演習（24時間思い出し法）	24時間思い出し法の復習。
第5回 栄養計算ソフトの活用③栄養摂取状況の評価方法	前回操作の反復と修得内容の確認。
第6回 栄養計算ソフトの活用④栄養評価票の作成方法	前回操作の反復と修得内容の確認。
第7回 教材作成（パンフレット）	Word操作の復習。提案レシピ2品の検討・準備。
第8回 栄養（健康）情報収集の方法	主な統計資料の確認。
第9回 収集情報の整理	情報収集分野やキーワードの検討。
第10回 質問紙調査票の作成方法	Word操作の復習と学習内容の確認。
第11回 教材作成（リーフレット）	PowerPoint操作の復習。
第12回 表計算ソフトの活用①データ入力と集計（表作成、ピボットテーブル等）	Excel操作の復習と学習内容の確認。
第13回 表計算ソフトの活用②データ処理・分析（ヒストグラム、代表値等）	前回操作の反復と修得内容の確認。
第14回 表計算ソフトの活用③分析ツールの活用（平均値の比較）	前回操作の反復と修得内容の確認。
第15回 表計算ソフトの活用④分析ツールの活用（独立性の検定）・まとめ	学修内容・提出課題の振り返り。

■ 履修上の注意

- ・「統計学」を復習のうえ、臨むこと。
- ・「情報基礎学」履修者は復習のうえ、臨むこと。それ以外のものもパソコンの基本操作に慣れておくこと。
- ・遅刻、早退は慎むこと。遅刻3回で欠席1回とみなす。
- ・印刷に使用する用紙やUSBメモリーなどは各自用意すること。
- ・課題提出は指定された期限（授業内含む）を厳守すること。
- ・担当教員・助手（2名）で作業サポートを行うため、座席は指定範囲内に着席のこと。
- ・授業時間中は集中して臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・課題提出（80%）、受講態度（20%）
- ・提出された課題等は確認後、後日フィードバックする。

■ 教科書

栄養科学シリーズNEXT「公衆栄養学実習」（金田雅代，他）講談社サイエンティフィク（2，600円）
その他、適宜資料配布。

■ 参考書

七訂食品成分表（香川明夫）女子栄養大学出版社（1，400円）

■ 備考

- ・都合により授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

栄養指導論実習

(11245)

単位：1 単位

対象学科：健専3年

授業形態：実習 学期：前期

健康栄養学専攻科目

小野 真実

■ 授業の概要

労働者の健康（疾病予防・疾病）管理業務における個別・集団栄養教育活動の実務経験を生かした授業を行う。

本実習は、「栄養教育論」、「栄養指導論」、「応用栄養学」等で修得した基礎的知識および技術について、ライフステージ・ライフスタイル別に個人・集団に対する栄養教育のロールプレイングを通して、より理解を深め、栄養教育における管理栄養士としての専門性を身につけるものである。対象者の特性に応じた栄養教育マネジメント（栄養アセスメント、教育計画の立案、実施、評価、改善）の一連のシステムを、実習を通して実践的に修得することをねらいとする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ライフステージ・ライフスタイル別の特性に応じ、解決すべき栄養課題を明確にできる。
- ・個人・集団に対する栄養教育をマネジメントシステムに沿って実施できる。
- ・栄養教育に必要なコミュニケーション能力を身につけることができる。
- ・グループ内で協力し合って、作業を進めることができる。

③⑤⑦⑧
③⑤⑦⑧
⑤⑦⑧
⑦⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス，コミュニケーション演習，対象集団の実態把握のための情報収集	事前にライフステージ・ライフスタイル別の特性について復習。
第2回	対象集団の実態把握，アセスメントおよび課題の明確化	事前に収集情報を整理。
第3回	集団栄養教育の目標設定，栄養教育計画の立案	明確化した課題を目標設定に展開。
第4回	集団栄養教育の教材作成	栄養教育指導案の検討。教材の適切性確認。
第5回	集団栄養教育の予行演習，見直し	発表内容の確認。
第6回	集団栄養教育のロールプレイング，振り返り（前半）	改善案への展開。
第7回	集団栄養教育のロールプレイング，振り返り（後半）	改善案への展開。
第8回	対象者（個人）の栄養アセスメント，課題の明確化	事前に個人の課題を事前に読み込む。
第9回	食事調査の実践（24時間思い出し法）	事前に食事調査方法の復習。
第10回	栄養カウンセリングの演習	事前にカウンセリングの基礎的技法を復習。
第11回	個人に対する栄養教育計画の立案	個人の優先課題が適切かの確認。
第12回	個人に対する栄養教育の教材作成	指導案の内容は目標に沿っているかの確認。
第13回	個人に対する栄養教育のシナリオ作成	カウンセリング等の技法の確認。
第14回	栄養カウンセリングのロールプレイング予行演習，見直し	シナリオが計画・指導案に沿っているか確認。
第15回	栄養カウンセリングのロールプレイング，振り返り	改善案への展開。

■ 履修上の注意

- ・「栄養教育論」、「栄養指導論」、「食文化論」、「栄養管理論」、「応用栄養学」、「臨床栄養学」を復習のうえ、これらの科目および「公衆衛生学」、「公衆栄養学」との関連を理解しつつ臨むこと。
- ・グループワーク中心のため、欠席、遅刻、早退は厳に慎むこと。遅刻3回で欠席1回とみなす。授業開始後30分以上の遅刻は欠席とみなす。
- ・実習内容によっては、授業時間外での作業が必要となる場合もあるため、各自積極的に、かつ班内で協力のうえ、臨むこと。
- ・印刷に使用する用紙やUSBメモリーなどは各自用意すること。

■ 成績評価方法・基準

- ・課題レポート・受講態度（ルーブリックで評価）・・・100%
- ・提出された課題等は確認後、後日フィードバックする。

■ 教科書

- ・管理栄養士講座「栄養教育論 第3版」（中村丁次，他）建帛社（3，800円）
 - ・栄養科学シリーズNEXT「栄養教育論 第4版」（笠原賀子，他）講談社サイエンティフィック（2，800円）
- その他、適宜資料を配布する。

■ 参考書

「応用栄養学」の教科書

■ 備考

- ・都合により授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については授業内および終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

臨床栄養学Ⅰ

(11246)

単位：2単位

対象学科：健専2年

授業形態：講義 学期：前期

健康栄養学専攻科目

高橋 文

■ 授業の概要

本科目では、病院および高齢者施設における管理栄養士としての実務経験を活かし、臨床栄養学に対する基礎的な知識の修得に加え、傷病者および要介護者の病態や栄養状態の特性に基づいた、適切な栄養管理ができることを目的に講義を行う。内容については、臨床栄養学の意義と目的について理解し、栄養アセスメント、計画の作成、実施、評価に関する栄養管理の考え方について指導を行う。加えて、食物と薬剤の相互関係、疾患および病態に対する栄養食事療法についても指導を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---|-----|
| ・ 傷病者への適切な栄養管理を実施するための、基本的な病態の知識を修得できる。 | ①③ |
| ・ 栄養アセスメント、栄養管理計画の作成、実施および評価の方法について理解できる。 | ①③⑤ |
| ・ 個々人に適した栄養食事療法のあり方を理解できる。 | ①③⑤ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス、臨床栄養学の意義と目的	(基礎編) 第1章 (p13~17) を予習・復習する
第2回	医療・福祉・介護と臨床栄養	(基礎編) 第2章 (p20~38) を予習・復習する
第3回	栄養スクリーニングとアセスメント (SGA・ODA)	(基礎編) 第3章 (p43~50) を予習・復習する
第4回	栄養アセスメント (臨床診査)	(基礎編) 第4章 (p54~61) を予習・復習する
第5回	栄養アセスメント (臨床検査)	(基礎編) 第4章 (p62~66) を予習・復習する
第6回	栄養アセスメント (身体計測・栄養・食事摂取調査)	(基礎編) 第4章 (p68~73) を予習・復習する
第7回	栄養アセスメント (栄養)	(基礎編) 第4章 (p73~77) を予習・復習する
第8回	栄養ケア計画	(基礎編) 第5章 (p81~86) を予習・復習する
第9回	食事療法栄養補給の方法	(基礎編) 第6章 (p91~110) を予習・復習する
第10回	薬と栄養・食事の相互関係	(基礎編) 第7章 (p116~125) を予習・復習する
第11回	栄養教育	(基礎編) 第9章 (p137~147) を予習・復習する
第12回	モニタリングと評価、栄養ケア記録	(基礎編) 第8章 (p128~132) ・ 10章 (p154~162) を予習・復習する
第13回	代謝系疾患の栄養食事療法① (肥満症、るいそう)	(疾患別編) 第1章 (p23~29) を予習・復習する
第14回	代謝系疾患の栄養食事療法② (糖尿病)	(疾患別編) 第1章 (p15~19) を予習・復習する
第15回	講義のまとめ	教科書・プリントの内容をまとめておく
第16回	期末試験	試験範囲をまとめておく

■ 履修上の注意

- ・ 20分以上の遅刻は欠席とみなす。
- ・ 講義に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 期末試験60%、小テスト30%、受講態度10% (積極的な態度、目的意識、遅刻) を総合的に判断して評価する。
- ・ 小テストは、教科書および講義で行った基本的な内容から出題。テスト終了後テストの解説を行う。

■ 教科書

臨床栄養学 (基礎編) 改訂第2版 [本田佳子他] [羊土社] [2970円]

臨床栄養学 (疾患別編) 改訂第2版 [本田佳子他] [羊土社] [3080円]

■ 参考書

適宜プリント配布

■ 備考

- ・ 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・ 質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

臨床栄養学Ⅱ

(11247)

単位：2単位

対象学科：健専2年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

高橋 文

■ 授業の概要

本科目では、臨床栄養学Ⅰで学修した基礎的な栄養管理の手法に加え、さらに多様な疾患に対する栄養治療を行うための実践能力を身につけることを目的に、病院栄養士としての実務経験時の事例を交えながら講義を行う。各疾患における治療ガイドラインを基に、病態、症候、治療に対応した適切な栄養食事療法の指導を行う。さらに、栄養食事療法の効果に対する客観的な観察に加え、疾患ごとの栄養食事療法の基本的な知識を基に、臨床栄養学実習および臨床栄養学指導論へ実践的な応用に結びつけることを目的とする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---------------------------------------|-----|
| ・各疾患における、病因・病態、臨床検査値および治療全般について説明できる。 | ①③⑤ |
| ・各疾患および病態における栄養管理法を理解できる。 | ①③ |
| ・各疾患および病態に対応した、適切な栄養食事療法の選択ができる。 | ①③⑤ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 内分泌系疾患の栄養食事療法	(疾患別編) 第2章 (p40～49) を予習・復習する
第2回 消化器疾患の栄養食事療法	(疾患別編) 第3章 (p54～65) を予習・復習する
第3回 肝臓・胆嚢・膵臓疾患の栄養食事療法	(疾患別編) 第4章 (p69～81) を予習・復習する
第4回 循環器疾患の栄養食事療法① (高血圧・動脈硬化)	(疾患別編) 第5章 (p86～90) を予習・復習する
第5回 循環器疾患の栄養食事療法① (心疾患・脳疾患)	(疾患別編) 第5章 (p91～95) を予習・復習する
第6回 腎臓疾患の栄養食事療法① (慢性腎臓病)	(疾患別編) 第6章 (p99～106) を予習・復習する
第7回 腎臓疾患の栄養食事療法② (糖尿病性腎症、人工透析)	(疾患別編) 第6章 (p107～114) を予習・復習する
第8回 呼吸器疾患、血液疾患の栄養食事療法	(疾患別編) 第8章 (p142～147) ・9章 (p150～157) を予習・復習する
第9回 運動器系疾患、免疫・アレルギー疾患の栄養食事療法	(疾患別編) 第10章 (p161～170) ・11章 (p173～178) を予習・復習する
第10回 癌、周術期の栄養食事療法	(疾患別編) 第13章 (p200～207) ・14章 (p213～219) を予習・復習する
第11回 摂食・嚥下障害の栄養食事療法	(疾患別編) 第16章 (p234～243) を予習・復習する
第12回 小児疾患、妊産婦・授乳婦の栄養食事療法	(疾患別編) 第18章 (p255～268) ・19章 (p275～282) を予習・復習する
第13回 高齢者疾患の栄養食事療法	(疾患別編) 第20章 (p291～296) を予習・復習する
第14回 グループディスカッション	事例の内容をまとめておく
第15回 講義のまとめ	教科書・プリントの内容をまとめておく
第16回 期末試験	試験範囲をまとめておく

■ 履修上の注意

- ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
- ・講義に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・期末試験60%、小テスト30%、受講態度10% (積極的な態度、目的意識、遅刻) を総合的に判断して評価する。
- ・小テストは、教科書および講義で行った基本的な内容から出題。テスト終了後テストの解説を行う。

■ 教科書

臨床栄養学 (基礎編) 改訂第2版 [本田佳子他] [羊土社] [2970円]

臨床栄養学 (疾患別編) 改訂第2版 [本田佳子他] [羊土社] [3080円]

■ 参考書

適宜プリント配布

■ 備考

- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

臨床栄養指導論 I

(11248)

単位：2単位

対象学科：健専3年

授業形態：講義 学期：前期

健康栄養学専攻科目

高橋 文

■ 授業の概要

本科目では、実際に栄養指導に携わってきた経験を活かし、臨床現場における基本的な疾患についての栄養教育および栄養食事指導法について学修することを目的に講義を行う。臨床栄養指導は、傷病者および要介護者の個人または集団を対象とするもので、必要に応じた適切な栄養指導が実施できるよう、疾患だけではなく年齢・性差・生活状況なども考慮し、栄養食事指導を行わなければならない。そのため、模擬栄養指導および媒体などを作成し、栄養食事指導をどのように進めていくのか、また、患者の立場においてはどのような指導が理解しやすいかなどの指導を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・栄養食事指導を行うための、知識および方法の基礎について理解できる。	①③
・傷病者が正しい知識と行動を起こすことができるための、栄養食事指導の方法および技術の修得ができる。	③⑤⑦
・疾患および病態に応じた、栄養指導計画書を立案できる。	③⑤⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 臨床栄養指導とはなにか	臨床栄養指導とはなにかについて調べる
第2回 医療における管理栄養士の役割	チーム医療について調べる
第3回 栄養管理について	栄養管理について復習する
第4回 栄養指導の種類と特徴	栄養指導の種類についてまとめる
第5回 診療記録の見方・書き方	診療記録の書き方についてまとめる
第6回 自分の栄養カルテを作成する①基礎データ・問題リスト	基礎データ・問題リストをまとめる
第7回 自分の栄養カルテを作成する②食事調査・初期計画	食事調査・初期計画を作成する
第8回 食事調査を用いて栄養指導を行う	栄養指導内容をまとめる
第9回 栄養指導法の紹介	栄養指導内容をまとめる
第10回 肥満症の栄養指導について	肥満症について復習する
第11回 症例検討と栄養指導計画書の作成	症例検討内容をまとめる
第12回 高尿酸血症の栄養指導について	高尿酸血症について復習する
第13回 高血圧症の栄養指導について	高血圧症について復習する
第14回 模擬栄養指導①（媒体・資料作成）	栄養指導媒体を作成する
第15回 模擬栄養指導②（発表）	栄養指導方法についてまとめる

■ 履修上の注意

- ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
- ・講義に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。
- ・疾患については臨床栄養学Ⅰ・Ⅱで学んでいるため、復習をしておく。また、栄養食事指導を行う際の多様な場面や背景について考えておくこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・演習40%、小テスト20%、受講態度10%（積極的な態度、目的意識、遅刻）、課題30%（提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。）を総合的に判断して評価する。
- ・小テストについては、教科書および講義で行った基本的な内容から出題。テスト終了後テストの解説を行う。
- ・課題については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

なし（講義前にプリントを配布する）

■ 参考書

エッセンシャル臨床栄養学 第8版〔佐藤和人他〕〔医歯薬出版〕〔4070円〕

■ 備考

- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

臨床栄養指導論Ⅱ

(11249)

単位：2単位

対象学科：健専3年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

高橋 文

■ 授業の概要

本科目では、臨床栄養指導論Ⅰと同様、実務経験を活かした媒体作成および模擬栄養指導などを行い、症例検討における事例から、適切な栄養食事指導の方法について学修する講義を行う。疾患だけではなく年齢・性差・生活状況なども考慮した栄養食事指導を行うため、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱで学修したことをふまえ、栄養食事療法を必要とする患者の状態に合わせた献立を作成できるよう指導を行う。併用して学修している身体計測についても傷病者の状態を把握し、その患者に適した食事内容について説明できるよう指導を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・傷病者が正しい知識と行動を起こすことができるための、栄養食事指導の方法および技術の修得ができる。	③⑤⑦
・疾患および病態に応じた栄養指導計画書を立案できる。	③⑤⑦
・栄養指導計画書に基づいた栄養食事指導ができる。	③⑤⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 糖尿病の栄養指導について	糖尿病について復習する
第2回 症例検討と栄養指導計画書の作成	症例検討内容をまとめる
第3回 糖尿病の模擬栄養指導（媒体・資料作成）	栄養指導媒体を作成する
第4回 脂質異常症の栄養指導について	脂質異常症について復習する
第5回 脂質異常症の模擬栄養指導①（媒体・資料作成）	栄養指導媒体を作成する
第6回 脂質異常症の模擬栄養指導②（発表）	栄養指導方法についてまとめる
第7回 心臓疾患の栄養指導について	心臓疾患について復習する
第8回 腎臓疾患及び透析療法の栄養指導について	腎臓疾患及び透析療法について復習する
第9回 症例検討と栄養指導計画書の作成	症例検討内容をまとめる
第10回 肝臓疾患の栄養指導について	肝臓疾患について復習する
第11回 消化器疾患の栄養指導について	消化器疾患について復習する
第12回 鉄欠乏性貧血の栄養指導について	鉄欠乏性貧血について復習する
第13回 高齢者疾患の栄養指導について	高齢者疾患について復習する
第14回 高齢者疾患の模擬栄養指導①（媒体・資料作成）	栄養指導媒体を作成する
第15回 高齢者疾患の模擬栄養指導②（発表）	栄養指導方法についてまとめる

■ 履修上の注意

- ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
- ・講義に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。
- ・疾患については臨床栄養学Ⅰ・Ⅱで学んでいるため、復習をしておく。また、栄養食事指導を行う際の多様な場面や背景について考えておくこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・演習50%、小テスト20%、受講態度10%（積極的な態度、目的意識、遅刻）、課題20%（提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。）を総合的に判断して評価する。
- ・小テストについては、教科書および講義で行った基本的な内容から出題。テスト終了後テストの解説を行う。
- ・課題については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

なし（講義前にプリントを配布する）

■ 参考書

エッセンシャル臨床栄養学 第8版〔佐藤和人他〕〔医歯薬出版〕〔4070円〕

■ 備考

- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

臨床栄養学実習 I

(11250)

単位：1 単位

対象学科：健専3年

授業形態：実習 学期：前期

健康栄養学専攻科目

高橋 文

■ 授業の概要

本科目は、治療食の献立作成および食事提供を行ってきた経験を活かし、臨床栄養学Ⅱで学修した栄養食事療法を基に、疾患別の献立作成について指導する。一般食の食品構成および献立作成の基礎から、疾患別の治療食献立への展開方法について学び、作成した献立を調理し供食を通じて評価と検討を行う。献立作成には疾患についての知識が必須であり、調理実習ではグループで行うため、コミュニケーションが必要とされる。この一環の流れを通して、治療食の特色を学び、多様化する病態に対応できる実践能力とチームとしての役割について修得する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---------------------------------|-----|
| ・治療食の種類および特徴について理解し、説明できる。 | ③⑤ |
| ・疾患および病態に応じた適切な治療食の献立作成ができる。 | ③⑤ |
| ・献立表を基に、調理、盛付、供食を行い、治療食の評価ができる。 | ③⑤⑦ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス、臨床栄養学と食事療法について	ガイダンス 第1章（p2～12）を予習・復習する
第2回 一般治療食と特別治療食について、食品構成と献立作成	第1章（p13～22）を予習・復習する
第3回 一般治療食の献立作成	第2章（p25～44）を予習・復習する
第4回 エネルギーコントロール食について、糖尿病食品交換表の活用方法	第3章（p45～52）・4章（p84～97）を予習・復習する
第5回 エネルギーコントロール食の献立作成、調理実習の説明	グループ内で献立表・材料・作業工程等を確認する
第6回 調理実習（一般治療食）	調理実習の内容をまとめておく
第7回 塩分制限食について、調理実習の説明	・第3章（p68～75）・4章（p107～117）を予習・復習する ・グループ内で献立表・材料・作業工程等を確認する
第8回 調理実習（塩分制限食）	調理実習の内容をまとめておく
第9回 脂質コントロール食（献立作成）について、調理実習の説明	・第3章（p62～67）・第6章（p173～181）を予習・復習する ・グループ内で献立表・材料・作業工程等を確認する
第10回 調理実習（エネルギーコントロール食）	調理実習の内容をまとめておく
第11回 たんぱく質コントロール食（献立作成）について、調理実習の説明	・第3章（p62～67）・第5章（p125～135）を予習・復習する ・グループ内で献立表・材料・作業工程等を確認する
第12回 調理実習（脂質コントロール食）	調理実習の内容をまとめておく
第13回 特殊治療食（低たんぱく食）の試食、調理実習の説明	グループ内で献立表・材料・作業工程等を確認する
第14回 調理実習（たんぱく質コントロール食）	調理実習の内容をまとめておく
第15回 嚥下調整食および食事介助について	第8章（p221～224）を予習・復習する

■ 履修上の注意

- ・調理実習の際には清潔な調理衣（白衣・調理ズボン）を着用し、身支度・衛生管理を徹底すること。
- ・献立作成および栄養価計算等を行うため、食品成分表、電卓を持参すること。
- ・実習に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・課題60%（提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。）、受講態度40%（積極的な態度、作業の進め方、チームへの協力度など）を総合的に判断して評価する。
- ・課題提出については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

- ・臨床栄養学実習書 第12版〔玉川和子 他〕〔医歯薬出版〕〔2970円〕
- ・臨床栄養学実習 フローチャートで学ぶ臨床栄養管〔中村富予 他〕〔建帛社〕〔2860円〕
- ・糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版〔日本糖尿病学会〕〔文光堂〕〔990円〕

■ 参考書

なし適宜プリント配布

■ 備考

- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

臨床栄養学実習Ⅱ

(11251)

単位：1単位

対象学科：健専3年

授業形態：実習 学期：後期

健康栄養学専攻科目

高橋 文

■ 授業の概要

本科目は、今まで学修した臨床栄養学の知識を医療機関等で実践するため、疾患および病態に応じた、適切な栄養管理が実施できる実践能力を修得する実習である。身体計測の実技を中心に種々のアセスメント指標より、傷病者の病態および栄養状態の特徴を把握し、適切な栄養補給法の選択および栄養管理計画書の作成方法について、実務経験を活かした指導を行う。さらに、疾患別の症例検討を実施し、病態生理を理解したうえで、個々人に適した栄養食事療法を行うため方法および技術を修得する。

■ 授業の到達目標

到達目標	学位授与の方針との関連
・身体計測の目的や意義について理解し、正確に計測ができる。	①⑦
・傷病者の病態や栄養状態に基づいた、適切な栄養補給法の知識を修得できる。	③⑤
・症例検討を実施することにより、実践に活かすための手法を修得できる。	③⑤⑦

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス、栄養スクリーニングと栄養アセスメント	実習1（p1～6）を予習・復習する
第2回 身体計測実習の説明	実習2（p7～9）を予習・復習する
第3回 ①身体計測、②症例検討（動脈硬化、2型糖尿病）	・実習9（p45～51）を予習・復習する ・自身の測定データをまとめておく
第4回 ①身体計測、②症例検討（非代償性肝硬変、慢性腎不全）	・実習9（p52～55）を予習・復習する ・自身の測定データをまとめておく
第5回 ①身体計測、②症例検討（嚥下障害、褥瘡）	・実習9（p56～59）を予習・復習する ・自身の測定データをまとめておく
第6回 ①身体計測、②症例検討（クローン病、慢性閉塞性肺疾患）	・実習9（p60～63）を予習・復習する ・自身の測定データをまとめておく
第7回 体成分分解装置を用いた測定結果の説明、栄養パラメータの算出	自身の測定データをまとめておく
第8回 エネルギー必要量の算出方法・栄養食事調査	実習3（p15～17）・4（p18～21）を予習・復習する
第9回 栄養補給法の種類と選択	実習5（p22～24）を予習・復習する
第10回 経腸・静脈栄養剤の投与および管理	経腸栄養剤の種類をまとめておく
第11回 栄養管理計画書の作成	実習6（p25～31）を予習・復習する
第12回 症例検討①（各グループ）	各疾患の病態生理について復習する
第13回 症例検討②（各グループ）	各疾患の病態生理について復習する
第14回 症例発表と評価①	症例検討内容をまとめておく
第15回 症例発表と評価②	症例検討内容をまとめておく

■ 履修上の注意

- ・身体計測の必要性について調べておく。
- ・実習に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・課題60%（提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。）、受講態度40%（積極的な態度、作業の進め方、チームへの協力度など）を総合的に判断して評価する。
- ・課題提出については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

臨床栄養学実習 フローチャートで学ぶ臨床栄養管理〔中村富予 他〕〔建帛社〕〔2860円〕

■ 参考書

エッセンシャル臨床栄養学 第8版〕〔佐藤和人 他〕〔医歯薬出版〕〔4070円〕

■ 備考

- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

公衆栄養学

(11252)

単位：2単位

対象学科：健専3年

授業形態：講義 学期：前期

健康栄養学専攻科目

栗山孝雄

■ 授業の概要

公衆栄養学は、日常の生活圏である地域や市町村、都道府県、国などの住民レベル、学校や職域などの様々な集団に所属する人々を対象に、健康面や栄養面の現状を把握し、問題点の改善、健康の維持・増進、疾病の予防をはかることを目的とする。その際、食生活や栄養面の観点から検討を行う。本講義では、以上の内容に関する事項として、地域住民や各種集団の健康・栄養に関する現状や問題点、関係する法規や政策、公衆栄養活動の流れ等について解説する。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・公衆栄養活動に関連する法規を理解する。	②③④⑤⑥
・公衆栄養活動の企画から評価までの流れを理解する。	②③④⑤⑥
・公衆栄養活動を展開するために必要な知識や考え方を身につける。	②③④⑤⑥

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 公衆栄養の概念	公衆栄養の意義や目的、生態系やコミュニティとの関連について理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第2回 公衆栄養活動	公衆栄養活動について、日本の歴史や現在の課題について確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第3回 日本の栄養行政	栄養行政の体制、保健所や市町村保健センターの役割について理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第4回 公衆栄養関連法規①： 地域保健法、健康増進法	地域保健法や健康増進法の要点を確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第5回 公衆栄養関連法規②： 食育基本法、その他の関連法規	食育基本法をはじめ、授業で扱う法規の要点を確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第6回 日本の管理栄養士・栄養士制度	栄養士法が扱う内容について学習する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第7回 国民健康・栄養調査	調査の目的、実施について、ポイントを理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第8回 ミニテスト 公衆栄養マネジメント・アセスメント	第1回～第7回の授業内容の修得状況を点検する。公衆栄養活動の進め方について確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第9回 健康・食生活の危機管理と食支援①： 災害発生時の食支援の公衆栄養活動における調査方法流れ	災害発生時の食支援の流れを確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第10回 健康・食生活の危機管理と食支援②： 震災発生時の行政栄養士の役割について	震災発生時の行政栄養士の役割を理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第11回 公衆栄養活動における調査方法	調査方法の特徴を理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第12回 公衆栄養活動における目標設定	目標設定、優先順位の決め方について確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第13回 公衆栄養活動の評価	公衆栄養活動の評価の具体例を交え、理解を深める。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第14回 栄養疫学	疫学を復習の上、受講する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第15回 公衆栄養プログラムの展開	これまでの授業で学習したことを復習したうえで、受講する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第16回 期末試験	第8回～第15回の授業内容の修得状況を点検する。

■ 履修上の注意

- ①遅刻は、始業時から15分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。
- ②都合により、授業の順序を変更する場合もある。
- ③自習（事前・事後学修の内容）の具体的な内容（教科書、プリントなどの資料の該当箇所など）については、授業の際に詳しく説明する。
- ④本科目の単位を取得できないと、「公衆栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。
- ⑤本科目は卒業必修科目である。

■ 成績評価方法・基準

- ・ミニテスト（40%）、期末試験（50%）、受講態度（10%）で成績評価を行う。
- ※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業中に私語や授業と関係ない行為を行うなど受講態度に問題のある場合、状況に応じて減点する。
- ・提出物、試験については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

〔公衆栄養学〕〔荒巻礼子ほか〕〔化学同人〕〔2, 600円〕

■ 参考書

なし。授業内で適宜紹介する。

■ 備考

質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受付ける。

公衆栄養学実習

(11253)

単位：1単位

対象学科：健専3年

授業形態：実習 学期：後期

健康栄養学専攻科目

栗山孝雄

■ 授業の概要

本実習では、「公衆栄養学」で学習した内容をもとに、保健所や市町村保健センターの行政栄養士、地域での健康・栄養活動に携わる管理栄養士や栄養士が扱う健康や栄養に関する事業を中心に、公衆栄養活動を展開する上で必要な知識や手法を教授する。具体的には、公衆栄養活動の企画から評価までの一連の流れ、地域住民へのポピュレーションアプローチの実践などを扱う。

本実習の内容は、公衆栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱでの実践活動に結びつくものである。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・公衆栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。	②③④⑤⑥⑦
・ポピュレーションアプローチについて理解する。	②③④⑤⑥⑦
・公衆栄養活動の企画から評価までの流れを理解する。	②③④⑤⑥⑦

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 公衆栄養活動とは？（1）保健所、市町村保健センターの役割	公衆栄養活動の現場や事例を理解する。
第2回 公衆栄養活動とは？（2）行政栄養士の役割	公衆栄養活動の現場や事例を理解する。
第3回 地方自治体の健康増進計画について	健康日本21（第二次）を復習の上、受講する。
第4回 健康問題に関する状況判断の実際	状況判断のポイントとなる点について、自分の考え、他の人の考えを通じて考える。
第5回 地域の健康面に関連する特徴の把握	第3回の実習内容とあわせて、理解を深める。
第6回 食生活改善に関する実習（1）課題の提示、事業の企画	PDCAサイクルの「計画」について理解を深める。
第7回 公衆栄養活動に関する公的資料の検索	公的資料の種類、扱っている内容について、検索を交えて理解する。
第8回 食生活改善に関する実習（2）企画書、リーフレットの作成	公衆栄養活動の進め方について、作業を通じて修得する。
第9回 地域住民の健康増進に関する活動（1）課題提示、情報検索	地域住民の健康課題の対策について考える。
第10回 食生活改善に関する実習（3）Aグループによる企画書の説明・栄養教育、評価	PDCAサイクルの「実施」について、必要なことを確認する。
第11回 食生活改善に関する実習（4）Bグループによる企画書の説明・栄養教育、評価	PDCAサイクルの「実施」について、必要なことを確認する。
第12回 食生活改善に関する実習（5）企画書、栄養教育の見直し	PDCAサイクルの「評価」、「改善」について理解を深める。
第13回 地域住民の健康増進に関する活動（2）発表、まとめ	発表内容で良かった点、改善すると良くなる点を把握する。
第14回 食生活改善に関する実習（6）Aグループによる企画書の説明・栄養教育、評価	公衆栄養活動がPDCAサイクルにそって展開されることを確認する。
第15回 食生活改善に関する実習（7）Bグループによる企画書の説明・栄養教育、評価	公衆栄養活動がPDCAサイクルにそって展開されることを確認する。

■ 履修上の注意

①遅刻は、始業時から30分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。

②内容によっては実習時間外、集中講義期間等に行うものもある。

③新型コロナウイルス感染症の状況、台風の接近や地震の発生など、やむを得ない場合、遠隔授業で行う場合もある。

④本科目の単位を取得できないと、「公衆栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。

⑤本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格、栄養士免許を取得できない。

■ 成績評価方法・基準

・グループワークでの作業状況（40%）、提出物（50%）、受講態度（10%）で成績評価を行う。

※受講態度については、①遅刻が多い、②実習と関係ない行為を行うなどの問題がある場合、状況に応じて減点する。

・提出物については、後日フィードバックを行う。

■ 教科書

〔公衆栄養学〕〔荒牧礼子ほか〕〔化学同人〕〔2, 600円〕

■ 参考書

なし。授業内で適宜紹介する。

■ 備考

質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日、時間は掲示で確認）にて受付ける。

地域栄養活動演習Ⅰ

(11254)

単位：1単位

対象学科：健専4年

授業形態：演習 学期：前期

健康栄養学専攻科目

栗山孝雄

■ 授業の概要

本演習では、「公衆栄養学」や「公衆衛生学」等で学習した人間の生活圏である地域、市町村、都道府県のレベルを中心に、そこで展開される「地域栄養活動」に関して、以下の点を扱う。

【1】地域における健康面や栄養面、食生活に関する事例や課題より、現状や問題点を把握する。その上で、対策や関連する政策などについて、食生活や栄養摂取、栄養改善の視点から検討する。

【2】「地域栄養活動」に関連する時事問題について解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・地域が抱える健康・栄養に関する課題の対処方法、解決方法を身につける。

②③④⑤⑥⑦⑨

・地域栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。

②③④⑤⑥⑦⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	地域社会における健康・栄養に関する現状と問題点の把握	健康日本21（第二次）を復習の上、受講する。
第2回	地域栄養活動に関連する公的情報の特徴	公的情報の種類、内容を理解する。
第3回	地域の栄養問題への対応①：課題の提示、情報検索	課題のポイントとなる点を検討する。
第4回	地域の栄養問題への対応②：発表	情報検索した内容を確認する。
第5回	地域の栄養問題への対応③：まとめ	取り組んだ内容を見直し、改善点を検討する。
第6回	地域栄養活動に必要な社会的資源について	事例を交えて理解を深める。
第7回	地域栄養活動に必要なマンパワーについて	マンパワーの役割、栄養士や管理栄養士との関わりについて学習する。
第8回	公衆栄養・公衆衛生関係の時事問題①：SDGs	17のゴールが扱う内容を理解する。
第9回	公衆栄養・公衆衛生関係の時事問題②：食品ロス	食品ロスの原因、現状、対策を考える。
第10回	公衆栄養・公衆衛生関係の時事問題③：災害関係	災害時の課題、対策について考える。
第11回	公衆栄養・公衆衛生関係の時事問題④：まとめ	事例より管理栄養士が関わる点について考える。
第12回	地域栄養活動の展開事例	事例より活動のポイントを学習する。
第13回	「栄養まつり」（主催：宮城県栄養士会）①：ガイダンス	「栄養まつり」全体の内容を確認する。
第14回	「栄養まつり」②：扱う内容の確認と情報検索	作業を通じて、現場で学習する課題を設定する。
第15回	「栄養まつり」③：課題の確認と情報検索	準備すべき点を確認し、事前学習を行う。

■ 履修上の注意

①遅刻は、始業時から15分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。

②状況等により、授業の順序を変更する場合がある。

③内容によっては授業時間外、集中講義期間等に行うものもある。

④第13回～第15回で扱う「栄養まつり」の開催日時は、決まり次第連絡する。なお、「栄養まつり」への参加は、「地域栄養活動演習Ⅱ」（後期開講）の授業1回分とする。

⑤本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格を取得できない。

■ 成績評価方法・基準

・提出物（課題、ミニットペーパー等）（60%）、受講態度（40%）を総合して、成績評価を行う。

※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③演習中に演習とは関係ない行為を行うなど、問題のある者は、状況に応じて減点する。

・提出物については、後日フィードバックを行う。

■ 教科書

〔公衆栄養学〕〔荒牧礼子ほか〕〔化学同人〕〔2, 600円〕

■ 参考書

なし。授業内で適宜紹介する。

■ 備考

質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

地域栄養活動演習Ⅱ

(11255)

単位：1単位

対象学科：健専4年

授業形態：演習 学期：後期

健康栄養学専攻科目

栗山孝雄

■ 授業の概要

本演習では、「公衆栄養学」や「公衆衛生学」等で学習した人間の生活圏である地域、市町村、都道府県のレベルを中心に、そこで展開される「地域栄養活動」に関して、以下の点を扱う。

【1】地域における健康面や栄養面、食生活に関する事例や課題より、現状や問題点を把握する。その上で、対策や政策などについて、食生活や栄養摂取、栄養改善の視点から検討する。

【2】「地域栄養活動」に関連する時事問題について解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・地域が抱える健康・栄養に関する課題の対処方法、解決方法を身につける。②

②③④⑤⑥⑦⑨

・地域栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。

②③④⑤⑥⑦⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 「栄養まつり」（主催：宮城県栄養士会）①：参加（学外で実施）	ポピュレーションアプローチの実際を学ぶ。
第2回 「栄養まつり」②：振り返り、まとめ	体験、見学したことを振り返り、地域栄養活動のポイントを考える。
第3回 健康づくりに関する普及・啓発活動①：キャッチコピーの作成	健康に関する情報発信について考える。
第4回 健康づくりに関する普及・啓発活動②：キャッチコピーの発表、まとめ	健康に関する情報発信のポイントを理解する。
第5回 持続可能な開発目標（SDGs）と地域栄養活動	17のゴールと地域栄養活動との関連性を考える。
第6回 地域栄養活動の展開事例	事例より活動のポイントを学習する。
第7回 地域の栄養課題の現状と対応	栄養課題の問題点より、対策を考える。
第8回 地域の健康課題の現状と対応	健康課題の問題点より、対策を考える。
第9回 災害発生時の公衆栄養・公衆衛生に関する活動	事例より、現状の把握、課題を考える。
第10回 国民健康・栄養調査 最近の動向について①：健康面	健康面に関する特徴を把握する。
第11回 国民健康・栄養調査 最近の動向について②：栄養面	栄養面に関する特徴を把握する。
第12回 国民健康・栄養調査 所得との関連性	所得が関係する事項について理解する。
第13回 各種組織・団体による地域栄養活動の展開について①：食品関係の企業・団体	活動の展開について理解する。
第14回 各種組織・団体による地域栄養活動の展開について②：健康関係の企業・団体	活動の展開について理解する。
第15回 地域栄養活動の今後について	学習した内容をもとに考える。

■ 履修上の注意

①遅刻は、始業時から15分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。

②内容によっては授業時間外、集中講義期間等に行うものもある。

③1回目は学外での実施となる予定。開催日時等については、後日連絡する。なお、ガイダンスや準備等については、前期開講の「地域栄養活動演習Ⅰ」で実施する。

④状況等により、授業の順序を変更する場合がある。

⑤本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格を取得できない。

■ 成績評価方法・基準

・提出物（課題、ミニットペーパー等（60%）、受講態度（40%）を総合して、成績評価を行う。

※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③演習中に演習とは関係ない行為を行うなど、問題のある者は、状況に応じて減点する。

・提出物については、後日フィードバックを行う。

■ 教科書

〔公衆栄養学〕〔荒牧礼子ほか〕〔化学同人〕〔2, 600円〕

■ 参考書

なし。授業内で紹介する。

■ 備考

質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受付ける。

給食管理学

(11256)

単位：2単位

対象学科：健専2年

授業形態：講義 学期：前期

健康栄養学専攻科目

益田裕司

■ 授業の概要

特定かつ多数の者に継続的に食事を供給する特定給食施設では、給食運営を計画から評価まで総合的に判断し、栄養面、安全面、経営面全般をマネジメントする能力が必要となる。

特定給食施設での管理栄養士としての実務経験を活かし、以下の点を教授する。

- ・特定給食施設の定義、目的、法的根拠について学習させる。
- ・給食を運営する上で管理栄養士・栄養士に必要な各管理業務の目的、方法、評価について理解させる。
- ・喫食者の栄養アセスメント、献立作成および大量調理のポイントについて実践的に学ばせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・特定給食施設の定義、給食の目的や特徴を理解できる。	②③⑤
・給食を運営する上で必要な知識や技術を身につける。	②③⑤
・対象者に応じた給食の立案を身につける。	②③⑤
・給食の管理業務を理解し説明できるようになる。	②③⑤

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス 給食管理の概念	シラバスの内容を理解し今後の授業に備える
第2回 給食の計画 食事摂取基準	食事摂取基準と特徴を理解する
第3回 栄養・食事管理の計画① 食品成分表の利用	食品成分表の活用法を理解する
第4回 栄養・食事管理の計画② 給与栄養目標量・食事計画	給与栄養目標量を算出できるようにする
第5回 栄養・食事管理の計画③ 食品構成 献立作成の基礎知識	食品構成と献立作成の関連性を理解する
第6回 施設・設備管理（施設・設備と機器、食環境）	施設環境についてテキストを参照する
第7回 作業管理（大量調理における調理の工夫・作業工程・作業の標準化）	大量調理の特徴を理解する
第8回 安全衛生管理 食中毒の予防	衛生管理についてリスクと予防法を理解する
第9回 危機管理・ヒヤリハット	危機管理の重要性と対策を理解する
第10回 食物アレルギー対応・災害時の備蓄について	給食施設の非常時対応を理解する
第11回 特定給食施設の種類と特徴および栄養士の役割	特定給食施設の特徴を理解する
第12回 保育所・学校・事業所給食	施設での役割についてテキストを復習する
第13回 高齢者福祉施設給食	施設での役割についてテキストを復習する
第14回 病院給食	施設での役割についてテキストを復習する
第15回 まとめ 給食における評価と改善	これまでの講義を振り返りまとめる
第16回 定期試験	これまでの講義を振り返り理解する

■ 履修上の注意

栄養士、管理栄養士として給食管理業務は基本かつ重要な役割であるため、各自、目的意識をもって受講すること。遅刻3回で欠席1回とする。

■ 成績評価方法・基準

定期試験50% 平常点30%（平常点は、授業への参加状況および受講態度（積極性）で総合的に判断する。） 提出物（ミニテスト含む）20%（提出物は必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出物は評価して返却する。）

■ 教科書

〔給食の運営 給食計画・実務論 第5版〕〔富岡和夫〕〔医歯薬出版〕〔3,080円〕

■ 参考書

適宜紹介する

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

給食経営学

(11257)

単位：2単位

対象学科：健専4年

授業形態：講義 学期：前期

健康栄養学専攻科目

■ 授業の概要

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

■ 履修上の注意

■ 成績評価方法・基準

■ 教科書

■ 参考書

■ 備考

給食管理実習 I

(11258)

単位：1 単位

対象学科：健専2年

授業形態：実習 学期：後期

健康栄養学専攻科目

■ 授業の概要

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

■ 履修上の注意

■ 成績評価方法・基準

■ 教科書

■ 参考書

■ 備考

給食管理実習Ⅱ

(11259)

単位：1 単位

対象学科：健専2年

授業形態：実習 学期：後期

健康栄養学専攻科目

■ 授業の概要

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

■ 履修上の注意

■ 成績評価方法・基準

■ 教科書

■ 参考書

■ 備考

健康栄養学総合演習 I

(11260)

単位：1 単位

対象学科：健専3年

授業形態：演習 学期：前期

健康栄養学専攻科目

栗山孝雄 高橋文

■ 授業の概要

- ・3年次における給食管理臨地実習 I・II をおこなうための事前指導の授業である。
- ・校外実習や臨地実習の目的・目標・実習内容・実習の心構え・事前学習等を教授する。
- ・実習記録の記入のしかた、適切な文章表現、社会人としての話し方、マナーについて教授する。
- ・実習施設の栄養士・管理栄養士の講義では、各給食施設の概要や実習に必要な知識などを説明する。
- ・さまざまな給食施設における栄養士・管理栄養士の職務について教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| ・実習に必要な知識や技術が身につくようになる。 | ②③⑤⑦⑧ |
| ・給食施設の特徴を理解できるようになる。 | ②③⑤⑦⑧ |
| ・給食施設の管理栄養士・栄養士の業務と役割を理解できるようになる。 | ②③⑤⑦⑧ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	実習の目的・目標・実習内容・準備・心得・態度（全教員）	授業のポイントを復習し、理解する。
第2回	実習関係の書類、日誌の記入方法について（全教員）	授業のポイントを復習し、理解する。
第3回	会話表現①：話し方・挨拶の基本、敬語の使い方、自己紹介の仕方（高橋）	授業のポイントを復習し、理解する。
第4回	会話表現②：社会人としての話し方、栄養指導での話し方、電話のマナー（高橋）	授業のポイントを復習し、理解する。
第5回	文章表現①：文章作成上の留意事項、基本的な書き方（栗山）	授業のポイントを復習し、理解する。
第6回	文章表現②：実習日誌の書き方、礼状の書き方、レポートの書き方、給食だよりの書き方	授業のポイントを復習し、理解する。
第7回	7. 実習施設の概要、実習内容の確認（全教員）	施設の概要、実習に必要な知識の整理、研究課題について予習、復習を行う。
第8回	8. 施設事例①：障がい者施設の実際と栄養士の職務（学外講師）（全教員）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる。 ・講話をレポートにまとめ次週に提出する。
第9回	9. 施設事例②：高齢者施設の実際と栄養士の職務（学外講師）（全教員）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる。 ・講話をレポートにまとめ次週に提出する。
第10回	施設事例③：自衛隊給食の実際と栄養士の職務（学外講師）（全教員）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる。 ・講話をレポートにまとめ次週に提出する。
第11回	施設事例④：事業所給食の実際と栄養士の職務（学外講師）（全教員）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる。 ・講話をレポートにまとめ次週に提出する。
第12回	施設事例⑤：委託給食の実際と栄養士の職務（学外講師）（全教員）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる。 ・講話をレポートにまとめ次週に提出する。
第13回	実習のねらいや課題、疑問等の事前準備（全教員）	授業のポイントを確認する。
第14回	実習のまとめと資料作成（全教員）	学内で学習したことと、臨地実習で経験したことを結び付け、今後の課題を検討する。
第15回	報告会準備（全教員）	学内で学習したことと、臨地実習で経験したことを結び付け、今後の課題を検討する。

■ 履修上の注意

- ①本科目は、給食管理臨地実習 I・II の事前学習、事後学習の役割も担う。
- ②各実習の実習目的、目標と関連法規を理解してから授業に臨むこと。
- ③臨地実習の事前準備、事後のまとめに重要な演習であるため真剣に取り組むこと。
- ④遅刻・無断欠席がないよう注意する。
- ⑤施設事例の特別講義を欠席した場合は、病気の罹患や入院等、やむを得ない事由でない限り、実習を辞退したものとみなす。

なお、やむを得ない事由で欠席する際は、必ず教員または助手室に連絡を入れること。

■ 成績評価方法・基準

- ・出欠状況と受講態度（質問など積極的な態度、目的意識、遅刻、無断欠席、受講中に居眠りしない等）50%、提出物（決

められた日時まで必ず提出すること。未提出の場合は、評価の対象としない。) 50%などにより総合的に評価する。
・提出物については、後日フィードバックする。

■ 教科書

〔臨地実習テキスト〕〔大学オリジナル〕〔無料〕

〔管理栄養士・栄養士になるための 国語表現〕〔田上貞一郎〕〔萌文書院〕〔1, 944円〕

〔イラストで学ぶ 栄養士・管理栄養士の世界〕(末永美雪) (学建書院) [1, 944円] 1年生で購入済み

■ 参考書

なし。適時紹介する。

■ 備考

質問等については、各授業の担当教員に授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で受付ける。

健康栄養学総合演習Ⅱ

(11261)

単位：1単位

対象学科：健専3年

授業形態：演習 学期：後期

健康栄養学専攻科目

栗山 孝雄 川俣 幸一 小野 真実 高橋 文

■ 授業の概要

本演習では、これまでに学習した健康の維持・増進、食生活の現状や栄養摂取状況の把握と改善などに関する内容を踏まえ、人間の健康面や栄養面の課題の把握、確認、対応について扱う。具体的には、人間の健康面や栄養面に関する課題を提示し、情報検索や意見交換などを交え、まとめる技法を教授する。本演習を通じて、管理栄養士が業務を行う上で必要な能力、技術の獲得を目指す。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・健康や栄養に関する調査、測定、教育の方法を身につける。
- ・栄養評価や栄養教育に関する能力、技術を身につける。

②③⑤⑦⑧⑨
②③⑤⑦⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

回	ガイダンス：演習内容の説明（全教員）	課題について解明すべき点を検討する。
第1回	健康面・栄養面の課題① 臨床栄養学：課題提示（高橋）	
第2回	健康面・栄養面の課題② 臨床栄養学：情報検索（高橋）	情報検索で入手した情報を吟味する。
第3回	健康面・栄養面の課題③ 臨床栄養学：まとめ（高橋）	学習した内容を確認する。
第4回	健康面・栄養面の課題④ 応用栄養学：課題提示（川俣）	課題について解明すべき点を検討する。
第5回	健康面・栄養面の課題⑤ 応用栄養学：情報検索（川俣）	情報情報検索で入手した情を吟味する。
第6回	健康面・栄養面の課題⑥ 応用栄養学：まとめ（川俣）	学習した内容を確認する。
第7回	健康面・栄養面の課題⑦ 栄養教育論：課題提示（小野）	課題について解明すべき点を検討する。
第8回	健康面・栄養面の課題⑧ 栄養教育論：情報検索（小野）	情報情報検索で入手した情を吟味する。
第9回	健康面・栄養面の課題⑨ 栄養教育論：まとめ（小野）	習した内容を確認する。
第10回	健康面・栄養面の課題⑩ 公衆栄養学：課題提示（栗山）	課題について解明すべき点を検討する。
第11回	健康面・栄養面の課題⑪ 公衆栄養学：情報検索（栗山）	情報情報検索で入手した情を吟味する。
第12回	健康面・栄養面の課題⑫ 公衆栄養学：まとめ（栗山）	学習した内容を確認する。
第13回	健康面・栄養面の課題⑬ 給食経営管理論：課題提示（担当者未定）	課題について解明すべき点を検討する。
第14回	健康面・栄養面の課題⑭ 給食経営管理論：情報検索（担当者未定）	情報情報検索で入手した情を吟味する。
第15回	健康面・栄養面の課題⑮ 給食経営管理論：まとめ（担当者未定）	学習した内容を確認する。

■ 履修上の注意

- ・本科目は、管理栄養士養成課程の必修科目である。単位が取得できないと管理栄養士国家試験受験資格を取得できなくなる。
- ・開講時期の都合上、3年次で単位が取得できない場合、管理栄養士国家試験受験資格の取得は困難になる。
- ・都合により、担当教員の順序、授業内容が変更となる場合がある。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業態度50%、提出物50%等により、総合的に評価する。

※授業態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業に関係のない行為がみられるなど、態度に問題のある場合、状況に応じて減点する。

- ・提出物は、後日フィードバックを行う。

■ 教科書

なし。配布資料を準備する。

■ 参考書

授業内で適宜紹介する。

■ 備考

質問は授業時間内、またはオフィスアワーで受け付ける。

健康栄養学総合演習Ⅲ

(11262)

単位：1単位

対象学科：健専4年

授業形態：演習 学期：後期

健康栄養学専攻科目

栗山孝雄 川俣幸一 小野真実 高橋文

■ 授業の概要

本演習では、これまでに学習した健康の維持・増進、食生活の現状や栄養摂取状況の把握と改善などに関する内容を踏まえ、人間の健康面や栄養面の課題の把握、確認、対応について扱う。具体的には、人間の健康面や栄養面に関する課題を提示し、情報検索や意見交換などを交え、対応するための技法を教授する。本演習を通じて、管理栄養士が業務を行う上で必要な能力、技術の獲得を目指す。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・健康や栄養に関する調査、測定、教育の方法を身につける。
- ・栄養評価や栄養教育に関する能力、技術を身につける。

②③⑤⑦⑧⑨
②③⑤⑦⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

回	内容	自習（事前・事後学修の内容）
第1回	ガイダンス（全教員） 健康面・栄養面の課題と対応① 臨床栄養学：課題提示（高橋）	課題について解明すべき点を検討する。
第2回	健康面・栄養面の課題と対応② 臨床栄養学：情報検索（高橋）	情報検索で入手した情報を吟味する。
第3回	健康面・栄養面の課題と対応③ 臨床栄養学：まとめ（高橋）	学習した内容を確認する。
第4回	健康面・栄養面の課題と対応④ 栄養教育論：課題提示（小野）	課題について解明すべき点を検討する。
第5回	健康面・栄養面の課題と対応⑤ 栄養教育論：情報検索（小野）	情報検索で入手した情報を吟味する。
第6回	健康面・栄養面の課題と対応⑥ 栄養教育論：まとめ（小野）	学習した内容を確認する。
第7回	健康面・栄養面の課題と対応⑦ 公衆栄養学：課題提示（栗山）	課題について解明すべき点を検討する。
第8回	健康面・栄養面の課題と対応⑧ 公衆栄養学：情報検索（栗山）	情報検索で入手した情報を吟味する。
第9回	健康面・栄養面の課題と対応⑨ 公衆栄養学：まとめ（栗山）	学習した内容を確認する。
第10回	健康面・栄養面の課題と対応⑩ 応用栄養学：課題提示（川俣）	課題について解明すべき点を検討する。
第11回	健康面・栄養面の課題と対応⑪ 応用栄養学：情報検索（川俣）	情報検索で入手した情報を吟味する。
第12回	健康面・栄養面の課題と対応⑫ 応用栄養学：まとめ（川俣）	学習した内容を確認する。
第13回	健康面・栄養面の課題と対応⑬ 給食経営管理論：課題提示（担当者未定）	課題について解明すべき点を検討する。
第14回	健康面・栄養面の課題と対応⑭ 給食経営管理論：情報検索（担当者未定）	情報検索で入手した情報を吟味する。
第15回	健康面・栄養面の課題と対応⑮ 給食経営管理論：まとめ（担当者未定）	学習した内容を確認する。
第16回	試験	学習した内容を確認、復習のうえ、受験する。

■ 履修上の注意

- ・本科目は、管理栄養士養成課程の必修科目である。単位が取得できないと管理栄養士国家試験受験資格を取得できなくなる。
- ・都合により、担当教員の順序、授業内容が変更となる場合がある。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業態度20%、試験80%により、総合的に評価する。
- ※授業態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業に関係のない行為がみられるなど、態度に問題のある場合、状況に応じて減点する。
- ・試験は本試験のみ。追試験、再試験は疾病の罹患、入院、震災などの被災など、やむを得ない状況以外は行わない。
- ・提出物は、後日フィードバックを行う。

■ 教科書

なし。配布資料を準備する。

■ 参考書

授業内で適宜紹介する。

■ 備考

質問は授業時間内、またはオフィスアワーで受付ける。

給食管理臨地実習 I

(11263)

単位：1 単位

対象学科：健専3年

授業形態：実習 学期：前期

健康栄養学専攻科目

■ 授業の概要

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

■ 履修上の注意

■ 成績評価方法・基準

■ 教科書

■ 参考書

■ 備考
(臨地実習)

給食管理臨地実習Ⅱ

(11264)

単位：1 単位

対象学科：健専3年

授業形態：実習 学期：前期

健康栄養学専攻科目

■ 授業の概要

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

■ 履修上の注意

■ 成績評価方法・基準

■ 教科書

■ 参考書

■ 備考
(臨地実習)

臨床栄養学臨地実習 I

(11265)

単位：1 単位

対象学科：健専4年

授業形態：実習 学期：前期

健康栄養学専攻科目

高橋 文

■ 授業の概要

本科目では、病院および高齢者施設栄養士としての実務経験を活かし、実習の計画および指導を行う。事前教育として実習に関する準備も含まれ、実習先の指導管理栄養士から説明を受け、実際の臨床における管理栄養士の仕事を把握できるよう指導する。また、実習施設に関する機能性および特色についての調査、臨地実習先との連絡調整など、充実した実習とするための具体的な事前準備について指導を行う。実習終了後には、事後教育指導として、担当教員や巡回教員への終了報告、実習のまとめ、報告会の準備および発表を行う。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・臨床栄養学、臨床栄養指導論、臨床栄養学実習などで学んだ知識・技術を、実際の臨床現場で実践することができる。	①③⑦
・臨地実習を通して、社会で実践していくために必要な自己管理能力、社会的倫理観、および責任感を修得することができる。	①③⑤⑦⑨
・臨地実習で得た知識や、講義を通して得たものを伝えるプレゼンテーション能力を修得することができる。	⑦⑨

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 1. ガイダンス	臨床栄養学、臨床栄養指導論、臨床栄養学実習、応用栄養学の復習をする
第2回 2. 実習配属先との事前打ち合わせ	実習先の要求する提出物の準備・作成交通手段について調べる
第3回 3. ～11. 実習：病院または老人保健施設で行う ・施設における栄養食事療法、運営管理業務について ・栄養管理全般について ・傷病者の栄養指導・教育について ・チーム医療における管理栄養士の役割および活動について ・衛生管理、危機管理の実際について	・医療施設について調べる ・実習施設について調べる ・栄養管理について復習する ・栄養指導について復習する ・チーム医療における管理栄養士について ・危機管理について復習する
第4回 12. 実習担当教員および巡回教員への終了報告	実習先の状況説明ができるようまとめておく
第5回 13. 実習のまとめ、報告会の準備	実習で得た知識と経験を整理する
第6回 14. 臨床栄養学臨地実習報告会での発表	実習内容をまとめ、発表の準備をする
第7回 15. 臨床栄養学臨地実習報告会の聴講	他施設における管理栄養士の役割について理解する

■ 履修上の注意

- ・臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学指導論Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。
- ・家政特別講義Ⅳを履修すること。
- ・実習先に通う方法について、自家用車の使用は原則認めない。無断で使用した場合、実習の即刻中止、単位取得無効とする。
- ・清潔な調理衣（白衣・調理ズボン）を着用すること。
- ・マニキュア、イヤリング、ピアス、つけまつ毛、ネックレス、指輪、香水等の使用は認めない。
- ・実習先では施設スタッフとして、施設職員や患者・入居者に接すること。
- ・臨地実習報告書には、自分の発表以外においても聴講し、最後の発表まで参加すること。

■ 成績評価方法・基準

実習態度50%、提出物の内容30%（提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。）、実習報告20%などを総合的に評価する。

※実習態度：欠席・遅刻・早退の状況、巡回担当者および配属先の担当者からの報告など

■ 教科書

- ・エッセンシャル臨床栄養学 第8版〔佐藤和人 他〕〔医歯薬出版〕〔4070円〕
- ・臨床栄養学実習書 第12版〔玉川和子 他〕〔医歯薬出版〕〔2970円〕

■ 参考書

適宜プリント配布

■ 備考

質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける

臨床栄養学臨地実習Ⅱ

(11266)

単位：1単位

対象学科：健専4年

授業形態：実習 学期：後期

健康栄養学専攻科目

高橋 文

■ 授業の概要

本科目では、病院および高齢者施設栄養士としての実務経験を活かし、実習の計画および指導を行う。事前教育として実習に関する準備も含まれ、実習先の指導管理栄養士から説明を受け、実際の臨床における管理栄養士の仕事を把握できるよう指導する。また、実習施設に関する機能性および特色についての調査、臨地実習先との連絡調整など、充実した実習とするための具体的な事前準備について指導を行う。実習終了後には、事後教育指導として、担当教員や巡回教員への終了報告、実習のまとめ、報告会の準備および発表を行う。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・臨床栄養学、臨床栄養指導論、臨床栄養学実習などで学んだ知識・技術を、実際の臨床現場で実践することができる。	①③⑦
・臨地実習を通して、社会で実践していくために必要な自己管理能力、社会的倫理観、および責任感を修得することができる。	①③⑤⑦⑨
・臨地実習で得た知識や、講義を通して得たものを伝えるプレゼンテーション能力を修得することができる。	⑦⑨
・これまでに獲得した知識・技能などを総合的に活用し、新たな課題に取り組むことができる。	①③⑤

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 1. ガイダンス	臨床栄養学、臨床栄養指導論、臨床栄養学実習、応用栄養学の復習をする
第2回 2. 実習配属先との事前打ち合わせ	実習先の要求する提出物の準備・作成をする。疑問点について確認をする
第3回 3.～11. 実習：病院または老人保健施設で行う ・施設における栄養食事療法、運営管理業務について ・栄養管理全般について ・傷病者の栄養指導・教育について ・チーム医療における管理栄養士の役割および活動について ・衛生管理、危機管理の実際について	・実習施設について調べる ・栄養食事療法について復習する ・栄養管理について復習する ・チーム医療における管理栄養士について復習する ・実習先のチーム医療の特徴についてまとめる ・危機管理について復習する。
第4回 12. 実習担当教員および巡回教員への終了報告	実習先の状況説明ができるようまとめておく
第5回 13. 実習のまとめ、報告会の準備	実習で得た知識と経験を整理する
第6回 14. 臨床栄養学臨地実習報告会での発表	実習内容をまとめ、発表の準備をする
第7回 15. 臨床栄養学臨地実習報告会の聴講	他施設における管理栄養士の役割について理解する

■ 履修上の注意

- ・臨床栄養学臨地実習Ⅰの単位を修得していること。
- ・臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学指導論Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。
- ・家政特別講義Ⅳを履修すること。
- ・実習先に通う方法について、自家用車の使用は原則認めない。無断で使用した場合、実習の即刻中止、単位取得無効とする。
- ・清潔な調理衣（白衣・調理ズボン）を着用すること。
- ・マニキュア、イヤリング、ピアス、つけまつ毛、ネックレス、指輪、香水等の使用は認めない。
- ・実習先では施設スタッフとして、施設職員や患者・入居者に接すること。

■ 成績評価方法・基準

実習態度50%、提出物の内容30%（提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。）、実習報告20%などを総合的に評価する。

※実習態度：欠席・遅刻・早退の状況、巡回担当者および配属先の担当者からの報告など

■ 教科書

- ・エッセンシャル臨床栄養学 第8版〔佐藤和人 他〕〔医歯薬出版〕〔4070円〕

・臨床栄養学実習書 第12版〔玉川和子 他〕〔医歯薬出版〕〔2970円〕

■ 参考書

適宜プリント配布

■ 備考

（臨地実習）質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

公衆栄養学臨地実習 I

(11267)

単位：1 単位

対象学科：健専4年

授業形態：実習 学期：通年

健康栄養学専攻科目

栗山孝雄

■ 授業の概要

本実習では、保健所や市町村保健センターに所属する行政栄養士の役割や業務について、保健所または市町村保健センターに赴き、学習する。具体的には、以下の内容を扱う。

- 【1】実習前に、本学実習担当教員が実習日程や課題の確認を行い、実習に必要な知識や技術の確認、助言を行う。
- 【2】実習施設の行政栄養士やスタッフが、地域住民の適正な栄養管理と健康実現を目指すための政策や手法を教授する。
- 【3】実習終了後に、本学実習担当教員が終了後のまとめに関する指導、助言を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|-------------------------------|----------|
| ・保健所や市町村保健センターの行政栄養士の役割を理解する。 | ②③④⑤⑥⑦⑧⑨ |
| ・地域住民への栄養や健康に関する情報発信の方法を習得する。 | ②③④⑤⑥⑦⑧⑨ |
| ・公衆栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。 | ②③④⑤⑥⑦⑧⑨ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	教科書の該当箇所を確認する。
第2回 実習配属先との事前の打合せ	実習内容について理解する。
第3回 事前学習の確認と指導	実習先（自治体、施設）の特徴の検索する。 事前課題に取り組む。
第4回 実習：保健所または市町村で行う	施設の特徴を確認する。
第5回 【1 保健所で実習を行う場合】	保健所の役割を理解する。
第6回 (1) 保健所スタッフによる講話：保健所の業務・役割について、スタッフの業務・役割について	教科書を利用して、実習先の業務・役割を確認する。
第7回 (2) 保健所栄養士による講話：保健所栄養士の業務、役割について	教科書を利用して、保健所栄養士の業務・役割を確認する。
第8回 (3) 保健所活動の実際：保健所栄養士に係る広域的・専門的な業務の体験、理解	活動の内容を理解する。
第9回 【2 市町村で実習を行う場合】	市町村の役割を理解する。
第10回 (1) 市町村スタッフによる講話：市町村の業務、役割について、スタッフの業務・役割について	教科書を利用して、実習先の業務・役割を確認する。
第11回 (2) 市町村栄養士による講話：市町村栄養士の業務、役割について	教科書を利用して、市町村栄養士の業務・役割を確認する。
第12回 (3) 市町村活動の実際：市町村栄養士に係る地域的・一般的な業務の体験、理解	活動の内容を理解する。
第13回 実習後のまとめ	学習した内容全体を復習する。
第14回 公衆栄養学臨地実習報告会での報告	実習内容をまとめ、報告の準備をする。
第15回 公衆栄養学臨地実習報告会の聴講	公衆栄養活動の実際を理解する。

■ 履修上の注意

- ①公衆栄養学、公衆栄養学実習の単位を取得していないと、本実習は履修できない。
- ②家政特別講義Ⅳを履修すること。
- ③本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格を取得できない。
- ④実習以前の生活態度や学習態度に問題があり、指導しても良くならない場合は、実習を取り止めることがある。その点を十分注意すること。
- ⑤実習の配属先ならびに実習の時期は、他の実習の実施時期、履修者の学習状況を参考に、担当教員が実習施設の担当者とは協議して決定する。
- ⑥実習先では学生ではなく、施設のスタッフとして施設職員や地域住民と接することになる。その点を十分に自覚すること。
- ⑦新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、現場での実習が中止となる場合がある。その場合は学内実習やリモート実習等で対応する。
- ⑧公衆栄養学臨地実習報告会は、自分の報告がない会にも出席し、他施設の実習内容について学習する。

■ 成績評価方法・基準

- ・実習態度（50%）、提出物の内容（30%）、実習報告（20%）などを総合的に評価する。

※実習態度とは遅刻・早退の状況、巡回担当者の報告、配属先の担当者からの報告などを指す。

・提出物については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

〔臨地実習テキスト〕〔大学オリジナル〕〔無料〕

〔公衆栄養学〕〔荒牧礼子・今井絵理〕〔化学同人〕〔2,600円+税〕（※）3年次に購入済み

〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔田中貞一郎ほか〕〔萌文書林〕〔1,800円+税〕（※）3年次に購入済み

■ 参考書

なし。授業内で適宜紹介する。

■ 備考

（臨地実習）

公衆栄養学臨地実習Ⅱ

(11268)

単位：1単位

対象学科：健専4年

授業形態：実習 学期：通年

健康栄養学専攻科目

栗山孝雄

■ 授業の概要

本実習は、「公衆栄養学臨地実習Ⅰ」を履修した者のみが履修できる。

本実習は、「公衆栄養学臨地実習Ⅰ」とは異なる施設に赴き、現場の行政栄養士の役割や業務について学習する。具体的には、以下の内容を扱う。

- 【1】実習前に、本学実習担当教員が実習日程や課題の確認を行い、実習に必要な知識や技術の確認、助言を行う。
- 【2】実習施設の行政栄養士やスタッフが、地域住民の適正な栄養管理と健康実現を目指すための政策や手法を教授する。
- 【3】実習終了後に、本学実習担当教員が終了後のまとめに関する指導、助言を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|-------------------------------|----------|
| ・保健所や市町村保健センターの行政栄養士の役割を理解する。 | ②③④⑤⑥⑦⑧⑨ |
| ・地域住民への栄養や健康に関する情報発信の方法を習得する。 | ②③④⑤⑥⑦⑧⑨ |
| ・公衆栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。 | ②③④⑤⑥⑦⑧⑨ |

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス	教科書の該当箇所を確認する。
第2回 実習配属先との事前の打合せ	実習内容について理解する。
第3回 事前学習の確認と指導	実習先（自治体、施設）の特徴を検索する。 事前課題に取り組む。
第4回 実習：保健所または市町村で行う	施設の特徴を確認する。
第5回 【1 保健所で実習を行う場合】	保健所の役割を理解する。
第6回 （1）保健所スタッフによる講話：保健所の業務・役割について、スタッフの業務・役割について	教科書を利用して、実習先の業務・役割を確認する。
第7回 （2）保健所栄養士による講話：保健所栄養士の業務、役割について	教科書を利用して、保健所栄養士の業務・役割を確認する。
第8回 （3）保健所活動の実際：保健所栄養士に係る広域的・専門的な業務の体験、理解	活動の内容を理解する。
第9回 【2 市町村で実習を行う場合】	市町村の役割を理解する。
第10回 （1）市町村スタッフによる講話：市町村の業務、役割について、スタッフの業務・役割について	教科書を利用して、実習先の業務・役割を確認する。
第11回 （2）市町村栄養士による講話：市町村栄養士の業務、役割について	教科書を利用して、市町村栄養士の業務・役割を確認する
第12回 （3）市町村活動の実際：市町村栄養士に係る地域的・一般的な業務の体験、理解	活動の内容を理解する。
第13回 実習後のまとめ	学習した内容全体を復習する。
第14回 公衆栄養学臨地実習報告会での報告	実習内容をまとめ、報告の準備をする。
第15回 公衆栄養学臨地実習報告会の聴講	公衆栄養活動の実際を理解する。

■ 履修上の注意

- ①公衆栄養学、公衆栄養学実習の単位を取得していないと、本実習は履修できない。
- ②公衆栄養学臨地実習Ⅰを履修していないと、本実習は履修できない。
- ③家政特別講義Ⅳを履修すること。
- ④本科目の履修者は、本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格を取得できない。
- ⑤実習以前の生活態度や学習態度に問題があり、指導しても良くならない場合は、実習を取り止めることがある。その点を十分注意すること。
- ⑥実習の配属先ならびに実習の時期は、他の実習の実施時期、履修者の学習状況を参考に、担当教員が実習施設の担当者とは協議して決定する。
- ⑦実習先では学生ではなく、施設のスタッフとして施設職員や地域住民と接することになる。その点を十分に自覚すること。
- ⑧新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、現場での実習が中止となる場合がある。その場合は学内実習やリモート実習等で対応する。
- ⑨公衆栄養学臨地実習報告会は、自分の報告がない会にも出席し、他施設の実習内容について学習する。

■ 成績評価方法・基準

・実習態度（50%）、提出物の内容（30%）、実習報告（20%）などを総合的に評価する。

※実習態度とは遅刻・早退の状況、巡回担当者の報告、配属先の担当者からの報告などを指す。

・提出物については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

〔臨地実習テキスト〕〔大学オリジナル〕〔無料〕

〔公衆栄養学〕〔荒牧礼子・今井絵理〕〔化学同人〕〔2, 600円（※）3年次に購入済み〕

〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔田中貞一郎ほか〕〔萌文書林〕〔1, 800〕（※）3年次に購入済み

■ 参考書

なし。授業内で適宜紹介する。

■ 備考

（臨地実習）

被服学

(11269)

単位：2単位

対象学科：健専1年

授業形態：講義 学期：前期

健康栄養学専攻科目

菊地紗代

■ 授業の概要

被服は人間の生活に大きな役割を果たしてきた。私たちを取り巻く社会環境は変化していくため、対応できるように被服について考えていく必要がある。そこで本講義では、健康・安全・快適性をキーワードに衣生活について概説する。人間の着用を中心におきながら、社会性、素材、品質と管理について取り上げる。さらに、消費、環境についても触れ、これからの衣生活を向上させるために必要な知識を習得させ、実践能力が高められるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・衣服の機能について理解できる。	①
・社会と被服の関係について理解できる。	②
・環境に配慮した衣生活を送るために必要な知識を身につける。	③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 被服学とは、人はなぜ装うのか	装いの機能についてまとめる。
第2回 気候風土と装い	民族服についてまとめる。
第3回 衣服のかたちの変遷①洋装	洋装についてまとめる。
第4回 衣服のかたちの変遷②和装	和装についてまとめる。
第5回 装いと健康	快適性についてまとめる。
第6回 装いによる気候調節	温度調節についてまとめる。
第7回 動きやすさと衣服	動きやすさについてまとめる。
第8回 衣服の素材	素材についてまとめる。
第9回 衣服の加工、品質	性能・加工、表示についてまとめる。
第10回 衣服の管理	洗濯、管理についてまとめる。
第11回 人の成長とからだつき、アパレル産業と既製服	体型、既製服についてまとめる。
第12回 装いのコミュニケーション	色、流行、個性についてまとめる。
第13回 ユニバーサルデザインと装い	ユニバーサルデザインについてまとめる。
第14回 装いと生活環境	再利用についてまとめる。
第15回 まとめ	レポートを作成する。

■ 履修上の注意

遅刻・欠席をしないこと。日頃から被服に関することに興味関心を持つこと。

■ 成績評価方法・基準

提出物（ワークシート・レポート）60%，受講状況（ミニットペーパー等）40%で評価する。（未提出がある場合は評価対象としないことがある。）

提出物については、授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。

■ 教科書

〔ビジュアル衣生活論〕〔岡田宣子編著〕〔建帛社〕〔2, 530円〕

■ 参考書

無し（適宜、プリントを配布する）

■ 備考

ルーブリック評価については、第一回目の授業で説明する。

質問等については、授業時間内または授業終了後に受け付ける。

被服造形実習 I

(11270)

単位：1 単位

対象学科：健専 2 年

授業形態：実習 学期：前期

健康栄養学専攻科目

菊 地 紗 代

■ 授業の概要

被服造形のための知識と、縫製技術の基礎・基本について習得させる。縫製に使われる用具、布地の扱い方、手縫いの基礎、ミシン・アイロンの使い方などについて取り上げる。課題として綿素材で半袖のシャツブラウスを製作する。採寸、デザインに合った布地の選択、裁断、印付け、布地・副資材の取り扱い方などについて学び、製作を通して衣服の基本的構造の理解を深めさせる。オーダー・お直し、服飾教育現場に携わった講師が指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・服飾造形分野の基礎的知識と技術、実践力を身につける。
- ・自己管理能力、論理観、課題解決能力を身につける。

①③⑤
⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 被服製作の基礎知識、用具確認、基礎縫い準備	指定箇所まで作業を終わらせる。復習する。
第2回 基礎縫い：手縫い①（並縫い、しつけ）	指定箇所まで作業を終わらせる。復習する。
第3回 〃 ②（まつり、留め具付け）	指定箇所まで作業を終わらせる。復習する。
第4回 ミシン縫い（直線・ロックミシンの使い方）	基礎縫いを完成させる。復習する。
第5回 課題制作：採寸、型紙作成（シャツブラウス）、用布の見積もり	材料の準備をする。プリントをまとめる。
第6回 型紙カット・確認、表地：地直し	指定箇所まで作業を終わらせ、プリントをまとめる。
第7回 表地：裁断、印付け	指定箇所まで作業を終わらせ、プリントをまとめる。
第8回 芯：裁断・接着、印付け、縫製工程確認	指定箇所まで作業を終わらせ、プリントをまとめる。
第9回 本縫い①ポケット作り・付け、肩	指定箇所まで作業を終わらせ、プリントをまとめる。
第10回 ②衿作り	指定箇所まで作業を終わらせ、プリントをまとめる。
第11回 ③衿付け	指定箇所まで作業を終わらせ、プリントをまとめる。
第12回 ④袖付け・脇	指定箇所まで作業を終わらせ、プリントをまとめる。
第13回 ⑤袖口・裾	指定箇所まで作業を終わらせ、プリントをまとめる。
第14回 ⑥ボタンホール・ボタン付け、仕上げ、提出	課題・プリント完成。
第15回 試着、発表	全行程を振り返る。

■ 履修上の注意

必要な裁縫用具一式を毎回持参すること。遅刻・欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は、必ず次回までに終わらせておくこと。材料費は各自負担。

■ 成績評価方法・基準

提出物60%、受講状況（作業状況、プリント）を40%として評価する。（未提出がある場合は評価対象としないことがある。）課題については、授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。

■ 教科書

なし プリント配布

■ 参考書

〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座① 服飾造形の基礎／③ ブラウス・ワンピース

〔文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔2, 850円／1, 870円〕

■ 備考

演習内容や課題は、作業の進行状況等により、変更する場合がある。ルーブリック評価については第一回目の授業で説明す

る。質問等については、授業時間内または授業終了後に受け付ける。

被服造形実習Ⅱ

(11271)

単位：1単位

対象学科：健専2年

授業形態：実習 学期：後期

健康栄養学専攻科目

菊地紗代

■ 授業の概要

衣服製作の一連の工程を通し、衣服の基本的構造、制作過程を学び、縫製の専門的な知識・技術の習得を目指す。課題として綿素材のスカートを作成する。自分の体形に合う基本形のスカートの作図に取り組み、コンシールファスナーやベルトの付け方など専門的技術について取り上げ、理解を深めさせる。また、フラットニットファスナーの付け方について、小物製作を通して取り組む。オーダー・お直し、服飾教育現場に携わった講師が指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・ ・ 基本のスカートの製図ができる。

③⑤

・ ・ 専門的な縫製知識・技術を身につける。

③⑤

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	スカートについて、採寸、製図①基本線（各自サイズ実寸）	指定箇所まで作業を終わらせる。プリントをまとめる。
第2回	製図②出来上がり線・ベルト 提出、用布の見積もり	指定箇所まで作業を終わらせる。材料の準備をする。
第3回	パターン縫い代付け・カット・確認、表地：地直し	指定箇所まで作業を終わらせる。プリントをまとめる。
第4回	表地：裁断・印付け、縫製工程確認	指定箇所まで作業を終わらせる。プリントをまとめる。
第5回	部分縫い①コンシールファスナー付け（準備）	指定箇所まで作業を終わらせる。プリントをまとめる。
第6回	〃（本縫い）	部分縫いを完成させる。プリントをまとめる。
第7回	本縫い①ロック、後ろ中心ミシン	指定箇所まで作業を終わらせる。プリントをまとめる。
第8回	②コンシールファスナー付け	指定箇所まで作業を終わらせる。プリントをまとめる。
第9回	③ダーツ・脇ミシン、裾始末	指定箇所まで作業を終わらせる。プリントをまとめる。
第10回	④ベルト作り	指定箇所まで作業を終わらせる。プリントをまとめる。
第11回	⑤ベルト付け	指定箇所まで作業を終わらせる。プリントをまとめる。
第12回	⑥前カン付け、仕上げ 提出	指定箇所まで作業を終わらせる。プリントをまとめる。
第13回	部分縫い②フラットニットファスナー付け（ポーチ）準備	指定箇所まで作業を終わらせる。プリントをまとめる。
第14回	〃 本縫い	部分縫いを完成させる。プリントをまとめ、提出する。
第15回	試着、発表	全行程を振り返る。

■ 履修上の注意

被服実習Ⅰを履修していることが望ましい。授業に必要な裁縫用具一式を毎回持参すること。遅刻・欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は、必ず次回までに終わらせておくこと。材料費は各自負担。

■ 成績評価方法・基準

提出物60%，受講状況（作業状況，プリント）を40%として評価する。（未提出がある場合は評価対象としないことがある。）課題については、授業中にフィードバック，又は後日添削して返却する。

■ 教科書

〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座② スカート・パンツ 文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔1, 870円〕

■ 参考書

無し（適宜プリント配布）

■ 備考

演習内容や課題は，作業の進行状況等により，変更する場合がある。ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。質問等については，授業時間内または授業終了後に受け付ける。

住居学（製図を含む。）

(11272)

単位：2単位

対象学科：健専3年

授業形態：講義 学期：前期

健康栄養学専攻科目

崎 山 俊 雄

■ 授業の概要

住居は、人間生活の基本的な容器であると同時に、社会環境や生活様式、それが建つ地域の風土や文化とも密接に関係している。本講義では、住居や住生活に関する基礎的知識を習得し、文化的・社会的観点から、住宅や住生活についての理解を深める。前半は、住まいについて、風土・機能・空間・生活などの観点を設定して論じ、後半は、前半で身につけた考え方を応用して、独立住宅を設計する。後半の設計演習は、学生の考えや理解度を確認しながら対話型の形式で進めていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--|------|
| ・・住居や住生活を考える上で必要な基礎知識を身につける。 | ①②④⑥ |
| ・・より住空間について自ら考え、表現し、自分の考えを他者に説明する技術を身につける。 | ④⑥ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 授業内容と進め方、評価方法の説明、住生活に関する概説	住居や建築を、その構成や成り立ちを意識して観察する。
第2回 住宅の構成要素	同上
第3回 家族生活と住宅	同上
第4回 風土と住宅	同上
第5回 独立住宅の計画	配布資料を参考にして、事例を収集する
第6回 集合住宅の計画	同上
第7回 図面表現	繰り返し練習して図面表現を習得する
第8回 住宅の計画（1）周辺環境の把握	配置計画（ゾーニング）を練り、授業時に持参する
第9回 住宅の計画（2）必要な室と広さ	設計案を練り、授業時に持参する
第10回 住宅の計画（3）室の配置と動線計画	授業を踏まえて、設計案を改良する
第11回 住宅の計画（4）空間構成	同上
第12回 製図（1）配置図・平面図	配置図・平面図を完成させる
第13回 製図（2）立面図・断面図	立面図・断面図を完成させる
第14回 プレゼンテーション技術	プレゼンテーションを仕上げる
第15回 課題の提出、プレゼンテーションと講評、まとめ	授業を通して得た内容をまとめる

■ 履修上の注意

- ・講義中の指示にしたがい、必要な予習・復習を確実に行って、知識の定着に努めること。
- ・後半の設計演習では、毎回、設計案を持参すること。

■ 成績評価方法・基準

- ・制作物（60%）、プレゼンテーション（20%）、および受講態度（授業への参加態度、提出物、20%）により評価する。
- ・持参した設計案や提出物、プレゼンテーションに対しては、授業中にフィードバックする。

■ 教科書

- ・必要に応じて資料を配布する。

■ 参考書

- ・授業の中で紹介する。

■ 備考

- ・オフィスアワー：授業終了後

保育学（実習及び家庭看護を含む。）

(11273)

単位：2単位

対象学科：健専3年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

香曽我部 琢

■ 授業の概要

本科目では、まず、家庭科教育の「A家族生活と家族」分野の内、保育領域に焦点を当て、その指導に必要とされる基本的な知識と技能を身につける。次に、基本的な知識と技能を基盤として、生涯発達の見地に立ち、最新の脳神経科学や大規模縦断研究の知見をもとに、人の発達や生活における諸様相とその特徴を理解した上で、現代社会において求められる適切な保育者・養育者の援助や環境構成の在り方について検討を行い、専門的知識と技能の修得を目指す。また、これらの専門的知識や技能を身につける際に、アクティブラーニングを実施し、他者や社会との相互作用の中で、自立的にそれらの知識や技能を適応させて問題解決する力を身につける。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--|-----|
| ・「A家族生活と家族」分野における保育領域の指導に必要とされる基本的な知識と技能を習得する。 | ① |
| ・生涯発達の見地に立ち、人の発達や生活における諸様相とその特徴を理解することで、専門的知識と技能を学ぶ。 | ②④ |
| ・身につけた知識と技能を、他者や社会との相互作用の中で総合的、適応的に用いる能力を身につける。 | ④⑥⑧ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション：発達とは何か・保育とは何か	教科書の目次を読んで、授業の概要について把握する。
第2回 新生児、乳児期の発達と発育の特徴	教科書をよく読み、新生児から乳児までの発達の概要を把握する。
第3回 幼児期の発達と発育の特徴	教科書をよく読み、幼児期までの発達の概要を把握する。
第4回 児童期～成人期の発達、生涯発達とは	教科書をよく読み、児童期から青年、成人までの発達の概要を把握する。
第5回 言語と概念の発達	教科書をよく読み、新生児から乳児までの言語と概念発達の概要を把握する。
第6回 社会的認知の発達	教科書をよく読み、新生児から乳児までの社会的認知に関する発達の概要を把握する。
第7回 他者との関係発達	教科書をよく読み、発達における社会の相互作用の影響について概要を把握する。
第8回 生涯発達の視点から捉える自己形成のプロセス	教科書をよく読み、生涯発達の概念について理解する。
第9回 五感の発達：共感覚の発達を知る	教科書をよく読み、共感覚について知る。
第10回 脳神経科学の視点で発達を捉える	教科書をよく読み、脳神経科学の最新の知見について把握する。
第11回 社会・文化心理学の視点で発達を捉える	教科書をよく読み、社会・文化心理学における発達の概念の特徴を知る。
第12回 比較行動学・進化心理学の視点で発達を捉える	教科書をよく読み、ヒト以外の動物の学習や認知の発達について、その概要を把握する。
第13回 発達理論の歴史の変遷	教科書をよく読み、ヒトの発達を捉える概念の歴史の変遷を把握する。
第14回 遊びの発達	教科書をよく読み、遊びが幼児の心身の発達に与える影響を把握する。
第15回 生活習慣の育ちを知る	教科書をよく読み、乳幼児期に生活習慣を身につける意義を把握する。

■ 履修上の注意

遅刻3回で欠席1回とする。

■ 成績評価方法・基準

授業ごとのリアクションペーパー（40%）、基礎的な知識に関する小テスト（30%）、平常点（30%）

リアクションペーパーと小テストの未提出は評価の対象としないことがある。
リアクションペーパーや小テストについては後日添削して返却する。

■ 教科書

〔子ども理解のメソドロジー〕〔中坪史典〕〔ナカニシヤ出版〕〔2, 160円〕

■ 参考書

〔発達心理学をアクティブに学ぶ〕〔山本真由美〕〔北大路書房〕〔2, 376円〕

■ 備考

- ・ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明します。
- ・質問等については、授業終了後に受け付けます。

家庭電気・機械

(11274)

単位：2単位

対象学科：健専3年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

門 田 和 雄

■ 授業の概要

日常生活では多種多様な家庭電気機器が利用されている。そして、これらの機械的しくみ及び電気回路、制御方法などを理解し、合理的、創造的な生活態度を身につけることが現代人にとって不可欠となっている。本講義では家庭電気・機械の理解に必要な機械工学（機械の動くしくみであるリンク機構やカム機構、また代表的な機械要素であるねじや歯車など）と電気工学（電気回路や電子回路、制御回路など）の基礎的事項を学ぶとともに、身の回りの家庭電気機械の保守点検についても解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・機械工学の基礎知識を身につける。	①②
・電気工学の基礎知識を身につける。	①②
・家庭電気機器の簡単な保守・点検ができる。	①②

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 エネルギー変換に関する技術	エネルギーとは何か
第2回 機械エネルギーと熱エネルギー	機械とは何か、熱とは何か
第3回 電気エネルギーを作るしくみ：さまざまな発電方式	発電方式の種類について
第4回 電気エネルギーを供給するしくみ：送電・配電	直流と交流について
第5回 電気回路の基礎：オームの法則、直列・並列	オームの法則について
第6回 家庭電気機器のしくみ1：アイロン、照明器具	熱エネルギー、光エネルギーの利用
第7回 家庭電気機器のしくみ2：炊飯器、電子レンジ	電磁波のエネルギー
第8回 家庭電気機器のしくみ3：洗濯機、掃除機、ミシン	電気モータの種類について
第9回 電気機器の安全な使い方：ブレーカ、アース	電気部品の定格
第10回 電気機器の保守・点検：テスターの使い方	テスターとは
第11回 機械要素とそのはたらき1：ねじ	家庭電気機器に用いられるねじ
第12回 機械要素とそのはたらき2：歯車、ベルト、チェーン	家庭電気機器に用いられる歯車
第13回 機械要素とそのはたらき3：軸受、軸接手、ばね	家庭電気機器に用いられるばね
第14回 機械要素とそのはたらき4：リンク機構、カム機構	家庭電気機器に用いられるリンク機構
第15回 まとめ	全体的な復習
第16回 試験	

■ 履修上の注意

毎回、小テストを実施する。

■ 成績評価方法・基準

期末試験（60%）、小テスト（20%）、事前・事後学習を含む授業姿勢（20%）

提出された課題は、後日添削して返却する。

■ 教科書

授業時にプリントを配布する

■ 参考書

〔新しい技術・家庭〕〔技術分野〕〔東京書籍〕〔価格〕

■ 備考

質問等は、授業終了後受け付けます。

情報処理 I

(11275)

単位：2単位

対象学科：健専3年

授業形態：講義 学期：前期

健康栄養学専攻科目

水谷 浩

■ 授業の概要

管理栄養士としての業務は、さまざまな統計資料を利用するだけでなく、実践活動のなかで収集されたデータを正確に処理・分析し、そこから得られた結果（有用な情報）を発信していくことが求められる。

本授業では、民間シンクタンクの研究員やシステム担当者としての実務経験を活かし、ビジネス文書作成やPCを用いたプレゼンテーション技法に加え、栄養素の摂取量や栄養状態などの調査結果を解析するための知識や技能を教授することにより、栄養改善の提案に役立つ情報リテラシーの取得をめざしています。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---------------------------------|-----|
| ・1) ソフトウェアを利・活用し、文章表現や統計計算ができる | ④⑤⑥ |
| ・2) 情報倫理に配慮し、情報の収集・加工・表現・発信ができる | ④⑤⑥ |
| ・3) ICTの仕組みと原理を理解し、説明できる | ④⑤⑥ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	テーマ：情報倫理とは？ 概要：授業のすすめ方・評価の説明，情報倫理について学ぶ	学生便覧の「ソーシャルメディア利用のガイドライン」および「OA実習室・OA教室利用案内」を必ず熟読しておくこと。
第2回	テーマ：日本語文書処理 I 概要：Microsoft Wordの基本（入力・書式変更）を学ぶ	同上
第3回	テーマ：日本語文書処理 II 概要：Microsoft Wordの応用①（見やすい文書作成）を学ぶ	授業計画の内容やテキストを参考にして，Wordの諸機能を確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し，Wordの諸機能について振り返り（復習）を行うこと。
第4回	テーマ：日本語文書処理 III 概要：Microsoft Wordの応用②（画像・グラフ挿入）を学ぶ	同上
第5回	テーマ：日本語文書処理 IV 概要：Microsoft Wordの応用③（描画機能）を学ぶ	同上
第6回	テーマ：日本語文書処理 V 概要：これまでの授業の振り返り（課題作成）	同上
第7回	テーマ：表計算 I 概要：Microsoft Excelの基本（表・グラフの作成）を学ぶ	授業計画の内容やテキストを参考にして，Excelの諸機能を確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し，Excelの諸機能について振り返り（復習）を行うこと。
第8回	テーマ：表計算 II 概要：Microsoft Excelの応用①（表・グラフの加工）を学ぶ	同上
第9回	テーマ：表計算 III 概要：Microsoft Excelの応用②（データベース機能）を学ぶ	同上
第10回	テーマ：表計算 IV 概要：Microsoft Excelの応用③（関数の使い方）を学ぶ	同上
第11回	テーマ：表計算 V 概要：これまでの授業の振り返り（課題作成）	同上
第12回	テーマ：プレゼンテーション I 概要：Microsoft PowerPointの基本（スライド作成）を学ぶ	授業計画の内容やテキストを参考にして，PowerPointの各種機能について確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し，PowerPointの各種機能について，各自で振り返り（復習）を行うこと。
第13回	テーマ：プレゼンテーション II 概要：Microsoft PowerPoint応用（オブジェクト作成）を学ぶ	同上
第14回	テーマ：プレゼンテーション III 概要：これまでの授業の振り返り（課題作成）を行う	同上
第15回	テーマ：まとめ 概要：課題発表	5分以内に発表できるように練習する

■ 履修上の注意

2/3以上の出席がない場合には、単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+課題発表(35%)にもとづき評価します。

なお、課題については、授業中にフィードバックをします。また、実習費(1000円)を徴収します。

※ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔Windows10・Office2016による情報処理入門〕〔高橋敏夫監修〕〔実教出版〕〔2200円〕

■ 参考書

授業中に適宜指示します。

■ 備考

質問などは、オフィスアワー(日時は掲示で確認のこと)に受けつけます。

消費生活論

(11276)

単位：2単位

対象学科：健専2年

授業形態：講義 学期：前期

健康栄養学専攻科目

水谷 浩

■ 授業の概要

私たちは、誰もが「消費者」である。さまざまな商品やサービスを購入し、それらを利用（消費）し、暮らしている。そうしたなか「経済的に効率良く、地球環境にも配慮し、暮らしていくためには、合理的な意思決定を行うための智慧（消費者力）が求められる。

本講義では、消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かし、消費者問題の歴史の変遷を解説するとともに、消費者・行政・企業の事例研究を通じて「現代社会を生きていくために知っておくべきこと、暮らしに役立つこと（消費者力）」の修得をめざしている。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--------------------------------|----|
| ・1)現代社会に欠かせない智慧として、消費者問題を理解できる | ①② |
| ・2)全ての人に関わる問題と認識し、消費者問題を説明できる | ⑤⑥ |
| ・3)今後の消費者・行政・企業のあるべき姿について説明できる | ④⑦ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	テーマ：授業のすすめ方・評価、消費者力の説明 概要：現代社会を生きていくための智慧とは？	授業計画やテキストなどを参考にして、予習すること。 講義ノートを読み直し、学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第2回	テーマ：消費者政策の歴史 概要：消費者保護基本法から消費者基本法へ転換した理由は？	同 上
第3回	テーマ：消費者政策の理念と歴史 概要：消費者の4つの権利から6つの権利へ発展した理由は？	「消費者の4つの権利」と「消費者の6つの権利」についてA4用紙2枚（1,600字以上）のレポートにまとめ提出。
第4回	テーマ：消費者行政と消費者関係法 概要：消費者に役立つ様々な法律を学ぶ	同 上
第5回	テーマ：消費生活の安全の確保 概要：消費生活相談員の役割を学ぶ	同 上
第6回	テーマ：広告・表示の適正化 概要：景品表示法関連法令と事例について学ぶ	インターネット取引における広告・表示規制について調べ、A4用紙2枚（1,600字以上）のレポートにまとめ提出。
第7回	テーマ：消費者契約の適正化 概要：消費者契約法と重要説明事項を学ぶ	同 上
第8回	テーマ：企業と業界団体の責務 概要：消費者・顧客志向の経営を学ぶ	同 上
第9回	テーマ：消費者対応部門の役割と機能 概要：企業の消費者対応を学ぶ	東北地域の企業・業界団体の消費者対応を調べ、その概要をまとめるとともに、その取り組みに対する所感についてA4用紙2枚（1,600字以上）のレポートを作成し、提出。ただし、取り上げる企業・業界団体は3社以上とする。
第10回	テーマ：業界団体の消費者対応 概要：通販110番や訪問販売110番などの事例について学ぶ	同 上
第11回	テーマ：消費者教育 概要：国民生活センターや日本消費者協会を事例について学ぶ	「現代社会を生きていくために知っておくべきこと、暮らしに役立つこと」の視点から、これまでの授業のなかで、最も印象に残ったことについて要約し、考察を加え、A4用紙2枚（1,600字以上）のレポートにまとめ提出。
第12回	テーマ：消費生活における情報の重要性 概要：合理的な意思決定とは？	同 上
第13回	テーマ：消費生活情報の現況Ⅰ 概要：暮らしに役立つ情報を見極めるには？	同 上
第14回	テーマ：消費生活情報の現況Ⅱ 概要：賢い消費行動の実践に向けて	同 上

■ 履修上の注意

2/3以上の出席がない場合には、単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)に基づき評価する。

なお、課題については、授業中にフィードバックをします。

※ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔消費生活論〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔1600円〕

■ 参考書

授業中に適宜指示します。

■ 備考

質問などは、オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に対応します。

学校栄養指導論

(11277)

単位：2単位

対象学科：健専3年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

深澤 律子

■ 授業の概要

栄養教諭として児童生徒に合わせた指導を行うため、より広い知識と教養を身につけ実際に指導案を作成し、栄養指導の模擬授業を行いながら修得する。そのために、児童生徒の心理や発達段階を踏まえた上での指導案の作成、教材づくりを指導する。また、各教科との食に関連する指導の関わり方を考え、他教科の先生方と連携し総合的な学びにつながるよう広い視野で考察し、栄養指導を実践する方法を解説する。その他、食教育を行うための学校内外関係者との地域連携についても理解し、地域における児童生徒の栄養教育について実践を通して指導する。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・栄養教諭の役割や食育について理解する。	①②③
・指導案の作成、栄養指導を実施し、食育の授業ができる力を身につける。	④⑤⑦⑧⑨
・栄養だよりの作成、指導後の発表、レポート作成ができる。	④⑤⑦⑧⑨

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 栄養教諭の配置・身分・職務、学校給食の意義、その他	テキスト、学習指導要領を読む。
第2回 食に関する指導の展開1（既存の指導案を基に指導する）	既存の指導案を調べ、班ごとに教育媒体の作成・発表練習を行う。ひらがな・カタカナの書き順を書き写し、3回目に提出。
第3回 食に関する指導の展開1（既存の指導案を基に指導する）	既存の指導案を調べ、班ごとに教育媒体の作成・発表練習を行う。小学校1・2年生で学ぶ漢字をレポートに書いて4回目に提出。
第4回 食に関する指導の展開1（発表・見学・班ごと）①	班ごとに教育媒体の作成・発表練習を行う。小学校3年生で学ぶ漢字をレポートに書いて5回目に提出。
第5回 食に関する指導の展開1（発表・見学・班ごと）②	班ごとに教育媒体の作成・発表練習を行う。小学校4年生で学ぶ漢字をレポートに書いて6回目に提出。
第6回 食に関する指導の展開1（発表・見学・班ごと）③	班ごとに教育媒体の作成・発表練習を行う。小学校5年生で学ぶ漢字をレポートに書いて7回目に提出。
第7回 食に関する指導の展開2（指導案を考え、指導、班ごと）④	班ごとに指導案を考え、教育媒体の作成・発表練習を行う。小学校6年生で学ぶ漢字をレポートに書いて8回目に提出。発表者に対して評価、感想を書く。発表者は、授業の改善点についてレポートに書き提出。
第8回 食に関する指導の展開2（発表・見学・班ごと）①	班ごとに教育媒体の作成・発表練習を行う。発表者に対して評価、感想を書く。発表者は、授業の改善点についてレポートに書き提出。
第9回 食に関する指導の展開2（発表・見学・班ごと）②	班ごとに教育媒体の作成・発表練習を行う。発表者に対して評価、感想を書く。発表者は、授業の改善点についてレポートに書き提出。
第10回 食に関する指導の展開2（発表・見学・班ごと）③	班ごとに教育媒体の作成・発表練習を行う。発表者に対して評価、感想を書く。発表者は、授業の改善点についてレポートに書き提出。
第11回 食に関する指導の展開3（個人で指導案を考え指導を行う）①	個人で発表準備、教育媒体の作成・発表練習を行う。発表者に対して評価、感想を書く。発表者は、授業の改善点についてレポートに書き提出。
第12回 食に関する指導の展開3（発表・見学・個人）②	個人で教育媒体の作成・発表練習を行う。発表者に対して評価、感想を書く。発表者は、授業の改善点についてレポートに書き提出。
第13回 食に関する指導の展開3（発表・見学・個人）③	個人で教育媒体の作成・発表練習を行う。発表者に対して評価、感想を書く。発表者は、授業の改善点についてレポートに書き提出。

■ 履修上の注意

栄養教諭免許取得予定者は必ず受講する。来年度の栄養教育実習にむけて、発表や模擬授業など実践を主体とした授業とする。受講人数によって授業計画が変更される場合がある。テキストや学習指導要領を読み、対象者に合わせた指導案を考える。発表に向けて各自教育媒体の準備や練習をする。小学生の親子クッキング、地域の子ども食堂、児童センターでの食育のボランティア活動等を随時案内するので積極的に参加し、学ぶ姿勢が望ましい。食育ボランティア活動の経験も取り組む姿勢として評価に加える。

■ 成績評価方法・基準

指導案、レポートなど提出物が60%、模擬授業の取り組み40%で評価。模擬授業の未実施、未提出レポートがある場合は評価しないことがある。レポートは後日添削して返却する。課題については授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

〔栄養教諭論Ⅱ 実践研究〕〔金田雅代編著〕〔建帛社〕〔2592円〕、〔食に関する指導の手引〕〔東山書房〕〔1296円〕
〔小学校学習指導要領（平成29年告示）〕〔東洋館出版社〕〔217円〕

■ 参考書

授業内に適宜紹介

■ 備考

・都合により授業計画の順番等を変更することがある。ルーブリック評価については1回目の授業で説明する。質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付ける。

学校食育概論

(11278)

単位：2単位

対象学科：健専3年

授業形態：講義 学期：前期

健康栄養学専攻科目

大槻友子

■ 授業の概要

栄養教諭としての実務経験を生かし、次の内容を教授する。

- ・国が食育を推進するにあたり法律を定めたこと、それに伴い学校での食育を進めるために様々な法律の改正などが行われたことを理解させる。
- ・児童・生徒の食に関わる現代的課題をふまえ、学校給食及び食に関する指導において栄養教諭が果たす役割及び職務内容について理解を深めさせる。
- ・食に関する指導の計画、実施、評価に関する知識を習得させる。
- ・栄養教諭が行う食に関する具体的な指導を知り、4年時の栄養教諭の教育実習に結びつくような知識、技能を身につけ実践できるようにさせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・学校の食に関する指導の基礎的事項を習得する
- ・教育実習に必要な指導の実践力を身につける

①④
①④

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス、食に関する現代的課題	現代の課題を考え、まとめておく
第2回	食育基本法・食育推進基本計画の推進	教科書を読む p3～
第3回	学校における食育推進と栄養教諭の役割、食に関する指導の全体計画	教科書を読む p5～
第4回	学校・家庭・地域が連携した食育の推進	教科書を読む p26～
第5回	給食時間における食に関する指導	教科書を読む p218～
第6回	給食時間における食に関する指導(教材研究)	教科書を読む p218～
第7回	学校給食におけるリスクマネジメント	教科書を読む p229～
第8回	教科等における食に関する指導の展開(総論)	教科書を読む p74～
第9回	社会・理科・生活科における食に関する指導	教科書を読む p77～
第10回	家庭科・技術家庭科における食に関する指導	教科書を読む p103～
第11回	体育科、保健体育科における食に関する指導	教科書を読む p120～
第12回	総合的な学習の時間における食に関する指導	教科書を読む p144～
第13回	特別活動における食に関する指導の展開	教科書を読む p157～
第14回	個別的な相談指導の進め方	教科書を読む p234～
第15回	学校における食育の推進の評価・まとめ	教科書を読む p252～

■ 履修上の注意

講義記録ノートを準備し、配布プリントは整理しファイルする。

■ 成績評価方法・基準

受講態度50% レポートなど50%

提出されたレポートは、後日、添削して返却する。

■ 教科書

〔食に関する指導の手引き（第二次改訂版）〕〔文部科学省〕〔健学社〕〔1, 300円〕

■ 参考書

随時プリント配布

■ 備考

質問等については授業終了時に受けつける。

都合により授業計画の順番等を変更することがある。

セミナーⅠ

(11279)

単位：1単位

対象学科：健専3年

授業形態：演習 学期：後期

健康栄養学専攻科目

健康栄養学専攻教員

■ 授業の概要

本科目は、3年次の管理栄養士国家試験対策の一環として開講する。これまでに修得した管理栄養士国家試験を突破するために必要な知識を基本に、模擬試験の受験を通じて、修得した知識の確認と弱点の把握を目指す。具体的には、以下の内容を扱う。

- ①管理栄養士国家試験の出題分野（科目）の過去問を題材に、修得の必要がある点を教授する。
- ②出題分野（科目）ごとに出題範囲、頻出事項について解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・国家試験受験に必要な知識を身につける。

①②③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	社会・環境と健康（伊藤）①	予習・復習を行い、知識を整理する。
第2回	社会・環境と健康（伊藤）②	予習・復習を行い、知識を整理する。
第3回	社会・環境と健康（伊藤）③	予習・復習を行い、知識を整理する。
第4回	臨床栄養学（高橋）①	予習・復習を行い、知識を整理する。
第5回	臨床栄養学（高橋）②	予習・復習を行い、知識を整理する。
第6回	臨床栄養学（高橋）③	予習・復習を行い、知識を整理する。
第7回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（曽根、鈴木）①	予習・復習を行い、知識を整理する。
第8回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（曽根、鈴木）②	予習・復習を行い、知識を整理する。
第9回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（曽根、鈴木）③	予習・復習を行い、知識を整理する。
第10回	栄養教育論（小野）①	予習・復習を行い、知識を整理する。
第11回	栄養教育論（小野）②	予習・復習を行い、知識を整理する。
第12回	栄養教育論（小野）③	予習・復習を行い、知識を整理する。
第13回	給食経営管理論 ①	予習・復習を行い、知識を整理する。
第14回	給食経営管理論 ②	予習・復習を行い、知識を整理する。
第15回	給食経営管理論 ③	予習・復習を行い、知識を整理する。
第16回	模擬試験	知識の修得状況を確認する。

■ 履修上の注意

- ・管理栄養士国家試験受験を希望する者は履修すること。
- ・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席や遅刻がないように注意すること。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点50%（平常点は、感想用紙の提出および問題集の進行度合いなどを総合的に判断する）、模擬試験50%で評価する。

■ 教科書

〔管理栄養士国家試験 問題集〕〔大学作成〕

〔クエスチョンバンク2022〕〔メディックメディア〕（7月発売予定）

■ 参考書

各授業で使用した教科書など（各担当の教員が指示する）。

■ 備考

質問等は、各授業の担当教員が授業終了時やオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で対応する。

セミナーⅡ

(11280)

単位：1 単位

対象学科：健専4年

授業形態：演習 学期：後期

健康栄養学専攻科目

健康栄養学専攻教員

■ 授業の概要

本科目は、4年次の管理栄養士国家試験対策の一環として開講する。これまでに修得した管理栄養士国家試験を突破するために必要な知識を基本に、模擬試験の受験を通じて、修得した知識の確認と弱点の把握を目指す。具体的には、以下の内容を扱う。

①管理栄養士国家試験の出題分野（科目）の過去問を題材に、修得の必要がある点を教授する。

②応用問題のように、出題分野（科目）を横断する内容の問題について、特徴や要点を説明する。

□

授業担当：専攻教員（鈴木、伊藤、佐藤、曾根、栗山、川俣、小野、深澤、高橋、八巻）、外部講師

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・国家試験受験に必要な知識を身につける。

①②③

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス（栗山、川俣）	学習目標を確認する。
第2回 模擬試験①（栗山、川俣）	知識の修得状況を把握し、弱点を克服する。
第3回 問題解説（全教員）①	予習、復習を通じて、知識を整理し、弱点を克服する。
第4回 問題解説（全教員）②	予習、復習を通じて、知識を整理し、弱点を克服する。
第5回 問題解説（全教員）③	予習、復習を通じて、知識を整理し、弱点を克服する。
第6回 問題解説（全教員）④	予習、復習を通じて、知識を整理し、弱点を克服する。
第7回 模擬試験②（栗山、川俣）	知識の修得状況を把握し、弱点を克服する。
第8回 問題解説（全教員）⑤	予習、復習を通じて、知識を整理し、弱点を克服する。
第9回 問題解説（全教員）⑥	予習、復習を通じて、知識を整理し、弱点を克服する。
第10回 問題解説（全教員）⑦	予習、復習を通じて、知識を整理し、弱点を克服する。
第11回 模擬試験③（栗山、川俣）	知識の修得状況を把握し、弱点を克服する。
第12回 問題解説（全教員）⑧	予習、復習を通じて、知識を整理し、弱点を克服する。
第13回 問題解説（全教員）⑨	予習、復習を通じて、知識を整理し、弱点を克服する。
第14回 問題解説（全教員）⑩	予習、復習を通じて、知識を整理し、弱点を克服する。
第15回 模擬試験④（栗山、川俣）	知識の修得状況を把握し、弱点を克服する。

■ 履修上の注意

- ・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席がないように注意すること。
- ・模擬試験の開催日時、問題解説の内容については、掲示で連絡する。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点50%（平常点は、感想用紙の提出および問題集の進行度合いなどを総合的に判断する）、模擬試験の結果50%を総合的に評価する。
- ・提出物や模擬試験は、後日フィードバックを行う。

■ 教科書

〔管理栄養士国家試験 問題集〕〔大学作成〕

〔クエスチョンバンク2021〕〔メディックメディア〕※3年次に購入済み

■ 参考書

各授業で使用した教科書など（各担当の教員が指示する）。

■ 備考

質問等は、各授業の担当教員が授業終了時やオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で対応する。

家政特別講義 I

(11281)

単位：2単位

対象学科：健専1年

授業形態：講義 学期：通年

健康栄養学専攻科目

伊藤 常久 深澤 律子

■ 授業の概要

管理栄養士の使命及び社会における役割や活動分野について理解させる。管理栄養士としての基本的な態度を身につけさせると共に食品、調理、栄養等に関する基礎知識及び食の安全や衛生を含む食生活について学習し、日常生活においても実践できるようにする。栄養士・管理栄養士の仕事について、総合的に理解出来るよう指導する。また、付随する内容において1年次から学生生活を円滑に過ごすためのグループワーク等を必要に応じて行う。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・栄養士・管理栄養士の役割について理解出来る	①②③⑦
・食品・調理・栄養素について理解出来る	①②③⑦
・栄養士・管理栄養士の活動内容について理解出来る	①②③⑦

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス（衛生チェック等）（伊藤・深澤）	教科書の概要とその内容について目を通しておく。
第2回 食生活について（食事バランスガイド）（伊藤・深澤）	教科書3章をよく読み、自身の食生活についてまとめておく。
第3回 食生活について（歴史）（伊藤・深澤）	教科書3章をよく読み、食文化について情報を整理し、まとめておく。
第4回 学生生活で必要なこと（マナー・授業）（伊藤・深澤）	教科書2章の内容及び本学での修学形態についてまとめておく。
第5回 学生生活で必要なこと（専門科目の理解）（伊藤・深澤）	教科書2章や学生便覧を読み、カリキュラム等について確認しておく。
第6回 栄養士・管理栄養士について（仕事）（伊藤・深澤）	教科書1章をよく読み、栄養士等の業務活動の内容についてまとめておく。
第7回 栄養士・管理栄養士について（資格取得）（伊藤・深澤）	教科書1章をよく読み、資格や国家試験の内容についてまとめておく。
第8回 授業で使える基礎知識（化学・栄養系）（伊藤・深澤）	教科書9章をよく読み、化学・栄養学の基礎知識について内容をまとめておく。
第9回 授業で使える基礎知識（調理・数理系）（伊藤・深澤）	教科書9章をよく読み、調理科学等の基礎知識について内容をまとめておく。
第10回 レポートの書き方（作成方法）（伊藤・深澤）	教科書8章をよく読み、レポート作成について内容をまとめておく。
第11回 レポートの書き方（情報収集）（伊藤・深澤）	教科書8章をよく読み、情報収集時の要点についてまとめておく。
第12回 調理と献立について（調理実習の心構え）（伊藤・深澤）	教科書7章を読み、調理での衛生・安全管理の内容についてまとめておく。
第13回 調理と献立について（献立作成）（伊藤・深澤）	教科書7章をよく読み、献立作成に必要な情報を整理し、まとめておく。
第14回 調理と献立について（レシピ評価）（伊藤・深澤）	献立の写真・喫食の感想を踏まえ、相互に評価・改善した内容をまとめておく。
第15回 前期内容のまとめ（伊藤・深澤）	教科書・資料を参考に前期の授業で扱った内容についてまとめておく。
第16回 栄養と食品について（伊藤・深澤）	教科書4章をよく読み、食事摂取基準等の内容についてまとめておく。
第17回 人体の構造と働きについて（伊藤・深澤）	教科書5章をよく読み、各臓器の役割等についてまとめておく。
第18回 安全な食事について（伊藤・深澤）	教科書6章をよく読み、衛生管理についてまとめておく。
第19回 臨地実習・校外実習について（伊藤・深澤）	教科書10章をよく読み、実習毎の特徴と違いについてまとめておく。
第20回 食育・ボランティア活動について（伊藤・深澤）	配布資料をよく読み、学内外での食・栄養に関する活動やボランティア等の取り組みについてまと

		めておく。
第21回	栄養士の1日について（伊藤・深澤）	教科書11章をよく読み、職域による違いについてまとめておく。
第22回	家政特別講義（卒業生）の聴講（前半）（伊藤・深澤）	講話前半の概要についてまとめておく。
第23回	家政特別講義（卒業生）の聴講（後半）（伊藤・深澤）	要点をまとめ、質問内容についても記入出来るよう整理しておく。
第24回	家政特別講義（卒業生）のまとめ（伊藤・深澤）	感想の記入と共に講話の概要等についてまとめておく。
第25回	課題研究発表会について（伊藤・深澤）	本学での課題研究発表会の趣旨や歴史（前年度の状況等）についてまとめておく。
第26回	課題研究発表会の聴講（伊藤・深澤）	抄録をよく読み、実際の発表内容についてまとめておく。
第27回	課題研究発表会の聴講（続き）（伊藤・深澤）	抄録と発表内容を踏まえ、質疑の内容について整理し、まとめておく。
第28回	課題研究の意義とまとめ（伊藤・深澤）	質疑応答を含めた全体の概要と感想について、レポートにまとめる。
第29回	後期内容のまとめ（伊藤・深澤）	教科書・資料を参考に後期の授業で扱った内容についてまとめておく。
第30回	一年間を振り返って（伊藤・深澤）	抱負と今後の課題について振り返り、自己評価を行う。

■ 履修上の注意

学事への参加及び外部講師による内容の場合は日時や場所が変更となるため、掲示を確認して下さい。授業計画は、やむを得ず変更する可能性（講義の順番が前後したり、内容を一部調整したりする場合等）があります。なお、遅刻3回で欠席1回とみなします。

■ 成績評価方法・基準

授業態度（参加状況等）：50%、提出物（ミニットペーパー等）：50%で評価します。未提出の場合は評価の対象外とします。フィードバックとして、提出物は確認・返却します。

■ 教科書

〔イラストで学ぶ栄養士・管理栄養士の世界〕〔松永美雪〕〔学建書院〕〔1,800円＋税〕

■ 参考書

学生便覧（令和3年度版）の他、必要に応じて紹介します。

■ 備考

質問等は、授業終了後またはオフィスアワーにて受け付けます。

家政特別講義Ⅱ

(11282)

単位：2単位

対象学科：健専2年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

川 俣 幸 一 高 橋 文

■ 授業の概要

将来、食と栄養の専門家として働くために必要な知識や情報、技術や能力の取得を目指す。学外研修として施設見学を行い、実際の業務内容や衛生管理等を体験し学習する。学内で開催される臨地実習報告会を聴講し、学校・事業所・介護福祉施設・病院・医療機関・保健所・保健センターでの学修を、自分の中で咀嚼し理解する。家政特別セミナー、課題研究発表会等を通して栄養士・管理栄養士を目指すために必要な知識や情報および技術を享受する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・管理栄養士・栄養士となるために必要な知識と技術・態度を身に着ける
- ・管理栄養士・栄養士の業務内容について理解できる
- ・自己の将来に必要な知識・情報・技術および態度について理解できる

①②③⑤⑦

①②③⑤⑦

①②③⑤⑦

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション	管理栄養士に必要な資質を考える。
第2回 学外研修	施設研修での質問を考えて臨む。見学のレポートを書いて提出。
第3回 学外研修	施設研修での質問を考えて臨む。見学のレポートを書いて提出。
第4回 学外研修	施設研修での質問を考えて臨む。見学のレポートを書いて提出。
第5回 学外研修	施設研修での質問を考えて臨む。見学のレポートを書いて提出。
第6回 学外研修	施設研修での質問を考えて臨む。見学のレポートを書いて提出。
第7回 課題研究発表会の聴講	課題研究発表会の感想を提出する。
第8回 課題研究発表会の聴講	課題研究発表会の感想を提出する。
第9回 家政特別セミナーの聴講	家政特別セミナーの感想を提出する。
第10回 家政特別セミナーの聴講	家政特別セミナーの感想を提出する。
第11回 臨地実習報告会の聴講	臨地実習報告会の感想を提出する。
第12回 臨地実習報告会の聴講	臨地実習報告会の感想を提出する。
第13回 臨地実習報告会の聴講	臨地実習報告会の感想を提出する。
第14回 臨地実習報告会の聴講	臨地実習報告会の感想を提出する。
第15回 まとめ、今後の学習に関する説明	これまでの感想、今後の学習目標をまとめ、提出する。

■ 履修上の注意

開講日程は、掲示等の連絡とする。授業計画は、順番が変更となる場合や、学外研修が夏休みになることもある。

■ 成績評価方法・基準

課題レポート・・・90%、受講態度・・・10%（学外講師や上級生から謙虚に学ぶ姿勢）

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。

家政特別講義Ⅲ（臨地栄養学演習）

(11283)

単位：2単位

対象学科：健専3年

授業形態：講義 学期：後期

健康栄養学専攻科目

栗山孝雄 高橋文

■ 授業の概要

給食管理臨地実習の終了後のまとめと報告、4年次の公衆栄養学臨地実習、臨床栄養学臨地実習を実践するための準備を行う。

具体的な内容は、次の通りである。

(1) 給食管理臨地実習の終了後のまとめと報告を通じて、施設ごとの給食管理に関する理解をさらに深め、必要な知識や技術が確認できるよう教授する。

(2) 4年次における公衆栄養学臨地実習、臨床栄養学臨地実習を実践するため、必要な知識や技術について教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・報告会を通じ、お互いの経験を共有できる。
- ・課題に対する解決方法を立案できる。
- ・管理栄養士、栄養士に必要な知識と技術を理解できる。

②③⑤⑧

②③⑤⑧

②③⑤⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	給食管理臨地実習	報告会①：学校	実習を振り返り、報告の準備と練習を行う。 聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第2回	給食管理臨地実習	報告会②：給食センター	実習を振り返り、報告の準備と練習を行う。 聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第3回	給食管理臨地実習	報告会③：障害者福祉施設	実習を振り返り、報告の準備と練習を行う。 聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第4回	給食管理臨地実習	報告会④：事業所	実習を振り返り、報告の準備と練習を行う。 聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第5回	給食管理臨地実習	報告会⑤：自衛隊	実習を振り返り、報告の準備と練習を行う。 聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第6回	公衆栄養学臨地実習	ガイダンス	保健所、市町村の管理栄養士の役割を復習する。
第7回	公衆栄養学臨地実習	に必要な事柄について	実習を行う際に必要となる知識を確認し、理解する。
第8回	臨床栄養学臨地実習	ガイダンス	医療機関の管理栄養士の役割を復習する。
第9回	臨床栄養学臨地実習	に必要な事柄について	実習を行う際に必要となる知識を確認し、理解する。
第10回	公衆栄養学臨地実習	報告会の聴講①：保健所	聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第11回	公衆栄養学臨地実習	報告会の聴講②：市町村	聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第12回	臨床栄養学臨地実習	報告会の聴講①：医療機関	聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第13回	臨床栄養学臨地実習	報告会の聴講②：医療機関	聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第14回	給食管理臨地実習	報告会⑥：介護福祉施設	実習を振り返り、報告の準備と練習を行う。 聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第15回	4年次の臨地実習	にむけて	今後の実習の目標を考える。 実習に必要な知識、技術を学習する。

■ 履修上の注意

・3年次の校外実習・臨地実習のまとめと報告、4年次の臨地実習の事前準備となる授業のため、積極的な姿勢で取り組むこと。

- ・遅刻や無断欠席がないよう注意する。
- ・受講態度に問題のある者（居眠り、私語など）は、状況に応じて注意、指導する。状況によっては減点、評価対象から外す（不合格）となる場合もある。

■ 成績評価方法・基準

- ・受講態度50%（積極的な態度、目的意識、遅刻・欠席の状況）、提出物50%（内容、提出期限の順守）
- ・提出物は、適時フィードバックを行う。

■ 教科書

〔臨地実習テキスト〕〔大学オリジナル〕〔無料〕

〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔田中貞一郎ほか〕〔萌文書林〕〔1,800円+税〕

■ 参考書

なし。適時紹介する。

■ 備考

質問等については、各授業の担当教員が授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で受付ける。

家政特別講義Ⅳ（臨地栄養学演習）

(11284)

単位：2単位

対象学科：健専4年

授業形態：講義 学期：前期

健康栄養学専攻科目

栗山 孝雄 高橋 文

■ 授業の概要

公衆栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱ、ならびに臨床栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱの実習前、ならびに実習後に必要な事項を教授する。具体的な内容は、次の通りである。

(1) 実習前の授業 ①実習施設の特徴、管理栄養士・栄養士の業務や役割について解説する。実際に、実習施設の管理栄養士による特別講義も行う。②実習を行うために必要な準備、注意事項などについて説明する。③事前課題に関する指導、助言を行う。

(2) 実習後の授業：実習のまとめ、実習報告について、適宜指導、助言を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・実習先の施設の特徴を理解できるようになる。
- ・実習先の管理栄養士の業務、役割を理解できるようになる。

②③⑤⑧
②③⑤⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス：実習の目的・目標の説明（栗山、高橋）	実習の目的・目標を確認する。
第2回 保健所栄養士の業務と役割（栗山、保健所栄養士）	保健所栄養士の業務と役割を確認する。
第3回 市町村栄養士の業務と役割（栗山、市町村栄養士）	市町村栄養士の業務と役割を確認する。
第4回 病院栄養士の業務と役割（高橋、病院栄養士）	病院栄養士の業務と役割を確認する。
第5回 老健施設栄養士の業務と役割（高橋、老健施設栄養士）	老健施設栄養士の業務と役割を確認する。
第6回 実習施設に関する注意事項の説明（栗山、高橋）	復習し、注意事項を理解する。
第7回 実習関係の書類、日誌の記入方法について（栗山、高橋）	記入に関する要点を理解する。
第8回 実習施設の特徴の把握（栗山、高橋）	実習施設の特徴を調べる。
第9回 実習施設ごとの事前課題の確認（栗山、高橋）	実習先に事前課題の問合せを行う。
第10回 事前課題の作業・打合せ（栗山、高橋）	事前課題をまとめ、授業に臨む。
第11回 事前課題の作業状況の確認・打合せ（栗山、高橋）	事前課題の内容を見直し、確認する。
第12回 事前課題の発表練習（栗山、高橋）	発表条件を確認の上、練習を行う。
第13回 臨地実習のまとめ（栗山、高橋）	実習を振り返り、要点をまとめる。
第14回 実習報告の内容確認・打合せ（栗山、高橋）	報告内容を検討する。
第15回 実習報告の準備（栗山、高橋）	報告準備に取り組む。

■ 履修上の注意

- ・公衆栄養学と臨床栄養学の臨地実習を履修する者は、本科目を履修すること。
- ・積極的な姿勢で学習に取り組むこと。
- ・実習課題によっては、授業時間外に作業を行うこともある。

■ 成績評価方法・基準

- ・受講態度50%（積極的な態度、目的意識、遅刻状況）、提出物50%（内容、提出期限の順守）
- ・提出物、事前課題は、適時フィードバックを行う。

■ 教科書

臨地実習テキスト〔大学オリジナル〕〔無料〕

■ 参考書

管理栄養士・栄養士になるための国語表現〔田中貞一郎ほか〕〔萌文書林〕〔1800円+税〕

■ 備考

質問等については、各授業の担当教員に授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で受付ける。

課題研究 平成30年度入学生

(11285)

単位：6単位

対象学科：健専3年・健専4年

授業形態：演習 学期：通年

健康栄養学専攻科目

鈴木裕行

■ 授業の概要

食品・栄養学分野でこれまでの学習を基にしたの課題発見、課題解明に関連する資料や文献の調査、課題を解明するための研究方針の立案・必要とされる実験技術の習得・実験実施、実験や調査で得られたデータの解析と整理・図表化、得られた結果からの考察を行う。さらに、それらをまとめた論文執筆、さらにスライドプレゼンテーションを作成し、最終的に発表会でのプレゼンテーションを実施する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・これまでの学修を基に課題発見できる	③⑤⑥⑦⑧⑨
・課題解決のための研究方法を立案し実行できる	③⑤⑥⑦⑧⑨
・研究成果を取りまとめた論文を作成し、プレゼンテーションができる	③⑤⑥⑦⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 第1～5回：テーマ選定	自身の持つ問題意識に関連の文献・資料を検索し熟読することで深め、具体的な研究課題（テーマ）を考える。
第2回 第6～37回：研究指導	・課題を解決するための研究（実験・調査）方法を、先行研究を参考にして設定する。 ・実験・調査を実施して得られたデータを整理し、図表に取りまとめ、データから考えられる事をまとめる。
第3回 第38・39回：課題研究発表プレゼンテーション作成	・課題・一連の研究方法・得られた結果・考察を論文にまとめるとともに、簡潔に説明するスライドプレゼンテーションを作成する。
第4回 第40回：課題研究発表	・課題・一連の研究方法・得られた結果・考察を論文にまとめるとともに、簡潔に説明するスライドプレゼンテーションを作成する。
第5回 第41～43回：課題研究論文作成	・課題・一連の研究方法・得られた結果・考察を論文にまとめるとともに、簡潔に説明するスライドプレゼンテーションを作成する。
第6回 第44・45回：課題研究発表ポスター作成	・課題・一連の研究方法・得られた結果・考察を論文にまとめるとともに、簡潔に説明するスライドプレゼンテーションを作成する。

■ 履修上の注意

研究テーマに関連する文献を数多く熟読して研究方針の立案、論文作成の参考にする。

（2単位分を3年次後期・4単位分を4年次通年で実施する）

■ 成績評価方法・基準

論文、プレゼンテーション、研究への取り組み・・・評価の割合等、詳細はループリック参照

成績評価に関しては、授業はじめにループリックを提示する。

提出物・提示案等に対するフィードバックとして、その都度、授業内で添削・コメント等を行う。

■ 教科書

無し（適宜、資料を配布する）

■ 参考書

これから研究を始める高校生と指導教員のために、酒井聡樹、共立出版、2,600円＋税

■ 備考

3年後期～4年通年、オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

課題研究 平成30年度入学生

(11286)

単位：6単位

対象学科：健専3年・健専4年

授業形態：演習 学期：通年

健康栄養学専攻科目

佐藤靖子

■ 授業の概要

3年次では、興味のある食品について関連する研究論文を検索し、食品に対する情報を収集させ、研究テーマを決定させる。また、研究しようとする食品の組織構造を見るための標本作成を行う。

4年次では、決定した研究内容について、食品の標本を作製し、光学顕微鏡による観察資料の評価を行う。研究結果を討論しながら目的・方法・結果のまとめ方および考察能力の向上を目指す。さらに、研究成果に対するプレゼンテーション力を身につけられるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 1. 研究に関連する情報の収集ができる
- ・ 2. 実験計画・実施ができる
- ・ 3. 結果に対する考察力、プレゼンテーション力を身につける

③⑤

③⑤

③⑤⑦⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1 ガイダンス：目的など	研究目的を達成できるよう準備する
第2回	2～6 テーマの選定および情報収集	研究目的を達成できるよう準備する
第3回	7～10 基礎実験計画	研究目的を達成できるよう準備する
第4回	11～15 基礎実験	研究目的を達成できるよう準備する
第5回	16～34 研究指導	研究目的を達成できるよう準備する
第6回	35～39 論文作成	研究目的を達成できるよう準備する
第7回	40～42 プレゼンテーション準備	研究目的を達成できるよう準備する
第8回	43 研究発表	研究発表準備と自己評価を行う
第9回	44 論文提出	論文提出の準備をする
第10回	45 ポスター作成	ポスターを作成する

■ 履修上の注意

研究課題の情報収集を行う。欠席連絡は速やかに行い特に実験に支障が無いようにする。

■ 成績評価方法・基準

受講態度50%、論文・プレゼンテーション50%

計画・実験の前後に十分な話し合いを行い、学生の理解度を確認しながら進めていく。

課題提出期限の厳守、プレゼンテーション準備、発表態度およびポスター制作の取り組みにより評価する。

■ 教科書

なし

■ 参考書

ガイダンスにて紹介する

■ 備考

3年後期～4年通年

質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける

課題研究 平成30年度入学生

(11287)

単位：6単位

対象学科：健専3年・健専4年

授業形態：演習 学期：通年

健康栄養学専攻科目

曾根正彦

■ 授業の概要

臨床医学概論で学んだ疾患診断・治療などの基礎知識や主要疾患の知識を基礎にして、健康医学・栄養学分野に関連する研究テーマを設定する。次にテーマに関する文献を検索して知識を整理する。テーマに関するアンケート調査等を行い、その結果について解析を進める。最終的に研究論文を作成するが、前段階として講演形式での発表も行う。

テーマの研究と併行しながら、実際の臨床や健康管理の現場において栄養学的な指導ができる事を目指し、医学・栄養学の知識を修得する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・研究課題を展開し解析する能力を身につける。	③⑤⑥⑦⑧⑨
・資料調査や文献検索の方法を身につける。	③⑤⑥⑦⑧⑨
・論文作成とプレゼンテーションの能力を身につける。	③⑤⑥⑦⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 1～2回. ガイダンス	自主的に研究を進める。
第2回 3～6回. 研究テーマの設定・情報収集	自主的に研究を進める。
第3回 7～26回. 参考論文検索・研究指導	自主的に研究を進める。
第4回 27～31回. アンケートデータの集計・整理～結果の分析	自主的に研究を進める。
第5回 32～37回. 課題研究論文作成①	文献をまとめて論文の作成開始。
第6回 38～41回. 研究発表準備	自主的に発表準備を進める。
第7回 42回. 課題研究発表会にてプレゼンテーション	発表準備および研究の問題点整理。
第8回 43～44回. 課題研究論文作成②	研究結果と考察をまとめる。
第9回 45回. 課題研究ポスター作成・発表	ポスター形式での研究結果の発表準備。

■ 履修上の注意

研究テーマに関連する文献を数多く検索して、研究を展開する上で参考にする。

■ 成績評価方法・基準

研究に取り組む姿勢（50%）および課題研究発表・論文作成（50%）。

研究精度を上げるため、課題・レポートに関するフィードバックをその都度行う。

■ 教科書

「無し」

■ 参考書

適宜、文献など参考資料を紹介する。

■ 備考

3年後期～4年通年

質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。

課題研究 平成30年度入学生

(11288)

単位：6単位

対象学科：健専3年・健専4年

授業形態：演習 学期：通年

健康栄養学専攻科目

小野 真実

■ 授業の概要

栄養教育分野に関連した課題研究を行う。ライフステージ・ライフスタイル別など、自身の興味ある対象を設定し、栄養・食教育、栄養カウンセリング、ヘルスプロモーションなど、健康増進および生活習慣病予防対策等における栄養・食生活支援方法に関する課題を検討する。研究成果は論文作成とともに、課題研究発表会と課題研究展で報告する。労働者の健康（疾病予防・疾病）管理業務における個別・集団栄養教育活動の実務経験を生かした指導を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・これまでの学修から興味ある分野での研究課題を設定できる。	③⑤⑥⑦⑧⑨
・課題に関連する文献の検索方法等、情報収集・吟味能力を身につける。	③⑤⑥⑦⑧⑨
・研究（調査）計画・実施・考察と論文をまとめる力を身につける。	③⑤⑥⑦⑧⑨
・研究成果を発表する力を身につける。	③⑤⑥⑦⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 1. ガイダンス	自身の興味ある分野に関する考えをまとめておくこと。
第2回 2～6. 研究課題の検討・情報収集・決定	課題決定に向けて関連の文献検索等、情報収集を行い、読み込み、整理する。
第3回 7～11. 研究（調査）計画の検討・立案	研究の目的、対象、方法等について計画を立案する。
第4回 12～21. 研究（調査）計画の実施（準備含む）	計画に基づいて調査等の準備をし、実施する。
第5回 22～31. 情報の解析・結果のまとめ	実施から得られた情報を解析し、結果をまとめ、考察する。
第6回 32～38. 論文作成	論文のまとめ方を学びながら作成する。
第7回 39～41. 課題研究発表会の準備と発表練習	研究成果のプレゼンテーションの方法を習得する。
第8回 42. 課題研究発表会	発表および質疑応答の振り返りを行う。
第9回 43. 論文修正・提出	成果発表を踏まえ、論文内容の確認・修正を行う。
第10回 44. 課題研究展の準備	課題研究展に向けたポスター作成を行う。
第11回 45. 課題研究展	成果発表に対するフィードバックを確認する。

■ 履修上の注意

- ・自身の興味ある課題に関し、日頃から情報収集を積極的に行い、自主的に取り組み、考えをまとめる習慣をつけること。
- ・パソコンの基本操作スキル(Word, Excel, PowerPoint等)が必要である。
- ・状況により授業時間外で行う可能性があるが、積極的に取り組むこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・研究態度(40%)、研究発表(20%) 論文の内容(40%)を総合して成績評価を行う。
- ・提出物については適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

なし

■ 参考書

栄養科学シリーズNEXT「公衆栄養学実習」（金田雅代，他）講談社サイエンティフィック（2, 600円）他、適宜紹介する。

■ 備考

- ・3年後期～4年通年
- ・質問等については、授業中または終了時、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

課題研究 平成30年度入学生

(11289)

単位：6単位

対象学科：健専3年・健専4年

授業形態：演習 学期：通年

健康栄養学専攻科目

栗山孝雄

■ 授業の概要

本研究では、衛生学、公衆衛生学、公衆栄養学分野に関連する研究テーマを扱う。これらの学問分野の中で、近年社会的に取り上げられることの多い食品ロス、持続可能な開発目標（SDGs）などを中心に、研究テーマを設定する。研究を行う際には、教員と履修者で意見交換の上、具体的な研究テーマを設定する。その上で、履修者が設定した研究テーマに取り組むための研究方法、論文の執筆、発表方法等について教授する。なお、研究成果は、課題研究発表会と課題研究展等で報告する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・研究テーマを設定し、研究を展開する能力を身につける。	③⑤⑥⑦⑧⑨
・研究に関する情報や文献を収集し、内容を吟味する力を身につける。	③⑤⑥⑦⑧⑨
・論文をまとめ、研究発表する力を身につける。	③⑤⑥⑦⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 1～5 テーマの選定	研究テーマに関する情報を収集する。 具体的な研究テーマを検討する。
第2回 6～34 研究の実施と指導	自主的に研究を進める。 研究指導を通じて、作業状況の確認、検討を行う。
第3回 35～40 発表準備：発表原稿作成、発表の練習	発表すべきをまとめる。 所定時間内での発表する技術を習得する。
第4回 41 研究発表	発表の要点、質疑応答の対応を確認する。
第5回 42～43 論文修正、提出	論文を見直し、適宜修正を行う。
第6回 44～45 ポスター作成	研究報告をポスターにまとめる。

■ 履修上の注意

- ・研究テーマは教員より提示される。その内容について、学生と相談のうえ、テーマを決める。
- ・研究テーマに関する情報や論文などを積極的に収集する意欲が必要である。
- ・データを集計、処理するためのパソコン操作能力が必要である。
- ・研究テーマの設定と研究発表、論文やポスターの作成は個人ごとに行う。
- ・状況によっては、時間割の時間外で行う場合もある。

■ 成績評価方法・基準

- ・研究態度（30%）、研究発表（20%）論文の内容（50%）を総合して、成績評価を行う。
- ・提出物については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

なし。

■ 参考書

適宜紹介する。

■ 備考

3年後期～4年通年

課題研究 平成30年度入学生

(11291)

単位：6単位

対象学科：健専3年・健専4年

授業形態：演習 学期：通年

健康栄養学専攻科目

川 俣 幸 一

■ 授業の概要

スポーツ栄養学分野または応用栄養学分野、薬と栄養の分野において自ら学び、そこから湧き出たリサーチクエストの解決を目指す。研究の充実を図るため、最初の半年はスポーツ栄養学の特別講義ならびに統計学の基礎を学ぶ。加えてJ-stageかcinii、pubmedなどにて文献を検索し、スポーツ栄養の最新論文の読み合わせ会も行う。知識が身についたところで、それぞれ個人の研究課題を实践するため、一人あたり一箇所の研究フィールドにて全国レベル（論文発表レベル・学会発表レベル）を前提とした研究活動を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・課題発見、研究計画の立案・実施、集計作業などを通じて情報処理能力を高める
- ・発表会でのプレゼンテーション、課題研究の論文提出を通じて総合能力を高める

③⑤⑥⑦⑧
⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス（3コマ）

事前学習として、おおまかで良いので自分のやりたい事を頭の中で整理してきて下さい。

第2回 統計学講義（10コマ）

事前学習は配布プリントの予習。事後学習としてレポート作成。

第3回 スポーツ栄養学特別講義（3コマ）

事前学習は配布プリントの予習。事後学習としてレポート作成。

第4回 文献勉強会（3コマ）

事前学習は配布プリントの予習。事後学習としてレポート作成。

第5回 研究指導（20コマ）

事前学習はそれぞれのテーマの文献整理。事後学習として結果集計・考察のドラフト作成など。

第6回 課題研究発表の準備（3コマ）

事前学習は結果集計。事後学習としてパワーポイントの原稿作成。

第7回 課題研究論文の作成（3コマ）

事前学習は結果集計。事後学習として論文作成。

■ 履修上の注意

研究活動では全員がフィールドに出て学外の第三者から学びますが、その全てが信頼関係に基づいています。研究室内では、礼儀や礼節、親や教員・先輩への感謝の気持ち、真摯に学ぶ態度を何より大切にしています。したがって1-2年次の出席状況、応用栄養学分野の成績、課題研究発表会の参加状況、教員へのこれまでの態度などを鑑みた上で、学生の履修（入門）をお断りする場合があります。

第一希望の研究室に入門できるよう、真面目で礼儀正しい学生生活をお送りください。

■ 成績評価方法・基準

課題研究発表会の内容・・・30%

課題研究論文の内容・・・30%

取り組み状況・・・40%

提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

3年後期～4年通年。

質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する

課題研究 平成30年度入学生

(11292)

単位：6単位

対象学科：健専3年・健専4年

授業形態：演習 学期：通年

健康栄養学専攻科目

深澤律子

■ 授業の概要

日本の食文化、食物学、調理学に関する研究テーマを設定し、文献検索を行い、先行研究を調べる。先行研究を読み込み、研究方法を考え、調査研究、アンケート調査研究、レシピ開発研究、実験研究など研究内容を絞込み、春休みから試作や予備実験、プレアンケート等を行い、研究計画をたて、研究方法等の修正を行う。実験や調査結果からデータの解析やデータの整理、論文執筆を行い、パワーポイント等でプレゼンテーションを作成し、研究成果は課題研究発表会と課題研究展で報告するまでの指導を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---|-----|
| ・①研究テーマを設定し、研究をすすめる基礎知識を修得する。 | ③⑥⑦ |
| ・②研究に関する文献や先行研究を収集し、自分の研究では、何を明らかにしたいのかを考える能力を修得する。 | ⑤⑨ |
| ・③習得した情報を整理し、論文にまとめ、発表する技術を修得する。 | ⑥⑦⑧ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 1.～5. ガイダンス、研究テーマの検討、情報収集、決定	図書館で日本調理科学会、栄養改善学会誌等から研究テーマを調べる。
第2回 6.～10. 研究内容・方法の検討	研究テーマの先行研究・文献収集を行い、方法を考える。
第3回 11.～20. 研究の試作、実験を行い、検討	プレ実験やプレ試作を行い、改善する。
第4回 21.～30. 研究の本実験を行い、データ・情報の分析、検討	実験や試作の結果を評価し、改善点を考え、研究ノートにまとめる。
第5回 31.～40. 研究結果の考察、論文作成	論文のまとめ方を理解し、論文を作成する。
第6回 41. 課題研究発表資料作成	課題研究発表にむけて、要旨をまとめ、発表の準備を行う
第7回 42. 課題研究発表会	発表の時間に合わせて内容を確認し、質疑応答の対応を確認。
第8回 43. 論文修正、提出	研究発表を振り返り、研究内容を見直し、適宜修正を行う。
第9回 44. 課題研究展にむけて	研究報告をポスターにまとめ、作成する。
第10回 45 課題研究展	ポスターを見ながら、研究内容を確認する。

■ 履修上の注意

研究に必要なものはその都度指示する。調理や試作もすることを踏まえ、常に体調管理、衛生管理、清潔な身だしなみに気を配る。春休みや夏休み期間中に実験や論文作成のため一週間程度集中して課題研究の時間を設ける。この期間に取り組めない者、課題研究予定日に連絡なしに欠席する者は履修させないこととする。必ず事前に連絡、相談することを心掛ける。

■ 成績評価方法・基準

論文40%、研究に取り組む姿勢（文献収集、参考資料の収集、課題の取り組み、ゼミ生同士の良好なコミュニケーション等）30%、パワーポイントでのプレゼンテーション資料作成・発表30%で総合評価する。提出物については適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

なし

■ 参考書

参考資料はその都度紹介する。

■ 備考

3年後期～4年通年

- ・課題研究の内容、作業状況等の都合により、授業計画の順番や内容、時間の変更等を行う場合がある。
- ・ルーブリック評価については第1回の授業で説明する。提出物等については適宜フィードバックを行う。
- ・質問等についてはオフィスアワー（曜日・時間は掲示で確認）に受け付ける。

課題研究 平成30年度入学生

(11293)

単位：6単位

対象学科：健専3年・健専4年

授業形態：演習 学期：通年

健康栄養学専攻科目

八 巻 美智子

■ 授業の概要

食品学や栄養学分野に関連する学修を基礎として研究課題についてテーマを決め、文献調査方法、研究方法、実験技術などについて指導する。研究課題達成の為にはどのような文献調査が必要で、またどのような実験方法を用いるのがベストなのかについて検討しながら進める。さらに得られた結果のデータを解析、考察し、論文作成を実施する。また、スライドプレゼンテーションの作成とよりよいプレゼンテーションについて指導し、ポスター作製（作成）を実施する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・ 研究に関する情報や文献を収集し、理解する能力を修得する。	③⑤⑥⑦⑧⑨
・ 実験技術の修得 論文をまとめ、研究発表する能力を身に付ける。	③⑤⑥⑦⑧⑨
・ 自ら学び研究する意義を見出す。	⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 第1回：研究ガイダンス文献調査方法	事後：文献調査方法を理解する
第2回 第2回：文献調査方研究テーマについて	事後：テーマに関することについて調べる
第3回 第3回：研究テーマについて	事後：テーマに関することについて調べる
第4回 第4回：実験計画	事後：研究計画について自分なりに考える
第5回 第5回～第15回 基礎実験(実験技術修得)	事前、事後：実験技術を修得できるよう努力する
第6回 第16回～第37回 研究指導	事前、事後：研究について理解する
第7回 第38回～40回 論文作成	事前、事後：論文作成を行う
第8回 第41回～第42回 研究発表会準備(パワーポイント作成)	事前、事後：発表会準備を行う
第9回 第43回 研究発表	事後：発表会の反省会、論文の修正などを行う
第10回 第44回 論文修正	論文修正とポスター作成を行う
第11回 第45回 ポスター制作	ポスター作成
第12回	
第13回	
第14回	

■ 履修上の注意

自ら進んで研究に取り組む意欲が必要。無断欠席はしない。教員等からの指導アドバイスに従う事。状況によっては時間割の時間外で行う場合がある。

■ 成績評価方法・基準

研究態度（50%）、研究発表（25%）、論文の内容（25%）を総合して成績評価を行う。課題等については研究中にフィードバックをする。

■ 教科書

課題研究に応じて指示します

■ 参考書

必要に応じて紹介します

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。
3年後期～4年通年

課題研究 平成30年度入学生

(11294)

単位：6単位

対象学科：健専3年・健専4年

授業形態：演習 学期：通年

健康栄養学専攻科目

高橋 文

■ 授業の概要

本研究では、病院および高齢者施設における管理栄養士の実務経験を活かし、臨床栄養学分野に関連した課題研究を行う。これまでの臨床栄養学で修得した専門知識・技能を総合的に活用しての研究テーマ設定、および研究に必要な文献などを熟読し知識の整理と理解力を深める。研究テーマを基に研究計画を立案し調査・試験などを実施する。そして、データ収集・分析より得られた結果は多角的な視点で考察を行う。最終的な成果は研究論文としてまとめるとともに発表会でのプレゼンテーションを実施する。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・研究課題を設定し、研究の目的を明確にする	③⑤
・研究計画に従い、データの収集、分析ができる	③⑤⑥⑦⑧⑨
・研究結果を考察し、論文としてまとめることができる	③⑤⑥⑦⑧⑨
・研究内容についてわかりやすく発表することができる	③⑤⑥⑦⑧⑨

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 1. ガイダンス	興味のある研究テーマについて調べる
第2回 2. ～5. 研究テーマの決定・情報収集	課題研究について情報収集する
第3回 6. ～10. 研究計画の検討・立案	研究方法などについて計画を立案する
第4回 11. ～31. 文献検索、データ収集・分析、研究指導	文献資料を収集し、課題に取り組む
第5回 32. ～38. 論文作成	研究成果を論文にまとめる
第6回 39. ～41. 課題研究発表準備	パワーポイントを使用し、発表の準備をする
第7回 42. 課題研究発表	プレゼン資料を完成させる
第8回 43. 課題研究論文修正、提出	論文を完成させる
第9回 44. 課題研究展準備	ポスター作成の準備
第10回 45. 課題研究展	研究内容を確認する

■ 履修上の注意

- ・日頃から研究に関する情報収集を行い、積極的に研究に取り組む意欲が必要である。
- ・統計を使用する場合もあるため、学修しておく。
- ・研究および論文を作成することによって、何を学び、今後どのように活かしていくのかを考える。

■ 成績評価方法・基準

- ・課題研究に取り組む態度30%、研究発表20%、論文の内容50%を総合的に判断して評価する。
- ・提出物については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

なし

■ 参考書

適宜紹介する

■ 備考

- ・3年後期～4年通年
- ・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

課題研究 平成30年度入学生

(11295)

単位：6単位

対象学科：健専3年・健専4年

授業形態：演習 学期：通年

健康栄養学専攻科目

宮澤孝子

■ 授業の概要

教育の法、制度、政策に関する研究主題（問い）を選定し、それについての応答を探求する。3年次においては、基本的な文献および資料を読解する力を養う。その過程で得られた知識をもとに、4年次においては各自の研究主題を設定する。卒業論文には一次資料を用い、4万字から5万字を目処に論文をまとめることが望まれる。演習時の報告担当者は、論理の展開が一目でわかるレジメを作成するように努めること。

■ 授業の到達目標

- ・ 基本的な文献を読解し、それをまとめる力を身につける。
- ・ 研究に要する文献・論文・資料を選定する力を身につける。
- ・ 自ら設定した問いへの応答を、卒業論文としてまとめる。

学位授与の方針との関連

①②④

①②③④⑤⑥⑦

⑧⑨

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 オリエンテーション、文献読解1-1	自らの課題意識を話せるようにする。課題意識に関わる簡単な文献を読んでまとめてくる。
第2回 レジメの作成方法について、文献読解1-2	まとめた内容を報告、レジメの作成方法について学ぶ。
第3回 文献読解2、報告	基礎的な文献を読み、レジメにまとめてくる。
第4回 文献読解2、報告	基礎的な文献を読み、レジメにまとめてくる。
第5回 文献読解2、報告	基礎的な文献を読み、レジメにまとめてくる。
第6回 文献読解2、報告	基礎的な文献を読み、レジメにまとめてくる。
第7回 文献読解2、報告	基礎的な文献を読み、レジメにまとめてくる。
第8回 文献読解2、報告	基礎的な文献を読み、レジメにまとめてくる。
第9回 文献読解2、報告	基礎的な文献を読み、レジメにまとめてくる。
第10回 文献読解3、報告	基礎的な文献を読み、レジメにまとめてくる。
第11回 文献読解3、報告	基礎的な文献を読み、レジメにまとめてくる。
第12回 文献読解3、報告	基礎的な文献を読み、レジメにまとめてくる。
第13回 文献読解3、報告	基礎的な文献を読み、レジメにまとめてくる。
第14回 文献読解3、報告	基礎的な文献を読み、レジメにまとめてくる。
第15回 文献読解3、報告	基礎的な文献を読み、レジメにまとめてくる。
第16回 問題意識の整理	春休み期間中に問題意識に関わる文献を選定し、精読した上で、問題意識をレジメにまとめてくる。
第17回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジメにまとめ、報告する。
第18回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジメにまとめ、報告する。
第19回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジメにまとめ、報告する。
第20回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジメにまとめ、報告する。
第21回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジメにまとめ、報告する。
第22回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジメにまとめ、報告する。
第23回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジメにまとめ、報告する。
第24回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジメにまとめ、報告する。
第25回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジメにまとめ、報告する。
第26回 文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジメにまとめ、報告する。

第27回	文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジュメにまとめ、報告する。
第28回	文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジュメにまとめ、報告する。
第29回	文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジュメにまとめ、報告する。
第30回	研究テーマ決定、構成の草案	研究テーマ案と論文構成を考えてくる。
第31回	資料収集および報告	構成を踏まえ、更に必要な文献および資料の収集、分析を行う。
第32回	資料収集および報告	構成を踏まえ、更に必要な文献および資料の収集、分析を行う。
第33回	資料収集および報告	構成を踏まえ、更に必要な文献および資料の収集、分析を行う。
第34回	資料収集および報告	構成を踏まえ、更に必要な文献および資料の収集、分析を行う。
第35回	資料収集および報告	構成を踏まえ、更に必要な文献および資料の収集、分析を行う。
第36回	資料収集および報告	構成を踏まえ、更に必要な文献および資料の収集、分析を行う。
第37回	中間まとめ	論文の概要をA4×4枚にまとめる。
第38回	資料収集および執筆、執筆内容の検討	各章毎に論文を作成してくる。作成してきた章ごとに、内容を検討する。
第39回	資料収集および執筆、執筆内容の検討	各章毎に論文を作成してくる。作成してきた章ごとに、内容を検討する。
第40回	資料収集および執筆、執筆内容の検討	各章毎に論文を作成してくる。作成してきた章ごとに、内容を検討する。
第41回	資料収集および執筆、執筆内容の検討	各章毎に論文を作成してくる。作成してきた章ごとに、内容を検討する。
第42回	資料収集および執筆、執筆内容の検討	各章毎に論文を作成してくる。作成してきた章ごとに、内容を検討する。
第43回	報告の準備	パワーポイントあるいはレジュメ作成のいずれか研究テーマに適した方法で成果をまとめる。卒業論文は発表会の後、加筆修正し、提出する。
第44回	報告の準備	パワーポイントあるいはレジュメ作成のいずれか研究テーマに適した方法で成果をまとめる。卒業論文は発表会の後、加筆修正し、提出する。
第45回	報告の準備	パワーポイントあるいはレジュメ作成のいずれか研究テーマに適した方法で成果をまとめる。卒業論文は発表会の後、加筆修正し、提出する。

■ 履修上の注意

- ・教員免許（中・高・栄）取得のために必要とされる教職科目を全て履修していることを履修条件とする。
- ・自ら考え、自らの設定する研究課題に取り組む、意欲的な姿勢を歓迎する。
- ・演習回数自体は45回を予定しているが、それ以上に、演習時間外における自主的な研究時間が必要とされる。

■ 成績評価方法・基準

演習時に作成するレジュメ（30%）、報告内容（30%）、卒業研究（40%）をもって評価する。

■ 教科書

指定なし

■ 参考書

兼子仁（1976）『入門教育法』エイデル研究所
堀尾輝久（2019）『人権としての教育』岩波書店

■ 備考

- ・3年後期～4年通年
- ・演習の曜日と時限については、履修生の時間割を考慮して設定する。
- ・教員と履修生の都合上、演習日時の変更や補講を要する場合は、柔軟に対応する。
- ・質問等については、原則、演習の時間前後あるいはオフィスアワーにて対応するが、柔軟に対応する。

生活美術学科専攻科目

美術教諭試験対策講座Ⅱ

(11301)

単位：2単位

対象学科：生美4年

授業形態：講義 学期：前期

生活美術学科専攻科目

佐々木 晃

■ 授業の概要

公立学校教員採用試験（中・高美術）対策として過去問題を中心に筆記、実技、面接、模擬授業のそれぞれについて体系的に理解を深めるとともに出題傾向、出題意図、出題の視点および解答への道筋を解説する。採用試験に向けた学習指導案の作成方法とそれに基づいた授業の実践について指導する。これらのことを教授する中で美術教師になるための基本的な素養を身に付けさせ、実践的指導力、使命感、幅広い知見を育んでいくことを目的とする。本講座は美術教諭試験対策講座Ⅰをさらに発展継承させた内容となる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 授業を学修する中で美術教師として必要なものを理解する
- ・ 学修した内容を咀嚼反芻して整理要約できるようにする
- ・ 確かな知見と豊かな人間性を持った基本的素養を身に付ける

⑨

⑤

⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	筆記試験対策1. 教職教養	過去問題に取り組み躓いた所を調べておく
第2回	2. 教育法規Ⅰ	教育にかかわる法規の体系を理解する
第3回	3. 教育法規Ⅱ	教員採用試験に関係する法規の内容理解
第4回	4. 面接	質問に正対する回答のあり方を調べる
第5回	5. 集団討議	課題を受けてまとめていくことの理解
第6回	教員採用試験実技について	実技試験の目的と留意点を調べて提出
第7回	実技試験対策1 画材	画材の違いによる表現できる工夫の調査
第8回	2 主題	主題の具現化を図る上での工夫を調べる
第9回	3 時間配分	完成に至る望ましい時間配分のあり方
第10回	小論文対策1 今日的課題に正対する教師の役割の自覚	教員採用試験論文の書き方の留意点調査
第11回	2 専門職としての意識の育成と発展	教員志望者に求められるものの理解
第12回	学習指導案作成演習1	学習指導案の目的と作成の留意点調べ
第13回	2	授業のイメージづくりと各種指導案調べ
第14回	総合演習1 近年の動向を踏まえた課題	基本的問題の確実な把握と新傾向の対策
第15回	2 まとめのレポート	採用試験対策講座関係プリント読み返し

■ 履修上の注意

受講の際は配布するプリントを持参すること。必要な用具等準備して臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 平常点30%（平常点は、授業への参加状況および小テストの結果等で総合的に判断する）
- ・ レポート70%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）
- ・ 提出されたレポートは次回の授業内でフィードバックを行う。

■ 教科書

〔中学校学習指導要領解説書 美術編〕〔日本文教出版〕〔96円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

- ・ ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。
- ・ 質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

卒業研究Ⅰ

(11302)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：前期

生活美術学科専攻科目

北 折 整 鈴 木 専

■ 授業の概要

大学でこれまで学んできた知識や技能を総合的に活用した卒業制作(洋画)の予備的な制作を指導する。洋画Ⅲ及び技法研究(洋画)の履修を踏まえ、個人の課題に沿って主体的に制作を進めさせ、特に課題発見から構想、制作までのプロセスや計画性を重要視する。従って、都度制作上の問題点を明確に整理するために、「制作ノート」の作成を課す。また、制作にはある程度の完成度が要求されるが、卒業研究Ⅱに繋がることを意識させ、美術表現の意義についても十分に理解させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・これまでの総ての学修を統合し、洋画表現の意義を社会・文化等との関係において十分理解することができる。 ③⑧
- ・主体的に専門的な表現方・技術による美術表現を自己実現につなげていくことができる。 ③⑨
- ・美術活動(制作)を行うことで、生活文化の諸相に対する多様な視点を理解することができる。 ③

■ 授業計画

自習(事前・事後学修の内容)

第1回	1～3. 授業の説明	過去課題等のまとめ
第2回	4～6. 過去学修の振り返り、資料収集、計画立案等	関係資料等のまとめ
第3回	7～9. ドローイング制作(テーマ設定)	課題の継続制作(ドローイング)
第4回	10～12. " (表現技術の確認)	" (画材の選択)
第5回	13～15. 制作Ⅰ(エスキース制作等)	課題の継続制作・制作ノート作成(制作Ⅰ)
第6回	16～18. " (描画)	" (全体・部分描写)
第7回	19～21. " (描画/仕上げ/講評会)	" (仕上げ)
第8回	22～24. 制作Ⅱ(エスキース制作等)	課題の継続制作・制作ノート作成(制作Ⅱ)
第9回	25～27. " (描画)	" (全体描写)
第10回	28～30. " (描画)	" (部分描写)
第11回	31～33. " (描画/仕上げ/講評会)	" (仕上げ)
第12回	34～36. 制作Ⅲ(エスキース制作等)	課題の継続制作・制作ノート作成(制作Ⅲ)
第13回	37～39. " (描画)	" (全体描写)
第14回	40～42. " (描画)	" (部分描写)
第15回	43～45. " (描画/仕上げ/講評会)	" (仕上げ)

■ 履修上の注意

- ・制作スペースは常時確保されているので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。
- ・講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・課題(90%)と授業態度(10%)
- ・課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・特に指定しない。

■ 参考書

- ・随時参考となる画集等を紹介する。

■ 備考

- ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

卒業研究Ⅰ

(11303)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：前期

生活美術学科専攻科目

佐藤 淳一

■ 授業の概要

3年間で修得した造形思考、技術をさらに深化・発展させて自己の造形思考を磨かせる。彫刻作品として今までの研究成果を完成させ、卒業制作展で発表させる。そのなかで現代彫刻としての可能性を研究させる。彫刻の基礎的造形要素や空間を意識した、場と空間、量感、動勢、表面、をマケットにより試行し研究する。アイデアスケッチやデッサンを重視し十分に自己のイメージを制作ノートに展開する中で、創造力を鍛える。自己に合った素材を見出しその良さをどのように引き出せば良いか試行し、研究させる。アイデアから制作までの作業を教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・実材彫刻による造形を発想し展開できる	③⑨
・設置場所に対して意識し彫刻を構想できる	③⑤⑦⑧⑨
・作業を他と協働して行うことができる	⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 1～3回. 授業内容、卒制の動機付け、評価方法説明、	シラバスを読む。課題提出
第2回 4回、意識の確立、地域と自己作品の関係性、制作ノート	各作家作品集研究、課題提出
第3回 5～8回、テーマ研究（現在までの卒業制作、彫刻）	各作品集研究、デッサン（制作ノート）
第4回 9～12回テーマ研究（他の卒業研究）	各作品集研究、デッサン（制作ノート）
第5回 13～15回. テーマ設定（自己作品の振り返り）	彫刻論、造形論研究、彫刻展研究
第6回 16～18回テーマ設定（空間研究、場）	彫刻作品研究、アートプロジェクト研究
第7回 19回テーマ確認 デッサン、構想	制作継続、制作ノート作成
第8回 20～22回素材研究 粘土	制作継続、制作ノート作成
第9回 23～25回素材研究 FRP	制作継続、制作ノート作成
第10回 26～28回素材研究 テラコッタ	制作継続、制作ノート作成
第11回 29～33回素材研究 石材	制作継続、制作ノート作成
第12回 34～38回素材研究 木材	制作継続、制作ノート作成
第13回 39～41回素材研究 鉄材	制作継続、制作ノート作成
第14回 42～44回素材研究 その他	制作継続、制作ノート作成
第15回 45回 講評、中間審査	制作のまとめと今後の展開作成

■ 履修上の注意

各種美術展の見学レポートの提出、時間外も制作する事。充分担当と打ち合わせし、自分だけでなく他の人の安全にも留意して制作すること。

■ 成績評価方法・基準

作品評価40%、授業態度（集中して制作しているか20%、学んだことを制作に活かそうとしているか20%）制作ノート（提出レポート含む）20%（評価して返却します）提出レポートはコメント後フィードバックします。

■ 教科書

授業前に資料配布

■ 参考書

授業前に資料配布

■ 備考

4年間の制作のまとめとして充分準備を行うこと。質問はオフィスアワーでも受け付けます。

卒業研究Ⅰ

(11304)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：前期

生活美術学科専攻科目

森 敏 美

■ 授業の概要

4年間の集大成として、卒業研究Ⅱに向け個々の取り組むべき課題を整理し十分なディスカッションを通して、明確な方向性を示させる。制作ノートを作成することにより、主観的、客観的に卒制のあり方を見ることが出来るのでコンセプトをしっかりと認識させノートを作り確認させる。個々の世界観を醸し出せるよう、資料収集を念入りに行い、エスキースやマケットを何度も練り、技法の吟味を行い、場合によっては材料や工程の確認等も含め数点の小作品の制作をさせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・4年間の集大成を意識することで課題を浮き彫りにできる。	③⑧⑨
・制作ノートの中で、作品と社会の関わりを認識できる。	⑧⑨
・エスキース・マケット制作により、技術的に向上できる。	③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1～3回	導入：科目・課題の説明	計画表の作成(制作ノートを作る)
第2回	4～6回	資料収集・エスキース・マケット研究	工房の書籍、ネット等の利用
第3回	7～9回	支持体・材料研究	パネル材料等の準備
第4回	10～12回	エスキース・マケット作成	日付等の記録をつける
第5回	13～15回	ディスカッション	反省点、改善点等の確認
第6回	16～18回	支持体・材料作成	パネル材料等の準備
第7回	19～21回	エスキース・マケット作成	日付等の記録をつける
第8回	22～24回	制作	全体を捉えてゆく
第9回	25～27回	仕上げ	詳細部の確認
第10回	28～30回	ディスカッション	反省点、改善点等の確認
第11回	31～33回	支持体・材料作成	パネル材料等の準備
第12回	34～36回	エスキース・マケット作成	日付等の記録をつける
第13回	37～39回	制作	全体を捉えてゆく
第14回	40～42回	仕上げ	詳細部の確認
第15回	43～45回	講評会（フィードバックを行う）	卒業研究Ⅱに向けて総括する

■ 履修上の注意

アトリエに各自のスペースが確保されているので、時間を有効に活用し、環境保全に努めること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題90%（テーマ性、表現力、計画性、完成度等）、平常点10%（授業態度、主体性等）
制作等でフィードバックを行う。

■ 教科書

特に無し

■ 参考書

壁画工房等の資料、画集

■ 備考

壁画

オフィスアワー（授業終了時）を有効活用し、卒制に関するを中心にわからないことは質問すること。

卒業研究 I

(11305)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：前期

生活美術学科専攻科目

三上秀夫

■ 授業の概要

これまで獲得してきた知識や技能を総合的に活用し、卒業制作に向けた新たな課題に自らが主体的に取り組む授業である。4年間の集大成に相応しい作品を完成させることを目的とし、作品づくりのための一連の計画の流れを確認し、情報収集、計画、材料の確認、加工、制作について個別に指導する。実際の展覧会場（卒業制作展）での発表という外に向けた発信を意識した作品研究の指導を行う

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・知識・技能・態度を総合的に活用し活用することができる
- ・自らが立てた課題を主体的に解決する能力を身につける

⑧

⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1~3. ガイダンス（授業の進め方、課題の発表、評価方法について）	材料の購入をする
第2回	4~6. テーマ設定（調査方法、情報収集）検討 作業	作品制作
第3回	7~9. 完成予想（図やマケット）制作 材料準備	作品制作
第4回	10~12. 完成予想 制作 基本構造 中間構造 細部・表面	作品制作
第5回	13~15. 完成予想 制作 仕上げ 設置方法 サイズ確認 発表	発表の手順等、準備をする
第6回	16~18. 完成予想から実際の作業、制作 テーマ設定 調査	発表後の手直しをする
第7回	19~21. テーマ設定 情報収集	作品制作
第8回	22~24. テーマ発表 制作	材料の購入をする
第9回	25~27. 制作 進行・日程（発表） 制作ノート確認	作品制作
第10回	28~30. 制作 技法研究（技法確認）	材料の購入をする
第11回	31~33. 制作 材料準備（材料確認）	作品制作
第12回	34~36. 制作 材料準備（色彩計画）	作品制作
第13回	37~39. 制作 基本構造（計画）	作品制作
第14回	40~42. 発表 手直し	発表の手順等、準備をする
第15回	43~45. まとめ プレゼンテーション 卒業研究 I 提出	発表後の手直しをする

■ 履修上の注意

用具、材料については授業でその都度指示する

■ 成績評価方法・基準

提出課題40%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）授業態度（20%）、講評での発表の内容（40%）で評価する。課題に関しては、授業時にフィードバックを行う

■ 教科書

無し 授業時にプリントを配布する

■ 参考書

無し

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付けます

卒業研究 I

(11306)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：前期

生活美術学科専攻科目

瀬戸典彦

■ 授業の概要

①「卒業論文」の意味と目的について考察を促す。②複数の対象について調査と報告を課す。③調査が示唆することから、仮説の構築方法を指導し、その立証を支援する。④主体的にテーマを選択させ、結論までの推論を支援する。⑤設定したテーマと結論までの展開について検証させ、論旨の適正について自己評価を課す。⑥アウトラインを基に、卒業論文の執筆を支援する。⑦卒業論文に関するプレゼンと質疑応答の機会を設ける。⑧対話を重視し、課題発見から解決の糸口を共に探る。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・問題を探求し、その問題に沿ったテーマを設定することができる。
- ・必要な参考資料等を収集/活用することができる。
- ・問題の分析及び、そのことに関する論理的な推論と考察ができる。
- ・テーマを的確に表現することができる。
- ・論旨をわかりやすく展開することができる。

⑤
⑤
⑤
⑨
⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	テーマ案-1 確認する内容：テーマ設定の背景について	課題：テーマ設定
第2回	テーマ案-1 確認する内容：予想される論旨の展開について	課題：論旨の展開予想
第3回	テーマ案-1 確認する内容：予想される結論について	課題：結論の予想
第4回	テーマ案-1に基づくドラフト（序章）の作成	課題：序章ドラフトに対する自己評価に基づく修正
第5回	テーマ案-1に基づくドラフト（本文）の作成	課題：本文ドラフトに対する自己評価に基づく修正
第6回	テーマ案-1に基づくドラフト（終章）の作成	課題：終章ドラフトに対する自己評価に基づく修正
第7回	テーマ案-2 確認する内容：テーマ設定の背景について	課題：テーマ設定
第8回	テーマ案-2 確認する内容：予想される論旨の展開について	課題：論旨の展開予想
第9回	テーマ案-2 確認する内容：予想される結論について	課題：結論の予想
第10回	テーマ案-2に基づくドラフト（序章）の作成	課題：序章ドラフトに対する自己評価と修正
第11回	テーマ案-2に基づくドラフト（本文）の作成	課題：本文ドラフトに対する自己評価と修正
第12回	テーマ案-2に基づくドラフト（終章）の作成 テーマ決定	課題：終章ドラフトに対する自己評価と修正
第13回	テーマ選択	課題：二つの異なるテーマ毎にチェックリストの作成
第14回	テーマ決定	課題：二つの異なるテーマ毎に作成されたチェックリストの比較と考察
第15回	構成案の作成（序章）	課題：序章構成案の可視化（資料作成）
第16回	構成案の作成（本文）	課題：本文構成案の可視化（資料作成）
第17回	構成案の作成（終章）	課題：結論構成案の可視化（資料作成）
第18回	構成案の確定（序章）	課題：序章構成案修正
第19回	構成案の確定（本文）	課題：本文構成案修正
第20回	構成案の確定（結論）	課題：結論構成案修正
第21回	序章執筆指導（トピックパラグラフ）	課題：序章最初の段落の執筆
第22回	序章執筆指導（ボディー）	課題：序章2段落目以降の執筆
第23回	序章執筆指導（結論）	課題：序章最終段落の執筆
第24回	序章の確認（トピックパラグラフ）	課題：チェックリストに基づく序章・最初の段落の確認・修正
第25回	序章の確認（ボディー）	課題：チェックリストに基づく序章・2段落目以降の確認
第26回	序章の確認（結論）	課題：チェックリストに基づく序章・最終段落の確認
第27回	全体のアウトライン（修正） 序章と論文全体との整合性について	課題：全体のアウトラインの修正
第28回	全体のアウトライン（確認）	課題：全体のアウトラインの確認

序章と論文全体との整合性について

第29回	中間提出準備1-提出書類の確認	課題：提出書類作成
第30回	中間提出準備2-プレゼン予行	課題：プレゼンのリハーサル

■ 履修上の注意

対象：生活美術学科アートインストラクターコース生

テーマ：美術教育に関する内容（原則）

30分を超える遅刻については欠席扱いとする。30分以内の遅刻については、欠席1/3回とみなす。

■ 成績評価方法・基準

テーマのオリジナリティー：30%、執筆過程：10% 内容：40%、プレゼンテーション：20%（フィードバックを行う）
ルーブリック評価については初回授業の際に説明する。

■ 教科書

その都度、資料を配布する。

■ 参考書

その都度、参考資料を配布する

■ 備考

オフィスアワー：2時間/1週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する）

コロナウィルス感染拡大等の影響により当該シラバスに沿った授業の継続が困難となった場合は、シラバスを変更する。

卒業研究 I

(11307)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：前期

生活美術学科専攻科目

鶴 巻 史 子

■ 授業の概要

卒業制作 I（情報デザイン）では、1～3年次に学んだ基礎科目・専門科目・応用科目の集大成として、個別に対話しながら研究と作品制作に取り組む。個々に制作計画を立案し、作業プロセスを組み立てながら実践することによって自己管理能力を養う。現代社会におけるデザインの役割について考察し、問題点を見つけ、自ら解決策を導き出し、デザインを構築する力を身につける。中間審査会に向けて、正確に、わかりやすく伝えるための表現やプレゼンテーションができるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・デザインの役割について考察し、表現できる
- ・問題点を見つけ、解決策を導き出し、デザインを構築できる

⑥⑧

⑤⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回：ガイダンス	研究に関する調査、制作プロセスまとめ
第2回	2～5回：研究テーマ設定	研究テーマの調査、制作プロセスまとめ
第3回	6～10回：研究テーマに関する調査	研究テーマの調査、制作プロセスまとめ
第4回	11～15回：研究計画の作成	研究テーマの調査、制作プロセスまとめ
第5回	16～20回：デザインスケッチ制作	デザインの調査、制作プロセスまとめ
第6回	21～25回：モックアップ制作	デザインの調査、制作プロセスまとめ
第7回	26～30回：デザイン検討	デザインの調査、制作プロセスまとめ
第8回	31～39回：本制作	制作技法の調査、制作プロセスまとめ
第9回	40～42回：プレゼンテーション準備	プレゼン準備、制作プロセスまとめ
第10回	43～44回：プレゼンテーション、講評、リフレクション	プレゼン準備、制作プロセスまとめ
第11回	45回：中間審査会	制作プロセスをデータにまとめる
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

■ 履修上の注意

技法研究 I・II（情報デザイン）を履修していること。

制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（80%）、授業態度、取り組みの姿勢、プレゼンテーション（20%）で評価します。

課題作品については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

卒業研究Ⅰ

(11308)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：前期

生活美術学科専攻科目

大 堀 恵 子

■ 授業の概要

日本又は、諸外国の美術の概括的な変遷や作品の特質を調べる。美術館、図書館を効果的に活用し日本の版画の伝統と文化に対する美術文化の理解を深め思考力、創造的実践力を高めることを目標とする。これまでに版画Ⅰ～Ⅲで獲得した知識、技能、を総合的に活用し、作品のコンセプト、技法、支持体についての試作を重ね制作ノートに記録し、制作の充実が図れる能力を修得する。卒業制作をとおして、社会の一員としての責任を果たす生涯学習力が身につけられるように指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・版の総合的な技法と工程を理解し身につけることができる。	③
・展覧会を見て得た情報を整理し制作に生かす手法を習得する	⑨
・皆と協働し作品について意見交換し自律的に制作ができる。	⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 1回 ガイダンス	記録するための制作ノートを用意する。
第2回 2～5回 テーマ設定・年間計画表作成 (事前ポートフォリオを参考)	各作業ごとに内容をまとめ次回提出。
第3回 6～10回 制作・技法研究試作	技法の試作内容をまとめ次回提出。
第4回 11～15回 制作・支持体研究試作	支持体の試作内容をまとめ次回提出。
第5回 16～23回 制作・原寸大イメージへ展開	イメージの内容をまとめ次回提出。
第6回 24～34回 制作・版表現へ展開・描写	作業ごとに内容をまとめ次回提出。
第7回 35～40回 制作・版表現へ展開・印刷	作業ごとに内容をまとめ次回提出。
第8回 41～44回 制作ノートのまとめ (計画表、コンセプト、大きさ、版種、技法、支持体)	制作ノートのまとめを行ない、プレゼンテーションの準備をする。
第9回 45回 中間審査	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

■ 履修上の注意

制作ノートに、それぞれの制作の試行錯誤をまとめ記録する。ポートフォリオ作成のための文章能力、PCの技術を習得する。

■ 成績評価方法・基準

ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照してください。

作業内容のまとめは、授業中にフィードバックをします。

1. 提出課題（技法、計画性、創意工夫、完成度80%）
2. 制作ノート又はポートフォリオ（20%）

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

画集等を紹介する。

■ 備考

版画

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日と時間は掲示）で受け付けます。

卒業研究Ⅰ

(11309)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：前期

生活美術学科専攻科目

佐々木 輝 子

■ 授業の概要

技法研究Ⅰ・Ⅱで設定した研究テーマを基に材料研究・試作等を行う。制作意図を明確にし、綿密な計画をたて、4年間の集大成として完成度の高い作品を制作できるよう指導する。制作のみに留まらず、必要に応じて繊維製品関連施設の課外研修等を実施し、社会に即応した実践力を身に付け、地域社会に貢献できる能力の習得・向上も図ることができるよう指導する。これまでに獲得した染織に関する知識・技能等を総合的に活用し、自らが立てた計画を適用し、その課題を主体的に解決する能力を養えるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--|-----|
| ・染織に関する高度な専門知識を身につける。 | ③⑧⑨ |
| ・綿密な染織計画を立て、制作を通して自ら主体的に課題を解決する能力を身につける。 | ③⑨ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス 課題説明	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第2回 2回～3回：研究内容の設定	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第3回 4回～10回：参考資料収集	参考資料収集・制作ノートのまとめ
第4回 11回～12回：年間計画	年間計画案の作成・制作ノートのまとめ
第5回 13回～18回：エスキース	エスキース案作成・制作ノートのまとめ
第6回 19回～22回：下図作成	下図案の作成・制作ノートのまとめ
第7回 23回～28回：下図 原寸拡大	下図制作・制作ノートのまとめ
第8回 29回～30回：材料実験① 素材の検討	制作準備・制作ノートのまとめ
第9回 31回～32回：材料実験② 染料の検討	制作準備・制作ノートのまとめ
第10回 33回～34回：染料・素材の決定	材料の準備・制作ノートのまとめ
第11回 35回～38回：材料準備	制作準備・制作ノートのまとめ
第12回 39回～42回：試作制作	制作準備・制作ノートのまとめ
第13回 43～44回：中間審査準備 記録整理	制作準備・制作ノートのまとめ
第14回 45回：作品提出	作品提出準備・制作ノートを完成させる

■ 履修上の注意

染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。

作品に使用する材料は、各自購入すること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（80%）、授業態度（20%）で評価します。

作品課題については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

図解染織技術事典 / 田中清香 土肥悦子 / 理工学社

■ 備考

質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

卒業研究Ⅰ

(11310)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：前期

生活美術学科専攻科目

立花 布美子

■ 授業の概要

これまでに修得した技法・技術を駆使し、独創性のある完成度の高い作品を制作するため、様々な素材において技法研究を充分に行った上で、作品のテーマ設定をし、綿密な計画性を持って中間提出までの制作に取り組めるよう指導する。研究テーマに関連した参考文献、参考資料の収集、展覧会鑑賞に勉めディスカッションを重ねる。また、焼成は各自が責任を持って行うため、制作ノート（テストピース等の焼成データ、グラフ作成）の指導を行い、プレゼンテーションまでを想定した本制作に入らせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・卒業研究において自己管理能力を高めることができる。
- ・卒業研究における独創的、創造的思考力を高めることができる。
- ・これまでに修得した技法・技術の高度な専門知識を、美術を学ぶ意味と関連付けて表現することができる。

⑨

⑨

⑤

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回～2回：ガイダンス、年間計画の打ち合わせ、計画表作成	
第2回	3回～4回：テーマ、デザイン、プレゼン等の打合せ 5回～9回：資料収集	制作ノート確認時に各自設定した計画表の見直し、修正を行い研究を進めていく。
第3回	10回～14回：テストピース生地制作、制作ノート確認①	
第4回	15回～19回：釉薬原料の調合 釉掛け焼成	
第5回	20回～24回：釉薬原料の調合 釉掛け 焼成、制作ノート確認②	粘土・釉薬原料の発注、を各自で行うようにする。
第6回	21回～24回：釉薬原料の調合 釉掛け 焼成	
第7回	25回～26回：釉薬が出来次第、実際の器に釉掛けを行う	
第8回	27回～28回：釉薬原料の微調整、制作ノート確認③	焼成実験を含め、他学生と協力して行うよう、焼成日程を組む。
第9回	29回～30回：完成した釉薬の調合	
第10回	31回～34回：マケット制作	
第11回	35回：マケット制作 焼成、制作ノート確認④	
第12回	36回～39回：マケット制作 焼成	
第13回	40回：本制作 制作ノート確認⑤	
第14回	41回～44回：本制作	
第15回	45回：中間審査打合せ、制作ノート確認⑥	

■ 履修上の注意

- ・各自の計画表に沿って作業を進めること。

■ 成績評価方法・基準

- ・作品制作の過程、内容などの総合的評価70%（制作ノートの記入内容も含む）、制作意欲、自主性等30%
- ・制作ノート確認時にフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する

■ 参考書

- 〔新技法シリーズ102陶芸の基本〕〔東京芸術大学美術学部工芸科陶芸講座〕〔美術出版〕〔3, 024円〕
- 〔陶芸を学ぶ②〕〔京都造形芸術大学編〕〔角川書店〕〔7, 344円〕
- 〔混ぜておぼえるはじめての釉薬づくり〕〔野田耕一〕〔誠文堂新光社〕〔3, 024円〕

■ 備考

- ・作品完成数により随時締め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。

卒業研究Ⅰ

(11313)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：前期

生活美術学科専攻科目

安住英之

■ 授業の概要

本学で学び研究したことの集大成として、卒業制作（日本画）作品の制作を行う。卒業制作展への出品を前提に、展示・発表の段階までを視野に入れた企画立案、および作品制作をトータルプロセスで指導・支援する。年間を通して見た場合、中間審査を経て「卒業研究？」に至る「前期」に該当するため、個々の履修者と綿密に相談しつつ、テーマ設定やエスキース（作品の構想や構図などを練る下図）作成、制作スケジュール計画などを重点的に行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|-------------------------------|----|
| ・これまで培った知識・技法に基づく卒業研究のテーマの設定。 | ③⑨ |
| ・これまで培った知識・技法を駆使し、作品制作に取り組む。 | ③⑨ |
| ・追究してきた自己のテーマを、集大成としてまとめる。 | ③⑧ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1. 導入 科目の説明	東洋、日本の絵画の鑑賞。
第2回	2. テーマの探求	モチーフやテーマの模索。
第3回	3～5. 構想	出来るだけ対象を観察し描写をする。
第4回	6～10. デッサン、資料研究	観察出来ていないと気づいたところを丁寧に描き込んでおく。
第5回	11～19. エスキース（小下図）	デッサンを常に見返しておくこと。
第6回	20. テーマの探究	仕上がりイメージし、構図とともに細部も確認する。
第7回	21. 制作計画とテーマの相談	骨描きのため線の引き方を練習する。
第8回	22～30. 大下図制作	墨のぼかしの練習をする。
第9回	31～35. タブロー（本画）制作準備	墨の陰影の適確さと美しさの確認。
第10回	36～42. タブロー（本画）制作 トレースから骨描き	備品の技法書等で下地について下調べをしておく。
第11回	43. コンセプト及び展示計画の確認と制作記録のまとめ	備品の技法書等で水干と岩絵の具について下調べをしておく。
第12回	44. 中間審査作品提出準備、確認	出来るだけ制作を進める。膠の管理。
第13回	45. 中間審査作品提出	出来るだけ完成度を高めるべく制作する。膠の管理。
第14回		
第15回		

■ 履修上の注意

丹念に対象を観察すること。基本技法を素直な気持ちで習得すること。

毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、ふき取り後、洗浄。

■ 成績評価方法・基準

課題作品70%（完成度50% 意図・発想20%） 課題提出の際、フィードバックを行う。

授業態度30%（出席数。創作意欲や、創作の自主性等）

■ 教科書

無し

■ 参考書

無し

■ 備考

日本画

授業日12時半から13時までをオフィスアワーとする。古今東西の美術作品を多く鑑賞し、制作の参考とすること。

卒業研究 I

(11314)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：前期

生活美術学科専攻科目

井上直美

■ 授業の概要

漆芸作品の集大成として材料と形体を追求し、素地の完成を目指す為に模型制作をさせた上で、作品に合った技法を用いての素地制作を指導する。まず、エスキースを基に、粘土などで形を起こし、考察させる。用途に合わせ形や素材を再考察し、図面を完成させる。その後、図面を基に粘土型を完成させ、粘土型を基に石膏で形を起こして行く。石膏型をペーパーや刃物などで整え、剥離剤を塗り、和紙や麻布を貼り重ねながら空研ぎをして整え丁寧に進める。作家の視点からも用途によって貼る物の素材選択や強度に注意し進める様に指導する。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連
・粘土で形を正確に起こせるようになる	③⑧⑨
・用途に対しての形や素材の選択が出来るようになる	③⑧⑨
・石膏型を正確に作る技術を身に付ける	③⑧⑨

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 1回 作品のエスキース1	何点かスケッチしておく
第2回 2回 作品のエスキース2 確認	2～3点に作品を絞れる様にしておく
第3回 3, 4回 エスキースの細部調整	エスキースを完成させる
第4回 5, 6回 模型作成	模型作成を進めておく
第5回 7, 8回 模型修正	模型を完成させる
第6回 9, 10回 図面作製	図面を完成させる
第7回 11, 12回 材料と技法の考察	材料を揃えておく
第8回 13, 14回 原型制作	原型制作を進めておく
第9回 15, 16回 原型の調整	原型を完成させる
第10回 17, 18回 石膏型制作	石膏型の制作を進めておく
第11回 19, 20回 石膏型調整	石膏型を完成させる
第12回 21回 型に剥離剤1層目を塗る	何層か塗り重ねておく
第13回 22回 型に剥離剤2層目を塗る	研いでも石膏が出ない様にしておく
第14回 23, 24回 剥離剤の表面を整える	石膏が出た部分をカバーしておく
第15回 25, 26回 和紙を貼る	のりを煮ておく
第16回 27, 28回 麻布を貼る 1枚目	必要に応じて和紙を貼り重ねておく
第17回 29回 空研ぎ、錆付け	錆は布目が埋まるまで重ねておく
第18回 30, 31回 麻布を貼る 2枚目	布を貼り終えておく
第19回 32回 空研ぎ、錆付け	布目が埋まるまで錆を重ねておく
第20回 33, 34回 麻布を貼る 3枚目	布を貼り終えておく
第21回 35回 空研ぎ、錆付け	錆を重ねておく
第22回 36, 37回 麻布を貼る 4枚目	布の厚みが足りない場合は重ねておく
第23回 38回 空研ぎ、錆付け	錆を重ねておく
第24回 39回 空研ぎ、固め、黒中	黒中まで終わらせておく
第25回 40回 空研ぎ、黒中2	黒中まで終わらせておく
第26回 41回 縁の始末、固め、黒中	縁の始末を終わらせておく
第27回 42回 空研ぎ、黒中2	黒中まで終わらせておく
第28回 43回 高温乾燥	途中、高温乾燥機の確認をする
第29回 44回 制作過程の確認	ファイルの書き込みをしておく
第30回 45回 中間審査	プレゼンの準備をしておく

■ 履修上の注意

計画通りに進める。

■ 成績評価方法・基準

適切な技術を選択できたか、出欠状況や意欲	30%
作品の完成度、デザイン、センス、個性の表現	70%
講評会でフィードバックする。	

■ 教科書

授業中に適宜資料を配布する

■ 参考書

〔やさしく身に付くうるしのはなし 1～4〕〔日本漆工協会〕〔2, 160円〕

■ 備考

漆芸

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付けます。

卒業研究Ⅰ

(11315)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：前期

生活美術学科専攻科目

山口綾子

■ 授業の概要

これまでに修得したバーナーワークの技術・技法を用い、更なる創意工夫による完成度の高い作品を指導する。
着実に技法の研鑽を積み上げ、表現を深められるように、制作計画・テーマ設定・写真・画像・メモ・イラストなどの資料をまとめ、制作ノート・スクラップブックを作成しながら進める。
中間審査までに、作品のテストピース・モデル・展示空間まで含めた作品概要の計画を立案させる。
作家の制作・展示の経験から、4年間の集大成になる作品を目指すと共に、一人の作家としての意識を持たせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|----------------------------------|----|
| ・習得した技法の習熟度をさらに錬成することができる。 | ③ |
| ・主題に応じ、計画性、自主性をもって制作に取り組めるようになる。 | ⑧⑨ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

回数	単位数	内容	自習（事前・事後学修の内容）
第1回	1	ガイダンス 課題内容の説明	・事前にやりたいことをまとめ、ガイダンスで説明できるようにしておくこと。過去作品を持参すること。
第2回	2	年間計画の作成	・事前に制作日程と個々の日程を割りだしておく。
第3回	3	テーマ設定	・技法や制作の方向性決めておく。
第4回	4～10	参考資料収集	・制作イメージを具体的にするために資料を用意する。
第5回	11～14	資料のまとめ・デザインを決定	・収集した資料などをまとめ、スクラップブックを作成する。その中からデザインを選定する。
第6回	15	制作ノート確認①	・面談後の内容をまとめ制作に生かす。
第7回	16～24	試作・練習① 制作のイメージを形にする	・技術の習熟度に応じ手慣らしをしていく。
第8回	25	制作ノート確認②	・作業進捗の確認のため、制作ノートまとめる。
第9回	26～34	試作・練習② 技法・習熟度の確認	・スキルを確認する。
第10回	35	制作ノート確認③ 展示イメージ打合せ	・事前に展示方法について資料を用意する。
第11回	36～44	試作・練習③ テストピース／参考作品の制作 展示案のエスキースまたは模型を作成	・必要に応じ、各種展覧会に赴き、制作計画に反映させる。
第12回	45	中間審査作品提出準備・確認 制作ノート確認④	・見直し、まとめる。
第13回			
第14回			
第15回			

■ 履修上の注意

対象：【軟質ガラス／エアバーナー制作】 → グラスアートⅡ、Ⅲを受講し単位取得済の者。

【硬質ガラス／酸素バーナー制作】 → グラスアートⅠ、技法研究Ⅱを受講、単位取得済の者。

※硬質ガラス制作希望者については、酸素バーナーの授業を受講した者に限ります。

※取組むテーマやサイズ／個数により、早めに制作に着手する必要があります。

関連する展示会や販売展示を参考に見て回ること。

作品と展示の関係性（展示方法・設置）についても考察すること。

■ 成績評価方法・基準

- ・制作への取組 30%（作業姿勢・進捗状況・制作ノート・各種資料）
- ・作品 70%（完成度・習熟度・目標達成において総合的に判断する）
- ・制作ノートを通じて、常にフィードバックして行きます。

■ 教科書

事前にプリントなどを配布する。

■ 参考書

〔トンボ玉〕〔小暮紀一〕〔ほるぷ出版〕〔2, 808円〕

■ 備考

グラスアート

- ・質問、相談は、 オフィスアワー（曜日・時間は初回ガイダンスにて連絡）に受付ます。

卒業研究Ⅰ

(11316)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：前期

生活美術学科専攻科目

福田 一実

■ 授業の概要

4年間で習得した技術を基に、オリジナルの人形を制作させる。作品のテーマを設定し、展示空間を考えながら人形のキャラクターや人形の在り方について研究させ、人体の造形についても深く追求し、完成度の高い作品を制作できるよう指導する。誰にどこに作品を発信するのかしっかり考え、完成する作品、空間すべてを含め、綿密な計画を立てさせる。4年間の集大成の作品を見せる意義について考えさせると共に制作記録を付けさせるようにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・自分の世界の創作人形を完成させる。
- ・人形を通して展示の仕方も含め表現方法を考える。
- ・人形との向き合い方を深める。

⑨
③⑧
③

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1. ガイダンス	完成時のイメージを膨らませておく。資料集め。
第2回	2. 年間計画の打ち合わせ。計画表制作。テーマを決める。	解剖学の本などを参考にし、人体の研究をする。
第3回	3～4. 原寸大の下図を描き、型紙を作る。	
第4回	5～6. 芯材に下図をあててカッターなどで削り、形を作る。	
第5回	7～9. 粘土を練り芯材に3～5mm厚さに粘土を巻く。	しっかり乾燥させてくる。
第6回	10～12. 顔の造形をする。	顔の造形、表情について観察してくる。
第7回	13～14. 胴の造形をする。	やすりがけ
第8回	15～17. ステンレスの針金で手の芯を作り、手の造形をする。	やすりがけ
第9回	18～19. 腕の造形をし、手とのバランスもチェックする。	やすりがけ
第10回	20～25. 脚を造形し、足も作る。必要であれば芯も入れる。	やすりがけ
第11回	26～29. 乾燥後、全てを磨き、関節を切断し、芯を抜く。	やすりがけ
第12回	30～33. 関節の球を作り、磨く。途中経過確認。	やすりがけ
第13回	34～38. 球を各関節に固定し、球に対する受けを作る。	穴を開ける場所をしっかりと確認する。
第14回	39～44. 各球に穴を開け、ステンレス線を頭、手、足に固定する。	細かなキズなどをチェックする。
第15回	45. 中間審査打ち合わせ、途中経過確認。	

■ 履修上の注意

人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。

■ 成績評価方法・基準

課題作品50%、授業態度50%（出席率、忘れ物の有無、創作意欲など）課題作品提出時にフォードバックします。

■ 教科書

〔吉田式球体関節人形制作技法書〕〔吉田良〕〔ホビージャパン〕〔2, 880円〕

■ 参考書

〔美術解剖図ノート〕〔視覚デザイン研究所〕〔2, 700円〕
 〔はじめて作る球体関節人形〕〔アイミ〕〔秀和システム〕〔2, 000円〕
 〔人形論〕〔金森 修〕〔平凡社〕〔3, 200円〕

■ 備考

人形

解剖学の資料は必ず用意すること。

質問等については授業終了後、オフィスアワーを受け付けます。

卒業研究 I

(11317)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：前期

生活美術学科専攻科目

鹿野明子

■ 授業の概要

どんなマンガを描きたいか、作品テーマの設定をさせる。ディスカッションを通し、テーマやそれに伴う世界観を明確にさせる。それに関わる資料の収集、場合によっては取材をさせる。

前期卒業制作I提出までの計画を立てさせ、日誌を含む制作ノートを作らせる。マンガの要となるネームの指導をする。登場人物の設定を決める為、キャラクター表を作成させる。卒業制作のマンガ作成に必要な画力や構成力を付けるために小編作品を作らせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・ 作品完成までの計画を立てることができる

⑨

・ マンガの要素をよく検討し読みやすく魅力あるネームをつくることできる。

③⑧

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 1. ガイダンス・年間計画の確認

予め制作ノート・日誌を準備しておく

第2回 2. テーマ・プレゼンの打ち合わせ

卒制に向けて何を描きたいか考えておく

第3回 3～5. プロット作成、資料収集、取材

取材先、収集方法を考えておく

第4回 6～8. ネーム・キャラクター表作成・プロット確認

ノートチェック①

第5回 9. ネーム・キャラクター表チェック

ノートチェック②

第6回 10～14. ネーム修正

ノートチェック③

第7回 15. ネームチェック

ノートチェック④

第8回 16～17. プレゼン試作

ノートチェック⑤

第9回 18～20. 背景作画、

ノートチェック⑥

第10回 21. プレゼン監修

ノートチェック⑦

第11回 22～23. ネーム最終修正

ノートチェック⑧

第12回 24～40. 小編(試作)作品作成・ペン入れ

ノートチェック⑨

第13回 41～43. 仕上げ

ノートチェック⑩

第14回 44. 小編(試作)作品完成

ノートチェック⑪

第15回 45. 総評 フィールドバックを行う

ノートチェック⑫

■ 履修上の注意

技法研究IIを履修していることが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

課題80%（アイデア40%、絵（丁寧さ、画力、仕上げ）40%）授業態度（創作意欲や創作の自主性等）20%

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

マンガ

授業のあとオフィスアワーを設ける。

卒業研究Ⅱ

(11319)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：後期

生活美術学科専攻科目

北 折 整 鈴 木 専

■ 授業の概要

大学でこれまで学んできた知識や技能を総合的に活用した、4年間の集大成に相応しい卒業制作(洋画)を指導する。卒業研究Ⅰ(洋画)と同様に個人の課題に沿って主体的に制作を進め、特に課題発見から構想・計画から実作業のプロセス、コンセプトの醸成、表現材料の適正等を確認・立案させる。都度制作上の問題点を明確に整理するために「制作ノート」の作成を課す。また、完成作品については自己表現の到達度合や作品の存在意義・価値等の視点から振り返りを行わせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・これまでの総ての学修を統合し、自分自身の洋画表現の意義を社会・文化等との関係において十分理解することができる。
- ・主体的に専門の表現力・技術力を身に付けるとともに、持続的な制作態度により、美術表現による自己実現を行うことができる。
- ・美術活動(制作)を行うことで、生活文化の諸相に対する多様な視点を獲得することができる。

③⑧

③⑨

③

■ 授業計画

自習(事前・事後学修の内容)

第1回 1～3. 授業の説明

過去課題等のまとめ

第2回 4～6. 過去学修の振り返り、資料収集、計画立案等

関係資料等のまとめ

第3回 7～9. 試作Ⅰ(エスキース制作/描画)

支持体の準備及び制作の継続(試作Ⅰ)

第4回 10～12. " (描画/講評会)

"

第5回 13～15. 試作Ⅱ(エスキース制作/描画)

支持体の準備及び制作の継続(試作Ⅱ)

第6回 16～18. " (描画/講評会)

"

第7回 19～21. 本制作(エスキース制作/描画:主にテーマに留意)

支持体の準備及び制作の継続(本制作)

第8回 22～24. " (描画:主に形体に留意)

制作の継続(主に形体に留意)

第9回 25～27. " (描画:主に色彩に留意)

" (主に色彩に留意)

第10回 28～30. " (描画及び講評会:作業の確認及び他者意見の聴取)

" (主に講評会に留意)

第11回 31～33. " (描画:主に空間に留意)

" (主に空間に留意)

第12回 34～36. " (描画:主にアクセントに留意)

" (主にアクセントに留意)

第13回 37～39. " (描画:主にマチエールに留意)

" (主にマチエールに留意)

第14回 40～42. " (描画:主に完成度に留意)

" (主に完成度に留意)

第15回 43～45. " (描画及びプレゼンテーション/講評会)

制作の振り返り等(レポート作成)

■ 履修上の注意

- ・制作スペースは常時確保されているので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。

■ 成績評価方法・基準

- ・課題(90%)と授業態度(10%)
- ・課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・特に指定しない。

■ 参考書

- ・随時参考となる画集等を紹介する。

■ 備考

- ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

卒業研究Ⅱ

(11320)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：後期

生活美術学科専攻科目

佐藤 淳一

■ 授業の概要

3年間で修得した造形思考、技術をさらに深化・発展させて自己の造形思考を最高の地点まで到達させる。彫刻作品として今までの研究成果を完成させ、卒業制作展で発表させる。そのなかで現代彫刻としての可能性を研究させる。彫刻の基礎的造形要素や空間を意識した、場と空間、量感、動勢、表面、を制作により試行し研究する。自己の造形力を重視し十分に自己のイメージを制作ノートに展開しながら、創造力さらに深化発展させる。素材の良さを十分に引き出し、研究させる。アイデアから制作完成までの作業を教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・実材彫刻による造形を発想し展開できる
- ・設置場所に対して意識し彫刻を構想できる
- ・作業を他と協働して行うことができる

③⑨
③⑤⑧⑨
⑥⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1～3回. 授業内容、卒制の構想研究、評価方法説明、	シラバスを読む。課題提出
第2回	4回、意識の確立、地域と自己作品の関係性確認、制作ノート	アートプロジェクト研究
第3回	5～8回、テーマ確認（自己の独自性、地域、公募展研究）	各作品集研究、デッサン（制作ノート）
第4回	9～12制作研究1（素材研究）	彫場、木場見学、デッサン（制作ノート）
第5回	13～15回. 制作研究2（素材加工法研究）	造形論研究、彫刻展研究、作家取材
第6回	16～18回制作研究3（荒作り）	制作継続、制作ノート作成
第7回	19回テーマ確認（制作ノート評価）	制作継続、制作ノート作成
第8回	20～22回制作材研究 4（面と空間）	制作継続、制作ノート作成
第9回	23～25回制作研究 5（塊と量感）	制作継続、制作ノート作成
第10回	26～28回制作研究 6（動勢）	制作継続、制作ノート作成
第11回	29～33回制作研究 7（空間と量）	制作継続、制作ノート作成
第12回	34～38回制作研究 8（密度）	制作継続、制作ノート作成
第13回	39～41回制作研究 9（表面と密度）	制作継続、制作ノート作成
第14回	42～44回制作研究 10（地肌）	制作継続、制作ノート作成
第15回	45回 講評、卒業制作審査	制作のまとめと今後の展開作成

■ 履修上の注意

各種美術展の見学レポートの提出、時間外も制作する事。充分担当と打ち合わせし、自分のみでなく他の人の安全にも留意して作業すること。制作ノートを活用しデッサンし完成のイメージを磨くこと。

■ 成績評価方法・基準

作品評価40%、授業態度（集中して制作しているか20%、学んだことを制作に活かそうとしているか20%）制作ノート（提出レポート含む）20%（評価してフィードバックします）

■ 教科書

授業前に資料配布

■ 参考書

授業前に資料配布

■ 備考

4年間の制作のまとめとして完成に向かい充分準備を行うこと。質問はオフィスアワーでも受け付けます。

卒業研究Ⅱ

(11321)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：後期

生活美術学科専攻科目

森 敏 美

■ 授業の概要

4年間の集大成として、卒業研究Ⅰに引き続き個々の取り組むべき課題を整理し十分なディスカッションを通して臨ませる。制作ノート在完成させることにより、卒制の流れを見ることが出来るのでコンセプトに合わせ確認させる。卒業研究Ⅰで醸し出した世界観を、資料に基づき、精査した技法で、適切な大きさや設置方法を話し合い、プレゼンテーションも視野に入れ制作に向かわせる。予め作られた計画表に則り進めてゆくが、常に状況を見て修正しながら期日に間に合うよう万全を尽くさせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|---|-----|
| ・4年間の集大成を意識することで美術と社会との諸問題等を認識できる。 | ③⑧⑨ |
| ・制作ノートと併せて制作を進めることで計画性を身につけることができる。 | ⑧⑨ |
| ・作品や表現を他者により良く見せるスキルを身につけることにより、プレゼン能力を身に付けることができる。 | ⑧⑨ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1～3回	導入:科目・課題の説明	計画表の作成(制作ノートの確認)
第2回	4～6回	制作ノート・エスキース精査	制作ノートの続行
第3回	7～9回	支持体・素材加工	卒制のパネル材料等の準備
第4回	10～12回	卒制制作に入る	制作ノート、日誌等をつける
第5回	13～15回	ディスカッション	方向性等の確認
第6回	16～18回	制作 全体を捉える	作業工程を確認
第7回	19～21回	制作 形態確認	形の修正を施す
第8回	22～24回	制作	全体を捉えてゆく
第9回	25～27回	細部作成	詳細部の確認
第10回	28～30回	ディスカッション	修正点の確認
第11回	31～33回	制作	徐々に作業を進めてゆく
第12回	34～36回	部分修正	微調整
第13回	37～39回	詳細制作	全体も捉えてゆく
第14回	40～42回	仕上げ	詳細部の確認
第15回	43～45回	卒制講評会（フィードバックを行う）	卒業研究の総括

■ 履修上の注意

工房に卒制のスペースが確保されているので、時間を有効に活用し、環境保全に努めること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題90%（テーマ性、表現力、計画性、完成度等）、平常点10%（授業態度、主体性等）

■ 教科書

特に無し

■ 参考書

壁画工房、大学図書館等の資料文献、画集等

■ 備考

壁画

オフィスアワー（授業終了時）を有効活用し、卒制に関するを中心に相談し解決してゆく。

卒業研究Ⅱ

(11322)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：後期

生活美術学科専攻科目

三上秀夫

■ 授業の概要

これまで獲得してきた知識や技能を総合的に活用し、卒業制作に向けた新たな課題に自らが主体的に取り組む授業である。4年間の集大成に相応しい作品を完成させることを目的とし、作品づくりのための一連の計画の流れを確認し、情報収集、計画、材料の確認、加工、制作について個別に指導する。実際の展覧会場（卒業制作展）での発表という外に向けた発信を意識した作品研究の指導を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・知識・技能・態度を総合的に活用し活用することができる
- ・自らが立てた課題を主体的に解決する能力を身につける。

⑧

⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1~3. ガイダンス（授業の進め方、課題の発表、評価方法について）	調査、資料収集を行う
第2回	4~6. 制作 基本構造 構造計画	作品制作
第3回	7~9. 制作 基本構造 中間発表（進行状況、今後の予定）	材料の購入をする
第4回	10~12. 制作 中間構造 色彩計画	作品制作
第5回	13~15. 発表 手直し まとめ	作品制作
第6回	16~18. 制作 日程確認 全体構造 構造計画	作品制作
第7回	19~21. 制作 全体構造 色彩計画	発表の手順等、準備をする
第8回	22~24. 制作 全体構造 全体計	発表後の手直しをする
第9回	25~27. 制作 日程・計画発表 制作ノート確認	作品制作
第10回	28~30. 制作 細部の制作	材料の購入をする
第11回	31~33. 制作 仕上げ	作品制作
第12回	34~36. 制作 設置計画	作品制作
第13回	37~39. 制作 制作 手直し 完成	作品制作
第14回	40~42. 発表 手直し	発表の手順等、準備をする
第15回	43~45. まとめ プレゼンテーション 卒業研究Ⅱ提出	発表後の手直しをする

■ 履修上の注意

用具、材料については授業でその都度指示する

■ 成績評価方法・基準

提出課題40%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）授業態度（20%）、講評での発表の内容（40%）で評価する。課題に関しては、授業時にフィードバックを行う

■ 教科書

無し 授業時にプリントを配布する

■ 参考書

無し

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付けます

卒業研究Ⅱ

(11323)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：後期

生活美術学科専攻科目

瀬戸典彦

■ 授業の概要

①「卒業論文」の意味と目的について考察を促す。②複数の対象について調査と報告を課す。③調査のまとめが示唆することから、仮説の構築方法を指導し、その立証を支援する。④主体的にテーマを選択させ、結論までの推論を支援する。⑤設定したテーマと結論までの展開について検証させ、論旨の適正について自己評価を課す。⑥アウトラインを基に、卒業論文の執筆を支援する。⑧卒業論文に関するプレゼンと質疑応答の機会を設ける。⑨対話を重視し、課題発見から解決を共に探る。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・問題を探求し、その問題に沿ったテーマを設定することができる。
- ・必要な参考資料等を収集/活用することができる。
- ・問題の分析及び、そのことに関する論理的な推論と考察ができる。
- ・テーマを的確に表現することができる。
- ・論旨を論理的に展開することができる。

⑤
⑤
⑤
⑨
⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	第2章の執筆指導（トピック）	課題：第2章・トピックの執筆
第2回	第2章の執筆指導（ボディ）	課題：第2章・本文の執筆
第3回	第2章の執筆指導（まとめ）	課題：第2章・まとめの執筆
第4回	第2章の修正指導（トピック）	課題：第2章・トピックの修正
第5回	第2章の修正指導（ボディ）	課題：第2章・本文の修正
第6回	第2章の修正指導（まとめ）	課題：第2章・まとめの修正
第7回	第3章の執筆指導（トピック）	課題：第3章・トピックの執筆
第8回	第3章の執筆指導（ボディ）	課題：第3章・本文の執筆
第9回	第3章の執筆指導（まとめ）	課題：第3章・まとめの執筆
第10回	第3章の修正指導（トピック）	課題：第3章トピックの修正
第11回	第3章の修正指導（ボディ）	課題：第3章本文の修正
第12回	第3章の修正指導（まとめ）	課題：第3章まとめの修正
第13回	第4章以降の執筆指導（トピック）	課題：第4章トピックの執筆
第14回	第4章以降の執筆指導（ボディ）	課題：第4章本文の執筆
第15回	第4章以降の執筆指導（まとめ）	課題：第4章まとめの執筆
第16回	第4章以降の修正指導（トピック）	課題：第4章トピックの修正
第17回	第4章以降の修正指導（ボディ）	課題：第4章本文の修正
第18回	第4章以降の修正指導（まとめ）	課題：第4章まとめの修正
第19回	最章の執筆指導（トピック）	課題：最章の最初の段落の執筆
第20回	最章の執筆指導（トピック以降）	課題：最章の2段落目以降の執筆
第21回	最章の執筆指導（最終段落）	課題：最章の最終段落の執筆
第22回	最章の修正指導（トピック）	課題：最章の最初の段落の修正
第23回	最章の修正指導（トピック以降）	課題：最章の2段落目以降の修正
第24回	アブストラクト（要旨）作成指導	課題：要旨作成
第25回	アブストラクト（要旨）修正指導	課題：要旨修正
第26回	参考文献一覧 作成指導	参考文献一覧作成
第27回	参考文献一覧 修正指導	課題：参考文献一覧修正
第28回	表紙、目次等作成確認指導	課題：表紙、目次等作成
第29回	最終提出準備	課題：論文最終確認
第30回	プレゼン指導	課題：プレゼンデータ作成・確認

■ 履修上の注意

対象：生活美術学科アートインストラクターコース生 履修条件：論文Ⅰ既履修者

テーマ：美術教育に関する内容（原則）

30分を超える遅刻については欠席扱いとする。30分以内の遅刻については、欠席1/3回とみなす。

■ 成績評価方法・基準

テーマのオリジナリティー：30%、執筆過程：10% 内容：40%、プレゼンテーション：20%（フィードバックを行う）
ルーブリック評価については初回授業の際に説明する。

■ 教科書

その都度、資料を配布する。

■ 参考書

その都度、資料を配布する。

■ 備考

オフィスアワー：2時間/1週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する）

コロナウィルス感染拡大等の影響により当該シラバスに沿った授業の継続が困難となった場合は、シラバスを変更する。

卒業研究Ⅱ

(11324)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：後期

生活美術学科専攻科目

鶴 巻 史 子

■ 授業の概要

卒業制作Ⅱ（情報デザイン）では、1～3年次に学んだ基礎科目、専門科目、応用科目の集大成として、個別に対話しながら研究と作品制作に取り組む。個々に制作計画を作成し、作業プロセスを組み立てながら実践することによって、自己管理能力を養う。学外での作品発表や卒制作品展等の企画、運営を通してデザインの全プロセスを修得すると共に、実践的なプレゼンテーションスキルを磨き、社会に貢献できる力と文化創造力を身につけられるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・プレゼンを通して他者へ制作意図を伝えることができる
- ・デザインの全プロセスを習得し、社会に貢献できる

⑥⑧

⑤⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回：研究テーマの確認	研究テーマの調査、制作プロセスまとめ
第2回	2～5回：研究計画の作成	研究計画の調査、制作プロセスまとめ
第3回	6～10回：研究テーマに関する調査	研究テーマの調査、制作プロセスまとめ
第4回	11～15回：デザインスケッチ制作	デザインの調査、制作プロセスまとめ
第5回	16～20回：デザイン検討	デザインの調査、制作プロセスまとめ
第6回	21～37回：本制作	制作技法の調査、制作プロセスまとめ
第7回	38～42回：プレゼンテーション準備	プレゼン準備、制作プロセスまとめ
第8回	43～44回：プレゼンテーション、講評、リフレクション	プレゼン準備、制作プロセスまとめ
第9回	45回：本審査会	制作プロセスをデータにまとめる
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

■ 履修上の注意

技法研究Ⅰ・Ⅱ（情報デザイン）を履修していること。

制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（80%）、授業態度、取り組みの姿勢、プレゼンテーション（20%）で評価します。

課題作品については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

卒業研究Ⅱ

(11325)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：後期

生活美術学科専攻科目

大 堀 恵 子

■ 授業の概要

これまでに学んだ自然や社会を含む人間生活と美術の関係を学び、研究し、版画に関する知識技能、創造的思考力を総合的に活用する。完成度の高い卒業制作になるようにさまざまな素材や技法、いろいろな考え方にふれ、自己表現の手法を探索確立することを目標とする。卒業制作をととして、地域社会の発展に貢献できる力と文化創造力を身につけ、美術、工芸、デザイン分野に関する職業や創造活動に従事出来る能力が身に付けられるように指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|------------------------------|----|
| ・版の総合的な技法と工程を理解し身につけることができる。 | ③ |
| ・展覧会を見て得た情報を整理し制作に生かす手法を習得する | ⑨ |
| ・皆と協働し作品について意見交換し自律的に制作ができる。 | ⑧⑨ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回	ガイダンス、後期作業の確認	記録するための制作ノートを用意する。
第2回	2～11回	本制作、部分	作業ごとに内容をまとめ次回提出。
第3回	12～22回	本制作、細部	作業ごとに内容をまとめ次回提出。
第4回	23～31回	本制作、仕上げ	作業ごとに内容をまとめ次回提出。
第5回	32～34回	プレゼンテーション（検討）	プレゼンの検討内容をまとめ次回提出。
第6回	35～40回	プレゼンテーション（完成）	プレゼンの完成までの内容をまとめ次回提出。
第7回	41～44回	制作ノートのまとめ（完成写真、プロセスのまとめ）	制作ノートのまとめを行ない、最終的なプレゼンを行なう。
第8回	45回	本審査	
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

■ 履修上の注意

制作ノートに、それぞれの制作の試行錯誤をまとめ記録する。ポートフォリオ作成のための文章能力、PCの技術を習得する。

■ 成績評価方法・基準

ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照してください。

作業内容のまとめは授業中にフィードバックをします。

1. 提出課題（技法、計画性、創意工夫、完成度80%）
2. 制作ノート又はポートフォリオ（20%）

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

画集等を紹介する。

■ 備考

版画

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日と時間は掲示）で受け付けます。

卒業研究Ⅱ

(11326)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：後期

生活美術学科専攻科目

佐々木 輝 子

■ 授業の概要

技法研究Ⅰ・Ⅱ、卒業研究Ⅰで実施した研究テーマを基に卒業研究本制作に取り組む。制作意図をより明確化し、4年間の集大成としてふさわしい完成度の高い作品を制作できるよう指導する。制作のみに留まらず、必要に応じて繊維製品関連施設の課外研修等を実施し、社会に即応した実践力を身に付け、地域社会に貢献できる能力の習得・向上も図ることができるよう指導する。これまでに獲得した染織に関する知識・技能等を総合的に活用し、自らが立てた計画を適用し、その課題を主体的に解決する能力を養えるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--|-----|
| ・染織に関する高度な専門知識を身につける。 | ③⑧⑨ |
| ・綿密な染織計画を立て、制作を通して自ら主体的に課題を解決する能力を身につける。 | ③⑨ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回：ガイダンス	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第2回	2回～3回：年間計画	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第3回	4回～39回：本制作（計画に基づいた染織作品の制作）	作品に関する収集・制作ノートのまとめ
第4回	40回～41回：仕上げ	展示備品等の準備・制作ノートのまとめ
第5回	42回～44回：プレゼンテーション準備 資料整理	プレゼン準備・制作ノートのまとめ
第6回	45回：作品提出 審査	展示準備・制作ノートの完成

■ 履修上の注意

染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。
作品に使用する材料は、各自購入すること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（80%）、授業態度（20%）で評価します。
作品課題については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

図解染織技術事典 / 田中清香 土肥悦子 / 理工学社

■ 備考

質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

卒業研究Ⅱ

(11327)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：後期

生活美術学科専攻科目

立花 布美子

■ 授業の概要

中間提出の結果より進捗状況を確認、計画表の再検討をし、本提出まで綿密な計画性をもって制作に取り組むよう指導する。常に研究テーマに関連した参考文献、参考資料の収集、展覧会鑑賞に勉め、制作ノートをまとめさせる。また、焼成は各自が責任を持って行うため、制作意欲、自主性を持って望むよう指導する。また、本制作（最終焼成）後、最終プレゼンテーションの確認も含め、集大成に相応しい卒業研究となるよう指導していく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・卒業研究において自己管理能力を高めることができる。
- ・卒業研究における問題解決能力を高めることができる。
- ・これまでに修得した技法・技術の高度な専門知識を、美術を学ぶ意味と関連付けて表現することができる。

⑨

⑨

⑤

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 1回～9回：本制作

制作ノート確認時に各自設定した計画表の見直し、修正を行い研究を進めていく。

第2回 10回：本制作 制作ノート確認① 材料追加発注

第3回 11回～19回：本制作

第4回 20回：本制作 制作ノート確認② 進捗状況の確認、調整

第5回 21回～29回：本制作

第6回 30回：本制作 制作ノート確認③ プレゼン材料打合せ

プレゼンテーションについて、最終作品数、大きさと合わせて打ち合わせを行うよう準備する。

第7回 31回～40回：本制作

第8回 41回：本制作 最終焼成 窯出し

第9回 42回～44回：プレゼンテーション確認 修正

第10回 45回：制作ノート確認④ 最終プレゼンテーション確認

■ 履修上の注意

各自の計画表に沿って作業を進めること。

■ 成績評価方法・基準

- ・作品制作の過程、内容などの総合的評価70%（制作ノートの記入内容も含む）、制作意欲、自主性等30%
- ・制作ノート確認時にフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する

■ 参考書

〔新技法シリーズ102陶芸の基本〕〔東京芸術大学美術学部工芸科陶芸講座〕〔美術出版〕〔3, 080円〕

〔陶芸を学ぶ②〕〔京都造形芸術大学編〕〔角川書店〕〔7, 480円〕

〔混ぜておぼえるはじめての釉薬づくり〕〔野田耕一〕〔誠文堂新光社〕〔3, 080円〕

■ 備考

- ・作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。

卒業研究Ⅱ

(11330)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：後期

生活美術学科専攻科目

安住英之

■ 授業の概要

本学で学び研究したことの集大成として、卒業制作（日本画）作品の制作を行う。卒業制作展への出品を前提に、展示・発表の段階までを視野に入れてトータルプロセスで指導・支援する。年間を通して見た場合「卒業研究？」と中間審査を経た「後期」に該当するため、より高い完成度を目指して方向性の再検討やブラッシュアップ、制作スケジュール計画の調整などを重点的に行う。最終的に最高のパフォーマンスを引き出せるよう、履修者個別に臨機応変な指導を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|-----------------------------------|----|
| ・卒業研究Ⅰで得た気づきを作品に反映し、磨きをかける。 | ③⑨ |
| ・日本画の伝統に基づきつつ、既成概念にとらわれない制作姿勢を貫く。 | ③⑨ |
| ・自由な発想により、自己の表現の可能性を最大限に広げる。 | ⑧⑨ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1～8. タブロー（本画）制作 骨描き等	墨や支持体の種類、各特性を研究する。
第2回	9. 制作及び展示計画の確認1	制作の意図についてまとめておく。
第3回	10～22. タブロー（本画）制作 下塗り、墨の濃淡	下地の研究をしておく。
第4回	23. 制作及び展示計画の確認2	制作が計画通りに進んでいるか見直し、改善、変更点はまとめておく。
第5回	24～30. タブロー（本画）制作 墨、水干絵具での制作等	作画の方針を確認する。
第6回	31. 卒業作品展に向けての展示の準備	具体的に展示をイメージし、額装や表装についての研究。
第7回	32～38. タブロー（本画）制作 墨、岩絵具での制作等	常に作品を見直し、全体像を把握する。
第8回	39. 制作記録のまとめ	伝わりやすい記録になっているか確認。
第9回	40～44. タブロー（本画）制作 描き込み～完成	絵の核となる部分の描き込みを見直す。
第10回	44. 卒業制作提出準備	作品の側面の処理や展示道具の確認。
第11回	45. 卒業制作提出	制作意図と実際の仕上がりについて比較し、自身の制作のあり方を認識する。
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

■ 履修上の注意

丹念に対象を観察すること。基本技法を素直な気持ちで習得すること。

毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、ふき取り後、洗浄。

■ 成績評価方法・基準

課題作品70%（完成度50% 意図・発想20%）課題提出の際、フィードバックを行う。

授業態度30%（出席数。創作意欲や、創作の自主性等）

■ 教科書

無し

■ 参考書

無し

■ 備考

日本画

授業日12時半から13時までをオフィスアワーとする。古今東西の美術作品を多く鑑賞し、制作の参考とすること。

卒業研究Ⅱ

(11331)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：後期

生活美術学科専攻科目

井上直美

■ 授業の概要

漆芸作品制作の集大成として、制作した乾漆素地に、色彩、加飾を施し、今まで学んだ技術を表現出来る能力を身に付けられる様に作家としての視点を踏まえた上で指導する。前期に制作した乾漆の素地を高温乾燥し、表と裏両面のその後脱乾し、塗りと研ぎを繰り返す、形と塗りを完成させる。加飾は手板などを用いて、色見本、加飾見本を制作し、実験した上で作品に色や加飾を施す様に指導する。色は木地呂漆と顔料を練り合わせ自分で色漆を用いた変わり塗りの他に、蒔き絵、螺鈿、卵殻、彫漆などを指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 塗りを研ぎを追求し、より高度な形の表現が出来るようになる
- ・ 作品に対して、より効果的な加飾を行い、自己の表現が出来る
- ・ 全体的に仕上げを綿密にし、完成度を上げる

③⑨

③⑨

③⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1, 2回	脱乾	内側をよく洗い、乾燥させておく
第2回	3, 4回	縁の調整	縁の調整を終わらせておく
第3回	5回	固め、黒中	必要に応じて黒中を重ねておく
第4回	6回	捨て塗り	少し研ぎを進めておく
第5回	7, 8, 9回	水研ぎ	水研ぎを終わらせておく
第6回	10回	黒中1 内	黒中が塗れる様にしておく
第7回	11, 12回	水研ぎ	水研ぎを終わらせる
第8回	13回	黒中1 外	黒中が塗れる様にしておく
第9回	14, 15回	水研ぎ	水研ぎを終わらせる
第10回	16回	黒中2 内	黒中が塗れる様にしておく
第11回	17, 18回	水研ぎ	水研ぎを終わらせる
第12回	19回	黒中2 外	黒中が塗れる様にしておく
第13回	20, 21回	水研ぎ	水研ぎを終わらせる
第14回	22回	黒中3 内	色を考えておく
第15回	23回	色漆練り・見本板制作	手板の塗りをしておく
第16回	24回	色漆調整・見本研ぎ出し	見本板を完成させておく
第17回	25回	色漆塗り 内1	ムロの湿度を調整しておく
第18回	26回	色漆塗り 外1	ムロの湿度を調整しておく
第19回	27, 28回	水研ぎ	水研ぎを終わらせておく
第20回	29回	色漆塗り 内2	色漆塗りを終わらせておく
第21回	30回	色漆塗り 外2	乾漆の台を考えておく
第22回	31, 32回	水研ぎ	水研ぎを終わらせておく
第23回	33回	貝、卵殻貼り	段差に錆を入れておく
第24回	34回	塗り込み	平らになるまで塗り込んでおく
第25回	35, 36回	研ぎ出し	少しずつ研ぎ出しておく
第26回	37, 38回	述べ摺り	何回かに分けて述べ摺りしておく
第27回	39, 40, 41回	生摺り	摺りを重ねておく
第28回	42, 43回	蒔絵・漆絵	加飾を進めておく
第29回	44回	磨き、プレゼン確認	磨きを終わらせておく
第30回	45回	審査	ファイルの確認をする
第31回			
第32回			

■ 履修上の注意

計画通りに進める。

■ 成績評価方法・基準

適切な技術を選択できたか、出欠状況や意欲 30%
 作品の完成度、デザイン、センス、個性の表現 70%

講評会でフィードバックする。

■ 教科書

授業中に適宜資料を配布する。

■ 参考書

〔やさしく身に付くうるしのはなし1~4〕〔日本漆工協会〕〔2, 160円〕

■ 備考

漆芸

質問等については、授業終了時、あるいはオフィスアワーに受け付けます。

卒業研究Ⅱ

(11332)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：後期

生活美術学科専攻科目

山口綾子

■ 授業の概要

これまでに修得したバーナーワークの技術・技法を更に昇華させるために、中間審査の結果をふまえ、進捗状況を確認し、作品の「質」をさらに向上させる。

必要に応じて、計画の見直しや作品の修正と改善を行い、納得のいく作品に仕上げるよう指導する。

また、作品の世界観を大切に、展示も含め自分の考えを伝える力を身に付けることを目指す。

作家の制作・展示の経験から、4年間の集大成になる作品を目指すと共に、一人の作家としての意識を持たせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 習得した技法の習熟度をさらに錬成することができる。
- ・ 主題に応じ、計画性、自主性をもって制作に取り組めるようになる。

③

⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1	ガイダンス 面談	・ 事前に中間審査の講評内容を制作ノートにまとめておく。
第2回	2～5	中間審査の内容確認・修正や改善	・ 制作に必要な資料の収集と、まとめを常に行う。
第3回	6～35	本制作（随時、制作ノートの確認）	・ 卒業制作ノートを作成し、制作計画を確認する。
第4回	36～40	仕上げ	・ 展示に必要な素材を用意する。
第5回	41～44	展示方法の仕上げ	・ 展示会場の情報を把握しておく。
第6回	45	本審査作品提出準備・確認 制作ノート確認	・ 見直し、まとめる。
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

■ 履修上の注意

対象：【軟質ガラス／エアバーナー制作】 → グラスアートⅡ、Ⅲを受講し単位取得済の者。

【硬質ガラス／酸素バーナー制作】 → グラスアートⅠ、技法研究Ⅱを受講、単位取得済の者。

※硬質ガラス制作希望者については、酸素バーナーの授業を受講した者に限ります。

関連する展示会や販売展示を参考に回ること。

作品と展示の関係性（展示方法・設置）についても考察すること。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 制作への取組 30%（作業姿勢・進捗状況・制作ノート・各種資料）
- ・ 作品 70%（完成度・習熟度・目標達成において総合的に判断する）
- ・ 制作ノートを通じて、常にフィードバックして行きます。

■ 教科書

- ・ 事前にプリントなどを配布する。

■ 参考書

- ・ 〔トンボ玉〕〔小暮紀一〕〔ほるぷ出版〕〔2, 808円〕

■ 備考

グラスアート

- ・ 質問、相談は、 オフィスアワー（曜日・時間は初回ガイダンスにて連絡）に受付ます。

卒業研究Ⅱ

(11333)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：後期

生活美術学科専攻科目

福田 一 実

■ 授業の概要

4年間で習得した技術を基に、オリジナルの人形を制作させる。作品のテーマを設定し、展示空間を考えながら人形のキャラクターや人形の在り方について研究させ、人体の造形についても深く追求し、完成度の高い作品を制作できるよう指導する。誰にどこに作品を発信するのかしっかり考え、完成する作品、空間すべてを含め、綿密な計画を立てさせる。4年間の集大成の作品を見せる意義について考えさせると共に制作記録を付けさせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|--------------------------------|----|
| ・自分の世界の創作人形を完成できる。 | ⑨ |
| ・人形を通して展示の仕方も含め表現方法を考えることができる。 | ③⑨ |
| ・人形との向き合い方を深めることができる。 | ③⑧ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1～3. 仮組をし、バランスチェック。塗装が出来るようしっかりとヤスリをかける。	全体のバランス確認。
第2回	4～8. 塗装をし、磨く。	細かなキズなどをチェックする。
第3回	9～12. 塗装したものに着色する。	
第4回	13～14. メイクする。	メイクのイメージ、資料集め
第5回	15～18. かせを作り、髪を貼る。	ヘアスタイルのイメージ、資料集め
第6回	19. 組み立てる。	
第7回	20～32. 衣装を作る。	衣装の資料集め。
第8回	33～44. 背景、展示方法。	
第9回	45. 完成。講評。	
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

■ 履修上の注意

人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。

■ 成績評価方法・基準

課題作品50%、授業態度50%（出席率、忘れ物の有無、創作意欲など）
講評会の際、フィードバックを行う

■ 教科書

〔吉田式球体関節人形制作技法書〕〔吉田良〕〔ホビージャパン〕〔2, 880円〕

■ 参考書

〔美術解剖図ノート〕〔視覚デザイン研究所〕〔2, 700円〕
〔はじめて作る球体関節人形〕〔アイミ〕〔秀和システム〕〔2, 000円〕
〔人形論〕〔金森 修〕〔平凡社〕〔3, 200円〕

■ 備考

人形

解剖学の資料は必ず用意すること。

質問等については授業終了後、オフィスアワーを受け付けます。

卒業研究Ⅱ

(11334)

単位：6単位

対象学科：生美4年

授業形態：演習 学期：後期

生活美術学科専攻科目

鹿野明子

■ 授業の概要

前期卒制研究Ⅰの審査結果をふまえ、本提出に向けた計画の見直しやプレゼンテーション、制作ノートの指導を行う。提出にあたり最低限の画力は必要だが、卒制〆切までの時間で個人の持つ技量と構成力、ストーリー性等の要素をバランスよく取り入れた作品になるよう指導する。また、作品の中にどれだけ作者の世界観を取り入れて、それを第三者にもわかりやすく示せるか、トータルで卒制課題としてのクオリティを醸し出せるように指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- | | |
|-------------------------------|----|
| ・丁寧で綺麗な仕上げを行い、クオリティの高い画面にできる。 | ③⑨ |
| ・妥協せず完成度の高い内容に仕上げることができる。 | ③⑨ |
| ・作品のよさが伝わる展示方法を実践できる。 | ③⑧ |

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 1. 前期からの計画を見直し修正する	前期製作ノートをチェックしておく
第2回 2～4. ネームの見直しチェック：ノートチェック①	内容、構成等を吟味しておく
第3回 5～7. 構図等の見直しチェック：ノートチェック②	構図や枠取り等の作業を進めておく
第4回 8～10. ペン入れ：ノートチェック③	用具のチェックも行っておく
第5回 11～13. ペン入れ：ノートチェック④	毎回丁寧な作業を心がける
第6回 14～15. ペン入れ：ノートチェック⑤	毎回丁寧な作業を心がける
第7回 16～19. ペン入れ：ノートチェック⑥	毎回丁寧な作業を心がける
第8回 20～21. ペン入れ：ノートチェック⑦	毎回丁寧な作業を心がける
第9回 22～25. ペン入れ：ノートチェック⑧	毎回丁寧な作業を心がける
第10回 26～28. ペン入れ：ノートチェック⑨	毎回丁寧な作業を心がける
第11回 29～31. ペン入れ：ノートチェック⑩	毎回丁寧な作業を心がける
第12回 32～34. プレゼンテーション1, 2：ノートチェック⑪	パネル展示、印刷、製本、原画の扱い等をディスカッションし、効果的なプレゼン方法を検討してゆく
第13回 35～36. プレゼンテーション3, 4：ノートチェック⑫	パネル展示、印刷、製本、原画の扱い等をディスカッションし、効果的なプレゼン方法を検討してゆく
第14回 37～39. プレゼンテーション5, 6：ノートチェック⑬	パネル展示、印刷、製本、原画の扱い等をディスカッションし、効果的なプレゼン方法を検討してゆく
第15回 41～42. プレゼンテーション7, 8	パネル展示、印刷、製本、原画の扱い等をディスカッションし、効果的なプレゼン方法を検討してゆく
第16回 43～44. プレゼンテーションの確認、修正	パネル展示、印刷、製本、原画の扱い等をディスカッションし、効果的なプレゼン方法を検討してゆく
第17回 45. 本提出前の確認：ノートチェック⑭	製作ノート、日誌を確認する

■ 履修上の注意

マンガⅠ、Ⅱ、Ⅲ、技法研究Ⅱa(マンガ)を履修していることが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

課題提出でフィードバックを行なう。

課題80%（アイデア40%、絵（丁寧さ、画力、仕上げ）40%）授業態度（創作意欲や創作の自主性等）20%

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

マンガ

授業の後にオフィスアワーを設ける。

卒業研究特別講義 I

(11336)

単位：1 単位

対象学科：生美 4 年

授業形態：講義 学期：前期

生活美術学科専攻科目

鈴木 専 鶴 巻 史 子

■ 授業の概要

これまで獲得してきた知識や技能を総合的に活用した、卒業制作または卒業論文の準備のための授業である。研究の一連の流れを確認し、情報収集や調査、制作または執筆の計画、取材、材料の確認、加工の手段等を検討し、テーマに沿った制作または執筆のための指導をする。また、外部の会場を借りて卒業制作展を行うことを想定した準備計画についての指導を行う。この授業の最後に卒業研究 I 提出として、作品または論文の進行状況と今後の計画等の発表を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・卒業研究を進めていく上で基本となる考え方およびスキルを学ぶことで、4年間の学修の集大成として課題を解決する能力を身につけることができる

⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 卒業研究の概要（履修登録確認）	シラバスを熟読すること
第2回 卒業研究の成果と課題	シラバスに沿って各自検討する
第3回 卒業研究の年間計画	計画のための情報収集をする
第4回 卒業研究の立案と制作ノートについて	制作ノートを記入する
第5回 卒業制作展について（ファイル参考）	制作ノート日程（計画表）の作成
第6回 卒業制作展について（係分担）	係ごとに仕事内容を確認しておく
第7回 材料・技法検討	材料、技法の情報収集をする
第8回 材料準備	材料研究を行う
第9回 エスキース制作（支持体）	制作ノート（取材・調査）の作成
第10回 エスキース制作（大きさ）	制作ノート（材料・技法）の作成
第11回 エスキース制作（技法）	制作ノートを進める
第12回 本制作（下地）	制作ノートをまとめる
第13回 本制作（全体）	係ごとの仕事内容の報告と確認
第14回 本制作（全体）	発表の順番、場所時間の確認
第15回 卒業研究 I 提出について	各自発表場所の準備

■ 履修上の注意

毎回、授業開始時に作業の説明と指示を行うので遅刻しないよう注意すること。

■ 成績評価方法・基準

授業参加状況（80%）、レポート内容（20%）で評価します。

制作ノートに関しては授業時にフィードバックします。

■ 教科書

資料を配布する。

■ 参考書

特になし。

■ 備考

質問については、授業時に受け付けます。

卒業研究特別講義Ⅱ

(11337)

単位：1単位

対象学科：生美4年

授業形態：講義 学期：後期

生活美術学科専攻科目

鈴木 専 鶴 巻 史 子

■ 授業の概要

これまで獲得してきた知識や技能を総合的に活用した、卒業制作または卒業論文に主体的に取り組む授業である。4年間の集大成にふさわしい作品または論文を完成させる。研究のための一連の流れを確認し、情報収集や調査、制作または執筆の計画、取材、材料の確認、加工の手段等を検討し、テーマに沿って制作または執筆のための指導をする。また、外部の会場を借りて卒業制作展を開催するための具体的な準備についての指導を行う。この授業の最後に卒業研究Ⅱ提出として、作品または論文の提出と発表を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・卒業研究を進めていく上で基本となる考え方およびスキルを学ぶことで、4年間の学
修の集大成として課題を解決する能力を身につけることができる

⑧⑨

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	学生相互の情報交換（履修登録確認）	情報交換（履修）のための準備
第2回	学生相互の情報交換（進路確認）	情報交換（進路）のための準備
第3回	学生相互の情報交換（卒業作品展・展示計画）	情報交換（展示計画）のための準備
第4回	学生相互の情報交換（卒業作品展・広報）	係ごとに仕事内容を確認
第5回	学生相互の情報交換（卒業作品展・搬入計画）	材料、技法の確認
第6回	本制作（全体）	係ごとに仕事内容を確認
第7回	本制作（部分）	材料、技法の確認
第8回	本制作（細部）	制作ノート（制作過程）の作成
第9回	本制作（仕上げ）	制作ノート（仕上げ）の作成
第10回	本制作（完成）	制作ノート（展示計画）の作成
第11回	本制作（手直し）	制作ノート担当教員による確認
第12回	プレゼンテーション案について	制作ノートをまとめる
第13回	プレゼンテーション手直し	係ごとの仕事内容の報告と確認
第14回	プレゼンテーション完成	発表順番、場所時間の確認
第15回	卒業研究Ⅱ提出について	各自発表場所の準備

■ 履修上の注意

毎回、授業開始時に作業の説明と指示を行うので遅刻しないよう注意すること。

■ 成績評価方法・基準

授業参加状況（80%）、レポート内容（20%）で評価します。

制作ノートに関しては授業時にフィードバックします。

■ 教科書

資料を配布する。

■ 参考書

特になし。

■ 備考

質問については、授業時に受け付けます。

教職に関する科目

教育原理

(19801)

単位：2単位

対象学科：健専2年・服専2年・美表2年

授業形態：講義 学期：前期

教職に関する科目

宮澤孝子 山沢智樹

■ 授業の概要

本講義ではまず教育の本質を理解するために、教育の目的や意味、家庭教育や学校教育などの基礎理念を整理する。次に、子ども観や教育観の変遷とともに教育の起源や歴史を包括的にとり上げ、日本と諸外国でどのように教育が起こり広がっていったのかを解説する。また、教育に関するさまざまな思想を取り上げ、代表的な教育思想家や現代の教育思想を幅広く紹介する。最後に戦後の日本が直面してきた諸課題を歴史的に吟味し、今日の教育理念を幅広く紹介する。講義中には自らの考えを発表し他の学生と討論する時間を設けることで、学生自身が自らの教育観や子ども観を捉え直し、実践の基盤として据えられるようにしたい。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・教育の本質・目的・概念に関する基礎的な知識を習得する。
- ・教育の歴史の変遷や現代社会における教育課題を理解する。
- ・日本と諸外国の教育思想について理解する。

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 オリエンテーション（宮澤・山沢）	シラバスの確認、学習内容を見通す。
第2回 教育の本質と意義：教育とは何か（宮澤・山沢）	辞書で「教育」を調べる／復習
第3回 教育の目的と目標（宮澤・山沢）	人間形成とは何かを考える／復習
第4回 教育の場と内容：家庭と学校教育（宮澤・山沢）	自分の教育観を考える／復習
第5回 教育の歴史（1）教育のはじまり（宮澤・山沢）	教育の起源を考える／復習
第6回 教育の歴史（2）子どもの発見（宮澤・山沢）	配布資料を読んでくる／復習
第7回 教育思想（1）欧米の教育思想①（宮澤・山沢）	教育思想家について調べてくる／復習
第8回 教育思想（2）欧米の教育思想②（宮澤・山沢）	教育思想家について調べてくる／復習
第9回 教育思想（3）日本の教育思想（宮澤・山沢）	教育思想家について調べてくる／復習
第10回 教育の歴史（3）近代教育制度以前の学び（宮澤・山沢）	教育思想家について調べてくる／復習
第11回 教育の歴史（4）近代教育制度の成立（宮澤・山沢）	教育思想家について調べてくる／復習
第12回 戦後教育改革（1）教育理念（宮澤・山沢）	配布資料を読んでくる／復習
第13回 戦後教育改革（2）教育制度（宮澤・山沢）	配布資料を読んでくる／復習
第14回 歴史的課題と今日の教育理念（宮澤・山沢）	配布資料を読んでくる／復習
第15回 まとめと試験（宮澤・山沢）	講義内容を振り返り、試験に備える。

■ 履修上の注意

授業中の課題をしっかりと行うこと。配布資料が多いので、ファイリングをして失くさないようにすること。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点40%（リアクションペーパーの内容、課題、参加態度）、期末試験60%
- ・各回の授業でのリアクションペーパーおよび課題については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。
- ・試験については、問題のポイント解説を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

適宜、レジュメ等を配布する。

■ 参考書

〔教育思想史〕〔今井康雄編〕〔有斐閣アルマ〕〔2, 200円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

教職概論

(19802)

単位：2単位

対象学科：健専1年・服専1年・美表1年

授業形態：講義 学期：後期

教職に関する科目

大 迫 章 史

■ 授業の概要

教師という職業（教職）の意義・職務・課題について学修を進め、自分の将来の進路として、教職を選択することの適否について考えることができるようになること、これを授業の目的とする。

(1) 教職に対する社会的期待（教職観）がどのような変遷を辿って今日に至っているのか、(2) 教職に関する法制や制度がどのような仕組みと構造になっているのか、(3) 教職の現実を教員が実際に出くわすと思われる場面を想定しながら理解できるようにする、以上を学修内容とする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ (1) 教師という職業の変遷について、その概略を理解できるようになる。
- ・ (2) 教師という職業に関する法制や制度について、その概略を理解できるようになる。
- ・ (3) 教師という職業の実際について、その難しさも含めて理解できるようになる。

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス	シラバス等の熟読。
第2回 教師のしごとの実際（VTR併用）	教師の仕事へイメージをもつ。レジユメの振り返り。
第3回 教職観の変遷：聖職者 ⇄ 労働者 ⇄ 専門職	教師のあり方を考えておく。レジユメの振り返り。
第4回 専門職としての教師：他の専門職との比較	専門職について考えておく。レジユメの振り返り。
第5回 公教育と教師：公共的使命、身分保障と服務	教師の役割をを考えておく。レジユメの振り返り。
第6回 教師の職能成長：研修をめぐる諸問題	研修について調べる。レジユメの振り返り。
第7回 カリキュラム編成と教師	カリキュラムを調べる。レジユメの振り返り。
第8回 授業づくりと教師	学修指導案について調べる。レジユメの振り返り。
第9回 子どもの権利と教師	子どもの権利条約を調べる。レジユメの振り返り。
第10回 児童・生徒の懲戒（1）：教育作用としての懲戒	懲戒を調べる。レジユメの振り返り。
第11回 児童・生徒の懲戒（2）：とくに体罰をめぐる	体罰について調べる。レジユメの振り返り。
第12回 受講者の報告（被教育体験）とグループ討議① ：いま教師に求められる力量について	自らが教育を受けてきた経験を振り返り、文章等にまとめる。
第13回 受講者の報告（被教育体験）とグループ討議② ：いま教師に求められる力量について	自らが教育を受けてきた経験を振り返り、文章等にまとめる。
第14回 「チーム学校」という考え方	組織で働くことを考える。レジユメを振り返る。
第15回 「教員文化」をめぐる諸問題	教員文化について調べる。レジユメの振り返り。
第16回 最終試験	

■ 履修上の注意

私語等は厳に慎むこと。欠席については事前（あるいは事後できるだけ早いうちに）に届け出ること。課題等の提出期限はその期限を厳守すること。

■ 成績評価方法・基準

5回、10回の授業終了時に提示する小レポート（40%）、最終試験（60%）

■ 教科書

教科書は指定しない。講義は、担当者が配布するレジユメにもとづき進める。

■ 参考書

教職概論第5次改訂版 佐藤晴雄 学陽書房 2, 640円 その他の参考書は授業内で随時紹介する。

■ 備考

- (1) 資格要件に関する情報 ⇒ 教育職員免許状の取得に必要な授業科目です。
- (2) 特別な配慮を要する学生に対する扱い ⇒ 申し出て下さい。
- (3) オフィスアワー ⇒ 質問等については、授業終了時あるいはメール等で受け付けます。

教育制度論

(19803)

単位：2単位

対象学科：健専3年・服専3年・美表3年

授業形態：講義 学期：前期

教職に関する科目

宮澤孝子

■ 授業の概要

本講義では現代の学校教育を取り巻く制度を理解するため、主に次の3つの内容を取り扱う。第一に、日本と諸外国の学校教育の制度を原理的、歴史的、構造的に解説する。第二に、学校教育制度を構成している教育関係の法規や、教育制度を実行に移す主体としての教育行政の仕組みについて講義する。その際、学校教育における課題と近年の教育政策とを関連付けながら解説する。第三に、学校と地域の連携ないし協働に対する意義を、学校安全に関する法律にも触れながら紹介する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 1. 学校教育に関する制度的な基礎知識を習得する。
- ・ 2. 社会と学校教育の結びつきを理解し、教育政策の動向を理解する。
- ・ 3. 学校と地域の連携および学校安全への対応に関する知識を身につける。

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 オリエンテーション	教育制度を学ぶ意味について
第2回 公教育の原理・理念	公教育の意味について/復習
第3回 公教育制度の構造（1）戦前	教育勅語、義務教育について/復習
第4回 公教育制度の構造（2）戦後	教育を受ける権利について/復習
第5回 教育関係の法規①：日本国憲法と教育基本法	新旧教育基本法の比較/復習
第6回 教育関係の法規②：学校教育法と関係法令	近年の教育関係法令について/復習
第7回 教育行政の理念	教育行政の条件整備義務について/復習
第8回 教育行政の仕組み	教育行政の権限と組織について/復習
第9回 教育委員会制度	教育委員会の役割について/復習
第10回 学校を巡る状況と指導上の課題	教育評価について/復習
第11回 近年の教育政策の動向	教師の働き方改革について/復習
第12回 学校と地域の連携①：地域と親と学校	教育の自治、PTAについて/復習
第13回 学校と地域の連携②：開かれた学校づくり	各地域の取り組みについて/復習
第14回 学校安全への対応①：学校保健安全法	学校安全に関わる今日的問題について/復習
第15回 学校安全への対応②：安全教育の取り組み	学校安全に関わる具体的事例について/復習
第16回 まとめと試験	

■ 履修上の注意

- ・ 試験を受けるにあたっては、3/2以上の授業出席を条件とする。
- ・ 全ての講義回において、講義形式とグループワーク・ディスカッション形式にて授業を進める。
- ・ 積極的な発言、参加を期待します。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 平常点50%（ミニットペーパー、レポート課題）、試験50%
- ・ 各回でのミニットペーパー、課題については、後続の授業冒頭においてフィードバックをする。

■ 教科書

- ・ 各授業前にレジュメ・資料を配布します。

■ 参考書

- ・ 『教育小六法 2021年版』〔勝野正章他 編〕〔学陽書房〕〔3, 080円〕

■ 備考

- ・ 個人での勉強（復習）方法については、初回授業にて提案します。
- ・ 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。
- ・ 都合により、授業計画を変更する場合があります。

教育心理学

(19804)

単位：2単位

対象学科：健専2年・服専2年・美表2年

授業形態：講義 学期：前期

教職に関する科目

宮 前 理

■ 授業の概要

教師として児童・生徒を指導する上で必須の心理学の知見を学ぶ。知能（認知）、パーソナリティ、社会性等について発達段階と遺伝要因・環境要因の関わり方に注目した発達理論、また動機付け等に関する学習理論を教授する。理解を深めるために知能検査を紹介する。それらの諸理論を教師の具体的な教育活動に関連付けながら、学級集団づくりと教師の役割と生徒指導、いじめ、不登校、発達障害、危機管理などの学級集団に関わる諸問題について教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- 1 児童生徒の発達過程の特徴と手がかりとなる理論を理解する。
- 2 動機付け等の学習理論の基礎を理解する。
- 3 学級集団づくりと学級で生じる諸問題について理解する。

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 授業の概要説明	教育心理学の意義と課題
第2回 発達の理論	発達段階等について
第3回 パーソナリティと適応	テキストの該当部分を熟読する
第4回 パーソナリティ形成における遺伝と環境の要因	関連資料の熟読
第5回 ピアジェの知能（認知）の発達理論（1）	テキストの該当部分を熟読する
第6回 ピアジェの知能（認知）の発達理論（2）	テキストの該当部分を熟読する
第7回 学習と動機付け	関連資料の熟読
第8回 学習の理論	関連資料の熟読
第9回 学級集団と教師の役割	テキストの該当部分を熟読する
第10回 学級集団づくりと生徒指導	テキストの該当部分を熟読する
第11回 学級集団の諸問題 不登校	テキストの該当部分を熟読する
第12回 学級集団の諸問題 いじめ	テキストの該当部分を熟読する
第13回 学級集団の諸問題 いじめの事例から学ぶ	テキストの該当部分を熟読する
第14回 学級集団の諸問題 発達障害	テキストの該当部分を熟読する
第15回 学級集団の諸問題 危機管理	テキストの該当部分を熟読する

■ 履修上の注意

第一回目に注意事項を説明します。

■ 成績評価方法・基準

レポート課題30%、最終試験70%で評価をします。

レポート課題についてはフィードバックを行います。

■ 教科書

■ 参考書

講義時に指示します。

■ 備考

受講人数等の事情によって授業計画の修正を行う場合があります。

質問は講義時やオフィアワーで受け付けます。オフィアワーでの質問等は事前にメール予約してください。

特別支援教育

(19805)

単位：1単位

対象学科：健専3年・服専3年・美表3年

授業形態：講義 学期：後期

教職に関する科目

三浦主博

■ 授業の概要

通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする児童・生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、児童・生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。また、授業中の話し合いや発表等を通して、子どもの障害について理解を深めていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 1. 特別の支援を必要とする児童・生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。
- ・ 2. 特別の支援を必要とする児童・生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。
- ・ 3. 障害はないが特別の教育的ニーズのある児童・生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション：特別支援教育 (インクルーシブ教育)に関する制度の理念や仕組み	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第2回	障害児の理解と支援①(身体障害)	配布プリントを読み、予習・復習をする。
第3回	障害児の理解と支援②(知的障害)	配布プリントを読み、予習・復習をする。
第4回	障害児の理解と支援③(発達障害)	配布プリントを読み、予習・復習をする。
第5回	特別支援教育に関する教育課程の理解	配布プリントを読み、予習・復習をする。
第6回	個別の指導計画及び個別の教育支援計画作成の意義と方法	配布プリントを読み、予習・復習をする。
第7回	特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭との連携による支援	配布プリントを読み、予習・復習をする。
第8回	障害はないが特別の教育的ニーズのある児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応	配布プリントを読み、予習・復習をする。
第9回	期末試験	

■ 履修上の注意

授業への取り組み(受講態度・課題提出)を重視します。

授業内容をしっかりとノートに取ること。また、積極的にグループワーク等に参加すること。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組みの状況(20%)、提出課題(20%)、期末試験(60%)により総合的に評価します。なお、欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。提出課題等については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

授業前に資料(プリント)を配布する。

■ 参考書

[子どもとかかわる人のための心理学] [沼山博・三浦主博] [萌文書林] [2, 200円]

[中学校学習指導要領(2017年)] [高等学校学習指導要領(2019年)] [文部科学省]

■ 備考

質問等については、授業終了時に受け付けます。

教育課程論

(19806)

単位：2単位

対象学科：健専2年・服専2年・美表2年

授業形態：講義 学期：前期

教職に関する科目

中島夏子 宮澤孝子

■ 授業の概要

本講義は教育課程とその編成方法について学ぶことを目的とする。各授業では、学習指導要領の位置づけやその内容、教育課程の編成の原理、カリキュラム・マネジメント等の教育課程の基礎的な知識を、関連資料の読解やグループワーク等を通して理解する。また、指導計画を立てることを通して、指導計画と教育課程の編成の仕方を習得する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 1. 学校教育において教育課程が有する意義を理解する。
- ・ 2. 教育課程編成の原理及び方法を理解する。
- ・ 3. カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 教育課程の社会における役割と機能（中島、宮澤）	教育課程について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
第2回 教育課程の基本構造（中島、宮澤）	教育課程の基本構造について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
第3回 学習指導要領の位置づけと教育課程編成の目的（中島、宮澤）	学習指導要領の制度について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
第4回 学校における教育課程と授業の指導計画（中島、宮澤）	学校における教育課程と授業の指導案について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
第5回 教育課程編成の原理（中島、宮澤）	教育課程編成の原理について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
第6回 学習指導要領の変遷（中島、宮澤）	教育課程の歴史について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
第7回 現行学習指導要領の特質（中島、宮澤）	学習指導要領の特質について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
第8回 教科横断的な教育課程とカリキュラム・マネジメント（中島）	カリキュラム・マネジメントについて調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
第9回 教育評価とカリキュラム評価（中島）	教育評価とカリキュラム評価について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
第10回 中間まとめと試験（中島、宮澤）	これまでに学んだ事を配布資料で中心に復習する。
第11回 教育課程の編成の方法（宮澤）	教育課程の編成方法について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
第12回 指導計画を編成する（グループ活動）（宮澤）	指導計画を作成し、グループ活動に備える。
第13回 指導計画を編成する（グループ報告会）（宮澤）	グループの報告の準備を行う。報告を踏まえて教育課程の修正を行う。
第14回 指導計画を編成する（個人活動）（宮澤）	グループ活動で学んだ事を振り返り、教育課程を作成する。
第15回 まとめ（中島、宮澤）	これまでに学んだ事を配布資料で中心に復習する。

■ 履修上の注意

授業の進行状況によって授業計画の順番が前後することがある。

■ 成績評価方法・基準

各授業で課すレポート（40%）、中間試験（30%）、指導計画およびその発表内容（30%）

- *各授業で課すレポートは、授業中にフィードバックを行う。
- *中間試験は、その場で採点し、解説を行う。
- *指導計画については、添削を行う。

■ 教科書

自作資料を準備する。授業前に配布する。

■ 参考書

〔中学校学習指導要領（平成29年3月告示）〕〔文科省〕〔352円〕

〔高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）〕〔文科省〕

*学習指導要領は文部科学省のウェブサイトからダウンロードも可能

〔ワークで学ぶ教育課程論〕〔尾崎博美・井藤元編著2018年〕〔ナカニシヤ出版〕〔2, 808円〕

■ 備考

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等は、授業終了後受け付ける。

道徳教育の指導法

(19807)

単位：2単位

対象学科：健専3年・服専3年・美表3年

授業形態：講義 学期：前期

教職に関する科目

加美山 裕 子

■ 授業の概要

道徳性の涵養は、人間性発達の根幹をなすものである。道徳性を培い道徳的実践力の育成のためには、学校における「道徳科」の時間だけでなく教育活動全体を通して行われる必要がある。その基盤となるのはしっかりとした指導計画に沿った計画的な指導の実践である。ここでは道徳の意義・本質の把握や道徳教育の歴史の理解、道徳教材の分析などを通して、学校における「道徳科」の指導方法の修得を図りたい。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・道徳の本質について理解し、道徳教育の歴史と時代や社会との関係について説明できる。
- ・学習指導要領の道徳教育及び道徳科の目標や内容を理解し、子どもの道徳性の発達と道徳教育の担う役割について把握し、その重要性を受け止めることができる。
- ・学校における道徳教育の指導計画や学校教育活動全体を通じた指導の重要性について理解、把握している。
- ・道徳科の教材への理解をふまえて授業計画を立てることができ、授業のねらいを明確にした学習指導案を作成することができる。
- ・道徳科の特性をふまえた学習評価の在り方について理解する。
- ・模擬授業の実践を通して道徳の授業の実際を学び、そこから授業改善の視点を身に付ける。

■ 授業計画

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 オリエンテーション、道徳の定義	配布されたレジュメを精読し、ファイリングを始める。
第2回 道徳教育の基礎Ⅰ（学校における道徳教育の充実）	配布されたプリントで予習をし、次回の講義で使用。
第3回 道徳教育の基礎Ⅱ（指導要領改訂の歩から見る道徳教育の歴史・道徳教育の目標）	指示された課題について調べ、次回のレポート作成に備える。
第4回 道徳教育の基礎Ⅲ（生き方教育としての道徳教育）	レジュメを熟読し、復習とまとめをしていく。
第5回 道徳教育の基本的あり方①（内容項目と主題について）	配布されたレジュメの熟読と復習。
第6回 道徳教育の基本的あり方②（道徳教育の基本的あり方）	配布されたレジュメの熟読と復習。
第7回 道徳教育の基本的あり方③（道徳性の発達と道徳教育）	配布されたレジュメの熟読と復習。
第8回 道徳性の具体的把握①（道徳的判断力とは）	配布されたレジュメの熟読と復習。
第9回 道徳性の具体的把握②（ピアジェ・コールバーグ等の理論）	次回のレポート作成に備え、復習とまとめをしていく。
第10回 道徳性の具体的把握③ （道徳的実践意欲とは・道徳性を育む家庭教育の役割）	配布されたレジュメを熟読し、理解・把握に努める。
第11回 道徳科の学習評価について	配布されたレジュメを熟読し、理解・把握に努める。
第12回 学習指導案の内容と作成 （教材分析と指導案の作成について）	レジュメを熟読し、指導案作成に生かせるようにする。
第13回 道徳科指導案の作成	道徳学習指導案を完成させ次回提出。
第14回 道徳の授業の実際（模擬授業①）	模擬授業から学んだことを自己の授業実践に生かせる手立てを考える。
第15回 道徳の授業の実際（模擬授業②）、講評とまとめ	道徳指導の基本や本質について復習とまとめを行い試験に備える。
第16回 定期試験	

■ 履修上の注意

- ・講義時に配布するレジュメを順次ファイリングし、受講の際は必ず持参すること。
- ・自主的、意欲的に受講し、講義中は進んでメモをとる等、自己の学修の積み重ねに努めること。
- ・指示された提出物は、提出期限を守って必ず提出すること。

■ 成績評価方法・基準

レポート等の提出物・学習指導案・模擬授業（４０％）， 期末試験（５０％）， 受講態度（１０％）（積極的な態度）

・提出されたレポート等は，後日添削して返却する。

・試験は，後日答案用紙に解答例の添削とコメントを加えて返却する。

■ 教科書

〔中学校学習指導要領道徳科編〕〔平成３０年１０月 文部科学省〕〔172円前後〕

*講義時に適宜，テキストに代わるプリント（レジュメ）を配布する。

■ 参考書

*必要な資料等は適宜，プリントにして配布する。

■ 備考

質問等については，授業終了時に受け付けます。

特別活動及び総合的な学習の時間の指導法

(19808)

単位：2単位

対象学科：健専2年・服専2年・美表2年

授業形態：講義 学期：前期

教職に関する科目

須藤由子

■ 授業の概要

特別活動及び総合的な学習の時間の目標、内容、教育課程における位置付けや意義、設立された歴史的背景、変遷等について、学習指導要領の解説書の読み取りを通して理解する。学習内容としては、先行の実践事例から題材の見つけ方や取り上げ方を具体的に理解する。学習方法としては、集団活動、話し合い活動の方法、テーマ学習、横断的な学習等の意味や生徒の実態に応じた指導・支援の在り方について理解する。学習指導案を作成して、模擬授業等を行い、実践的指導力を身に付ける。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 1. 総合的な学習の時間及び特別活動の意義や教育課程における位置付け、目標や内容について具体的に理解することができる。
- ・ 2. 総合的な学習の時間及び特別活動の具体例を題材に、生徒の実態に応じた指導・支援の在り方を考え、表現できる。

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 特別活動の目標と内容を理解する。	解説書特別活動編 P11～P19を読んでくる。
第2回 特別活動の歴史と変遷を理解する。	解説書特別活動編 P5～P10を読んでくる。
第3回 学級活動の目標と内容・指導の在り方を理解する。	解説書特別活動編 P40～P43を読んでくる。
第4回 生徒会活動の目標と内容・指導の在り方を理解する。	解説書特別活動編 P74～P75を読んでくる。
第5回 学校行事の目標と内容・指導の在り方を理解する。	解説書特別活動編 P92～P93を読んでくる。
第6回 部活動の意義と指導の在り方を理解する。	解説書特別活動編 P109～P112を読んでくる。
第7回 年間指導計画の作成と内容の取扱いの配慮事項を理解する。	解説書特別活動編 P113～P124を読んでくる。
第8回 学習指導案の作成をする。	指導案を作成してくる。
第9回 総合的な学習の時間の背景と実践上の課題を理解する。	解説書総合的な学習の時間編 P1～P7を読んでくる。
第10回 総合的な学習の時間の目標と意義を理解する。	解説書総合的な学習の時間編 P9～P13を読んでくる。
第11回 総合的な学習の時間の教育課程への位置付けを理解する。	解説書総合的な学習の時間編 P18～P22を読んでくる。
第12回 総合的な学習の時間の計画・実践・評価のプロセスを理解する。	解説書総合的な学習の時間編 P120～P124を読んでくる。
第13回 総合的な学習の時間と各教科・他領域との関連を理解する。	解説書総合的な学習の時間編 P90～P94を読んでくる。
第14回 総合的な学習の時間の単元構成の実際を理解する。	解説書総合的な学習の時間編 P95～P100を読んでくる。
第15回 総合的な学習の時間における指導技術を理解する。	解説書総合的な学習の時間編 P103～P119を読んでくる。
第16回 試験	

■ 履修上の注意

20分遅刻の場合は、欠席とみなします。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 小論文（20%）、期末試験（50%）、講義中の議論への貢献度合い（30%）を総合して評価する。
- ・ 授業中に発表する機会があります。発表後その場でコメントします。

■ 教科書

〔中学校学習指導要領解説 特別活動編 256円＋税・総合的な学習の時間編 209円＋税〕

■ 参考書

〔新しい特別活動指導論〕〔高旗 正人？ 倉田 侃司〕〔ミネルヴァ書房〕

■ 備考

質問は授業中及び授業後も受け付けます。東北生活文化大学高等学校入試広報室にあります。

教育方法論

(19809)

単位：2単位

対象学科：健専2年・服専2年・美表2年

授業形態：講義 学期：後期

教職に関する科目

清水 禎文 松尾 広

■ 授業の概要

教育方法に関する基本的視点を確認した上で、教育方法の基礎的概念（時間と空間、教材・教具）、教育方法の諸類型、教育評価などについて学び、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法について講義する。

また学校教育においてもICT化が急速に進む今日において、教育を行う上での教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を理解し、身につけられるよう具体的な事例を踏まえて紹介する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

1. 教育方法の基礎的理論を学び、教授＝学習の意義について理解する。
2. 学習指導案作成の視点について理解する。
3. 授業を構想する力を身につける。
4. 視覚的なコミュニケーションの意義と視聴覚機器の特徴を理解する。

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 オリエンテーション 教育方法を学ぶ意義（担当：清水）	ワークシート・ふり返しシート
第2回 教育方法の前提条件：教師（担当：清水）	プリント予習とワークシート（以下WS）による復習
第3回 教育方法の前提条件：学びの時間・空間・仲間（担当：清水）	プリント予習とWSによる復習
第4回 教育方法の理論：教育における感覚の意義（担当：清水）	プリント予習とWSによる復習
第5回 教育方法の理論：ルソーとペスタロッチ（担当：清水）	プリント予習とWSによる復習
第6回 教育方法の理論：ヘルバルトとヘルバルト主義（担当：清水）	プリント予習とWSによる復習
第7回 教育方法の理論：新教育運動の諸理論（担当：清水）	プリント予習とWSによる復習
第8回 教育方法の理論：教育内容の現代化から最近接発達領域論（担当：清水）	プリント予習とWSによる復習
第9回 授業づくりに向けて：学習指導案の構成要素（担当：清水）	プリント予習とWSによる復習
第10回 授業づくりに向けて：教習指導案における「評価」の意味（担当：清水）	プリント予習とWSによる復習
第11回 授業づくりに向けて：学習指導要領における教育評価の指針（担当：清水）	プリント予習とWSによる復習
第12回 授業づくりに向けて：真正評価・形成的アセスメント・ルーブリック（担当：清水）	プリント予習とWSによる復習
第13回 授業づくりに向けて：反転授業とICT活用（担当：清水）	プリント予習
第14回 教育機器の特性（担当：松尾）	プリント予習
第15回 ICT活用の事例（担当：松尾）	プリント予習
第16回 定期試験	

■ 履修上の注意

基本的に講義で使用する資料は前回は配布するので、予習時に概略を確認してくること。また、毎回配布するふり返しシートとワークシートを活用して、復習時に基本的知識の定着をはかること。

■ 成績評価方法・基準

毎回の授業で使用するふり返しシート(50%)と試験(40%)

形成的アセスメント(＝フィードバック)を活用し、主体的に学習に取り組む態度の評価(10%)

■ 教科書

授業前に資料(プリント)を配布する。

■ 参考書

[中学校学習指導要領][文部科学省][326円][高等学校学習指導要領][文部科学省][666円]

■ 備考

質問等については、授業終了後受け付ける。

生徒指導の理論と方法 A (進路指導の理論及び方法を含む。)

(19810)

単位：2単位

対象学科：健専3年・服専3年・美表3年

授業形態：講義 学期：後期

教職に関する科目

福 島 朋 子 佐々木 晃

■ 授業の概要

一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、適切かつ組織的に生徒指導を進めていくための資質、能力を身につけるための知識や考え方などについて講義する。生徒指導の理論と生徒指導にかかる今日的課題を理解し、望ましい生徒指導の進め方を学修する。生徒指導に関する多くの具体的な事例をケーススタディとして学びあい、そのために必要な知識・技能の習得を図ることを目指す。進路指導（キャリア教育含む）の意義・理論・指導の在り方についても取り上げる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 1) 生徒指導・生徒指導の意義や原理を理解する。
- ・ 2) 生徒指導・生徒指導における集団指導・個別指導の進め方を理解する。
- ・ 3) 学修した内容を活用して新たな問題への対応策を考えることができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション 生徒指導の意義と課題（福島）	生徒指導提要第1章第1節を読む
第2回	教育課程における生徒指導の位置づけ（福島）	生徒指導提要第1章第2節を読む
第3回	集団指導と個別指導の方法原理（福島）	生徒指導提要第1章第4節を読む
第4回	進路指導の意義と課題（福島）	資料（参考書第2章）を読む
第5回	キャリアカウンセリングの考え方（福島）	資料（参考書第2章）を読む
第6回	キャリア教育の視点とカリキュラムマネジメント（福島）	資料（参考書第2章）を読む
第7回	生徒理解と生徒指導・進路指導①：生徒理解の方法（福島）	生徒指導提要第3章を読む
第8回	生徒理解と生徒指導・進路指導②：発達の理解（福島）	生徒指導提要第3章を読む
第9回	生徒指導・進路指導の指導体制（佐々木）	生徒指導提要第4章を読む
第10回	校則・懲戒・体罰等に関する法令の理解（佐々木）	生徒指導提要第7章を読む 12に関する資料を踏まえて発表準備する
第11回	個別の課題を抱える児童生徒への指導（1） ：暴力行為・いじめへの対応（佐々木）	13に関する資料を踏まえて発表準備する 生徒指導提要第6章IIを読む
第12回	個別の課題を抱える児童生徒への指導（2） ：不登校への対応（佐々木）	14に関する資料を踏まえて発表準備する 生徒指導提要第6章IIを読む
第13回	個別の課題を抱える児童生徒への指導（3） ：SNSや性に関する課題・児童虐待への対応（佐々木）	生徒指導提要第6章IIを読む
第14回	生徒指導・キャリア教育と家庭・地域との連携（佐々木）	生徒指導提要第8章を読む
第15回	まとめ（佐々木）	課題レポートを作成する

■ 履修上の注意

教員を目指す者としての自覚を持って講義に臨んで下さい。

■ 成績評価方法・基準

授業内の課題とレポート（70%）、発表会での発表内容（30%）

授業内課題については、授業中にフィードバックします。

レポートについては、解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとします。

■ 教科書

[はじめて学ぶ生徒指導・進路指導] [広岡義之] [ミネルヴァ書房] [2, 376円]

[生徒指導提要] [文部科学省] [298円]

■ 参考書

[カウンセリングを教育に生かす] [宮前理編著] [八千代出版] [2, 160円]

■ 備考

- 1) 都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
- 2) 質問等については授業終了時に受け付けます。

生徒指導の理論と方法B

(19811)

単位：2単位

対象学科：健専3年

授業形態：講義 学期：前期

教職に関する科目

福島 朋子 佐々木 晃

■ 授業の概要

一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、適切かつ組織的に生徒指導を進めていくための資質、能力を身につけるための知識や考え方などについて講義する。生徒指導の理論と生徒指導にかかる今日の課題を理解し、望ましい生徒指導の進め方を学修する。生徒指導に関する多くの具体的な事例をケーススタディとして学びあい、そのために必要な知識・技能の習得を図ることを目指す。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 1) 生徒指導・生徒指導の意義や原理を理解する。
- ・ 2) 生徒指導・生徒指導における集団指導・個別指導の進め方を理解する。
- ・ 3) 学修した内容を活用して新たな問題への対応策を考えることができる。

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 オリエンテーション（福島）	生徒指導提要第1章第1節を読む
第2回 生徒指導の意義と課題（福島）	生徒指導提要第1章第1節を読む
第3回 教育課程における生徒指導の位置づけ（福島）	生徒指導提要第1章第2節を読む
第4回 教科・道徳・総合的学習の時間・特別活動と生徒指導（福島）	生徒指導提要第2章を読む
第5回 集団指導と個別指導の方法原理（福島）	生徒指導提要第1章第4節を読む
第6回 教育相談と生徒指導（福島）	生徒指導提要第5章第1節を読む
第7回 生徒理解と生徒指導・進路指導①：生徒理解の方法（福島）	生徒指導提要第3章を読む
第8回 生徒理解と生徒指導・進路指導②：発達の理解（福島）	生徒指導提要第3章を読む
第9回 生徒指導の指導体制（佐々木）	生徒指導提要第4章を読む
第10回 校則・懲戒・体罰等に関する法令の理解（佐々木）	生徒指導提要第7章を読む
第11回 個別の課題を抱える児童生徒への指導① ：暴力行為・いじめへの対応（佐々木）	12に関する資料を踏まえて発表準備する 生徒指導提要第6章Ⅱを読む
第12回 個別の課題を抱える児童生徒への指導② ：不登校への対応（佐々木）	14に関する資料を踏まえて発表準備する 生徒指導提要第6章Ⅱを読む
第13回 個別の課題を抱える児童生徒への指導③ ：SNSや性に関する課題・児童虐待への対応（佐々木）	生徒指導提要第6章Ⅱを読む
第14回 生徒指導と家庭・地域との連携（佐々木）	生徒指導提要第8章を読む
第15回 まとめ（佐々木）	課題レポートを作成する

■ 履修上の注意

教員を目指す者としての自覚を持って講義に臨んで下さい。

■ 成績評価方法・基準

授業内の課題とレポート（70%）、発表会での発表内容（30%）

授業内課題については、授業中にフィードバックします。

レポートについては、解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとします。

■ 教科書

[はじめて学ぶ生徒指導・進路指導] [広岡義之] [ミネルヴァ書房] [2, 376円]

[生徒指導提要] [文部科学省] [298円]

■ 参考書

[カウンセリングを教育に生かす] [宮前理編著] [八千代出版] [2, 160円]

■ 備考

- 1) 都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
- 2) 質問等については授業終了時に受け付けます。

教育相談

(19812)

単位：2単位

対象学科：健専3年・服専3年・美表3年

授業形態：講義 学期：後期

教職に関する科目

宮 前 理

■ 授業の概要

現在、学校現場で多くの教員が出会い苦慮している諸問題と対応のあり方について教育相談という観点から理解する。いじめ、不登校、非行、発達障害、LGBT、自殺などについて具体的な事例を取り上げながら概説し、そこから教員として理解しておかなければならない課題と教員としての対応方法を教授する。また「カウンセリング」の基本的な理論を論じ、演習を取り入れながらその具体的手法を指導する。また教育相談の進め方と組織的取り組みの重要性を論じる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 1 学校現場で生じる諸問題を理解する
- ・ 2 学校現場における教育相談の意義と理論を理解する。
- ・ 3 教育相談の具体的手法と組織的取り組みを必要性を理解する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	講義概要の説明と諸注意 教育相談の意義と学習課題	
第2回	教育相談に関わる心理学の諸理論	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第3回	児童生徒理解の方法（テスト法、観察法、面接法など）	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第4回	「不登校」問題の理解と対応	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第5回	「いじめ」問題の理解と対応	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第6回	「非行」問題の理解と対応	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第7回	「発達障害」問題の理解	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第8回	「発達障害」問題への対応	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第9回	「LGBT」問題の理解	配布資料を熟読しておくこと
第10回	「LGBT」問題への対応	配布資料を熟読しておくこと
第11回	「自殺」問題の理解と対応	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第12回	カウンセリングの基礎理論	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第13回	カウンセリングの基礎技法	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第14回	教育相談の進め方	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第15回	教育相談と組織的取り組みの重要性	テキストの当該部分を熟読しておくこと

■ 履修上の注意

講義の1回目に諸注意を伝えます。

■ 成績評価方法・基準

ミニレポートの提出30%、最終試験70%で評価します。レポート課題についてはフィードバックを行います。

■ 教科書

下記の教科書を講義の第一回目までに購入しておいてください。

■ 参考書

講義時に指示します。

■ 備考

質問は演習時やオフィスアワーで受付けます。オフィスアワーでの質問等は事前にメール予約してください。

講義内容が一部変更になる場合があります。

教職実践演習（中・高）

(19813)

単位：2単位

対象学科：健専4年・服専4年・生美4年

授業形態：講義 学期：後期

教職に関する科目

宮前 理 宮澤 孝子

■ 授業の概要

教職課程の総まとめとして、中学・高校の教科教育の教員として求められる基本的な資質・能力を育む。介護等体験、教育実習をはじめ、教職専門科目の学習成果を踏まえ、教科指導、生徒指導、教育方法、学級経営に関する諸問題について講義と討議を行う。また教職経験者（ゲストスピーカー）による現在の学校教育の諸問題について幅広い指導を受ける。教育実習時の指導案の見直しなど研究授業等を再検討した上で教育実習報告会で発表する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 1 教育に対する使命感、責任感、規範意識を養い、教育的愛情をもって職務を遂行することができる。
- ・ 2 生徒理解を基盤として適切な生徒指導や学級経営ができる。
- ・ 3 学習指導の基礎的理解・基本的方法を習得する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	履修上の諸注意（宮前、植松、宮澤）	
第2回	教職課程履修科目の確認と省察等（宮前、植松、宮澤）	既学習した教職専門科目を復習しておく
第3回	教職の意義、教員の使命、教員の職務等について（討議、検討）	「教職概論」の講義内容を復習すること
第4回	教科指導の諸問題（討議、検討）（宮前、植松、宮澤）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第5回	教育方法の諸問題（討議、検討）（宮前、植松、宮澤）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第6回	教育実習における教科指導の諸問題（ロールプレイングを含む）（宮前、植松、宮澤）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第7回	教育実習における生徒指導に関する諸問題（ロールプレイングを含む）（宮前、植松、宮澤）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第8回	教育経験者による講義（主として教科指導、道徳教育について）（ゲストスピーカー）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第9回	教育経験者による講義（主として生徒指導、学級経営について）（ゲストスピーカー）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第10回	教育実習研究授業の学習指導案の作成（宮前、植松、宮澤）	教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること
第11回	題材を決めての学習指導案の作成（宮前、植松、宮澤）	教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること
第12回	学級経営、学級経営案について（講義）教育実習時の学級での活動状況報告（討議）（宮前、植松、宮澤）	教科指導、生徒指導に関する教育実習時の諸問題を把握しておくこと
第13回	教員間、保護者、地域の人々との連携・協力のあり方（講義）（宮前、植松、宮澤）	資料を読んでおくこと
第14回	教育実習報告会の発表資料の作成（宮前、植松、宮澤）	
第15回	教育実習報告会（発表）と教員の講評（宮前、植松、宮澤）	

■ 履修上の注意

1 回目に履修上の注意と授業の進め方について説明する。

■ 成績評価方法・基準

授業への参加状況（発言、発表、討議の状況）30%、レポート課題の内容40%、実習報告会の発表30%によって総合的に評価する。課題については授業で講評を行う。

■ 教科書

授業前に資料を配布する。

■ 参考書

「中学校、高等学校学習指導要領及びその解説（総則編）」文部科学省

■ 備考

質問等は授業終了後やオフィスアワーで受け付けます。受講人数等の事情により授業計画の修正を行う場合があります。

教職実践演習（栄養教諭）

(19814)

単位：2単位

対象学科：健専4年

授業形態：講義 学期：後期

教職に関する科目

宮前 理 植松 公威 宮澤 孝子

■ 授業の概要

教職課程の総まとめとして、学校給食をはじめとする食育に関する講義と討議から栄養教諭として求められる基本的な資質・能力を育む。栄養教育実習をはじめ、教職専門科目の学習成果を踏まえて、教科指導、生徒指導、教育方法、学級経営に関する諸問題について講義と討議を行う。また教職経験者による現在の学校教育の諸問題について幅広い指導を受ける。栄養教育実習時の指導案や研究授業等を再検討した上で栄養教育実習報告会で発表する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 1 教育に対する使命感、責任感、規範意識を養い、教育的愛情をもって職務を遂行することができる。
- ・ 2 学校給食をはじめ食育に必要な基本的知識・技術を指導できる。
- ・ 3 学校という教育機関の一員として他の教職員と協力して職務を遂行できる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	履修上の諸注意（宮前、植松、宮澤）	
第2回	教職課程履修科目の確認と省察等（宮前、植松、宮澤）	既学習の教職専門科目を復習しておく
第3回	栄養教諭の意義、教員の使命、教員の職務等について（講義） （宮前、植松、宮澤）	「教職概論」の授業内容を復習すること
第4回	食育に関する諸問題（学校給食を中心に）について（講義） （ゲストスピーカー）	授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。
第5回	食育に関する諸問題（食生活に関して）について（講義） （ゲストスピーカー）	授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。
第6回	学校給食の歴史と実情、給食指導について（講義） （ゲストスピーカー）	授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。
第7回	生徒指導に関する諸問題（講義、討議）（宮前、植松、宮澤）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること。
第8回	教育経験者による講義（主として教科指導、道徳教育について） （ゲストスピーカー）	授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。
第9回	教育経験者による講義（主として生徒指導、学級経営について） （ゲストスピーカー）	授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。
第10回	学習指導案の作成法（講義）、それを踏まえた題材を決めての指導案の作成（演習）（宮前、植松、宮澤）	教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること。
第11回	各自の栄養教育実習における研究授業指導案の検討 （宮前、植松、宮澤）	教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること。
第12回	子どもの「食」に関する諸問題（討議）（宮前、植松、宮澤）	子どもの「食」について調べておくこと
第13回	特別支援教育、チーム学校（講義）（宮前、植松、宮澤）	資料を読んでおくこと。
第14回	栄養教育実習報告会の発表資料を作成（宮前、植松、宮澤）	
第15回	栄養教育実習報告会（発表）と教員の講評（宮前、植松、宮澤）	

■ 履修上の注意

1 回目に履修上の注意と授業の進め方について説明する。

■ 成績評価方法・基準

授業への参加状況（発言、発表、討議の状況）30%、レポート課題の内容40%、実習報告会の発表30%によって総合的に評価する。課題については授業で講評を行う。

■ 教科書

授業前に資料を配布する。

■ 参考書

「食に関する指導の手引き」文部科学省 東山書房 他

■ 備考

質問等は授業終了後やオフィスアワーで受け付けます。受講人数等の事情により授業計画の修正を行う場合があります。

家庭科教育法 I

(19815)

単位：4単位

対象学科：健専3年・服専3年

授業形態：講義 学期：通年

教職に関する科目

佐藤 郷 美

■ 授業の概要

家庭科教育における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された家庭科教育の学習内容（A家族・家庭生活、B衣食住の生活、C消費生活・環境）について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法とともに学習指導案の作成や模擬授業を通して、指導技術の向上を図る。

テーマ ～家庭科教育の理解と指導技術の向上を目指して～

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・家庭科教育に関する学習指導要領に示された目標や内容を身に付ける。
- ・家庭科教育に関する具体的な学習指導理論を身に付ける。
- ・家庭科における具体的な授業場面を想定した授業設計を身に付ける。

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 家庭科教育とは 家庭科で育てる資質・能力について	学習指導要領の基本方針を読む
第2回 家庭科教育の歴史とその変遷	家庭科教育の変遷について調べる
第3回 家庭科教育の意義とその展望	最近のニュース等で家庭科記事の収集
第4回 小学校における家庭科教育の内容について	小学校での学びのまとめ
第5回 中学校における家庭科教育の内容について	中学校での学びのまとめ
第6回 高等学校における家庭科教育の内容について	高校での学びのまとめ
第7回 ホームプロジェクト・家庭クラブと技能検定	教科書関連部分を読む
第8回 教科、道徳及び総合的な学習などの関連・教育課程	学習指導要領、関連部分を読む
第9回 情報機器の操作と活用	学習指導要領、関連部分を読む
第10回 学習指導計画① 作成の意義、留意点、等	学習指導要領、関連部分を読む
第11回 学習指導計画② 年間指導計画案と題材指導計画案	学習指導要領、関連部分を読む
第12回 学習指導案の作成（その形式と留意点）	今までの家庭科授業の学びのまとめ
第13回 学習指導過程の作成①（導入・展開）	指導案の作成
第14回 学習指導過程の作成②（展開・終結）	指導案の作成
第15回 学習指導案過程の作成に関するまとめと試験	今までの学びの復習
第16回 家庭科教育に関する施設・設備の必要性と管理運営	学習指導要領、関連部分を読む
第17回 学習指導方法① 学習類型と指導形態	学習指導要領、関連部分を読む
第18回 学習指導方法② 実験・実習の指導と家庭科の特質	学習指導要領、関連部分を読む
第19回 家庭科教育における教材研究① 教材作成上留意点	家庭科食と衣の教材調べ
第20回 家庭科教育における教材研究② 教材づくりと授業の実際	教材づくりと発表準備
第21回 評価について 評価方法とその実際	評価について調べる
第22回 学習指導案の作成①（前段）	学習指導案の題材を決める
第23回 学習指導案の作成②（本時の指導）	学習指導案、本時の指導を構想する
第24回 学習指導案作成発表	学習指導案づくりと発表準備
第25回 模擬授業① ～主に導入	模擬授業の準備、まとめ（導入）
第26回 模擬授業② ～展開	模擬授業の準備、まとめ（展開）
第27回 模擬授業③ ～板書・学習カード	模擬授業の準備、まとめ（板書、カード）
第28回 模擬授業④ ～教材・教具	模擬授業の準備、まとめ（教材教具）
第29回 模擬授業⑤ ～まとめの工夫	模擬授業の準備、まとめ（まとめの工夫）
第30回 これまでの学習のまとめと教育実習	これまでの学びをまとめる

■ 履修上の注意

- ・出席を重視する（遅刻禁）。提出物は期限厳守で必須。

■ 成績評価方法・基準

講義と共に実践的・体験的な学びに対する真摯な取組と出席を重視する。

講義への出席と取組状況 40% 定期考査 30% 学習指導案及び模擬授業 30%

■ 教科書

家庭科教育法 改訂版 佐藤文子・川上雅子共著 高陵社書店 2,000円＋税
中学校 教科書 技術・家庭（家庭分野） 開隆堂 643円

■ 参考書

小学校学習指導要領解説 家庭編 東洋館 95円

中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 文部科学省/編 教育図書 82円

高等学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省（著）288円

■ 備考

授業終了時に受け付けます。

家庭科教育法Ⅱ

(19816)

単位：4単位

対象学科：健専4年・服専4年

授業形態：講義 学期：通年

教職に関する科目

石川りか

■ 授業の概要

家庭科および家庭科教育を理解し、中学校「技術・家庭」の家庭分野及び高等学校家庭科の授業のための実践力を修得する。そのための学習計画・指導法・評価・教材研究の進め方・教材教具の作成等演習を重視して、総合的・実践的な学習を深め、教育実習をより効果的に行う能力と態度を育成する。あわせて現代を生きる力を養成するための家庭科教育の望ましい指導の在り方について理解を深める。

高等学校家庭科教員の経験を生かして、アクティブラーニング形式で授業を進めていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 中学（高等学校）家庭科の指導要領を理解した上で指導案を計画し、それに基づいた模擬授業の実践をすることができる。
- ・ 中学（高等学校）家庭科の指導要領を理解した上で教材研究、教材教具の作成を行うことができる。
- ・ 家庭科における学習の評価について理解し、授業計画に取り入れることができる。

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス：年間予定 教育実習について 模擬授業実践計画	学習指導要領をよく読んで、教育実習を行う学校（中・高）の学習指導要領をまとめる
第2回 教育実習：教育実習事前指導 教材研究・指導案	教育実習で行う学校の（中・高）の教材研究・指導案を調べてまとめる。
第3回 教員採用試験にむけて・指導細案作成方法	前回の教材研究・指導案をさらに深める
第4回 学習指導：模擬授業実践に向けて（教材研究の要点）	教材研究についての資料を集めて、具体的に教材を作成し、次回提出
第5回 情報機器の操作と活用法	情報機器についての操作と活用方法について、具体的な活用方法を調べる。
第6回 模擬授業Ⅰ：模擬授業実践①（導入の工夫・展開の山場）	模擬授業内容のタイムテーブルを作成
第7回 模擬授業Ⅰ：模擬授業実践②（まとめの工夫）	模擬授業内容のポイントをまとめる
第8回 模擬授業Ⅰ：模擬授業実践③（板書の工夫）	模擬授業内容の板書すべきことをまとめる
第9回 模擬授業Ⅰ：模擬授業実践④（評価の工夫）	模擬授業内容の評価についてまとめる
第10回 模擬授業Ⅰ：模擬授業実践⑤（教材教具の工夫と掲示）	模擬授業内容の教材教具について作成し、次回発表できるように準備
第11回 教育実習のまとめ：教育実習の反省・評価・まとめ	模擬授業内容についてアンケート用紙を作成
第12回 教育実習研究授業実践発表会・評価 ①	教育実習研究授業内容について、自分で授業の準備をし、授業する①
第13回 教育実習研究授業実践発表会・評価 ②	教育実習研究授業内容について、自分で授業の準備をし、授業する②
第14回 教育実習研究授業実践発表会・評価 ③	教育実習研究授業内容について、自分で授業の準備をし、授業する③
第15回 模擬授業実践の反省・評価 教員採用試験に向けて	教員採用試験に向けての準備・集団面接練習
第16回 学習指導計画：体験・実習・実験学習指導法	学習指導計画表の作成
第17回 実践学習指導①：実践学習の進め方（シニア体験学習）	体験学習の感想をレポートにまとめる
第18回 実践学習指導②：実践学習の進め方（幼稚園訪問体験）	体験学習の感想をレポートにまとめる
第19回 実験・実習学習指導の進め方①：食物分野	食物分野の実習・実験の例をレポートにまとめる
第20回 実験・実習学習指導の進め方②：衣生活分野	衣生活分野の実習・実験の例をレポートにまとめる
第21回 模擬授業の計画：模擬授業指導案作成（食物・衣生活分野）	模擬授業指導案作成（食物・衣生活分野）
第22回 模擬授業Ⅱ（食物分野）：実験学習指導①（導入の工夫）	授業内容のタイムテーブルを作成
第23回 実験学習指導②（展開の工夫・山場）	授業内容のタイムテーブルの工夫・補足
第24回 実験学習指導③（板書・学習プリント）	学習プリントの作成
第25回 実験学習指導④（教材教具の工夫）	実習教材作成・試作・レポート作成
第26回 模擬授業Ⅲ（衣生活分野）：実験学習指導①（導入の工夫）	授業内容のタイムテーブルを作成
第27回 実験学習指導②（展開の工夫・山場）	授業内容のタイムテーブルの工夫・補足
第28回 実験学習指導③（板書・学習プリント）	学習プリントの作成

■ 履修上の注意

- ・受講は、自分が教育実習で授業を行うことを想定し、家庭科を指導できる実践的指導を身につけるためにも、家庭科の教科書（中・高）・指導要領の精読を心掛ける。
- ・家庭科の内容は多岐にわたり、日々変化している内容もあります。生きること、生活すること、社会の動きに常に敏感で好奇心を持つ。さらに家庭科で取り扱う内容について、日常生活の中で考え実践する態度や意欲が重要です。

■ 成績評価方法・基準

定期考査40% レポート・提出物30%、模擬授業の実践30%（学習指導計画案、指導技術、態度等）
提出されたレポートは、後日添削して返却する。

■ 教科書

家庭科教育法Ⅰで使用したものを継続使用する

■ 参考書

家庭科教育法Ⅰで使用したものを継続使用する

〔新版授業力UP 家庭科の授業〕〔伊藤葉子編著〕〔日本標準〕〔2,000円〕

■ 備考

- ・授業終了時に質問を受け付けます。
- ・都合により、授業計画の順番を変更することがあります。
- ・やむを得ない事由により、欠席することが事前にわかっている場合は申告すること

美術科教育法 I

(19817)

単位：4単位

対象学科：美表3年

授業形態：講義 学期：通年

教職に関する科目

加美山 裕 子

■ 授業の概要

中学校美術科・高等学校美術科の教員に必要とされる基礎的な指導理論の修得を図る。美術教育の時代的変遷を学び、学習指導要領の内容・構造の理解を図るとともに、基礎的な指導方法や造形的表現技術の指導方法について修得させる。中学校美術科の教科書を使った教材研究や模擬授業を行い、4年次での教育実習に向けての準備としていきたい。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・1. 一つ一つの題材に含まれる教材としての価値・内容を把握、理解する。
- ・2. 個々の学習内容を分析して、指導する上での留意点を理解し、創造的・造形的視点での授業が展開できる力を身につける。
- ・3. 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的授業を想定した授業計画を立てて学習指導案の作成がスムーズにできる。
 - (ア) 模擬授業を通して学習指導案の具体的実践を体験し、授業改善の視点を理解する。
 - (イ) 4年次での教育実習における基本的・実践的な学習指導方法の基礎を養う。

■ 授業計画

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 オリエンテーション，美術教育とは何か。	配布されたレジюмеによく目を通し，ファイリングを始める。
第2回 学びの基礎とはⅠ（学校教育の意義）	学校教育の意義について，講義内容を理解・把握し，次回実施のレポートに備える。
第3回 学びの基礎とはⅡ（学びと評価，指導の手立て）	レジюмеを熟読しておく。
第4回 美術教育の確立Ⅰ（教科としての美術教育）	レジюмеを熟読しておく。
第5回 美術教育の確立Ⅱ（①美術教育の目指すもの）	レジюмеを熟読しておく。
第6回 美術教育の確立Ⅱ（②基礎・基本の指導の重要性）	課題として人間の発達段階について考え，配布されたプリントに記入。
第7回 美術教育の確立Ⅲ（①発達課題と美術教育のかかわり）	レジюмеを熟読しておく。
第8回 美術教育の確立Ⅲ （②パートナーシップを生かした美術学習）	レジюмеを熟読し，その活用について考えをまとめる。
第9回 学校の役割と美術教育Ⅰ（①学校の教育役割）	レジюмеを熟読しておく。
第10回 学校の役割と美術教育Ⅰ （②美術における発展的学習について）	レジюмеを熟読しておく。
第11回 学校の役割と美術教育Ⅰ （③表現の学習に関する指導）	レジюмеを熟読しておく。
第12回 学校の役割と美術教育Ⅱ （教員養成から考察した造形教育指導上の課題）	レジюмеを熟読しておく。
第13回 学習指導要領の研究（①学習指導要領について）	レジюмеを熟読しておく。
第14回 学習指導要領の研究 （②指導計画の作成と内容の取り扱い）	ここまで学修した内容を復習しまとめ，次回のレポート作成に備える。
第15回 美術教育の指導（指導と評価の一体化）	レジюмеを熟読しておく。
第16回 美術教育での評価Ⅰ（①評価の種類）	レジюмеを熟読しておく。
第17回 美術教育での評価Ⅰ（②評価の観点）	レジюмеを熟読しておく。
第18回 美術指導での改革 （美術指導を改革していく7つのポイント）	レジюмеを熟読しておく。
第19回 学習指導案の作成について	指導案の参考資料等に目を通し，形式や記入すべき内容について理解・把握しておく。
第20回 指導内容・題材の分析	指導内容や題材についてまとめ，次回活用。
第21回 学習指導案作成 ①	授業で使用する資料や参考作品の準備を行う。
第22回 学習指導案作成 ②	自作の参考作品づくり等を進める。
第23回 学習指導案作成 ③	指導案を完成させ，次回提出。
第24回 模擬授業実践 ①	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
第25回 模擬授業実践 ②	自己の模擬授業の準備や練習。
第26回 模擬授業実践 ③	自己の模擬授業の準備や練習。

第27回 模擬授業実践 ④	模擬授業から学んだ事をまとめておく。
第28回 模擬授業の講評とまとめ	模擬授業から学んだ事を自己の授業実践に生かせる手立てを考えていく。
第29回 指導計画について（年間指導計画の作成）	模擬授業を通して学んだ事についてまとめ、次回レポート記入。
第30回 美術科指導理論のまとめと教育実習に向けて	配布された全レジユメのファイリングを確認。

■ 履修上の注意

- ・講義時に適宜配布するレジユメを順次ファイリングしていき、受講の際は必ず持参すること。
- ・自主的、意欲的に受講し、講義中は進んでメモを取るなど自己の学修の積み重ねに努め、提出物は期限厳守で提出すること。

■ 成績評価方法・基準

- レポート・提出物（学習指導案 他）（60%）、 模擬授業（30%）、 受講態度（10%）（積極的な態度）
- ・提出されたレポート等は、後日添削して返却する。
 - ・模擬授業演習は、授業でのフィードバックと紙面による講評および意欲づけ（個々に）を行う。

■ 教科書

〔中学校学習指導要領美術編〕〔平成30年 文部科学省〕〔127円前後〕
 〔高等学校学習指導要領芸術編〕〔文部科学省〕〔545円前後〕
 授業毎に適宜、テキストに代わるプリント（レジユメ）を配布する。

■ 参考書

〔中学校美術科教科書〕〔日文出版〕〔1, 000円前後〕、〔中学校美術資料集〕〔秀学社編〕〔790円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時に受付けます。

美術科教育法Ⅱ

(19818)

単位：4単位

対象学科：生美4年

授業形態：講義 学期：通年

教職に関する科目

加美山 裕 子

■ 授業の概要

教育実習の持つ意義等について理解を深め、授業実践への意欲を高める。模擬授業の展開にあたり、教材の分析や指導案作成の手順を具体例に即して把握させ美術指導の実践力を養いたい。題材の展開や授業の進め方などを模擬授業の中で理解させるとともに、美術指導における「指導と評価のあり方」や美術教育の意義やねらいについての自己の考えをしっかりと持つことができるようにしていきたい。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・美術科における効果的指導力の向上を目指し学習指導要領についてその全体構造を理解、把握している。
- ・子どもの発達段階における思考力や学力等の実態を考慮した授業計画を立案できる。
- ・美術科の特性に応じた教材の選択や情報機器の活用法について理解し、自己の授業設計に活用していくことができる。
- ・美術科の指導理論の理解、把握の下に学習指導案の作成がスムーズにできて、それに基づいた模擬授業の実践を充実させることができる。
- ・美術科における学習の評価について理解し、授業計画に取り入れて活用することができる。
- ・美術教育の持つ意義と目標を理解、把握し、そこから学校現場における実践感覚を育み、自己の指導力の向上に努めることができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション、美術教育について	配布されたレジюмеによく目を通し、ファイリングを始める。
第2回	教育実習での留意事項と心得①	実習校訪問時のあいさつ等の練習をしておく。
第3回	教育実習での留意事項と心得②	レジюмеを熟読し、実習時のイメージを持つ。
第4回	学習指導案の書き方〈確認〉	復習と確認を行う。
第5回	美術教育の確立①（義務教育の目指すもの）	レジюмеを熟読しておく。
第6回	美術教育の確立②（美術教育の持つ教育力）	レジюмеを熟読しておく。
第7回	中学校での美術の授業①（美術教育の特色）	レジюмеを熟読しておく。
第8回	中学校での美術の授業②（題材について）	レジюмеを熟読しておく。
第9回	年間指導計画の実際について	基本的な考え方を理解し、次回の作成に生かせるようにする。
第10回	年間指導計画案作成①	指導計画案の作成を進める。
第11回	年間指導計画案作成②	指導計画案を完成させ、次回提出。
第12回	教育実習報告①	自己の報告書をまとめる。
第13回	教育実習報告②	自己の報告書をまとめる。
第14回	教員採用試験に向けて・諸注意	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
第15回	教育実習時の指導案による模擬授業①	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
第16回	教育実習時の指導案による模擬授業②	模擬授業から学んだことをまとめておく。
第17回	教育実習の講評とまとめ	教育実習の反省とまとめをし、報告書を提出できるよう準備する。
第18回	美術の授業の特色（授業づくりの基本的留意点）	レジюмеを熟読しておく。
第19回	美術教育の評価と指導①（学びと評価）	レジюмеを熟読しておく。
第20回	美術教育の評価と指導②（絶対評価と指導の実際）	レジюмеを熟読しておく。
第21回	学習指導案の作成について	レジюмеを熟読し、題材について考えておく。
第22回	題材分析と評価をふまえた指導計画	題材の分析表を完成させ次回提出。
第23回	学習指導案の作成①	授業で使用する資料や参考作品の準備を始める。
第24回	” ②	授業で使用する資料の調達、自作参考作品の準備を進める。
第25回	” ③	指導案を完成させる。
第26回	模擬授業発表 ①	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
第27回	” ②	自己の模擬授業の準備や練習。

第28回	〃	③	自己の模擬授業の準備や練習。
第29回	〃	④	自他の模擬授業から学んだことを振り返り、美術科の指導の基本やポイントについてまとめておく。
第30回	模擬授業の講評，美術科指導理論のまとめ		配布された全レジユメのファイリングを確認。

■ 履修上の注意

- ・講義時に適宜配布するレジユメを順次ファイリングしていき，受講の際は必ず持参すること。
- ・自主的，意欲的に受講し，講義中は進んでメモを取るなど自己の学修の積み重ねに努め，提出物は期限厳守で提出すること。

■ 成績評価方法・基準

レポート・提出物（学習指導案，年間計画，題材分析 他）（50%）， 模擬授業 （40%）， 受講態度 （10%）（積極的な態度）

- ・提出されたレポート等は，後日添削して返却する。
- ・模擬授業演習は，授業でのフィードバックと紙面による講評および意欲づけ（個々に）を行う。

■ 教科書

〔中学校学習指導要領美術編〕〔文科省〕〔127円前後〕

〔高等学校学習指導要領芸術編〕〔文科省〕〔545円前後〕＊3年次に購入のものを継続して使用する。

＊授業毎に適宜，テキストに代わるプリント（レジユメ）を配布する。

■ 参考書

〔中学校美術科教科書〕〔日文出版〕〔1,000円前後〕，〔中学校美術資料集〕〔秀学社編〕〔790円〕

＊3年次に購入のものを継続して使用する。

■ 備考

質問については，授業終了時に受付けます。

工芸科教育法

(19819)

単位：4単位

対象学科：美表3年

授業形態：講義 学期：通年

教職に関する科目

瀬戸典彦

■ 授業の概要

①「人間」、「教育」、「芸術」の定義について考察を促す。②教育の意味及び、教育における芸術科の役割について理解を促す。③「高等学校学習指導要領解説・芸術」に記載された「美術」と「工芸」の関係について理解を促す。④美術科と工芸科の違いと工芸科の特長について考察を促す。⑤学習指導要領解説（工芸科）に関する理解を促し、教材開発能力を育成する。⑥模擬授業の実践をとおして、学習指導案の作成力と授業実践の力を高める。⑦工芸科教育の可能性について示唆を与える。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・学校教育における工芸科の意味と重要性について説明できる。
- ・学習指導要領解説（工芸科）に示された教科の目的や内容を理解する。
- ・基礎的な学習指導論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法身につける。

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 オリエンテーション 工芸科教育の現状と可能性について	ワークシート、「工芸科は必要か？」による復習
第2回 人間と教育について①林竹二の教育論をとおして	ワークシート、「林竹二の何がすごいのか？」による復習・予習
第3回 人間と教育について②授業の役割 教師の役割	ワークシート、「林先生が伝えようとしたこと」による復習・予習
第4回 人間と教育について③芸術教育と工芸科の役割について	ワークシート、「林竹二が工芸の先生だったら」による復習・予習
第5回 人間と教育について④シュタイナー教育の原点をとおして（子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性について）	ワークシート、「シュタイナー教育の原点」による復習・予習
第6回 人間と教育について⑤能動的学習の意味と工芸科における応用について	ワークシート、「学びと遊びの関係について」による復習・予習
第7回 教育と表現教育・国家と経済と精神性に関する考察をとうして	ワークシート、「教育と国家のあり方について」による復習・予習
第8回 鑑賞教育の意味とあり方について	ワークシート、「工芸科教育に鑑賞は必要か？」による復習・予習
第9回 鑑賞教育と道徳教育についてピアジェの「三つの山問題」をとおして	ワークシート、「ピアジェが伝えようとしたこと」による復習・予習
第10回 工芸科における社会的視点について①バウハウスに至るまで	ワークシート、「バウハウス前夜」による復習・予習
第11回 工芸科における社会的視点について②バウハウスのコンセプト	ワークシート、「グロピウスの夢」による復習・予習
第12回 工芸科における社会的視点について③バウハウスにおける実験	ワークシート、「イッテンとシュレーマーの何が面白いのか」による復習・予習
第13回 工芸科における社会的視点について④バウハウスの遺産・製品デザインに与えた影響をとおして	ワークシート、「マリアナ・ブランドの何が凄い」による復習・予習
第14回 工芸科における社会的視点について⑤バウハウスの遺産・建築デザインに与えた影響をとおして	ワークシート、「シカゴの街並みはどこから？」による復習・予習
第15回 工芸科における社会的視点について⑥バウハウスの遺産・教育に与えた影響をとおして	ワークシート、「反アカデミズムという考え」による復習・予習
第16回 学習指導要領解説（工芸科）の概要について	ワークシート「芸術科の中の工芸科の位置と役割」による復習・予習
第17回 学習指導要領解説（工芸科）における工芸Iの位置づけについて-「工芸I」（文部科学省認定済教科書）の概要について	ワークシート、「芸術科の中の工芸科の中の『工芸I』」による復習・予習
第18回 学習指導要領解説（工芸科）における工芸IIの位置づけについて-「工芸II」（文部科学省認定済教科書）の概要について	ワークシート、「芸術科の中の工芸科の中の『工芸II』」による復習・予習
第19回 学習指導要領解説（工芸科）における工芸IIIの位置づけについて	ワークシート、「芸術科の中の工芸科の中の『工芸III』」による復習・予習

第20回	「工芸I」（文部科学省認定済教科書）の具体的応用について	ワークシート、「指導要領が示唆する『工芸I』の題材とは」による復習・予習
第21回	「工芸II」（文部科学省認定済教科書）の具体的応用について	ワークシート、「指導要領が示唆する『工芸II』の題材とは」による復習・予習
第22回	工芸IIIの具体的展開について学習指導要領解説（工芸科）に沿って	ワークシート、「指導要領が示唆する『工芸III』の題材とは」による復習・予習
第23回	学習指導要領解説（工芸科）に即した評価方法について	ワークシート、「評価、どうする？」による復習・予習
第24回	学習指導要領解説（工芸科）における「A表現」に係る学習指導案の作成	指導案作成（A表現に係る）
第25回	学習指導要領解説（工芸科）における「A表現」に係る模擬授業の実践と振り返り	模擬授業準備（A表現に係る）
第26回	学習指導要領解説（工芸科）における「B鑑賞」に係る学習指導案の作成について（授業における情報機器等の効果的活用方法を含む）	指導案作成（B鑑賞に係る）
第27回	学習指導要領解説（工芸科）における「B鑑賞」に係る模擬授業の実践と振り返り（授業における情報機器等の効果的活用方法を含む）	模擬授業準備（B鑑賞に係る）
第28回	学習指導要領解説（工芸科）における「共通事項」に係る学習指導案の作成について（授業における情報機器等の効果的活用方法を含む）	指導案作成（「共通事項」に係る）
第29回	学習指導要領解説（工芸科）における「共通事項」に係る模擬授業の実践と振り返り（授業における情報機器等の効果的活用方法を含む）	模擬授業準備（「共通事項」に係る）
第30回	工芸科の可能性と工芸科教育における応用について（発展的な学習内容に関する探求と授業実践の事例をとおして）	ワークシート、「1年で感じたこと、学んだこと」

■ 履修上の注意

無断遅刻・欠席をしないこと

30分を超える遅刻については欠席扱いとする。30分以内の遅刻については、欠席1/3回とみなす。

模擬授業は、Google Meetを介して行うこととする。

■ 成績評価方法・基準

ワークシート：60%（フィードバックを行う） 指導案：20%（フィードバックを行う） 模擬授業：20%（フィードバックを行う）

■ 教科書

〔高等学校学習指導要領解説〕（データ版：無料）

■ 参考書

〔工芸I〕〔工芸II〕〔日本文京出版株式会社〕

■ 備考

オフィスアワー：2時間/1週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する）

コロナウィルス感染拡大等の影響により当該シラバスに沿った授業の継続が困難となった場合は、シラバスを変更する。

博物館に関する科目

生涯学習概論

(19901)

単位：2単位

対象学科：服専1年・美表1年

授業形態：講義 学期：後期

博物館に関する科目

伊 藤 優

■ 授業の概要

我が国の社会教育の歴史を辿りながら、生涯学習の全体像を明らかにする。また、「生涯教育論」やリカレント教育の思潮、生涯学習の多様な内容や方法、学習プランニング、プログラムの様々なあり方を解説することにより、生涯学習の基礎的理論を示す。その上で、生涯学習を推進する多様な主体の役割を示すとともに、社会教育施設の社会的位置付けを明らかにする。さらに、学習成果の活用支援・学習情報の提供・生涯各期の教育課題を通して、生涯学習の現代的な課題と今後の展望を示す。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・1. 生涯学習に関する歴史・方法・計画・課題等の基礎的知識を習得する。
- ・2. 「生涯学習社会」における社会教育施設の役割を検討する思考を身につける。
- ・3. 学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス：講義の進め方・生涯学習概念の概要	身近にある様々な社会教育施設を確認しておく
第2回 生涯学習と社会教育の歴史①（近代から現代）	身近にある様々な社会教育施設を確認しておく
第3回 生涯学習と社会教育の歴史②（現代）	身近にある様々な社会教育施設を確認しておく
第4回 「生涯教育論」	生涯教育論の概要を調べる
第5回 リカレント教育	リカレント教育の概要を調べる
第6回 習生涯学習の方法と内容	生涯学習と学校教育の相違を調べる
第7回 学習プログラムの編成①（学習プログラムの多様性）	身近な社会教育施設の学習プログラムと社会教育関連団体を調べる
第8回 学習プログラムの編成②（学習プログラム編成の視点）	身近な社会教育施設の学習プログラムと社会教育関連団体を調べる
第9回 生涯学習関連行政の仕組み（行政の役割と組織）	身近な社会教育施設の学習プログラムと社会教育関連団体を調べる
第10回 生涯学習関連行政の仕組み②（社会教育関連団体）	身近な社会教育施設の学習プログラムと社会教育関連団体を調べる
第11回 生涯学習と社会教育施設	博物館等の役割と機能を調べる
第12回 学習成果の活用支援	学習成果の活用の意義を調べる
第13回 学習情報提供と学習相談	学習情報の事例を調べる
第14回 生涯各期の教育課題	少子高齢化社会の課題を調べる
第15回 講義のまとめ 「生涯学習社会」の課題とこれから	これまでの学修内容を復習する
第16回 試験	

■ 履修上の注意

意欲的な学修姿勢を重視する。社会教育プログラム等に積極的に参加すること。

自習（事前・事後学修）の詳細は講義中に示す。

■ 成績評価方法・基準

事前事後学修含む受講態度（50%）、期末試験（50%）で評価する。試験については、解答例を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

必要に応じて講義中に資料を配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。

博物館概論

(19902)

単位：2単位

対象学科：服専1年・美表1年

授業形態：講義 学期：前期

博物館に関する科目

伊 藤 優

■ 授業の概要

身近な博物館の紹介を導入として、博物館の多面的な魅力を伝える。また、ICOM規約や博物館法に依拠しながら、博物館の定義・目的・分類等の概要を示す。博物館機能の資料収集・整理保管、調査、展示、教育の特色と役割を詳述しながら、そこにみられる多様な課題も示す。さらに、博物館の歴史を辿り、日本における現状を示し、関係法令や文化政策、地域社会との関係性を解説する。これらを通して、博物館や学芸員が担うべき社会的役割の全体像を示す。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 1. 博物館の目的・機能・社会的役割等に関する基礎的知識を習得する。
- ・ 2. 博物館や学芸員の役割を知り、直面する多様な課題を検討する思考を身につける。
- ・ 3. 学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス：講義の進め方・博物館の概要	自身のこれまでの博物館体験や、身近な博物館施設を確認する
第2回 身近な博物館（SMMA、歴ネット等）	自身のこれまでの博物館体験や、身近な博物館施設を確認する
第3回 博物館の定義・目的	ICOMを調べる
第4回 博物館の分類・施設・設備	博物館法を調べる
第5回 博物館の機能①（資料収集・整理保管）	博物館データベースを調べる
第6回 博物館の機能②（調査研究）	博物館研究紀要等を調べる
第7回 博物館の機能③（展示）	博物館展示情報を調べる
第8回 博物館の機能④（教育普及）	博物館教育プログラムを調べる
第9回 博物館史①（欧米の博物館）	欧米と日本の博物館情報を調べる
第10回 博物館史②（日本の博物館）	欧米と日本の博物館情報を調べる
第11回 博物館の現状	欧米と日本の博物館情報を調べる
第12回 博物館関係法令と政策	社会教育法、文化財保護法を調べる
第13回 市民と博物館	博物館ボランティアを調べる
第14回 地域社会と博物館	まちづくりと博物館を調べる
第15回 講義のまとめ 博物館・学芸員の課題とこれから	これまでの学修内容を復習する
第16回 試験	

■ 履修上の注意

意欲的な学修姿勢を重視する。積極的に博物館を訪問すること。

自習（事前・事後学修）の詳細は講義中に示す。

■ 成績評価方法・基準

事前事後学修含む受講態度（50%）、試験（50%）で評価する。試験については、解答例を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。

博物館経営論

(19903)

単位：2単位

対象学科：服専3年・美表3年

授業形態：講義 学期：前期

博物館に関する科目

笠原信男

■ 授業の概要

博物館は児童・生徒だけでなく、一般の青少年や成人をも対象にした教育活動を行う、社会教育施設の一つである。博物館経営論では、博物館が社会教育施設として、そのあるべき姿を見定めながら、設立の使命や目的を実現し、どのように博物館組織を運営するか、について多面的に解説する。具体的には、博物館の設置者・学芸員・利用者など、様々な視点から、博物館経営についての基本的な考え方・知識・動向を、それぞれの講義テーマに合わせて、時に図・表・写真等の資料・データをを用いて解説する。また、博物館を訪れて、経営論の観点から実地の学習も行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 1. 博物館経営についての基本的な考え方・知識を学ぶことができる。
- ・ 2. 博物館を多角的に観覧・考察する姿勢を身に付けることができる。
- ・ 3. 社会教育施設としての博物館の地域社会へ役割を学ぶことができる。

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 博物館と博物館学及び博物館経営論	博物館を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第2回 博物館の設置と使命	設置と使命を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第3回 博物館経営の考え方	経営論的思考を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第4回 博物館の経営手法	経営手法を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第5回 博物館の運営方針	運営方針を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第6回 博物館の組織	組織を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第7回 博物館の中長期計画と予算	中長期計画等を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第8回 博物館の広報活動と来館者サービス	広報を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第9回 博物館の危機管理	危機管理を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第10回 博物館経営の実際（1）現地学習（施設の構造）	訪問先の博物館の施設情報を調べ、訪問後に作成するレポートに活かす。
第11回 博物館経営の実際（2）現地学習（展示活動等）	訪問先の博物館の諸活動を調べ、訪問後に作成するレポートに活かす。
第12回 経営論から見た博物館の展示活動	展示活動を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第13回 経営論から見た博物館の教育普及活動	教育普及活動を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第14回 経営論から見た博物館の資料管理、調査研究活動	資料管理等を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第15回 経営論から見た市民参画と地域社会との連携及びまとめ	地域との連携を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

■ 履修上の注意

資格科目のため欠席のないよう望む。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 受講態度(20%) (学ぼうとする意欲〔発言・質問・メモ〕等で総合的に判断します) とレポート(80%) で評価します。
- ・ レポートは最終講義で、記述内容の要点をまとめたレジюмеを用いて、フィードバックします。

■ 教科書

なし

■ 参考書

〔新時代の博物館学〕〔全国大学博物館学講座協議会西日本部会〕〔芙蓉書房出版〕〔2, 090円〕

■ 備考

- ・現地学習は訪問先の博物館の事情等の都合により、授業計画の順番を変更することがあります。
- ・ループリック評価については第1回目の授業で説明します。
- ・質問等については授業終了時に受け付けます。

博物館資料論

(19904)

単位：2単位

対象学科：服専2年・美表2年

授業形態：講義 学期：後期

博物館に関する科目

菊 地 逸 夫

■ 授業の概要

本科目は学芸員資格取得における文部科学省令の定める博物館に関する科目「博物館資料論」である。

授業では、文化財と博物館の関わりや博物館における資料の意義と資料の活用方法について学ぶもので、学芸員に必要な博物館資料に関する基礎知識(博物館資料の収集・整理・保存などに関する知識や技術、調査研究の意義や内容)について講座を通して理解・習得する。また博物館資料に対する理解を深めるため、実物資料(浮世絵や絵画資料)から歴史を読み取る演習やレプリカ製作といった実習を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 博物館資料の基礎的な知識を身に着ける。
- ・ 博物館資料の整理・保存・活用について理解できる。
- ・ レプリカの作成や博物館資料の基本的な取り扱いができるようになる。

■ 授業計画

自習(事前・事後学修の内容)

第1回	ガイダンス 授業の概要説明	これまで見学した博物館の特徴を理解する
第2回	博物館資料とは	配布資料から資料の意義や種類を復習する
第3回	博物館資料の収集	資料収集の意義や目的についてまとめる
第4回	文化財と博物館	文化財と博物館の関係についてまとめる
第5回	博物館とコレクション資料	博物館とコレクション資料の関係をまとめる
第6回	博物館資料の管理について	博物館資料の管理方法についてまとめる
第7回	資料の公開・展示	資料の展示や公開の意義についてまとめる
第8回	資料の保存と修復	資料の保存・修復についてまとめる
第9回	博物館におけるレプリカについて	レプリカの意義についてまとめる
第10回	博物館資料の取り扱いや資料の輸送	博物館資料の取り扱いについてまとめる
第11回	美術資料の見方①(絵巻や絵画から歴史を読む)	資料から読み取れる内容をまとめる
第12回	美術資料の見方②(浮世絵から歴史を読む)	資料から読み取れる内容をまとめる
第13回	鏡の資料化(拓本と資料カードの作成)	拓本から資料カードを作成する
第14回	レプリカの製作①	レプリカの製作方法をまとめる
第15回	レプリカの製作②	レプリカの製作方法をまとめる(レポート)

■ 履修上の注意

資格教科であるため出席を重視する。レポートの提出は必須。

■ 成績評価方法・基準

授業に対する意欲と姿勢(特に出席状況は重視)50%、レポート50%

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

- ・ 授業の際に資料を配布する。
- ・ 授業の順番・内容については変更する場合があります。
- ・ 質問等については授業終了時に受け付けます。

博物館資料保存論

(19905)

単位：2単位

対象学科：服専2年・美表2年

授業形態：講義 学期：前期

博物館に関する科目

及川 規

■ 授業の概要

文化財は貴重な“国民的財産”であり、それを後世に伝えることは、博物館の重要な責務である。本授業では、文化財が現在に守り伝えられてきた歴史を振り返りながら、博物館資料を将来にわたって保存し、活用できるようにするための、温度・湿度、光、空気、生物などの保存環境管理や考古資料をはじめとする博物館資料の保存処理の方法についての基礎的知識・技術を学修する。

それらについて、担当者が長年歴史博物館で当該業務に従事した経験を生かして、実際の資料保存活動を例示しながら、現状の課題や問題点も含めて解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・①博物館における資料保存について基礎的知識を獲得できる。
- ・②資料の保存・展示環境および収蔵環境を科学的に捉えることができる。
- ・③またそれらに基づいて、実際に資料を良好な状態で保存していけるなどの基礎的なスキルを身につける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	博物館における資料保存の意義	後:意義について自分で考えをまとめる
第2回	資料保存の歴史・体系	前:文化財保護法の概要を調べる
第3回	資料劣化の要因と対策1 a (温・湿度:基礎・影響・測定)	後:温度湿度の基本と測定法を復習する
第4回	資料劣化の要因と対策1 b (温・湿度:管理と制御)	後:温湿度の管理・制御法を復習する
第5回	資料劣化の要因と対策2(光)	後:光の影響とその管理について復習する
第6回	資料劣化の要因と対策3 a (生物:生物被害の概要と調査)	後:加害生物例と調査法について復習する
第7回	資料劣化の要因と対策3 b (生物:生物被害の対策)	後:IPMと生物被害の対処法について復習する
第8回	資料劣化の要因と対策4 a (空気質:影響と調査)	後:汚染因子の種類と影響について復習する
第9回	資料劣化の要因と対策4 b (空気質:管理と対策)	後:空気汚染の対策について復習する
第10回	資料の輸送	後:輸送における影響とその対策を復習する
第11回	資料の防災	後:災害・防犯対策について復習する
第12回	資料の科学的調査	後:科学的調査の特性・方法について復習する
第13回	資料の保存処理	後:出土遺産の保存処理法について復習する
第14回	資料保存の総合演習	前:これまでの学修事項を項目ごとに整理しておく
第15回	本講義のまとめと博物館資料保存における最近の話題	後:資料の保存と活用について各自の考えをまとめる

■ 履修上の注意

要点をまとめた資料を配布するが、ポイントだけでなく、疑問に思ったこと、さらに詳しく知りたいこと、自分のアイデア等をメモするなど、より主体的な取り組みに努めること。

■ 成績評価方法・基準

授業期間中に実施する課題[テスト・レポート](60%)、取組み状況[学習意欲、質問、ミニットペーパー等](40%)等から読み取れる授業目標の達成度について総合的に評価する(課題については観点ごとの配点を授業時に明示する)。ミニットペーパーについては授業内でフィードバックを行う。

■ 教科書

使用しない。講義前にプリントを配布する。

■ 参考書

[博物館資料保存論] [石崎武志] [講談社] [2, 200円]

■ 備考

- ・配布された資料はファイルして以降の授業にも携帯すること。

- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については随時受け付けます。

博物館展示論

(19906)

単位：2単位

対象学科：服専3年・美表3年

授業形態：講義 学期：後期

博物館に関する科目

笠原信男

■ 授業の概要

展示は博物館の様々な事業の中で、中心に位置づけられており、その内容は博物館の社会的な評価にも多大な影響を与える。そのため、展示には多面的な知識や多角的な技術が求められることを踏まえ、博物館展示論では、博物館の展示を制作者の視点でアプローチするのに必要な観点を提示しながら、展示を企画し、運営するのに必要な事項を各講義で説明する。大きくは、展示の理論、展示の技術、展示の装置の3つに分けて進め、展示の役割・歴史等、展示の企画の立て方、展示の道具等の概要を、それぞれの講義テーマに合わせて、時に図・表・写真等の資料・データを用いて解説する。□

□

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 展示を通して博物館の基本的な考え方・知識を学ぶことができる。
- ・ 展示を通して博物館を多角的に観覧する姿勢を身に付けることができる。
- ・ 展示を通して社会教育施設としての博物館の役割を学ぶことができる。

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 展示の理論1ー博物館における展示の役割	展示の役割を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第2回 展示の理論2ー展示の歴史	展示の歴史を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第3回 展示の理論3ー展示の諸類型、視点と運用	展示の諸類型等を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第4回 展示の理論4ー生涯学習・学校教育と展示	生涯学習・学校教育と展示を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第5回 展示の理論5ーユニバーサルミュージアムと展示	ユニバーサルミュージアムを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第6回 展示の理論6ー展示の評価	展示の評価を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第7回 展示の技術1ー展示のプロセス(企画から撤収)	展示のプロセスを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第8回 展示の技術2ー動線計画	展示の動線計画を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第9回 展示の技術3ー展示環境(リスクマネジメント等)	展示環境を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第10回 展示の技術4ー照明	展示の照明を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第11回 展示の技術5ー解説システム	展示の解説システムを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第12回 展示の技術6ーグラフィック	展示のグラフィックを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第13回 展示の技術7ー広報	展示の広報を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第14回 展示の装置1ー展示ケース	展示ケースを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第15回 展示の装置2ーレプリカとジオラマ及びまとめ	レプリカ等の役割を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

■ 履修上の注意

資格科目のため欠席のないよう望む。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 受講態度(20%) (学ぼうとする意欲〔発言・質問・メモ〕等で総合的に判断します) とレポート(80%) で評価します。
- ・ レポートは必ず提出してください。

- ・レポートは最終講義で、記述内容の要点をまとめたレジユメを用いて、フィードバックします。

■ 教科書

なし

■ 参考書

[博物館展示論] [黒澤 浩] [講談社] [2, 640円]

■ 備考

- ・都合により授業計画の順番等を変更することがあります。
- ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。
- ・質問等については授業終了時に受け付けます。

博物館情報・メディア論

(19907)

単位：2単位

対象学科：服専2年・美表2年

授業形態：講義 学期：後期

博物館に関する科目

佐藤 泰美

■ 授業の概要

教育・コミュニケーションツールとして情報・メディアの基本特性を、人と人とのコミュニケーションの諸相や文明的な観点を交えて概観しつつ、博物館があつかう情報の種類や意義、それらを正しく伝え普及するためのメディアの活用方法や情報発信の手法について、博物館での具体的事例、さらにネットワーク上に流通する博物館にとどまらない多様な主体からの情報発信を参照しつつ、みずから博物館の情報発信を試みるなどの体験を交えながら学ぶ。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 情報コミュニケーションの基本原則と歴史を理解する。
- ・ 博物館における情報メディアの活用を実際を理解する。
- ・ 社会に向けた多様な文化情報の発信力を身につける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 博物館における情報・メディアとはなにか	身の回りや社会の中で、情報やメディアがどのように活用されているか観察し、情報メディアとは何かを考えること。
第2回 教育・コミュニケーションツールとしてのメディアの理論	身の回りや社会の中で、情報やメディアがどのように活用されているか観察し、情報メディアとは何かを考えること。
第3回 教育・コミュニケーションツールとしてのメディアの歴史	身の回りや社会の中で、情報やメディアがどのように活用されているか観察し、情報メディアとは何かを考えること。
第4回 教育・コミュニケーションツールとしての博物館	身の回りや社会の中で、情報やメディアがどのように活用されているか観察し、情報メディアとは何かを考えること。
第5回 展示のなかの情報メディアの活用	博物館等を利用する際は、情報メディアの活用について観察し、その効果について考えること。
第6回 教育・普及・広報のなかの情報メディアの活用	博物館等を利用する際は、情報メディアの活用について観察し、その効果について考えること。
第7回 研究・保存その他における情報メディアの活用	博物館等を利用する際は、情報メディアの活用について観察し、その効果について考えること。
第8回 メディアテークにおける情報メディアの活用	博物館等を利用する際は、情報メディアの活用について観察し、その効果について考えること。
第9回 アーカイブの作成・運用と課題	博物館等を利用する際は、情報メディアの活用について観察し、その効果について考えること。
第10回 視覚など障がいのある利用者のためのメディアの活用	博物館等を利用する際は、情報メディアの活用について観察し、その効果について考えること。
第11回 地域の文化資源を活かすミュージアム都市とメディア	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ発信できるか自分なりに考えること。
第12回 仙台宮城ミュージアムアライアンス(SMMA)の取り組み	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ発信できるか自分なりに考えること。
第13回 情報リテラシーと博物館	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ発信できるか自分なりに考えること。
第14回 博物館の魅力を発信するための提案作成実習	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ発信できるか自分なりに考えること。
第15回 博物館の魅力を発信するための提案の評価	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ発信できるか自分なりに考えること。

■ 履修上の注意

各自、博物館や美術館での見学とレポート提出が必要です。

■ 成績評価方法・基準

学習意欲を含む授業態度50%、課題レポート50%

■ 教科書

講義のなかでそのつど資料を配付します。

■ 参考書

講義のなかでそのつど資料を配付します。

■ 備考

質問等については授業終了後に受け付けます。

博物館教育論

(19908)

単位：2単位

対象学科：服専1年・美表1年

授業形態：講義 学期：後期

博物館に関する科目

伊 藤 優

■ 授業の概要

博物館教育活動の変遷を明らかにし、現代社会において博物館教育が求められている実情を、歴史的・社会的背景をもとに示す。また、博物館教育の特徴と可能性を学校教育・市民活動・生涯学習との関連から解説する。これらを踏まえた上で、博物館の諸活動にみられる教育プログラムの形態や方法を具体的に挙げ、教育プログラムの特色を館種別に紹介する。博物館教育には様々な課題も見出されることから、その解決の方策に対する理解を深める。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 1. 学芸員に必要な博物館教育の基礎的知識を習得する。
- ・ 2. 博物館教育の多様な課題を知り、その解決方策を検討する思考を身につける。
- ・ 3. 学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス：講義の進め方・博物館教育の概要	博物館概論の学修内容を復習しておく
第2回	博物館教育の諸形態①（展示を中心とした教育プログラム）	展示関連の教育プログラムを調べる
第3回	博物館教育の諸形態②（展示以外の教育プログラム）	展示以外の教育プログラムを調べる
第4回	博物館での学び①（博物館教育と学校教育）	博物館教育と学校教育の相違を調べる
第5回	博物館での学び②（博物館利用者を理解する基礎理論）	構成主義的な博物館教育を調べる
第6回	博物館の教育活動①（教育プログラムの立案）	博物館教育プログラムの実際を調べる
第7回	博物館の教育活動②（教育プログラムの実施）	博物館教育プログラムの実際を調べる
第8回	博物館の教育活動③（ワークシートについて）	博物館教育プログラムの実際を調べる
第9回	博物館の教育活動④（ユニバーサルデザイン）	ユニバーサルデザインの事例を調べる
第10回	ギャラリートークの事例	ギャラリートークの意義を調べる
第11回	ワークショップの事例	ワークショップの意義を調べる
第12回	美術館・文学館・歴史博物館・大学博物館の教育プログラム	大学博物館の意義を調べる
第13回	博物館教育とボランティア	ボランティアとNPOを調べる
第14回	博物館教育とさまざまな連携	学社連携・地域連携の意義を調べる
第15回	講義のまとめ 博物館教育の課題とこれから	これまでの学修内容を復習する
第16回	試験	

■ 履修上の注意

意欲的な学修姿勢を重視する。積極的に博物館教育プログラムに参加すること。

自習（事前・事後学修）の詳細は講義中に示す。

■ 成績評価方法・基準

事前事後学修を含む受講態度（50%）、試験（50%）で評価する。試験については、解答例を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

必要に応じて講義中に資料を配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。

博物館実習 I (学内・見学実習を含む。)

(19909)

単位：2単位

対象学科：服専3年・美表3年

授業形態：演習 学期：通年(前)

博物館に関する科目

菊地逸夫

■ 授業の概要

博物館学芸員として必要な幅広い知識と基礎的な技術を身につけることを目標とする。

具体的なテーマは、「資料の取り扱いに対する心構えや基本的な取り扱い方法、梱包の方法を身につけるための講義や実習」「展示のできるまでを学び、模擬的な展示を企画する学習」「博物館で行われている教育普及活動(教育プログラム)を実践や講義を通して学び、自らプログラムを企画する学習」の以上3点で、これらの一連の学習を通して学芸員としての基本的知識・技術を習得する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 資料の取り扱いの基礎的な技術を身につける。
- ・ 模擬的な展示を企画する力を身につける。
- ・ 博物館での教育普及活動(教育プログラム)を企画できるようになる。

■ 授業計画

自習(事前・事後学修の内容)

第1回	ガイダンス 授業の概要説明	
第2回	博物館資料の取り扱いについて(講義・実技)	配布資料を読み、取り扱いについて復習する
第3回	考古資料の取り扱いと梱包	配布資料を読み、取り扱いについて復習する
第4回	刀剣の見方と取り扱い(手入れ方法)	配布資料を読み、取り扱いについて復習する
第5回	展示品の災害への対策(地震に対応する展示法)	県内の地震災害の歴史を調べておく
第6回	特別展示ができるまで	配布資料で特別展示ができるまでを復習する
第7回	シナリオ作成の方法、資料選択の方法	自分が関心のある展示を考えておく(事後)
第8回	展示環境、展示プランについて	展示のシナリオをまとめておく(事後)
第9回	展示のプラン作成、企画書作成	発表にむけて企画書をまとめておく(事後)
第10回	展示プラン発表	企画書を元に発表する
第11回	博物館の教育普及活動の紹介	博物館で行われている教育活動イベントについて調べておく
第12回	施設見学1(教育普及施設の見学)	見学先の施設についてまとめる(レポート)
第13回	施設見学2(施設での教育プログラム実践)	実践したプログラムをまとめる(レポート)
第14回	教育普及活動(教育プログラム)のプラン作成	自分が関心のあるプログラムを考えておく
第15回	活動プラン発表	企画書を元に発表する

■ 履修上の注意

資格教科であるため出席を重視する。企画書の提出、発表は必須。

■ 成績評価方法・基準

授業に対する意欲と姿勢(特に出席状況は重視)50%、レポート(企画書)50%

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

授業の際に資料を配布する。施設見学先の都合により、授業順は変更がある。

質問等については授業終了時に受け付けます。

博物館実習 I (学内・見学実習を含む。)

(19910)

単位：2単位

対象学科：服専3年・美表3年

授業形態：演習 学期：通年(後)

博物館に関する科目

落合里麻

■ 授業の概要

博物館実習では、学芸員養成教育において学んだ知識・技術や理論を活かし、館園での実体験や実技を通して、学芸員として必要とされる知識・技術等の基本を修得することを目標とする。博物館実習 I は、講義、学内実習、見学実習の三つから成る。講義では、展示企画書を作成し、資料を展示するまでの一連の流れを指導する。学内実習では、博物館資料の収集、整理、保管、調査研究、資料の取り扱い方法、展示などの基本事項の理解と実務実習を行う。見学実習では、一定地域の博物館を数日間かけて見学し、利用者、学芸員の双方の立場に立って博物館の活動状況を知り、博物館の現状と問題点を把握する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・学芸員養成教育において学んだ知識・技術や理論を総合的に活用し、社会で自律的に活動できる能力を身につける。

■ 授業計画

	自習(事前・事後学修の内容)
第1回 ガイダンス 授業の概要説明	便覧(学芸員資格の頁)をよく読んでおく
第2回 学外実務実習のための説明会1 実習希望調査	希望する実習先について調べる
第3回 収集、整理、保管、調査の対象となる資料について 顕彰館、短大資料室見学	プリントを読み込み、実践に備える 資料についてまとめておく
第4回 資料の取り扱い1 短大資料の取り扱い(着物 その他)	資料についてまとめておく
第5回 外部講師 掛軸の歴史	プリントを読み込み、実践に備える
第6回 外部講師 表具の取り扱い(屏風、刷毛、道具等)	プリントを読み込み、実践に備える
第7回 外部講師 学芸員の仕事	プリントを読み込み、実践に備える
第8回 資料の取り扱い2 顕彰館 掛軸の取り扱い	服装について確認を行う
第9回 資料の取り扱い3 顕彰館 掛軸の取り扱い	必要な用具について確認を行う
第10回 資料の取り扱い4 顕彰館 掛軸の取り扱い	記録を整理する
第11回 資料の取り扱い5 顕彰館 掛軸の取り扱い	記録を整理する
第12回 展示計画1(概要説明) 学外実習のための説明会 実習先の希望調査結果を踏まえた調整 実習記録下書き	グループで話し合った内容をまとめる
第13回 展示計画2(動線計画) 実習先の希望調査結果を踏まえた調整	実習を行う博物館等の特徴を調べる
第14回 展示計画3(展示器具) 実習先の希望調査結果を踏まえた調整	実習を行う博物館等の特徴を調べる
第15回 展示計画4(発表) 学外実務実習について 諸注意他	清書、証明写真を準備する

■ 履修上の注意

資格取得における必修科目のため、可能な限り遅刻・欠席をしないこと。

■ 成績評価方法・基準

授業の取り組みに対する意欲と姿勢(40%)、見学レポート(30%)、実務実習評価(30%)で評価する。

■ 教科書

特に定めない。

■ 参考書

授業内で紹介する。

■ 備考

授業計画の順番等を変更する場合がある。質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。